

れいわ ねんど (2025年度) 第2回豊中市障害者施策推進協議会 第1次

日時 令和8年(2026年)3月30日(月曜日)  
午後2時から4時  
場所 豊中市立地域共生センター西館3階大会議室

あんけん だい きとよなかししょうがいふくしけいかく だい きとよなかししょうがいふくしけいかくさくてい む しみんいしき  
案件1. 第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画策定に向けた市民意識  
ちょうさほうこくしょ  
調査報告書について

あんけん しょうがいふくし うんえいけんとうぶかい ほうこく  
案件2. 障害福祉センター運営検討部会の報告について

あんけん た  
案件3. その他

じぜんしりょう  
<事前資料>

あんけん しりょう だい きとよなかししょうがいふくしけいかく だい きとよなかししょうがいふくしけいかくさくてい む  
案件1の資料1 第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画策定に向けた  
しみん けっかほうこくしょ がいようばん  
市民アンケート結果報告書《概要版》

あんけん しりょう だい きとよなかししょうがいふくしけいかく だい きとよなかししょうがいふくしけいかくさくてい む  
案件1の資料2 第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画策定に向けた  
しみん けっかほうこくしょ  
市民アンケート結果報告書

あんけん しりょう れいわ ねんど ねんど しょうがいふくし うんえいけんとうぶかい ほうこく  
案件2の資料1 令和7年度(2025年度)障害福祉センター運営検討部会 報告

さんこうしりょう  
<参考資料>

れいわ ねんど ねんど だい かいとよなかししょうがいしゃさくすいしんきょうぎかい  
令和7年度(2025年度)第1回豊中市障害者施策推進協議会会議録

# 第8期豊中市障害福祉計画・ 第4期豊中市障害児福祉計画 策定に向けた市民アンケート結果報告書 《概要版》

## 【目次】

I	調査の実施概要	1
1	調査の目的・対象・期間	1
2	回収状況	1
II	調査の主な結果	2
1	回答者の属性	2
2	政策指標に関わる質問	3
3	現行計画に記載の質問	4
	①日中の活動や社会参加の状況と意識	4
	②働くことに対する意識	7
	③障害児への支援に関する意識	10
	④相談の状況と支援の希望	13
	⑤障害福祉サービスの利用状況と意識	19
	⑥障害や発達に支援が必要とする人の人権・理解促進	26
	⑦将来の暮らし方	30
	⑧施設入所者の状況と地域生活への移行に関する意識	33

# I 調査の実施概要

## 1 調査の目的・対象・期間

調査目的	令和9年度（2027年度）～令和11年度（2029年度）を計画期間とする、 『第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画』策定にあたり、 市内障害児者の状況やニーズを把握するために行うもの。
調査対象	調査① 18歳以上の障害福祉サービス利用者 1,500人 調査② 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 1,000人 調査③ 18歳未満の障害のある市民 500人 調査④ 施設入所者 203人 調査⑤ 通所受給者証を持つ児童の保護者 500人 調査⑥ 事業所 459事業所
調査方法	調査①～⑤ 郵送による配布・回収（礼状兼督促1回） インターネットによる回答を併用 調査⑥ メールによるURLの配信・インターネットによる回収
調査期間	令和7年（2025年）11月26日～12月22日

## 2 回収状況

	対象数 (不着等を除く)	無効数 (ID重複、白票等)	有効回答数	有効回答率
18歳以上の障害福祉サービス利用者	1,495件	6件	576件 (内、Web回答 184件)	38.5%
18歳以上の障害福祉サービス未利用者	990件	3件	425件 (内、Web回答 122件)	42.9%
18歳未満の障害のある市民	499件	-	198件 (内、Web回答 102件)	39.7%
施設入所者	203件	-	151件 (内、Web回答 20件)	74.4%
通所受給者証を持つ児童	499件	1件	239件 (内、Web回答 173件)	47.9%
事業所	459件	3件	204サービス（84件） (全てWeb回答)	-

【参考：サービス種別回答数】

障害福祉サービス	122
障害児通所支援サービス	60
地域生活支援事業	22
計	204

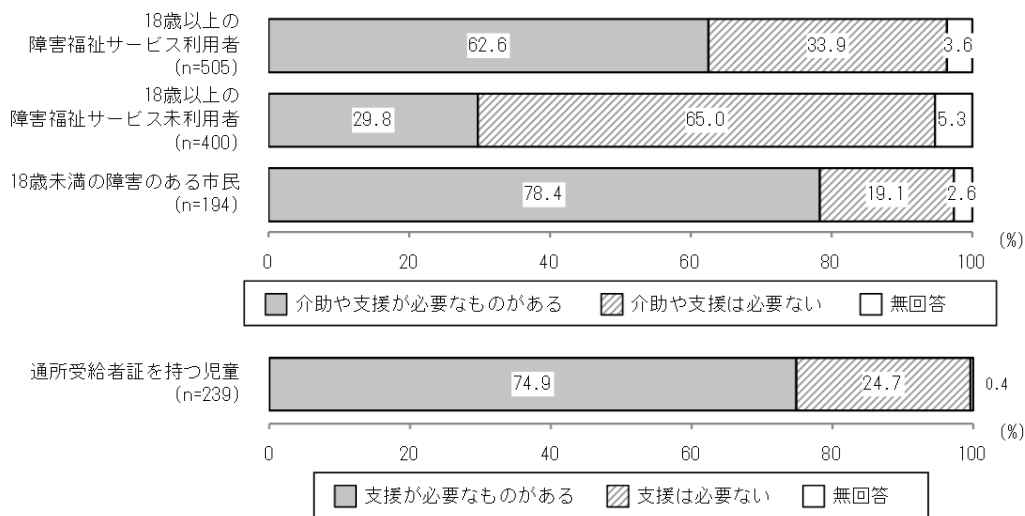
## II 調査の主な結果

### 1 回答者の属性

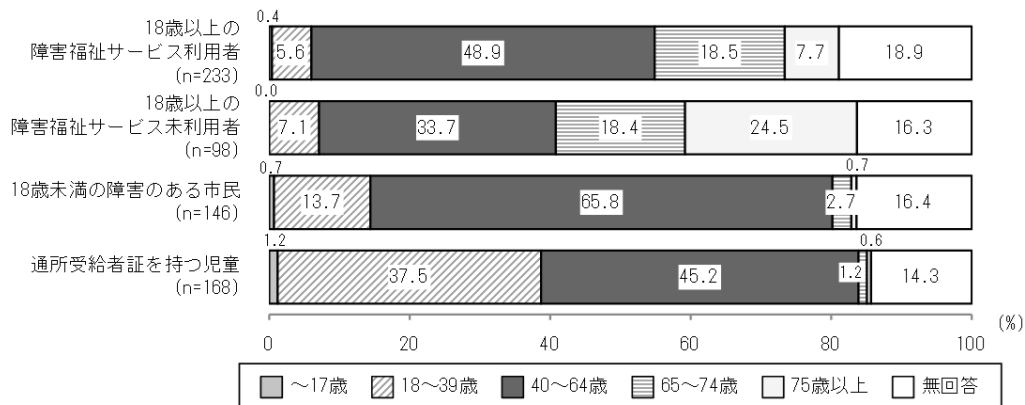
#### 《介助・支援の状況》

- 介助や支援を必要とする人の割合は、障害児の78.4%、通所受給者証を持つ児童の74.9%、サービス利用者の62.6%、サービス未利用者の29.8%となっています。
- 介助・支援者の年齢について、サービス未利用者の42.9%、サービス利用者の26.2%が65歳以上と答えています。また、サービス利用者については、介助・支援者が対象者本人以外も介護をしているケースが28.8%となっています。

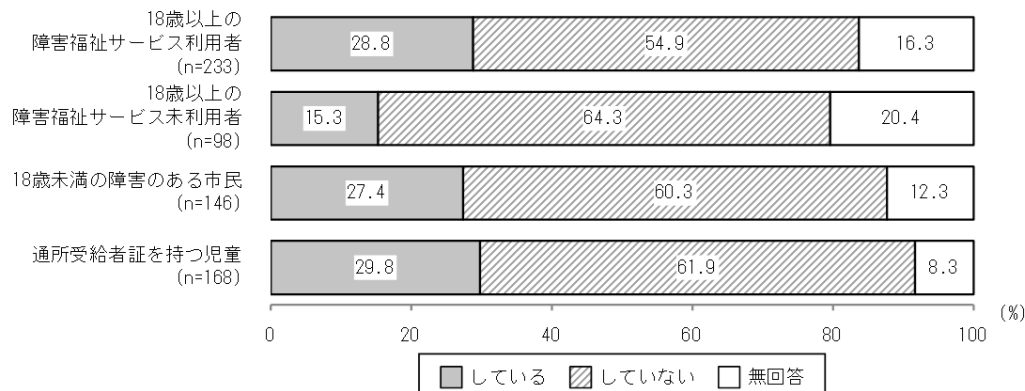
〔介助や支援を必要とする人の割合〕（報告書P. 20）



〔主に介助・支援してくれる人の年齢〕（報告書P. 26）



〔主に介助・支援してくれる人の介護状況〕（報告書P. 27）



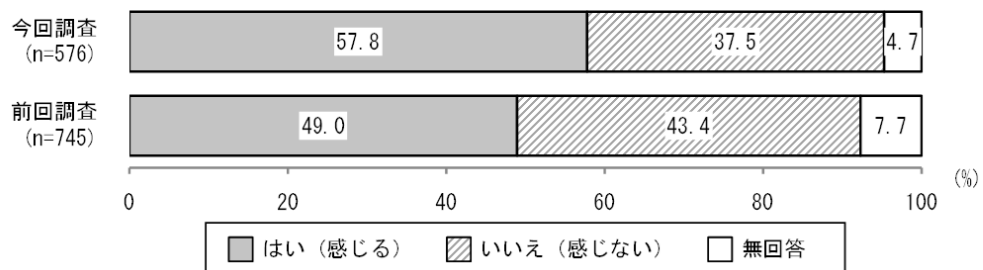
## 2 政策指標に関わる質問

### 《ライフスタイルに応じた生活ができているか》(報告書P.34)

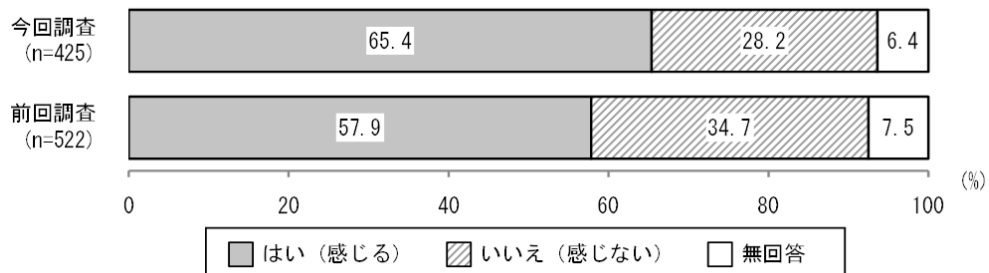
○障害や難病があっても、ライフスタイルに応じた生活ができている人の割合は、障害児の65.7%、サービス未利用者の65.4%、サービス利用者の57.8%となっています。

前回調査と比較すると、「はい(感じる)」の割合がサービス利用者では前回調査より8.8ポイント、サービス未利用者では前回調査より7.5ポイント、障害児では前回調査より5.4ポイント、それぞれ高くなっています。

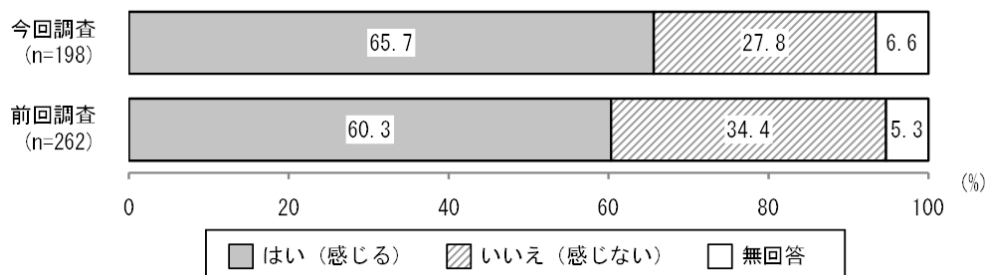
#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



#### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



#### 18歳未満の障害のある市民

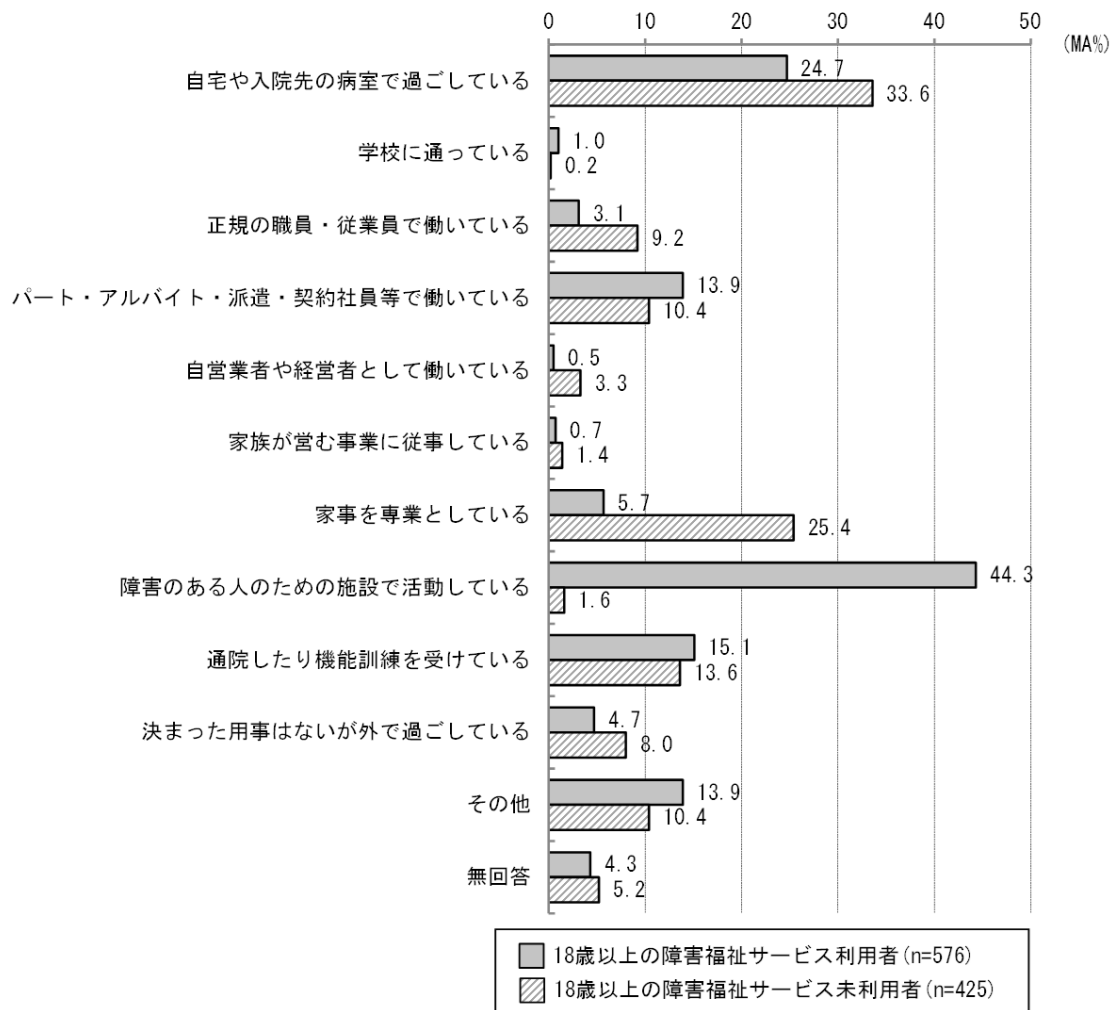


### 3 現行計画に記載の質問

#### ①日中の活動や社会参加の状況と意識

##### 《昼間の時間の過ごし方》（報告書P.44）

- サービス利用者では、「障害のある人のための施設で活動している」が44.3%と最も多く、次いで「自宅や入院先の病室で過ごしている」が24.7%となっています。また、サービス未利用者では、「自宅や入院先の病室で過ごしている」が33.6%で最も多くなっています。
- サービス未利用者については、パート・アルバイトなどで働く人が10.4%、正規職員が9.2%など、24.3%が何らかの形で働いています。

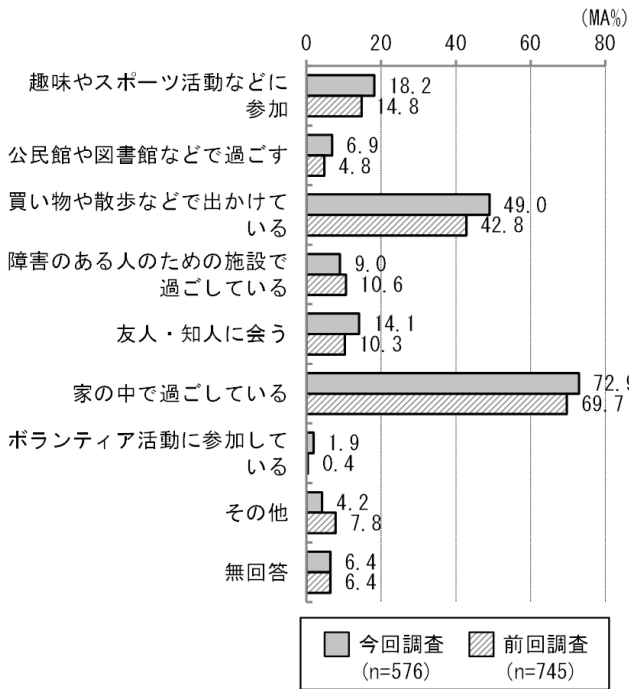


## 《夕方・夜間や休日の過ごし方》（報告書P.47）

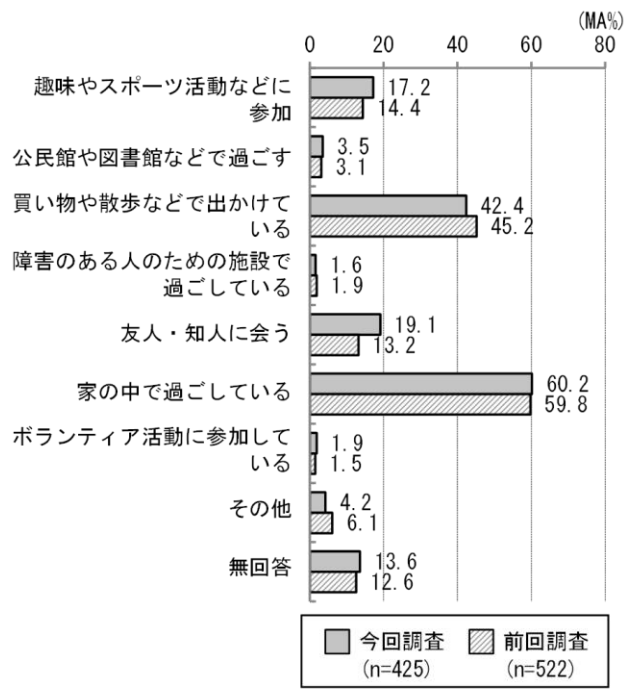
○18歳以上については、家の中で過ごす人がサービス利用者の72.9%、サービス未利用者の60.2%を占めており、前回調査と比べてやや高い割合となっています。

○障害児については、家や施設の中で過ごす人が65.2%、放課後等デイサービスなどの通所施設や訓練に通っている人が62.1%となっており、前回調査と比べて高い割合となっています。また、通所受給者証を持つ児童では家や施設の中で過ごす人が69.0%、通所施設に通っている人が71.5%となっています。

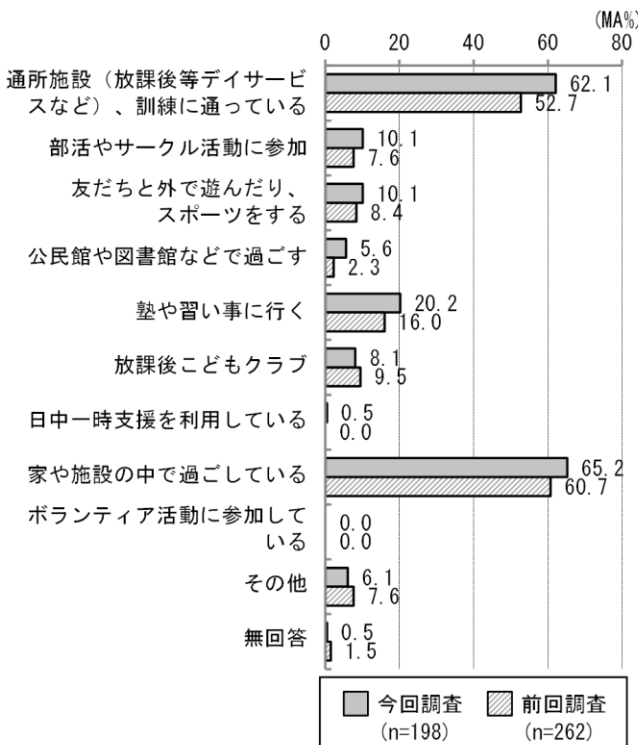
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



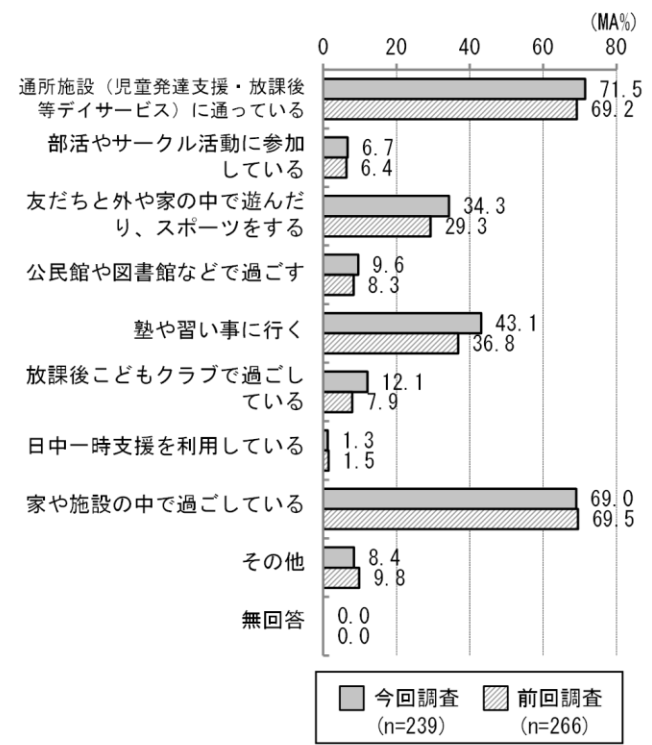
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



### 18歳未満の障害のある市民



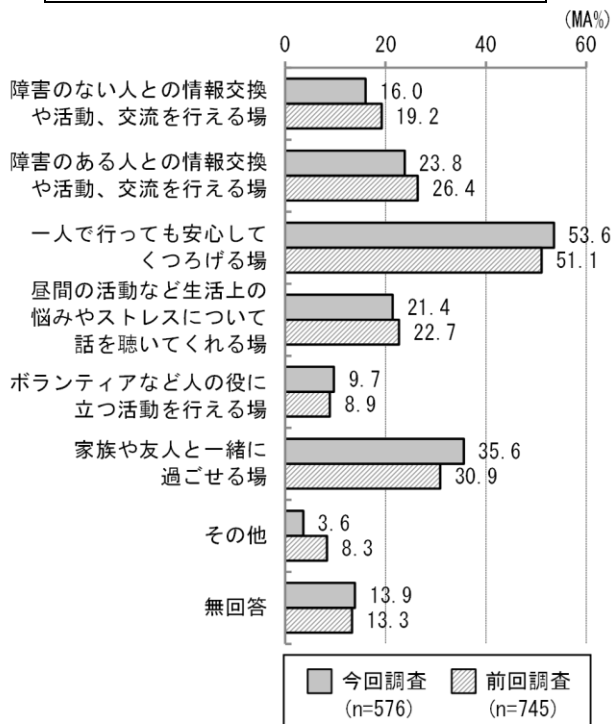
### 通所受給者証を持つ児童



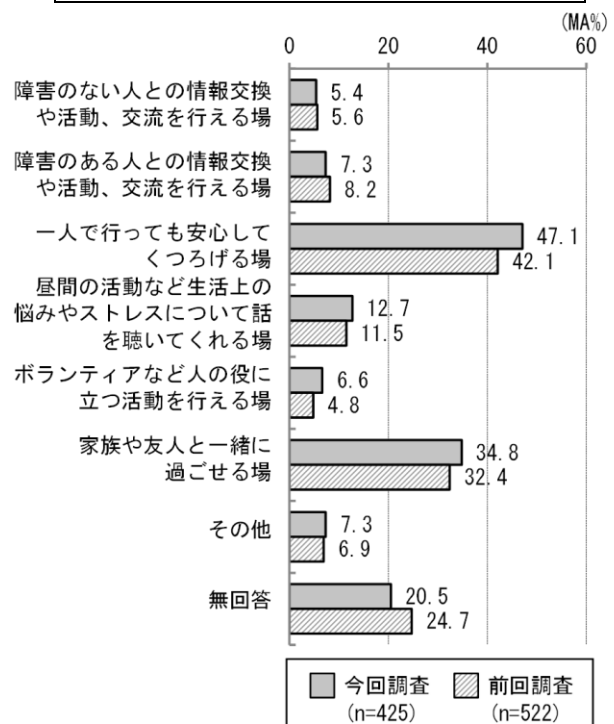
## 《居場所や活動の場として行ってみたいところ》（報告書P.54）

- 18歳以上では、一人で行っても安心してくつろげる場を希望する人がサービス利用者の53.6%、サービス未利用者で47.1%を占めており、前回調査より高い割合となっています。
- 障害児では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が62.1%、「家族や友人と一緒に過ごせる場」が56.6%となっており、高い割合となっています。また、通所受給者証を持つ児童では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が54.8%、「家族や友人と一緒に過ごせる場」が60.3%となっています。

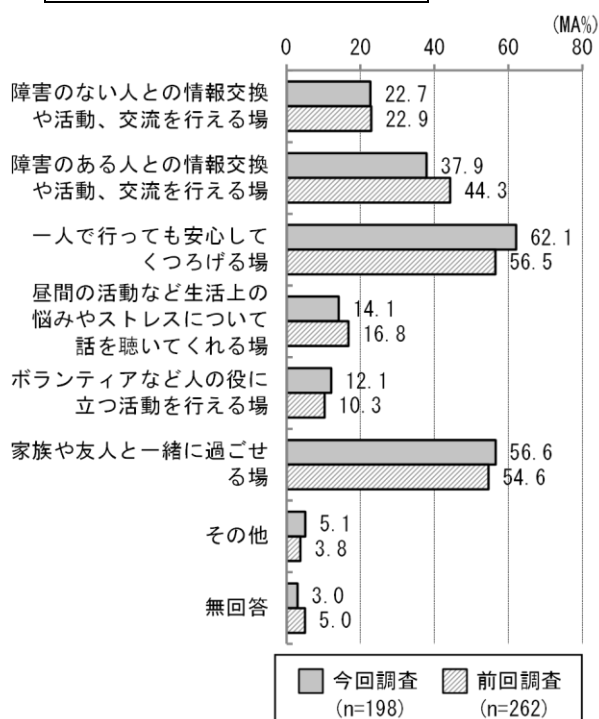
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



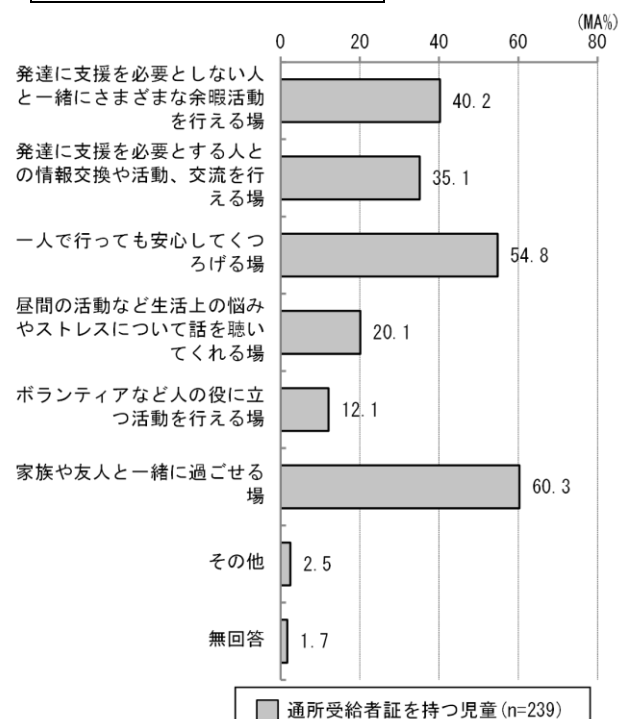
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



### 18歳未満の障害のある市民



### 通所受給者証を持つ児童

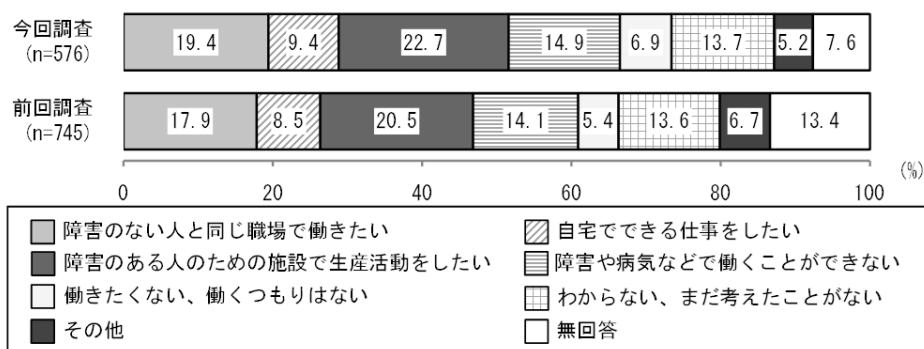


## ②働くことに対する意識

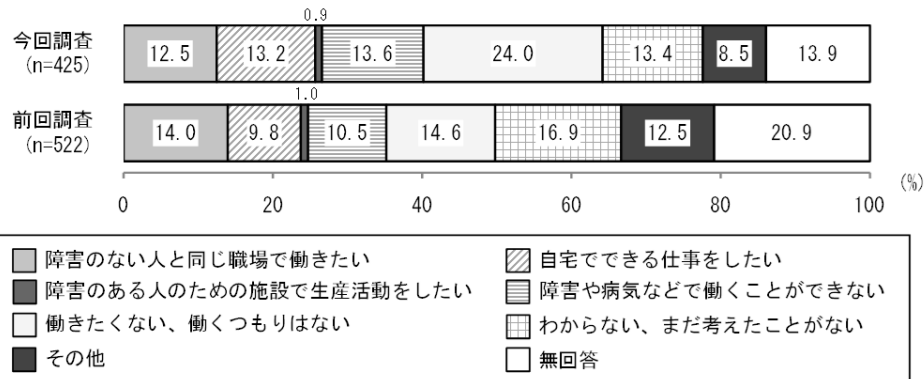
### 《働くことに関する意向》（報告書P.60）

○何らかの形で就労意向を示している人は、サービス利用者の51.5%、サービス未利用者の26.6%、障害児の37.9%がいずれかの形で働く、もしくは生産活動をしたいと考えています。前回調査と比較すると、就労意向を示している人は、サービス利用者とサービス未利用者では前回調査より高い割合となっています。年齢別には、18～39歳のサービス利用者、サービス未利用者のうち50%以上、15～17歳の障害児の55.6%が就労意向を示しています。また、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」という人はサービス利用者の22.7%、障害児の16.7%、「障害のない人と同じ職場で働きたい」と答えた人はサービス利用者で19.4%、サービス未利用者で12.5%、障害児で18.2%となっています。

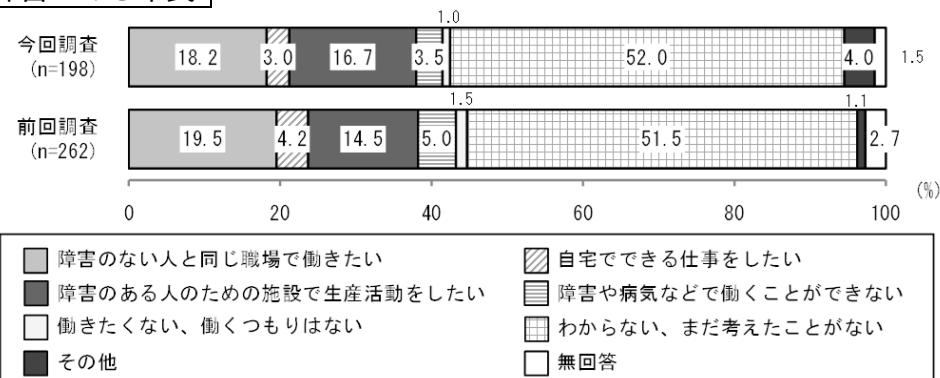
#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



#### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



#### 18歳未満の障害のある市民

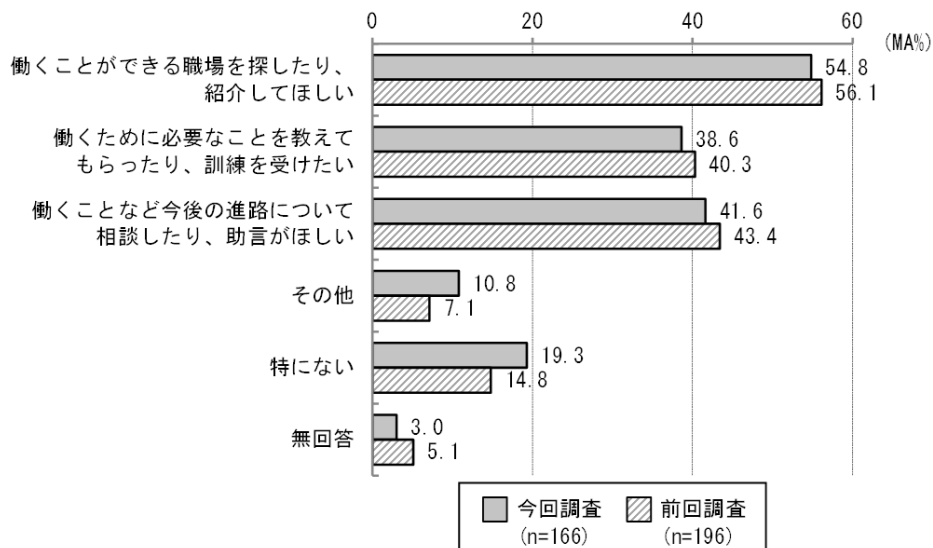


## 《仕事に就くため、働き続けるために必要な支援》

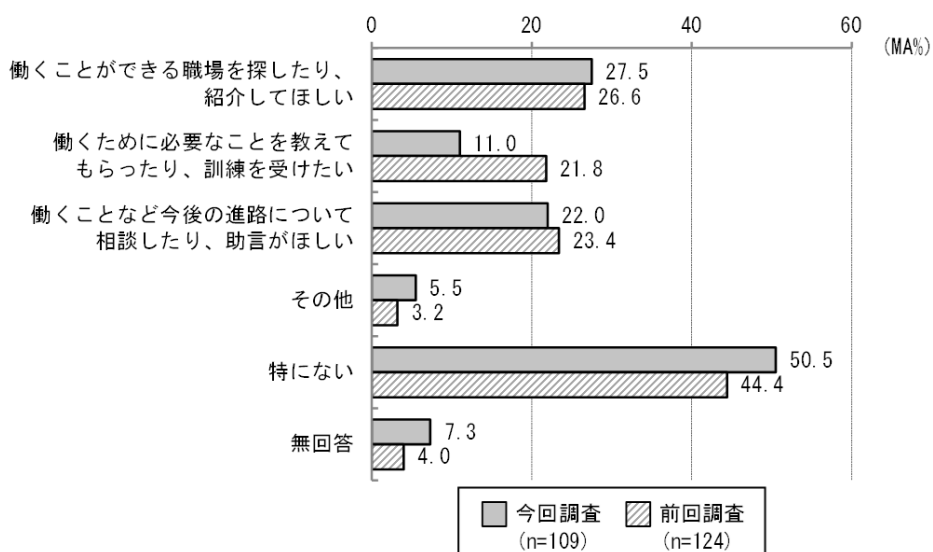
- 障害のある人が仕事に就くために必要な支援として、サービス利用者・サービス未利用者とも、「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が最も多く、次いで「働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい」、「働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい」が多くなっています。前回調査と比較すると、サービス利用者ではいずれの項目も前回調査より割合が低く、サービス未利用者では「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が前回調査よりやや高い割合となっています。
- 障害や発達に支援を必要とする人が一般の職場で働き続けるために必要な支援として、サービス利用者・サービス未利用者・障害児とも、「障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」、「経営者や職場の同僚の障害への理解」が上位にあるとともに、サービス利用者や障害児では「仕事になれるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」をあげる人が多く、就労後のフォローが重視されています。また、通所受給者証を持つ児童では、「発達の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が最も多く、前回調査よりやや高い割合となっています。

〔希望する支援〕（報告書P.64）

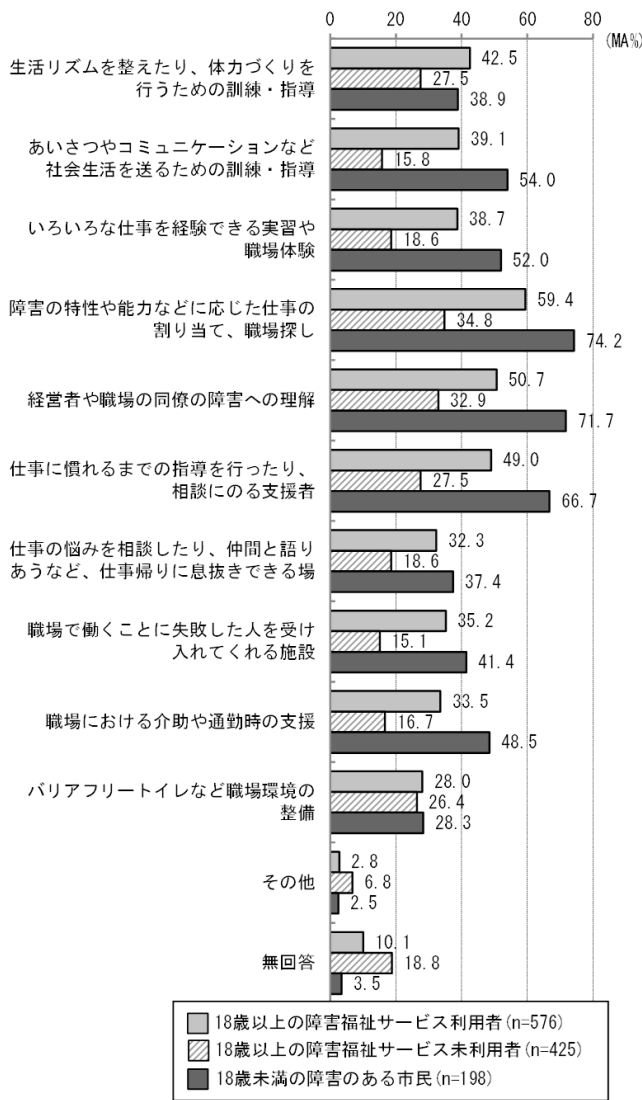
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



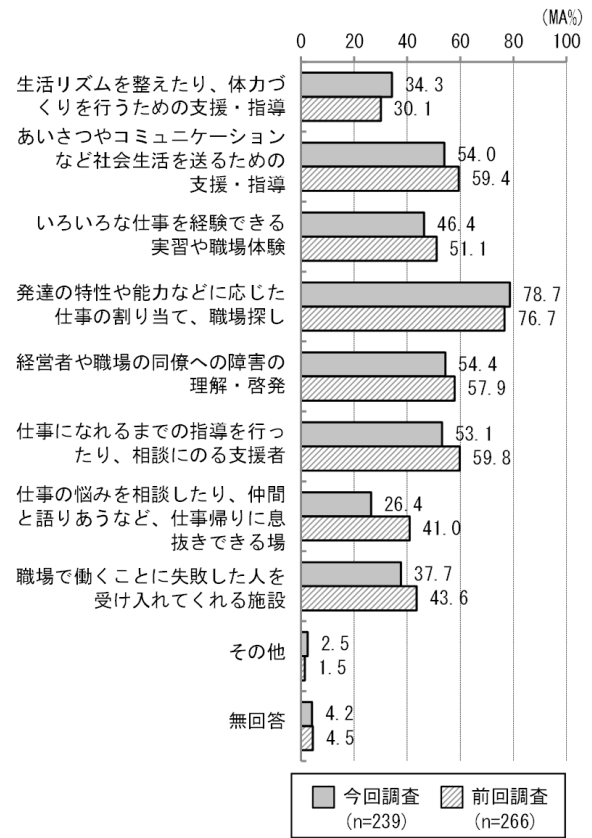
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



〔仕事に就くため、働き続けるのに必要な支援〕（報告書P.67）



通所受給者証を持つ児童



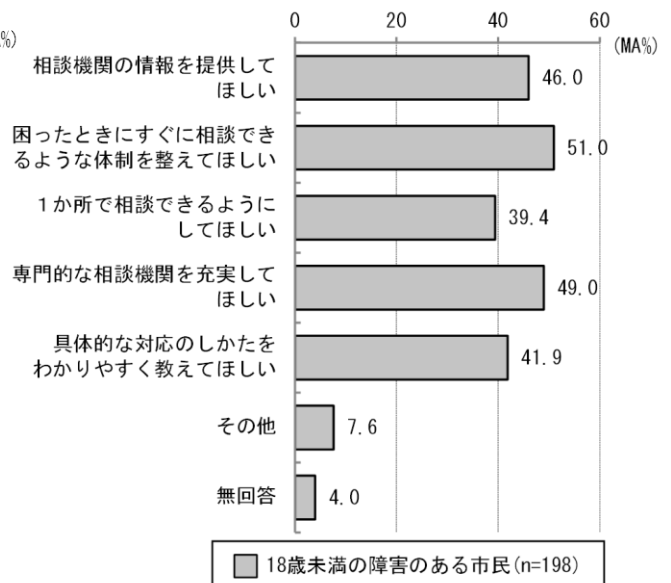
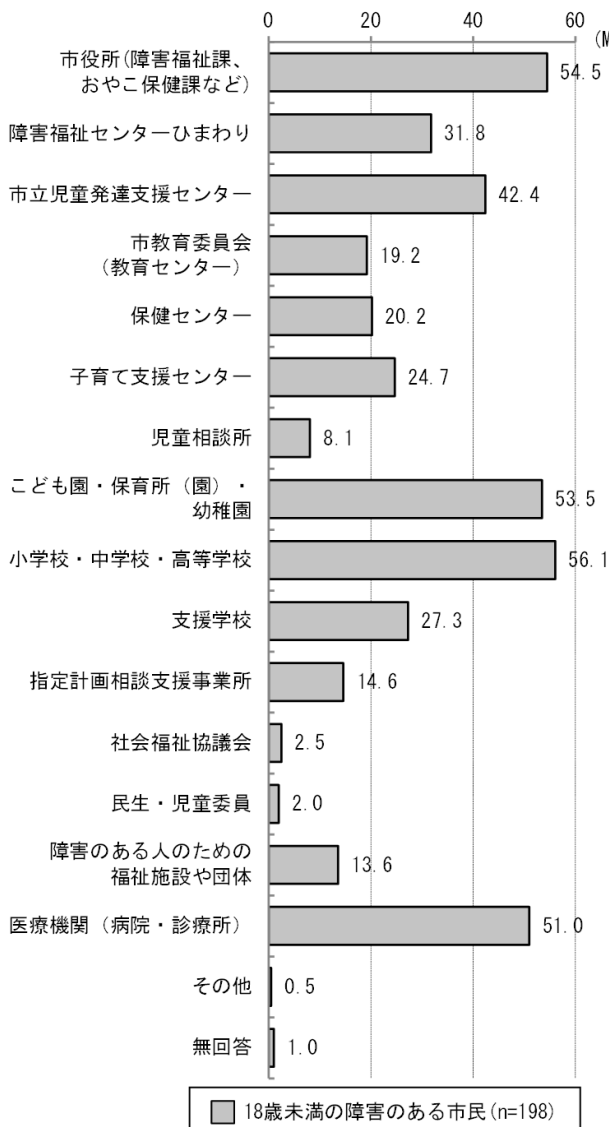
### ③障害児への支援に関する意識

#### 《相談の状況》

- 療育や教育に関する相談先は、「小学校・中学校・高等学校」や「市役所(障害福祉課、おやこ保健課など)」、「こども園・保育所(園)・幼稚園」、「医療機関(病院・診療所)」が50%以上となっています。
- 相談対応に関する希望として、「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」や「専門的な相談機関を充実してほしい」、「相談機関の情報を提供してほしい」が上位を占めています。

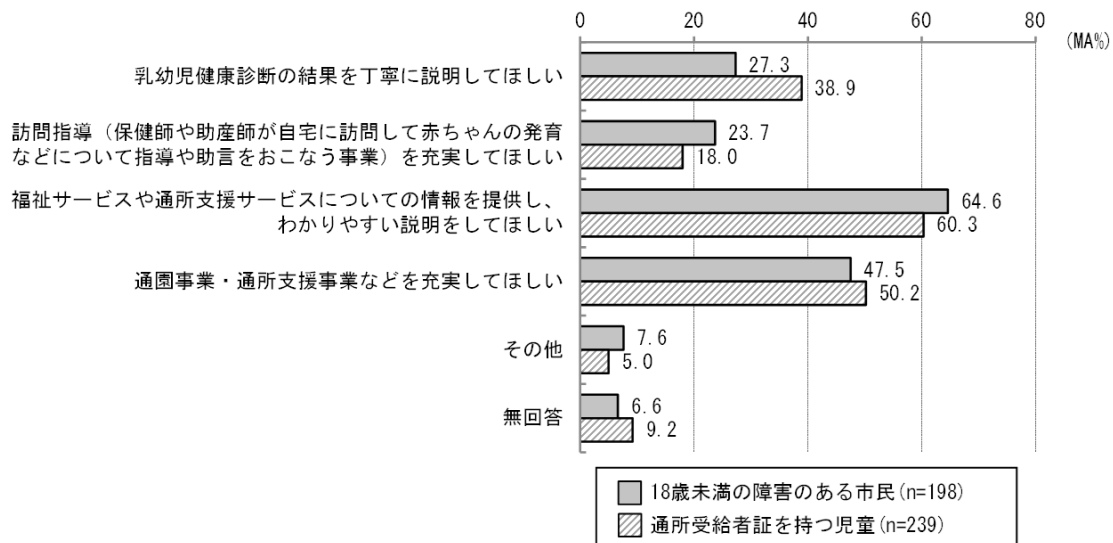
〔療育や教育に関する相談先〕(報告書P.97)

〔療育や教育に関する相談への希望〕(報告書P.98)



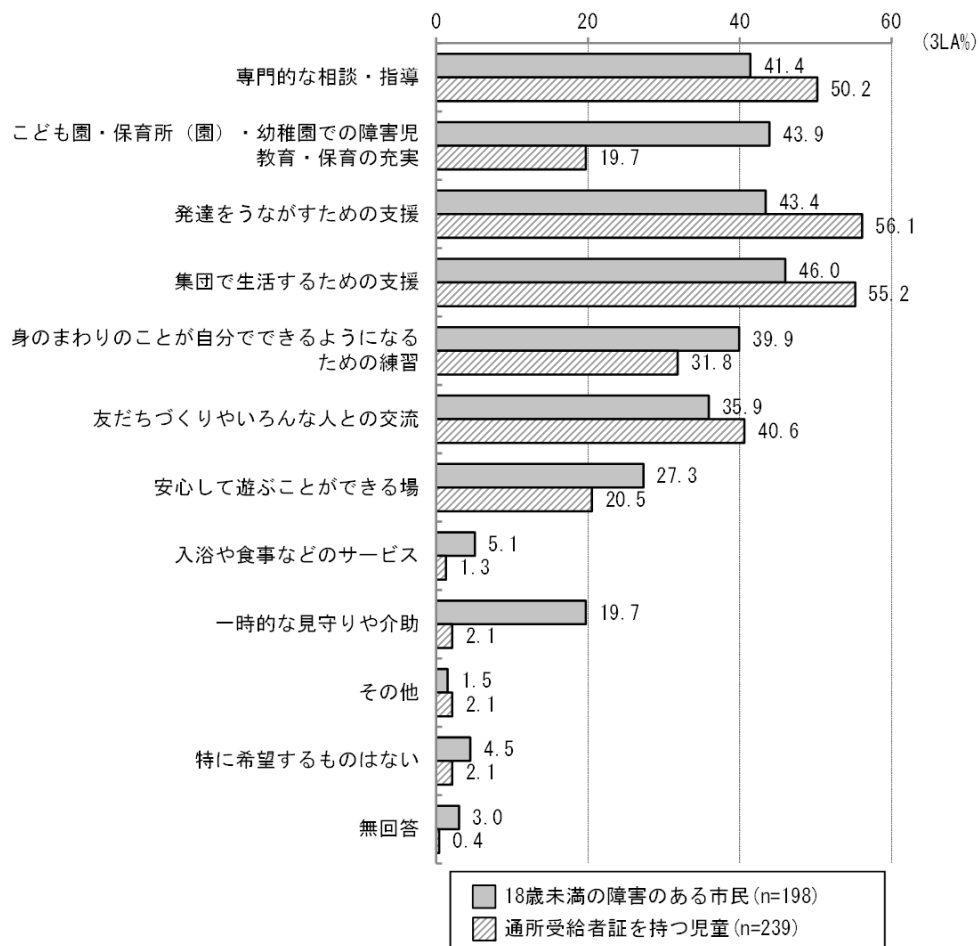
## 《乳幼児期における希望》（報告書P.99）

○障害児・通所受給者証を持つ児童とも「福祉サービスや通所支援サービスについての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい」、「通園事業・通所支援事業などを充実してほしい」が40%以上となっています。



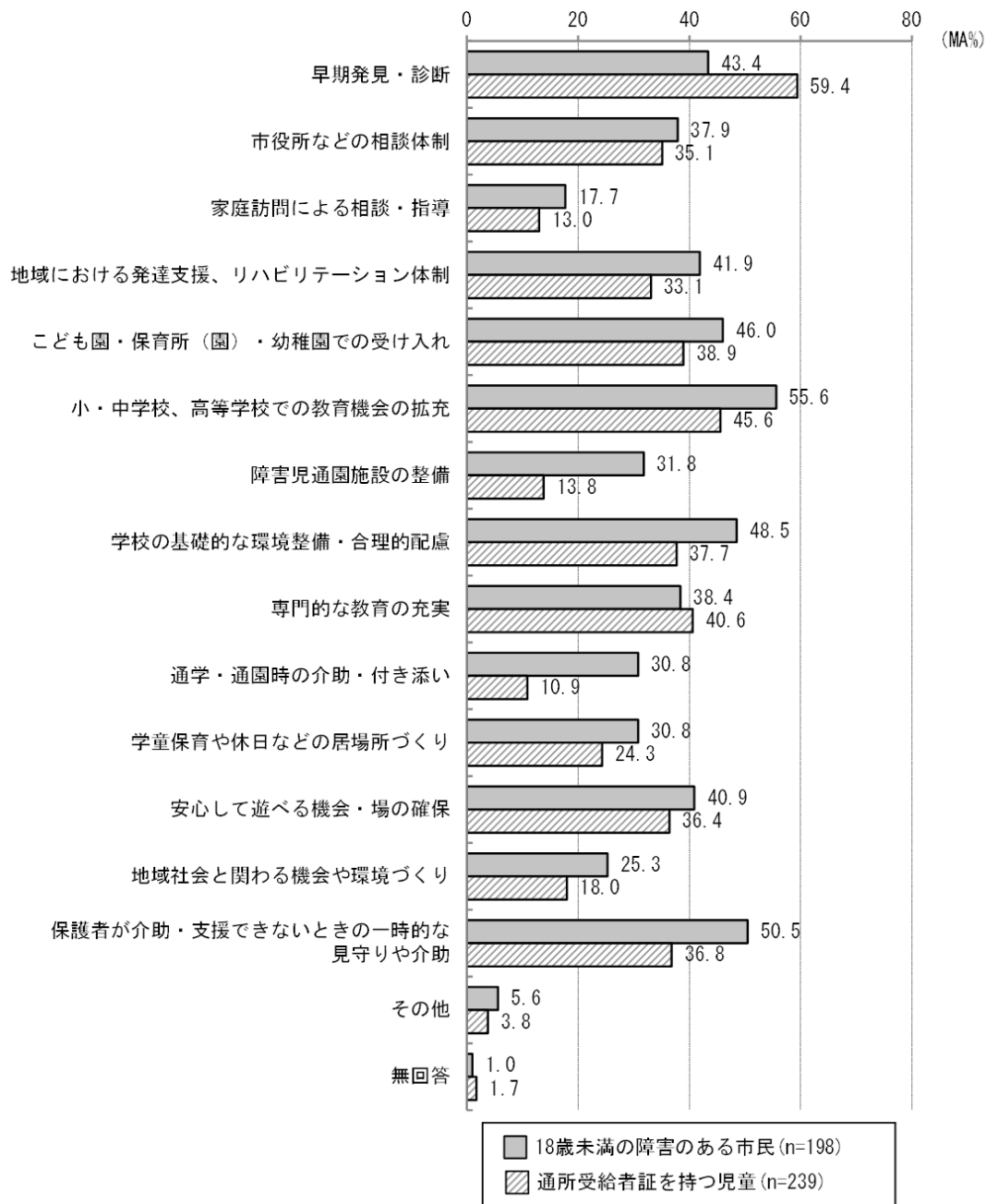
## 《希望する療育やサービス》（報告書P.101）

○障害児は「集団で生活するための支援」が最も多く、次いで「こども園・保育所（園）・幼稚園での障害児教育・保育の充実」、「発達をうながすための支援」、通所受給者証を持つ児童では「発達をうながすための支援」が最も多く、次いで「集団で生活するための支援」、「専門的な相談・指導」となっており、40%以上となっています。



## 《充実が必要だと思う施策やサービス》（報告書P.102）

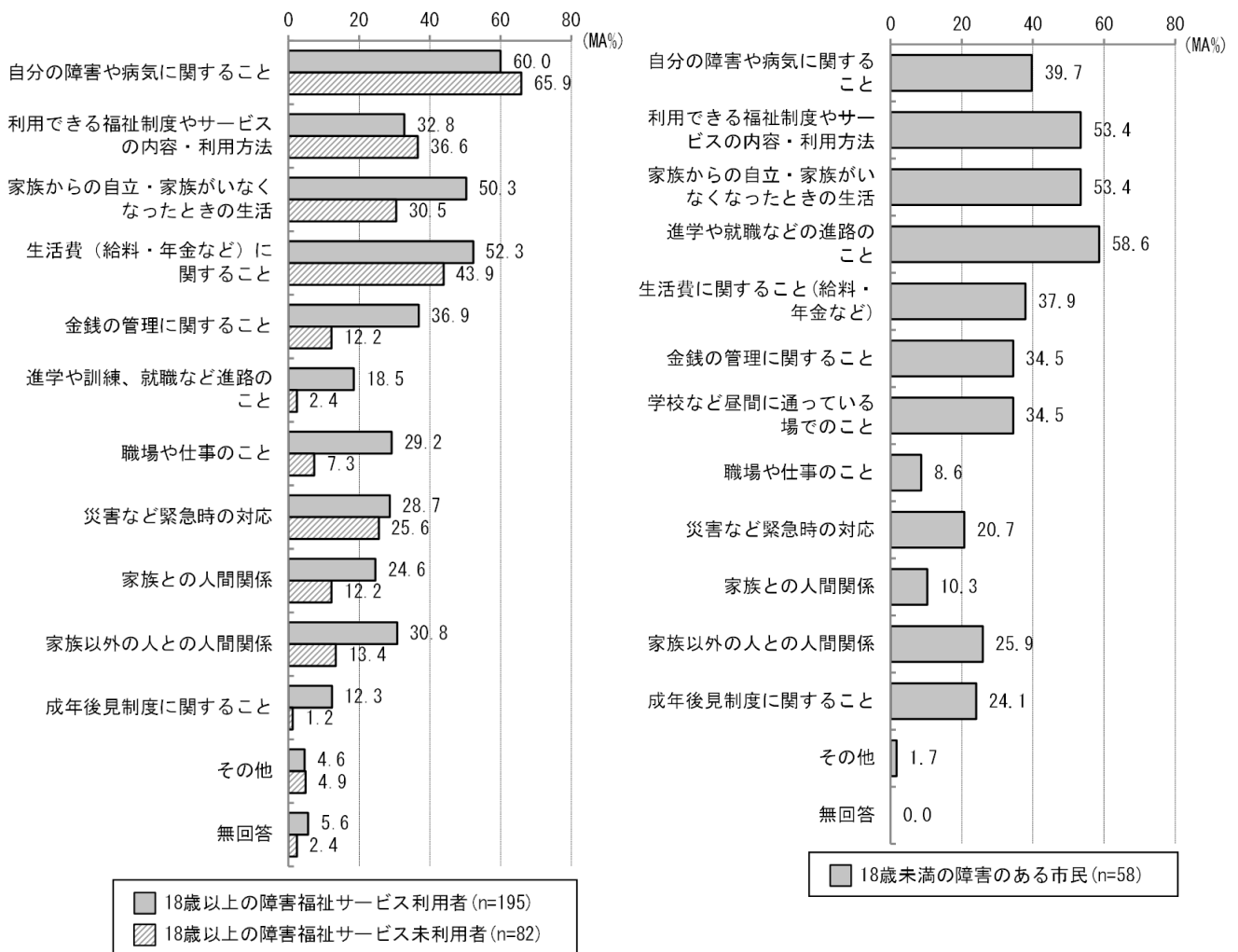
○障害児では、「小・中学校、高等学校での教育機会の拡充」が55.6%で最も多く、次いで「保護者が介助・支援できないときの一時的な見守りや介助」、「学校の基礎的な環境整備・合理的配慮」となっています。通所受給者証を持つ児童では、「早期発見・診断」が59.4%で最も多く、次いで「小・中学校、高等学校での教育機会の拡充」、「専門的な教育の充実」となっています。



#### ④相談の状況と支援の希望

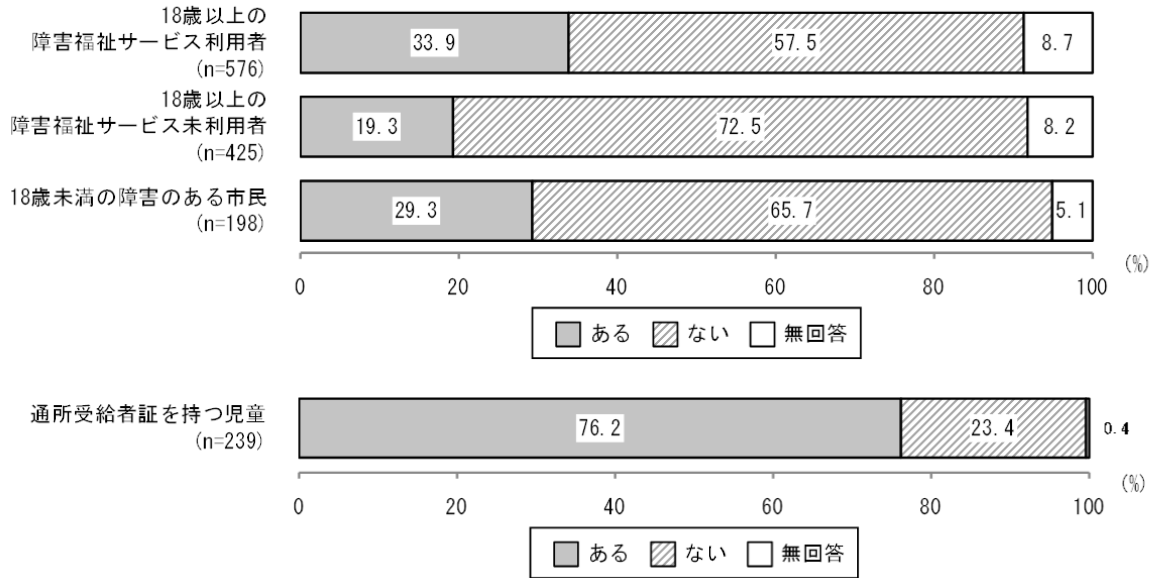
##### 《今、気にかかっていること》(報告書P.77・95)

- サービス利用者では「自分の障害や病気に関すること」が60.0%で最も多く、次いで「生活費（給料・年金など）に関すること」が52.3%、「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」が50.3%となっています。サービス未利用者についても「自分の障害や病気に関すること」が65.9%で最も多く、次いで「生活費（給料・年金など）に関すること」が43.9%、「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」が36.6%となっています。
- 障害児では、「進学や就職などの進路のこと」が58.6%で最も多く、次いで「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」と「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」がそれぞれ53.4%、「自分の障害や病気に関すること」が39.7%となっています。



## 《家族・親戚や日ごろ通う場所以外の人への相談状況》（報告書P.76・92）

○家族や日常的に通う場所以外の人に相談をしている回答者は、通所受給者証を持つ児童の76.2%、サービス利用者の33.9%、障害児の29.3%、サービス未利用者の19.3%となっています。

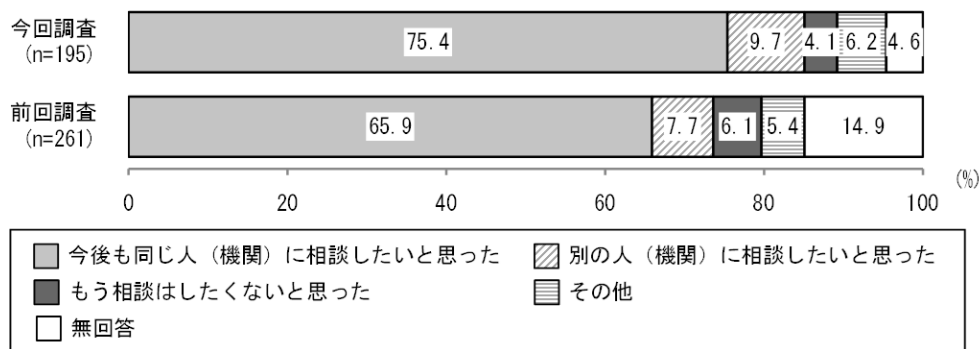


## 《今後の相談先について》

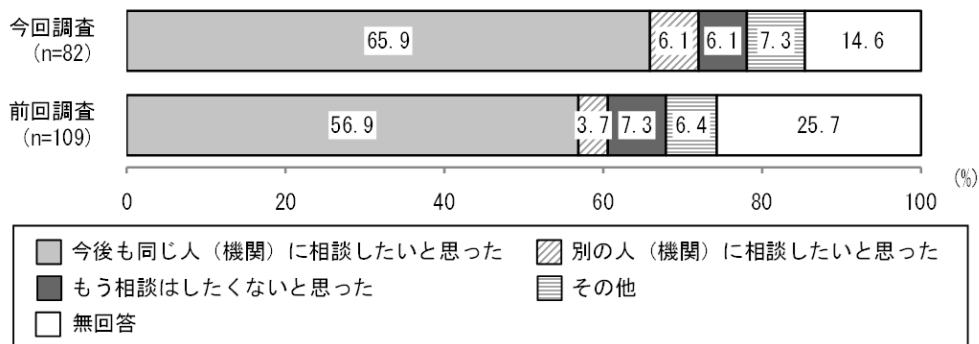
- 家族や日常的に通う場所以外の人に相談をしている人のうち、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」人はサービス利用者で75.4%、障害児で72.4%、サービス未利用者で65.9%となっています。前回調査と比較すると、サービス利用者、サービス未利用者では前回調査より1割程度高くなっています。
- 「別のの人に相談したい」、「もう相談したくない」と思った人に理由を尋ねた結果では、「専門的な助言を受けられなかった」、「障害への理解がたりないと感じた」、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」などが多くなっています。

〔相談した際の評価〕（報告書P.79）

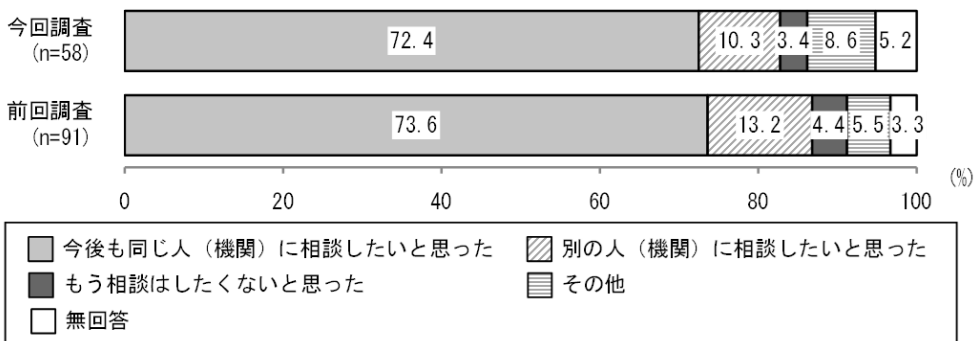
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者

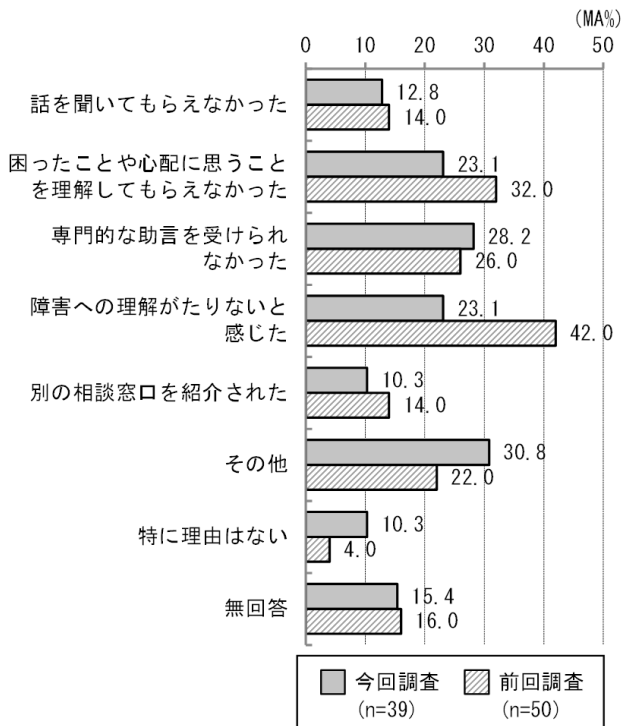


### 18歳未満の障害のある市民

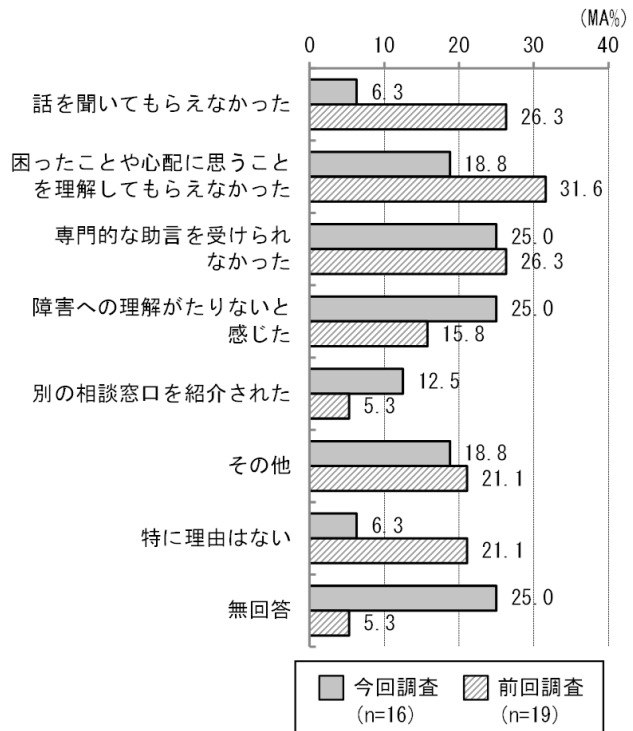


【「別のの人に相談したい」「もう相談したくない」と思った理由】（報告書P. 83）

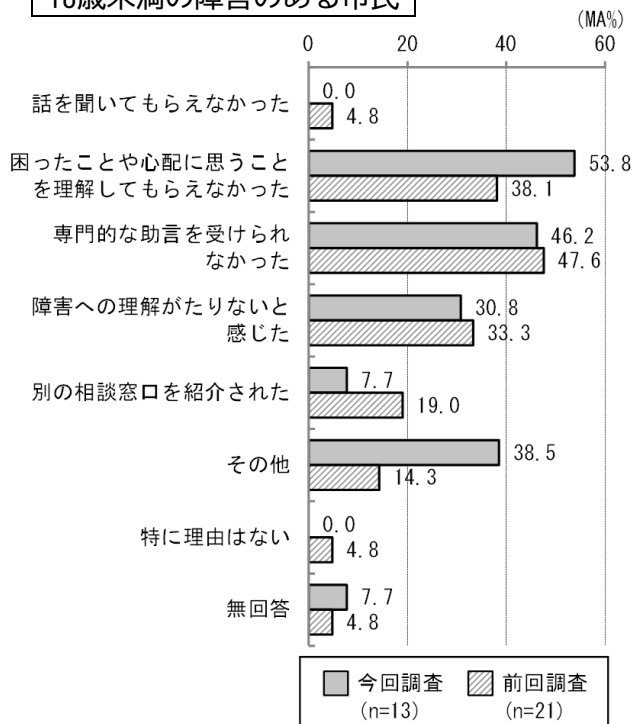
18歳以上の障害福祉サービス利用者



18歳以上の障害福祉サービス未利用者



18歳未満の障害のある市民

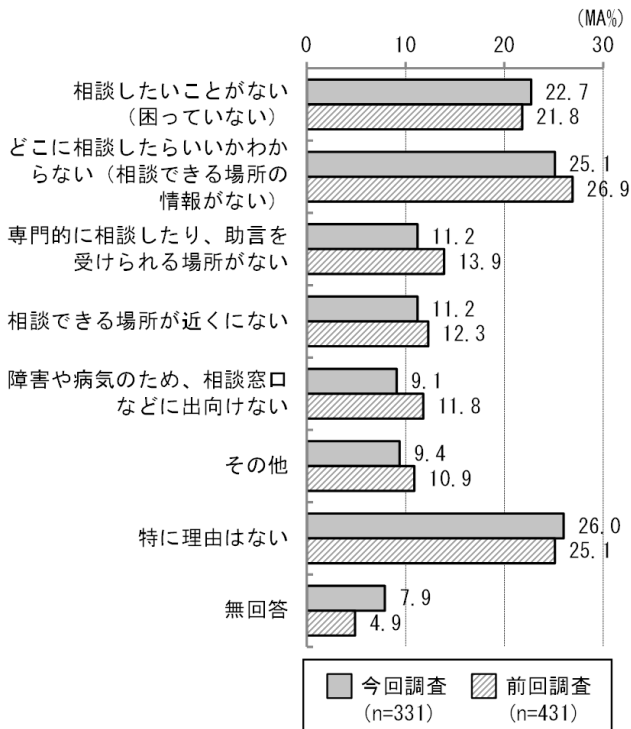


## 《相談したことがない理由》（報告書P.87）

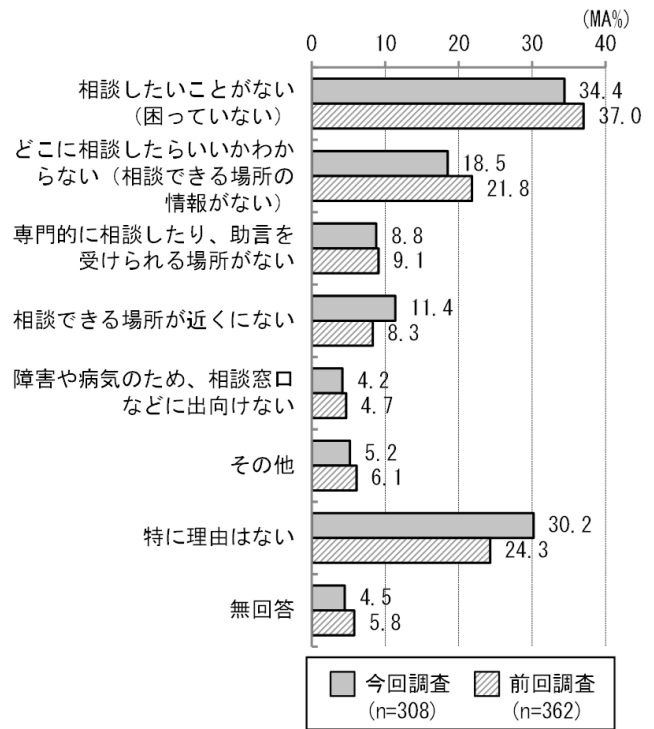
○「どこに相談したらいいかわからない」と答えた人は、サービス利用者の25.1%、サービス未利用者の18.5%、障害児の34.6%となっています。

前回調査と比較すると、サービス未利用者では「相談できる場所が近くにない」が前回調査より3.1ポイント高く、障害児では「相談したいことがない（困っていない）」が7.9ポイント高くなっています。

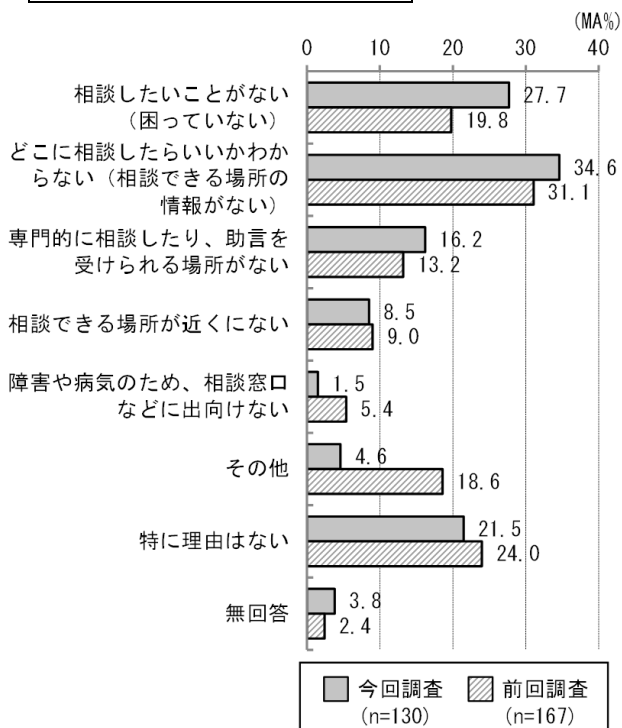
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者

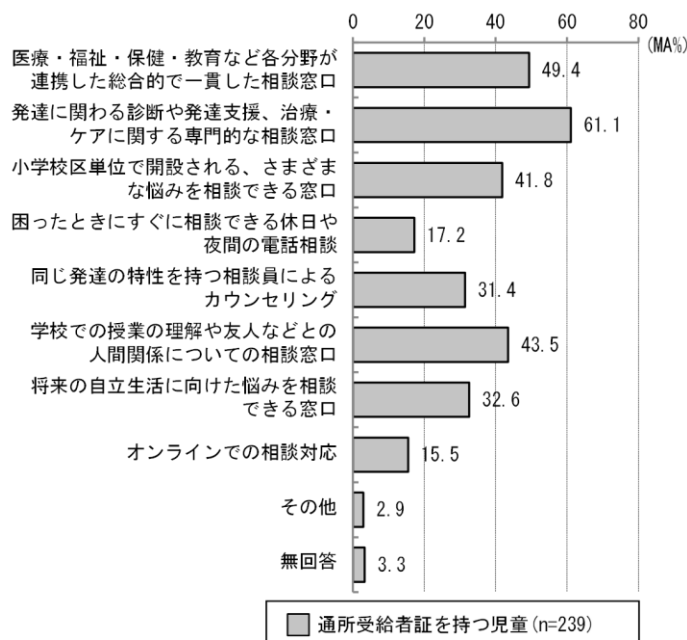
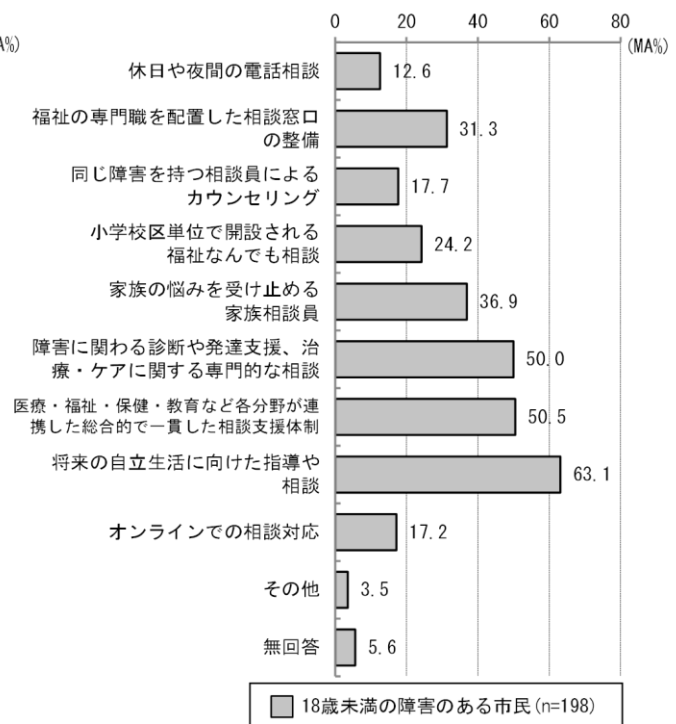
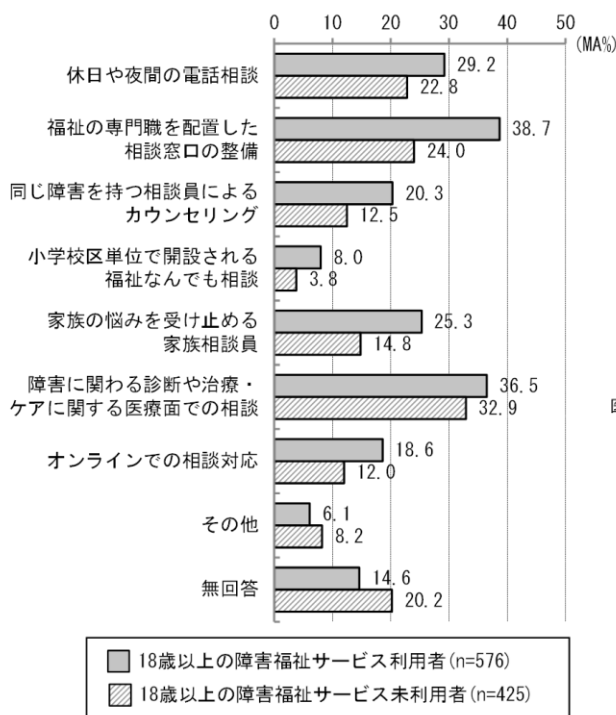


### 18歳未満の障害のある市民



## 《今後の相談支援体制への希望》（報告書P.91）

- サービス利用者は、「福祉の専門職を配置した相談窓口の整備」が38.7%で最も多く、次いで「障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が36.5%、「休日や夜間の電話相談」が29.2%となっています。サービス未利用者では、「障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が32.9%で最も多く、次いで「福祉の専門職を配置した相談窓口の整備」が24.0%、「休日や夜間の電話相談」が22.8%となっています。
- 障害児では、「将来の自立生活に向けた指導や相談」が63.1%で最も多く、次いで「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談支援体制」が50.5%、「障害に関わる診断や発達支援、治療・ケアに関する専門的な相談」が50.0%となっています。
- 通所受給者証を持つ児童では、「発達に関わる診断や発達支援、治療・ケアに関する専門的な相談窓口」が61.1%で最も多く、次いで「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談窓口」が49.4%、「学校での授業の理解や友人などとの人間関係についての相談窓口」が43.5%となっています。



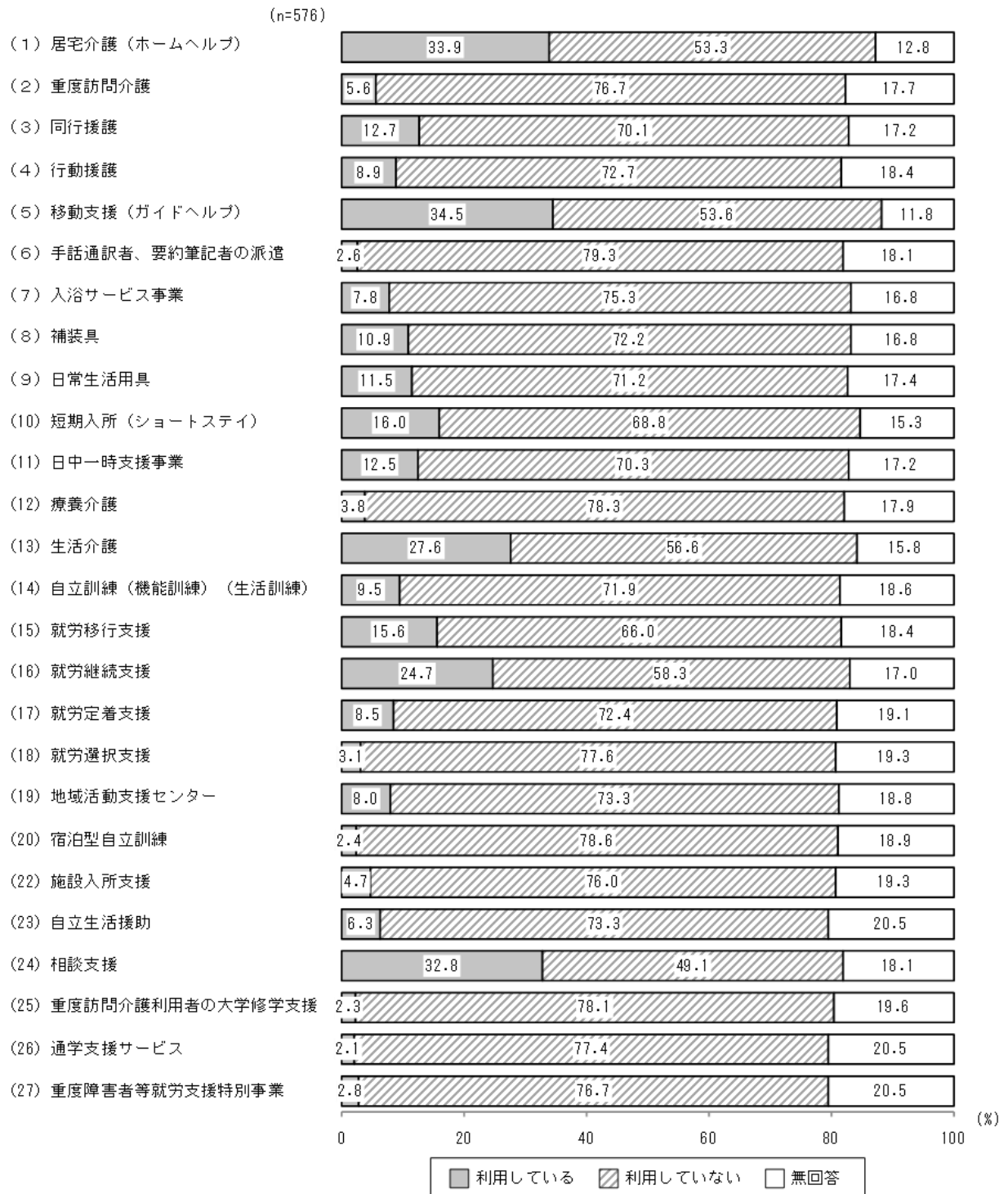
## ⑤障害福祉サービスの利用状況と意識

### 《障害福祉サービスの利用状況》(報告書P.146)

○サービス利用者では、移動支援、居宅介護、相談支援、生活介護、就労継続支援、短期入所の順で利用者が多く見られます。

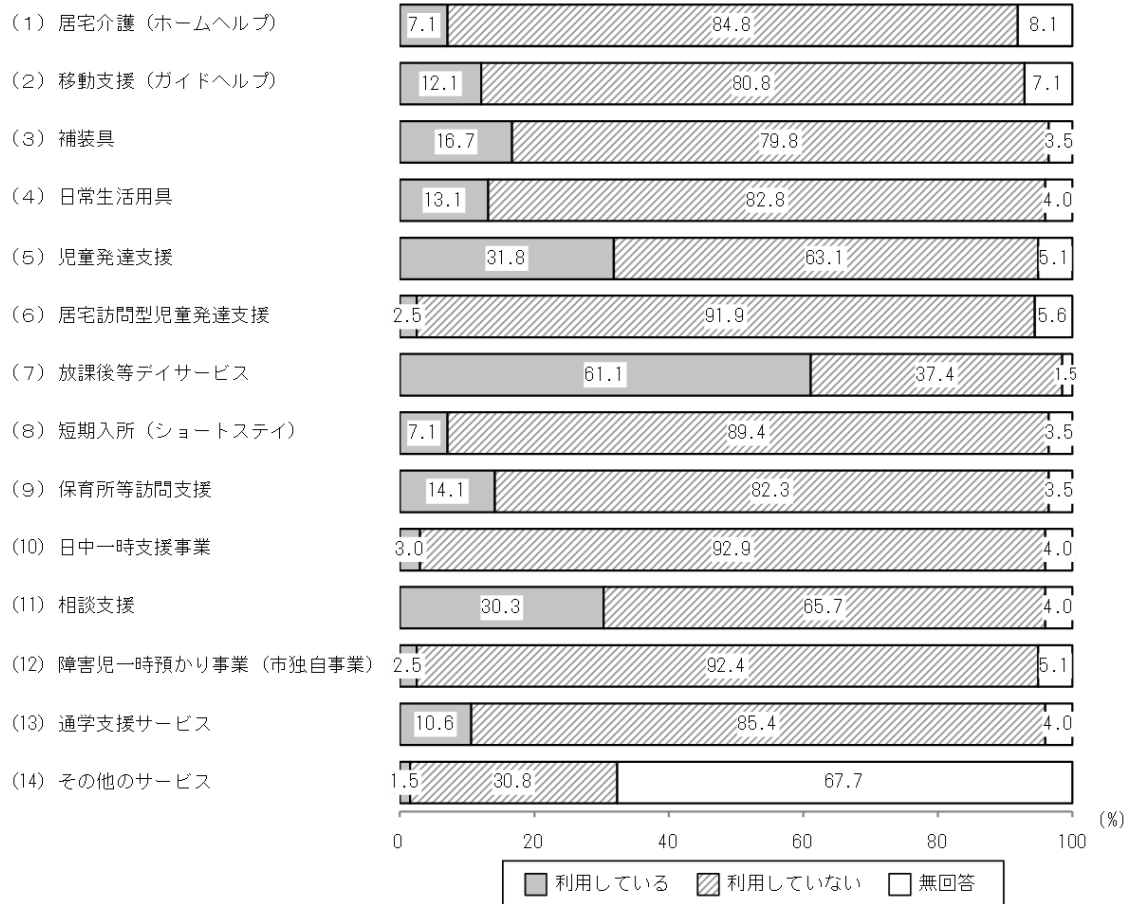
○障害児では、放課後等デイサービスが61.1%となるほか、児童発達支援、相談支援、補装具の順となっています。

・18歳以上の障害福祉サービス利用者



・18歳未満の障害のある市民

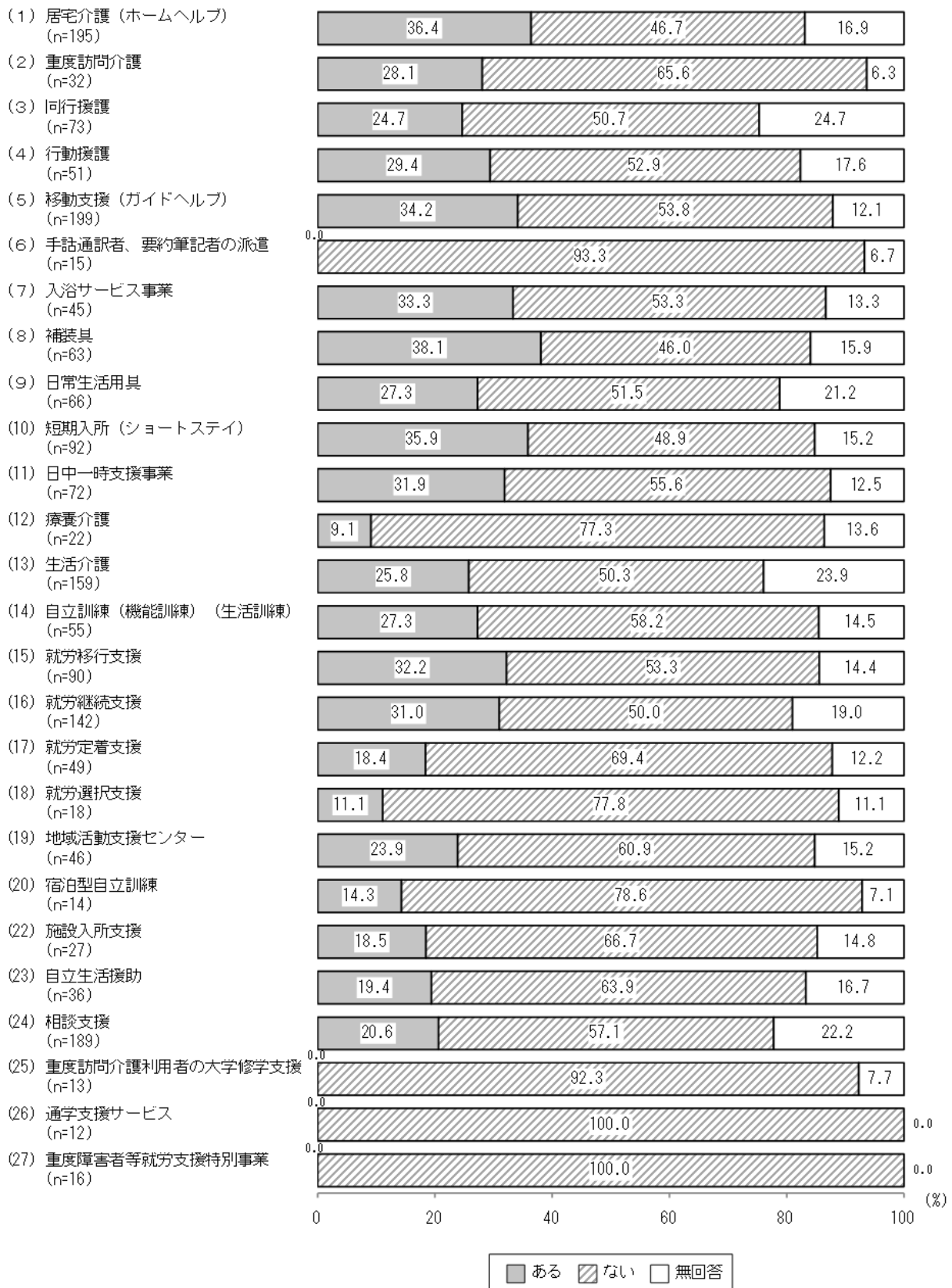
(n=198)



《利用サービスの不満の有無と内容》(報告書P.149・152)

- サービス利用者では、不満が「ある」は、補装具が最も多く、次いで居宅介護 (ホームヘルプ)、短期入所 (ショートステイ) となっています。主な不満の内容をみると、補装具では「相談や手続きに時間がかかり面倒くさい」、居宅介護では「利用回数・時間などに制限がある」が最も多くなっています。
- 障害児では、不満が「ある」は、短期入所 (ショートステイ) が最も多く、次いで補装具、移動支援 (ガイドヘルプ) となっています。
- 通所受給者証を持つ児童では、不満が「ある」は、放課後等デイサービスが最も多く、次いで児童発達支援となっています。主な不満の内容をみると、児童発達支援では「身近なところでサービスを利用できない」が最も多く、放課後等デイサービスでは「利用したい日・時間に利用できない」が最も多くなっています。

〔利用サービスの不満点の有無（18歳以上の障害福祉サービス利用者）〕

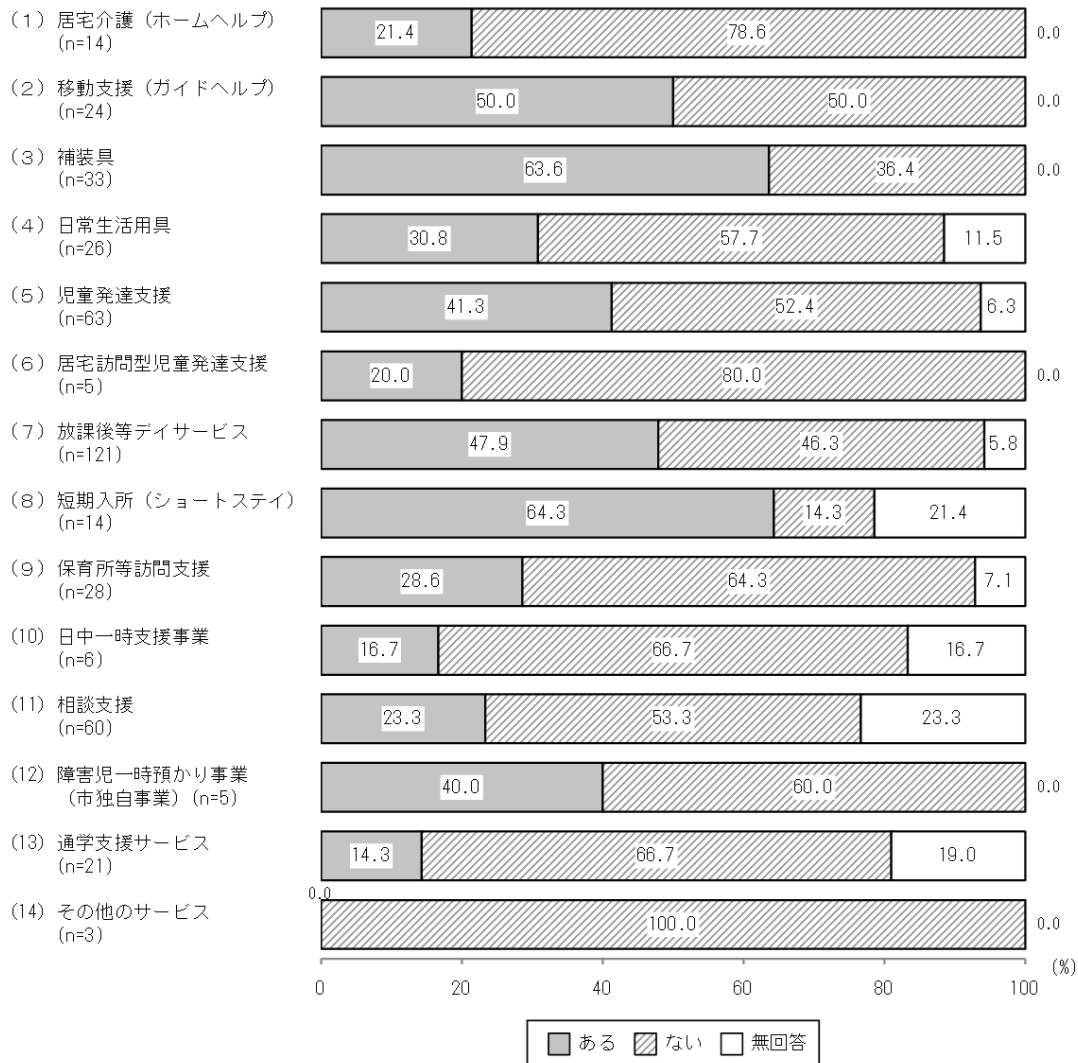


〔利用サービスの不満内容（18歳以上の障害福祉サービス利用者）〕

(単位：3LA%)

	サンプル数	身近なところでサービスを利用できない	利用したい日・時間に利用できない	利用回数・時間などに制限がある	サービスを断られることが多利用	利用料が高い	ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している	建物や設備が障害に配慮されていない	情報が少ない	サービス内容に関する	相談や手続きに時間が	その他	無回答
(1) 居宅介護（ホームヘルプ）	71	14.1	31.0	46.5	7.0	8.5	25.4	5.6	18.3	21.1	11.3	5.6	
(2) 重度訪問介護	9	-	33.3	55.6	22.2	11.1	33.3	-	11.1	22.2	11.1	-	
(3) 同行援護	18	27.8	33.3	55.6	-	11.1	5.6	11.1	5.6	-	-	11.1	
(4) 行動援護	15	26.7	33.3	46.7	-	20.0	40.0	6.7	26.7	13.3	-	13.3	
(5) 移動支援（ガイドヘルプ）	68	10.3	36.8	42.6	8.8	2.9	29.4	10.3	19.1	10.3	10.3	7.4	
(6) 手話通訳者、要約筆記者の派遣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(7) 入浴サービス事業	15	40.0	46.7	66.7	6.7	-	26.7	-	6.7	6.7	-	13.3	
(8) 補装具	24	20.8	12.5	8.3	4.2	20.8	-	8.3	16.7	50.0	4.2	8.3	
(9) 日常生活用具	18	22.2	-	16.7	-	5.6	11.1	16.7	44.4	55.6	5.6	5.6	
(10) 短期入所（ショートステイ）	33	15.2	57.6	60.6	9.1	9.1	12.1	3.0	12.1	3.0	15.2	-	
(11) 日中一時支援事業	23	21.7	34.8	39.1	8.7	8.7	8.7	-	8.7	8.7	13.0	13.0	
(12) 療養介護	2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
(13) 生活介護	41	19.5	12.2	31.7	7.3	12.2	29.3	12.2	26.8	9.8	9.8	9.8	
(14) 自立訓練（機能訓練）（生活訓練）	15	13.3	20.0	26.7	-	6.7	33.3	-	33.3	-	20.0	13.3	
(15) 就労移行支援	29	24.1	6.9	13.8	3.4	3.4	27.6	17.2	24.1	10.3	13.8	10.3	
(16) 就労継続支援	44	27.3	13.6	20.5	-	4.5	38.6	9.1	20.5	9.1	18.2	6.8	
(17) 就労定着支援	9	11.1	11.1	22.2	-	33.3	-	-	11.1	-	22.2	22.2	
(18) 就労選択支援	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	
(19) 地域活動支援センター	11	36.4	27.3	18.2	-	-	9.1	9.1	18.2	18.2	27.3	-	
(20) 宿泊型自立訓練	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	
(22) 施設入所支援	5	20.0	-	20.0	-	20.0	-	-	40.0	20.0	-	-	
(23) 自立生活援助	7	42.9	28.6	57.1	-	-	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	
(24) 相談支援	39	12.8	28.2	12.8	-	2.6	25.6	-	33.3	23.1	10.3	15.4	
(25) 重度訪問介護利用者の大学修学支援	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(26) 通学支援サービス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(27) 重度障害者等就労支援特別事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

〔利用サービスの不満点の有無（18歳未満の障害のある市民）〕

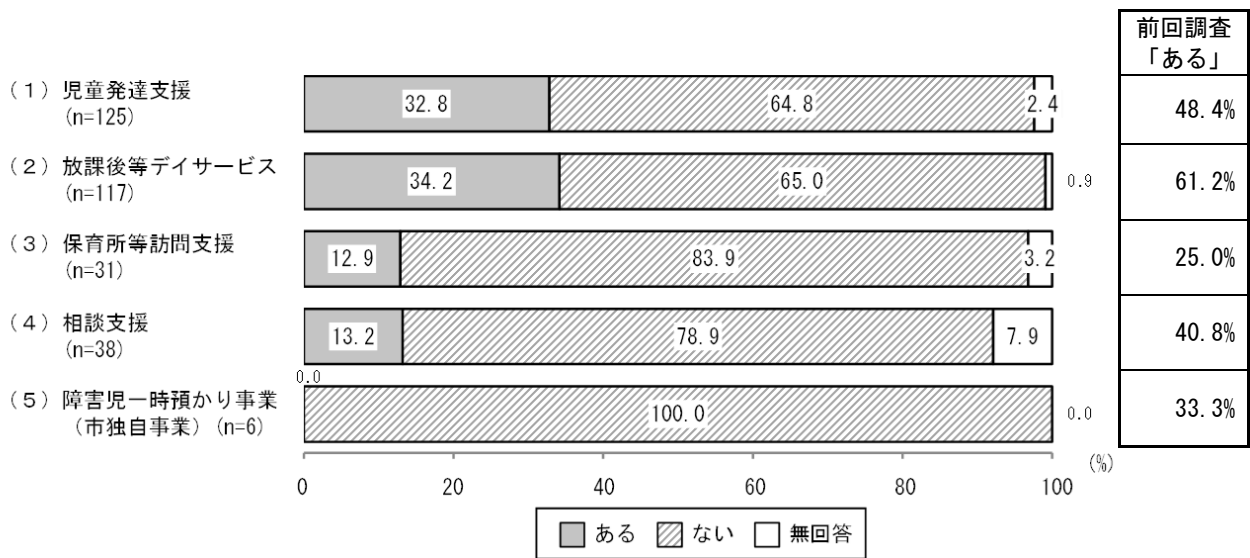


〔利用サービスの不満内容（18歳未満の障害のある市民）〕

(単位：3LA%)

	サンプル数	身近なところできないサービス	利用できない日・時間に	制限回数・時間などに	サービスを断られることが多利用	利用料が高い	ヘルパーや知識・経験が不足している	建物や設備が障害に配慮されていない	情報が少ない内容に関する	相談や手続きに時間が	その他	無回答
(1) 居宅介護（ホームヘルプ）	3	-	100.0	66.7	-	33.3	66.7	-	33.3	-	-	-
(2) 移動支援（ガイドヘルプ）	12	25.0	33.3	66.7	-	16.7	8.3	-	8.3	16.7	-	8.3
(3) 補装具	21	23.8	4.8	33.3	-	38.1	4.8	14.3	28.6	47.6	14.3	4.8
(4) 日常生活用具	8	12.5	25.0	25.0	-	50.0	-	-	37.5	50.0	-	12.5
(5) 児童発達支援	26	19.2	46.2	46.2	19.2	7.7	30.8	3.8	30.8	26.9	-	-
(6) 居宅訪問型児童発達支援	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(7) 放課後等デイサービス	58	13.8	36.2	37.9	13.8	34.5	32.8	6.9	25.9	12.1	6.9	1.7
(8) 短期入所（ショートステイ）	9	66.7	66.7	22.2	11.1	11.1	-	-	-	-	-	11.1
(9) 保育所等訪問支援	8	25.0	12.5	75.0	12.5	-	25.0	-	12.5	-	50.0	-
(10) 日中一時支援事業	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-
(11) 相談支援	14	14.3	14.3	7.1	14.3	-	28.6	-	35.7	28.6	-	21.4
(12) 障害児一時預かり事業（市独自事業）	2	-	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-
(13) 通学支援サービス	3	-	66.7	33.3	-	66.7	-	-	-	33.3	-	-
(14) その他のサービス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

〔利用サービスの不満点の有無（通所受給者証を持つ児童）〕



〔利用サービスの不満内容（通所受給者証を持つ児童）〕

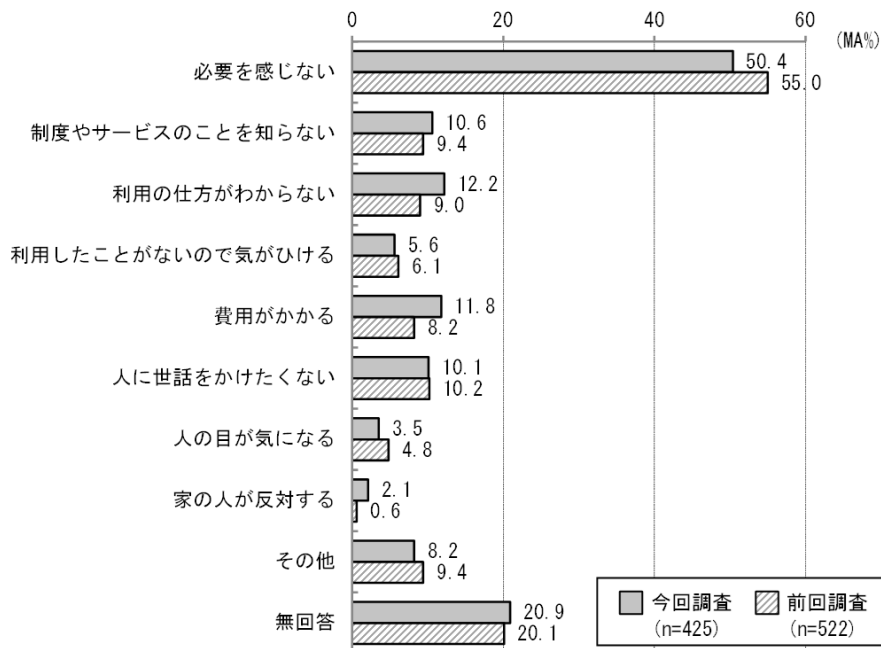
(単位：3LA%)

	サンプル数	身近なところでサービスを利用できない	利用できない日・時間に制限がある	利用回数・時間などに制限がある	事業所に利用を断られることが多い	利用料が高い	知識・経験が不足している	指導員など支援者のいない	建物や設備が発達の課題に配慮されていない	情報が少ない	サービス内容に関する	相談や手続きに時間が	その他	無回答
(1) 児童発達支援	41	34.1	29.3	29.3	9.8	7.3	31.7	4.9	14.6	22.0	17.1	2.4		
(2) 放課後等デイサービス	40	27.5	45.0	17.5	7.5	12.5	37.5	7.5	17.5	12.5	12.5	2.5		
(3) 保育所等訪問支援	4	-	-	-	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	25.0	-		
(4) 相談支援	5	40.0	60.0	20.0	-	-	20.0	-	40.0	-	20.0	-		
(5) 障害児一時預かり事業 (市独自事業)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

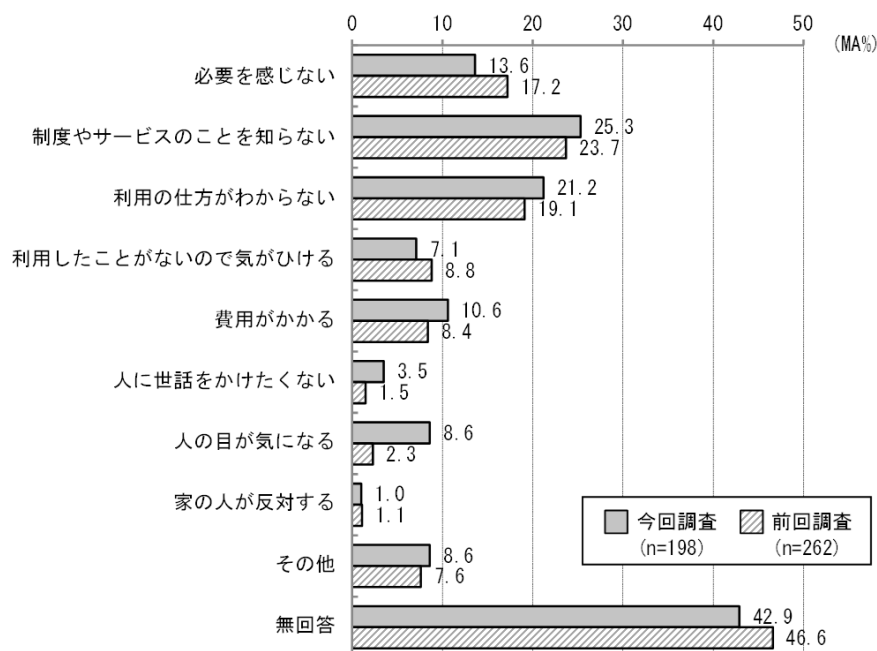
## 《サービスを利用していない理由》(報告書P.158)

- サービスを利用していない理由として、サービス未利用者では「必要を感じない」が50.4%を占めていますが、前回調査より4.6ポイント低くなっています。
- 障害児については無回答が多く、「制度やサービスのことを知らない」が25.3%、「利用の仕方がわからない」が21.2%、「必要を感じない」が13.6%となっています。「人の目が気になる」は前回調査より6.3ポイント高くなっています。

### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



### 18歳未満の障害のある市民



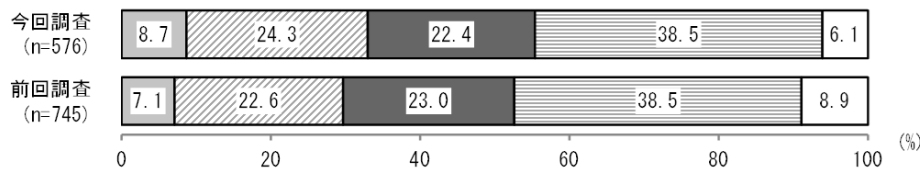
## ⑥障害や発達に支援が必要とする人の人権・理解促進

### 《ここ3年で障害や難病、発達に支援が必要であるために差別を受けた経験》

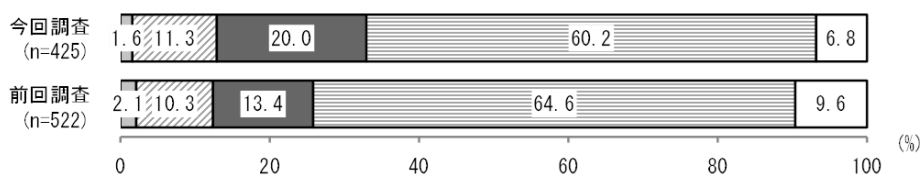
- 「よくある」と「ときどきある」を合わせて、障害児の44.4%、サービス利用者の33.0%、通所受給者証を持つ児童の28.8%、サービス未利用者の12.9%、施設入所者の7.3%となっています。前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、『ある』の割合は前回調査より9.9ポイント低くなっています。
- 差別を受けた場面については、18歳以上では「まちを歩いているとき」「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」「公共交通機関を利用するとき」などが上位を占めています。障害児や通所受給者証を持つ児童では「進学するときや学校生活において」がとりわけ多くを占めています。前回調査と比較すると、サービス利用者では「就職するときや職場生活において」が7.7ポイント、サービス未利用者では「役所で手続きするときや公共施設を使うとき」が13.3ポイント、障害児では「公共交通機関を利用するとき」が11.1ポイント、それぞれ前回調査より高くなっています。

〔障害や難病のため差別を受けたこと〕（報告書P.109）

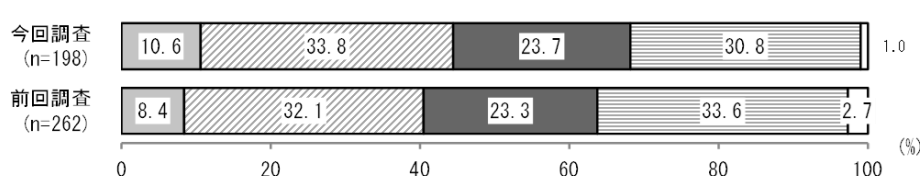
#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



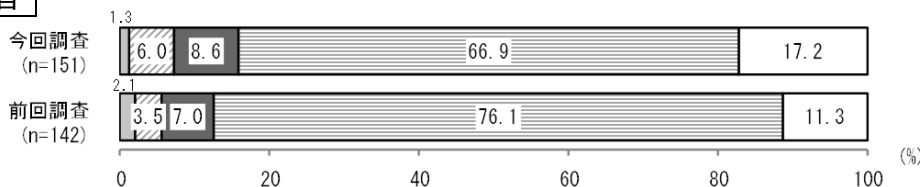
#### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



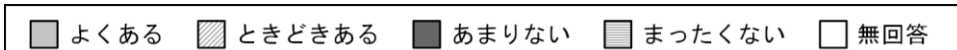
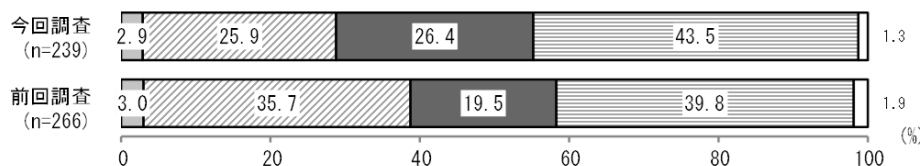
#### 18歳未満の障害のある市民



#### 施設入所者

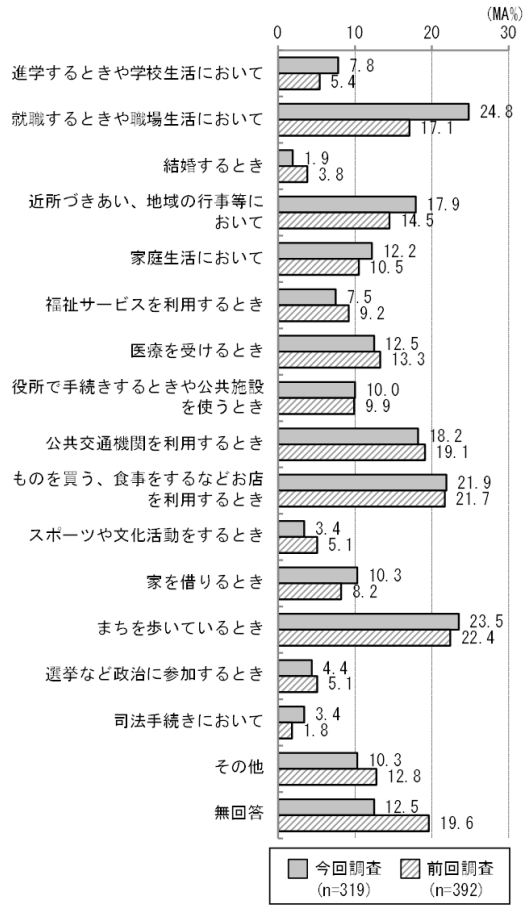


#### 通所受給者証を持つ児童

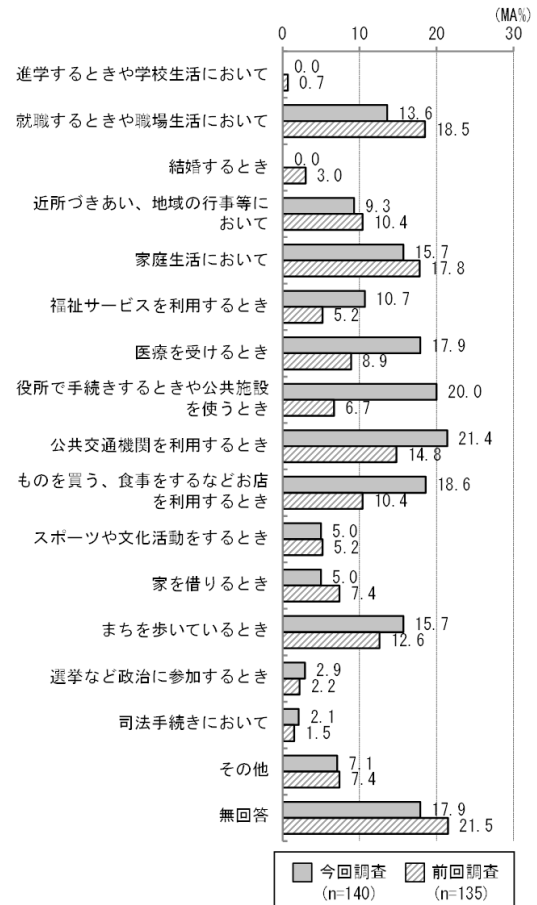


〔差別を受けた場面〕（報告書P.115）

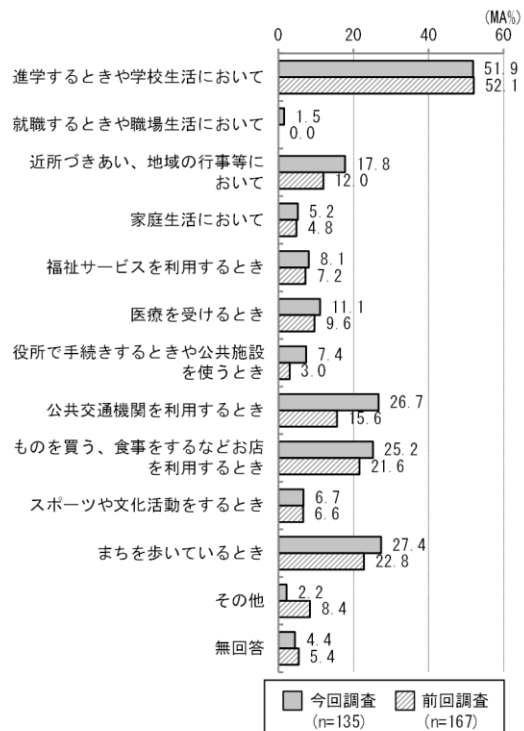
18歳以上の障害福祉サービス利用者



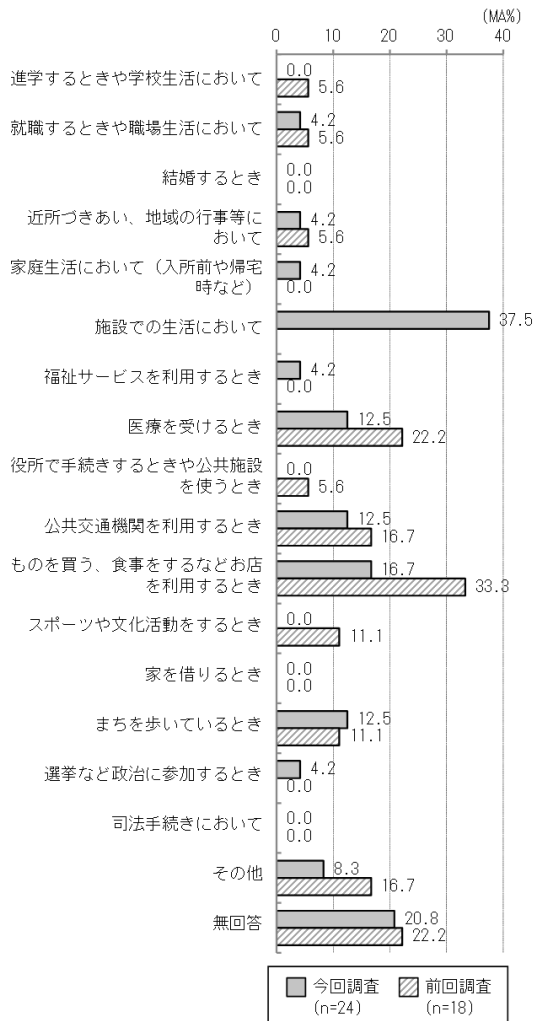
18歳以上の障害福祉サービス未利用者



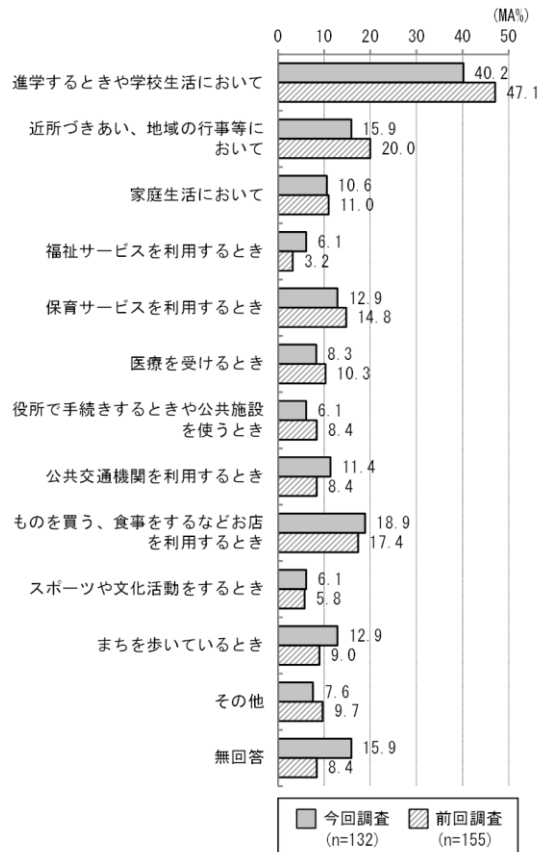
18歳未満の障害のある市民



### 施設入所者



### 通所受給者証を持つ児童

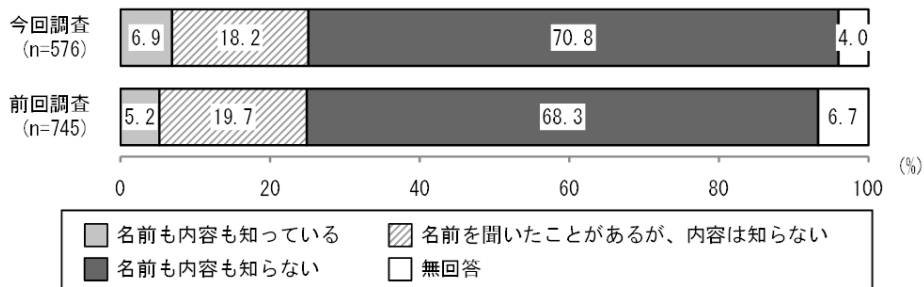


### 《障害者差別解消法の認知状況》(報告書P.136)

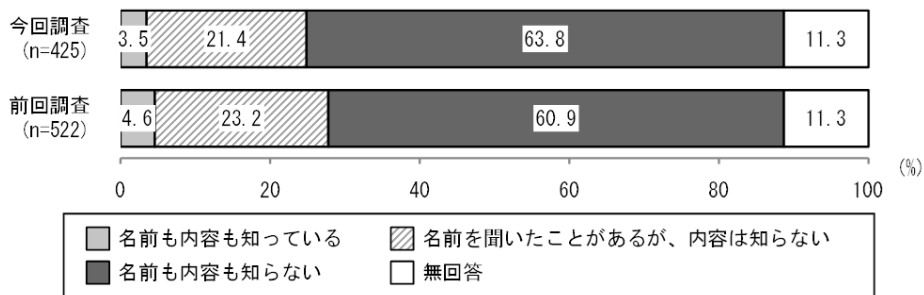
○障害者差別解消法について名前も内容も知っている人の割合はサービス利用者の6.9%、サービス未利用者の3.5%、障害児の11.1%、施設入所者の2.6%、通所受給者証を持つ児童の4.2%と、障害児以外ではいずれも10%以下にとどまっています。

前回調査と比較すると、名前も内容も知っている人の割合は、サービス利用者、障害児、施設入所者で前回調査より高くなっています。

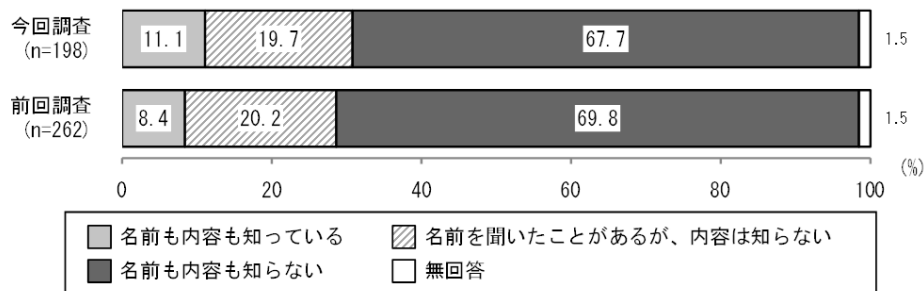
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



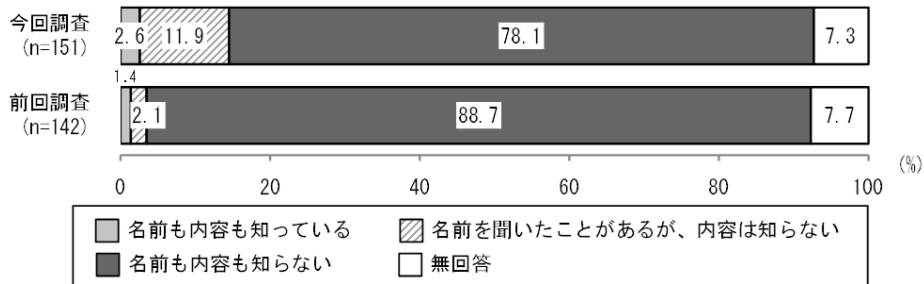
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



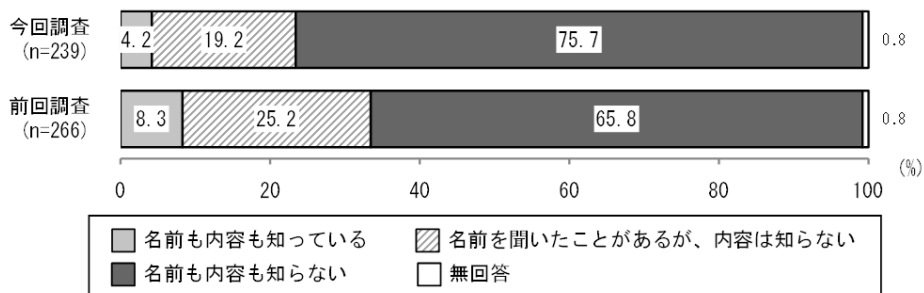
### 18歳未満の障害のある市民



### 施設入所者



### 通所受給者証を持つ児童



## ⑦将来の暮らし方

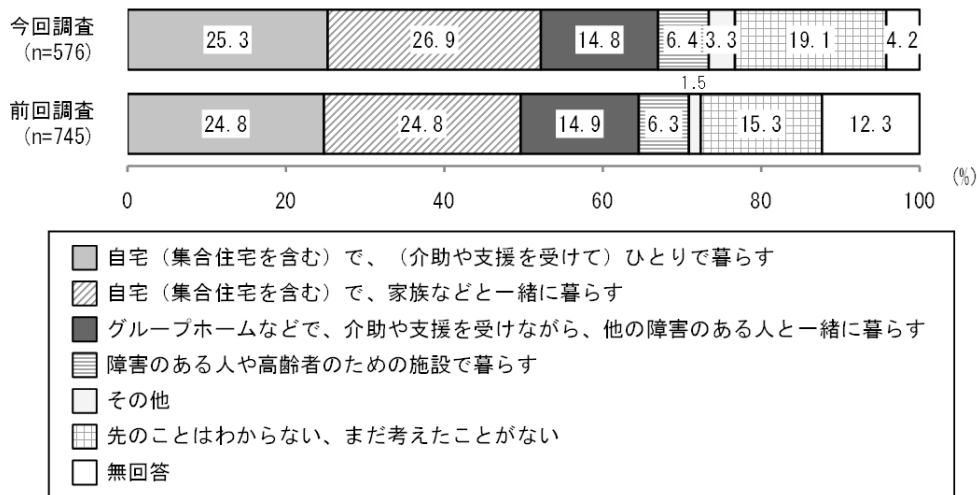
### 《将来の暮らし方》

○サービス利用者では、「自宅で、家族などと一緒に暮らす」が26.9%で最も多く、次いで「自宅で、ひとりで暮らす」が25.3%となっています。また、サービス未利用者では「自宅で、家族などと一緒に暮らす」が36.7%で最も多く、次いで「先のことはわからない、まだ考えたことがない」が24.0%となっています。前回調査と比較すると、サービス未利用者では、「自宅で、ひとりで暮らす」が前回調査より3.4ポイント低くなっています。

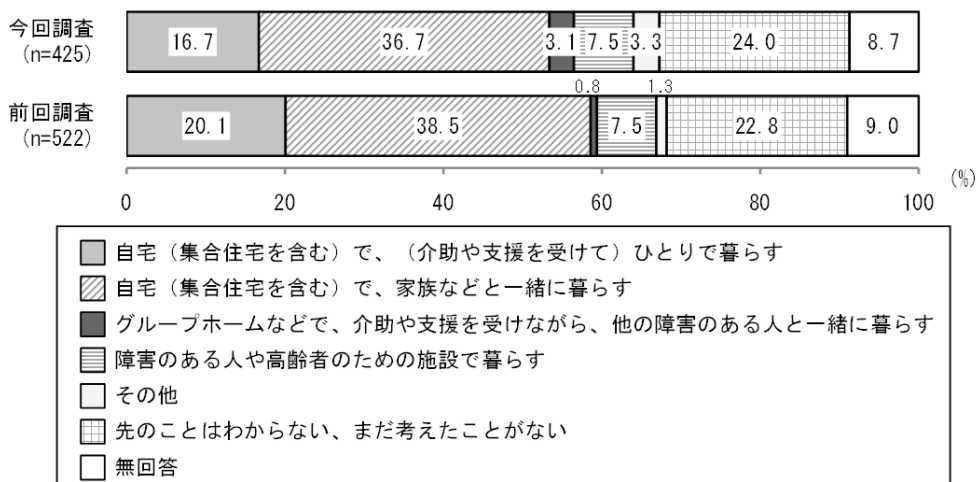
○障害児では、大人になったらしてみたいこととして、「家族と一緒に暮らすこと」が42.9%で最も多く、次いで「介助や支援を受けながら、自分ひとりで暮らすこと」が27.3%、「結婚したり、子どもを育てること」が25.3%となっています。前回調査と比較すると、障害児では、「家族と一緒に暮らすこと」が前回調査より6.3ポイント、「大学などで専門的な勉強をすること」が前回調査より6.0ポイント、それぞれ高くなっています。

〔希望する10年後の暮らし〕（報告書P.161）

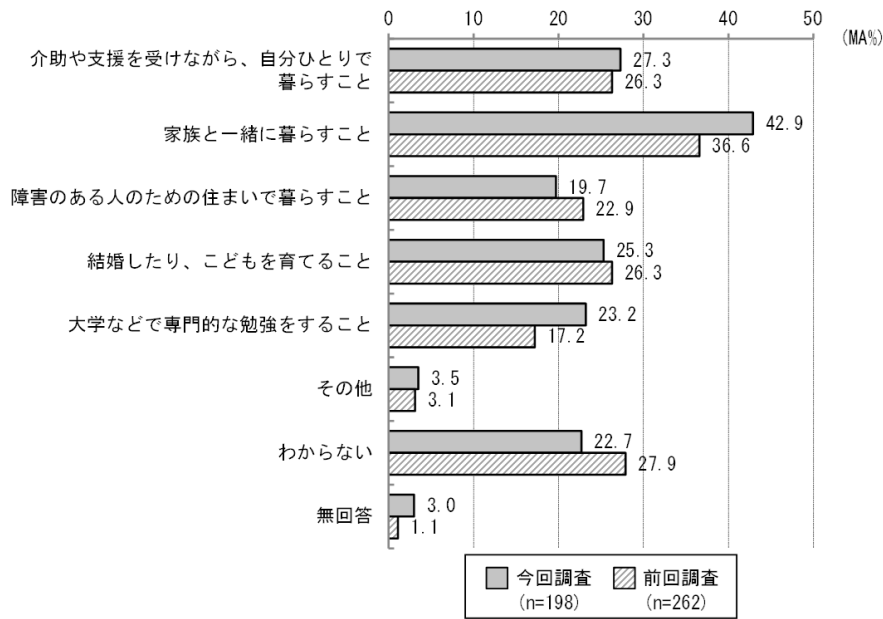
#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者



#### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



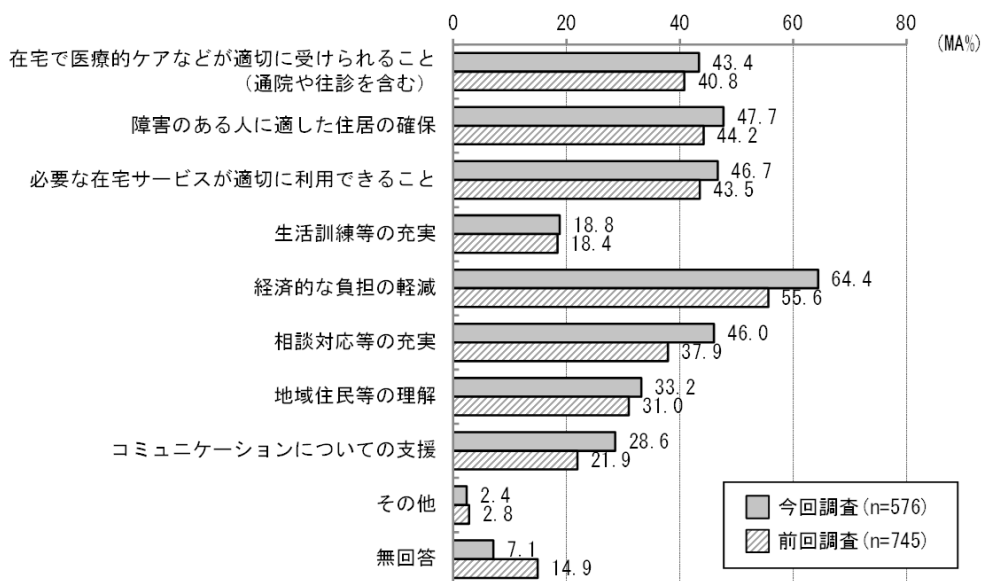
〔大人になったらしてみたいこと（18歳未満の障害のある市民）〕（報告書P.166）



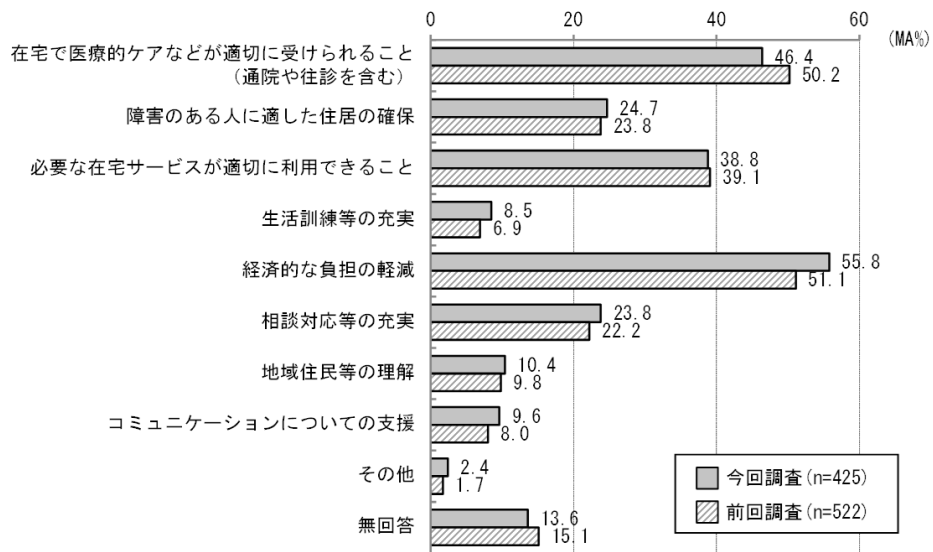
《地域での生活に必要なとする支援》（報告書P.169）

- 「経済的な負担の軽減」をあげる人が多く、障害児の75.3%、サービス利用者の64.4%、サービス未利用者の55.8%、通所受給者証を持つ児童の51.0%を占めており、いずれも前回調査より高い割合となっています。
- 「必要な在宅サービスが適切に利用できること」は、サービス利用者の46.7%、障害児の43.9%、サービス未利用者の38.8%が必要としています。
- 「相談対応等の充実」は、障害児の49.0%、サービス利用者の46.0%、通所受給者証を持つ児童の44.4%が必要としており、前回調査より高い割合となっています。また、通所受給者証を持つ児童では54.4%の人が、「生活能力を維持・向上させる支援の充実」を必要としています。

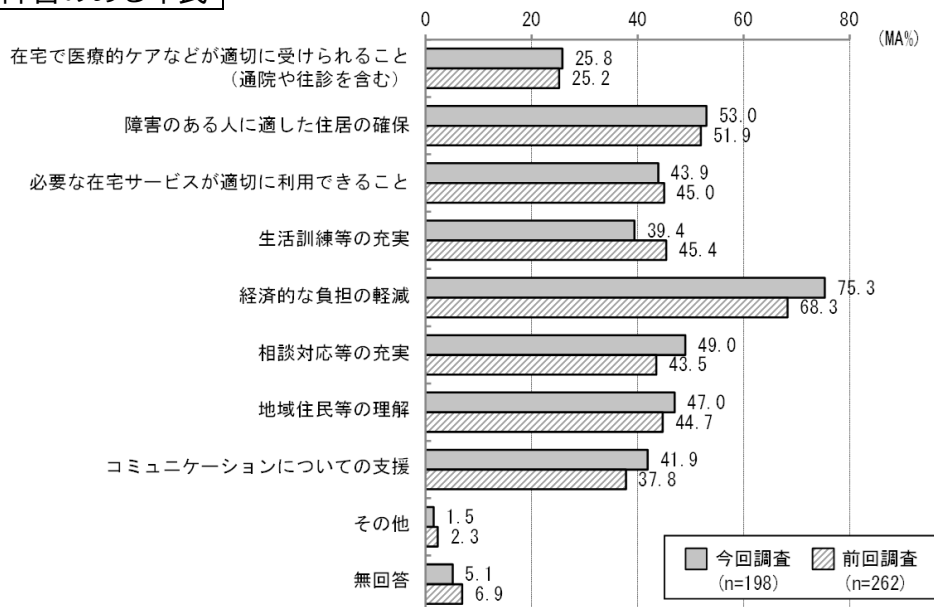
18歳以上の障害福祉サービス利用者



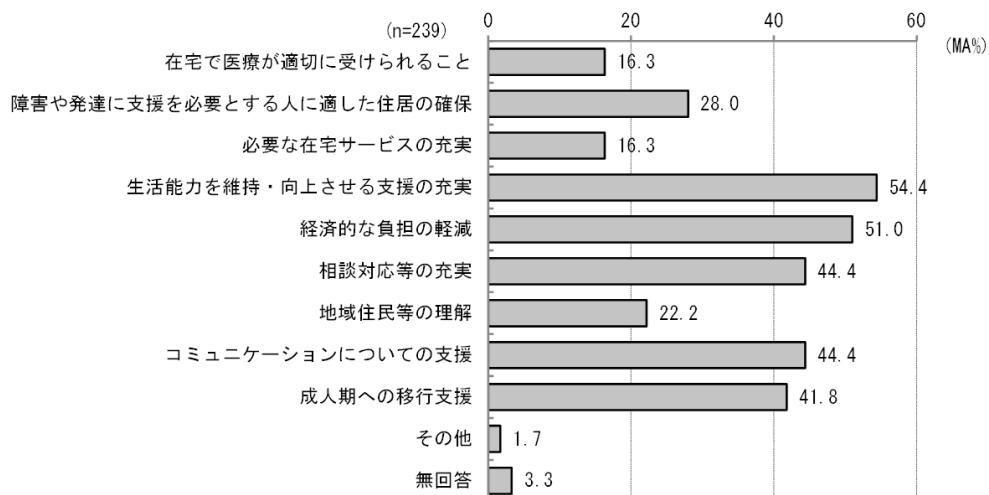
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者



### 18歳未満の障害のある市民



### 通所受給者証を持つ児童



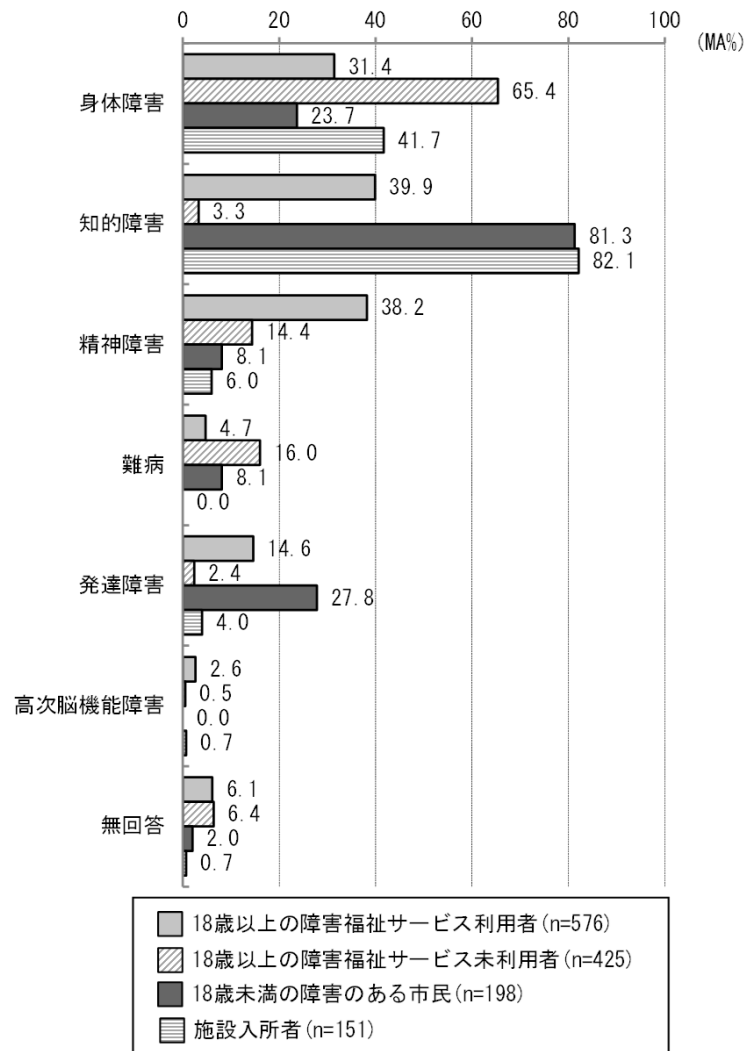
## ⑧施設入所者の状況と地域生活への移行に関する意識

### 《回答者の属性》

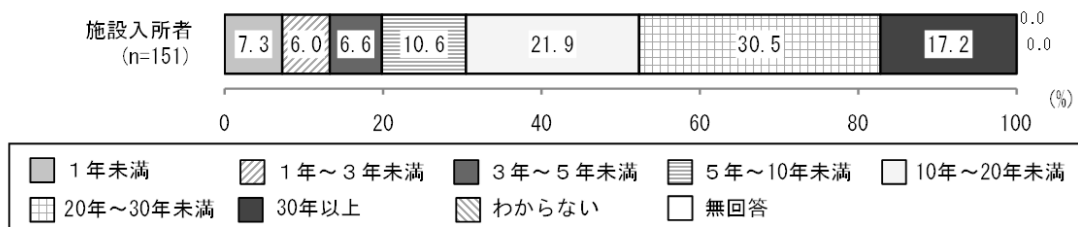
○施設入所者の82.1%が療育手帳、41.7%が身体障害者手帳を所持しています。

○現在の施設での入所年数は5年以上という人が80.2%を占めています。

〔障害の種別〕（報告書P.14）



〔入所年数（施設入所者）〕（報告書P.29）



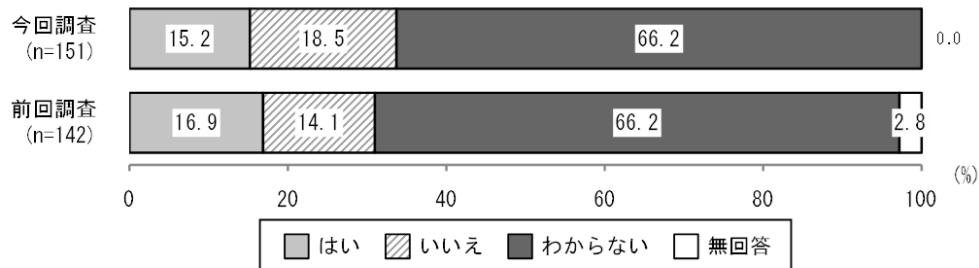
## 《地域生活への移行に関する関心》

○施設を退所して地域で生活したいという人は15.2%となっていますが、入所5年未満の人では33.3%となっています。また、前回調査（16.9%）の結果と比べると、地域生活への移行に関心を示す人の割合はやや減少しています。

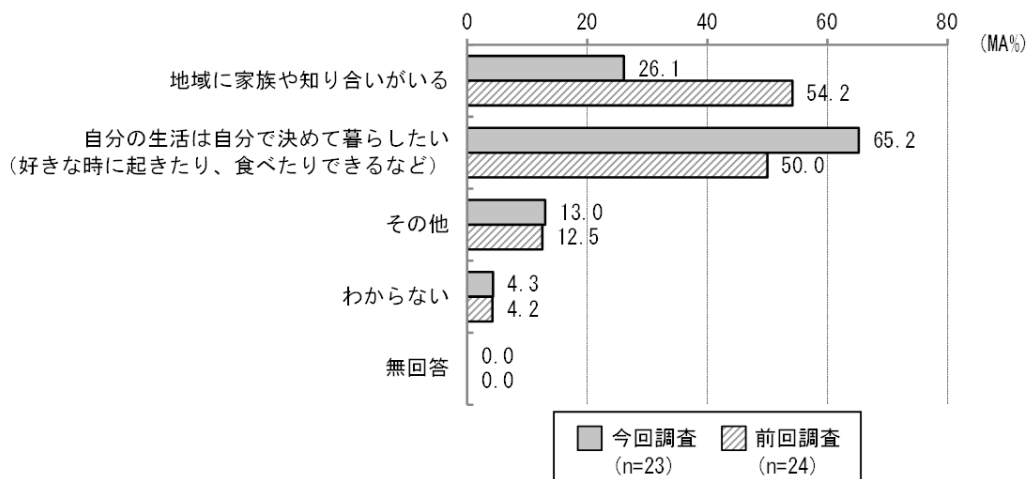
○退所したい理由は「自分の生活は自分で決めて暮らしたい」が65.2%を占めています。

○地域で暮らしたい場所については「施設に入る前に住んでいた地域」が52.2%、「それ以外の豊中市内」が17.4%となっています。

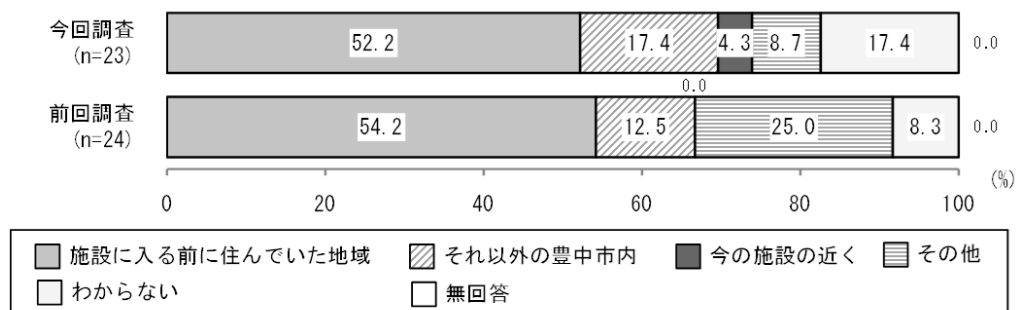
〔退所して地域で生活したいと思った経験の有無（施設入所者）〕（報告書P.174）



〔退所したい理由（施設入所者）〕（報告書P.175）



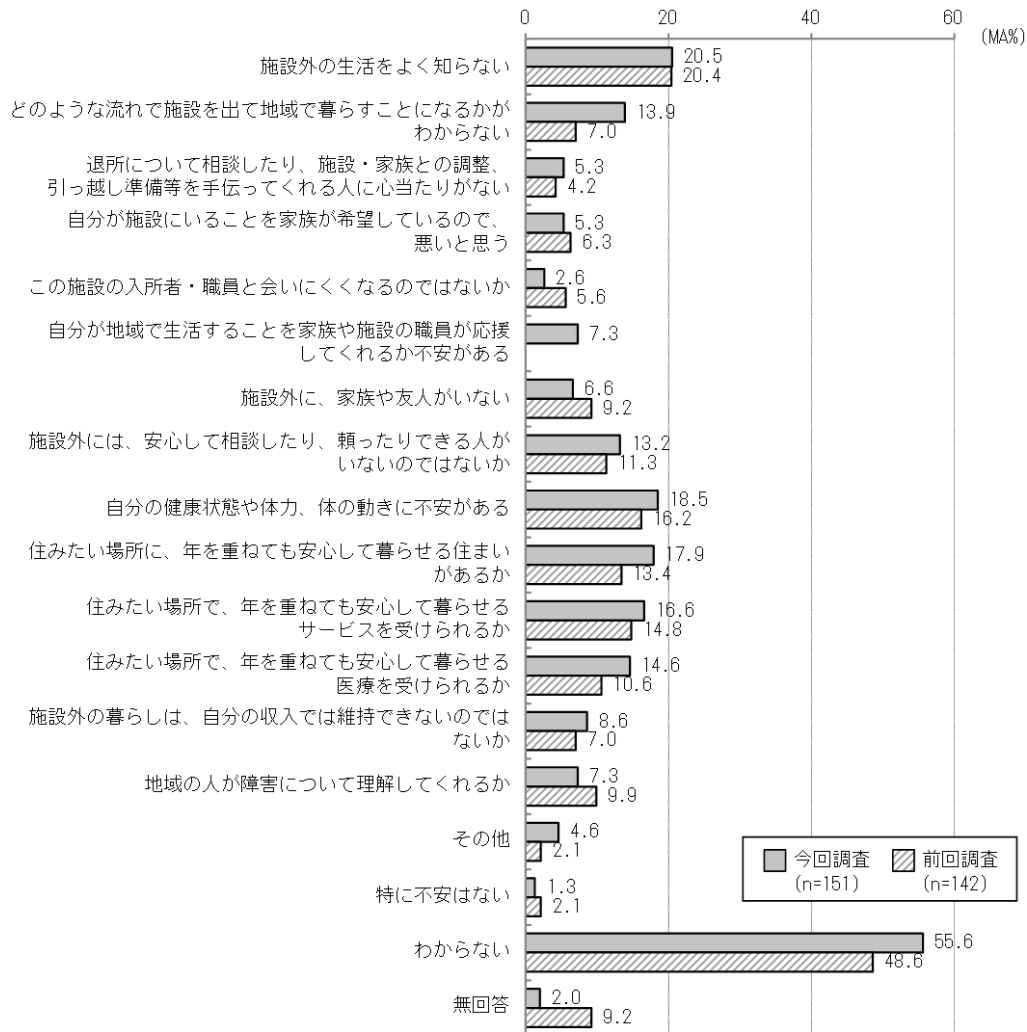
〔暮らす場所への希望（施設入所者）〕（報告書P.178）



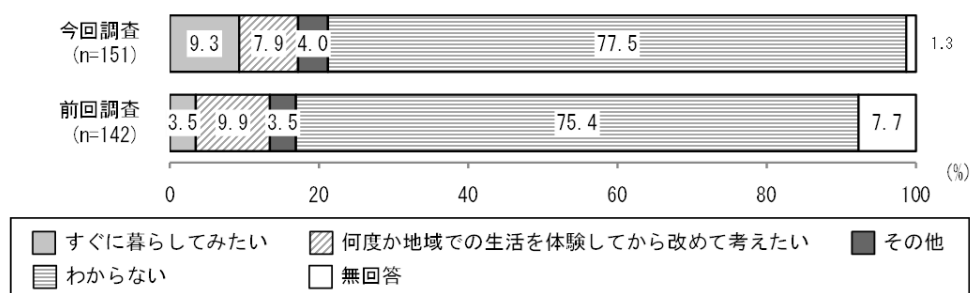
## 《地域で生活することへの不安》

- 「施設外の生活をよく知らない」が20.5%で最も多く、次いで「自分の健康状態や体力、体の動きに不安がある」が18.5%、「住みたい場所に、年を重ねても安心して暮らせる住まいがあるか」が17.9%などとなっています。前回調査と比較すると、「どのような流れで施設を出て地域で暮らすことになるかがわからない」が前回調査より6.9ポイント高くなっています。
- 地域生活への不安が解消されたら、すぐに地域で暮らしてみたいかたずねたところ、「すぐに暮らしてみたい」と答えた人は9.3%とわずかで、「わからない」が77.5%となっています。前回調査と比較すると、「すぐに暮らしてみたい」が前回調査より5.8ポイント高くなっています。

【地域での生活に不安に思うこと（施設入所者）】（報告書P.184）



【地域生活への移行等に対する意識（施設入所者）】（報告書P.187）



第 8 期豊中市障害福祉計画・  
第 4 期豊中市障害児福祉計画  
策定に向けた市民アンケート結果報告書

(案)

令和 8 年(2026年) 3 月

豊中市



# 目次

<b>I 調査の実施概要</b> .....	<b>1</b>
1 調査の目的・対象・期間 .....	1
2 回収状況 .....	1
3 調査結果をみる上での留意点 .....	1
<b>II 調査結果</b> .....	<b>4</b>
1 あなたやご家族について .....	4
(1) 回答者の属性 .....	4
(2) 所属先 .....	8
(3) コミュニケーション方法 .....	9
(4) 住まい .....	10
(5) 同居家族 .....	11
(6) 障害者施設や精神科病院で暮らした経験 .....	12
(7) 障害者手帳の種別と等級 .....	13
(8) 障害の種類 .....	15
(9) 障害支援区分の認定状況 .....	16
(10) 要介護認定状況 .....	17
(11) 通院状況 .....	18
(12) 家庭で受けている医療ケア .....	19
(13) 介助や支援の必要性 .....	20
(14) 必要な介助や支援の内容 .....	21
(15) 介助や支援を受けている時間 .....	22
(16) 主に介助・支援をしてくれる人 .....	23
(17) 介助・支援者の状況 .....	25
(18) 入所年数 .....	29
(19) 施設に入所した理由 .....	29
(20) 家族や知人等について .....	30
2 あなたの生活環境について .....	31
(1) 生活環境について .....	31
(2) ライフスタイルに応じた生活ができているか .....	34
(3) 外出の頻度 .....	38
(4) 外出時に困ること .....	42
(5) ご近所とのつきあい方 .....	43
(6) 日中の過ごし方 .....	44
(7) 休日などの過ごし方 .....	47
(8) 希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方 .....	54
(9) 卒業後の進路 .....	59
(10) 働くことに対する意識 .....	60

(11) 希望する支援	64
(12) 仕事に就くため、働き続けるのに必要な支援	67
3 情報の入手と相談について	70
(1) 情報の充足度	70
(2) 健康や医療面で不安に思ったり、困っていること	74
(3) 健康や医療に関する情報の入手や相談で困っていること	75
(4) 家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況	76
(5) 今、気にかかっていること	77
(6) 相談した際の評価	79
(7) 「別の人に相談したい」「もう相談したくない」と思った理由	83
(8) 相談したことがない理由	87
(9) 今後の相談支援体制への希望	91
(10) 家族・親戚以外への相談状況（児童）	92
(11) 家族・親戚以外への相談先（児童）	93
(12) 家族・親戚以外への相談しない理由（児童）	94
(13) 今、気にかかっていること（児童）	95
(14) 今後の相談支援体制への希望（児童）	96
4 療育・教育について	97
(1) 療育や教育に関する相談先	97
(2) 療育や教育に関する相談への希望	98
(3) 乳幼児期における母子保健や療育に関わることへの希望	99
(4) 児童通所支援内容への満足度	100
(5) 希望する療育やサービス	101
(6) 充実が必要だと思う施策やサービス	102
5 災害など緊急時の対応について	103
(1) 最寄りの避難場所の認知状況	103
(2) 災害時における一人での避難ができるか	104
(3) 避難等の援助を頼める人	105
(4) 緊急時の対応について、重要だと思うこと	106
6 障害や難病のある人の人権・理解促進について	107
(1) 障害や難病があるためにあきらめたこと	107
(2) 障害や難病のため差別を受けたこと	109
(3) 差別を受けた場面	115
(4) 受けた差別の内容	123
(5) 権利を守るために必要だと思う手助けや取り組み	128
(6) 「障害」「難病」に対する市民の理解	131
(7) 市による「障害」「難病」の理解促進のための広報への参加有無	133
(8) 情報の取得方法・媒体	134
(9) 「障害者差別解消法」の認知状況	136
(10) 手話が言語であるという認識について	142

(11) 手話が言語であるという理解の浸透状況	143
7 学校等教育現場での障害理解や合理的配慮について	144
(1) 教育現場における障害理解度	144
(2) 理解や合理的配慮の促進のために教育現場で必要だと思うこと	145
8 福祉サービスについて	146
(1) 障害福祉サービスの利用について	146
(2) 障害福祉サービスの認知状況	157
(3) 障害福祉サービスを利用しない理由	158
9 将来の暮らしについて	161
(1) 希望する10年後の暮らし	161
(2) 大人になったらしてみたいこと	166
(3) 将来の希望する生活に必要なとする支援	168
(4) 地域での生活に必要なとする支援	169
(5) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無	174
(6) 退所したい理由	175
(7) 一緒に暮らしたい人	176
(8) 暮らす場所への希望	178
(9) 住まいへの希望	179
(10) 日ごろの昼間の過ごし方への希望	180
(11) 平日の夜間や休みの日の過ごし方への希望	182
(12) 地域での生活に不安に思うこと	184
(13) 地域生活への移行等に対する意識	187
(14) 地域移行支援の利用意向	188
<b>Ⅲ 調査結果〔事業所調査〕</b>	<b>189</b>
1 事業所について	189
(1) 実施している障害福祉サービス	189
(2) 定員数、利用者数、利用者数の見込み	190
(3) 利用者からの苦情・相談	192
(4) 運営における課題	193
(5) 人材育成のための取り組み	194
(6) 職員の状況	195
(7) 職員の離職防止のために行っていること	197
(8) サービスの質の向上のための取り組み	198
(9) 利用者の権利擁護のための取り組み	199
2 障害のある人の暮らしについて	200
(1) 障害のある人にとっての豊中市の暮らしやすさ	200
(2) 障害者虐待防止に関する取り組み	200
(3) 障害のある人が豊中市で安心して暮らせるために必要な支援	201
(4) 市民が障害のある人への理解を深めるために必要なこと	202

(5) 手話が言語であるという認識について .....	203
(6) 手話が言語であるという理解の浸透状況 .....	203
3 合理的配慮について .....	204
(1) 「合理的配慮の提供」の実施有無 .....	204
4 連携・協働について .....	204
(1) 他の事業所・団体との連携状況 .....	204
(2) 行政との連携状況 .....	205
(3) 連携についての課題 .....	205
<b>IV 資料〔調査票〕 .....</b>	<b>207</b>

# I 調査の実施概要

## 1 調査の目的・対象・期間

調査目的	令和9年度（2027年度）～令和11年度（2029年度）を計画期間とする、 『第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画』策定にあたり、 市内障害児者の状況やニーズを把握するために行うもの。
調査対象	調査① 18歳以上の障害福祉サービス利用者 1,500人 調査② 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 1,000人 調査③ 18歳未満の障害のある市民 500人 調査④ 施設入所者 203人 調査⑤ 通所受給者証を持つ児童の保護者 500人 調査⑥ 事業所 459事業所
調査方法	調査①～⑤ 郵送による配布・回収（礼状兼督促1回） インターネットによる回答を併用 調査⑥ メールによるURLの配信・インターネットによる回収
調査期間	令和7年（2025年）11月26日～12月22日

## 2 回収状況

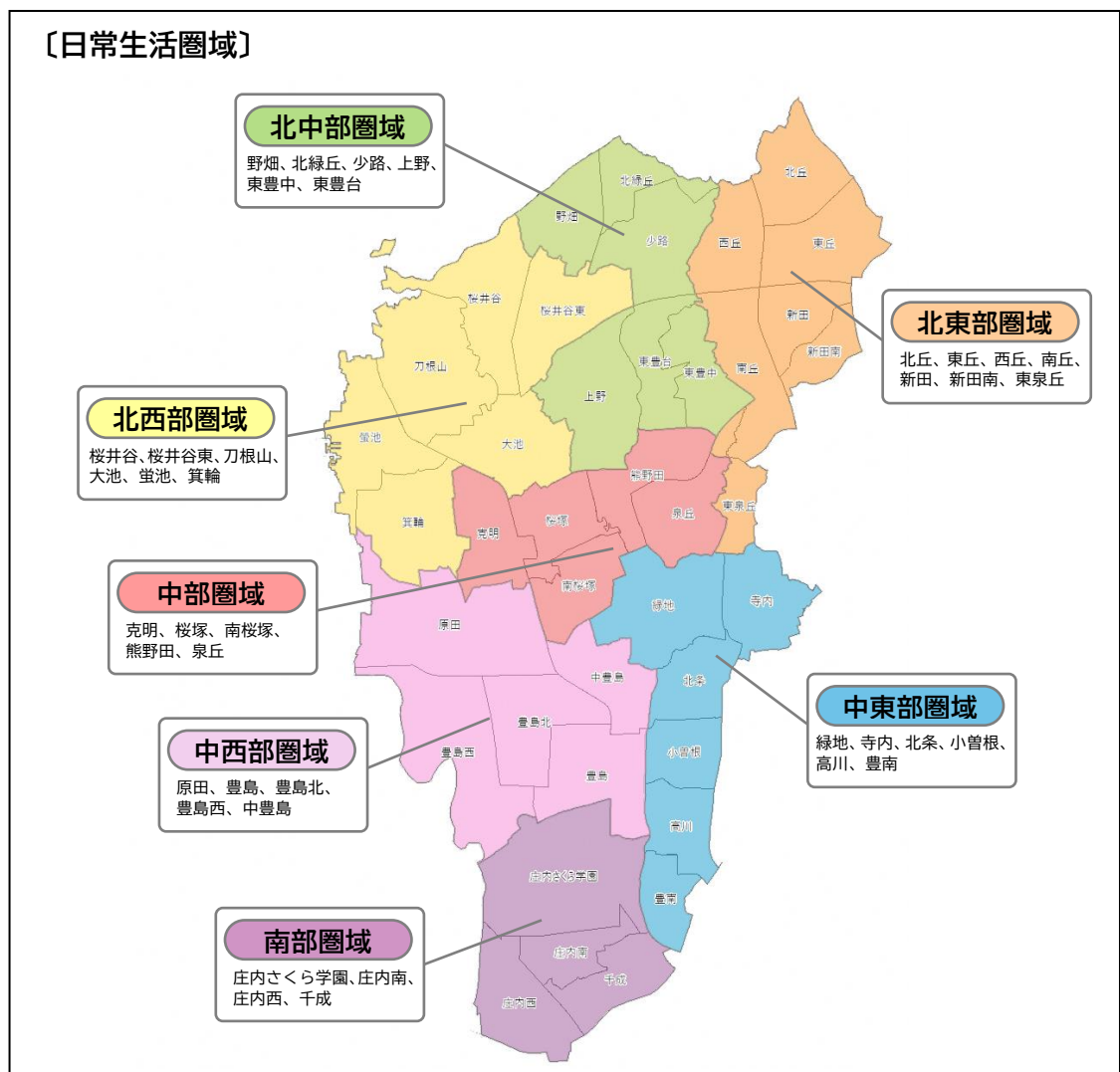
	対象数 (不着等を除く)	無効数 (ID重複、白票等)	有効回答数	有効回答率
18歳以上の障害福祉サービス利用者	1,495件	6件	576件 (内、Web回答 184件)	38.5%
18歳以上の障害福祉サービス未利用者	990件	3件	425件 (内、Web回答 122件)	42.9%
18歳未満の障害のある市民	499件	-	198件 (内、Web回答 102件)	39.7%
施設入所者	203件	-	151件 (内、Web回答 20件)	74.4%
通所受給者証を持つ児童	499件	1件	239件 (内、Web回答 173件)	47.9%
事業所	459件	3件	204サービス（84件） (全てWeb回答)	-

### 【参考：サービス種別回答数】

障害福祉サービス	122
障害児通所支援サービス	60
地域生活支援事業	22
計	204

### 3 調査結果をみる上での留意点

- 回答は、各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- 複数回答を求めた質問では、回答者数の合計は全体を超え、合計回答比率の合計も100.0%を超えます。
- 属性別のクロス集計分析におけるサンプル誤差は、50サンプルで最大13.9%、30サンプルで最大17.9%発生します。この誤差を考慮して、30サンプル未満については参考値として扱います。
- グラフにおける「n」（number of case）は、設問に対する有効回答数を意味します。
- 居住地別のクロス集計は「日常生活圏域」単位で比較を行っています。  
「日常生活圏域」とは、一人ひとりが安心して生活を継続できるよう住み慣れた身近な地域のことで、本市においては、7つの日常生活圏域を設定しています。日常生活圏域の設定にあたっては、小学校区を単位とした活動が活発であるため、小学校区を基準単位とし、地域の特性や民生・児童委員の地域割り等を考慮して設定しています。



- 本調査における「障害」とは、障害者基本法及び障害者総合支援法の定義に従い、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、その他の心身の機能の障害（政令で定める難病等による障害を含む）をさすものとし、「障害者」（障害のある人）とは、障害及び社会的障壁により継続的に日常生活、社会生活に相当な制限を受ける状態にある人をさすものとし、ます。
- 行政施策上の対象としての「難病」とは、「難病の患者に対する医療等に関する法律」により、①発病の機構が明らかでなく、②治療方法が確立していない、③希少な疾病であつて、④長期の療養を必要とするものと定義づけられています。

## II 調査結果

### 1 あなたやご家族について

#### (1) 回答者の属性

##### ① 回答者

##### 障害のある市民（調査①②③④⑤）

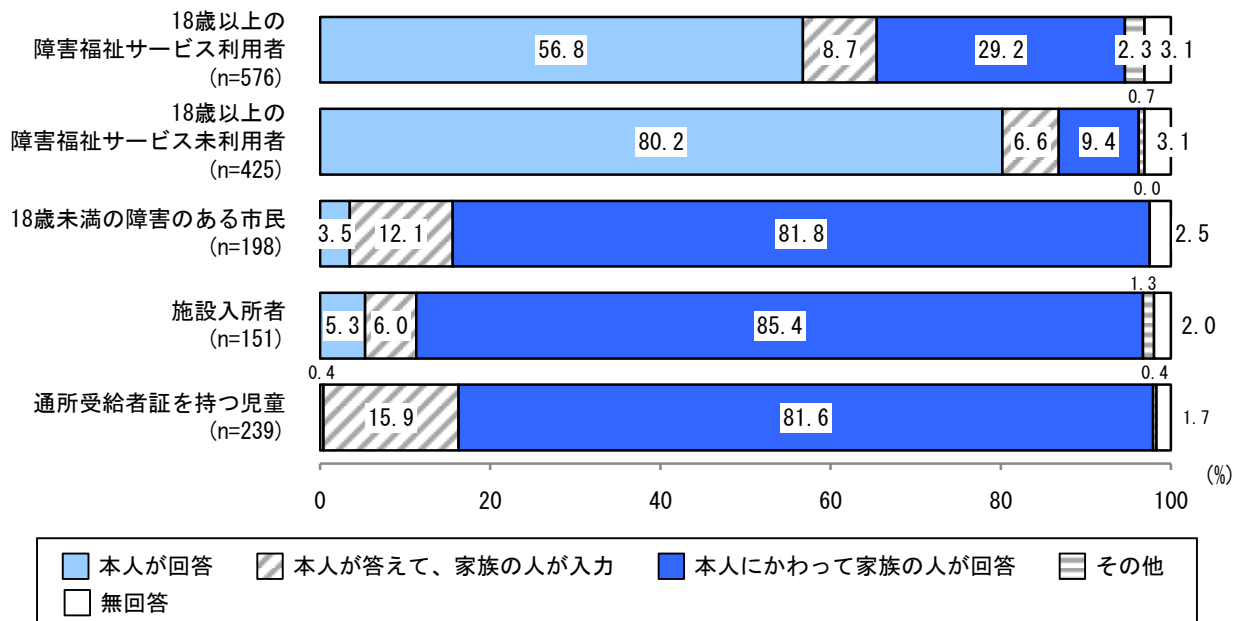
調査の回答者は、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「本人が回答」が56.8%で最も多く、次いで「本人にかわって家族の人が回答」が29.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「本人が回答」が80.2%で最も多く、次いで「本人にかわって家族の人が回答」が9.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「本人にかわって家族の人が回答」が81.8%で最も多く、次いで「本人が答えて、家族の人が入力」が12.1%となっています。

施設入所者では、「本人にかわって家族の人が回答」が85.4%で最も多く、次いで「本人が答えて、家族の人が入力」が6.0%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「本人にかわって家族の人が回答」が81.6%で最も多く、次いで「本人が答えて、家族の人が入力」が15.9%となっています。



## ② 性別

### 障害のある市民（調査①②③④⑤）

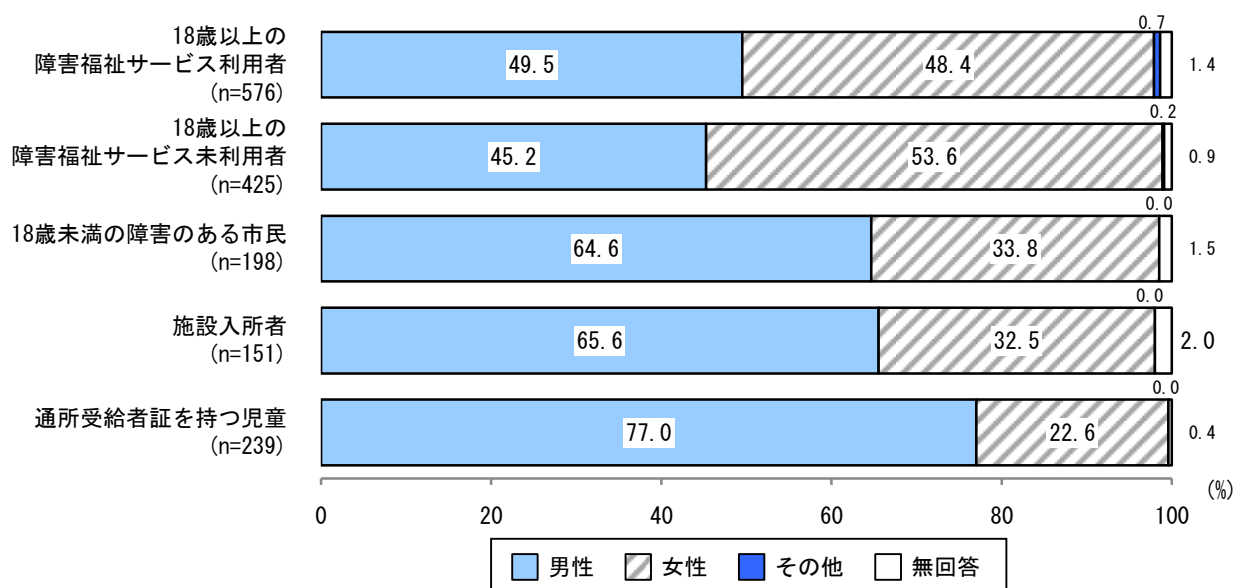
回答者の性別は、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「男性」が49.5%、「女性」が48.4%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「男性」が45.2%、「女性」が53.6%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「男性」が64.6%、「女性」が33.8%となっています。

施設入所者では、「男性」が65.6%、「女性」が32.5%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「男性」が77.0%、「女性」が22.6%となっています。



### ③ 居住地

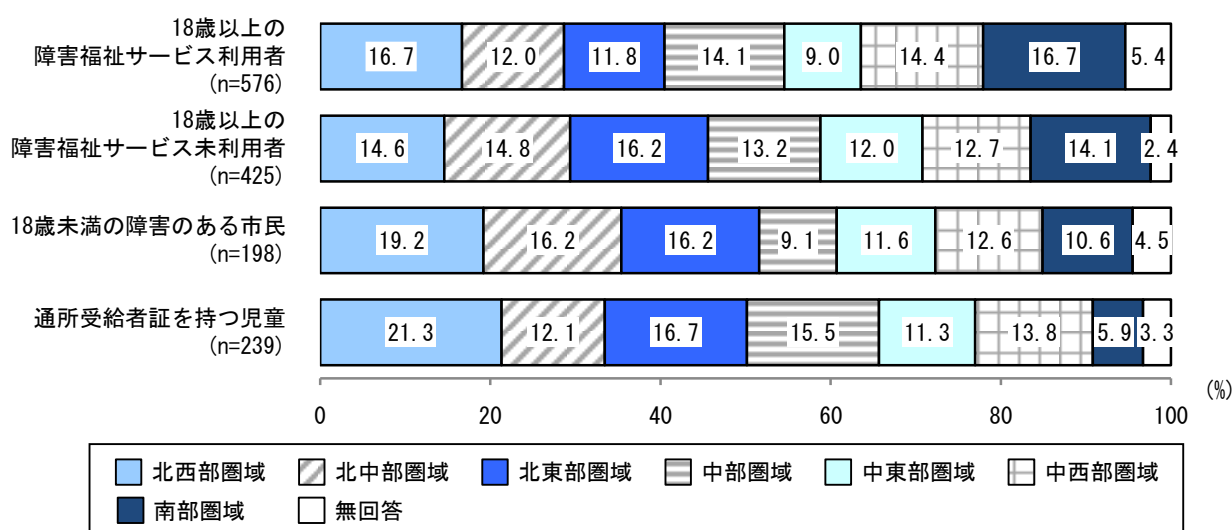
#### 障害のある市民（調査①②③⑤）

回答者の居住地は、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「北西部圏域」と「南部圏域」がそれぞれ16.7%で最も多く、次いで「中西部圏域」が14.4%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「北東部圏域」が16.2%で最も多く、次いで「北中部圏域」が14.8%、「北西部圏域」が14.6%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「北西部圏域」が19.2%で最も多く、次いで「北中部圏域」と「北東部圏域」がそれぞれ16.2%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「北西部圏域」が21.3%で最も多く、次いで「北東部圏域」が16.7%、「中部圏域」が15.5%となっています。



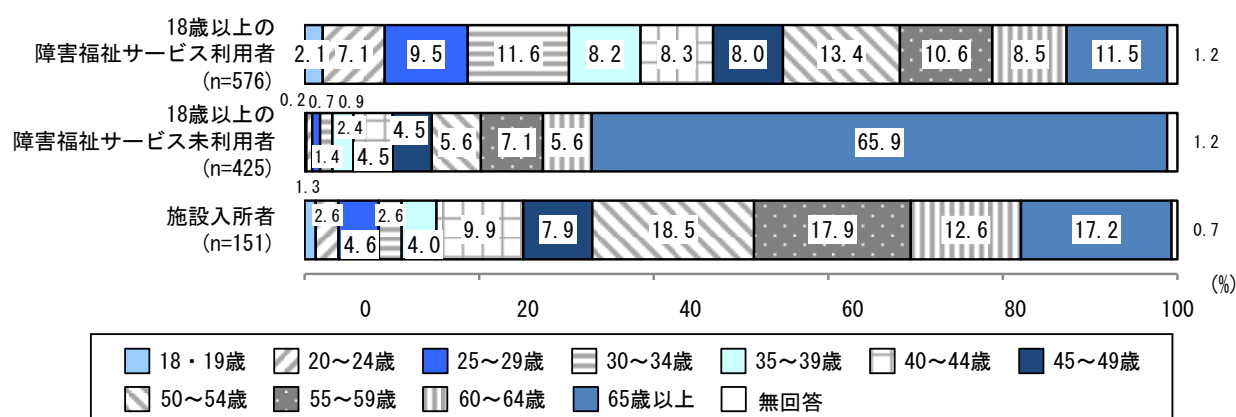
#### ④ 年齢

##### 障害のある市民（調査①②④）

回答者の年齢は、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「50～54歳」が13.4%で最も多く、次いで「30～34歳」が11.6%、「65歳以上」が11.5%となっています。

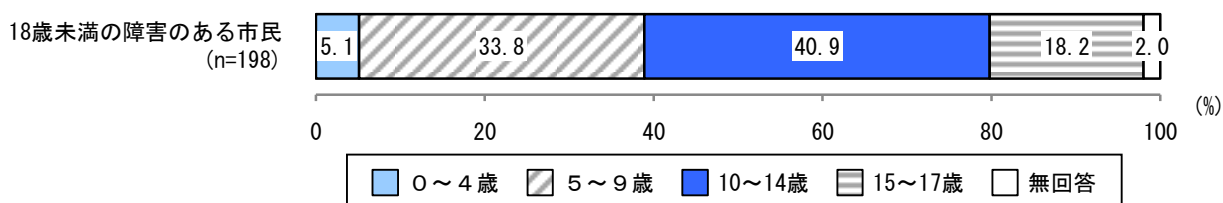
18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「65歳以上」が65.9%で最も多く、次いで「55～59歳」が7.1%、「50～54歳」と「60～64歳」がそれぞれ5.6%となっています。

施設入所者では、「50～54歳」が18.5%で最も多く、次いで「55～59歳」が17.9%、「65歳以上」が17.2%となっています。



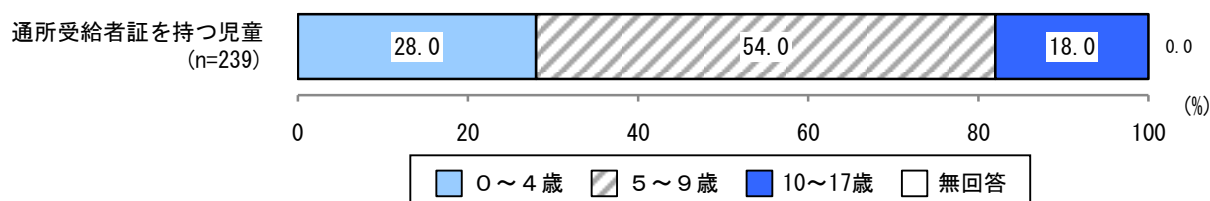
##### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、「10～14歳」が40.9%で最も多く、次いで「5～9歳」が33.8%、「15～17歳」が18.2%となっています。



##### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「5～9歳」が54.0%で最も多く、次いで「0～4歳」が28.0%となっています。



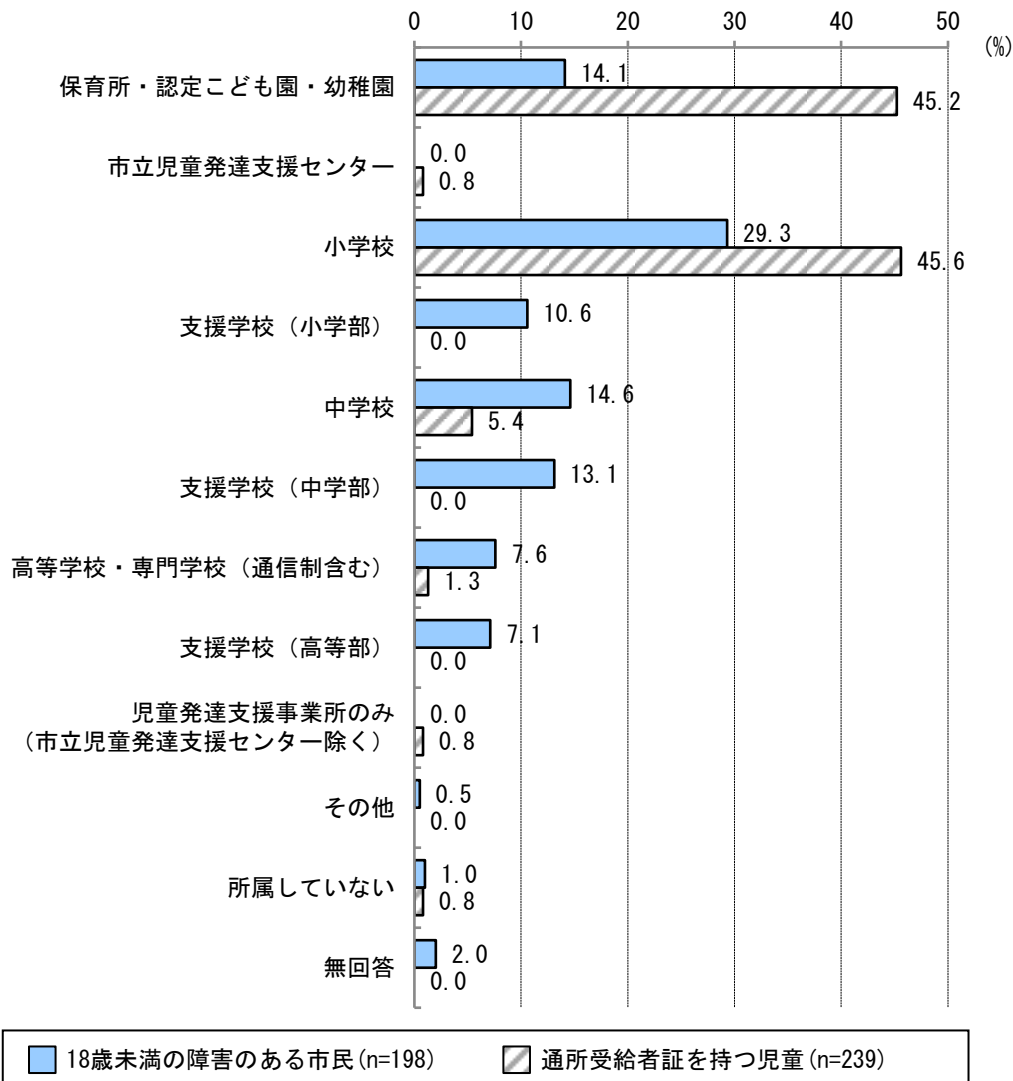
## (2) 所属先

問 あなたの現在の所属先は。(どれか1つに○)

### 18歳未満の障害のある市民、通所受給者証を持つ児童 (調査③⑤)

所属先は、18歳未満の障害のある市民では、「小学校」が29.3%で最も多く、次いで「中学校」が14.6%、「保育所・認定こども園・幼稚園」が14.1%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「小学校」が45.6%で最も多く、次いで「保育所・認定こども園・幼稚園」が45.2%、「中学校」が5.4%となっています。



### (3) コミュニケーション方法

問 あなたはふだん、どのような方法でコミュニケーションをとっていますか。(あてはまるものすべてに○)

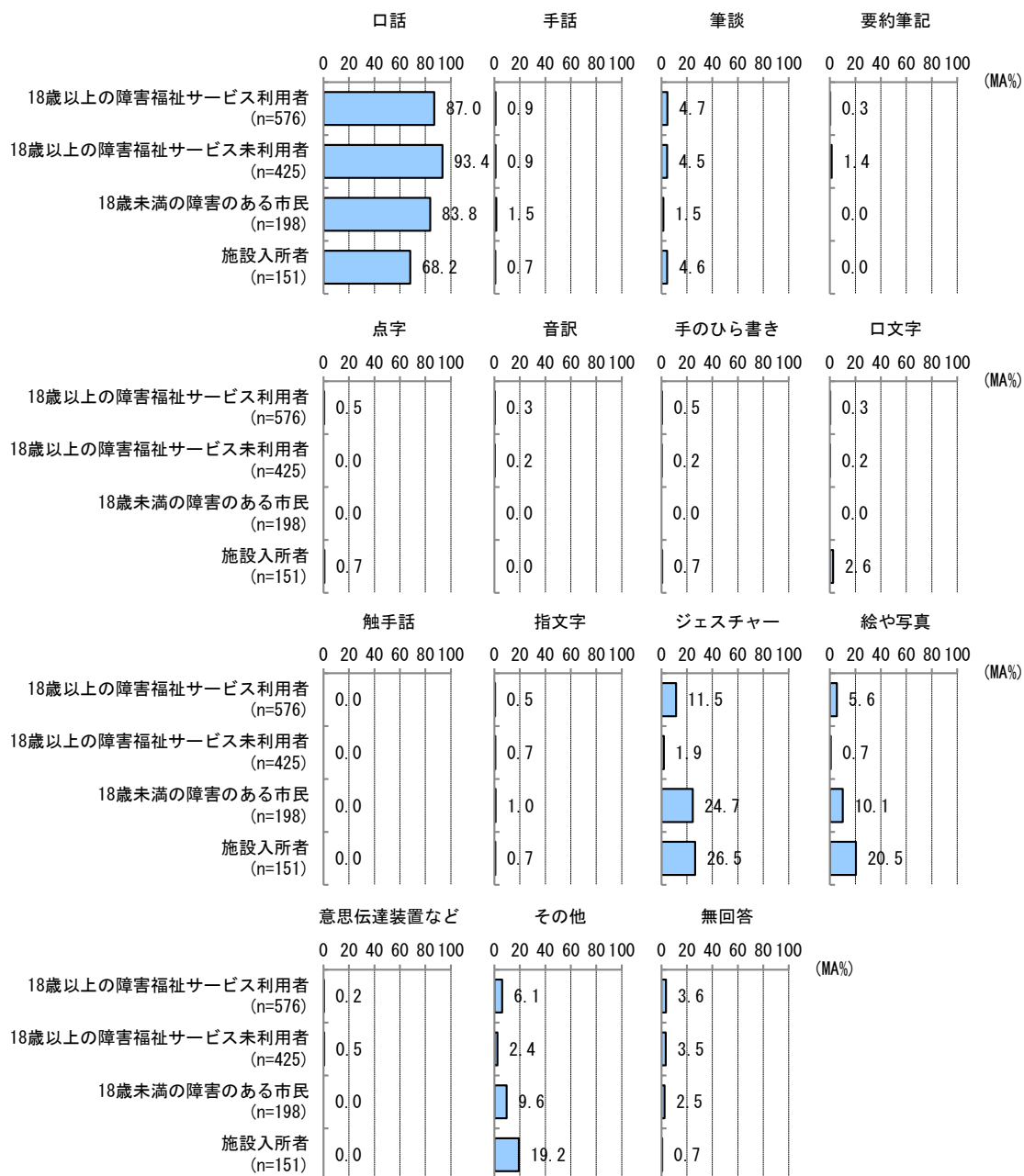
障害のある市民(調査①②③④)

コミュニケーション方法については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「口話」が87.0%で最も多く、次いで「ジェスチャー」が11.5%、「絵や写真」が5.6%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「口話」が93.4%で最も多く、次いで「筆談」が4.5%、「ジェスチャー」が1.9%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「口話」が83.8%で最も多く、次いで「ジェスチャー」が24.7%、「絵や写真」が10.1%となっています。

施設入所者では、「口話」が68.2%で最も多く、次いで「ジェスチャー」が26.5%、「絵や写真」が20.5%となっています。



#### (4) 住まい

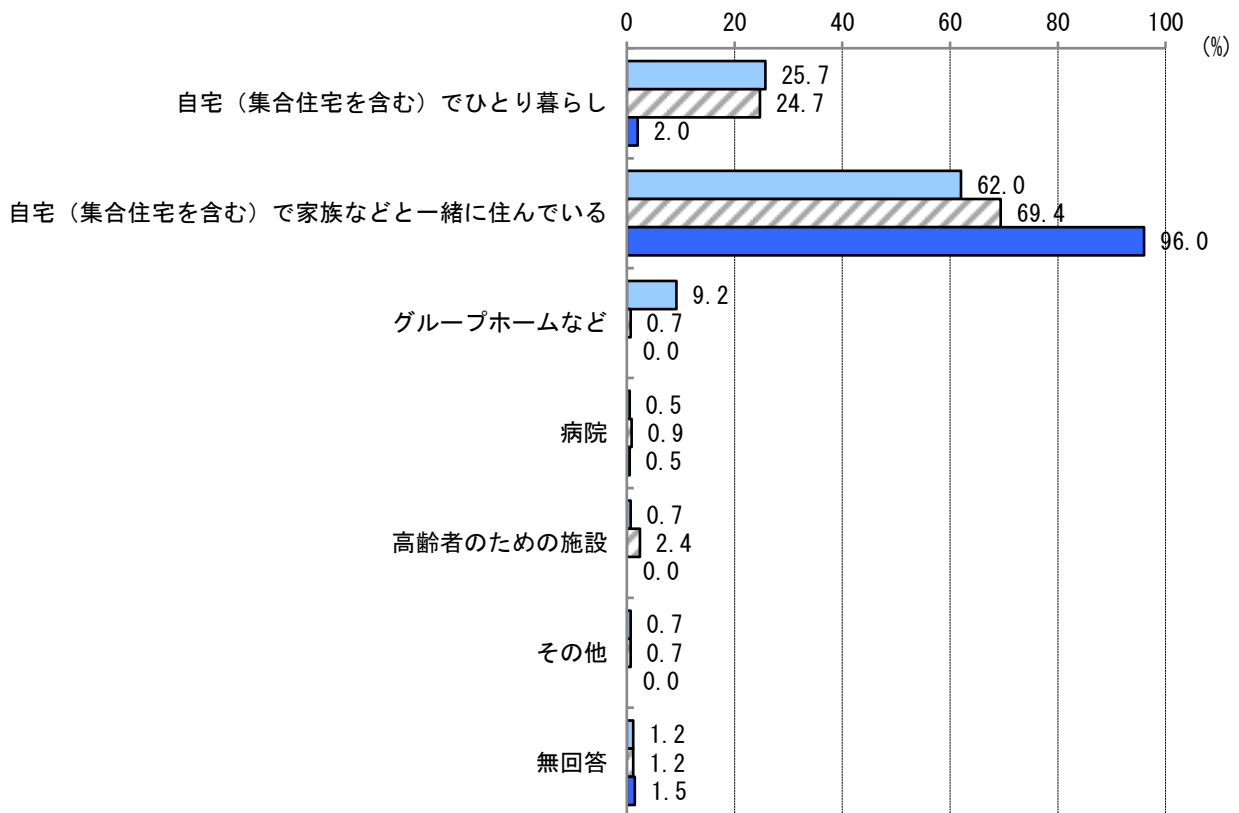
問 あなたは、現在どのようなところで暮らしていますか。(どれか1つに○)

##### 障害のある市民 (調査①②③)

現在の住まいについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「自宅（集合住宅を含む）で家族などと一緒に住んでいる」が62.0%で最も多く、次いで「自宅（集合住宅を含む）でひとり暮らし」が25.7%、「グループホームなど」が9.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「自宅（集合住宅を含む）で家族などと一緒に住んでいる」が69.4%で最も多く、次いで「自宅（集合住宅を含む）でひとり暮らし」が24.7%、「高齢者のための施設」が2.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「自宅（集合住宅を含む）で家族などと一緒に住んでいる」が96.0%で最も多く、次いで「自宅（集合住宅を含む）でひとり暮らし」が2.0%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者 (n=576)  
■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (n=425)  
■ 18歳未満の障害のある市民 (n=198)

## (5) 同居家族

問 だれと一緒に住んでいますか。(あてはまる人すべてに○)

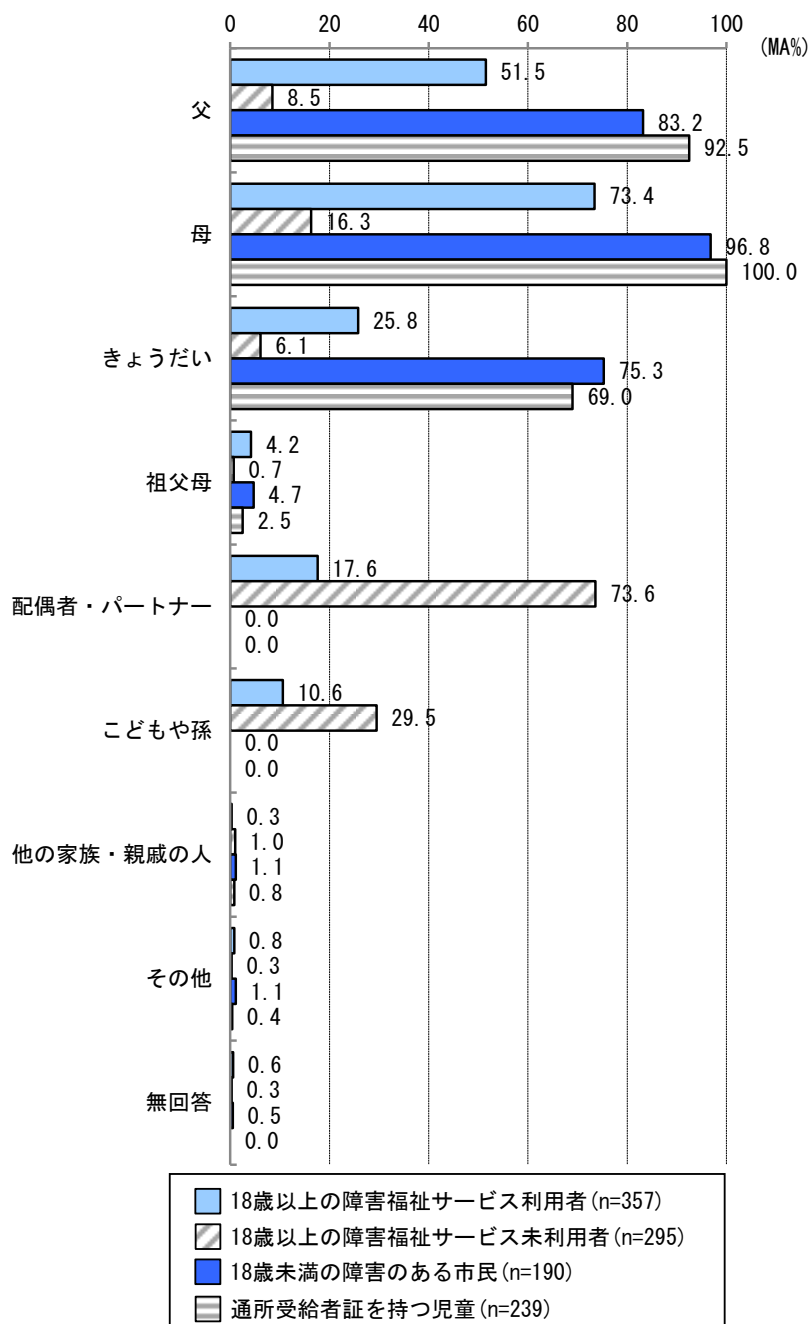
### 障害のある市民 (調査①②③⑤)

同居家族については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「母」が73.4%で最も多く、次いで「父」が51.5%、「きょうだい」が25.8%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「配偶者・パートナー」が73.6%で最も多く、次いで「子どもや孫」が29.5%、「母」が16.3%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「母」が96.8%で最も多く、次いで「父」が83.2%、「きょうだい」が75.3%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「母」が100.0%で最も多く、次いで「父」が92.5%、「きょうだい」が69.0%となっています。



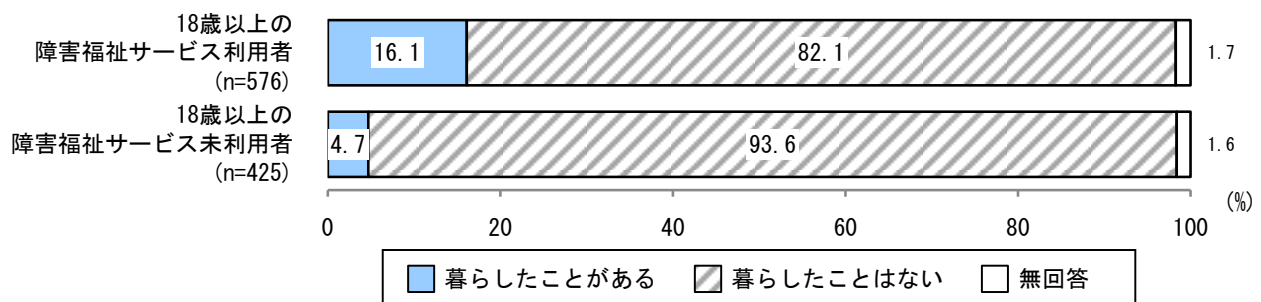
## (6) 障害者施設や精神科病院で暮らした経験

問 あなたは、これまでに1年以上、障害のある人のための施設や精神科病院で暮らしたことがありますか。(どちらか1つに○)

### 障害のある市民 (調査①②)

障害者施設や精神科病院で1年以上暮らした経験については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「暮らしたことがある」が16.1%、「暮らしたことはない」が82.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「暮らしたことがある」が4.7%、「暮らしたことはない」が93.6%となっています。



## (7) 障害者手帳の種別と等級

問 障害者手帳を持っている人は手帳の等級を教えてください。また、特定疾患の医療費助成、発達障害の診断などについてあてはまる人は番号に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

### 障害のある市民（調査①②③④）

#### ① 手帳の種別と等級

手帳の種別と等級については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「障害福祉サービスまたは地域生活支援事業などの受給者証を持っている」が34.0%で最も多く、次いで「療育手帳A」が25.7%、「精神障害者保健福祉手帳2級」が23.6%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「身体障害者手帳4級」が19.8%で最も多く、次いで「身体障害者手帳1級」が18.1%、「難病の認定を受けたり、特定疾患の医療費助成を受けている」が16.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「療育手帳B2」が36.9%で最も多く、次いで「医師から発達障害と診断されたり、その疑いがあるといわれたことがある」が27.8%、「療育手帳A」が26.3%となっています。

施設入所者では、「療育手帳A」が76.8%で最も多く、次いで「身体障害者手帳1級」が26.5%、「身体障害者手帳2級」が6.6%となっています。

(単位：MA%)

	サンプル数	身体障害者手帳1級	身体障害者手帳2級	身体障害者手帳3級	身体障害者手帳4級	身体障害者手帳5級	身体障害者手帳6級	療育手帳A	療育手帳B1	療育手帳B2	精神障害者保健福祉手帳1級	精神障害者保健福祉手帳2級	精神障害者保健福祉手帳3級	難病の認定を受けている、特定疾患の医療費助成を受けている	医師から発達障害と診断されたり、その疑いがあるといわれたことがある	医師から高次脳機能障害として診断されたことがある	障害福祉サービスまたは地域生活支援事業などの受給者証を持っている	無回答
18歳以上の障害福祉サービス利用者	576	14.8	7.3	5.0	2.1	1.4	0.9	25.7	7.1	7.1	1.0	23.6	13.5	4.7	14.6	2.6	34.0	4.5
18歳以上の障害福祉サービス未利用者	425	18.1	10.4	10.8	19.8	4.7	1.6	0.2	0.7	2.4	0.5	9.4	4.5	16.0	2.4	0.5	1.9	6.4
18歳未満の障害のある市民	198	14.1	5.1	2.5	1.5	-	0.5	26.3	18.2	36.9	-	0.5	7.6	8.1	27.8	-	22.2	2.0
施設入所者	151	26.5	6.6	2.6	4.6	0.7	0.7	76.8	4.0	1.3	1.3	3.3	1.3	-	4.0	0.7		0.7

身体障害

知的障害

精神障害

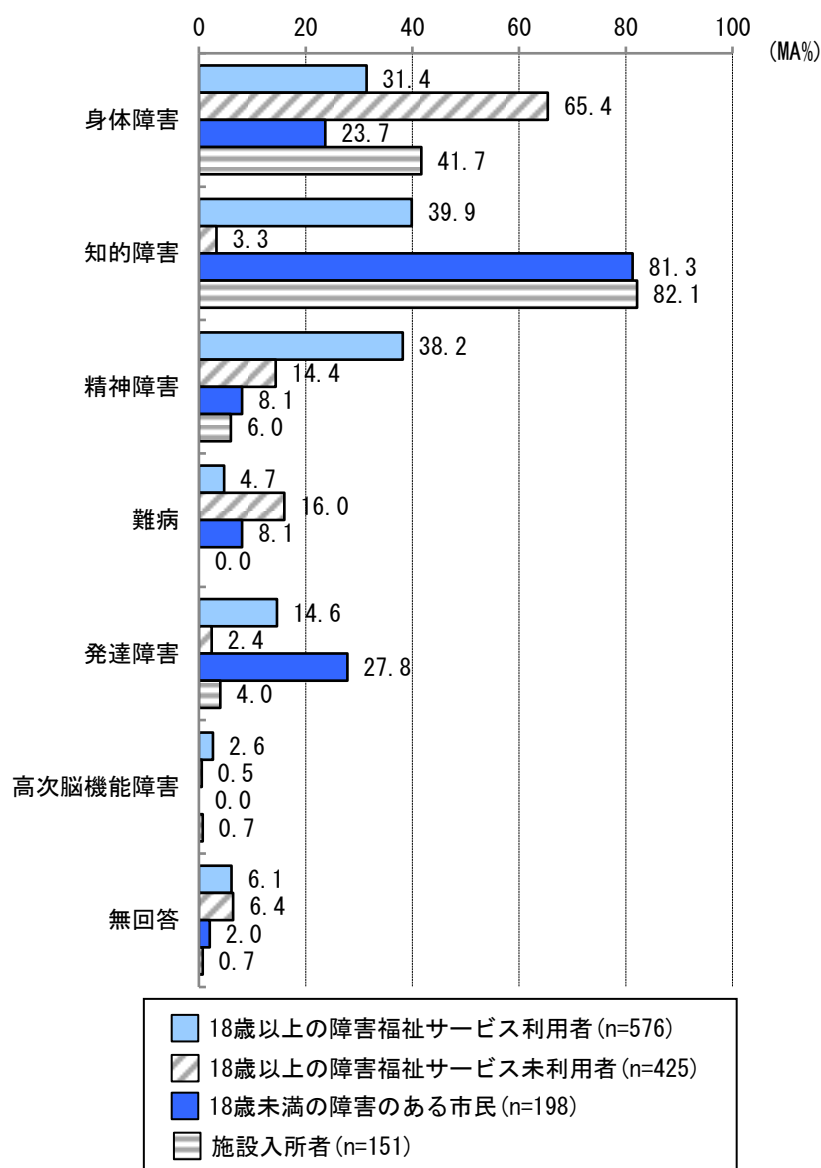
## ② 障害の種別

障害の種別でみると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「知的障害」が39.9%で最も多く、次いで「精神障害」が38.2%、「身体障害」が31.4%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「身体障害」が65.4%で最も多く、次いで「難病」が16.0%、「精神障害」が14.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「知的障害」が81.3%で最も多く、次いで「発達障害」が27.8%、「身体障害」が23.7%となっています。

施設入所者では、「知的障害」が82.1%で最も多く、次いで「身体障害」が41.7%、「精神障害」が6.0%となっています。



## (8) 障害の種類

問 「身体障害者手帳」をお持ちの人は、障害の種類をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

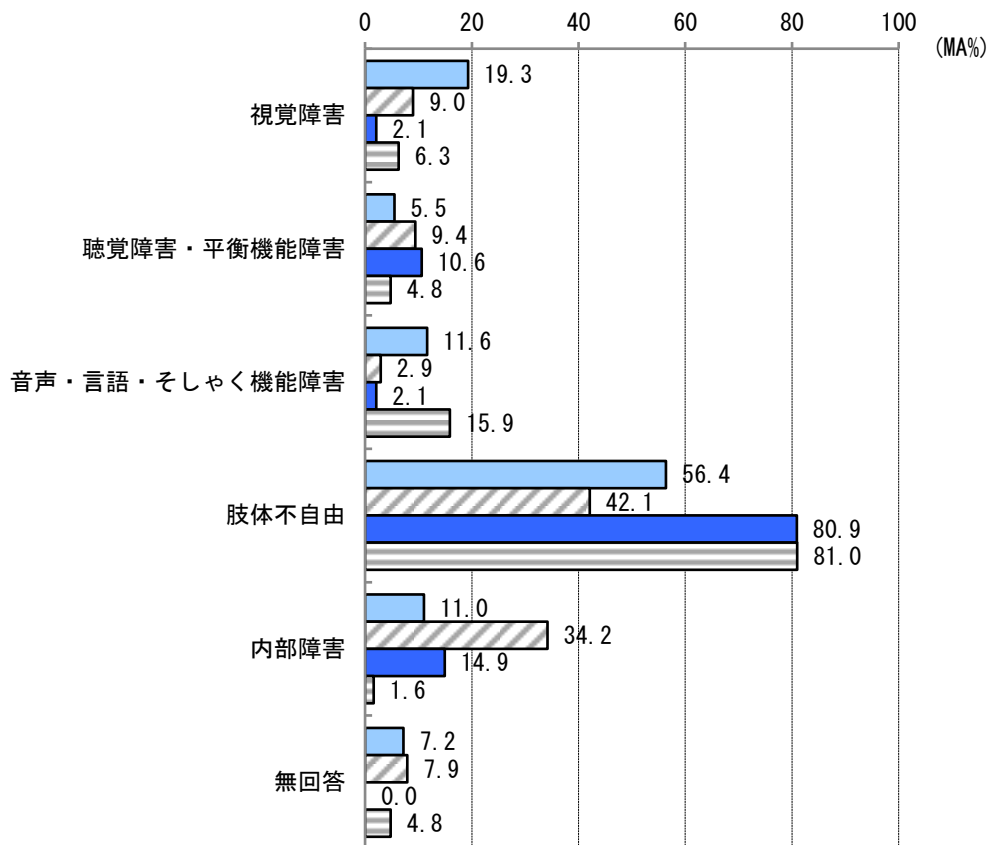
### 障害のある市民 (調査①②③④)

身体障害の種類については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「肢体不自由」が56.4%で最も多く、次いで「視覚障害」が19.3%、「音声・言語・そしゃく機能障害」が11.6%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「肢体不自由」が42.1%で最も多く、次いで「内部障害」が34.2%、「聴覚障害・平衡機能障害」が9.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「肢体不自由」が80.9%で最も多く、次いで「内部障害」が14.9%、「聴覚障害・平衡機能障害」が10.6%となっています。

施設入所者では、「肢体不自由」が81.0%で最も多く、次いで「音声・言語・そしゃく機能障害」が15.9%、「視覚障害」が6.3%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者 (n=181)   
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (n=278)  
■ 18歳未満の障害のある市民 (n=47)   
 ■ 施設入所者 (n=63)

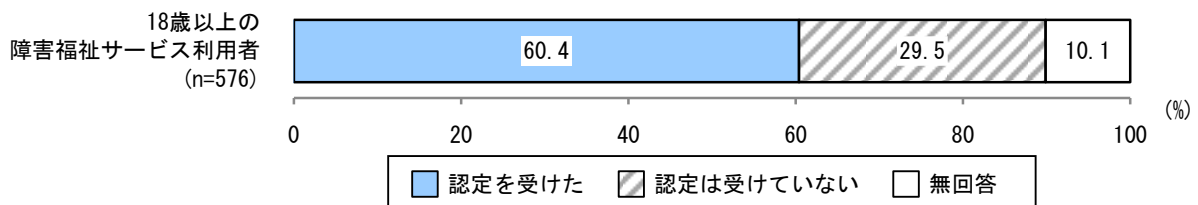
## (9) 障害支援区分の認定状況

問 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。(どちらか1つに○)  
また、認定を受けた人は区分をお答えください。(あてはまるものに○)

### ① 障害支援区分の認定状況

#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者 (調査①)

障害支援区分の認定状況については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では「認定を受けた」が60.4%、「認定は受けていない」が29.5%となっています。

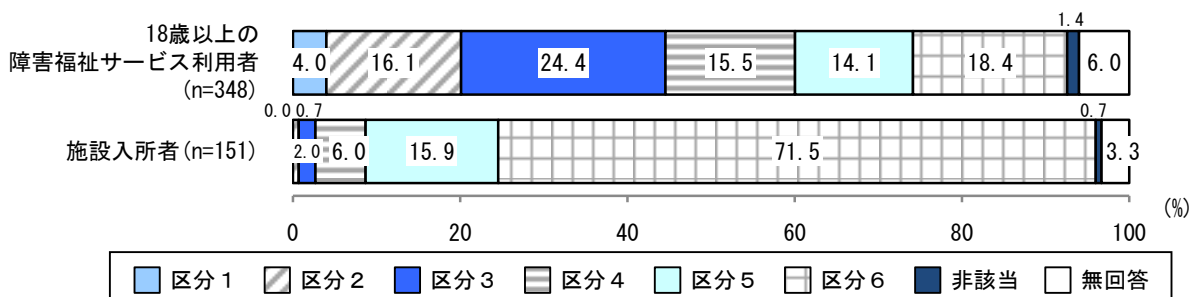


### ② 障害支援区分

#### 障害のある市民 (①④)

障害支援区分については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「区分3」が24.4%で最も多く、次いで「区分6」が18.4%、「区分2」が16.1%となっています。

施設入所者では、「区分6」が71.5%で最も多く、次いで「区分5」が15.9%、「区分4」が6.0%となっています。



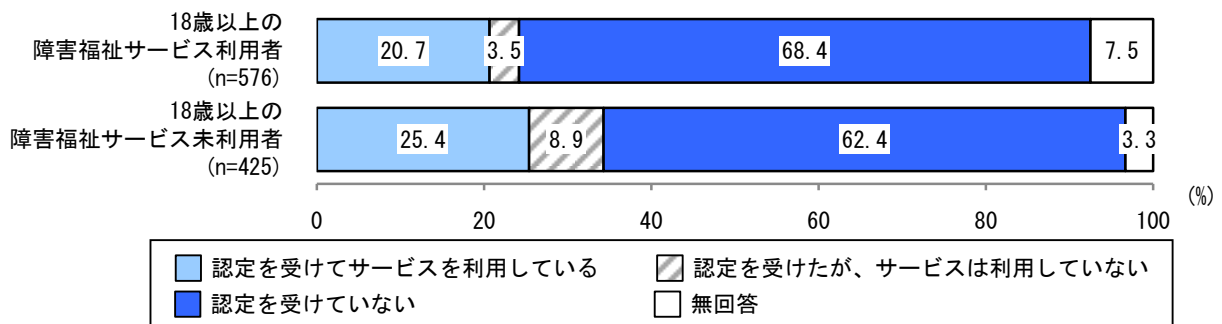
## (10) 要介護認定状況

問 あなたは、介護保険の要介護（要支援）認定を受けていますか。認定を受けた人は介護保険のサービスを利用していますか。（どれか1つに○）

### 障害のある市民（①②）

介護保険の要介護（要支援）認定を受けているかについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「認定を受けていない」が68.4%で最も多く、次いで「認定を受けてサービスを利用している」が20.7%、「認定を受けたが、サービスは利用していない」が3.5%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「認定を受けていない」が62.4%で最も多く、次いで「認定を受けてサービスを利用している」が25.4%、「認定を受けたが、サービスは利用していない」が8.9%となっています。



## (11) 通院状況

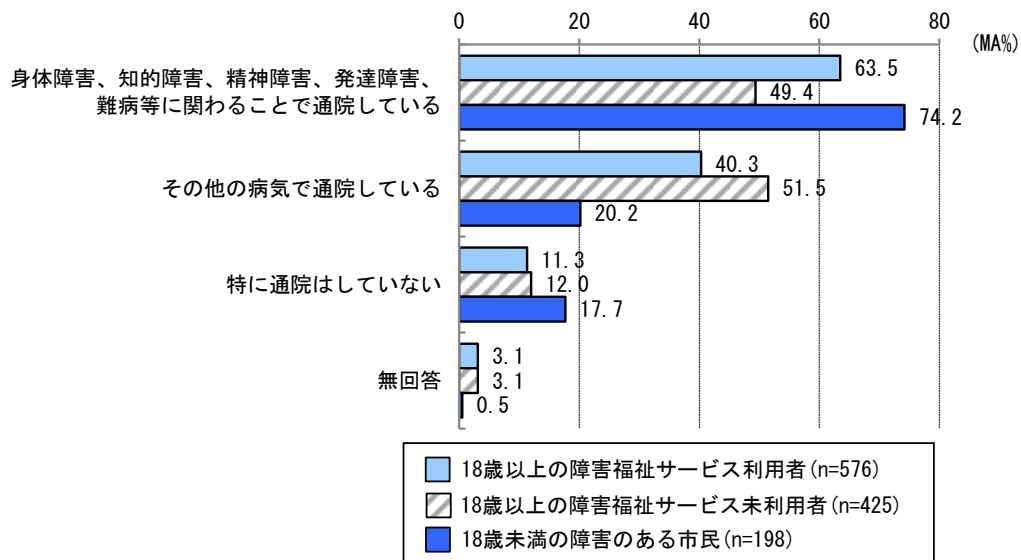
問 あなたは現在、医療機関（病院・診療所）に通院していますか。  
（あてはまるものすべてに○）

### 障害のある市民（調査①②③）

通院状況については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病等に関わることで通院している」が63.5%で最も多く、次いで「その他の病気で通院している」が40.3%、「特に通院はしていない」が11.3%となっています。

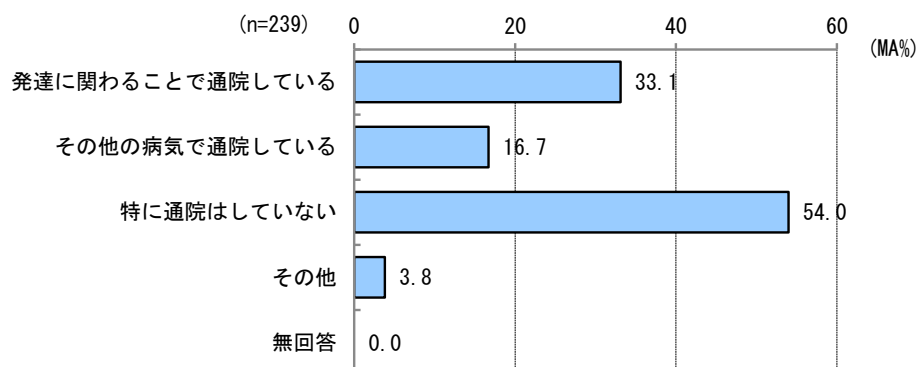
18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「その他の病気で通院している」が51.5%で最も多く、次いで「身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病等に関わることで通院している」が49.4%、「特に通院はしていない」が12.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病等に関わることで通院している」が74.2%で最も多く、次いで「その他の病気で通院している」が20.2%、「特に通院はしていない」が17.7%となっています。



### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「特に通院はしていない」が54.0%で最も多く、次いで「発達に関わることで通院している」が33.1%、「その他の病気で通院している」が16.7%となっています。



## (12) 家庭で受けている医療ケア

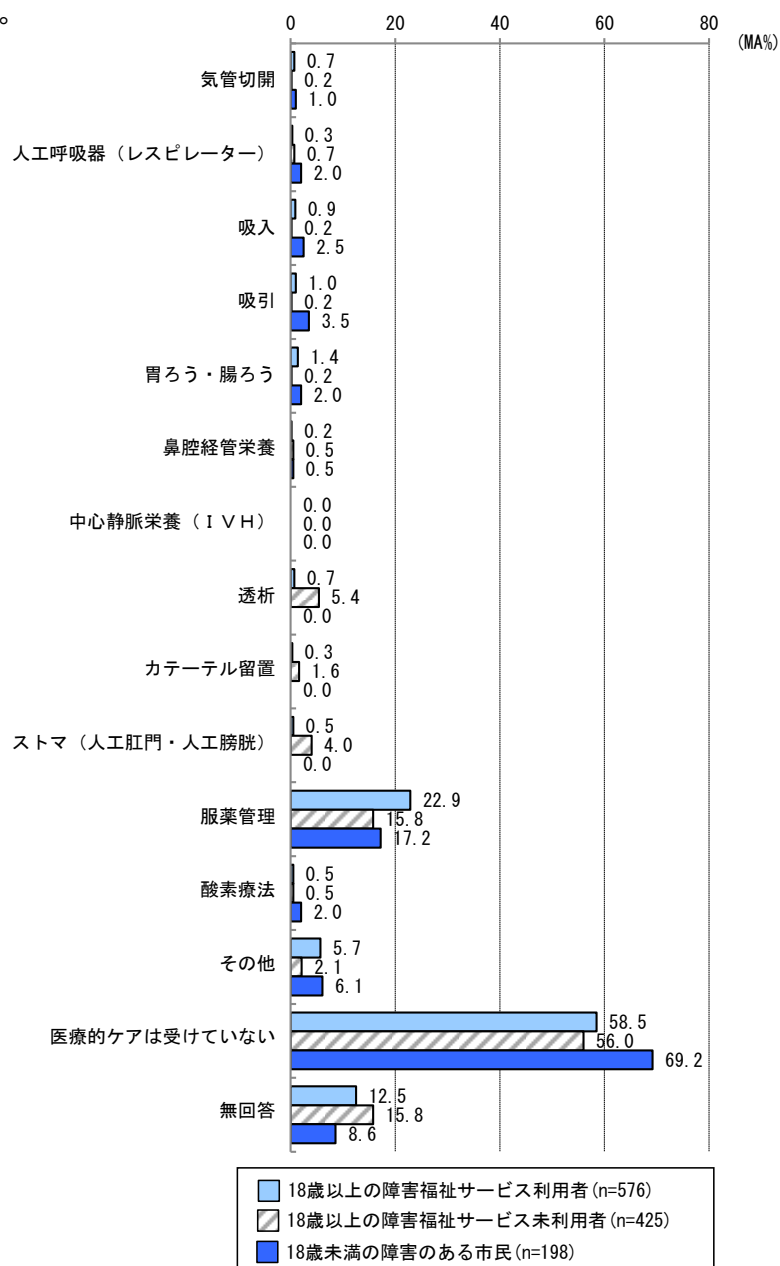
問 あなたは、家庭でどのような医療的ケアを受けていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

### 障害のある市民（調査①②③）

家庭で受けている医療ケアについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「医療的ケアは受けていない」が58.5%で最も多いですが、受けている人では「服薬管理」が22.9%で最も多く、次いで「胃ろう・腸ろう」が1.4%、「吸引」が1.0%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「医療的ケアは受けていない」が56.0%で最も多いですが、受けている人では「服薬管理」が15.8%で最も多く、次いで「透析」が5.4%、「ストマ（人工肛門・人工膀胱）」が4.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「医療的ケアは受けていない」が69.2%で最も多いですが、受けている人では「服薬管理」が17.2%で最も多く、次いで「吸引」が3.5%、「吸入」が2.5%となっています。



### (13) 介助や支援の必要性

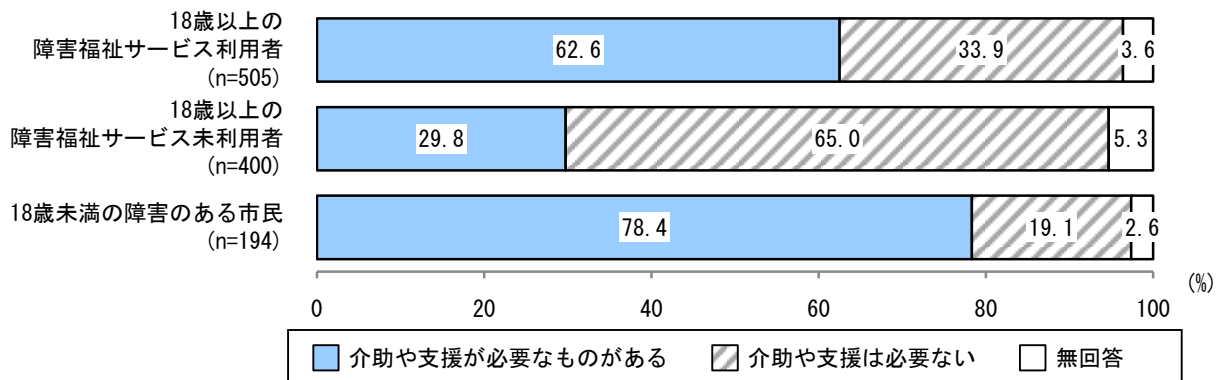
問 自宅にお住まいの方のみにお聞きします。あなたは、家庭で生活するなかで、何らかの介助や支援（指示、声かけ、促がしなども含みます）が必要ですか。（どちらか1つに○）  
 ※補装具や自助具などを使用している人は、それらを使用した前提で教えてください。

#### 障害のある市民（調査①②③）

介助や支援の必要性については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「介助や支援が必要なものがある」が62.6%、「介助や支援は必要ない」が33.9%となっています。

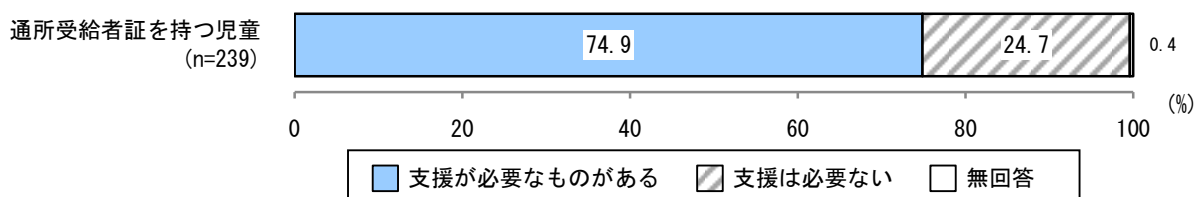
18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「介助や支援が必要なものがある」が29.8%、「介助や支援は必要ない」が65.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「介助や支援が必要なものがある」が78.4%、「介助や支援は必要ない」が19.1%となっています。



#### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「支援が必要なものがある」が74.9%、「支援は必要ない」が24.7%となっています。



## (14) 必要な介助や支援の内容

\* 「介助や支援が必要なものがある」と回答された方

問 どのようなときに介助や支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

障害のある市民 (調査①②③④⑤)

必要な介助や支援が必要なものがあると回答した人に、その内容についてたずねました。

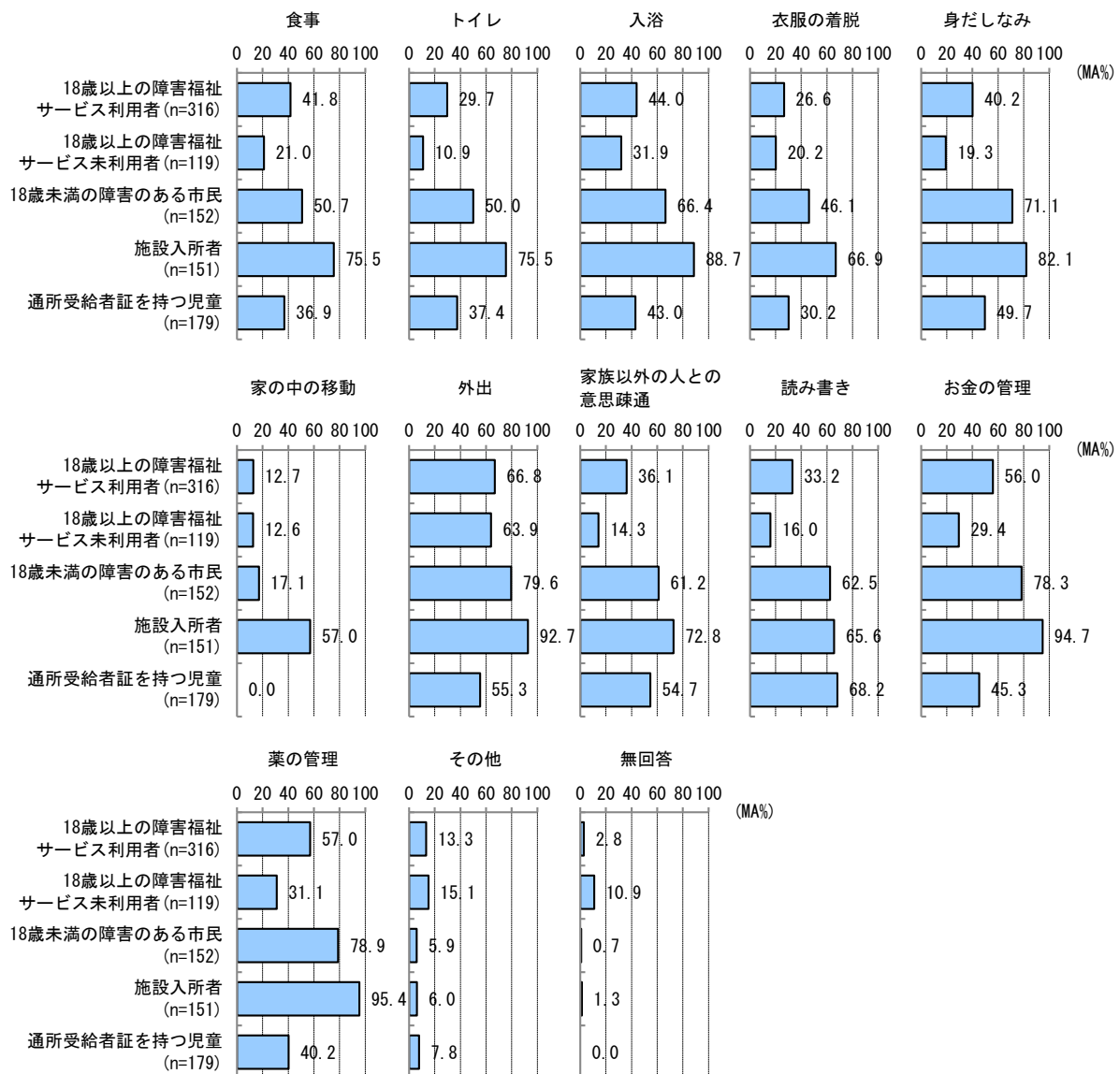
18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「外出」が66.8%で最も多く、次いで「薬の管理」が57.0%、「お金の管理」が56.0%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「外出」が63.9%で最も多く、次いで「入浴」が31.9%、「薬の管理」が31.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「外出」が79.6%で最も多く、次いで「薬の管理」が78.9%、「お金の管理」が78.3%となっています。

施設入所者では、「薬の管理」が95.4%で最も多く、次いで「お金の管理」が94.7%、「外出」が92.7%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「読み書き」が68.2%で最も多く、次いで「外出」が55.3%、「家族以外の人との意思疎通」が54.7%となっています。



## (15) 介助や支援を受けている時間

問 介助や支援を受けている時間は、ふだんの1日で合計して何時間ぐらいですか。サービスを利用している時間を除いてお答えください。(どれか1つに○)

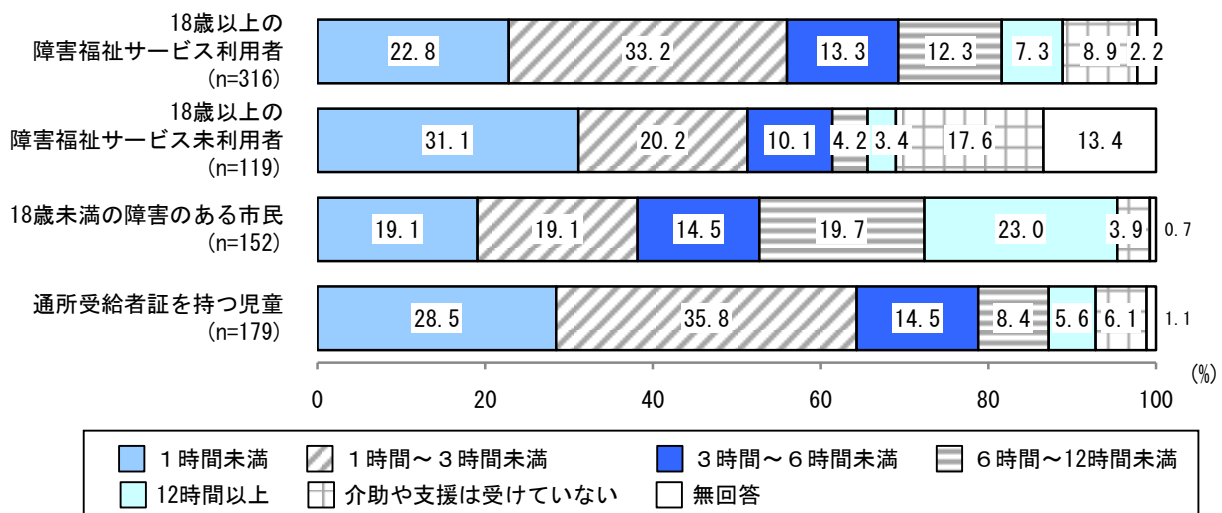
### 障害のある市民 (調査①②③⑤)

介助や支援を受けている時間については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「1時間～3時間未満」が33.2%で最も多く、次いで「1時間未満」が22.8%、「3時間～6時間未満」が13.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「1時間未満」が31.1%で最も多く、次いで「1時間～3時間未満」が20.2%、「介助や支援は受けていない」が17.6%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「12時間以上」が23.0%で最も多く、次いで「6時間～12時間未満」が19.7%、「1時間未満」と「1時間～3時間未満」がそれぞれ19.1%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「1時間～3時間未満」が35.8%で最も多く、次いで「1時間未満」が28.5%、「3時間～6時間未満」が14.5%となっています。



## (16) 主に介助・支援をしてくれる人

問 主に介助・支援してくれる人はだれですか。(あてはまる人すべてに○)  
また、その中から、時間が長い順に3人までお答えください。

### 障害のある市民 (調査①②③⑤)

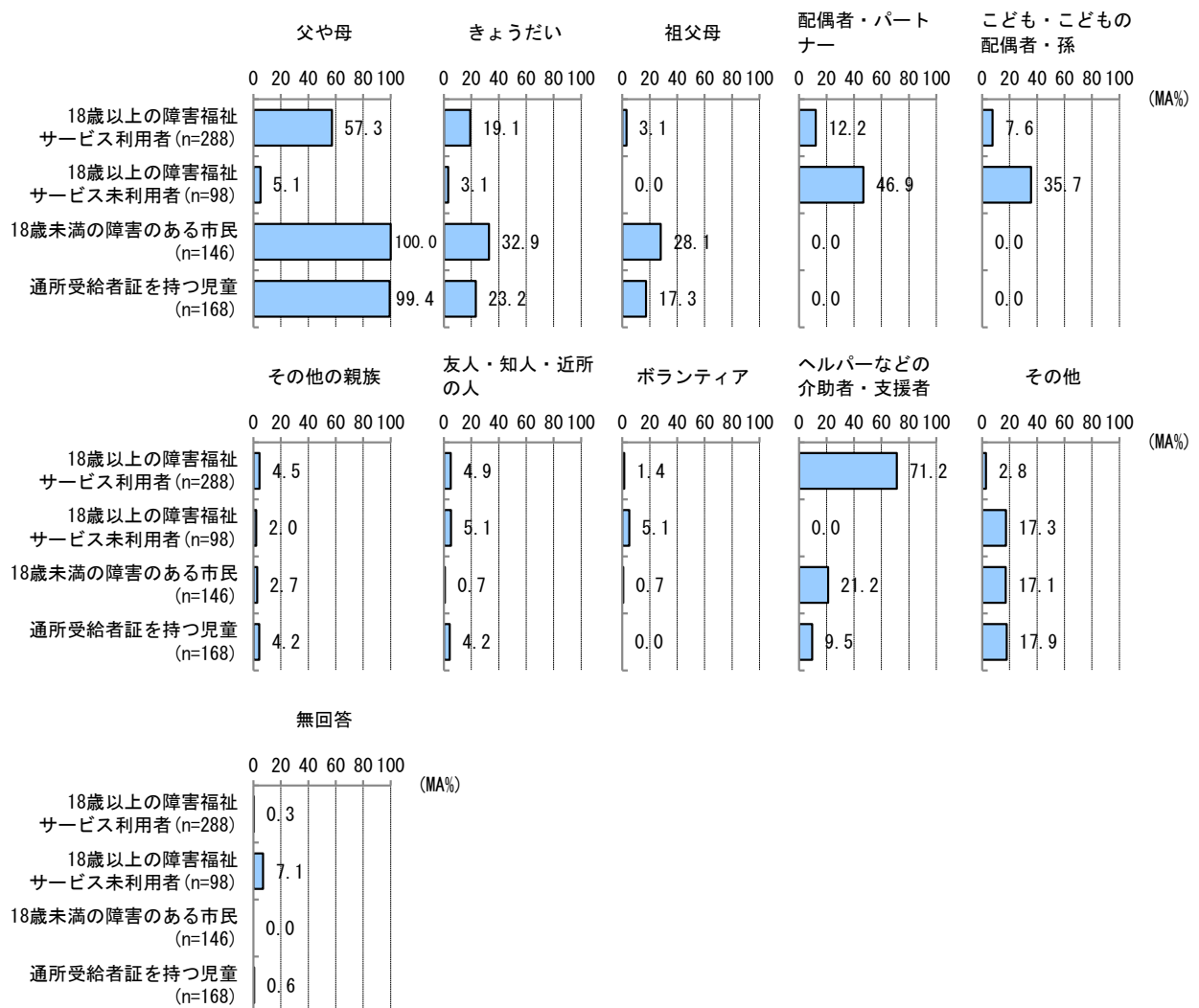
#### ① 主に介助・支援をしてくれる人

主に介助・支援をしてくれる人については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「ヘルパーなどの介助者・支援者」が71.2%で最も多く、次いで「父や母」が57.3%、「きょうだい」が19.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「配偶者・パートナー」が46.9%で最も多く、次いで「子ども・こどもの配偶者・孫」が35.7%、「父や母」と「友人・知人・近所の人」、「ボランティア」がそれぞれ5.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「父や母」が100.0%で最も多く、次いで「きょうだい」が32.9%、「祖父母」が28.1%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「父や母」が99.4%で最も多く、次いで「きょうだい」が23.2%、「祖父母」が17.3%となっています。



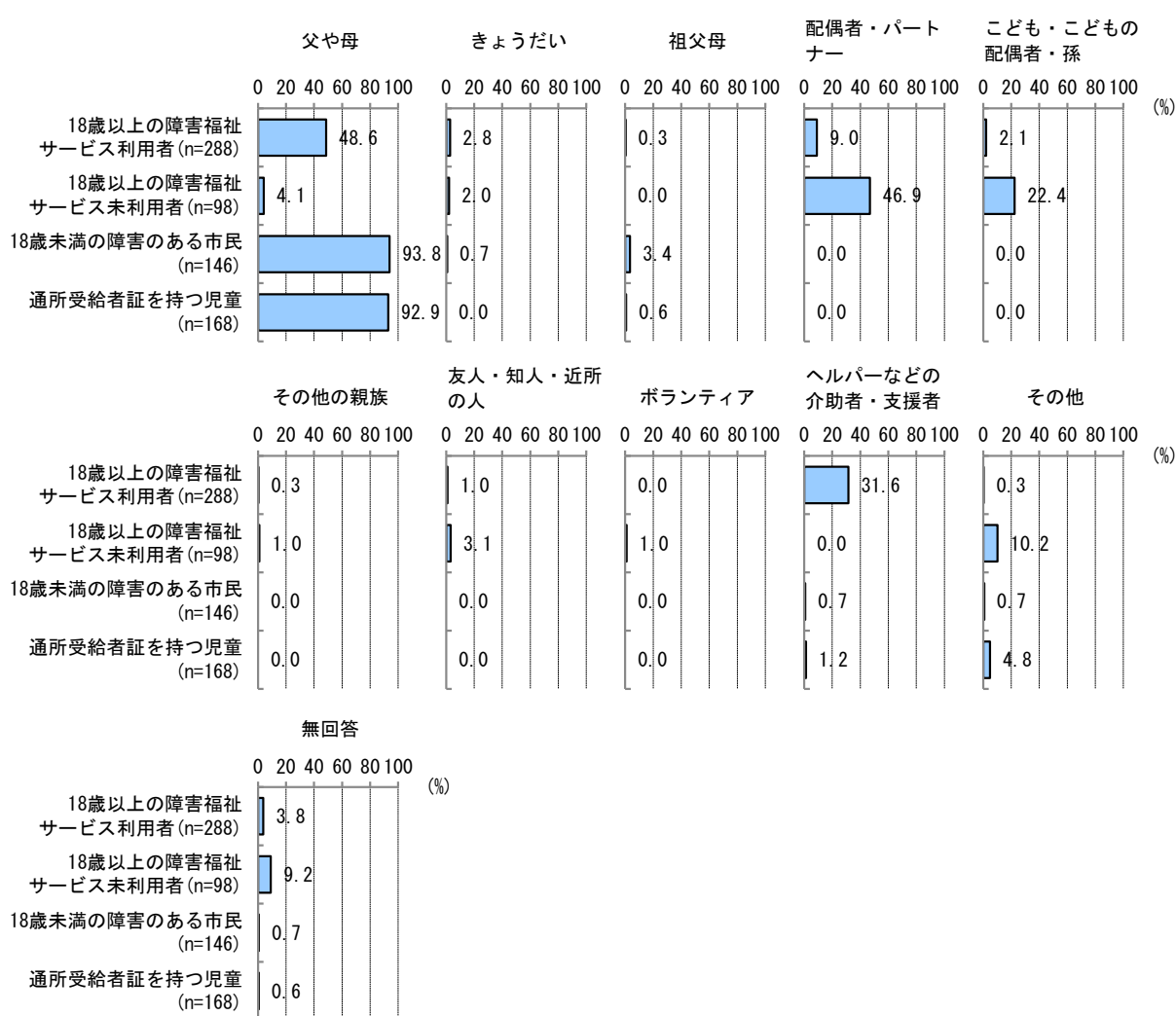
## ② 最も長く介助・支援をしてくれる人

最も長く介助・支援をしてくれる人については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「父や母」が48.6%で最も多く、次いで「ヘルパーなどの介助者・支援者」が31.6%、「配偶者・パートナー」が9.0%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「配偶者・パートナー」が46.9%で最も多く、次いで「子ども・子どもの配偶者・孫」が22.4%、「父や母」が4.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「父や母」が93.8%で最も多く、次いで「祖父母」が3.4%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「父や母」が92.9%で最も多く、次いで「ヘルパーなどの介助者・支援者」が1.2%となっています。



## (17) 介助・支援者の状況

問 ヘルパーなどの介助者・支援者以外で、特に中心となって介助・支援してくれる人についてお答えください。(それぞれあてはまるもの1つに○)

### ① 主に介助・支援してくれる人の性別

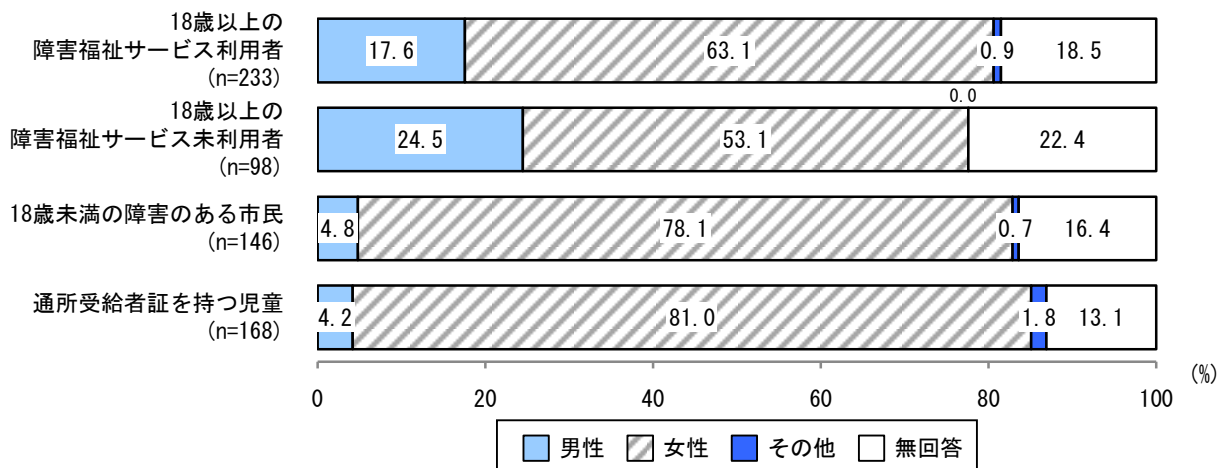
#### 障害のある市民（調査①②③⑤）

主に介助・支援してくれる人の性別については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「男性」が17.6%、「女性」が63.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「男性」が24.5%、「女性」が53.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「男性」が4.8%、「女性」が78.1%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「男性」が4.2%、「女性」が81.0%となっています。



## ② 主に介助・支援してくれる人の年齢

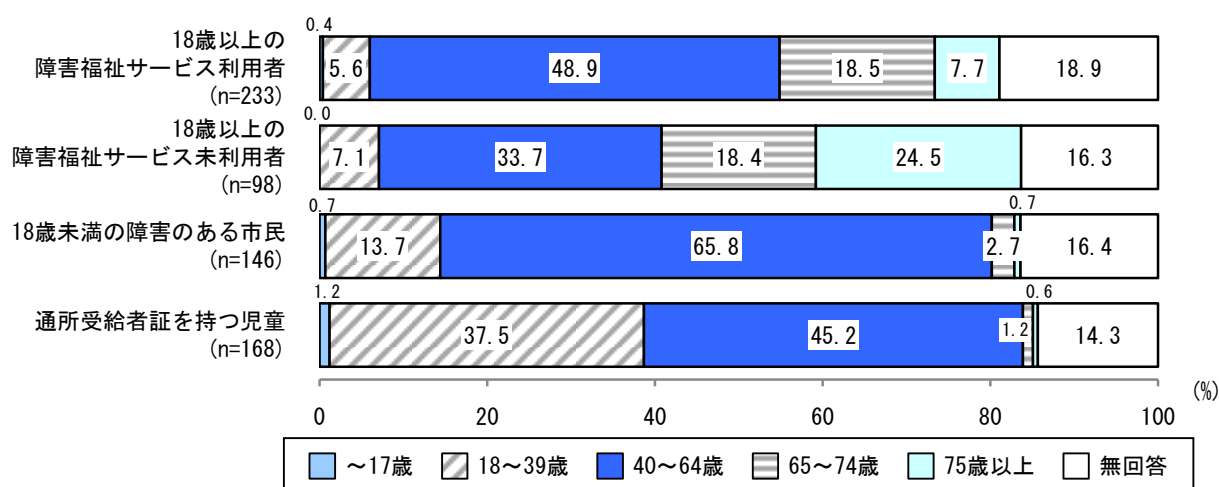
### 障害のある市民（調査①②③⑤）

主に介助・支援してくれる人の年齢については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「40～64歳」が48.9%で最も多く、次いで「65～74歳」が18.5%、「75歳以上」が7.7%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「40～64歳」が33.7%で最も多く、次いで「75歳以上」が24.5%、「65～74歳」が18.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「40～64歳」が65.8%で最も多く、次いで「18～39歳」が13.7%、「65～74歳」が2.7%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「40～64歳」が45.2%で最も多く、次いで「18～39歳」が37.5%となっています。

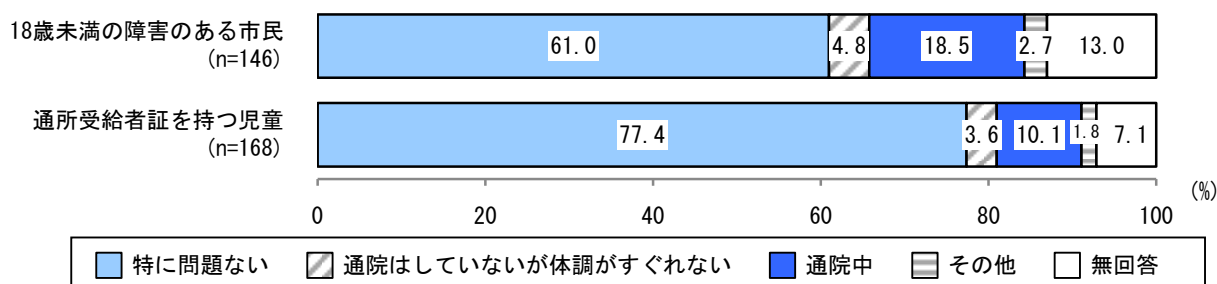


## ③ 主に介助・介護してくれる人の健康状態

### 18歳未満の障害のある市民、通所受給者証を持つ児童（調査③⑤）

主に介助・介護してくれる人の健康状態については、18歳未満の障害のある市民では、「特に問題ない」が61.0%で最も多く、次いで「通院中」が18.5%、「通院はしていないが体調がすぐれない」が4.8%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「特に問題ない」が77.4%で最も多く、次いで「通院中」が10.1%、「通院はしていないが体調がすぐれない」が3.6%となっています。



#### ④ 主に介助・介護してくれる人の介護状況

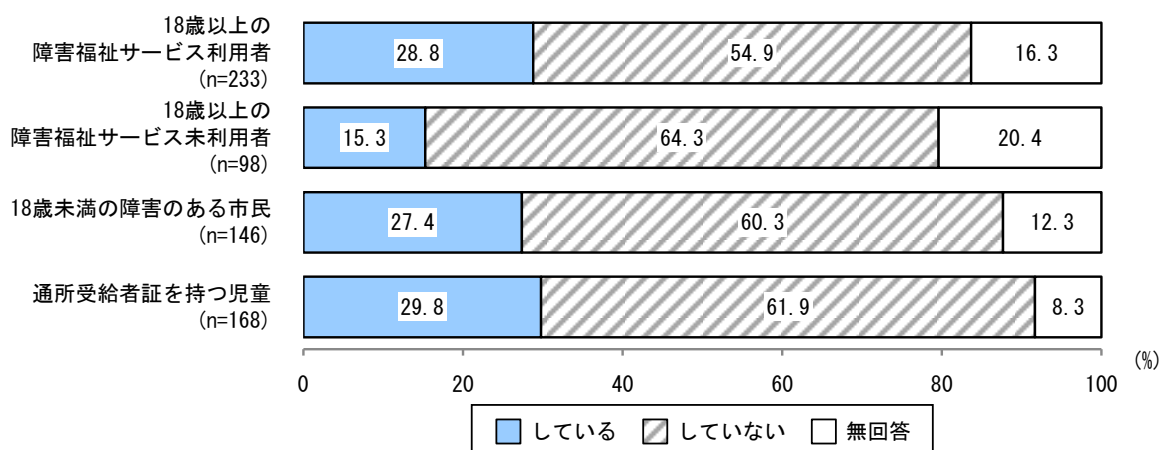
##### 障害のある市民 (①②③⑤)

主に介助・支援してくれる人の介護状況については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「している」が28.8%、「していない」が54.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「している」が15.3%、「していない」が64.3%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「している」が27.4%、「していない」が60.3%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「している」が29.8%、「していない」が61.9%となっています。



#### ⑤ 主に介助・介護してくれる人の就労状況

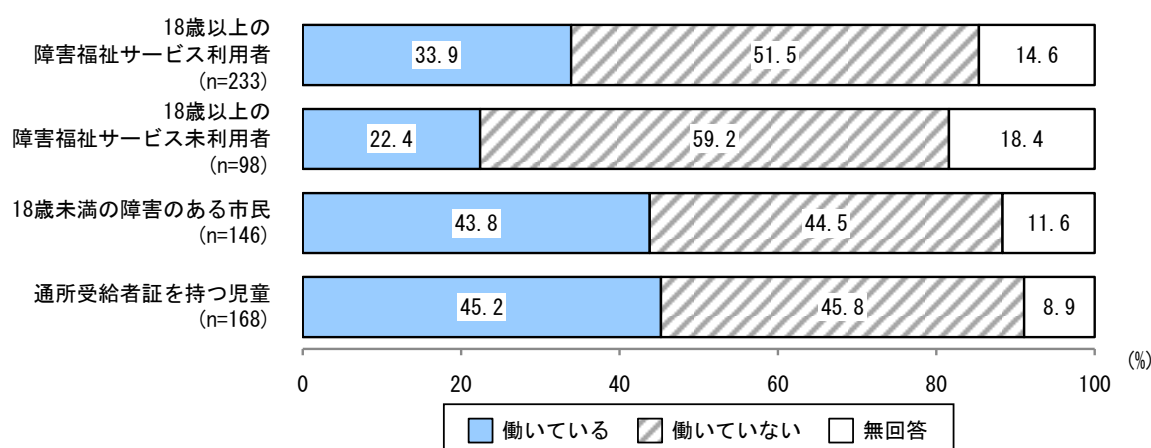
##### 障害のある市民 (①②③⑤)

主に介助・介護してくれる人の就労状況については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「働いている」が33.9%、「働いていない」が51.5%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「働いている」が22.4%、「働いていない」が59.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「働いている」が43.8%、「働いていない」が44.5%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「働いている」が45.2%、「働いていない」が45.8%となっています。



## ⑥ 主に介助・介護してくれる人の就労時間

### 障害のある市民 (①②③⑤)

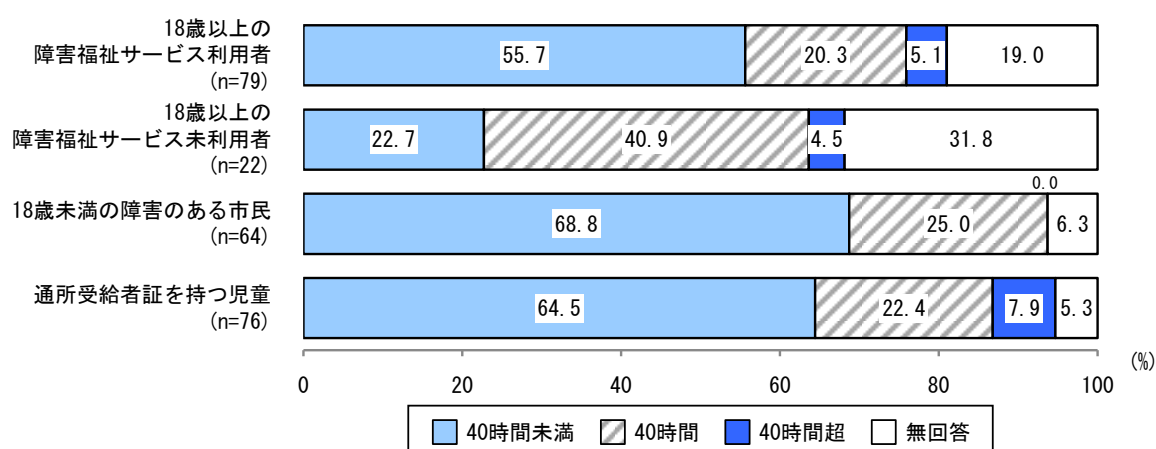
主に介助・介護してくれている人が働いていると回答した人に、就労時間をたずねました。

18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「40時間未満」が55.7%で最も多く、次いで「40時間」が20.3%、「40時間超」が5.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「40時間」が40.9%で最も多く、次いで「40時間未満」が22.7%、「40時間超」が4.5%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「40時間未満」が68.8%で最も多く、次いで「40時間」が25.0%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「40時間未満」が64.5%で最も多く、次いで「40時間」が22.4%、「40時間超」が7.9%となっています。

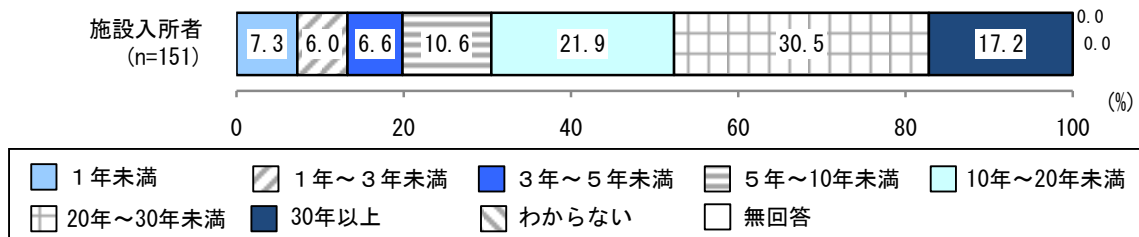


## (18) 入所年数

問 あなたは、現在の施設における入所年数は何年ですか。(どれか1つに○)

施設入所者 (調査④)

施設入所者の入所年数については、「20年～30年未満」が30.5%で最も多く、次いで「10年～20年未満」が21.9%、「30年以上」が17.2%となっています。

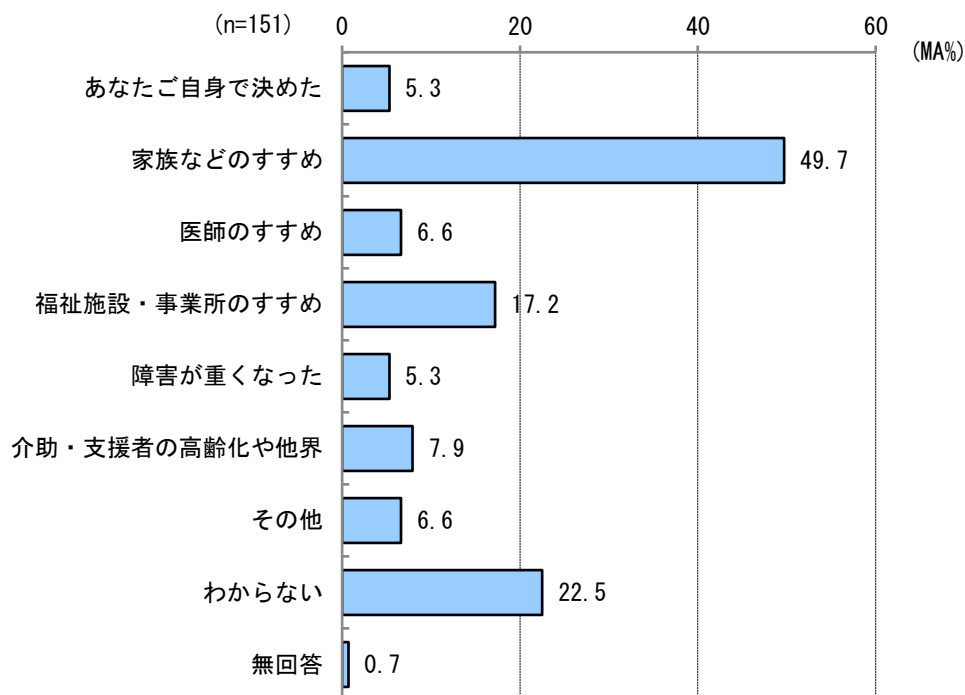


## (19) 施設に入所した理由

問 現在の施設に入所した主な理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

施設入所者 (調査④)

現在の施設に入所した主な理由については、「家族などのすすめ」が49.7%で最も多く、次いで「福祉施設・事業所のすすめ」が17.2%、「介助・支援者の高齢化や他界」が7.9%となっています。



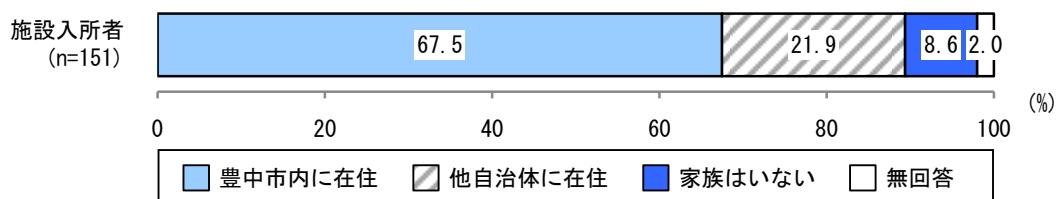
## (20) 家族や知人等について

問 ご家族や知人等についてあてはまるものをお答えください。(①～③それぞれ、1つずつに○)

### 施設入所者 (調査④)

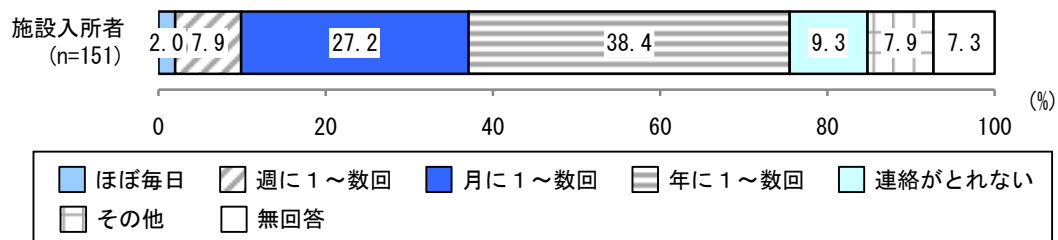
#### ① 家族の有無

家族の有無については、「豊中市内に在住」が67.5%で最も多く、次いで「他自治体に在住」が21.9%、「家族はいない」が8.6%となっています。



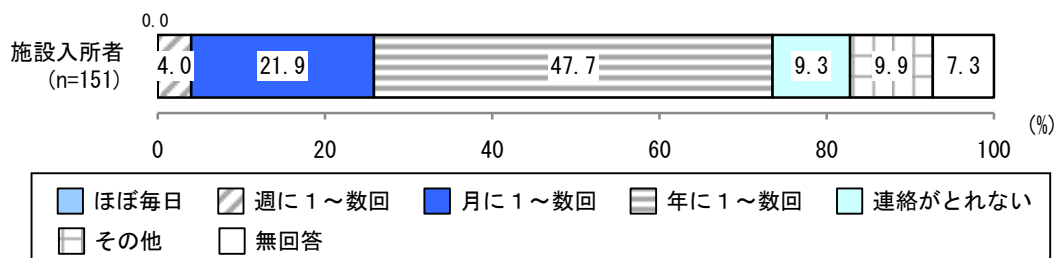
#### ② 家族・知人との連絡頻度

家族・知人との連絡頻度については、「年に1～数回」が38.4%で最も多く、次いで「月に1～数回」が27.2%、「連絡がとれない」が9.3%となっています。



#### ③ 家族・知人の訪問頻度

家族・知人の訪問頻度については、「年に1～数回」が47.7%で最も多く、次いで「月に1～数回」が21.9%、「連絡がとれない」が9.3%となっています。



## 2 あなたの生活環境について

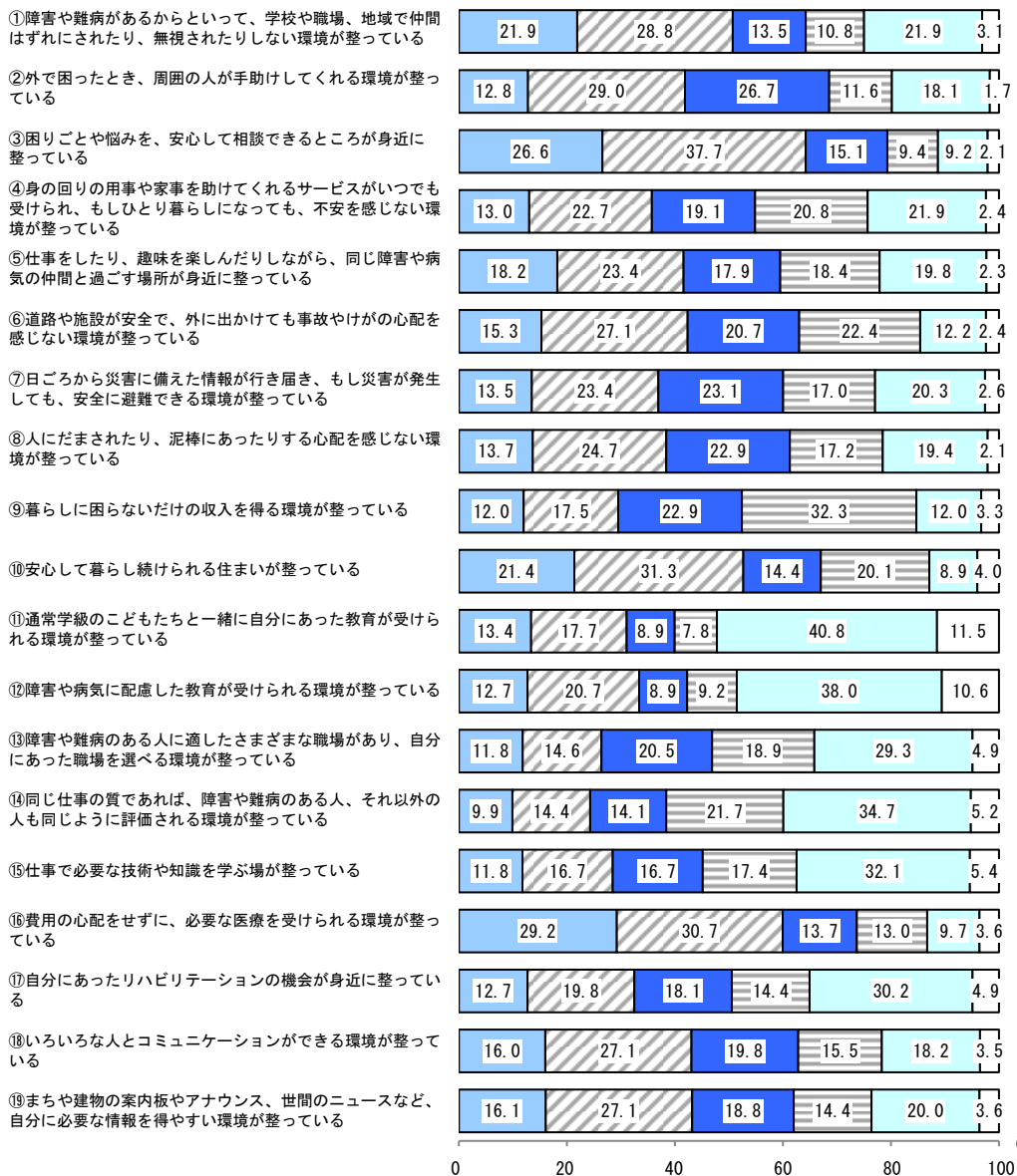
### (1) 生活環境について

問 豊中市やあなたが住んでいる地域は、障害や難病のある人が生活するうえで、どの程度環境が整っていると思いますか。(それぞれ、あてはまるもの1つに○)

#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

18歳以上の障害福祉サービス利用者で、「そう思う」+「まあまあそう思う」の『そう思う計』が、「あまりそう思わない」+「そう思わない」の『そう思わない計』を上回っているのは“①障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしない環境が整っている”、“③困りごとや悩みを、安心して相談できるところが身近に整っている”、“⑯費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる環境が整っている”など10項目で、『そう思わない計』が『そう思う計』を上回っている項目が8項目です。

(n=576)

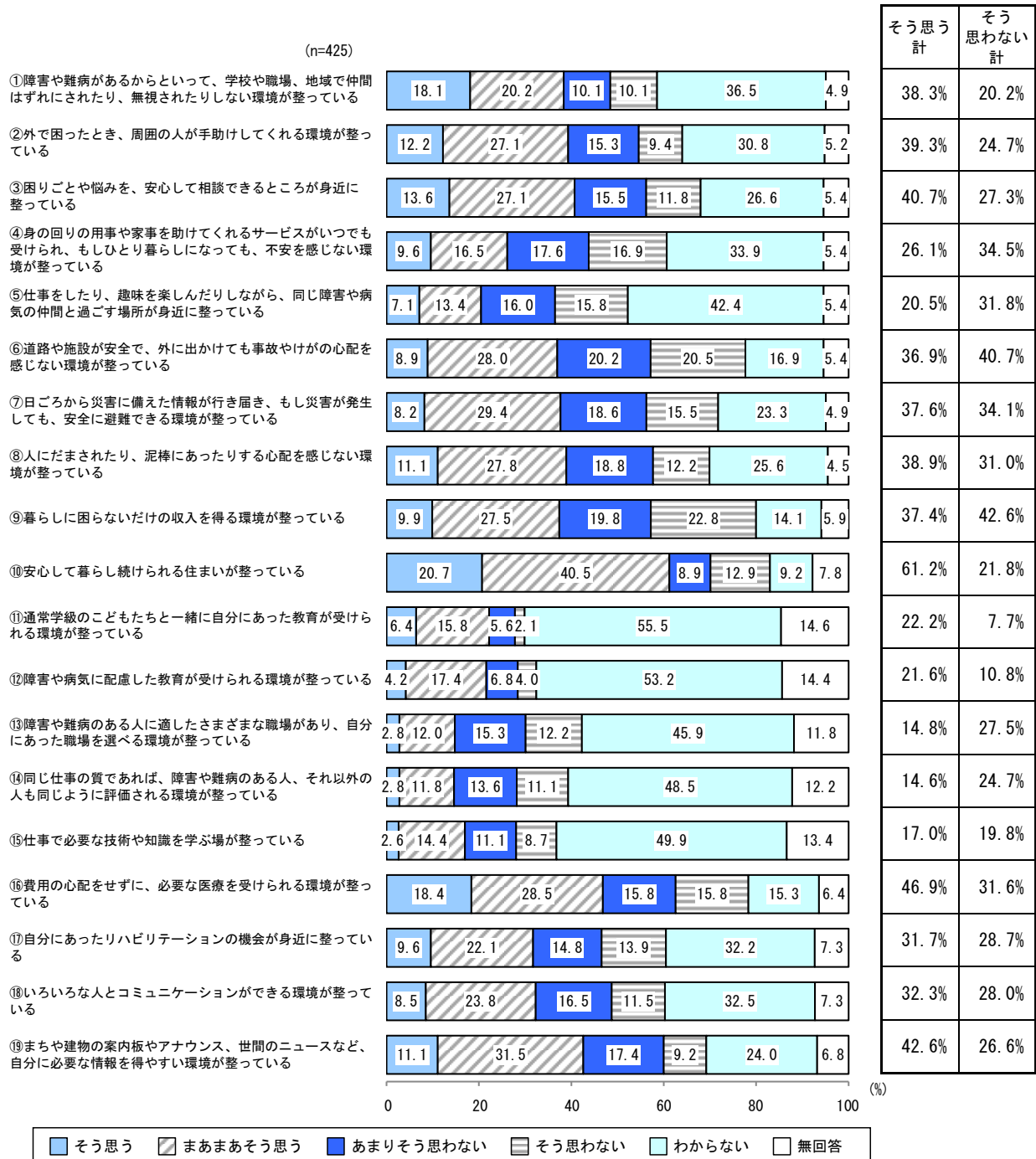


項目	そう思う計	そう思わない計
①	50.7%	24.3%
②	41.8%	38.3%
③	64.3%	24.5%
④	35.7%	39.9%
⑤	41.6%	36.3%
⑥	42.4%	43.1%
⑦	36.9%	40.1%
⑧	38.4%	40.1%
⑨	29.5%	55.2%
⑩	52.7%	34.5%
⑪	31.1%	16.7%
⑫	33.4%	18.1%
⑬	26.4%	39.4%
⑭	24.3%	35.8%
⑮	28.5%	34.1%
⑯	59.9%	26.7%
⑰	32.5%	32.5%
⑱	43.1%	35.3%
⑲	43.2%	33.2%

■ そう思う ■ まあまあそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない ■ わからない ■ 無回答

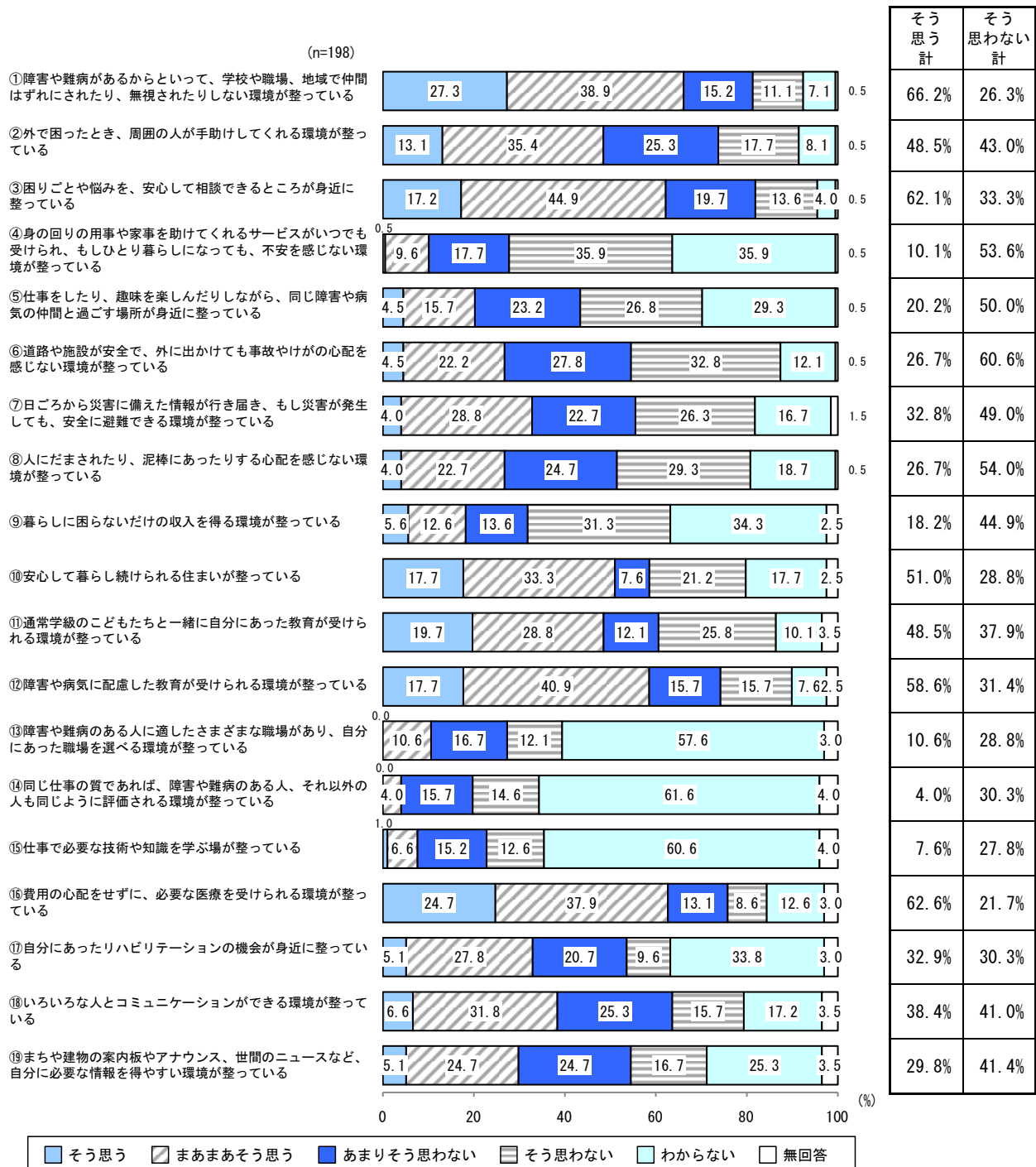
## 18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

18歳以上の障害福祉サービス未利用者で、『そう思う計』が、『そう思わない計』を上回っているのは、“①障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしない環境が整っている”、“⑩安心して暮らし続けられる住まいが整っている”、“⑬まちや建物の案内板やアナウンス、世間のニュースなど、自分に必要な情報を得やすい環境が整っている”など12項目で、『そう思わない計』が『そう思う計』を上回っている項目が7項目です。



### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民で、『そう思う計』が、『そう思わない計』を上回っているのは、“①障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしない環境が整っている”、“③困りごとや悩みを、安心して相談できるところが身近に整っている”、“⑯費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる環境が整っている”など8項目で、『そう思わない計』が『そう思う計』を上回っている項目が11項目です。



## (2) ライフスタイルに応じた生活ができているか

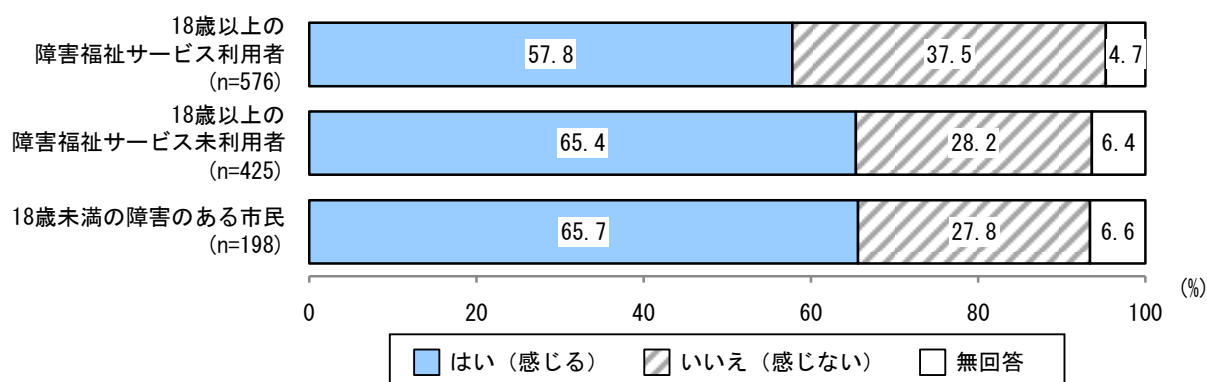
問 あなたは、障害や難病があっても、自分の望むライフスタイルに応じた生活ができていると感じますか。(どちらか1つに○)

### 障害のある市民 (①②③)

ライフスタイルに応じた生活ができているかについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「はい (感じる)」が57.8%、「いいえ (感じない)」が37.5%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「はい (感じる)」が65.4%、「いいえ (感じない)」が28.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「はい (感じる)」が65.7%、「いいえ (感じない)」が27.8%となっています。



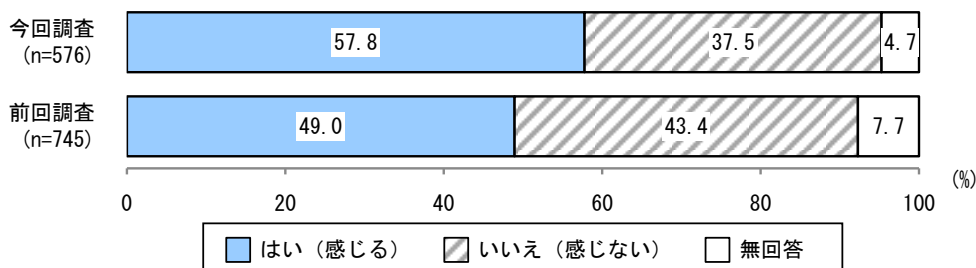
《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「はい（感じる）」の割合が前回調査より8.8ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「はい（感じる）」の割合は年齢が上がるにつれ、高くなっています。

障害種別でみると、「はい（感じる）」の割合は、身体障害（60.8%）で最も高くなっています。



※前回調査の「はい（感じている）」「いいえ（感じていない）」は、今回調査では「はい（感じる）」「いいえ（感じない）」に変更しています。

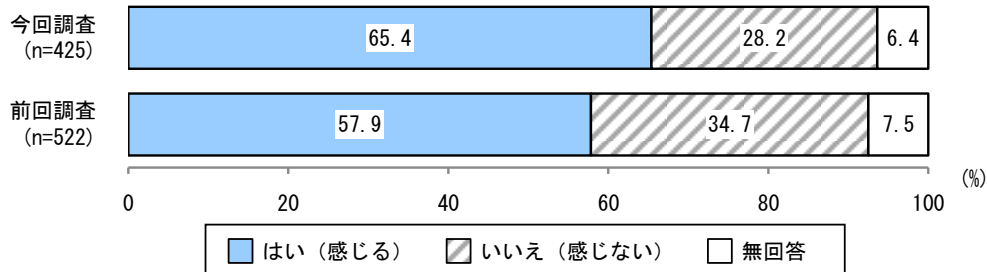
		サンプル数	はい（感じる）」	いいえ（感じない）」	無回答
全体		576	57.8	37.5	4.7
回答者別	本人	327	58.1	39.8	2.1
	本人以外	231	56.7	35.5	7.8
性別	男性	285	60.0	35.1	4.9
	女性	279	56.3	39.8	3.9
居住地別	北西部圏域	96	56.3	38.5	5.2
	北中部圏域	69	49.3	39.1	11.6
	北東部圏域	68	61.8	38.2	0.0
	中部圏域	81	54.3	40.7	4.9
	中東部圏域	52	61.5	38.5	0.0
	中西部圏域	83	63.9	31.3	4.8
	南部圏域	96	60.4	37.5	2.1
年齢別	18～39歳	222	55.4	41.9	2.7
	40～64歳	281	56.9	36.7	6.4
	65歳以上	66	69.7	27.3	3.0
障害種別	身体障害	181	60.8	32.6	6.6
	知的障害	230	58.7	34.3	7.0
	精神障害	220	53.2	45.0	1.8
	難病	27	66.7	25.9	7.4
	発達障害	84	50.0	48.8	1.2
	高次脳機能障害	15	53.3	40.0	6.7
身障種別	視覚障害	35	68.6	31.4	0.0
	聴覚障害・平衡機能障害	10	70.0	20.0	10.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	52.4	33.3	14.3
	肢体不自由	102	58.8	35.3	5.9
	内部障害	20	75.0	20.0	5.0

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「はい（感じる）」の割合は前回調査より7.5ポイント高くなっています。

障害種別でみると、「はい（感じる）」の割合は難病（76.5%）が最も高く、次いで身体障害（65.8%）となっています。



※前回調査の「はい（感じている）」「いいえ（感じていない）」は、今回調査では「はい（感じる）」「いいえ（感じない）」に変更しています。

		サンプル数	はい（感じる）	いいえ（感じない）	無回答
全体		425	65.4	28.2	6.4
回答者別	本人	341	66.9	26.7	6.5
	本人以外	71	62.0	35.2	2.8
性別	男性	192	66.7	29.7	3.6
	女性	228	64.5	27.2	8.3
居住地別	北西部圏域	62	61.3	30.6	8.1
	北中部圏域	63	65.1	33.3	1.6
	北東部圏域	69	75.4	15.9	8.7
	中部圏域	56	73.2	19.6	7.1
	中東部圏域	51	72.5	21.6	5.9
	中西部圏域	54	59.3	37.0	3.7
	南部圏域	60	55.0	36.7	8.3
年齢別	18～39歳	24	83.3	16.7	-
	40～64歳	116	65.5	31.9	2.6
	65歳以上	280	64.3	27.1	8.6
障害種別	身体障害	278	65.8	26.3	7.9
	知的障害	14	71.4	28.6	-
	精神障害	61	50.8	44.3	4.9
	難病	68	76.5	20.6	2.9
	発達障害	10	80.0	20.0	-
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	-
身障種別	視覚障害	25	60.0	32.0	8.0
	聴覚障害・平衡機能障害	26	69.2	23.1	7.7
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	50.0	25.0	25.0
	肢体不自由	117	64.1	26.5	9.4
	内部障害	95	73.7	21.1	5.3

単位：%

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

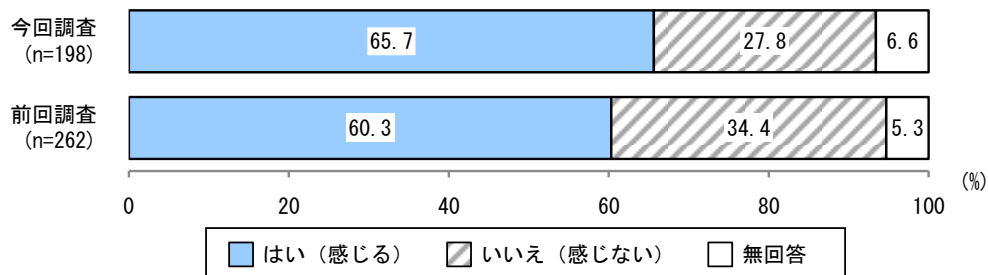
### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「はい（感じる）」の割合が前回調査より5.4ポイント高くなっています。

性別でみると、「はい（感じる）」の割合は女性より男性のほうが5.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「はい（感じる）」の割合は10～14歳（67.9%）で最も高く、5歳以上で6割台となっています。

障害種別でみると、「はい（感じる）」の割合は、身体障害（78.7%）で最も高くなっています。



※前回調査の「はい（感じている）」「いいえ（感じていない）」は、今回調査では「はい（感じる）」「いいえ（感じない）」に変更しています。

		サンプル数	はい（感じる）	いいえ（感じない）	無回答
全体		198	65.7	27.8	6.6
回答者別	本人	7	57.1	28.6	14.3
	本人以外	186	67.2	26.9	5.9
性別	男性	128	68.0	28.1	3.9
	女性	67	62.7	26.9	10.4
居住地別	北西部圏域	38	71.1	23.7	5.3
	北中部圏域	32	68.8	25.0	6.3
	北東部圏域	32	62.5	34.4	3.1
	中部圏域	18	66.7	27.8	5.6
	中東部圏域	23	65.2	26.1	8.7
	中西部圏域	25	68.0	32.0	-
	南部圏域	21	61.9	28.6	9.5
年齢別	0～4歳	10	40.0	50.0	10.0
	5～9歳	67	67.2	25.4	7.5
	10～14歳	81	67.9	25.9	6.2
	15～17歳	36	66.7	30.6	2.8
障害種別	身体障害	47	78.7	14.9	6.4
	知的障害	161	64.6	28.6	6.8
	精神障害	16	62.5	31.3	6.3
	難病	16	68.8	31.3	-
	発達障害	55	69.1	29.1	1.8
	高次脳機能障害	-	-	-	-

単位：%

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

### (3) 外出の頻度

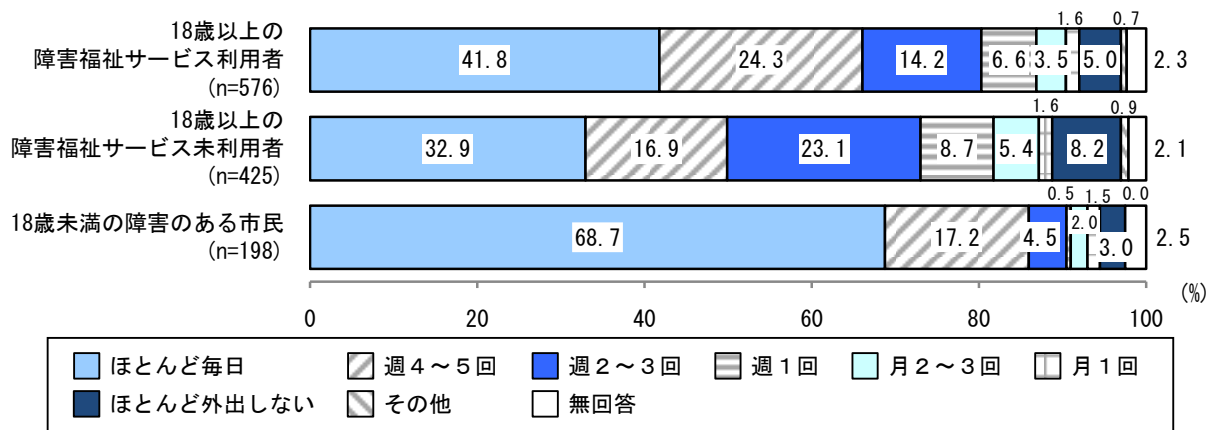
問 あなたはどのくらい外出しますか。(どれか1つに○)

#### 障害のある市民 (①②③)

外出の頻度については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「ほとんど毎日」が41.8%で最も多く、次いで「週4～5回」が24.3%、「週2～3回」が14.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「ほとんど毎日」が32.9%で最も多く、次いで「週2～3回」が23.1%、「週4～5回」が16.9%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「ほとんど毎日」が68.7%で最も多く、次いで「週4～5回」が17.2%、「週2～3回」が4.5%となっています。

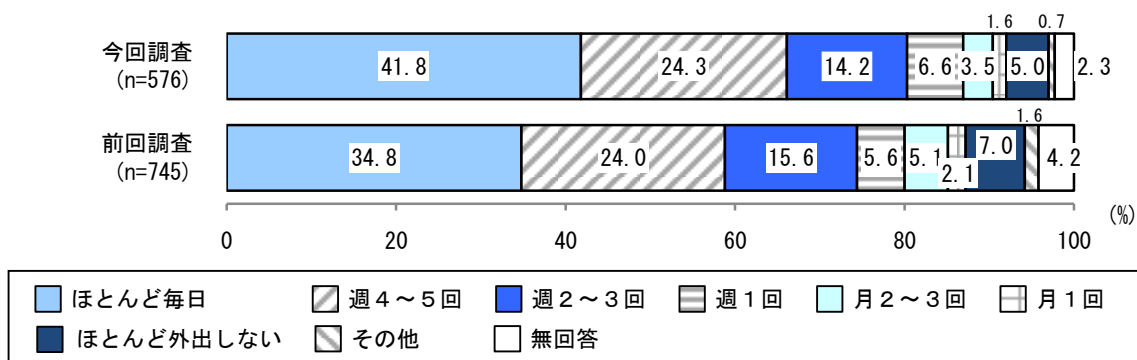


《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「ほとんど毎日」の割合が前回調査より7.0ポイント高くなっています。

年齢別でみると、65歳以上では「週4～5回」が最も高くなっていますが、それ以外の年代では「ほとんど毎日」が最も多くなっています。



		サンプル数	ほとんど毎日	週4～5回	週2～3回	週1回	月2～3回	月1回	ほとんど外出しない	その他	無回答
全体		576	41.8	24.3	14.2	6.6	3.5	1.6	5.0	0.7	2.3
居住地別	北西部圏域	96	44.8	25.0	13.5	5.2	4.2	2.1	5.2	-	-
	北中部圏域	69	40.6	23.2	10.1	8.7	5.8	1.4	4.3	-	5.8
	北東部圏域	68	48.5	23.5	19.1	4.4	1.5	-	2.9	-	-
	中部圏域	81	44.4	27.2	14.8	4.9	1.2	-	4.9	1.2	1.2
	中東部圏域	52	48.1	21.2	13.5	9.6	3.8	-	3.8	-	-
	中西部圏域	83	37.3	22.9	13.3	6.0	4.8	3.6	6.0	1.2	4.8
	南部圏域	96	37.5	29.2	14.6	4.2	3.1	3.1	4.2	1.0	3.1
年齢別	18～39歳	222	44.1	31.1	10.8	5.4	1.8	1.4	4.5	0.5	0.5
	40～64歳	281	44.8	19.2	15.3	6.4	4.6	1.8	3.9	0.7	3.2
	65歳以上	66	22.7	24.2	21.2	10.6	3.0	1.5	12.1	1.5	3.0
障害種別	身体障害	181	32.6	19.9	16.6	10.5	5.5	3.3	8.3	0.6	2.8
	知的障害	230	48.7	25.2	7.0	6.5	4.3	1.7	4.8	0.4	1.3
	精神障害	220	40.9	25.9	15.9	5.0	2.7	1.4	4.5	1.4	2.3
	難病	27	37.0	22.2	18.5	7.4	7.4	-	3.7	-	3.7
	発達障害	84	41.7	29.8	14.3	1.2	4.8	-	3.6	2.4	2.4
	高次脳機能障害	15	80.0	6.7	6.7	-	-	6.7	-	-	-
身障種別	視覚障害	35	25.7	31.4	17.1	11.4	2.9	-	11.4	-	-
	聴覚障害・平衡機能障害	10	40.0	10.0	10.0	10.0	10.0	-	20.0	-	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	47.6	9.5	-	9.5	14.3	4.8	4.8	-	9.5
	肢体不自由	102	31.4	20.6	14.7	10.8	4.9	3.9	9.8	1.0	2.9
	内部障害	20	45.0	20.0	20.0	-	5.0	-	10.0	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

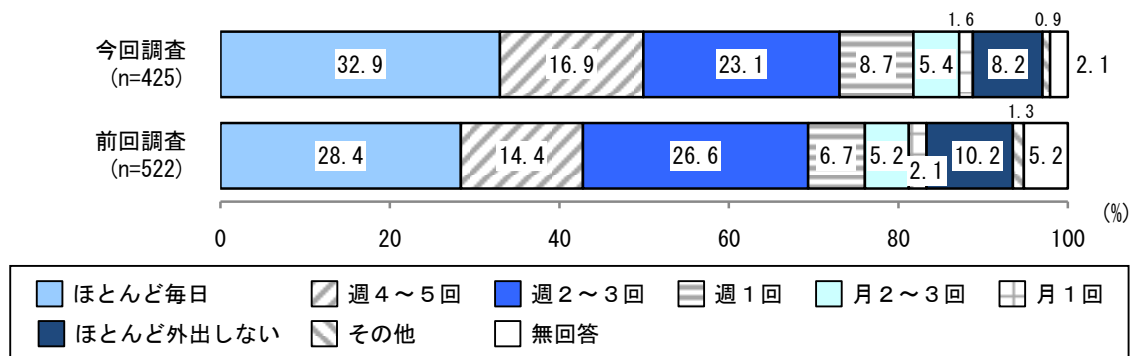
単位: %

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「ほとんど毎日」の割合が前回調査より4.5ポイント高くなっています。

居住地別でみると、「ほとんど毎日」の割合は北西部圏域（40.3%）が最も高くなっています。

年齢別でみると、40～64歳は「ほとんど毎日」（50.9%）が最も多いですが、65歳以上では「週2～3回」（29.3%）が最も多くなっています。



		サンプル数	ほとんど毎日	週4～5回	週2～3回	週1回	月2～3回	月1回	ほとんど外出しない	その他	無回答
全体		425	32.9	16.9	23.1	8.7	5.4	1.6	8.2	0.9	2.1
居住地別	北西部圏域	62	40.3	12.9	25.8	9.7	1.6	3.2	4.8	-	1.6
	北中部圏域	63	25.4	17.5	28.6	9.5	7.9	-	7.9	1.6	1.6
	北東部圏域	69	34.8	17.4	13.0	10.1	8.7	-	10.1	-	5.8
	中部圏域	56	28.6	21.4	25.0	7.1	5.4	1.8	7.1	1.8	1.8
	中東部圏域	51	37.3	19.6	19.6	5.9	7.8	2.0	7.8	-	-
	中西部圏域	54	31.5	16.7	27.8	9.3	-	3.7	11.1	-	-
	南部圏域	60	33.3	16.7	25.0	5.0	3.3	-	10.0	3.3	3.3
年齢別	18～39歳	24	54.2	20.8	16.7	-	-	-	8.3	-	-
	40～64歳	116	50.9	15.5	9.5	8.6	5.2	1.7	5.2	0.9	2.6
	65歳以上	280	23.9	17.5	29.3	8.9	6.1	1.8	9.3	1.1	2.1
障害種別	身体障害	278	29.9	16.5	25.9	8.3	6.1	1.8	8.3	1.4	1.8
	知的障害	14	35.7	14.3	7.1	21.4	-	-	21.4	-	-
	精神障害	61	29.5	18.0	19.7	8.2	6.6	3.3	8.2	1.6	4.9
	難病	68	42.6	14.7	16.2	16.2	2.9	1.5	2.9	-	2.9
	発達障害	10	60.0	10.0	20.0	-	-	-	10.0	-	-
	高次脳機能障害	2	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	身障種類別	視覚障害	25	24.0	16.0	24.0	-	16.0	-	16.0	-
聴覚障害・平衡機能障害		26	34.6	23.1	23.1	7.7	3.8	3.8	3.8	-	-
音声・言語・そしゃく機能障害		8	12.5	12.5	12.5	25.0	12.5	-	12.5	12.5	-
肢体不自由		117	23.9	16.2	27.4	9.4	7.7	1.7	10.3	0.9	2.6
内部障害		95	35.8	14.7	25.3	10.5	3.2	3.2	5.3	1.1	1.1

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

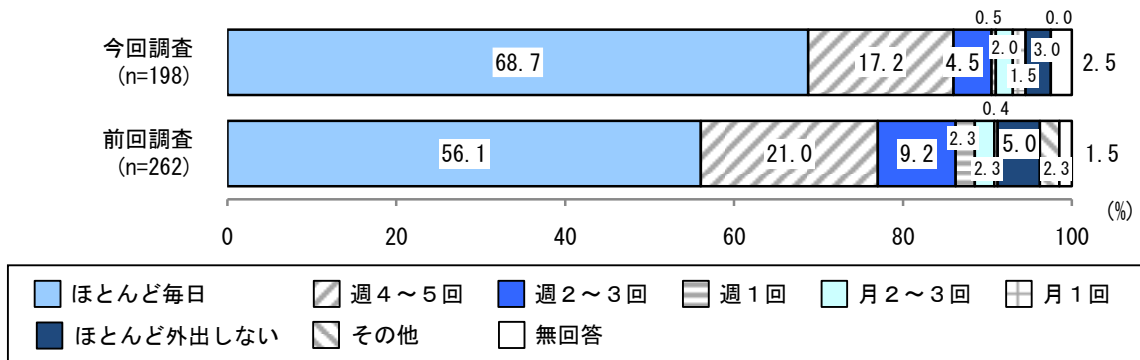
単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「ほとんど毎日」の割合が前回調査より12.6ポイント高くなっています。

居住地別でみると、「ほとんど毎日」の割合は北東部圏域（81.3%）が最も高くなっています。

年齢別でみると、「ほとんど外出しない」の割合は15～17歳（8.3%）で最も高くなっています。



		サンプル数	ほとんど毎日	週4～5回	週2～3回	週1回	月2～3回	月1回	ほとんど外出しない	その他	無回答
全体		198	68.7	17.2	4.5	0.5	2.0	1.5	3.0	-	2.5
居住地別	北西部圏域	38	55.3	26.3	10.5	-	2.6	5.3	-	-	-
	北中部圏域	32	62.5	21.9	3.1	3.1	-	-	9.4	-	-
	北東部圏域	32	81.3	12.5	-	-	3.1	-	3.1	-	-
	中部圏域	18	83.3	11.1	-	-	5.6	-	-	-	-
	中東部圏域	23	78.3	8.7	4.3	-	-	-	-	-	8.7
	中西部圏域	25	72.0	20.0	-	-	4.0	-	4.0	-	-
	南部圏域	21	61.9	14.3	9.5	-	-	-	4.8	-	9.5
年齢別	0～4歳	10	60.0	40.0	-	-	-	-	-	-	-
	5～9歳	67	77.6	13.4	3.0	-	1.5	1.5	-	-	3.0
	10～14歳	81	65.4	18.5	6.2	1.2	2.5	1.2	3.7	-	1.2
	15～17歳	36	63.9	16.7	5.6	-	2.8	-	8.3	-	2.8
障害種別	身体障害	47	68.1	23.4	2.1	-	2.1	-	4.3	-	-
	知的障害	161	68.9	17.4	5.0	0.6	1.9	1.9	1.9	-	2.5
	精神障害	16	50.0	18.8	12.5	6.3	-	-	6.3	-	6.3
	難病	16	75.0	18.8	-	-	-	-	6.3	-	-
	発達障害	55	67.3	20.0	7.3	-	-	1.8	3.6	-	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

#### (4) 外出時に困ること

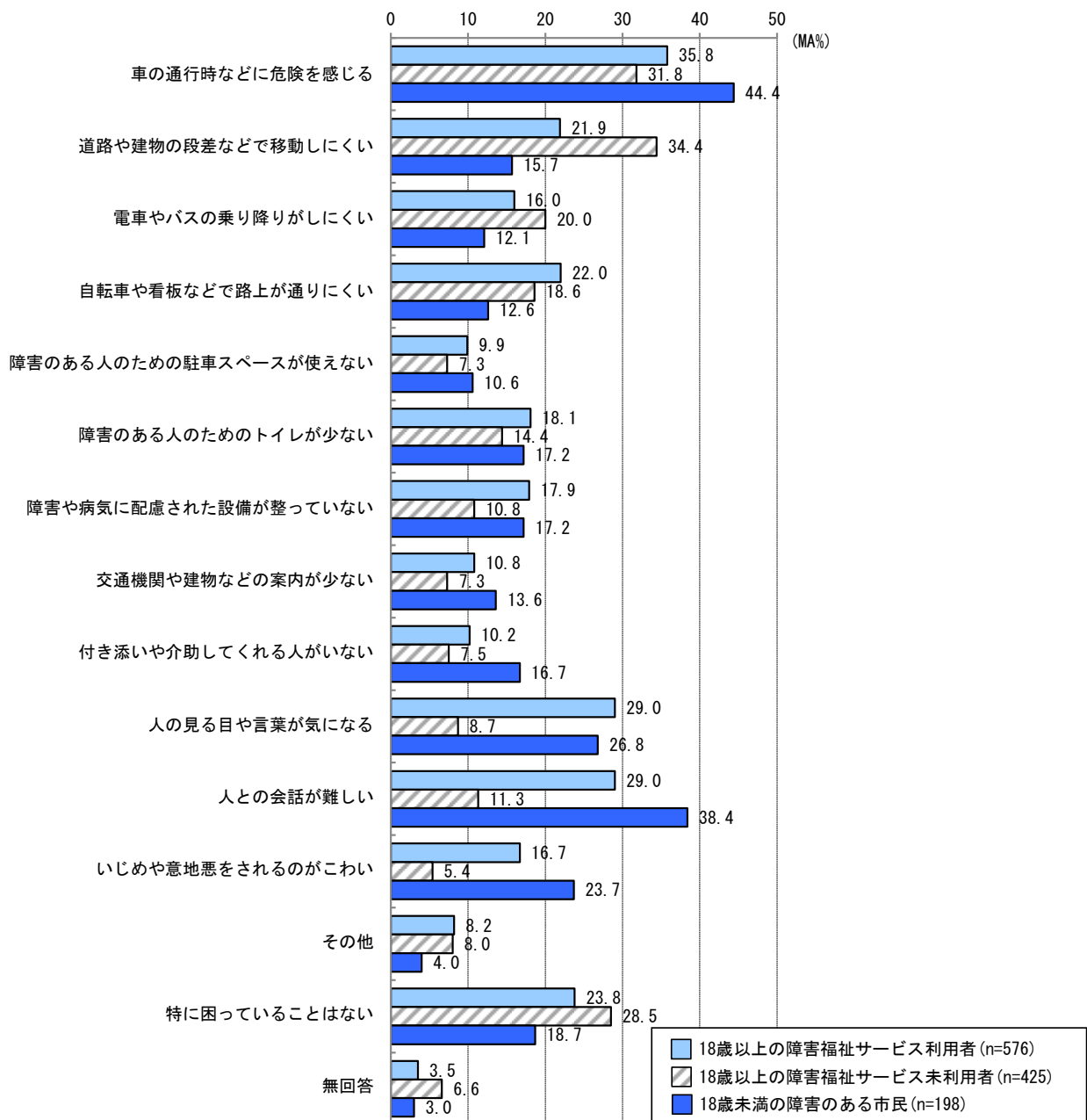
問 外出時に困ることはありますか。(困っていることをすべて選んで○)

##### 障害のある市民 (①②③)

外出時に困ることについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「車の通行時などに危険を感じる」が35.8%で最も多く、次いで「人の見る目や言葉が気になる」と「人との会話が難しい」がそれぞれ29.0%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「道路や建物の段差などで移動しにくい」が34.4%で最も多く、次いで「車の通行時などに危険を感じる」が31.8%、「電車やバスの乗り降りがしにくい」が20.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「車の通行時などに危険を感じる」が44.4%で最も多く、次いで「人との会話が難しい」が38.4%、「人の見る目や言葉が気になる」が26.8%となっています。



## (5) ご近所とのつきあい方

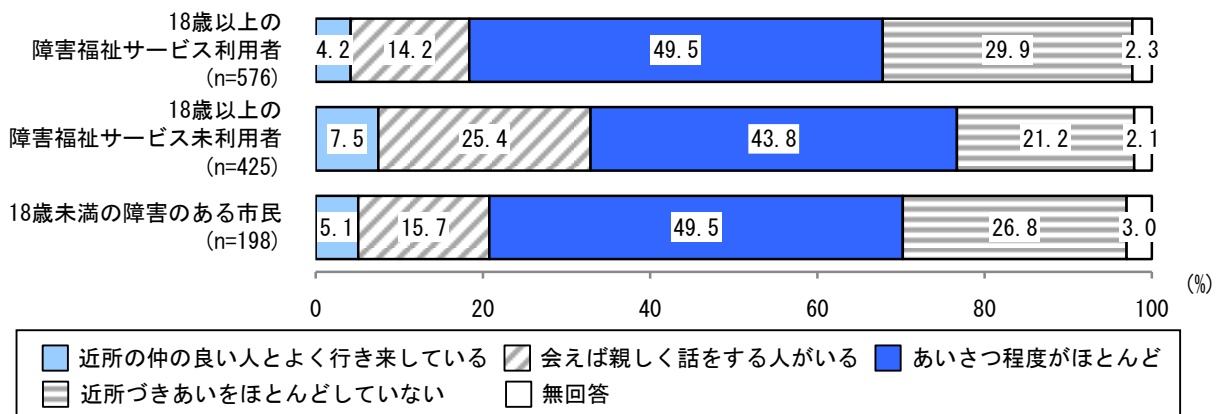
問 あなたは、どのようなご近所づきあいをしていますか。(どれか1つに○)

### 障害のある市民 (①②③)

ご近所とのつきあい方については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「あいさつ程度がほとんど」が49.5%で最も多く、次いで「近所づきあいをほとんどしていない」が29.9%、「会えば親しく話をする人がいる」が14.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「あいさつ程度がほとんど」が43.8%で最も多く、次いで「会えば親しく話をする人がいる」が25.4%、「近所づきあいをほとんどしていない」が21.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「あいさつ程度がほとんど」が49.5%で最も多く、次いで「近所づきあいをほとんどしていない」が26.8%、「会えば親しく話をする人がいる」が15.7%となっています。



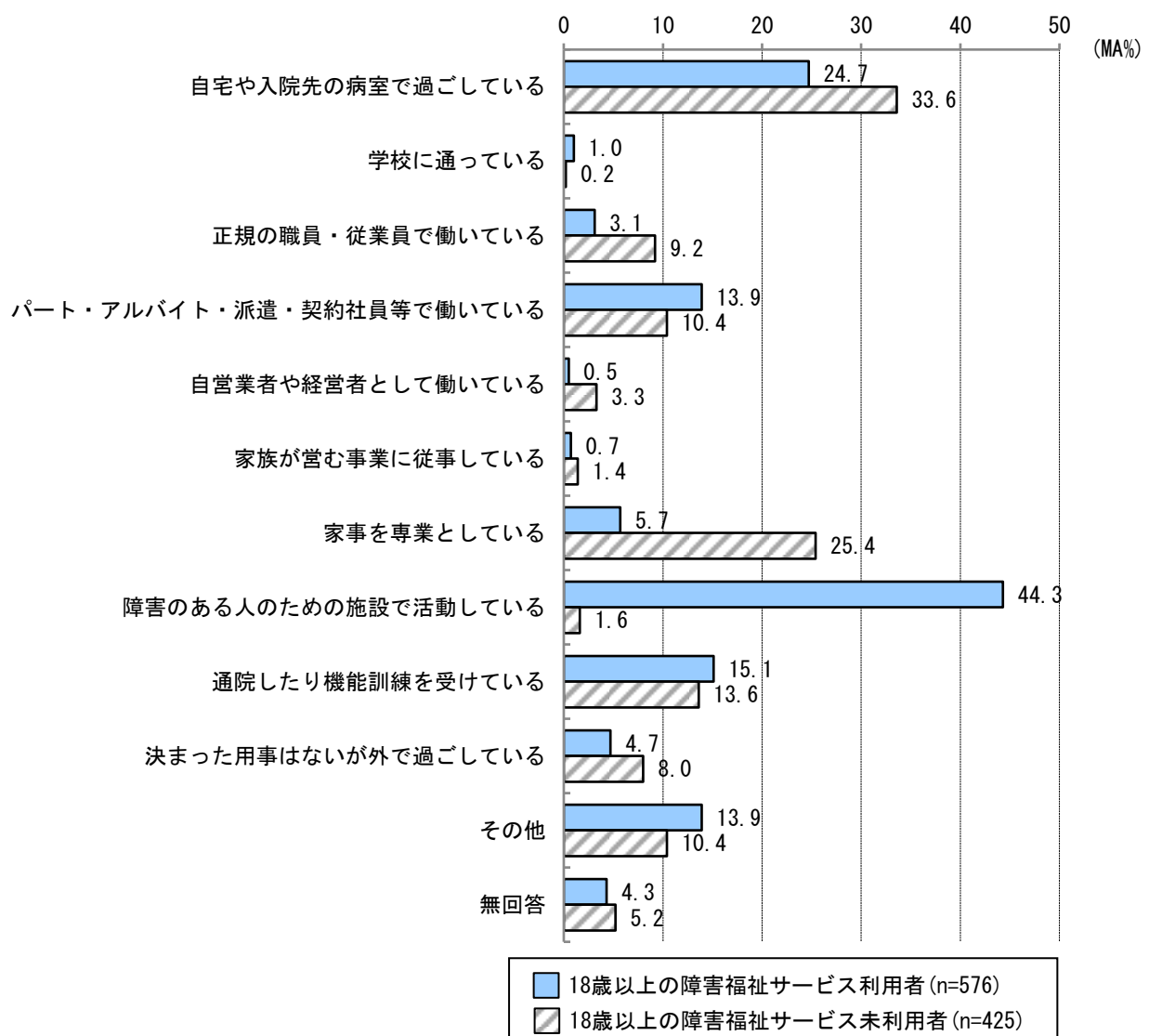
## (6) 日中の過ごし方

問 日ごろ昼間の時間はどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

### 18歳以上の障害のある市民（調査①②）

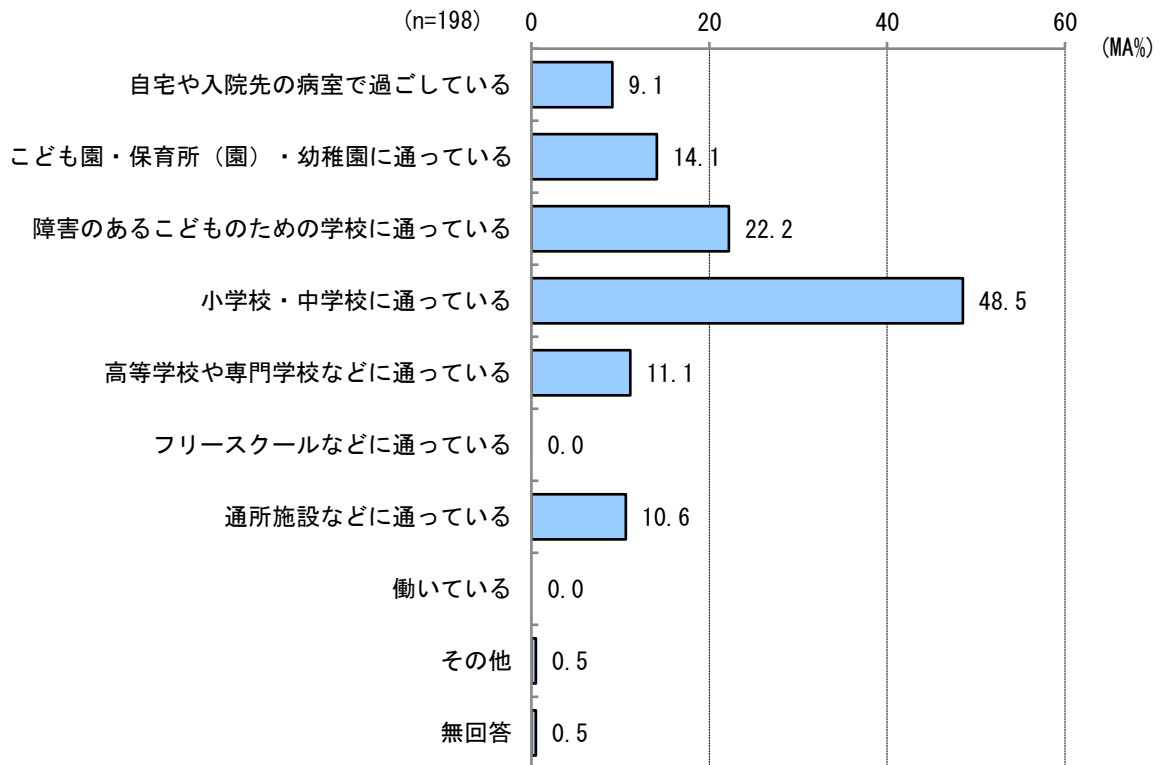
日中の過ごし方については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「障害のある人のための施設で活動している」が44.3%で最も多く、次いで「自宅や入院先の病室で過ごしている」が24.7%、「通院したり機能訓練を受けている」が15.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「自宅や入院先の病室で過ごしている」が33.6%で最も多く、次いで「家事を専業としている」が25.4%、「通院したり機能訓練を受けている」が13.6%となっています。



### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、「小学校・中学校に通っている」が48.5%で最も多く、次いで「障害のあるこどものための学校に通っている」が22.2%、「こども園・保育所（園）・幼稚園に通っている」が14.1%となっています。

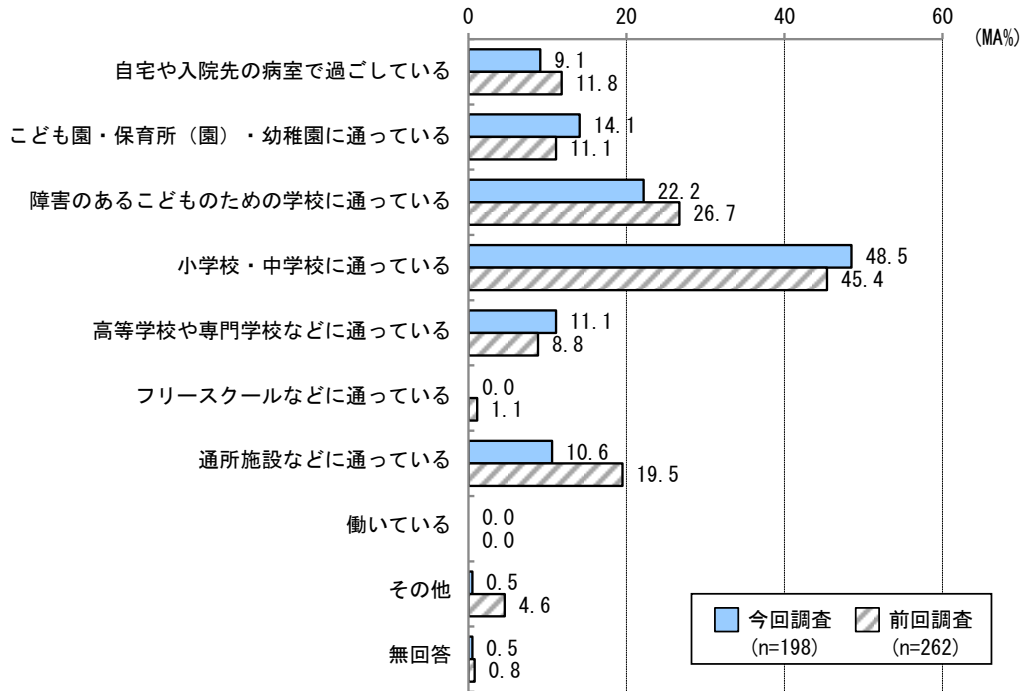


《経年比較及びクロス集計表》

18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「通所施設などに通っている」の割合は前回調査より8.9ポイント低くなっています。

年齢別でみると、「自宅や入院先の病室で過ごしている」の割合は15～17歳（16.7%）で最も高くなっています。



※前回調査の「障害のある子どものための学校に通っている」は、今回調査では「障害のあるこどものための学校に通っている」に変更しています。

	サンプル数	自宅や入院先の病室で過ごしている	こども園・保育所に通っている	障害のあるこどものための学校に通っている	小学校・中学校に通っている	高等学校や専門学校などに通っている	フリースクールなどに通っている	通所施設などに通っている	働いている	その他	無回答
全体	198	9.1	14.1	22.2	48.5	11.1	-	10.6	-	0.5	0.5
居住地別	北西部圏域	38	5.3	15.8	23.7	55.3	5.3	-	7.9	-	-
	北中部圏域	32	6.3	12.5	25.0	53.1	6.3	-	9.4	-	-
	北東部圏域	32	6.3	9.4	28.1	37.5	18.8	-	9.4	-	-
	中部圏域	18	5.6	16.7	16.7	38.9	22.2	-	11.1	-	5.6
	中東部圏域	23	4.3	13.0	21.7	52.2	13.0	-	4.3	-	4.3
	中西部圏域	25	12.0	16.0	16.0	56.0	8.0	-	12.0	-	-
	南部圏域	21	23.8	19.0	19.0	42.9	9.5	-	23.8	-	-
年齢別	0～4歳	10	10.0	100.0	-	-	-	-	10.0	-	-
	5～9歳	67	6.0	26.9	20.9	49.3	1.5	-	13.4	-	-
	10～14歳	81	7.4	-	24.7	70.4	-	-	7.4	-	1.2
	15～17歳	36	16.7	-	25.0	11.1	55.6	-	13.9	-	2.8
障害種別	身体障害	47	10.6	17.0	23.4	46.8	8.5	-	8.5	-	-
	知的障害	161	7.5	14.9	25.5	47.2	8.7	-	11.8	-	0.6
	精神障害	16	18.8	6.3	12.5	50.0	25.0	-	12.5	-	-
	難病	16	-	18.8	25.0	43.8	12.5	-	-	-	-
	発達障害	55	12.7	9.1	12.7	60.0	14.5	-	16.4	-	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

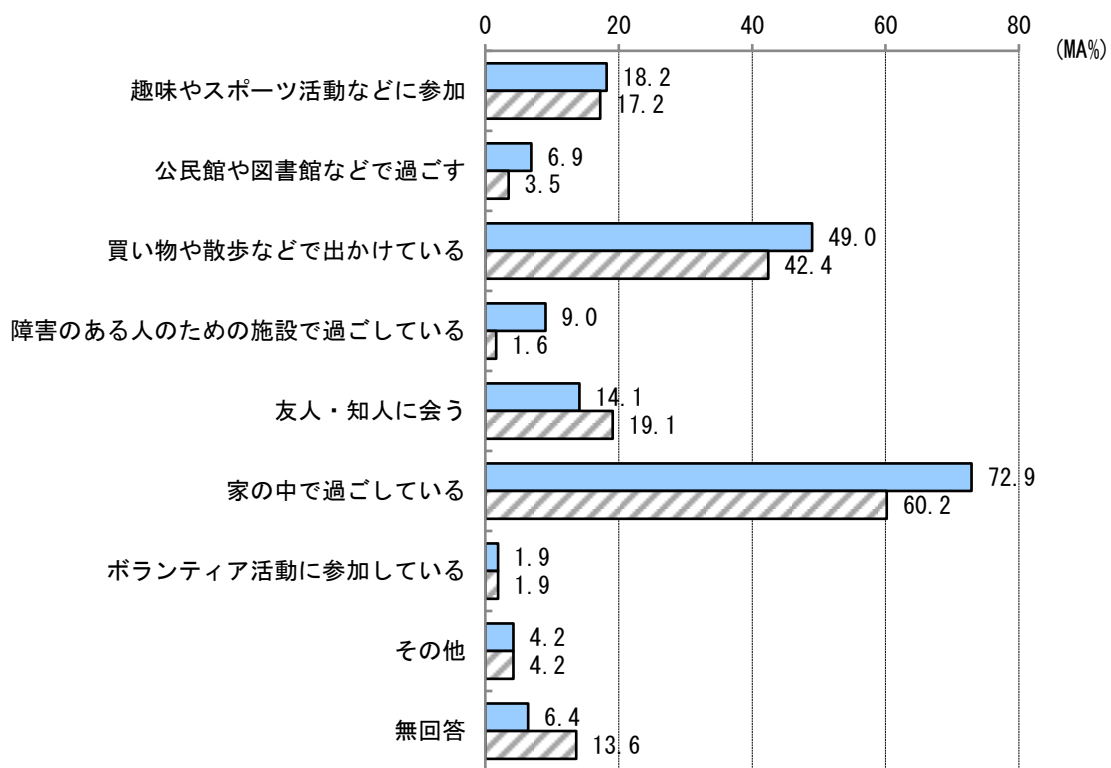
## (7) 休日などの過ごし方

問 仕事や施設での日中活動、学校などが終わった後、休みの日などに、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

### 18歳以上の障害のある市民（調査①②）

休日などの過ごし方については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「家の中で過ごしている」が72.9%で最も多く、次いで「買い物や散歩などで出かけている」が49.0%、「趣味やスポーツ活動などに参加」が18.2%となっています。

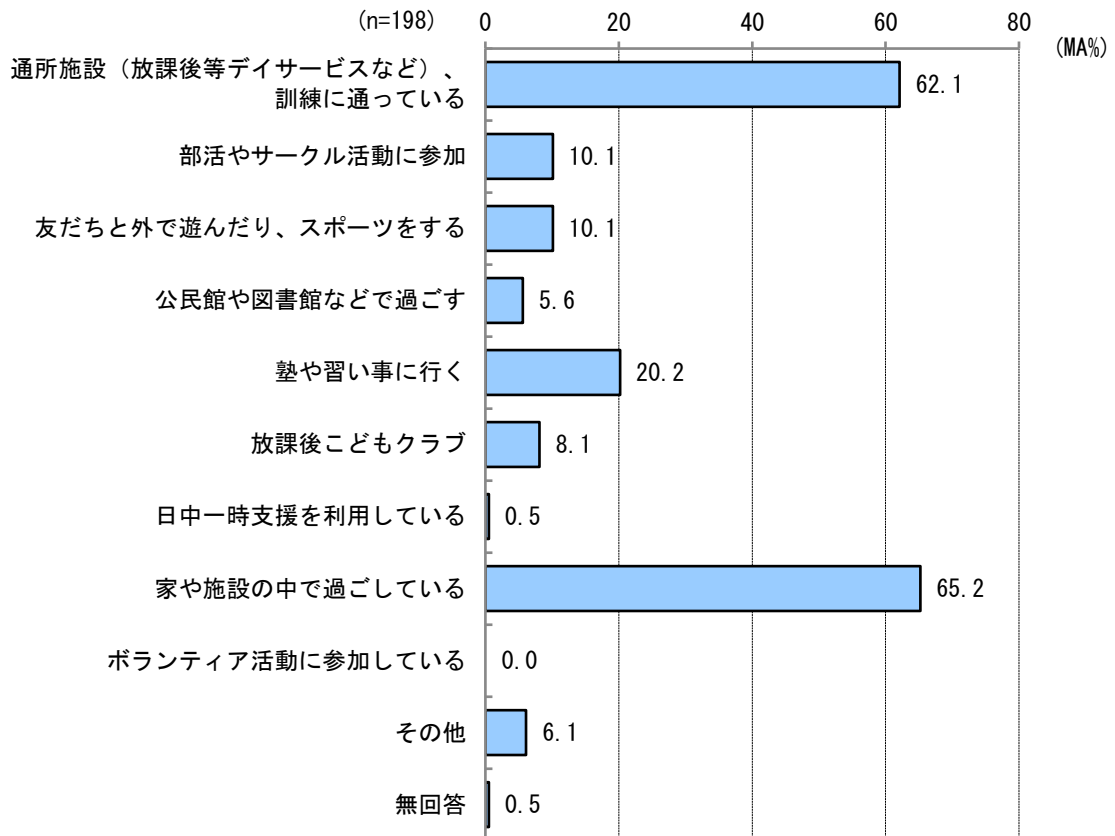
18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「家の中で過ごしている」が60.2%で最も多く、次いで「買い物や散歩などで出かけている」が42.4%、「友人・知人に会う」が19.1%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者 (n=576)  
 ▨ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (n=425)

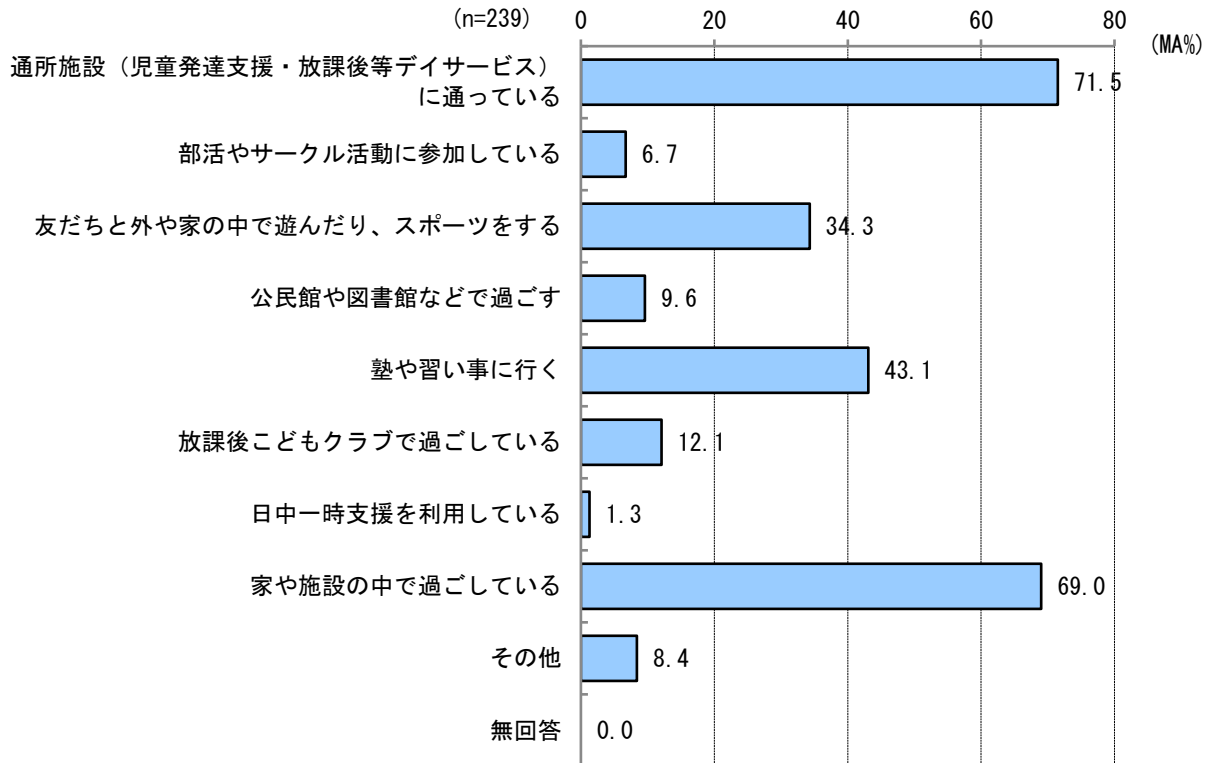
### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、「家や施設の中で過ごしている」が65.2%で最も多く、次いで「通所施設（放課後等デイサービスなど）、訓練に通っている」が62.1%、「塾や習い事に行く」が20.2%、「部活やサークル活動に参加」と「友だちと外で遊んだり、スポーツをする」がそれぞれ10.1%となっています。



### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「通所施設（児童発達支援・放課後等デイサービス）に通っている」が71.5%で最も多く、次いで「家や施設の中で過ごしている」が69.0%、「塾や習い事に行く」が43.1%となっています。

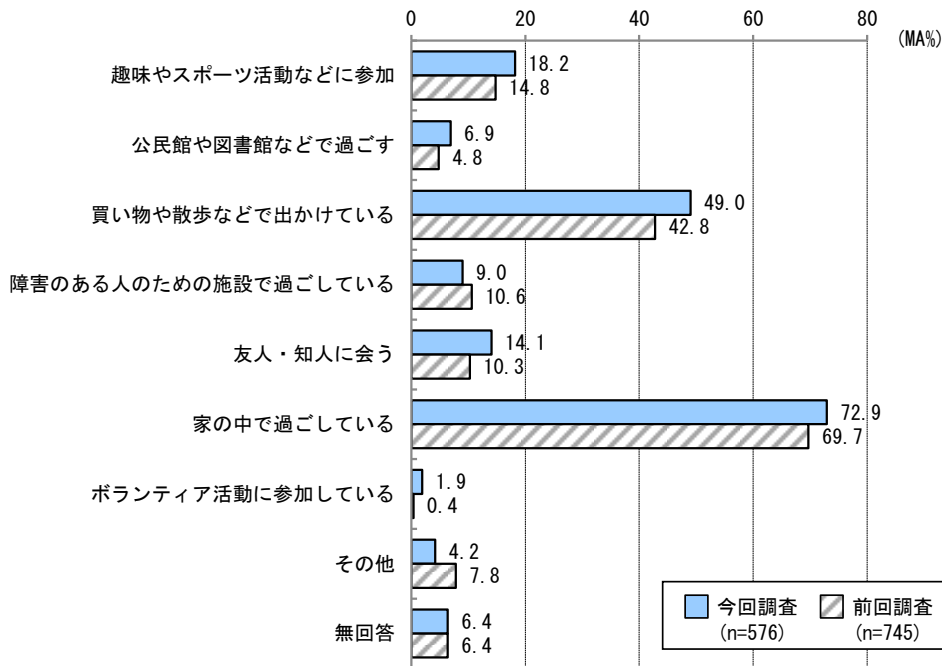


《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「障害のある人のための施設で過ごしている」を除く項目で前回調査より高い割合となっています。

居住地別でみると、「買い物や散歩などで出かけている」の割合は、北西部圏域（50.0%）、北東部圏域（58.8%）、中東部圏域（59.6%）、南部圏域（55.2%）で5割台と高くなっています。



		サンプル数	趣味やスポーツ活動などに参加	公民館や図書館などで過ごす	買い物や散歩などで出かけている	障害のある人のための施設で過ごしている	友人・知人に会う	家の中で過ごしている	ボランティア活動に参加している	その他	無回答
全体		576	18.2	6.9	49.0	9.0	14.1	72.9	1.9	4.2	6.4
居住地別	北西部圏域	96	14.6	6.3	50.0	11.5	8.3	75.0	1.0	5.2	6.3
	北中部圏域	69	27.5	8.7	49.3	5.8	7.2	75.4	-	2.9	7.2
	北東部圏域	68	25.0	7.4	58.8	13.2	17.6	75.0	4.4	7.4	2.9
	中部圏域	81	24.7	3.7	40.7	9.9	8.6	75.3	3.7	2.5	3.7
	中東部圏域	52	9.6	7.7	59.6	3.8	13.5	80.8	-	1.9	-
	中西部圏域	83	13.3	3.6	38.6	9.6	16.9	65.1	1.2	3.6	10.8
	南部圏域	96	14.6	11.5	55.2	9.4	24.0	70.8	3.1	4.2	5.2
年齢別	18～39歳	222	25.7	6.3	53.6	8.6	14.4	76.1	1.4	3.6	3.2
	40～64歳	281	14.6	7.5	49.8	10.0	14.9	72.2	2.1	4.6	6.4
	65歳以上	66	10.6	7.6	33.3	6.1	10.6	66.7	3.0	4.5	13.6
障害種別	身体障害	181	12.2	3.9	38.1	10.5	8.3	69.6	2.2	3.3	9.4
	知的障害	230	17.8	4.3	52.2	14.8	7.8	67.0	1.3	4.3	6.5
	精神障害	220	17.7	9.1	49.1	5.9	21.8	80.5	2.3	4.5	4.5
	難病	27	14.8	11.1	44.4	11.1	11.1	88.9	3.7	3.7	3.7
	発達障害	84	20.2	8.3	47.6	14.3	13.1	73.8	1.2	8.3	6.0
	高次脳機能障害	15	26.7	13.3	66.7	13.3	26.7	53.3	6.7	-	13.3
身障種類別	視覚障害	35	11.4	-	31.4	2.9	8.6	80.0	2.9	2.9	14.3
	聴覚障害・平衡機能障害	10	10.0	10.0	50.0	20.0	10.0	50.0	-	10.0	10.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	4.8	9.5	33.3	23.8	4.8	57.1	4.8	4.8	9.5
	肢体不自由	102	15.7	5.9	38.2	9.8	4.9	72.5	2.9	2.0	5.9
	内部障害	20	10.0	5.0	65.0	15.0	25.0	65.0	-	-	10.0

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

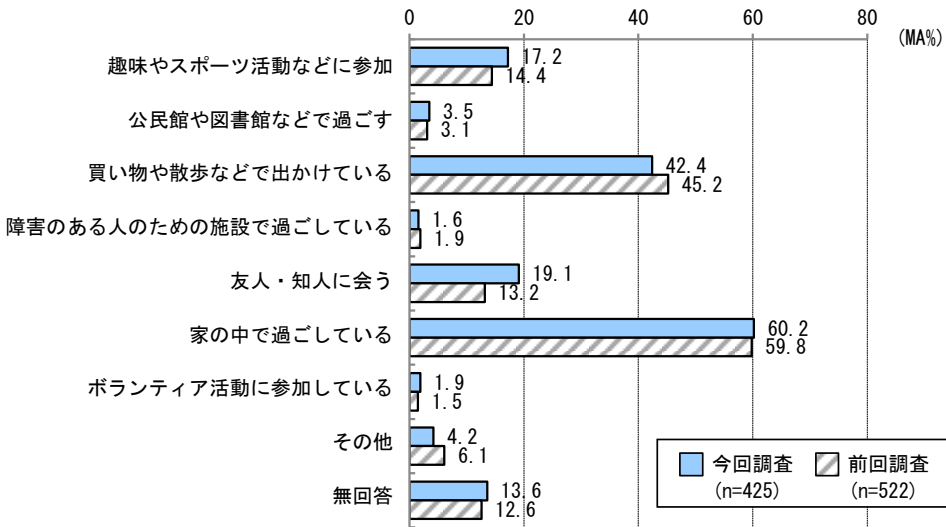
単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「友人・知人に会う」の割合が前回調査より5.9ポイント高くなっています。

居住地別でみると、「趣味やスポーツ活動などに参加」の割合は北中部圏域（23.8%）が最も高く、「障害のある人のための施設で過ごしている」、「友人・知人に会う」の割合では中東部圏域で最も高くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、「趣味やスポーツ活動などに参加」、「買い物や散歩などで出かけている」、「友人・知人に会う」ではできていると感じている人のほうが10ポイント以上高くなっています。



	サンプル数	趣味やスポーツ活動などに参加	公民館や図書館などで過ごす	買い物や散歩などで出かけている	障害のある人のための施設で過ごしている	友人・知人に会う	家の中で過ごしている	ボランティア活動に参加している	その他	無回答	
全体	425	17.2	3.5	42.4	1.6	19.1	60.2	1.9	4.2	13.6	
居住地別	北西部圏域	62	19.4	6.5	45.2	1.6	21.0	64.5	-	6.5	12.9
	北中部圏域	63	23.8	4.8	39.7	1.6	20.6	61.9	1.6	-	12.7
	北東部圏域	69	20.3	1.4	46.4	-	14.5	56.5	4.3	4.3	15.9
	中部圏域	56	19.6	1.8	33.9	-	14.3	66.1	3.6	7.1	8.9
	中東部圏域	51	17.6	5.9	47.1	7.8	27.5	58.8	2.0	7.8	5.9
	中西部圏域	54	5.6	3.7	48.1	-	11.1	64.8	-	3.7	13.0
	南部圏域	60	10.0	1.7	38.3	1.7	23.3	50.0	1.7	1.7	21.7
年齢別	18～39歳	24	16.7	4.2	41.7	-	16.7	79.2	-	4.2	-
	40～64歳	116	21.6	5.2	52.6	1.7	23.3	72.4	0.9	5.2	6.9
	65歳以上	280	15.0	2.9	38.2	1.8	17.5	53.6	2.5	3.6	17.5
障害種別	身体障害	278	17.3	2.9	38.5	2.2	18.7	57.2	2.5	3.6	15.1
	知的障害	14	7.1	-	35.7	-	7.1	71.4	-	7.1	14.3
	精神障害	61	19.7	4.9	45.9	1.6	14.8	75.4	-	8.2	9.8
	難病	68	13.2	4.4	52.9	-	22.1	58.8	1.5	1.5	13.2
	発達障害	10	40.0	10.0	30.0	-	-	70.0	-	10.0	-
	高次脳機能障害	2	-	-	100.0	-	-	100.0	-	-	-
身障種別	視覚障害	25	16.0	4.0	40.0	-	16.0	68.0	-	4.0	16.0
	聴覚障害・平衡機能障害	26	30.8	7.7	65.4	3.8	30.8	57.7	-	-	23.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	-	-	25.0	-	12.5	87.5	-	-	12.5
	肢体不自由	117	12.8	0.9	28.2	1.7	16.2	52.1	1.7	4.3	19.7
	内部障害	95	20.0	3.2	46.3	2.1	21.1	57.9	5.3	2.1	10.5
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい（感じる）	278	21.2	4.0	48.9	1.4	24.5	60.4	2.5	4.0	10.8
	いいえ（感じない）	120	10.0	3.3	30.8	2.5	7.5	63.3	-	3.3	15.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

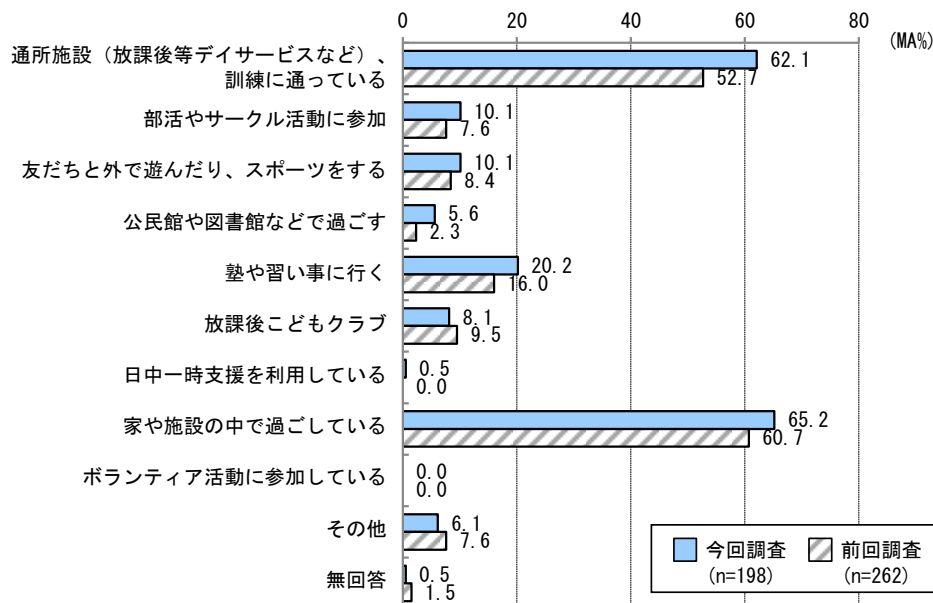
18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「通所施設（放課後等デイサービスなど）、訓練に通っている」の割合が前回調査より9.4ポイント高くなっています。

居住地別でみると、北西部・北東部圏域では「家や施設の中で過ごしている」が最も多いですが、北中部圏域では「通所施設（放課後等デイサービスなど）、訓練に通っている」が最も多くなっています。

年齢別でみると、5～9歳では「通所施設（放課後等デイサービスなど）、訓練に通っている」の割合（77.6%）が最も多くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、「家や施設の中で過ごしている」の割合はできていないと感じている人のほうが7.1ポイント高くなっています。



	サンプル数	通所施設（放課後等デイサービスなど）に通っている	部活やサークル活動に参加している	友だちと外で遊んだり、スポーツをする	公民館や図書館などで過ごす	塾や習い事に行く	放課後子どもクラブ	日中一時支援を利用している	家や施設の中で過ごしている	ボランティア活動に参加している	その他	無回答	
全体	198	62.1	10.1	10.1	5.6	20.2	8.1	0.5	65.2	-	6.1	0.5	
居住地別	北西部圏域	38	65.8	10.5	13.2	2.6	23.7	-	71.1	-	5.3	-	
	北中部圏域	32	65.6	9.4	6.3	3.1	21.9	-	43.8	-	9.4	-	
	北東部圏域	32	43.8	21.9	18.8	12.5	28.1	6.3	-	68.8	-	3.1	
	中部圏域	18	66.7	5.6	-	5.6	5.6	5.6	-	55.6	-	5.6	5.6
	中東部圏域	23	56.5	4.3	8.7	-	21.7	8.7	-	60.9	-	13.0	-
	中西部圏域	25	68.0	12.0	4.0	12.0	12.0	4.0	4.0	76.0	-	4.0	-
	南部圏域	21	76.2	-	14.3	-	19.0	4.8	-	76.2	-	-	-
年齢別	0～4歳	10	30.0	-	-	-	-	-	90.0	-	20.0	-	
	5～9歳	67	77.6	1.5	13.4	7.5	17.9	14.9	-	59.7	-	3.0	
	10～14歳	81	59.3	16.0	11.1	7.4	24.7	4.9	-	70.4	-	3.7	1.2
	15～17歳	36	50.0	13.9	5.6	-	22.2	-	2.8	58.3	-	13.9	-
障害種別	身体障害	47	48.9	14.9	12.8	6.4	23.4	10.6	-	61.7	-	4.3	-
	知的障害	161	67.1	7.5	8.1	4.3	16.1	8.1	0.6	64.0	-	6.2	0.6
	精神障害	16	62.5	12.5	6.3	6.3	25.0	6.3	-	68.8	-	6.3	-
	難病	16	62.5	6.3	-	6.3	12.5	6.3	-	50.0	-	6.3	-
	発達障害	55	76.4	9.1	5.5	1.8	21.8	9.1	-	70.9	-	10.9	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい（感じる）	130	63.8	11.5	12.3	7.7	22.3	8.5	0.8	63.8	-	6.2	0.8
	いいえ（感じない）	55	61.8	3.6	3.6	1.8	14.5	7.3	-	70.9	-	5.5	-

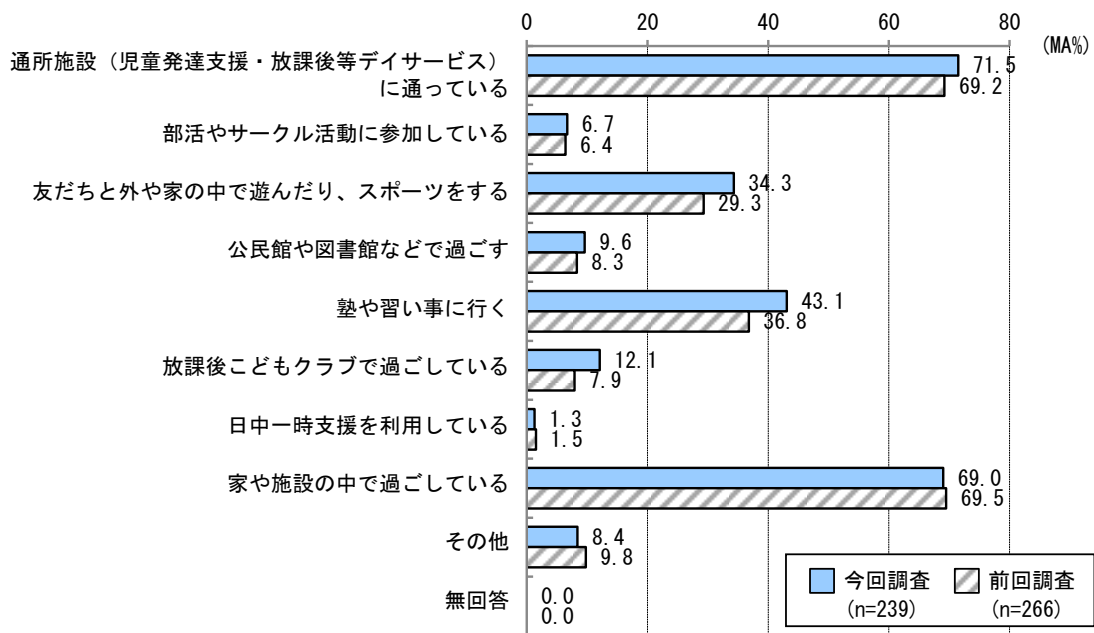
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、「塾や習い事に行く」の割合は前回調査より6.3ポイント、「友だちと外や家の中で遊んだり、スポーツをする」の割合は前回調査より5.0ポイント、それぞれ高くなっています。

年齢別でみると、「部活やサークル活動に参加している」、「友だちと外や家の中で遊んだり、スポーツをする」、「塾や習い事に行く」の割合は年齢が上がるにつれ、割合が高くなっています。

所属先別でみると、「公民館や図書館などで過ごす」、「日中一時支援を利用している」、「家や施設の中で過ごしている」の割合はいずれも小学校入学前のほうが高くなっています。



※前回調査の「通所施設（放課後等デイサービスなど）に通っている」は、今回調査では「通所施設（児童発達支援・放課後等デイサービス）に通っている」に変更しています。

※前回調査の「部活やサークル活動に参加」は、今回調査では「部活やサークル活動に参加している」に変更しています。

※前回調査の「放課後子どもクラブ」は、今回調査では「放課後子どもクラブで過ごしている」に変更しています。

	サンプル数	通所施設（児童発達支援・放課後等デイサービス）に通っている	部活やサークル活動に参加している	友だちと外や家の中で遊んだり、スポーツをする	公民館や図書館などで過ごす	塾や習い事に行く	放課後子どもクラブで過ごしている	日中一時支援を利用している	家や施設の中で過ごしている	その他	無回答
全体	239	71.5	6.7	34.3	9.6	43.1	12.1	1.3	69.0	8.4	-
年齢別	0～4歳	67	1.5	19.4	9.0	14.9	-	1.5	70.1	9.0	-
	5～9歳	129	3.9	39.5	12.4	51.9	20.9	1.6	70.5	9.3	-
	10～17歳	43	23.3	41.9	2.3	60.5	4.7	-	62.8	4.7	-
所属先別	小学校入学前	112	2.7	21.4	11.6	24.1	0.9	1.8	74.1	8.0	-
	小学校入学後	127	10.2	45.7	7.9	59.8	22.0	0.8	64.6	8.7	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

## (8) 希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方

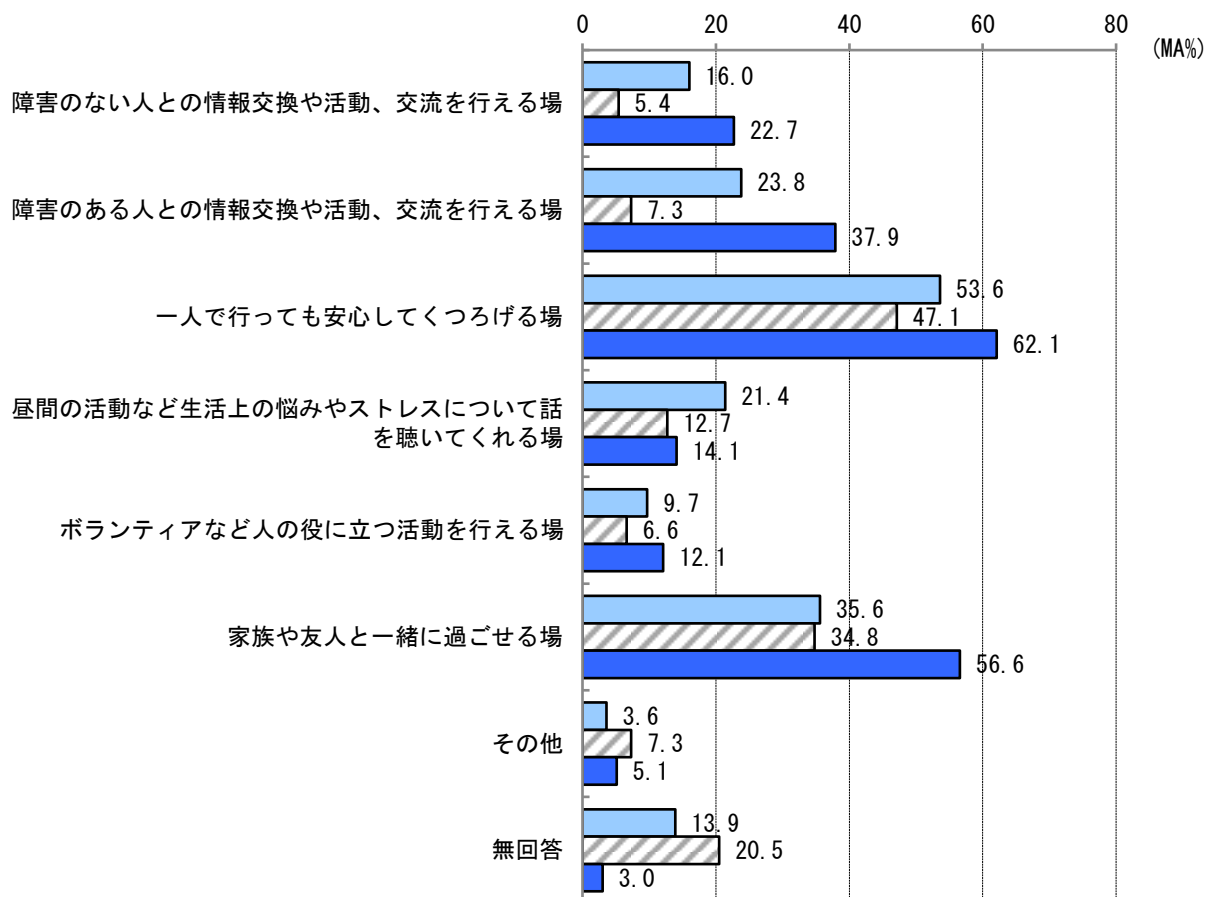
問 平日の夕方や夜間、休日などの居場所や活動の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

### 障害のある市民 (調査①②③)

希望する平日の夕方や夜間、休日の居場所・過ごし方については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が53.6%で最も多く、次いで「家族や友人と一緒に過ごせる場」が35.6%、「障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場」が23.8%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が47.1%で最も多く、次いで「家族や友人と一緒に過ごせる場」が34.8%、「昼間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場」が12.7%となっています。

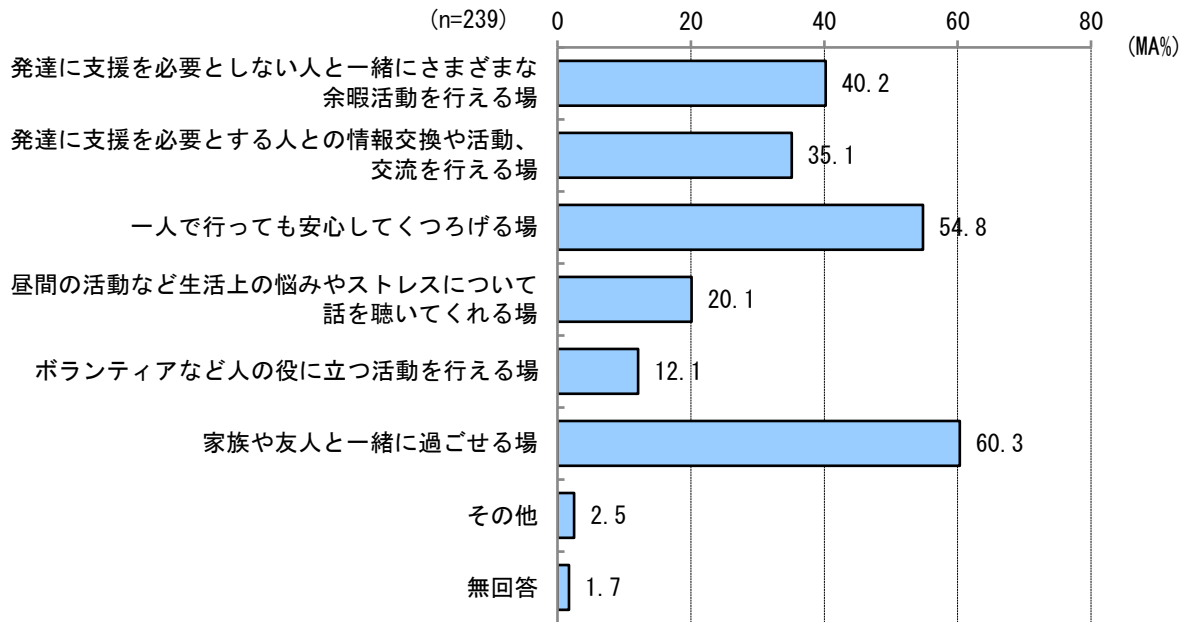
18歳未満の障害のある市民では、「一人で行っても安心してくつろげる場」が62.1%で最も多く、次いで「家族や友人と一緒に過ごせる場」が56.6%、「障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場」が37.9%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者 (n=576)
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (n=425)
 ■ 18歳未満の障害のある市民 (n=198)

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「家族や友人と一緒に過ごせる場」が60.3%で最も多く、次いで「一人で行っても安心してくつろげる場」が54.8%、「発達に支援を必要としない人と一緒にさまざまな余暇活動を行える場」が40.2%となっています。

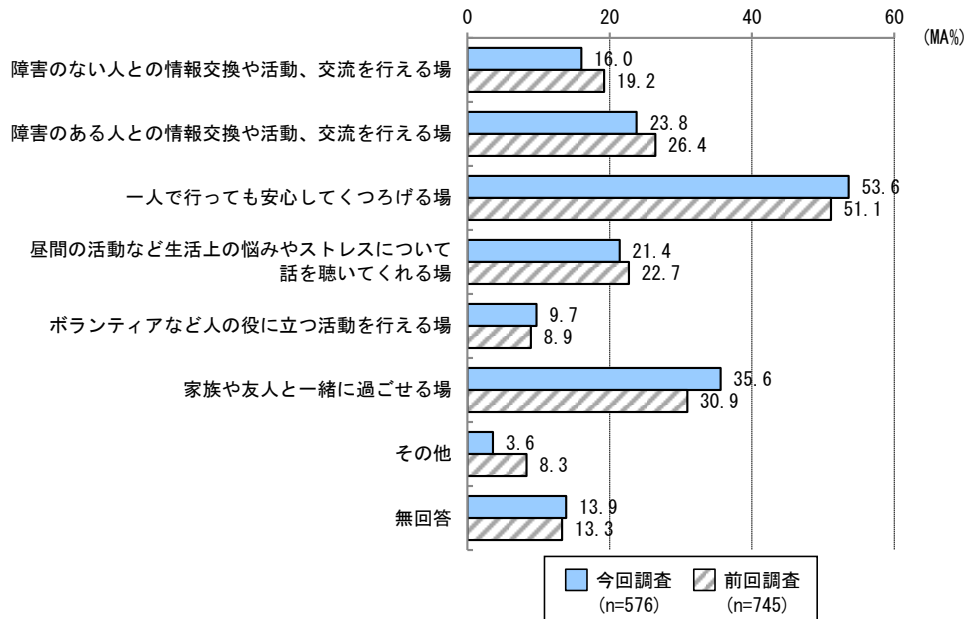


《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「障害のない人との情報交換や活動、交流を行える場」の割合が前回調査より3.2ポイント低く、「家族や友人と一緒に過ごせる場」の割合が前回調査より4.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「障害のない人との情報交換や活動、交流を行える場」と「家族や友人と一緒に過ごせる場」を除く項目で、若い年代ほど割合が高くなっています。



	サンプル数	障害のない人との情報交換	障害のある人との情報交換	一人で行って安心してくつろげる場	聴いたり話したりする場	昼間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場	ボランティアなど人の役に立つ活動を行える場	家族や友人と一緒に過ごせる場	その他	無回答
全体	576	16.0	23.8	53.6	21.4	9.7	35.6	3.6	13.9	
居住地別	北西部圏域	96	18.8	26.0	50.0	20.8	7.3	32.3	2.1	21.9
	北中部圏域	69	14.5	17.4	55.1	20.3	11.6	31.9	2.9	11.6
	北東部圏域	68	16.2	32.4	57.4	25.0	14.7	39.7	1.5	13.2
	中部圏域	81	21.0	23.5	58.0	23.5	14.8	39.5	4.9	7.4
	中東部圏域	52	17.3	38.5	61.5	17.3	3.8	44.2	5.8	3.8
	中西部圏域	83	9.6	16.9	50.6	18.1	8.4	28.9	7.2	19.3
	南部圏域	96	14.6	22.9	51.0	27.1	9.4	38.5	2.1	11.5
年齢別	18～39歳	222	15.3	27.5	56.3	24.3	10.8	40.5	4.5	9.5
	40～64歳	281	17.4	25.6	52.7	23.5	9.6	31.3	3.6	15.3
	65歳以上	66	12.1	6.1	48.5	3.0	7.6	40.9	1.5	19.7
障害種別	身体障害	181	18.2	19.3	41.4	11.6	7.2	32.6	3.3	21.5
	知的障害	230	15.2	23.0	43.0	14.8	7.0	41.3	5.2	15.2
	精神障害	220	15.5	28.2	65.9	34.5	13.2	29.1	3.6	10.9
	難病	27	11.1	18.5	40.7	22.2	11.1	33.3	7.4	11.1
	発達障害	84	15.5	31.0	54.8	31.0	10.7	38.1	7.1	15.5
	高次脳機能障害	15	13.3	20.0	60.0	6.7	26.7	46.7	-	13.3
	身障種別	35	22.9	20.0	42.9	11.4	5.7	42.9	5.7	22.9
聴覚障害・平衡機能障害	10	10.0	30.0	70.0	-	20.0	30.0	-	30.0	
音声・言語・そしゃく機能障害	21	4.8	14.3	28.6	9.5	4.8	38.1	4.8	33.3	
肢体不自由	102	19.6	20.6	37.3	11.8	5.9	30.4	3.9	18.6	
内部障害	20	25.0	15.0	50.0	15.0	10.0	40.0	-	20.0	
ライフスタイルに応じた生活ができていないか別	はい（感じる）	333	15.9	22.8	52.3	18.6	8.7	36.0	3.6	12.3
	いいえ（感じない）	216	17.6	27.3	57.9	27.3	11.6	36.6	4.2	12.5

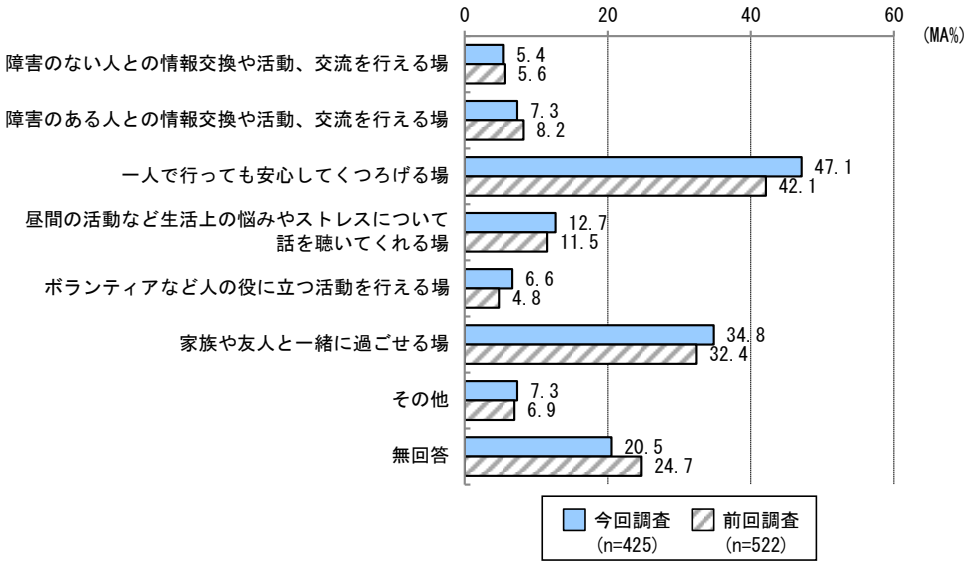
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「一人で行っても安心してくつろげる場」の割合が前回調査より5.0ポイント高くなっています。

障害種別でみると、「障害のない人との情報交換や活動、交流を行える場」、「障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場」、「一人で行っても安心してくつろげる場」、「昼間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場」の割合は、それぞれ精神障害で最も高くなっています。



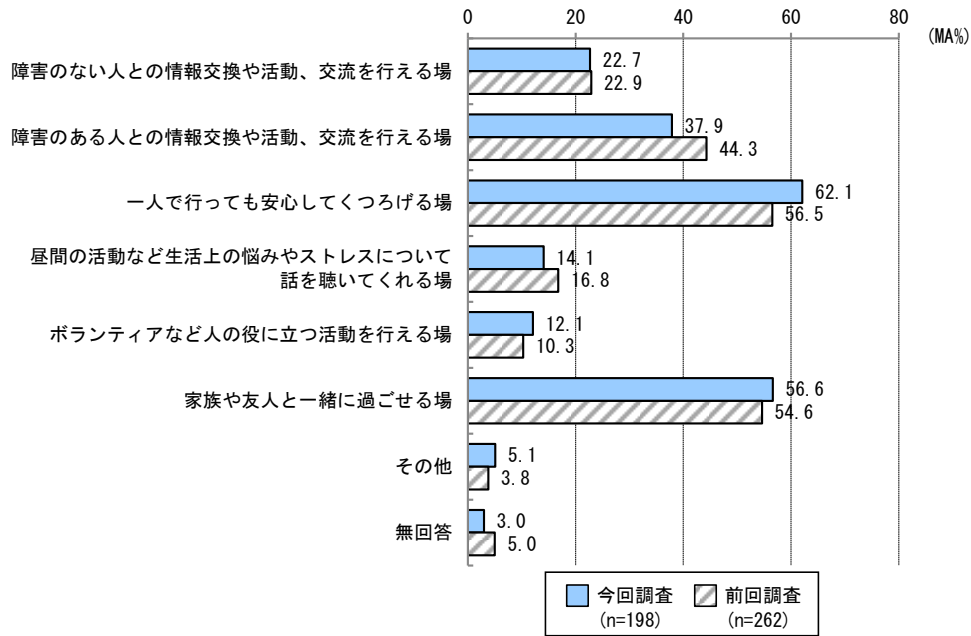
	サンプル数	場や活動のない交流を行える場	障害のある人との情報交換	一人で行っても安心して	話を聴いてくれる場	昼間の活動など生活上の	ボランティアなど人の役に立つ活動を行える場	家族や友人と一緒に過ごせる場	その他	無回答
全体	425	5.4	7.3	47.1	12.7	6.6	34.8	7.3	20.5	
居住地別	北西部圏域	62	3.2	8.1	51.6	14.5	12.9	37.1	6.5	12.9
	北中部圏域	63	9.5	7.9	46.0	12.7	3.2	28.6	11.1	19.0
	北東部圏域	69	4.3	5.8	46.4	8.7	10.1	31.9	8.7	29.0
	中部圏域	56	8.9	7.1	57.1	12.5	1.8	37.5	1.8	23.2
	中東部圏域	51	5.9	9.8	37.3	11.8	5.9	49.0	9.8	13.7
	中西部圏域	54	3.7	9.3	42.6	16.7	3.7	42.6	5.6	16.7
	南部圏域	60	3.3	3.3	50.0	11.7	8.3	25.0	5.0	25.0
年齢別	18～39歳	24	4.2	-	50.0	29.2	4.2	37.5	-	20.8
	40～64歳	116	8.6	12.9	58.6	17.2	8.6	38.8	5.2	15.5
	65歳以上	280	4.3	5.7	42.1	8.9	6.1	33.6	8.6	22.5
障害種別	身体障害	278	5.8	7.6	43.2	8.6	6.8	34.9	7.6	21.2
	知的障害	14	7.1	-	50.0	7.1	-	42.9	7.1	14.3
	精神障害	61	9.8	13.1	59.0	36.1	4.9	31.1	6.6	19.7
	難病	68	1.5	4.4	45.6	7.4	10.3	39.7	8.8	13.2
	発達障害	10	-	10.0	70.0	30.0	-	30.0	-	20.0
	高次脳機能障害	2	-	-	100.0	50.0	-	50.0	-	-
	身体障害	25	4.0	16.0	48.0	8.0	4.0	32.0	4.0	32.0
身障種別	聴覚障害・平衡機能障害	26	15.4	23.1	50.0	19.2	3.8	26.9	7.7	19.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	-	-	37.5	12.5	12.5	25.0	-	25.0
	肢体不自由	117	6.0	2.6	45.3	7.7	3.4	31.6	8.5	21.4
	内部障害	95	4.2	7.4	37.9	9.5	11.6	41.1	9.5	16.8
	ライフスタイルに応じた生活ができているか別									
はい（感じる）	278	5.0	6.1	47.5	12.2	6.5	36.7	5.8	18.3	
いいえ（感じない）	120	5.8	10.8	50.8	15.8	8.3	33.3	10.8	18.3	

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「一人で行っても安心してくつろげる場」の割合が前回調査より5.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場」の割合は5～9歳（53.7%）で最も高く、「ボランティアなど人の役に立つ活動を行える場」の割合は15～17歳（25.0%）で最も高くなっています。



	サンプル数	障害のない人との情報交換や活動を行える場	障害のある人との情報交換や活動を行える場	一人で行っても安心してくつろげる場	話を聴いてくれる場	悩みの活動など生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場	ボランティアなど人の役に立つ活動を行える場	家族や友人と一緒に過ごせる場	その他	無回答
全体	198	22.7	37.9	62.1	14.1	12.1	56.6	5.1	3.0	
居住地別	北西部圏域	38	21.1	36.8	57.9	5.3	15.8	52.6	10.5	5.3
	北中部圏域	32	25.0	37.5	65.6	18.8	12.5	46.9	3.1	3.1
	北東部圏域	32	18.8	34.4	62.5	3.1	12.5	59.4	-	-
	中部圏域	18	33.3	38.9	55.6	11.1	16.7	66.7	-	5.6
	中東部圏域	23	21.7	26.1	69.6	26.1	13.0	47.8	4.3	8.7
	中西部圏域	25	20.0	44.0	56.0	28.0	12.0	68.0	4.0	-
	南部圏域	21	28.6	52.4	66.7	14.3	4.8	57.1	9.5	-
年齢別	0～4歳	10	30.0	50.0	30.0	10.0	-	70.0	10.0	-
	5～9歳	67	26.9	53.7	64.2	14.9	7.5	59.7	3.0	-
	10～14歳	81	21.0	27.2	61.7	14.8	12.3	55.6	3.7	7.4
	15～17歳	36	19.4	30.6	66.7	11.1	25.0	47.2	8.3	-
障害種別	身体障害	47	27.7	42.6	53.2	4.3	4.3	61.7	2.1	2.1
	知的障害	161	23.0	37.9	63.4	14.9	14.9	55.9	5.0	1.9
	精神障害	16	-	25.0	68.8	31.3	-	62.5	-	18.8
	難病	16	43.8	50.0	56.3	12.5	6.3	62.5	6.3	-
	発達障害	55	21.8	38.2	69.1	27.3	12.7	52.7	3.6	1.8
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ライフスタイルに応じた生活ができていないか別	はい（感じる）	130	21.5	35.4	60.8	13.8	10.0	53.1	2.3	3.1
	いいえ（感じない）	55	25.5	45.5	60.0	14.5	14.5	61.8	10.9	3.6

※ 濃い青は全体より10ポイント以上、薄い青は全体より5ポイント以上高い。

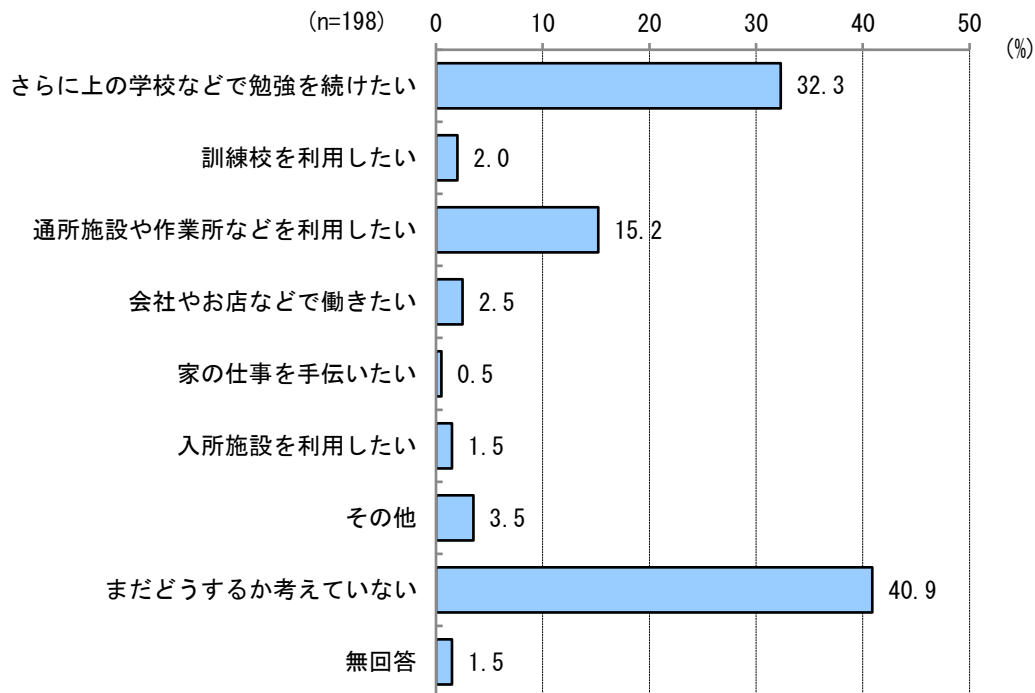
単位：%

## (9) 卒業後の進路

問 卒業後の進路はどのように考えていますか。(どれか1つに○)

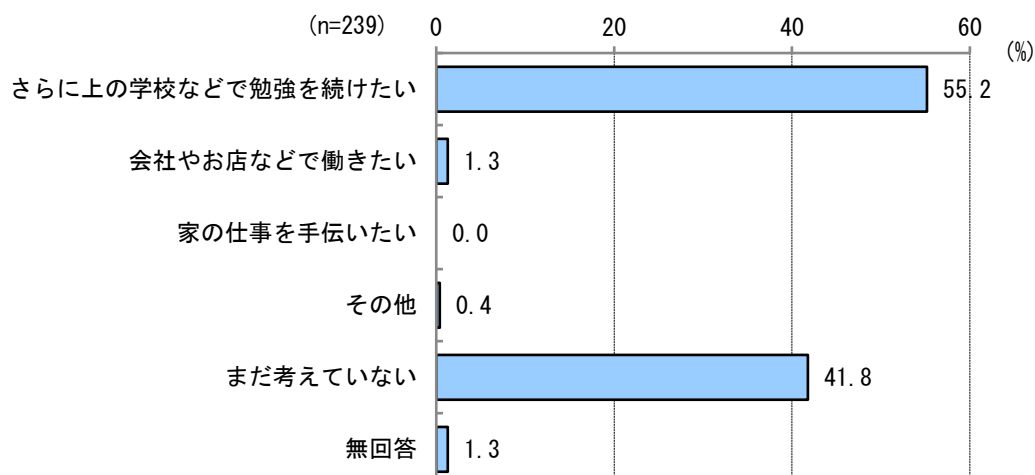
### 18歳未満の障害のある市民 (調査③)

卒業後の進路については、18歳未満の障害のある市民では、「まだどうするか考えていない」が40.9%で最も多く、次いで「さらに上の学校などで勉強を続けたい」が32.3%、「通所施設や作業所などを利用したい」が15.2%となっています。



### 通所受給者証を持つ児童 (調査⑤)

通所受給者証を持つ児童では、「さらに上の学校などで勉強を続けたい」が55.2%で最も多く、次いで「まだ考えていない」が41.8%、「会社やお店などで働きたい」が1.3%となっています。



## (10) 働くことに対する意識

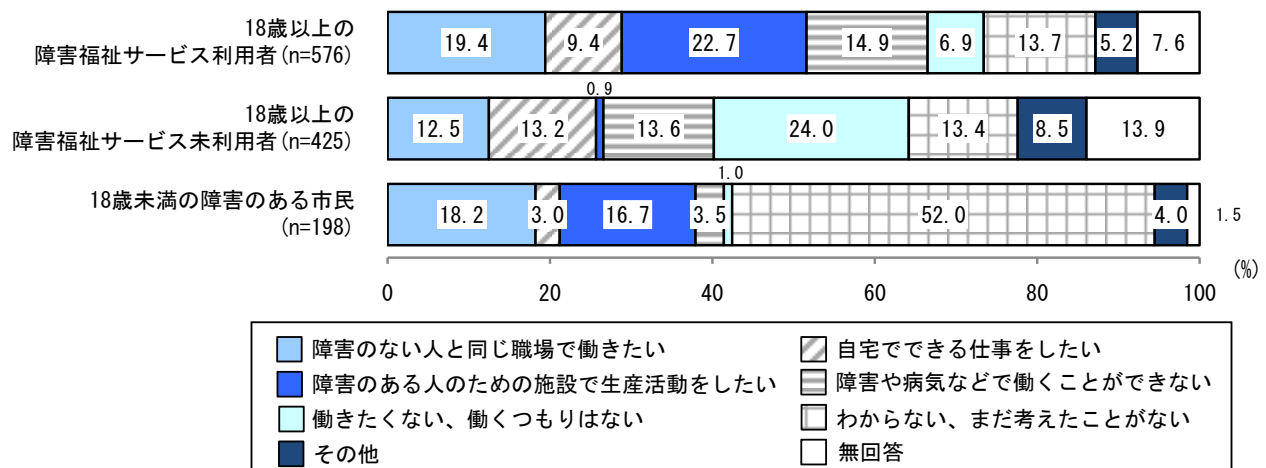
問 働くことについて、どのように考えていますか。(どれか1つに○)

### 障害のある市民 (調査①②③)

働くことに対する意識については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」が22.7%で最も多く、次いで「障害のない人と同じ職場で働きたい」が19.4%、「障害や病気などで働くことができない」が14.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「働きたくない、働くつもりはない」が24.0%で最も多く、次いで「障害や病気などで働くことができない」が13.6%、「わからない、まだ考えたことがない」が13.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「わからない、まだ考えたことがない」が52.0%で最も多く、次いで「障害のない人と同じ職場で働きたい」が18.2%、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」が16.7%となっています。



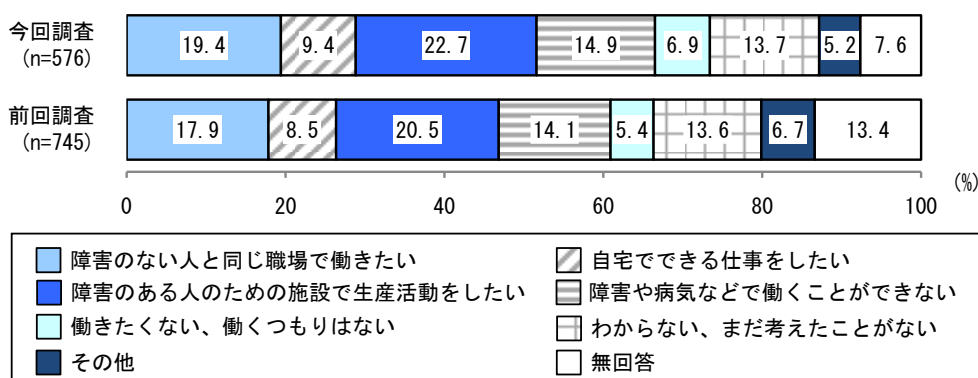
《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、いずれの項目も前回調査より高い割合となっています。

年齢別でみると、「障害のない人と同じ職場で働きたい」、「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」、「わからない、まだ考えたことがない」は若い年代ほど割合が高くなっています。

障害種別でみると、身体障害では「障害や病気などで働くことができない」（19.9%）、知的障害では「障害のある人のための施設で生産活動をしたい」（34.3%）、精神障害・発達障害では「障害のない人と同じ職場で働きたい」（精神26.4%、発達25.0%）が最も多くなっています。



	サンプル数	障害のない人と同じ職場で働きたい人と同じ職場	自宅のできる仕事をしたい	障害のある人のための施設で生産活動をした	障害や病気などで働くことができない	働きたくない、働くつもりはない	わからない、まだ考えたことがない	その他	無回答	
全体	576	19.4	9.4	22.7	14.9	6.9	13.7	5.2	7.6	
居住地別	北西部圏域	96	14.6	5.2	26.0	14.6	10.4	13.5	7.3	8.3
	北中部圏域	69	23.2	8.7	27.5	7.2	5.8	15.9	2.9	8.7
	北東部圏域	68	25.0	7.4	19.1	14.7	8.8	19.1	2.9	2.9
	中部圏域	81	22.2	8.6	22.2	19.8	4.9	12.3	4.9	4.9
	中東部圏域	52	26.9	11.5	21.2	13.5	5.8	3.8	11.5	5.8
	中西部圏域	83	14.5	18.1	25.3	14.5	3.6	8.4	6.0	9.6
	南部圏域	96	18.8	9.4	19.8	18.8	8.3	17.7	1.0	6.3
年齢別	18～39歳	222	23.0	7.7	27.5	13.1	1.8	14.9	7.7	4.5
	40～64歳	281	19.6	11.0	22.4	16.7	5.3	13.2	3.6	8.2
	65歳以上	66	7.6	9.1	9.1	15.2	31.8	12.1	3.0	12.1
障害種別	身体障害	181	12.2	7.7	18.8	19.9	13.8	12.7	4.4	10.5
	知的障害	230	13.5	1.7	34.3	14.8	2.6	19.6	5.2	8.3
	精神障害	220	26.4	15.5	16.4	13.6	5.0	11.8	6.4	5.0
	難病	27	11.1	11.1	11.1	48.1	3.7	7.4	3.7	3.7
	発達障害	84	25.0	6.0	27.4	16.7	-	10.7	10.7	3.6
	高次脳機能障害	15	26.7	20.0	26.7	6.7	6.7	-	6.7	6.7
身障種別	視覚障害	35	11.4	5.7	14.3	14.3	25.7	14.3	2.9	11.4
	聴覚障害・平衡機能障害	10	-	10.0	30.0	20.0	20.0	10.0	-	10.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	9.5	-	38.1	19.0	-	14.3	4.8	14.3
	肢体不自由	102	12.7	8.8	20.6	24.5	11.8	12.7	3.9	4.9
	内部障害	20	10.0	5.0	20.0	35.0	5.0	15.0	5.0	5.0

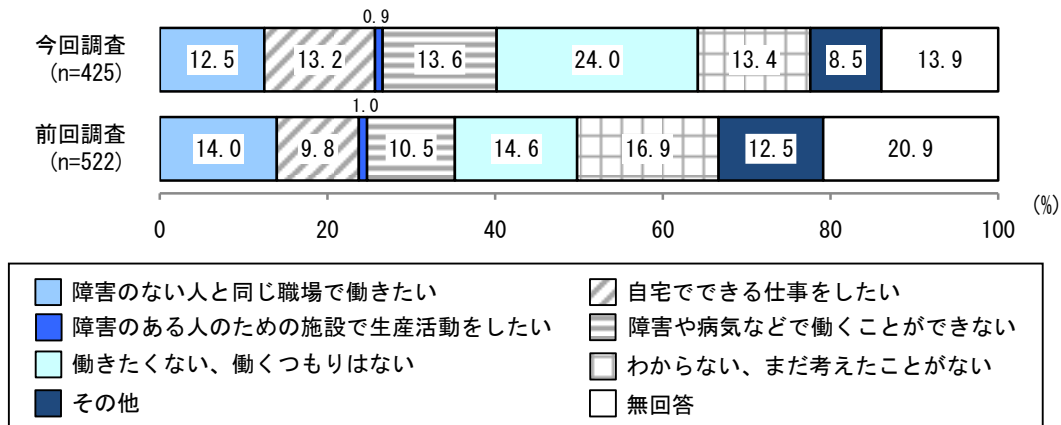
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「働きたくない、働くつもりはない」の割合が前回調査より9.4ポイント高くなっています。

障害種別でみると、精神障害と難病では「自宅でできる仕事をしたい」（精神26.2%、難病23.5%）が最も多くなっています。



		サンプル数	障害のない人と同じ職場で働きたい	自宅でできる仕事をしたい	0.9	13.6	24.0	13.4	8.5	13.9
全体		425	12.5	13.2	0.9	13.6	24.0	13.4	8.5	13.9
居住地別	北西部圏域	62	22.6	9.7	-	14.5	22.6	12.9	6.5	11.3
	北中部圏域	63	11.1	9.5	-	9.5	34.9	15.9	7.9	11.1
	北東部圏域	69	13.0	14.5	-	2.9	30.4	14.5	7.2	17.4
	中部圏域	56	5.4	17.9	3.6	10.7	32.1	14.3	3.6	12.5
	中東部圏域	51	13.7	15.7	2.0	13.7	19.6	15.7	9.8	9.8
	中西部圏域	54	14.8	7.4	-	20.4	20.4	14.8	14.8	7.4
	南部圏域	60	6.7	16.7	1.7	20.0	8.3	6.7	11.7	28.3
年齢別	18～39歳	24	29.2	29.2	-	-	4.2	16.7	8.3	12.5
	40～64歳	116	24.1	23.3	2.6	11.2	10.3	16.4	10.3	1.7
	65歳以上	280	6.1	7.1	0.4	15.7	31.4	12.1	7.9	19.3
障害種別	身体障害	278	10.4	9.4	0.7	14.7	26.6	14.0	6.5	17.6
	知的障害	14	21.4	7.1	-	-	7.1	42.9	14.3	7.1
	精神障害	61	13.1	26.2	1.6	18.0	13.1	11.5	11.5	4.9
	難病	68	17.6	23.5	1.5	14.7	17.6	8.8	11.8	4.4
	発達障害	10	20.0	20.0	-	-	20.0	20.0	10.0	10.0
	高次脳機能障害	2	-	-	-	-	50.0	50.0	-	-
身障種類別	視覚障害	25	12.0	8.0	-	12.0	32.0	8.0	12.0	16.0
	聴覚障害・平衡機能障害	26	15.4	3.8	3.8	11.5	26.9	7.7	7.7	23.1
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	-	12.5	-	37.5	12.5	25.0	-	12.5
	肢体不自由	117	5.1	8.5	-	19.7	31.6	10.3	5.1	19.7
	内部障害	95	15.8	10.5	1.1	13.7	22.1	20.0	6.3	10.5

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

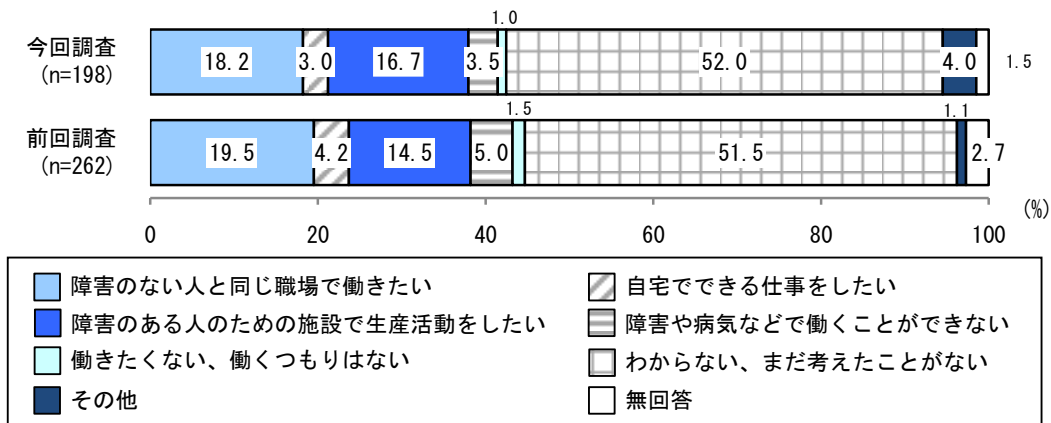
単位: %

18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、大きな差はみられません。

年齢別でみると、14歳までの年代では「わからない、まだ考えたことがない」が最も多いですが、15～17歳では「障害のない人と同じ職場で働きたい」（30.6%）が最も多くなっています。

障害種別でみると、「障害のない人と同じ職場で働きたい」の割合は身体障害（25.5%）で最も高くなっています。



	サンプル数	障害のない人と同じ職場で働きたい	障害のある人のための施設で生産活動をしたい	障害や病気などで働くことができない	わからない、まだ考えたことがない	働きたくない、働くつもりはない	その他	無回答		
全体	198	18.2	3.0	16.7	3.5	1.0	52.0	4.0	1.5	
居住地別	北西部圏域	38	5.3	13.2	15.8	2.6	-	55.3	5.3	2.6
	北中部圏域	32	28.1	-	15.6	6.3	-	50.0	-	-
	北東部圏域	32	37.5	-	28.1	3.1	3.1	28.1	-	-
	中部圏域	18	11.1	-	16.7	11.1	-	50.0	5.6	5.6
	中東部圏域	23	21.7	-	13.0	-	4.3	56.5	-	4.3
	中西部圏域	25	4.0	-	12.0	-	-	68.0	16.0	-
	南部圏域	21	9.5	4.8	14.3	4.8	-	61.9	4.8	-
年齢別	0～4歳	10	10.0	-	10.0	-	-	70.0	10.0	-
	5～9歳	67	10.4	-	9.0	4.5	-	71.6	4.5	-
	10～14歳	81	18.5	4.9	22.2	2.5	1.2	46.9	1.2	2.5
	15～17歳	36	30.6	5.6	19.4	5.6	2.8	25.0	8.3	2.8
障害種別	身体障害	47	25.5	2.1	4.3	14.9	-	51.1	2.1	-
	知的障害	161	13.0	1.9	19.3	4.3	1.2	53.4	5.0	1.9
	精神障害	16	25.0	12.5	6.3	-	6.3	50.0	-	-
	難病	16	25.0	-	6.3	25.0	-	37.5	6.3	-
	発達障害	55	18.2	7.3	12.7	-	-	54.5	5.5	1.8
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ ■■■ は全体より10ポイント以上、■■■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

## (11) 希望する支援

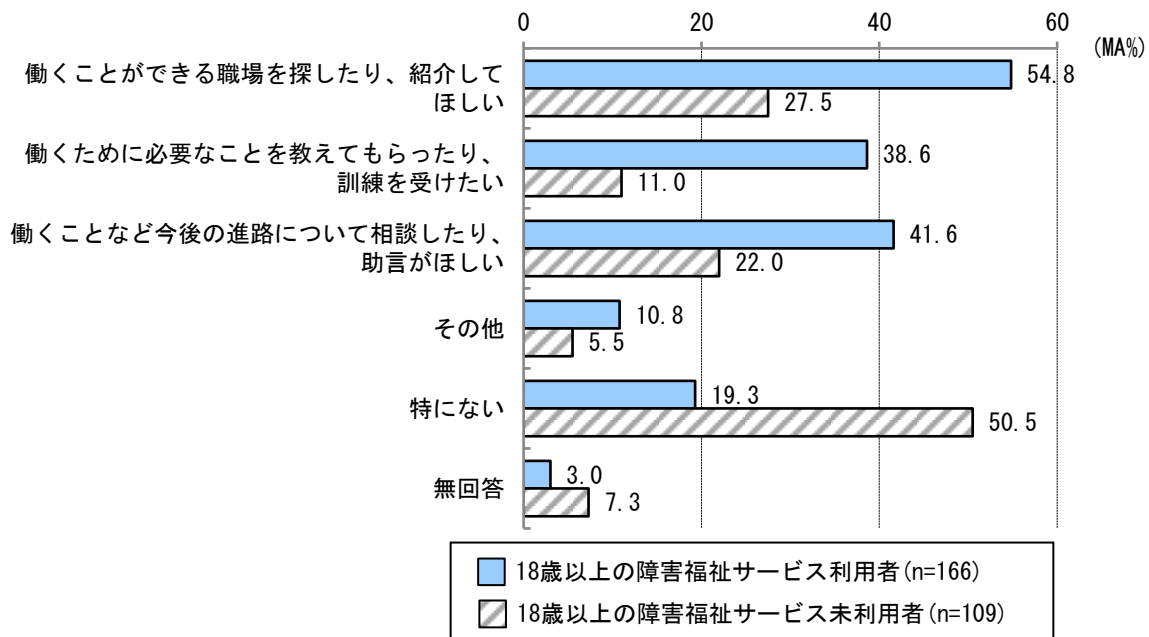
\* 『(10) 働くことに対する意識』で「1. 障害のない人と同じ職場で働きたい」「2. 自宅でできる仕事をしたい」と回答された方

問 仕事に就くために受けたい支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

### 18歳以上の障害のある市民（調査①②）

働きたいと回答した人に、希望する支援についてたずねると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が54.8%で最も多く、次いで「働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい」が41.6%、「働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい」が38.6%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「働くことができる職場を探したり、紹介してほしい」が27.5%で最も多く、次いで「働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい」が22.0%、「働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい」が11.0%となっています。

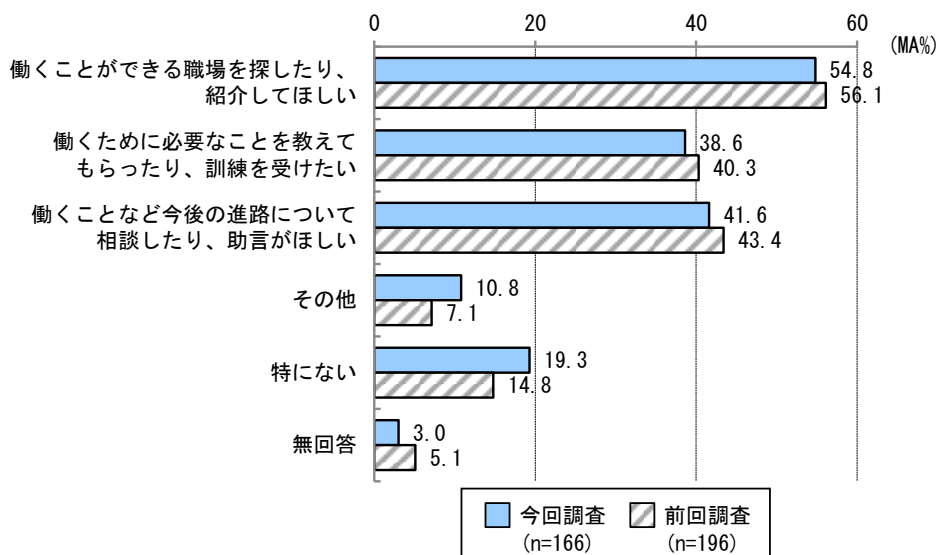


《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、いずれの項目も前回より割合が低くなっています。

年齢別でみると、いずれの項目も若い年代ほど割合が高くなっています。

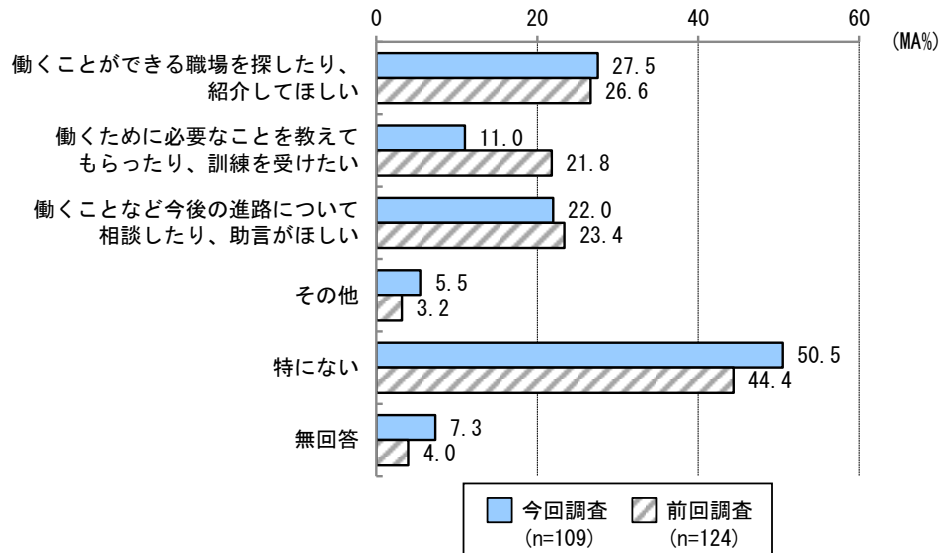


		サンプル数	働くことができる職場を探したり、紹介してほしい	働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい	働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい	その他	特にない	無回答
全体		166	54.8	38.6	41.6	10.8	19.3	3.0
居住地別	北西部圏域	19	57.9	42.1	42.1	15.8	15.8	5.3
	北中部圏域	22	59.1	45.5	36.4	9.1	18.2	-
	北東部圏域	22	63.6	45.5	68.2	13.6	18.2	-
	中部圏域	25	52.0	40.0	36.0	12.0	24.0	-
	中東部圏域	20	55.0	45.0	45.0	10.0	25.0	-
	中西部圏域	27	48.1	22.2	25.9	18.5	11.1	7.4
	南部圏域	27	55.6	33.3	44.4	-	22.2	7.4
年齢別	18～39歳	68	58.8	47.1	51.5	8.8	13.2	1.5
	40～64歳	86	53.5	36.0	39.5	14.0	20.9	2.3
	65歳以上	11	36.4	9.1	-	-	45.5	18.2
障害種別	身体障害	36	50.0	33.3	27.8	8.3	30.6	5.6
	知的障害	35	60.0	42.9	54.3	2.9	17.1	5.7
	精神障害	92	57.6	40.2	47.8	12.0	14.1	1.1
	難病	6	66.7	33.3	50.0	33.3	-	-
	発達障害	26	61.5	53.8	65.4	11.5	7.7	3.8
	高次脳機能障害	7	42.9	28.6	42.9	14.3	28.6	-
身障種別	視覚障害	6	83.3	33.3	33.3	-	16.7	-
	聴覚障害・平衡機能障害	1	-	-	-	100.0	-	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	2	100.0	50.0	50.0	-	-	-
	肢体不自由	22	40.9	31.8	27.3	9.1	36.4	4.5
	内部障害	3	66.7	66.7	66.7	-	-	33.3

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい」の割合が前回調査より10.8ポイント低くなっています。



		サンプル数	働くことができる職場を探したり、紹介してほしい	働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい	働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい	その他	特にない	無回答
全体		109	27.5	11.0	22.0	5.5	50.5	7.3
居住地別	北西部圏域	20	15.0	10.0	25.0	10.0	55.0	5.0
	北中部圏域	13	30.8	15.4	15.4	-	46.2	7.7
	北東部圏域	19	26.3	10.5	15.8	5.3	57.9	5.3
	中部圏域	13	23.1	23.1	38.5	-	53.8	-
	中東部圏域	15	40.0	13.3	26.7	6.7	53.3	6.7
	中西部圏域	12	33.3	8.3	16.7	16.7	33.3	8.3
	南部圏域	14	21.4	-	21.4	-	50.0	21.4
年齢別	18～39歳	14	35.7	-	42.9	-	42.9	7.1
	40～64歳	55	32.7	20.0	25.5	5.5	45.5	5.5
	65歳以上	37	18.9	2.7	5.4	8.1	62.2	10.8
障害種別	身体障害	55	30.9	9.1	16.4	3.6	52.7	5.5
	知的障害	4	50.0	25.0	50.0	-	50.0	-
	精神障害	24	41.7	20.8	41.7	12.5	25.0	8.3
	難病	28	10.7	14.3	10.7	3.6	64.3	10.7
	発達障害	4	75.0	50.0	75.0	-	-	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-
身障種別	視覚障害	5	80.0	20.0	40.0	-	20.0	-
	聴覚障害・平衡機能障害	5	20.0	-	40.0	20.0	20.0	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	1	-	-	100.0	-	-	-
	肢体不自由	16	25.0	-	12.5	-	56.3	12.5
	内部障害	25	24.0	8.0	-	4.0	68.0	4.0

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

## (12) 仕事に就くため、働き続けるのに必要な支援

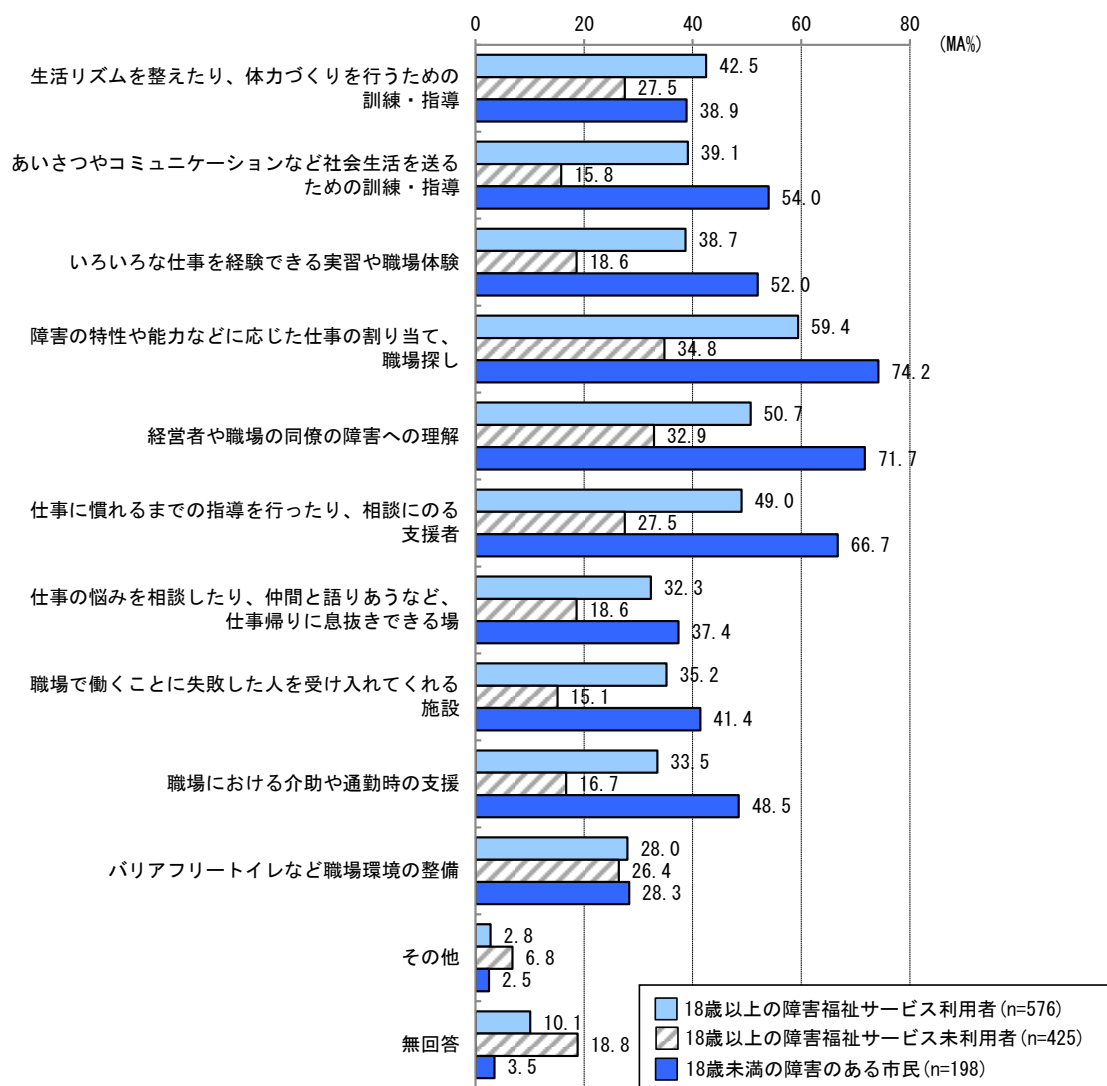
問 障害のある人が職場で働き続けるためには、どのような支援が必要だと思いますか。現在、働いていない人は、「もし職場で働くとしたら」と考えてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

### 障害のある市民（調査①②③）

仕事に就くため、働き続けるのに必要な支援については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が59.4%で最も多く、次いで「経営者や職場の同僚の障害への理解」が50.7%、「仕事に慣れるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」が49.0%となっています。

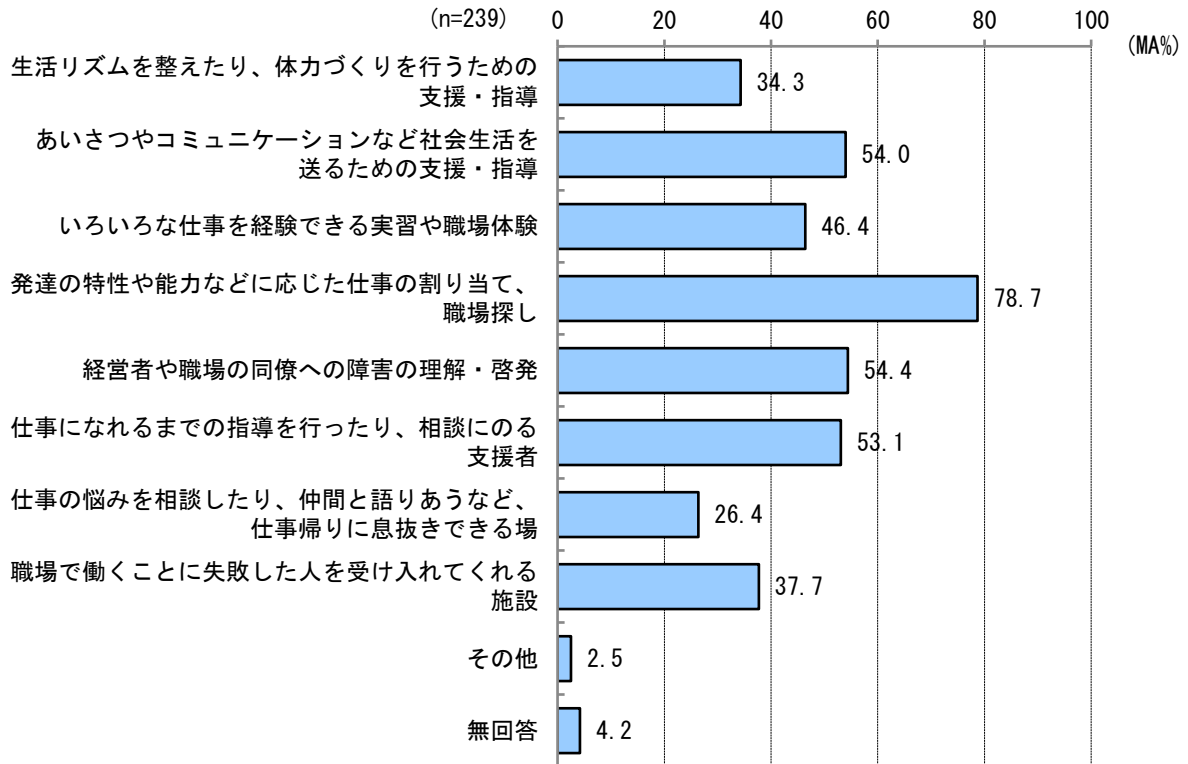
18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が34.8%で最も多く、次いで「経営者や職場の同僚の障害への理解」が32.9%、「生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための訓練・指導」と「仕事に慣れるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」がそれぞれ27.5%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が74.2%で最も多く、次いで「経営者や職場の同僚の障害への理解」が71.7%、「仕事に慣れるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」が66.7%となっています。



通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「発達特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」が78.7%で最も多く、次いで「経営者や職場の同僚への障害の理解・啓発」が54.4%、「あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための支援・指導」が54.0%となっています。



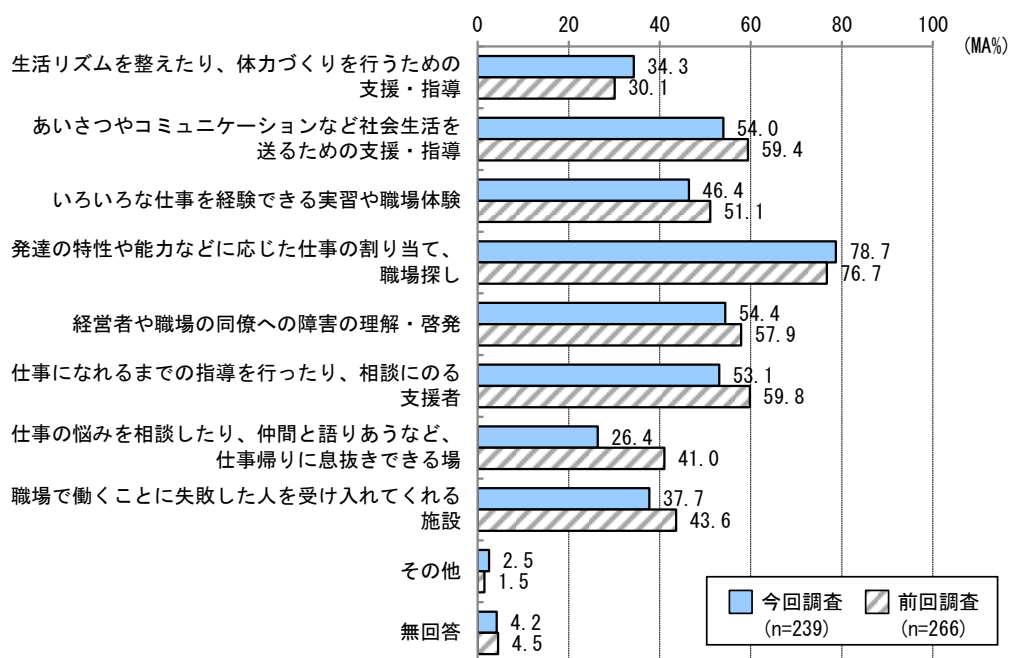
《経年比較及びクロス集計表》

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、「仕事の悩みを相談したり、仲間と語りあうなど、仕事帰りに息抜きできる場」の割合は前回調査より14.6ポイント、「仕事になれるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者」の割合は前回調査より6.7ポイント、それぞれ低くなっています。

年齢別でみると、「あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための支援・指導」は0～4歳(58.2%)が最も高いですが、それ以外の項目はいずれも10～17歳が最も高くなっています。

所属先別でみると、いずれの項目も小学校入学後のほうが高い割合となっています。



※前回調査の「生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための療育・指導」は、今回調査では「生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための支援・指導」に変更しています。

※前回調査の「あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための療育・指導」は、今回調査では「あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための支援・指導」に変更しています。

※前回調査の「発達の課題の特長や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」は、今回調査では「発達の特長や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し」に変更しています。

	サンプル数	援助指導演	生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための支援・指導	あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための支援・指導	いろいろな職場体験	発達の特長や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し	経営者や職場の同僚への障害の理解・啓発	仕事になれるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者	仕事の悩みを相談したり、仲間と語りあうなど、仕事帰りに息抜きできる場	職場で働くことに失敗した人を受け入れてくれる施設	その他	無回答
全体	239	34.3	54.0	46.4	78.7	54.4	53.1	26.4	37.7	2.5	4.2	
年齢別	0～4歳	67	37.3	58.2	35.8	74.6	44.8	53.7	26.9	31.3	4.5	4.5
	5～9歳	129	29.5	51.9	45.7	79.8	55.0	48.8	24.0	38.0	1.6	5.4
	10～17歳	43	44.2	53.5	65.1	81.4	67.4	65.1	32.6	46.5	2.3	-
所属先別	小学校入学前	112	31.3	53.6	33.9	75.9	45.5	48.2	24.1	36.6	3.6	6.3
	小学校入学後	127	37.0	54.3	57.5	81.1	62.2	57.5	28.3	38.6	1.6	2.4

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

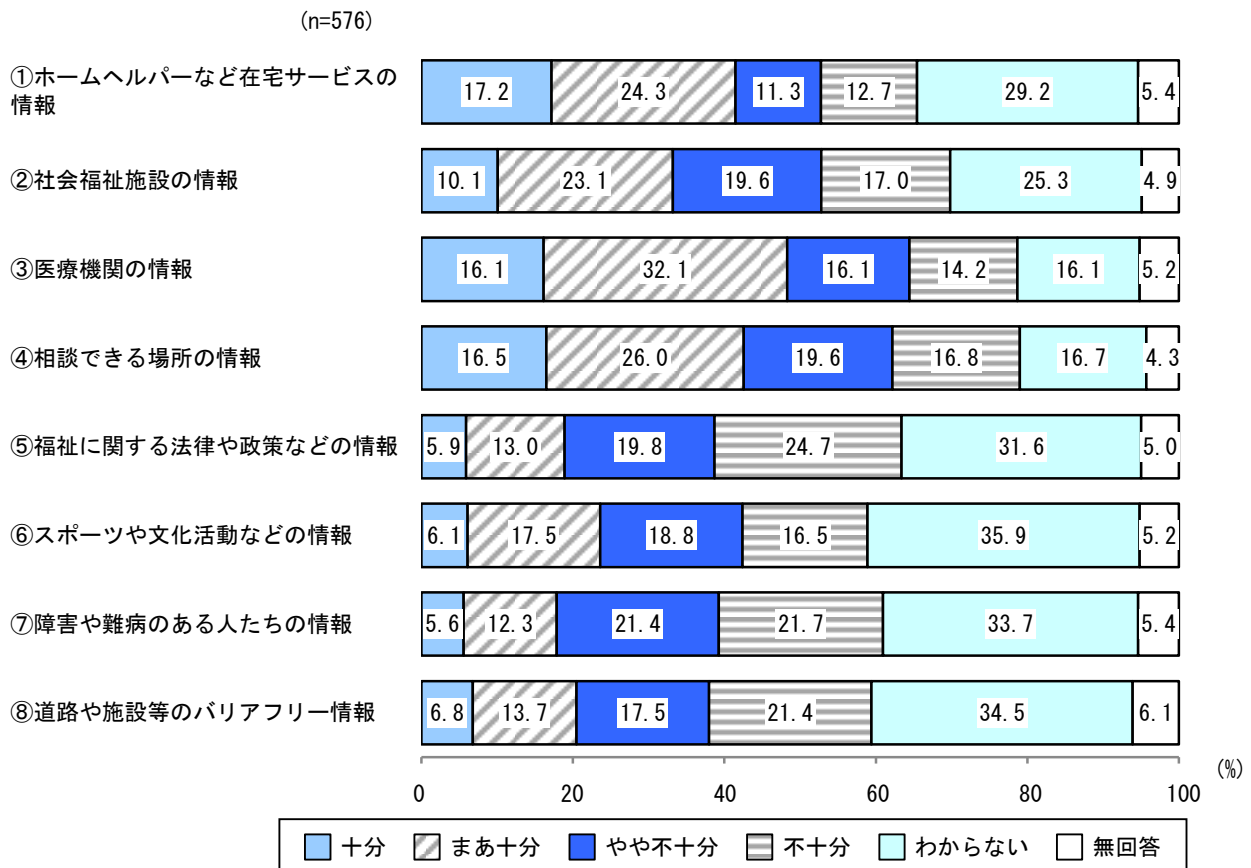
### 3 情報の入手と相談について

#### (1) 情報の充足度

問 あなたは、次の情報について、十分得られていますか。  
 (①～⑧のそれぞれ、あてはまるもの1つに○)

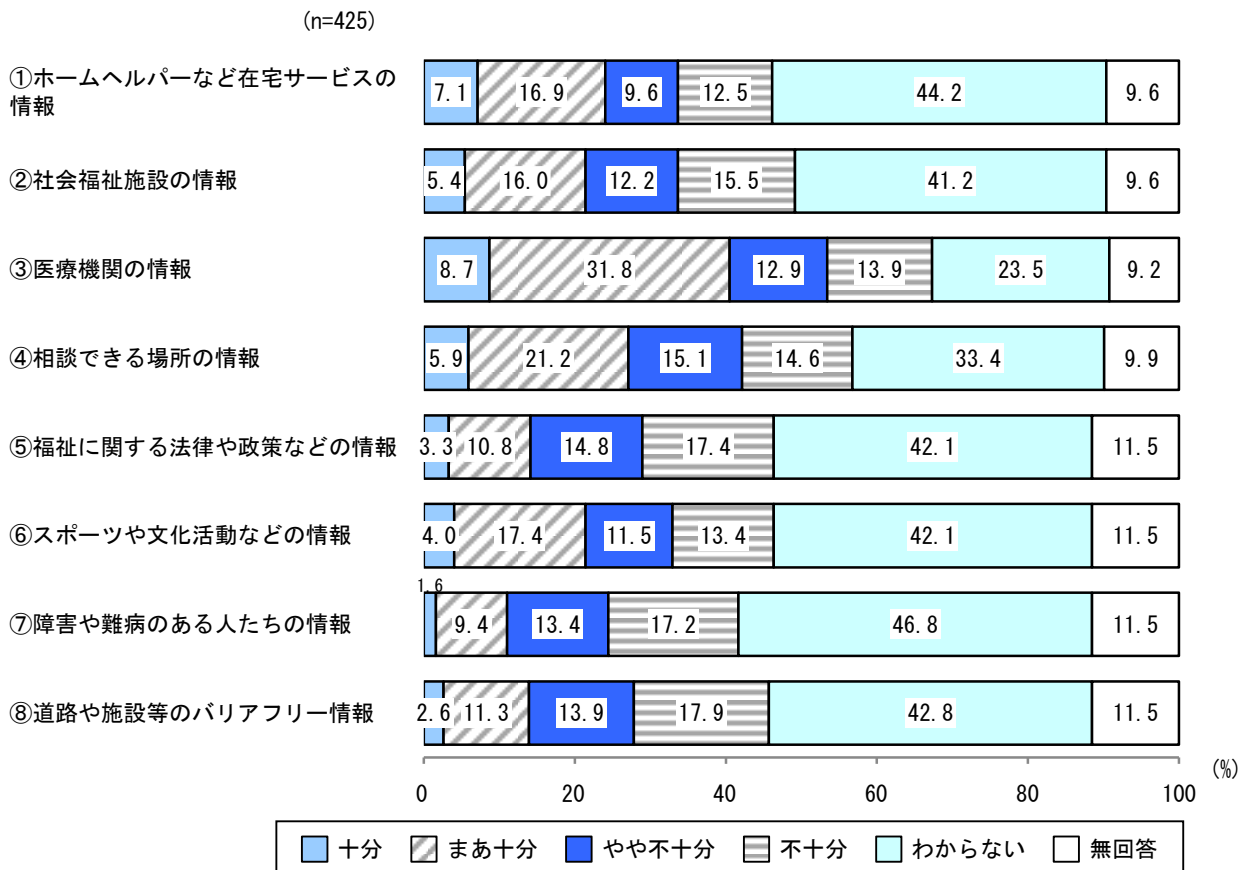
18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

情報が十分得られているかについては、「十分」と「まあ十分」をあわせた『十分』の割合は、“③医療機関の情報”（48.2%）で最も高く、次いで“④相談できる場所の情報”（42.5%）、“①ホームヘルパーなど在宅サービスの情報”（41.5%）となっています。一方、「やや不十分」と「不十分」をあわせた『不十分』の割合は“⑤福祉に関する法律や政策などの情報”（44.5%）が最も高く、次いで“⑦障害や難病のある人たちの情報”（43.1%）となっています。



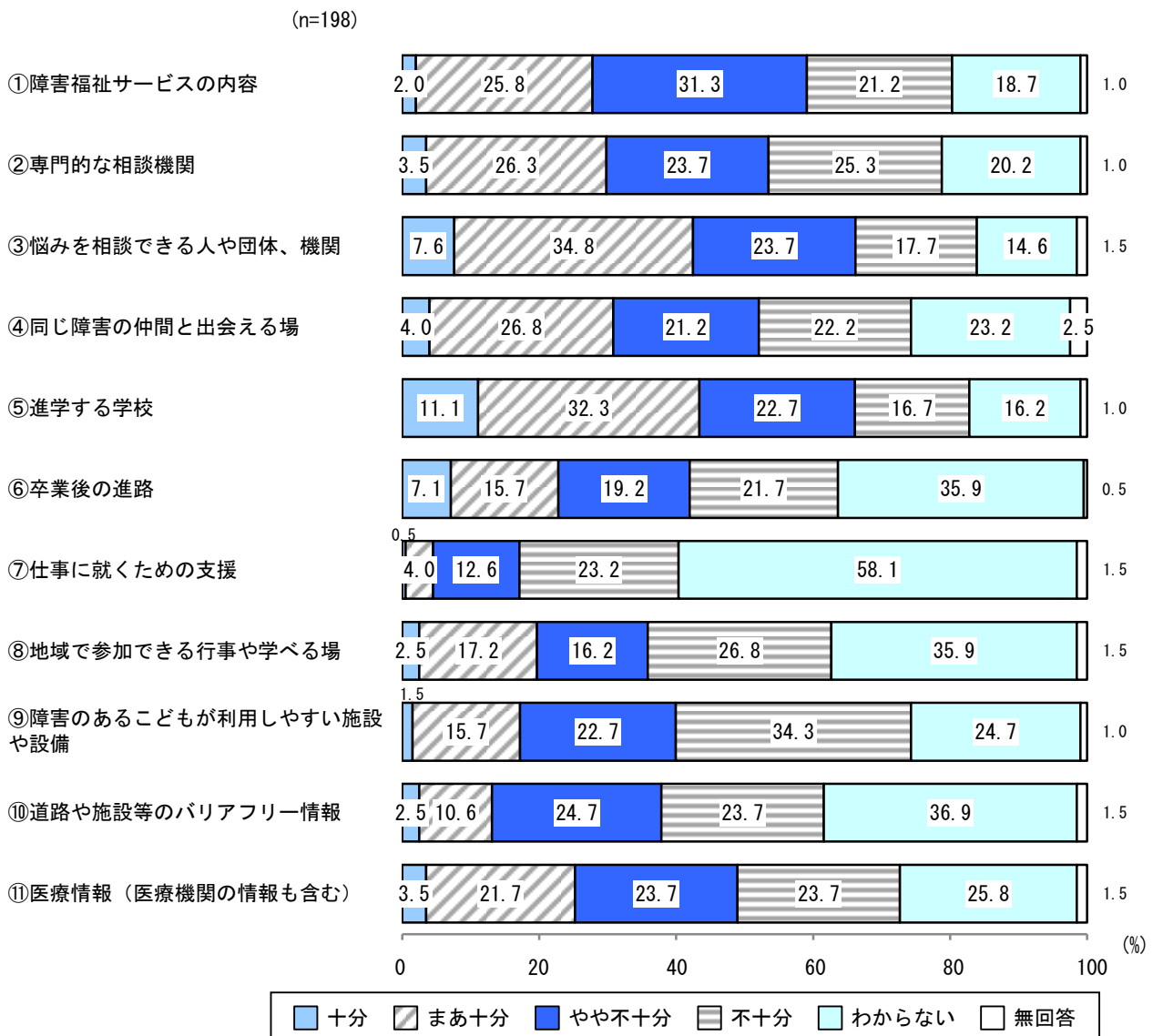
18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

『十分』の割合は、“③医療機関の情報”（40.5%）が最も高く、次いで“④相談できる場所の情報”（27.1%）、“①ホームヘルパーなど在宅サービスの情報”（24.0%）となっています。一方、『不十分』の割合は、“⑤福祉に関する法律や政策などの情報”（32.2%）が最も高く、次いで“⑧道路や施設等のバリアフリー情報”（31.8%）、“⑦障害や難病のある人たちの情報”（30.6%）となっています。



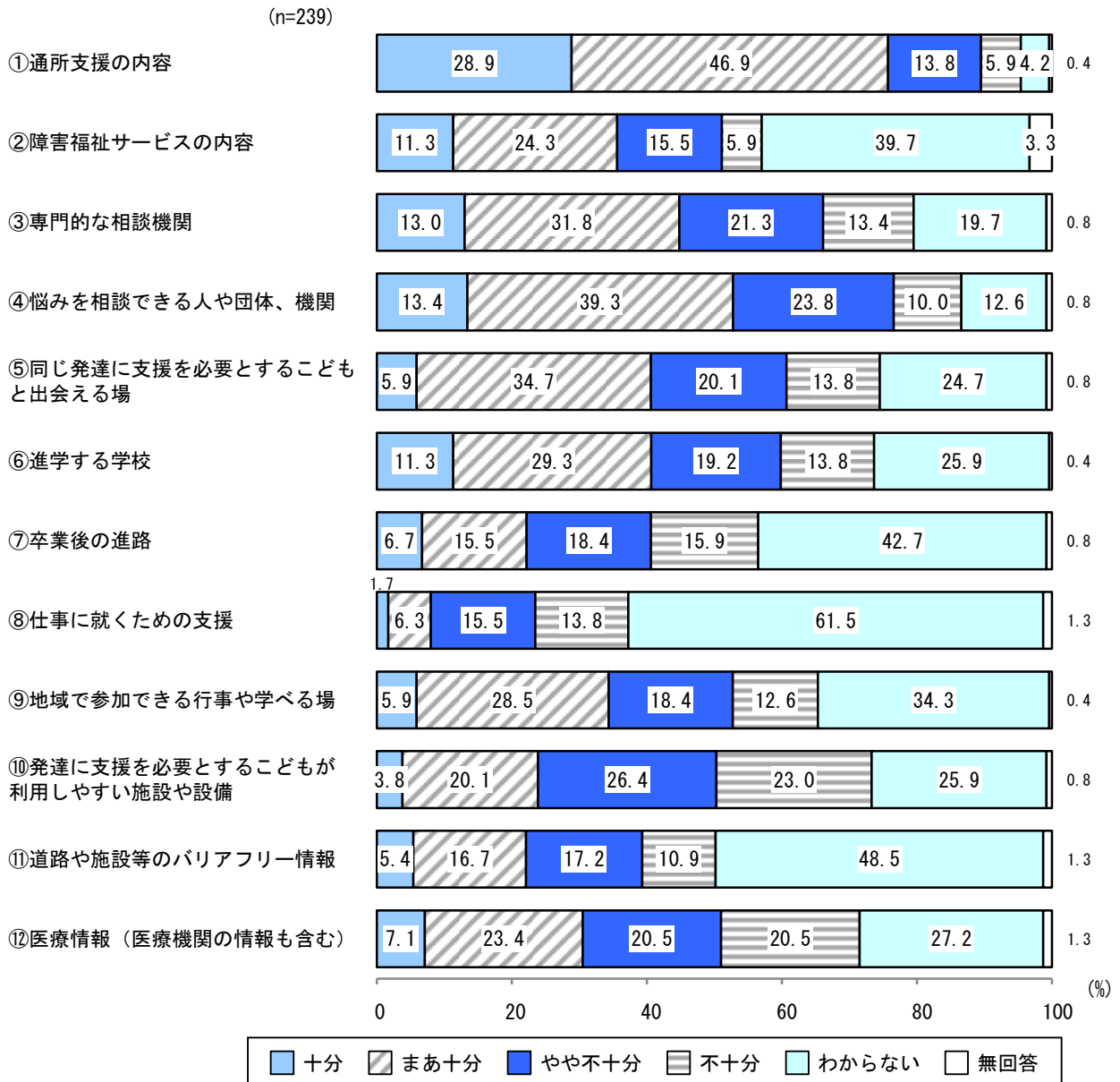
### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

『十分』の割合は、“⑤進学する学校”（43.4%）が最も高く、次いで“③悩みを相談できる人や団体、機関”（42.4%）、“④同じ障害の仲間と出会える場”（30.8%）となっています。一方、『不十分』の割合は、“⑨障害のある子どもが利用しやすい施設や設備”（57.0%）が最も高く、次いで“①障害福祉サービスの内容”（52.5%）、“②専門的な相談機関”（49.0%）となっています。



通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

『十分』の割合は、“①通所支援の内容”（75.8%）が最も高く、次いで“④悩みを相談できる人や団体、機関”（52.7%）、“③専門的な相談機関”（44.8%）となっています。一方、『不十分』の割合は、“⑩発達に支援を必要とするこどもが利用しやすい施設や設備”（49.4%）が最も高く、次いで“⑫医療情報（医療機関の情報も含む）”（41.0%）、“③専門的な相談機関”（34.7%）となっています。



## (2) 健康や医療面で不安に思ったり、困っていること

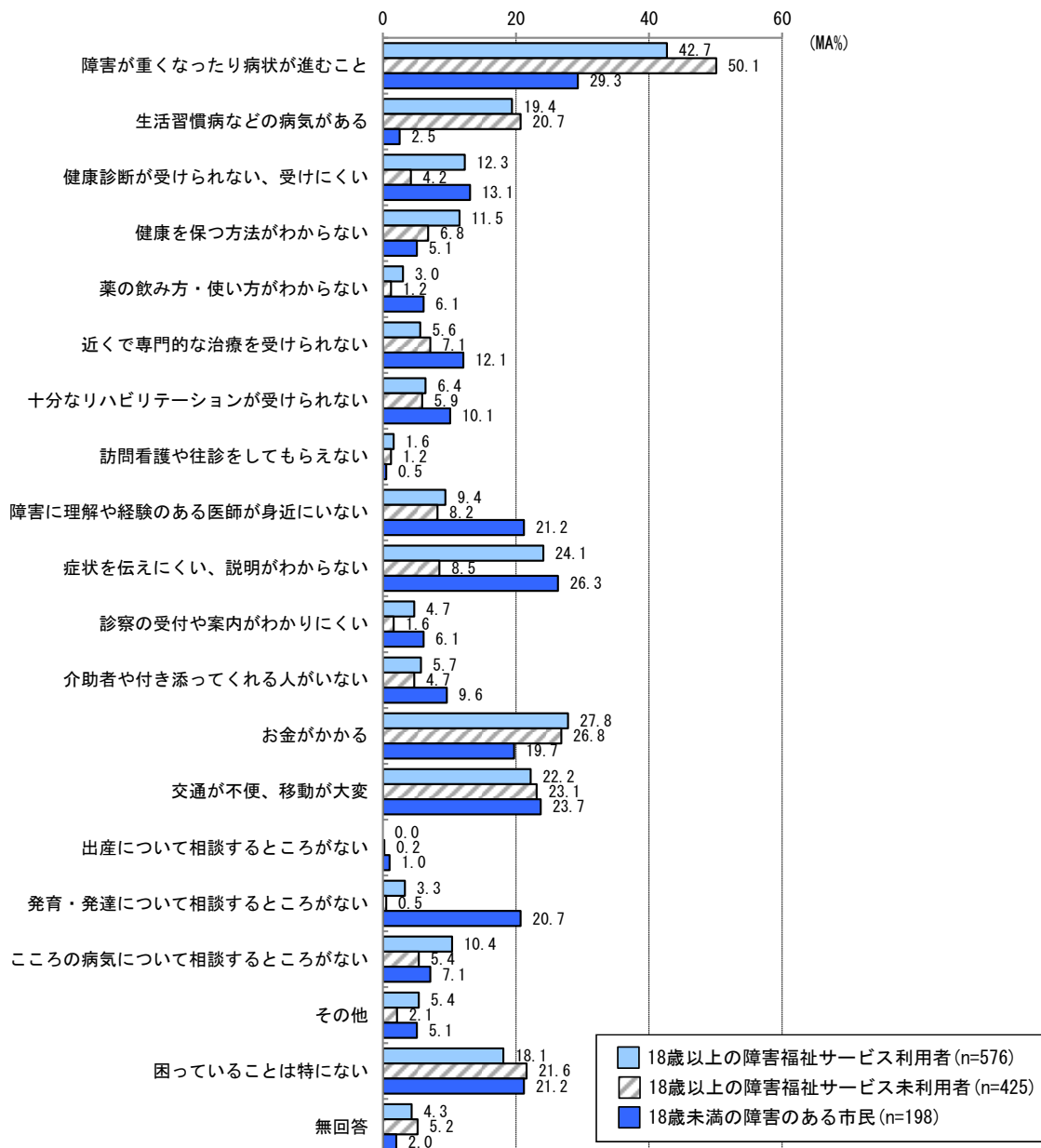
問 健康や医療面で不安に思ったり、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

### 障害のある市民 (調査①②③)

健康や医療面で不安に思ったり、困っていることについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「障害が重くなったり病状が進むこと」が42.7%で最も多く、次いで「お金がかかる」が27.8%、「症状を伝えにくい、説明がわからない」が24.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「障害が重くなったり病状が進むこと」が50.1%で最も多く、次いで「お金がかかる」が26.8%、「交通が不便、移動が大変」が23.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「障害が重くなったり病状が進むこと」が29.3%で最も多く、次いで「症状を伝えにくい、説明がわからない」が26.3%、「交通が不便、移動が大変」が23.7%となっています。

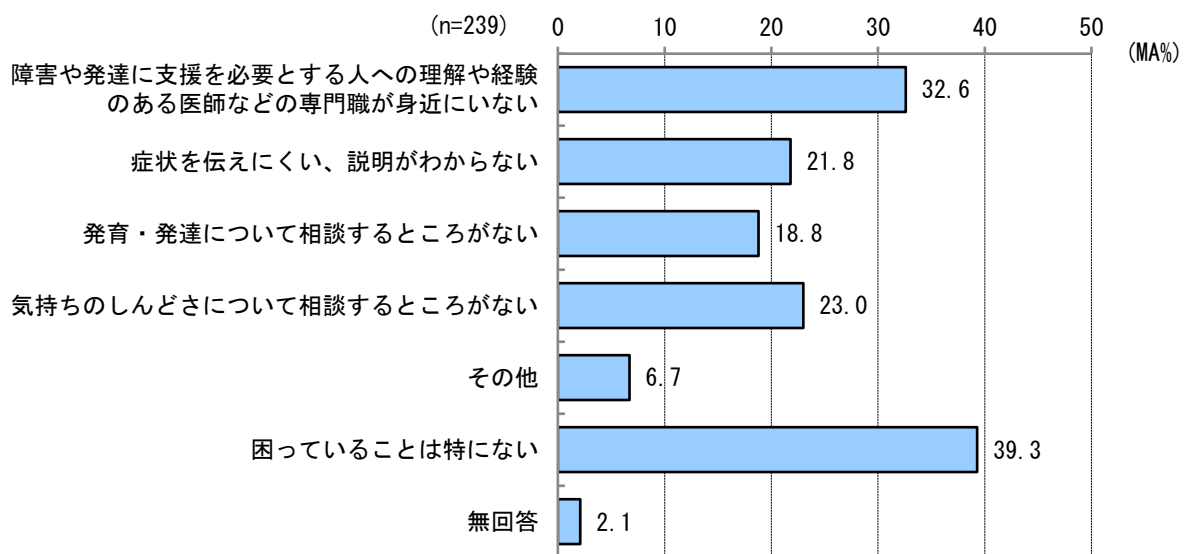


### (3) 健康や医療に関する情報の入手や相談で困っていること

問 健康や医療に関する情報の入手や相談について、困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

#### 通所受給者証を持つ児童 (調査⑤)

健康や医療に関する情報の入手や相談で困っていることについては、「困っていることは特にない」が39.3%で最も多くなっています。困っていることがある人では、「障害や発達に支援を必要とする人への理解や経験のある医師などの専門職が身近にいない」が32.6%で最も多く、次いで「気持ちのしんどさについて相談するところがない」が23.0%、「症状を伝えるにくい、説明がわからない」が21.8%となっています。



#### (4) 家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況

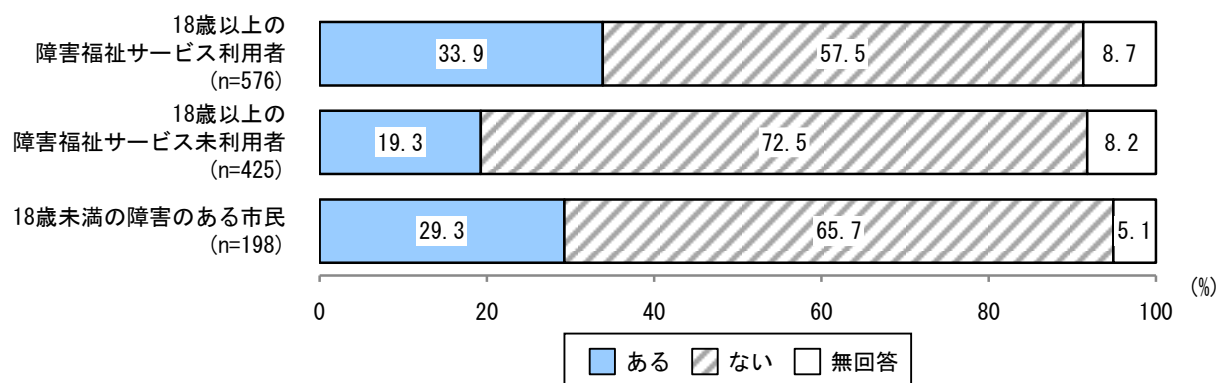
問 家族や親戚、日ごろ通う場所（職場や学校、通所施設など）以外で、困ったことや心配に思っていることを相談したことはありますか。（どちらか1つに○）

##### 障害のある市民（調査①②③）

家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「ある」が33.9%、「ない」が57.5%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「ある」が19.3%、「ない」が72.5%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「ある」が29.3%、「ない」が65.7%となっています。



## (5) 今、気にかかっていること

\* 『(4) 家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況』で「1. ある」と回答された方

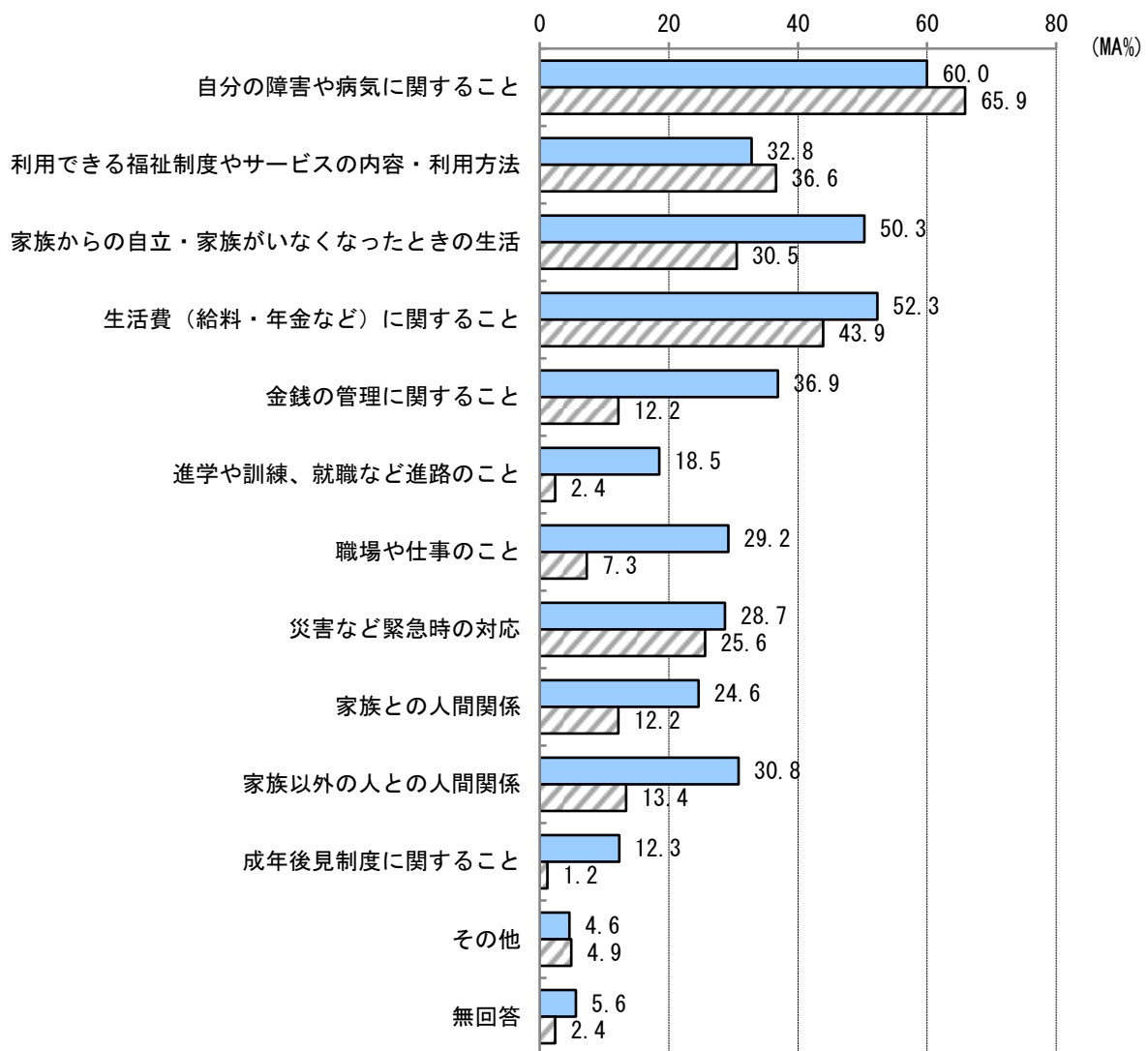
問 あなたが今、気にかかっていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

### 18歳以上の障害のある市民（調査①②）

家族・親戚や日ごろ通う場所以外へ相談したことがあると回答した人に、今、気にかかっていることについてたずねました。

18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「自分の障害や病気に関すること」が60.0%で最も多く、次いで「生活費（給料・年金など）に関すること」が52.3%、「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」が50.3%となっています。

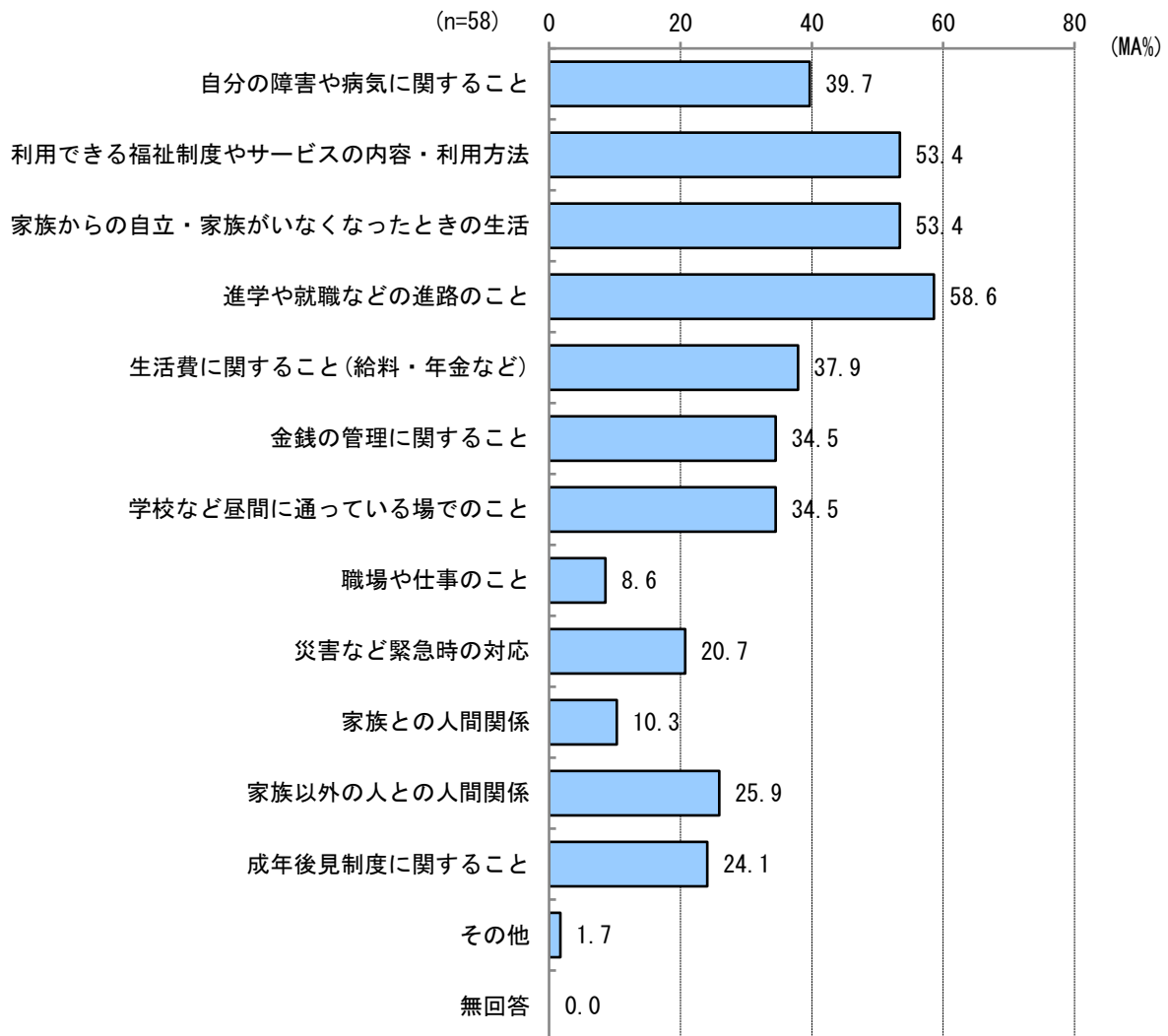
18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「自分の障害や病気に関すること」が65.9%で最も多く、次いで「生活費（給料・年金など）に関すること」が43.9%、「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」が36.6%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者 (n=195)  
 ■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (n=82)

### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、「進学や就職などの進路のこと」が58.6%で最も多く、次いで「利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法」と「家族からの自立・家族がいなくなったときの生活」がそれぞれ53.4%、「自分の障害や病気に関すること」が39.7%となっています。



## (6) 相談した際の評価

\*『(4) 家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況』で「1.ある」と回答された方

問 相談したときどのように思いましたか。(どれか1つに○)

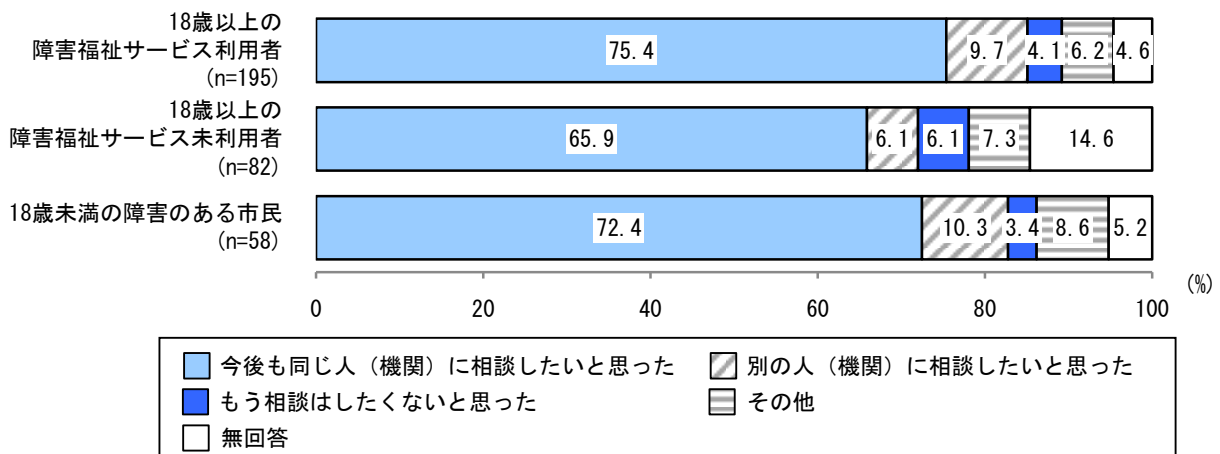
### 障害のある市民 (調査①②③)

家族・親戚や日ごろ通う場所以外へ相談したことがあると回答した人に、相談した際にどのように思ったかについてたずねました。

18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「今後も同じ人(機関)に相談したいと思った」が75.4%で最も多く、次いで「別の人(機関)に相談したいと思った」が9.7%、「もう相談はしたくないと思った」が4.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「今後も同じ人(機関)に相談したいと思った」が65.9%で最も多く、次いで「別の人(機関)に相談したいと思った」と「もう相談はしたくないと思った」がそれぞれ6.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「今後も同じ人(機関)に相談したいと思った」が72.4%で最も多く、次いで「別の人(機関)に相談したいと思った」が10.3%、「もう相談はしたくないと思った」が3.4%となっています。

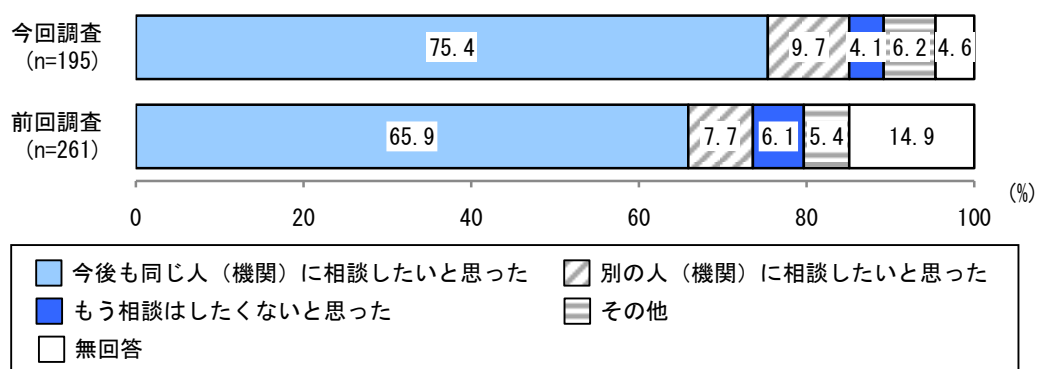


《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」の割合が前回調査より9.5ポイント高くなっています。

障害種別でみると、「別の人（機関）に相談したいと思った」の割合は精神障害（12.4%）で最も高くなっています。

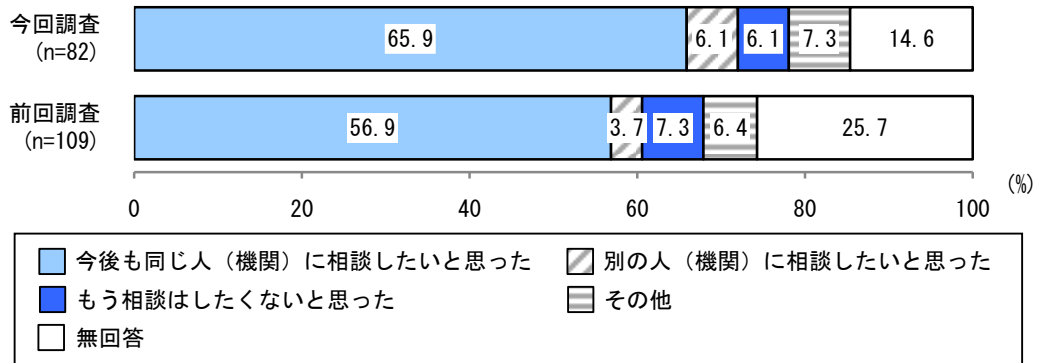


		サンプル数	今後も同じ人（機関）に相談したいと思った	別の人（機関）に相談したいと思った	もう相談はしたくないと思った	その他	無回答
全体		195	75.4	9.7	4.1	6.2	4.6
居住地別	北西部圏域	35	57.1	17.1	5.7	14.3	5.7
	北中部圏域	17	82.4	11.8	5.9	-	-
	北東部圏域	28	89.3	-	7.1	3.6	-
	中部圏域	31	67.7	12.9	6.5	9.7	3.2
	中東部圏域	16	81.3	12.5	-	6.3	-
	中西部圏域	22	86.4	4.5	4.5	-	4.5
	南部圏域	34	76.5	8.8	-	5.9	8.8
障害種別	身体障害	46	87.0	2.2	-	4.3	6.5
	知的障害	70	77.1	7.1	-	10.0	5.7
	精神障害	97	72.2	12.4	5.2	6.2	4.1
	難病	15	86.7	6.7	-	6.7	-
	発達障害	41	82.9	4.9	2.4	7.3	2.4
	高次脳機能障害	5	100.0	-	-	-	-
身障種類別	視覚障害	10	90.0	-	-	-	10.0
	聴覚障害・平衡機能障害	4	75.0	-	-	-	25.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	4	100.0	-	-	-	-
	肢体不自由	26	84.6	3.8	-	7.7	3.8
	内部障害	6	66.7	-	-	16.7	16.7

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「今後も同じ人（機関）に相談したいと思った」の割合は前回調査より9.0ポイント高くなっています。

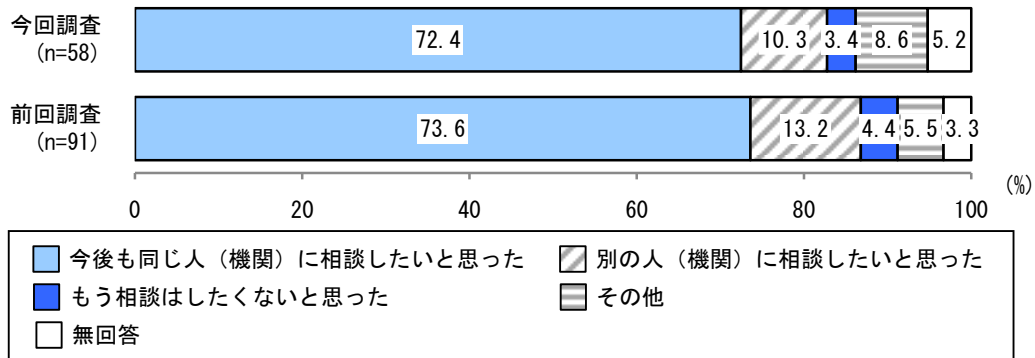


		サンプル数	今後も同じ人（機関）に相談したいと思った	別の人（機関）に相談したいと思った	もう相談はしたくないと思った	その他	無回答
全体		82	65.9	6.1	6.1	7.3	14.6
居住地別	北西部圏域	9	55.6	-	-	22.2	22.2
	北中部圏域	11	54.5	9.1	9.1	9.1	18.2
	北東部圏域	15	60.0	6.7	6.7	6.7	20.0
	中部圏域	14	78.6	-	14.3	-	7.1
	中東部圏域	9	66.7	-	-	22.2	11.1
	中西部圏域	9	66.7	22.2	-	-	11.1
	南部圏域	10	70.0	10.0	-	-	20.0
障害種別	身体障害	48	58.3	6.3	8.3	4.2	22.9
	知的障害	2	100.0	-	-	-	-
	精神障害	24	66.7	8.3	8.3	12.5	4.2
	難病	9	100.0	-	-	-	-
	発達障害	5	80.0	-	-	20.0	-
	高次脳機能障害	1	100.0	-	-	-	-
身障種別	視覚障害	4	100.0	-	-	-	-
	聴覚障害・平衡機能障害	6	50.0	16.7	-	-	33.3
	音声・言語・そしゃく機能障害	3	33.3	33.3	-	-	33.3
	肢体不自由	25	52.0	8.0	12.0	8.0	20.0
	内部障害	13	69.2	7.7	7.7	-	15.4

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、いずれの項目も前回調査より低い割合となっています。



		サンプル数	今後も同じ人（機関）に相談したいと思った	別の人（機関）に相談したいと思った	もう相談はしたくないと思った	その他	無回答
全体		58	72.4	10.3	3.4	8.6	5.2
居住地別	北西部圏域	15	66.7	13.3	-	13.3	6.7
	北中部圏域	6	50.0	33.3	-	-	16.7
	北東部圏域	9	77.8	-	-	22.2	-
	中部圏域	7	85.7	14.3	-	-	-
	中東部圏域	5	80.0	-	20.0	-	-
	中西部圏域	7	57.1	14.3	14.3	14.3	-
	南部圏域	8	100.0	-	-	-	-
障害種別	身体障害	13	76.9	15.4	-	-	7.7
	知的障害	49	71.4	12.2	2.0	10.2	4.1
	精神障害	6	66.7	-	16.7	-	16.7
	難病	4	25.0	25.0	-	25.0	25.0
	発達障害	20	70.0	10.0	5.0	5.0	10.0
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-

単位：%

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

## (7) 「別の人に相談したい」「もう相談したくない」と思った理由

\* 『(6) 相談した際の評価』で「2. 別の人（機関）に相談したいと思った」「3. もう相談したくないと思った」と回答された方

問 そう思ったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

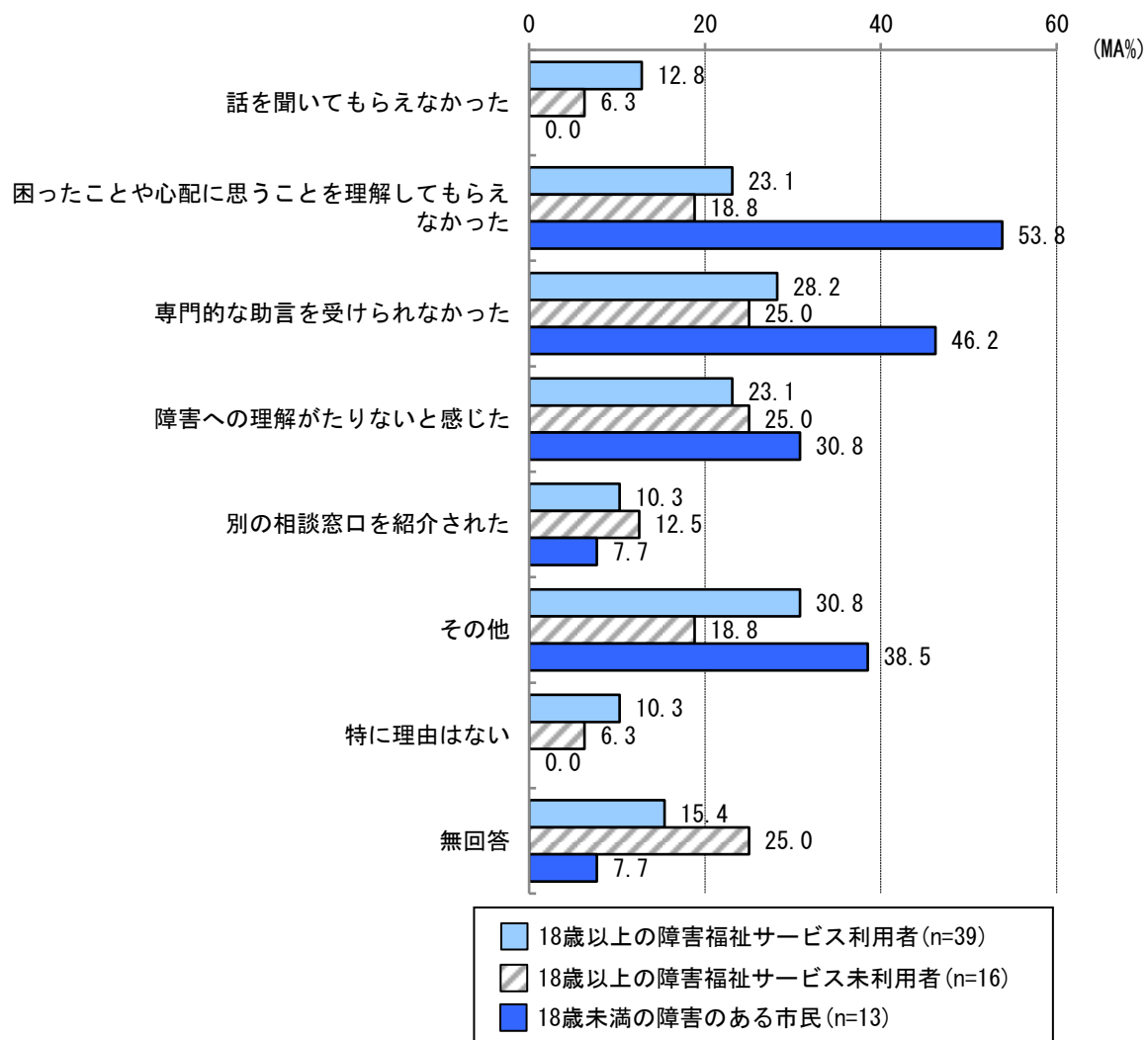
### 障害のある市民（調査①②③）

相談した際に「別の人に相談したい」「もう相談したくない」と思ったと回答した人に、その理由についてたずねました。

18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「専門的な助言を受けられなかった」が28.2%で最も多く、次いで「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」と「障害への理解がたりないと感じた」がそれぞれ23.1%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「専門的な助言を受けられなかった」と「障害への理解がたりないと感じた」がそれぞれ25.0%で最も多く、次いで「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」が18.8%となっています。

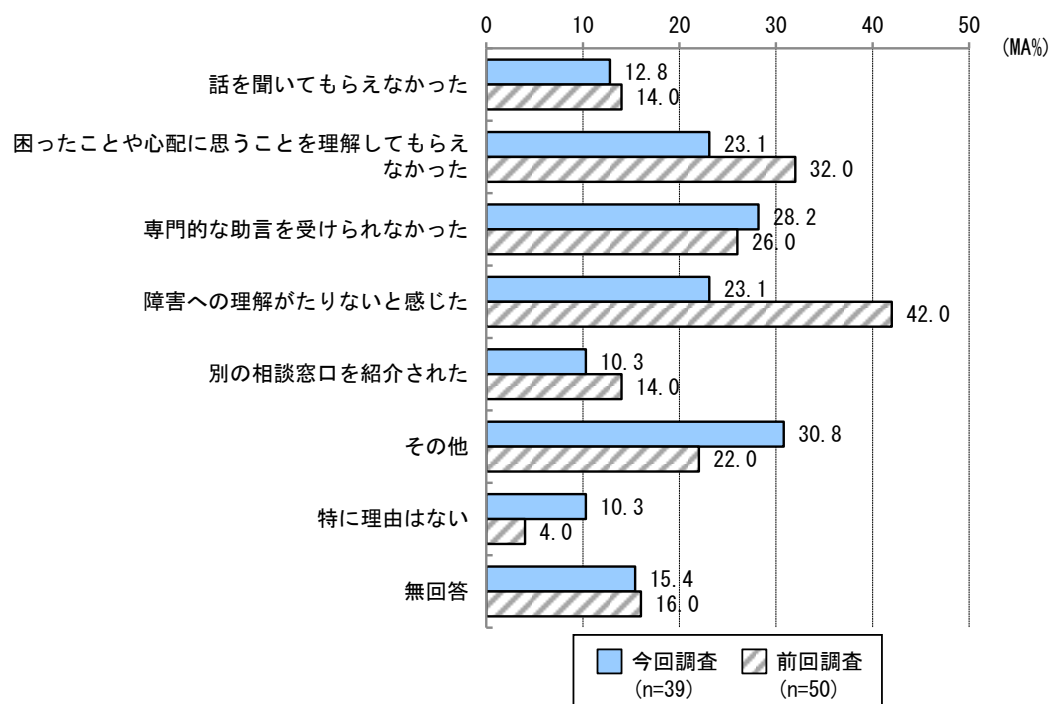
18歳未満の障害のある市民では、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」が53.8%で最も多く、次いで「専門的な助言を受けられなかった」が46.2%、「障害への理解がたりないと感じた」が30.8%となっています。



《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「障害への理解がたりないと感じた」の割合が前回調査より18.9ポイント、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」の割合が前回調査より8.9ポイント、それぞれ低くなっています。



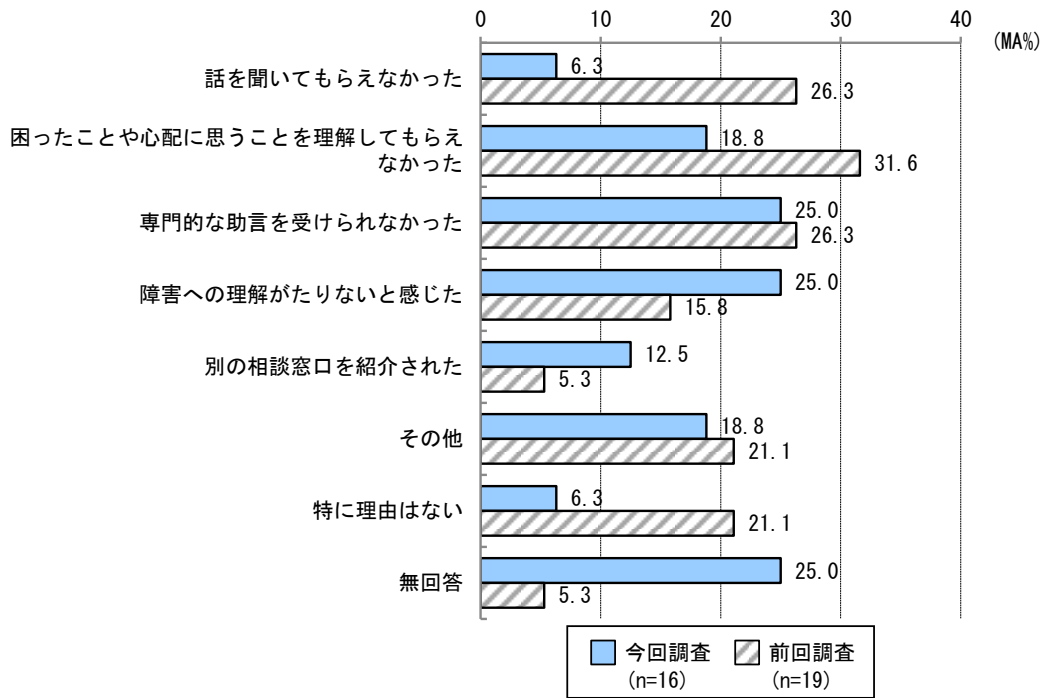
		サンプル数	話を聞いてもらえなかった	困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった	専門的な助言を受けられなかった	障害への理解がたりないと感じた	別の相談窓口を紹介された	その他	特に理由はない	無回答
全体		39	12.8	23.1	28.2	23.1	10.3	30.8	10.3	15.4
居住地別	北西部圏域	13	7.7	30.8	15.4	30.8	7.7	46.2	7.7	7.7
	北中部圏域	3	-	-	33.3	33.3	-	-	33.3	-
	北東部圏域	3	-	-	33.3	33.3	-	33.3	-	33.3
	中部圏域	9	22.2	33.3	11.1	22.2	22.2	33.3	-	22.2
	中東部圏域	3	33.3	66.7	66.7	33.3	-	-	33.3	-
	中西部圏域	2	-	-	-	-	-	50.0	50.0	-
	南部圏域	5	20.0	-	60.0	-	20.0	20.0	-	40.0
障害種別	身体障害	3	-	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3
	知的障害	12	-	16.7	8.3	8.3	-	33.3	25.0	33.3
	精神障害	23	21.7	17.4	39.1	26.1	17.4	30.4	4.3	13.0
	難病	2	-	-	50.0	-	-	100.0	-	-
	発達障害	6	16.7	16.7	50.0	33.3	16.7	83.3	-	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
身障種別	視覚障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	聴覚障害・平衡機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	肢体不自由	3	-	33.3	-	-	-	33.3	-	33.3
	内部障害	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「話を聞いてもらえなかった」の割合が前回調査より20.0ポイント、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」の割合が前回調査より12.8ポイント、それぞれ低くなっている。一方、「障害への理解がたりないと感じた」の割合は前回調査より9.2ポイント高くなっています。



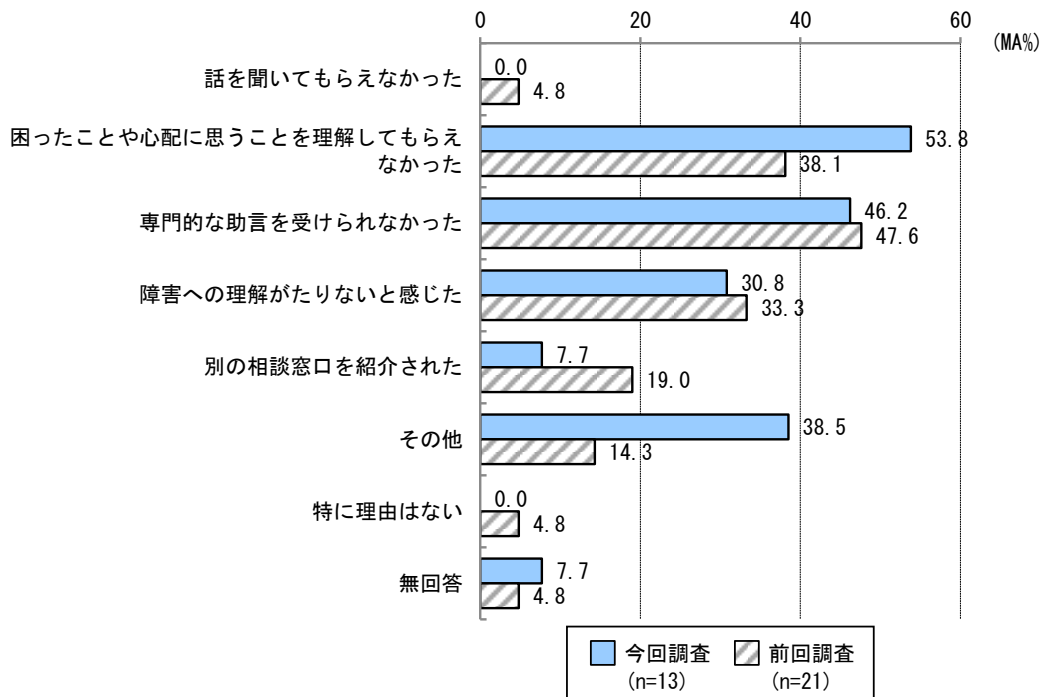
		サンプル数	話を聞いてもらえなかった	困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった	専門的な助言を受けられなかった	障害への理解がたりないと感じた	別の相談窓口を紹介された	その他	特に理由はない	無回答
全体		16	6.3	18.8	25.0	25.0	12.5	18.8	6.3	25.0
居住地別	北西部圏域	2	-	-	50.0	-	-	50.0	-	-
	北中部圏域	3	33.3	66.7	66.7	33.3	33.3	-	-	33.3
	北東部圏域	3	-	-	-	33.3	-	-	33.3	33.3
	中部圏域	2	-	50.0	50.0	-	-	50.0	-	-
	中東部圏域	2	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0
	中西部圏域	2	-	-	-	50.0	50.0	-	-	-
	南部圏域	1	-	-	-	-	-	-	-	100.0
障害種別	身体障害	9	11.1	22.2	22.2	44.4	11.1	11.1	-	33.3
	知的障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	精神障害	7	-	14.3	28.6	-	14.3	42.9	14.3	-
	難病	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	発達障害	1	-	-	-	-	-	100.0	-	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
身障種別	視覚障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	聴覚障害・平衡機能障害	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	1	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	-	-	-
	肢体不自由	7	14.3	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	-	42.9
	内部障害	2	-	50.0	50.0	50.0	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった」の割合は前回調査より15.7ポイント高くなっています。



	サンプル数	話を聞いてもらえなかった	困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった	専門的な助言を受けられなかった	障害への理解がたりないと感じた	別の相談窓口を紹介された	その他	特に理由はない	無回答
全体	13	-	53.8	46.2	30.8	7.7	38.5	-	7.7
居住地別	北西部圏域	4	-	50.0	50.0	25.0	75.0	-	-
	北中部圏域	2	-	50.0	100.0	50.0	-	-	-
	北東部圏域	2	-	50.0	-	50.0	-	-	50.0
	中部圏域	1	-	-	-	-	100.0	-	-
	中東部圏域	1	-	100.0	-	-	-	-	-
	中西部圏域	3	-	66.7	66.7	-	-	33.3	-
	南部圏域	-	-	-	-	-	-	-	-
障害種別	身体障害	2	-	50.0	100.0	50.0	-	-	-
	知的障害	12	-	50.0	50.0	33.3	8.3	41.7	8.3
	精神障害	1	-	100.0	-	-	-	-	-
	難病	2	-	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	-
	発達障害	4	-	50.0	25.0	25.0	25.0	75.0	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

## (8) 相談したことがない理由

\* 『(4) 家族・親戚や日ごろ通う場所以外への相談状況』で「ない」と回答された方

問 相談したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

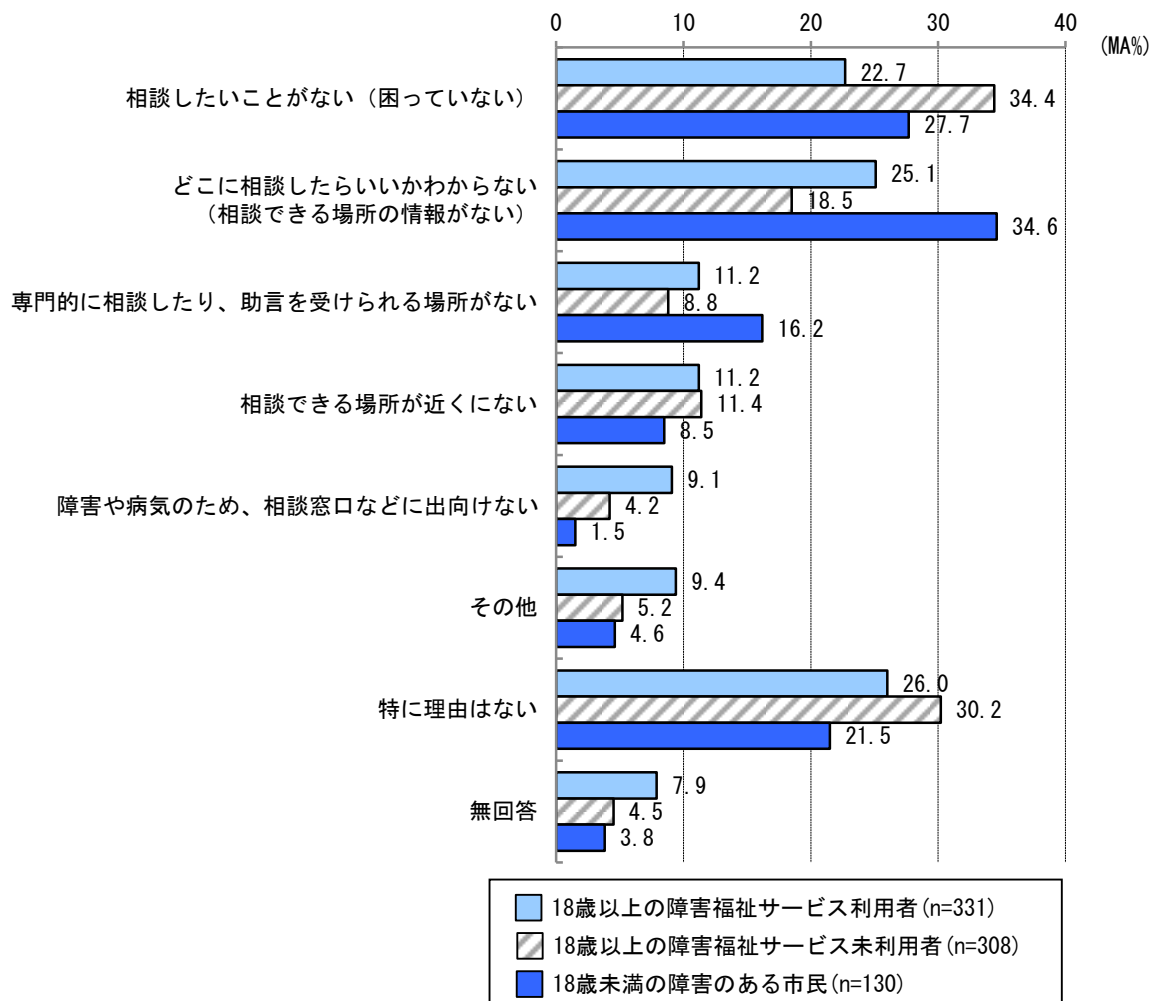
### 障害のある市民 (調査①②③)

家族・親戚や日ごろ通う場所以外へ相談したことがないと回答した人に、その理由についてたずねました。

18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「どこに相談したらいいかわからない(相談できる場所の情報がない)」が25.1%で最も多く、次いで「相談したいことがない(困っていない)」が22.7%、「専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない」と「相談できる場所が近くにない」がそれぞれ11.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「相談したいことがない(困っていない)」が34.4%で最も多く、次いで「どこに相談したらいいかわからない(相談できる場所の情報がない)」が18.5%、「相談できる場所が近くにない」が11.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「どこに相談したらいいかわからない(相談できる場所の情報がない)」が34.6%で最も多く、次いで「相談したいことがない(困っていない)」が27.7%、「専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない」が16.2%となっています。

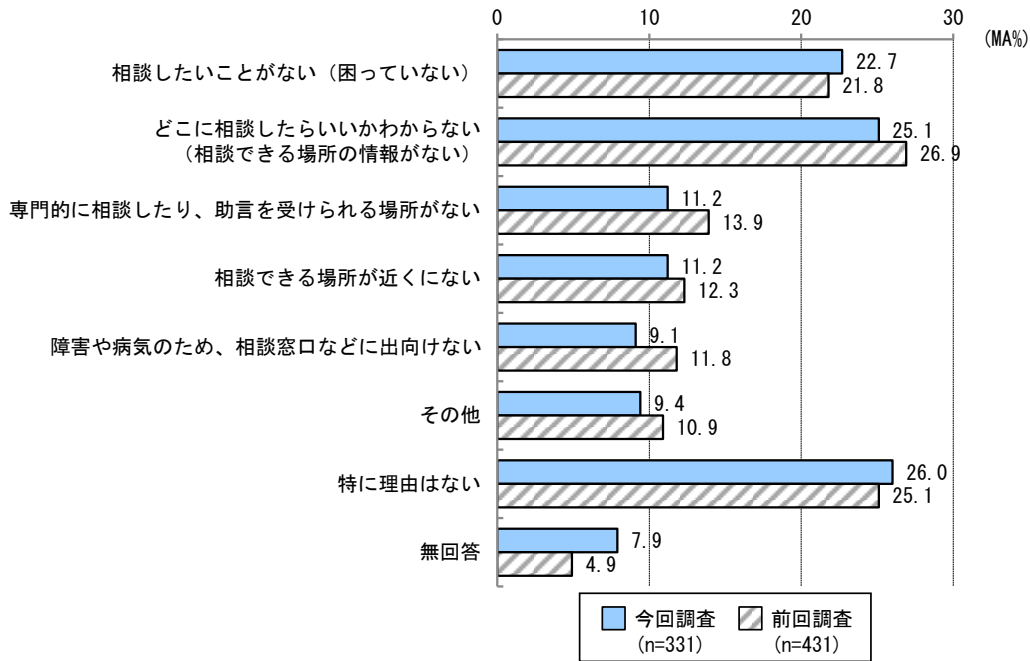


《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない」と「障害や病気のため、相談窓口などに出向けない」の割合が前回調査よりそれぞれ2.7ポイント低くなっています。

障害種別でみると、精神障害と発達障害では「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」（精神35.1%、発達43.2%）が最も多くなっています。



		サンプル数	相談したいことがない（困っていない）	場所の情報がない（相談できない）	どこに相談したらいいかわからない	専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない	相談できる場所が近くにない	障害や病気のため、相談窓口などに出向けない	その他	特に理由はない	無回答
全体		331	22.7	25.1	11.2	11.2	9.1	9.4	26.0	7.9	
居住地別	北西部圏域	55	25.5	18.2	14.5	7.3	3.6	10.9	23.6	12.7	
	北中部圏域	41	12.2	24.4	9.8	4.9	2.4	4.9	41.5	9.8	
	北東部圏域	38	15.8	31.6	18.4	15.8	15.8	10.5	26.3	5.3	
	中部圏域	45	17.8	31.1	11.1	17.8	13.3	11.1	22.2	2.2	
	中東部圏域	32	15.6	40.6	12.5	12.5	9.4	6.3	21.9	12.5	
	中西部圏域	51	25.5	21.6	5.9	7.8	13.7	13.7	23.5	5.9	
	南部圏域	55	34.5	21.8	10.9	16.4	5.5	5.5	25.5	5.5	
障害種別	身体障害	116	29.3	19.8	10.3	12.9	12.1	7.8	23.3	6.0	
	知的障害	133	21.8	17.3	9.0	7.5	7.5	9.8	31.6	8.3	
	精神障害	114	19.3	35.1	14.0	14.0	11.4	8.8	21.9	7.9	
	難病	11	9.1	27.3	18.2	9.1	9.1	9.1	27.3	18.2	
	発達障害	37	16.2	43.2	10.8	13.5	10.8	10.8	18.9	2.7	
	高次脳機能障害	8	50.0	12.5	-	-	-	-	37.5	-	
身障種類別	視覚障害	22	40.9	13.6	4.5	9.1	13.6	-	22.7	4.5	
	聴覚障害・平衡機能障害	5	40.0	40.0	-	-	40.0	20.0	-	-	
	音声・言語・そしゃく機能障害	14	28.6	14.3	7.1	7.1	7.1	7.1	21.4	14.3	
	肢体不自由	66	25.8	21.2	13.6	13.6	10.6	9.1	27.3	3.0	
	内部障害	12	16.7	41.7	16.7	16.7	-	8.3	16.7	16.7	

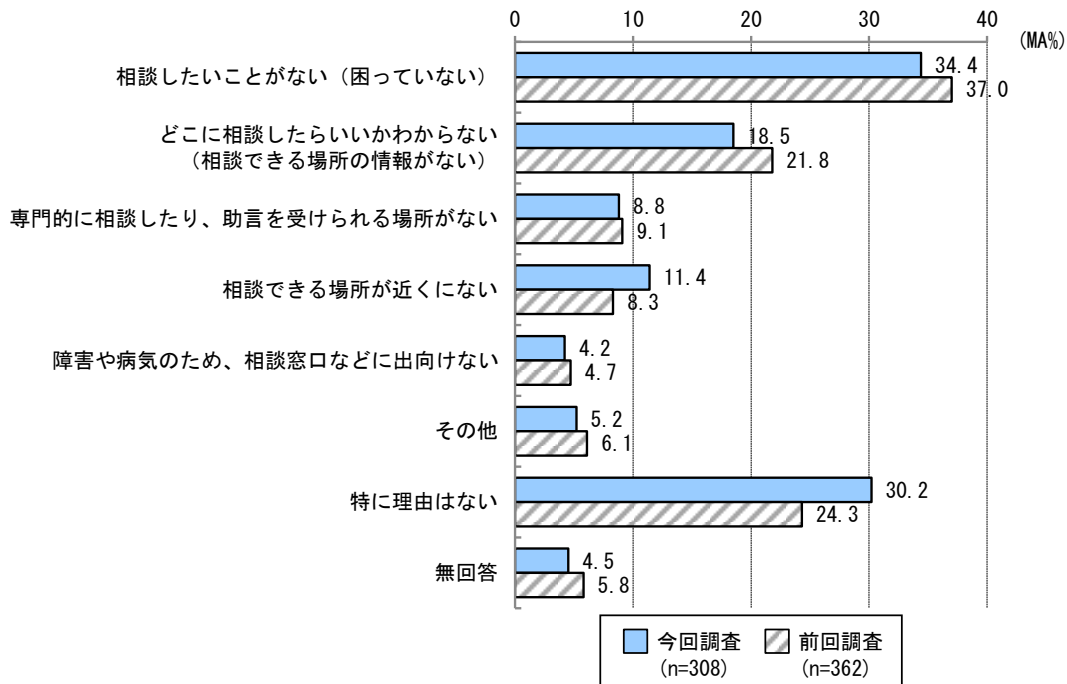
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「相談できる場所が近くにない」の割合が前回調査より3.1ポイント高くなっています。

居住地別でみると、「どこに相談したらいいかわからない(相談できる場所の情報がない)」の割合は北西部圏域（30.0%）で最も高く、「相談できる場所が近くにない」の割合は中西部圏域（20.5%）で最も高くなっています。



		サンプル数	（相談したいことがない） （困っていない）	どこに相談したらいいかわからない （相談できる場所の情報がない）	専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない	相談できる場所が近くにない	障害や病気のため、相談窓口などに出向けない	その他	特に理由はない	無回答
全体		308	34.4	18.5	8.8	11.4	4.2	5.2	30.2	4.5
居住地別	北西部圏域	50	34.0	30.0	12.0	18.0	2.0	6.0	16.0	4.0
	北中部圏域	46	30.4	10.9	13.0	13.0	6.5	2.2	34.8	4.3
	北東部圏域	49	44.9	18.4	8.2	10.2	2.0	2.0	22.4	8.2
	中部圏域	39	48.7	15.4	2.6	2.6	2.6	2.6	30.8	2.6
	中東部圏域	37	37.8	13.5	5.4	2.7	5.4	10.8	35.1	-
	中西部圏域	39	20.5	25.6	12.8	20.5	5.1	5.1	46.2	5.1
	南部圏域	44	27.3	13.6	4.5	11.4	6.8	6.8	31.8	6.8
障害種別	身体障害	203	34.0	17.2	7.4	9.9	3.9	3.4	34.5	3.4
	知的障害	10	30.0	30.0	10.0	10.0	-	-	40.0	-
	精神障害	34	23.5	29.4	17.6	20.6	11.8	20.6	11.8	5.9
	難病	55	40.0	16.4	9.1	9.1	3.6	1.8	25.5	7.3
	発達障害	5	40.0	20.0	40.0	20.0	-	40.0	-	-
	高次脳機能障害	1	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-
	その他	1	-	-	-	-	-	-	-	-
身障種別	視覚障害	21	19.0	23.8	4.8	9.5	9.5	4.8	28.6	9.5
	聴覚障害・平衡機能障害	18	16.7	38.9	22.2	22.2	5.6	5.6	38.9	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	4	-	-	-	25.0	25.0	25.0	25.0	-
	肢体不自由	80	37.5	12.5	6.3	7.5	3.8	3.8	36.3	1.3
	内部障害	75	38.7	13.3	6.7	9.3	1.3	1.3	36.0	5.3

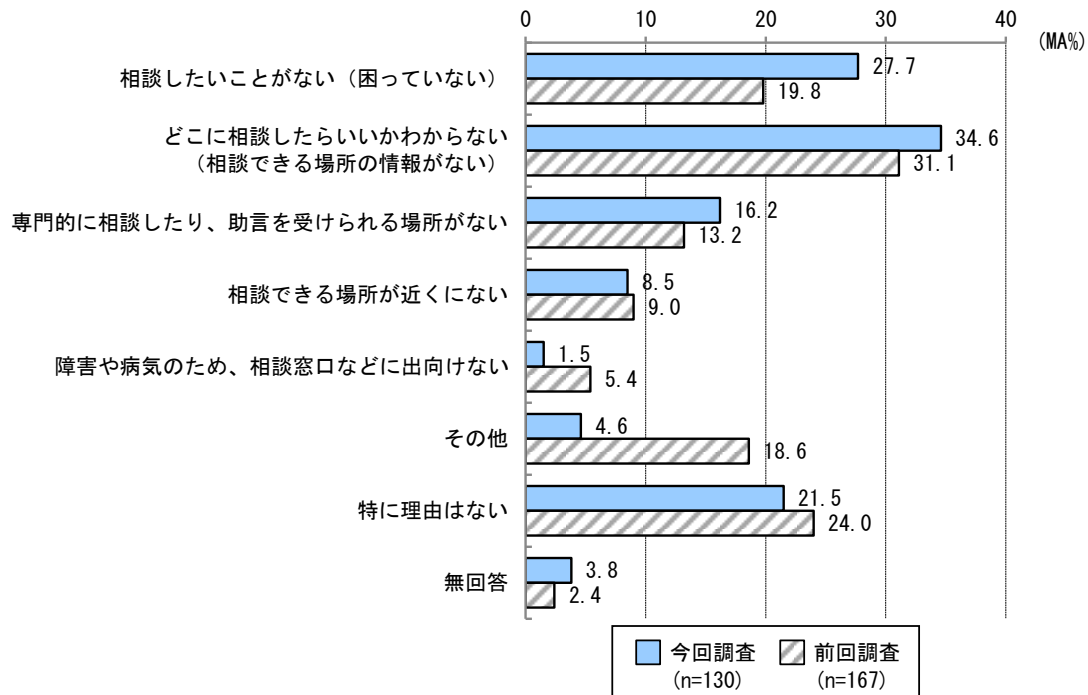
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「相談したいことがない（困っていない）」の割合は前回調査より7.9ポイント高くなっています。

障害種別でみると、「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」の割合は発達障害（51.5%）で高くなっています。



	サンプル数	相談したいことがない（困っていない）	場所から相談したい（相談できる場所がない）	どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）	専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない	相談できる場所が近くにない	障害や病気のため、相談窓口などに出向けない	その他	特に理由はない	無回答
全体	130	27.7	34.6	16.2	8.5	1.5	4.6	21.5	3.8	
居住地別	北西部圏域	23	34.8	21.7	4.3	4.3	-	4.3	26.1	8.7
	北中部圏域	24	29.2	33.3	16.7	8.3	4.2	8.3	25.0	-
	北東部圏域	23	21.7	43.5	17.4	13.0	-	4.3	8.7	8.7
	中部圏域	10	40.0	30.0	30.0	10.0	10.0	-	10.0	-
	中東部圏域	17	29.4	29.4	23.5	-	-	5.9	29.4	-
	中西部圏域	17	23.5	35.3	11.8	5.9	-	5.9	29.4	5.9
	南部圏域	11	-	72.7	18.2	27.3	-	-	18.2	-
障害種別	身体障害	31	29.0	25.8	12.9	6.5	3.2	-	29.0	3.2
	知的障害	104	27.9	36.5	16.3	8.7	1.9	5.8	20.2	2.9
	精神障害	9	55.6	33.3	22.2	-	-	-	11.1	-
	難病	11	18.2	27.3	18.2	-	9.1	-	36.4	-
	発達障害	33	33.3	51.5	24.2	12.1	-	3.0	6.1	3.0
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ ■■■ は全体より10ポイント以上、■■■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

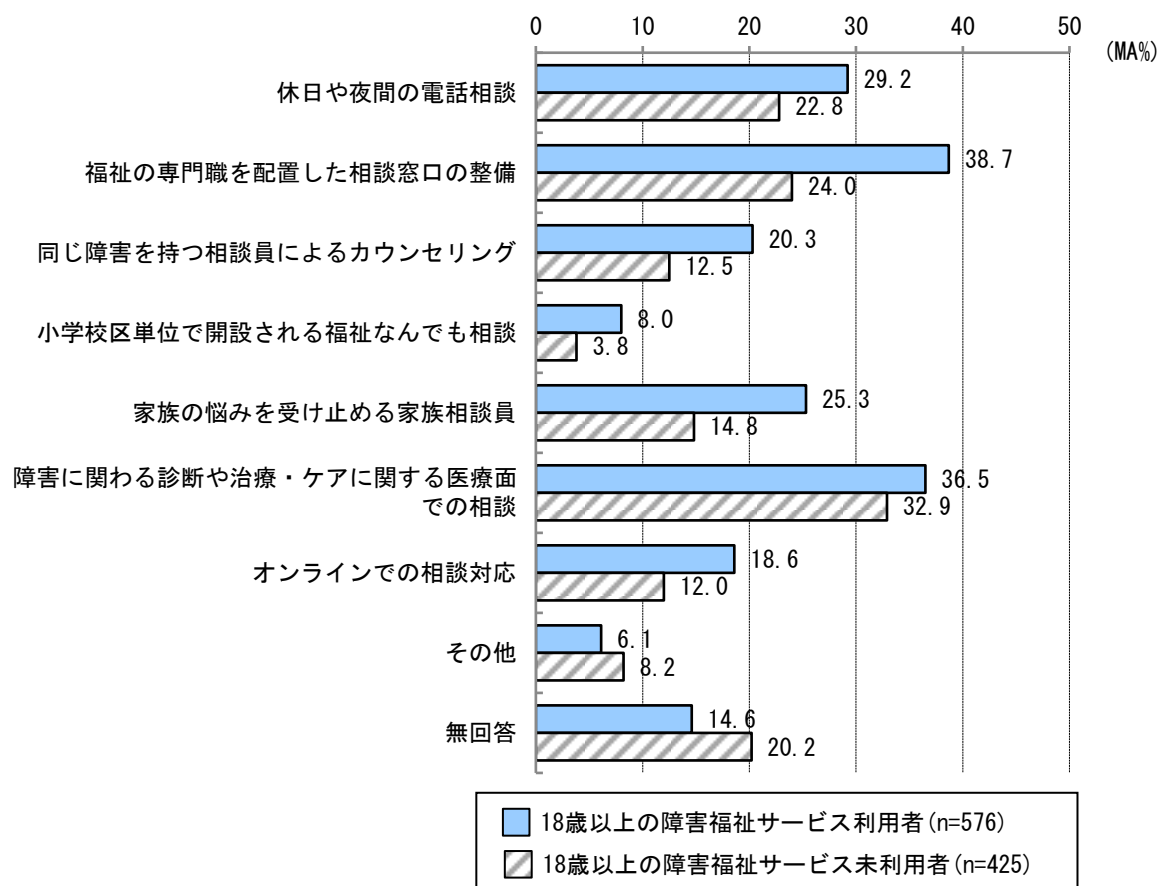
## (9) 今後の相談支援体制への希望

問 市内における今後の相談支援体制について、どのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

### 18歳以上の障害のある市民（調査①②）

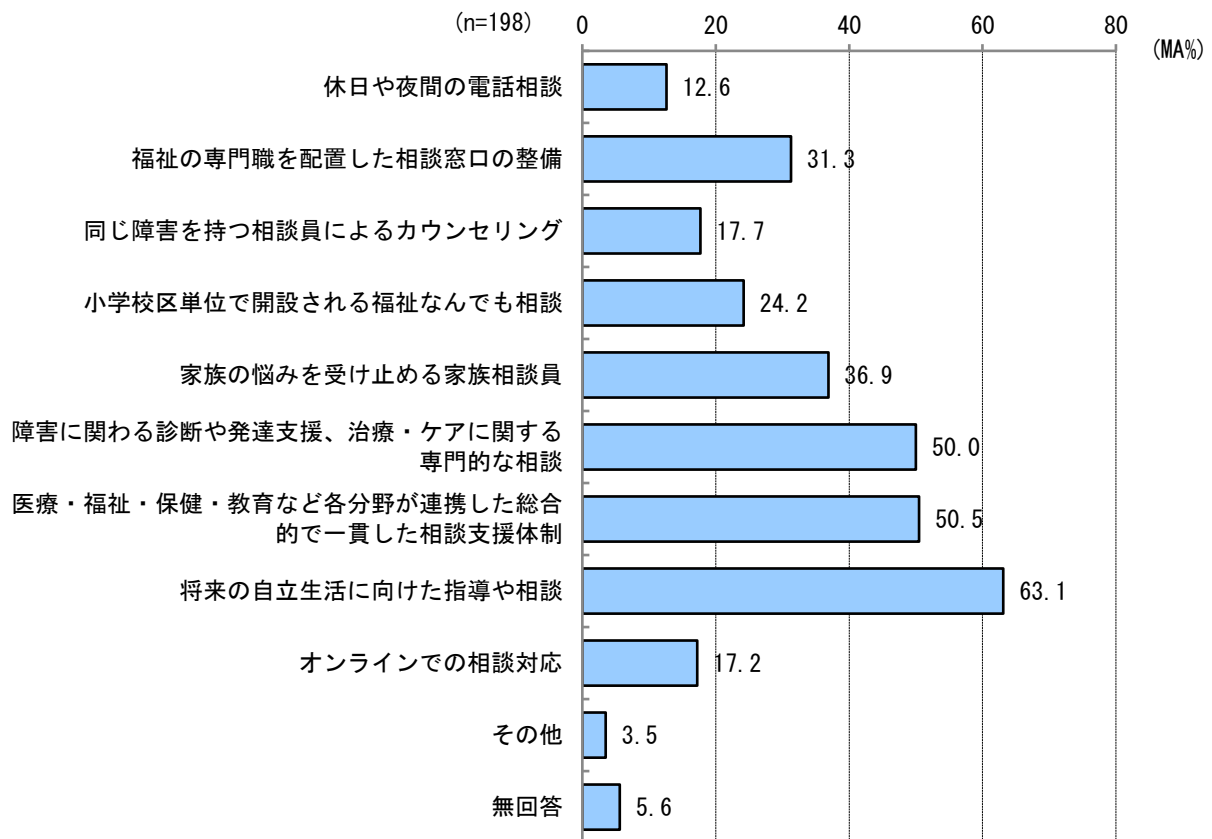
今後の相談支援体制への希望については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「福祉の専門職を配置した相談窓口の整備」が38.7%で最も多く、次いで「障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が36.5%、「休日や夜間の電話相談」が29.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談」が32.9%で最も多く、次いで「福祉の専門職を配置した相談窓口の整備」が24.0%、「休日や夜間の電話相談」が22.8%となっています。



### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、「将来の自立生活に向けた指導や相談」が63.1%で最も多く、次いで「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談支援体制」が50.5%、「障害に関わる診断や発達支援、治療・ケアに関する専門的な相談」が50.0%となっています。

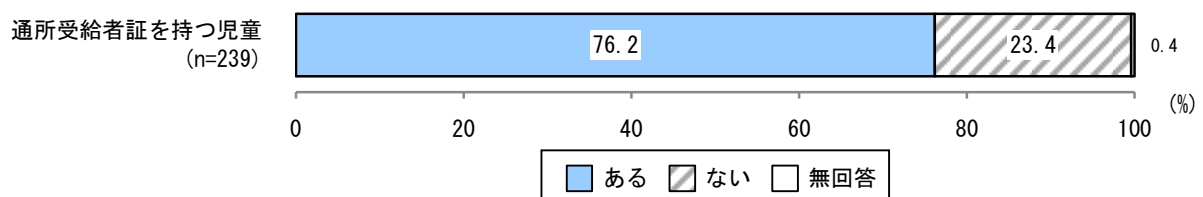


### (10) 家族・親戚以外への相談状況（児童）

問 家族や親戚以外で、困ったことや心配に思っていることを相談したことがありますか。  
(どちらか1つに○)

#### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

家族・親戚以外への相談状況については、「ある」が76.2%、「ない」が23.4%となっています。



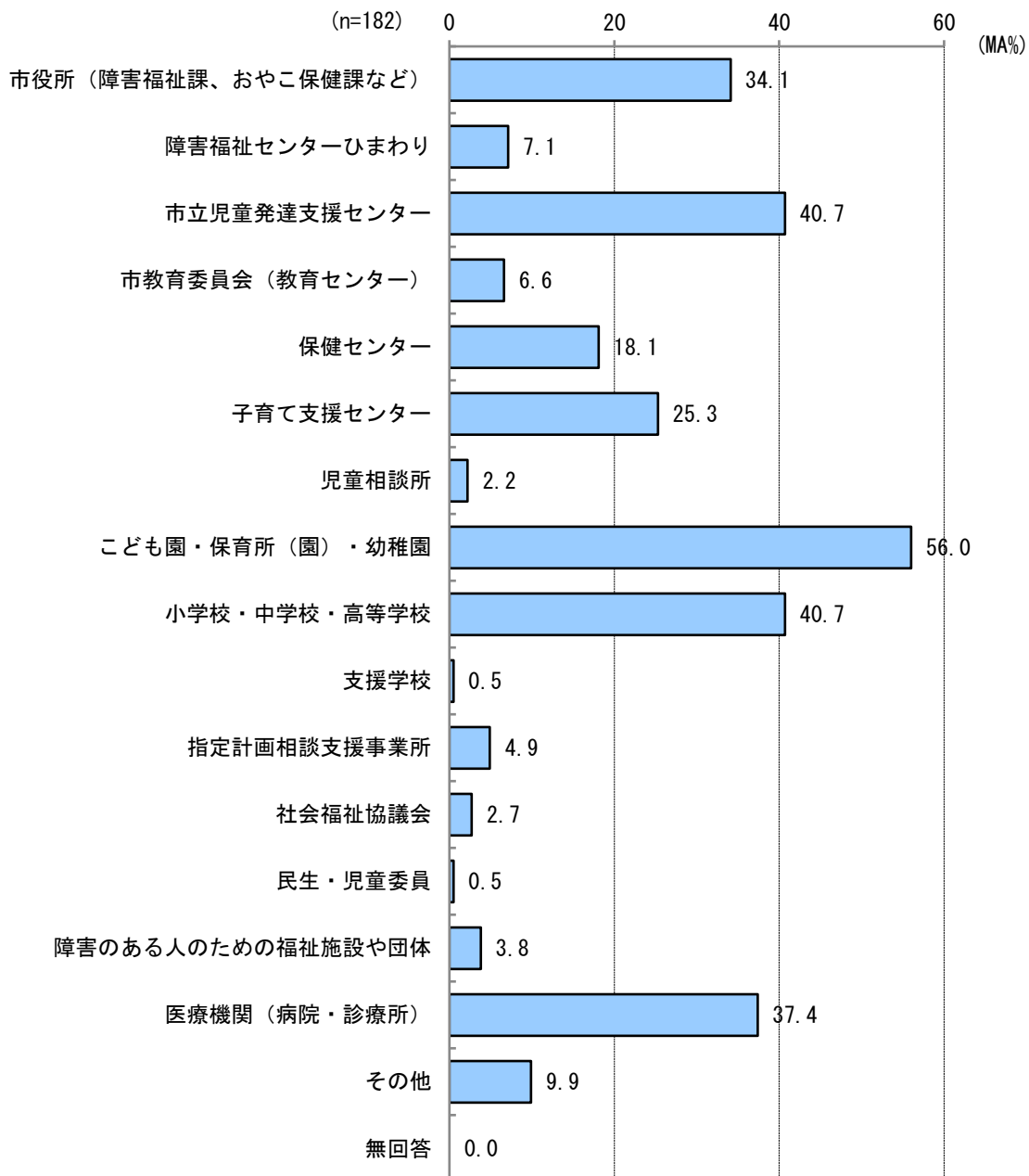
## (11) 家族・親戚以外への相談先（児童）

\* 『(10) 家族・親戚以外への相談状況』で「1. ある」と回答された方

問 これまでどこに相談しましたか。（あてはまるものすべてに○）

### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

家族や親戚以外への相談したことがあると回答した人に、その相談先についてたずねたところ、「こども園・保育所（園）・幼稚園」が56.0%で最も多く、次いで「市立児童発達支援センター」と「小学校・中学校・高等学校」がそれぞれ40.7%となっています。



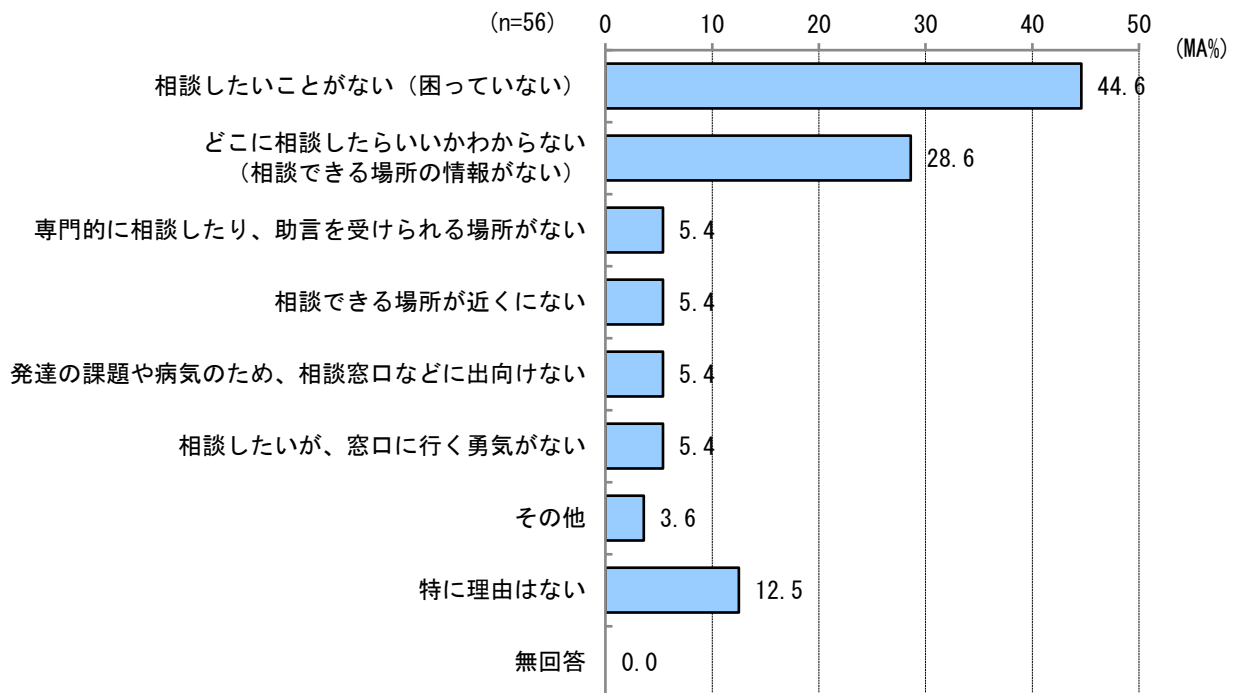
## (12) 家族・親戚以外への相談しない理由（児童）

\* 『(10) 家族・親戚以外への相談状況』で「2. ない」と回答された方

問 相談したことがない理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

家族や親戚以外への相談したことがないと回答した人に、その理由をたずねたところ、「相談したいことがない（困っていない）」が44.6%で最も多く、次いで「どこに相談したらいいかわからない（相談できる場所の情報がない）」が28.6%となっています。

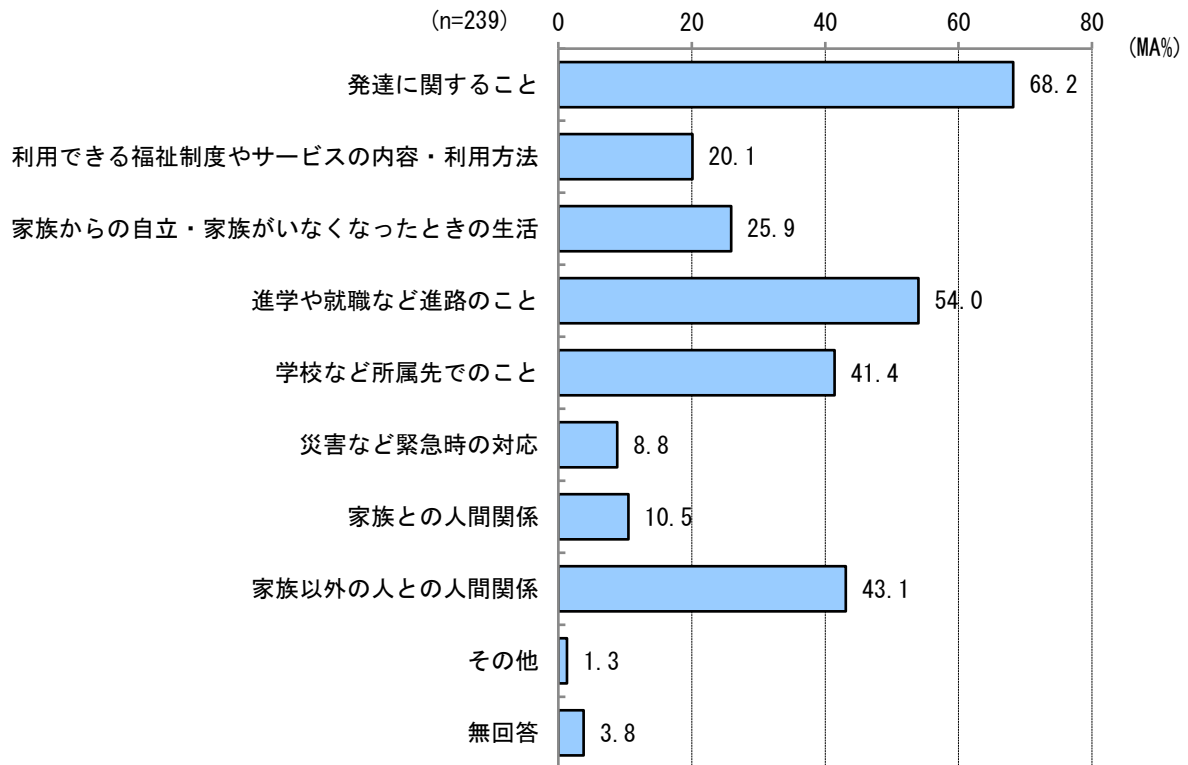


### (13) 今、気にかかっていること（児童）

問 今、気にかかっていることはどのようなことですか。（あてはまるものすべてに○）

#### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

今、気にかかっていることについては、「発達に関すること」が68.2%で最も多く、次いで「進学や就職など進路のこと」が54.0%、「家族以外の人との人間関係」が43.1%となっています。

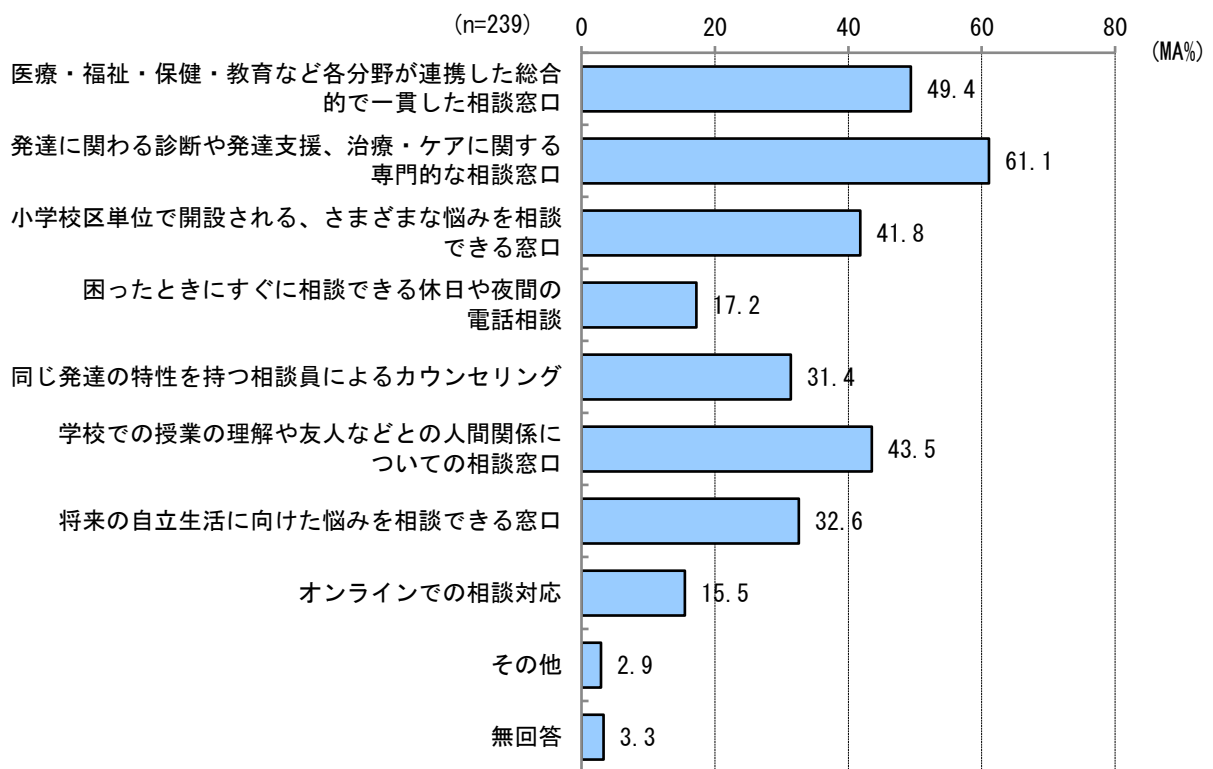


## (14) 今後の相談支援体制への希望（児童）

問 今後、どのような相談支援体制が充実すればいいと思いますか。（あてはまるものすべてに○）

### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

今後の相談支援体制への希望については、「発達に関わる診断や発達支援、治療・ケアに関する専門的な相談窓口」が61.1%で最も多く、次いで「医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談窓口」が49.4%、「学校での授業の理解や友人などとの人間関係についての相談窓口」が43.5%となっています。



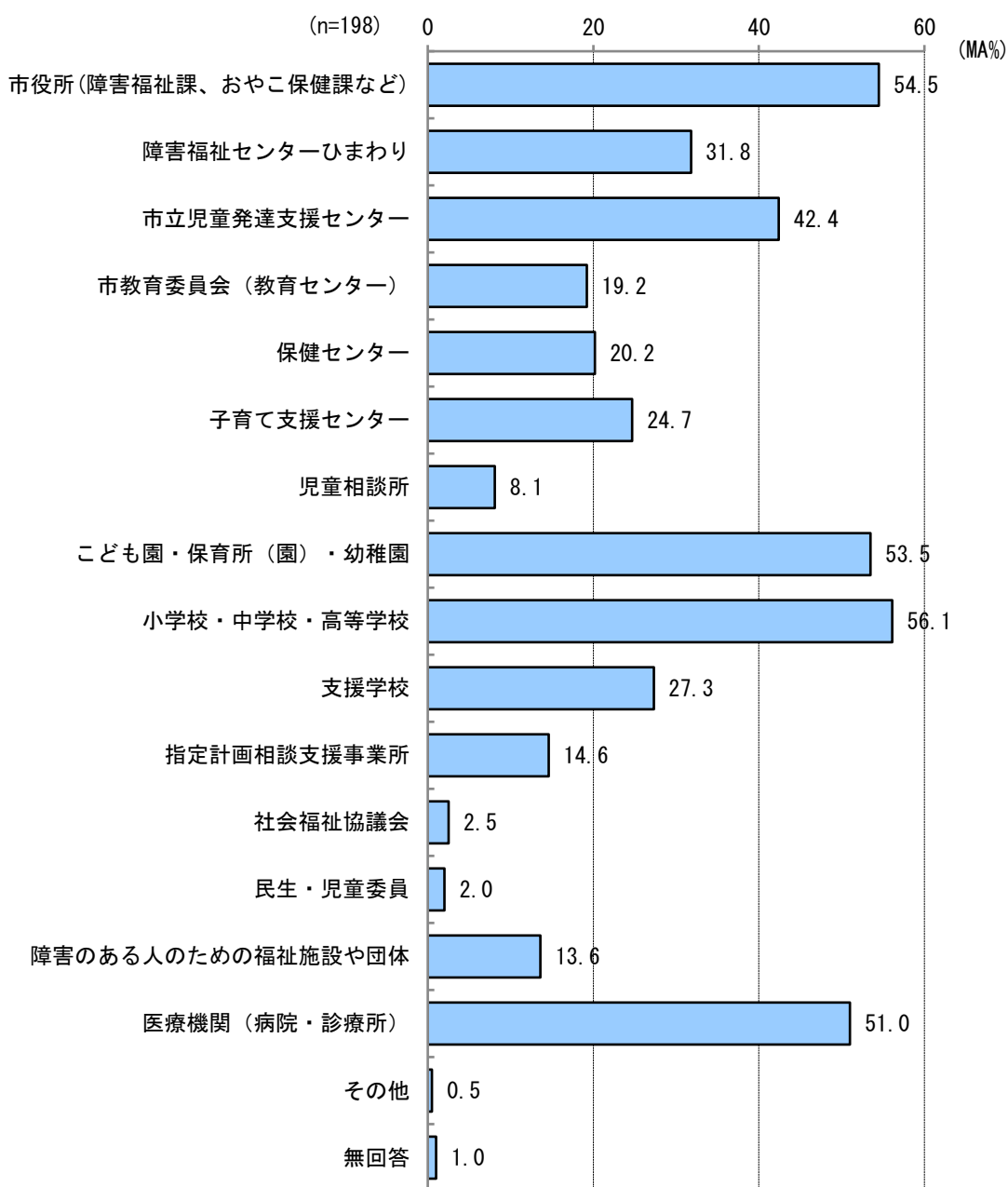
## 4 療育・教育について

### (1) 療育や教育に関する相談先

問 障害のある人の発達支援や教育について、これまでどこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

#### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

療育や教育に関する相談先については、「小学校・中学校・高等学校」が56.1%で最も多く、次いで「市役所(障害福祉課、おやこ保健課など)」が54.5%、「こども園・保育所(園)・幼稚園」が53.5%となっています。

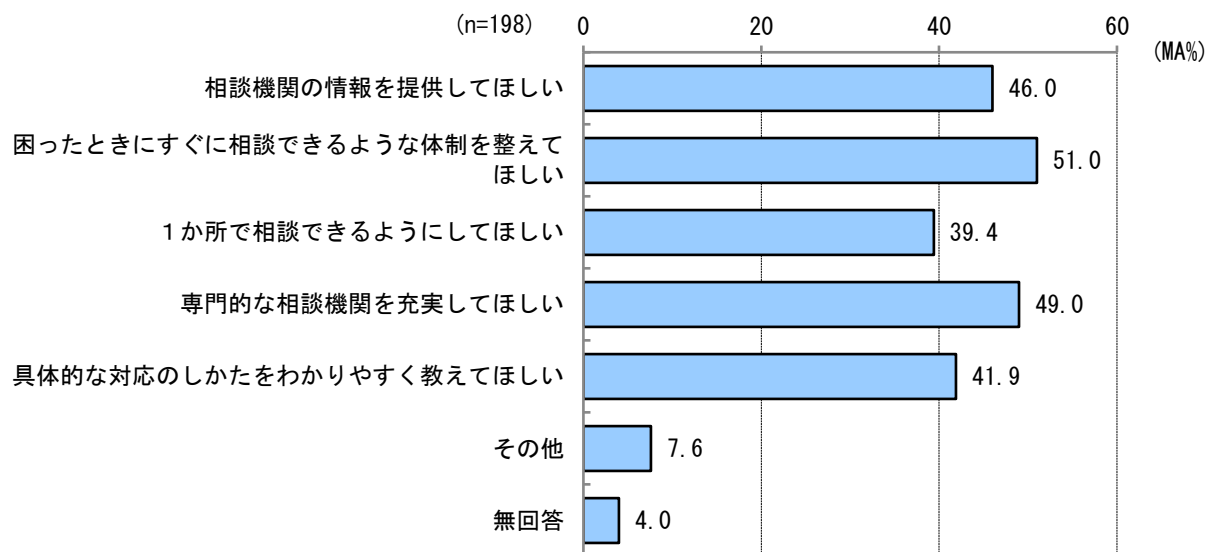


## (2) 療育や教育に関する相談への希望

問 発達支援や教育に関する相談について望むことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

### 18歳未満の障害のある市民(調査③)

発達支援や教育に関する相談へ希望することについては、「困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい」が51.0%で最も多く、次いで「専門的な相談機関を充実してほしい」が49.0%、「相談機関の情報を提供してほしい」が46.0%となっています。



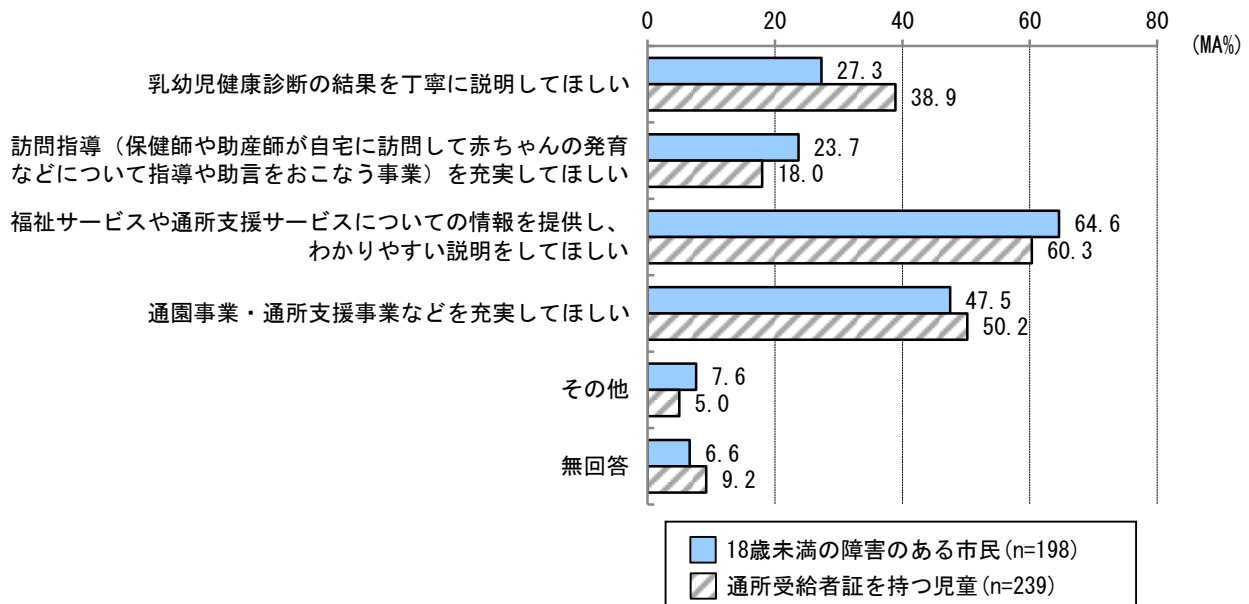
### (3) 乳幼児期における母子保健や療育に関わることへの希望

問 乳幼児期における母子保健や発達支援に関わることでどのようなことを望みますか。  
(あてはまるものすべてに○)

#### 18歳未満の障害のある市民、通所受給者証を持つ児童（調査③⑤）

乳幼児期における母子保健や発達支援に関わることで望むことについては、18歳未満の障害のある市民では、「福祉サービスや通所支援サービスについての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい」が64.6%で最も多く、次いで「通園事業・通所支援事業などを充実してほしい」が47.5%、「乳幼児健康診断の結果を丁寧に説明してほしい」が27.3%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「福祉サービスや通所支援サービスについての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい」が60.3%で最も多く、次いで「通園事業・通所支援事業などを充実してほしい」が50.2%、「乳幼児健康診断の結果を丁寧に説明してほしい」が38.9%となっています。

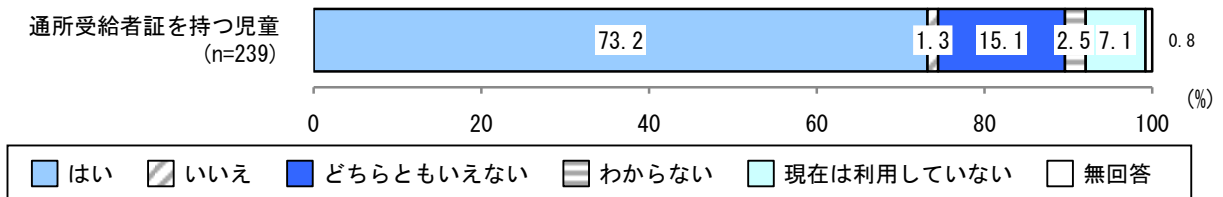


#### (4) 児童通所支援内容への満足度

問 現在、利用している通所支援の内容に満足していますか。(どれか1つに○)

##### 通所受給者証を持つ児童 (調査⑤)

現在利用している通所支援の内容への満足度については、「はい」が73.2%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が15.1%、「現在は利用していない」が7.1%となっています。

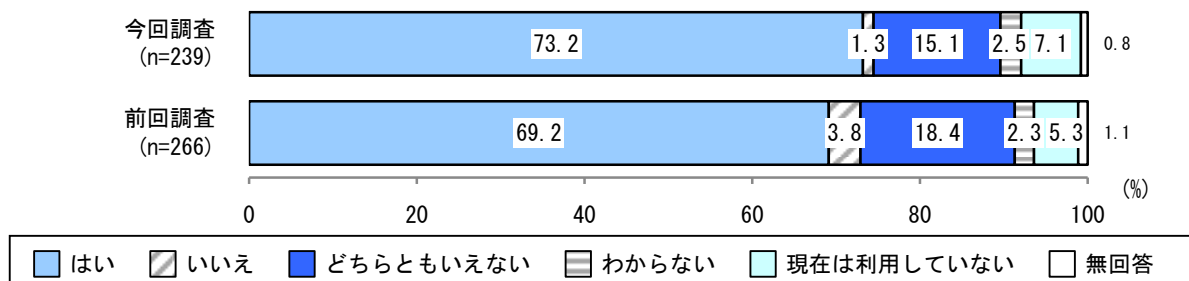


##### 《経年比較及びクロス集計表》

##### 通所受給者証を持つ児童 (調査⑤)

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、「はい」の割合は前回調査より4.0ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「はい」の割合は0～4歳 (91.0%) で最も高くなっています。



		サンプル数	はい	いいえ	どちらともいえない	わからない	現在は利用していない	無回答
全体		239	73.2	1.3	15.1	2.5	7.1	0.8
年齢別	0～4歳	67	91.0	-	6.0	3.0	-	-
	5～9歳	129	69.0	1.6	19.4	1.6	7.8	0.8
	10～17歳	43	58.1	2.3	16.3	4.7	16.3	2.3
所属先別	小学校入学前	112	81.3	0.9	10.7	2.7	3.6	0.9
	小学校入学後	127	66.1	1.6	18.9	2.4	10.2	0.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

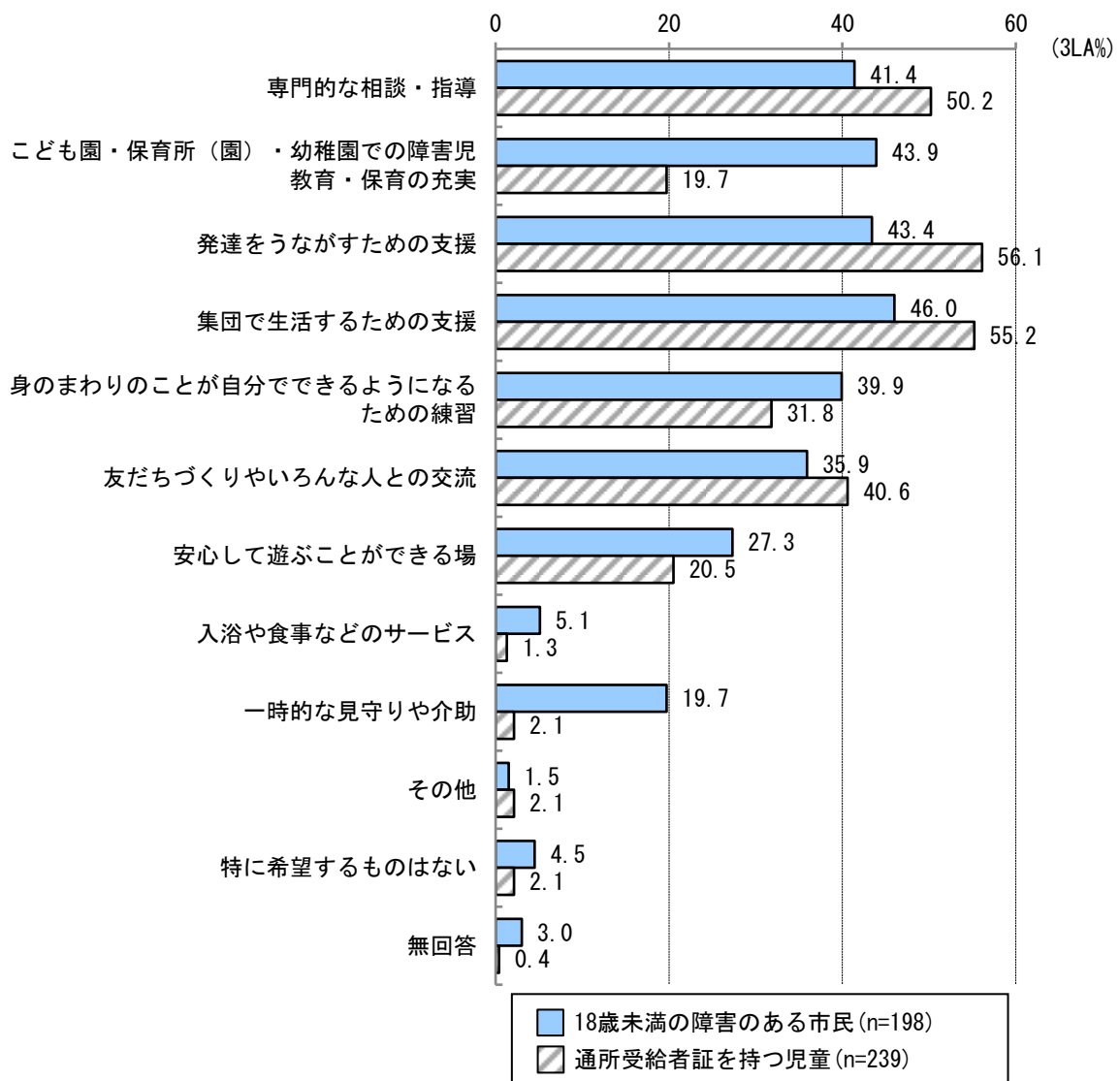
## (5) 希望する療育やサービス

問 こども園や保育所（園）や幼稚園、福祉施設など、障害のあるこどものための通所型の施設やサービスについて、どのようなことを希望しますか。（主なものを3つまで○）

18歳未満の障害のある市民、通所受給者証を持つ児童（調査③⑤）

障害のあるこどものための通所型の施設やサービスに希望することについては、18歳未満の障害のある市民では、「集団で生活するための支援」が46.0%で最も多く、次いで「こども園・保育所（園）・幼稚園での障害児教育・保育の充実」が43.9%、「発達をうながすための支援」が43.4%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「発達をうながすための支援」が56.1%で最も多く、次いで「集団で生活するための支援」が55.2%、「専門的な相談・指導」が50.2%となっています。



## (6) 充実が必要だと思う施策やサービス

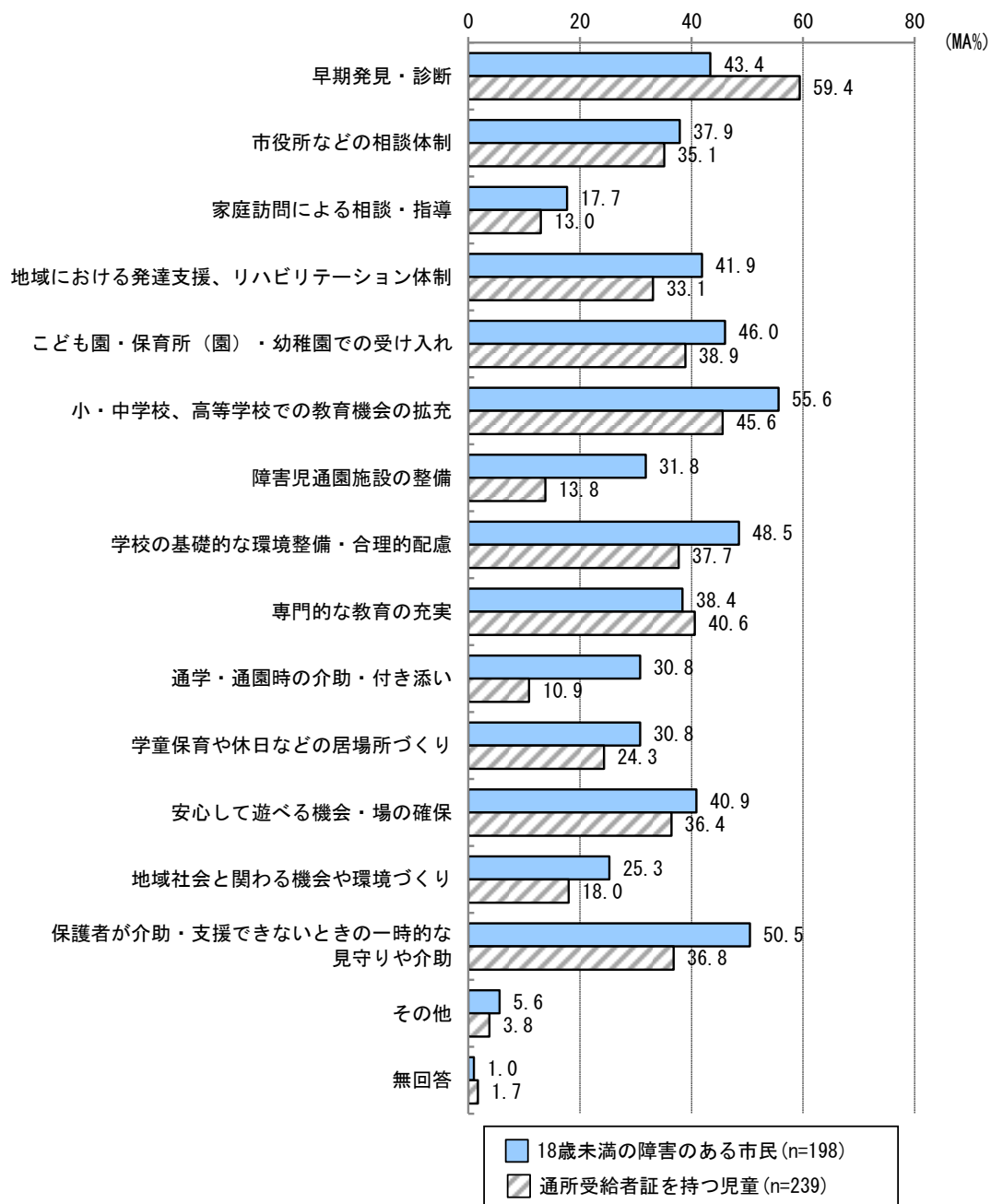
問 障害のあるこどものための施策やサービスなどで、特に充実が必要と思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)【調査③】

問 発達に支援を必要とするこどものための施策やサービスなどで、特に充実が必要と思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)【調査⑤】

### 18歳未満の障害のある市民、通所受給者証を持つ児童 (調査③⑤)

障害のあるこどものための施策やサービスなどで、充実が必要と思う施策やサービスについては、18歳未満の障害のある市民では、「小・中学校、高等学校での教育機会の拡充」が55.6%で最も多く、次いで「保護者が介助・支援できないときの一時的な見守りや介助」が50.5%、「学校の基礎的な環境整備・合理的配慮」が48.5%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「早期発見・診断」が59.4%で最も多く、次いで「小・中学校、高等学校での教育機会の拡充」が45.6%、「専門的な教育の充実」が40.6%となっています。



## 5 災害など緊急時の対応について

### (1) 最寄りの避難場所の認知状況

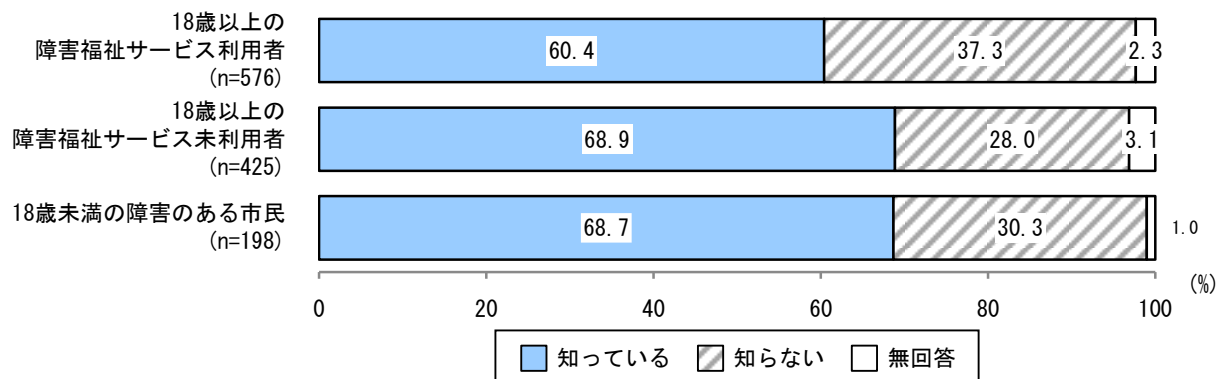
問 あなたは、最寄りの避難場所を知っていますか。(どちらか1つに○)

#### 障害のある市民 (調査①②③)

最寄りの避難場所の認知状況については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「知っている」が60.4%、「知らない」が37.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「知っている」が68.9%、「知らない」が28.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「知っている」が68.7%、「知らない」が30.3%となっています。



## (2) 災害時における一人での避難ができるか

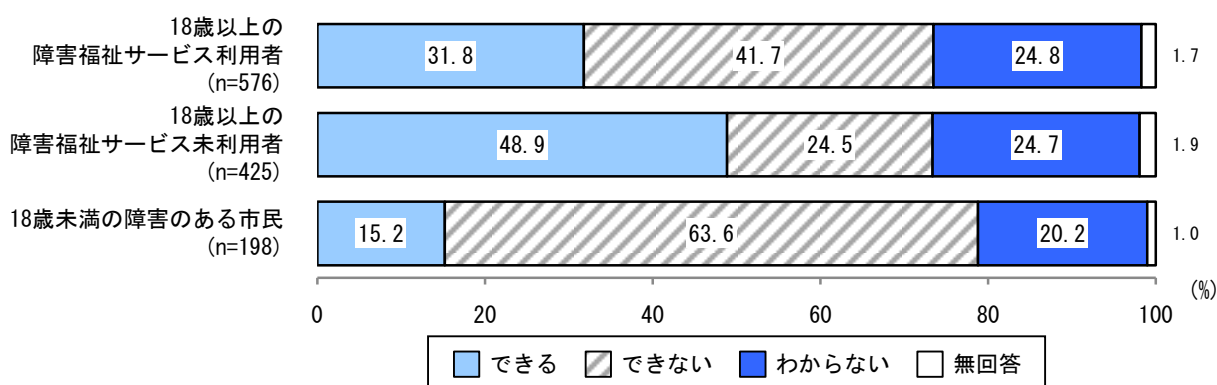
問 あなたは、災害があった際にあなた一人で避難できますか。(どれか1つに○)

### 障害のある市民 (調査①②③)

災害時における一人での避難ができるかについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「できない」が41.7%で最も多く、次いで「できる」が31.8%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「できる」が48.9%で最も多く、「できない」は24.5%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「できない」が63.6%で最も多く、「できる」は15.2%となっています。



### (3) 避難等の援助を頼める人

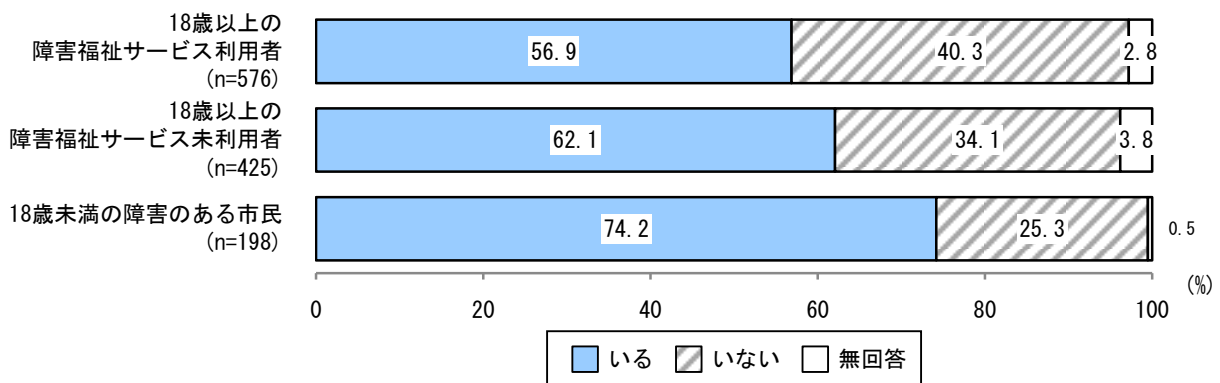
問 だれか避難等の援助を頼める人が身近にいますか。(どちらか1つに○)

#### 障害のある市民 (調査①②③)

避難等の援助を頼める人については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「いる」が56.9%、「いない」が40.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「いる」が62.1%、「いない」が34.1%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「いる」が74.2%、「いない」が25.3%となっています。



#### (4) 緊急時の対応について、重要だと思うこと

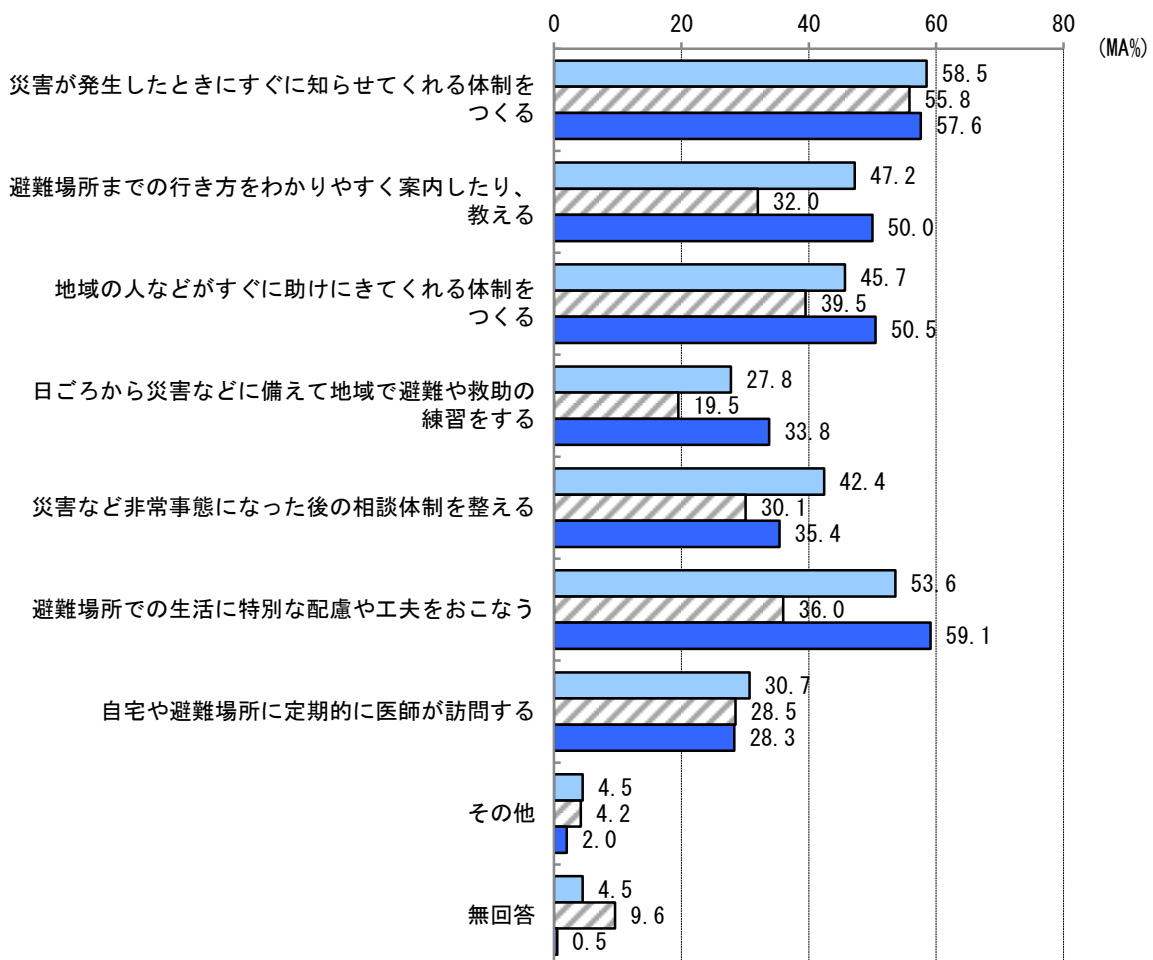
問 火事や地震など緊急時の対応について、障害や難病のある人の立場からどのようなことが重要だと思いますか。(重要と思うものすべてに○)

##### 障害のある市民 (調査①②③)

緊急時の対応について、重要だと思うことについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「災害が発生したときにすぐに知らせてくれる体制をつくる」が58.5%で最も多く、次いで「避難場所での生活に特別な配慮や工夫をおこなう」が53.6%、「避難場所までの行き方をわかりやすく案内したり、教える」が47.2%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「災害が発生したときにすぐに知らせてくれる体制をつくる」が55.8%で最も多く、次いで「地域の人などがすぐに助けにきてくれる体制をつくる」が39.5%、「避難場所での生活に特別な配慮や工夫をおこなう」が36.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「避難場所での生活に特別な配慮や工夫をおこなう」が59.1%で最も多く、次いで「災害が発生したときにすぐに知らせてくれる体制をつくる」が57.6%、「地域の人などがすぐに助けにきてくれる体制をつくる」が50.5%となっています。



18歳以上の障害福祉サービス利用者 (n=576)  
 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (n=425)  
 18歳未満の障害のある市民 (n=198)

## 6 障害や難病のある人の人権・理解促進について

### (1) 障害や難病があるためにあきらめたこと

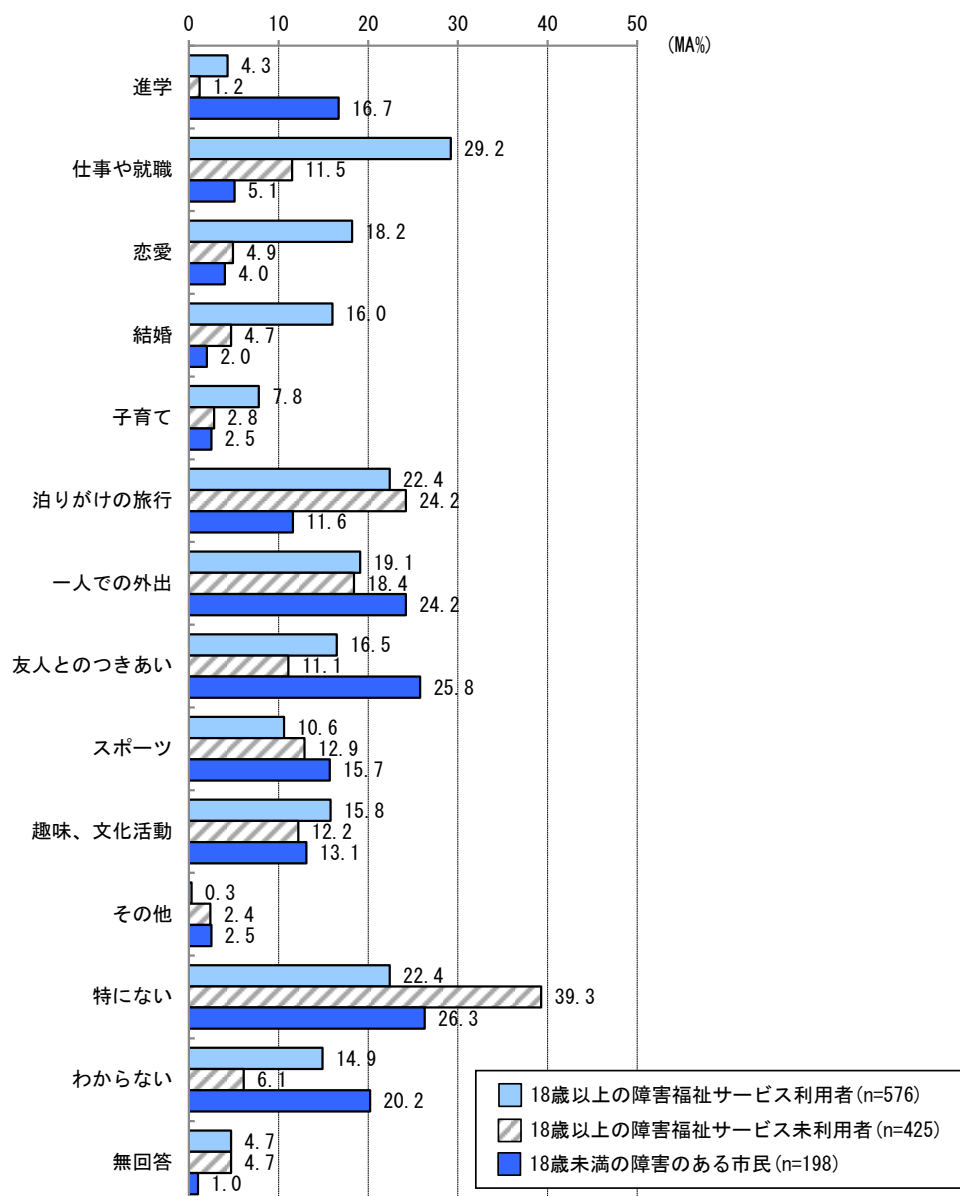
問 ここ3年において、あなたは、障害や難病があるためにあきらめたり、仕方なくがまんしたりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

#### 障害のある市民 (調査①②③)

障害や難病があるためにあきらめたりがまんしたことについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「仕事や就職」が29.2%で最も多く、次いで「泊りがけの旅行」と「特にない」がそれぞれ22.4%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「特にない」が39.3%で最も多いですが、ある人では「泊りがけの旅行」が24.2%で最も多く、次いで「一人での外出」が18.4%、「スポーツ」が12.9%となっています。

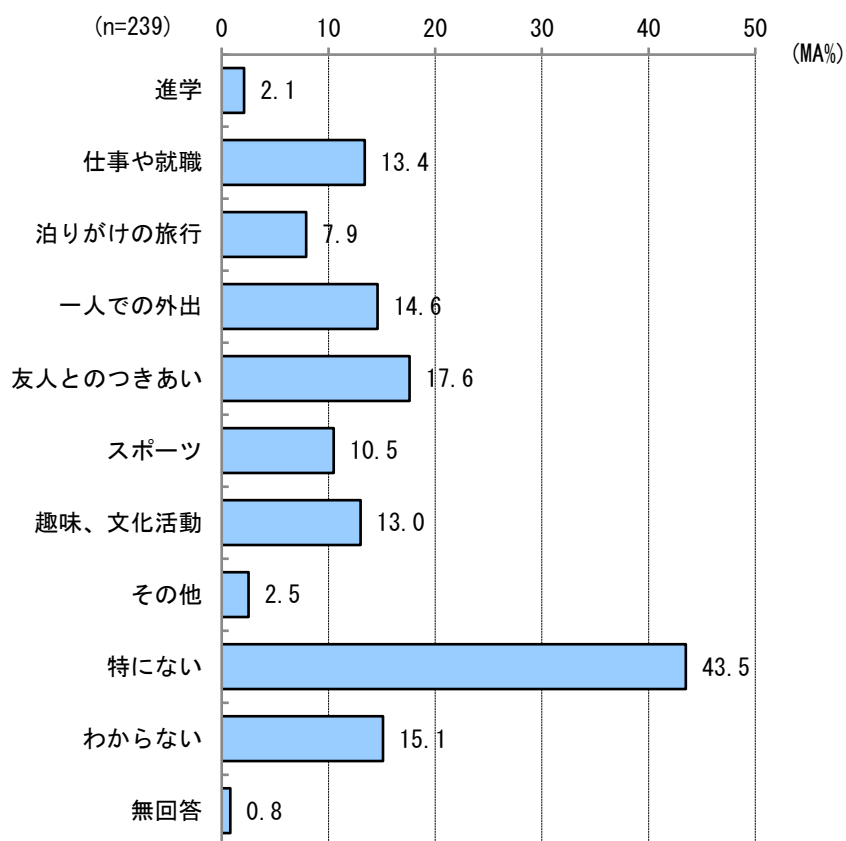
18歳未満の障害のある市民では、「特にない」が26.3%で最も多いですが、ある人では「友人とのつきあい」が25.8%で最も多く、次いで「一人での外出」が24.2%、「進学」が16.7%となっています。



問 ここ3年において、発達に支援が必要であることにより、あきらめたり、仕方なくがまんしたりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

発達に支援が必要であることにより、あきらめたりがまんしたことについては、「特にない」が43.5%で最も多いですが、ある人では「友人とのつきあい」が17.6%で最も多く、次いで「一人での外出」が14.6%、「仕事や就職」が13.4%、「趣味、文化活動」が13.0%となっています。



## (2) 障害や難病のため差別を受けたこと

問 ここ3年において、あなたは、障害や難病があることで嫌な思いをしたり、差別や偏見を受けたりしたことがありますか。(どれか1つに○)

### 障害のある市民 (調査①②③④⑤)

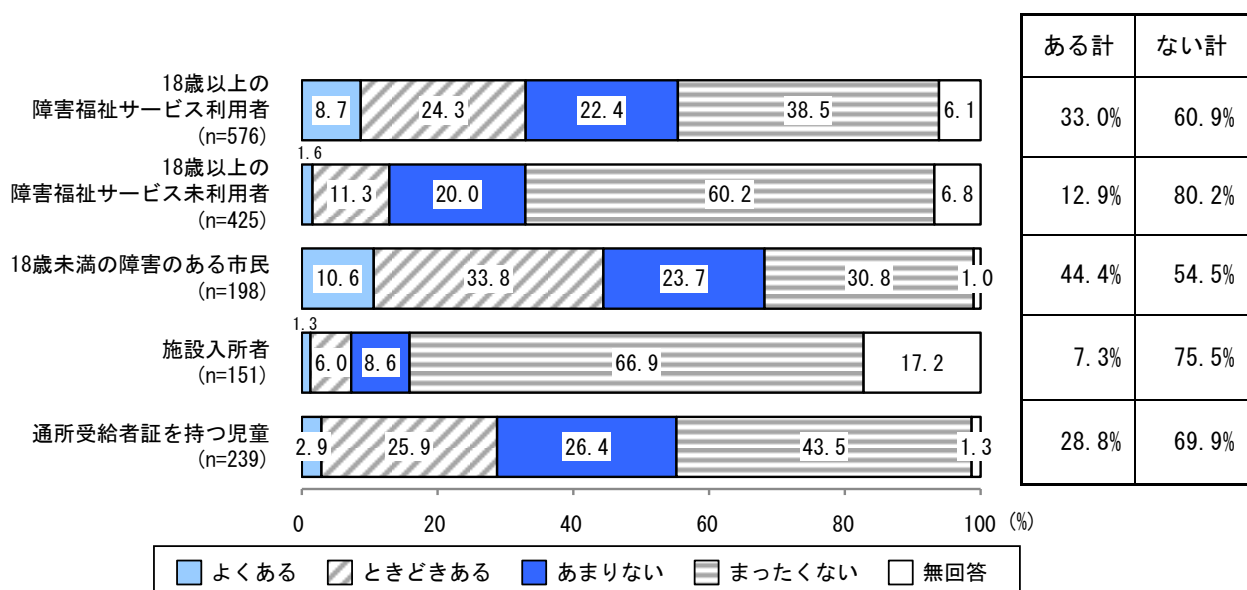
障害や難病があることで、差別や偏見を受けたことについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「まったくない」が38.5%で最も多く、「よくある」と「ときどきある」をあわせた『ある』の割合は33.0%、「あまりない」と「まったくない」をあわせた『ない』の割合は60.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「まったくない」が60.2%で最も多く、『ある』の割合は12.9%、『ない』の割合は80.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「ときどきある」が33.8%で最も多く、『ある』の割合は44.4%、『ない』の割合は54.5%となっています。

施設入所者では、「まったくない」が66.9%で最も多く、『ある』の割合は7.3%、『ない』の割合は75.5%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「まったくない」が43.5%で最も多く、『ある』の割合は28.8%、『ない』の割合は69.9%となっています。



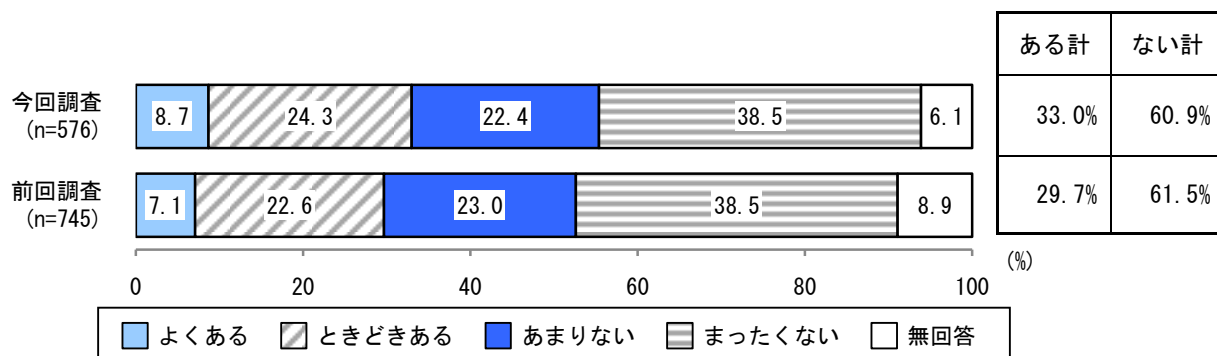
《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、『ある』の割合が前回調査より3.3ポイント高くなっています。

居住地別でみると、『ある』の割合は中部圏域（44.5%）で最も高く、次いで北西部圏域（36.5%）となっています。

障害種別でみると、『ある』の割合は精神障害（43.2%）で最も高く、次いで発達障害（39.3%）となっています。



		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全体		576	8.7	24.3	22.4	38.5	6.1	33.0	60.9
居住地別	北西部圏域	96	9.4	27.1	17.7	40.6	5.2	36.5	58.3
	北中部圏域	69	8.7	24.6	23.2	36.2	7.2	33.3	59.4
	北東部圏域	68	10.3	16.2	32.4	38.2	2.9	26.5	70.6
	中部圏域	81	13.6	30.9	19.8	33.3	2.5	44.5	53.1
	中東部圏域	52	3.8	26.9	25.0	42.3	1.9	30.7	67.3
	中西部圏域	83	7.2	15.7	19.3	47.0	10.8	22.9	66.3
	南部圏域	96	9.4	24.0	20.8	37.5	8.3	33.4	58.3
障害種別	身体障害	181	7.2	21.5	25.4	37.0	8.8	28.7	62.4
	知的障害	230	5.7	22.6	22.6	40.4	8.7	28.3	63.0
	精神障害	220	12.7	30.5	19.5	33.2	4.1	43.2	52.7
	難病	27	11.1	25.9	22.2	29.6	11.1	37.0	51.8
	発達障害	84	11.9	27.4	22.6	31.0	7.1	39.3	53.6
	高次脳機能障害	15	13.3	6.7	20.0	53.3	6.7	20.0	73.3
身障種別	視覚障害	35	5.7	17.1	20.0	48.6	8.6	22.8	68.6
	聴覚障害・平衡機能障害	10	-	10.0	40.0	30.0	20.0	10.0	70.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	4.8	19.0	38.1	19.0	19.0	23.8	57.1
	肢体不自由	102	8.8	24.5	27.5	33.3	5.9	33.3	60.8
	内部障害	20	5.0	25.0	20.0	45.0	5.0	30.0	65.0

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

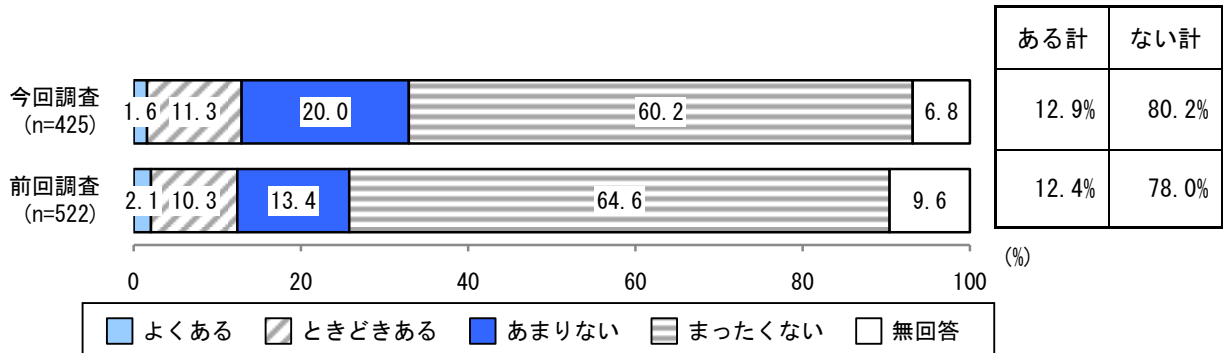
単位：%

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、『ある』、『ない』とも大きな差はみられません。

障害種別でみると、『ある』の割合は精神障害（31.1%）が最も高くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、『ある』の割合はできていると感じている人（9.0%）よりできていないと感じている人（22.5%）のほうが13.5ポイント高くなっています。



		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全体		425	1.6	11.3	20.0	60.2	6.8	12.9	80.2
居住地別	北西部圏域	62	1.6	11.3	22.6	58.1	6.5	12.9	80.7
	北中部圏域	63	-	7.9	19.0	68.3	4.8	7.9	87.3
	北東部圏域	69	1.4	8.7	21.7	63.8	4.3	10.1	85.5
	中部圏域	56	1.8	7.1	21.4	62.5	7.1	8.9	83.9
	中東部圏域	51	2.0	15.7	19.6	54.9	7.8	17.7	74.5
	中西部圏域	54	1.9	11.1	14.8	64.8	7.4	13.0	79.6
	南部圏域	60	1.7	13.3	21.7	53.3	10.0	15.0	75.0
障害種別	身体障害	278	0.7	9.7	19.8	62.6	7.2	10.4	82.4
	知的障害	14	-	21.4	-	71.4	7.1	21.4	71.4
	精神障害	61	9.8	21.3	31.1	31.1	6.6	31.1	62.2
	難病	68	1.5	11.8	19.1	64.7	2.9	13.3	83.8
	発達障害	10	-	30.0	40.0	30.0	-	30.0	70.0
	高次脳機能障害	2	-	-	50.0	50.0	-	-	100.0
身障種別	視覚障害	25	-	16.0	40.0	44.0	-	16.0	84.0
	聴覚障害・平衡機能障害	26	3.8	26.9	15.4	38.5	15.4	30.7	53.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	-	12.5	25.0	62.5	-	12.5	87.5
	肢体不自由	117	1.7	9.4	19.7	64.1	5.1	11.1	83.8
	内部障害	95	1.1	5.3	15.8	72.6	5.3	6.4	88.4
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい（感じる）	278	0.7	8.3	17.6	69.1	4.3	9.0	86.7
	いいえ（感じない）	120	4.2	18.3	27.5	42.5	7.5	22.5	70.0

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

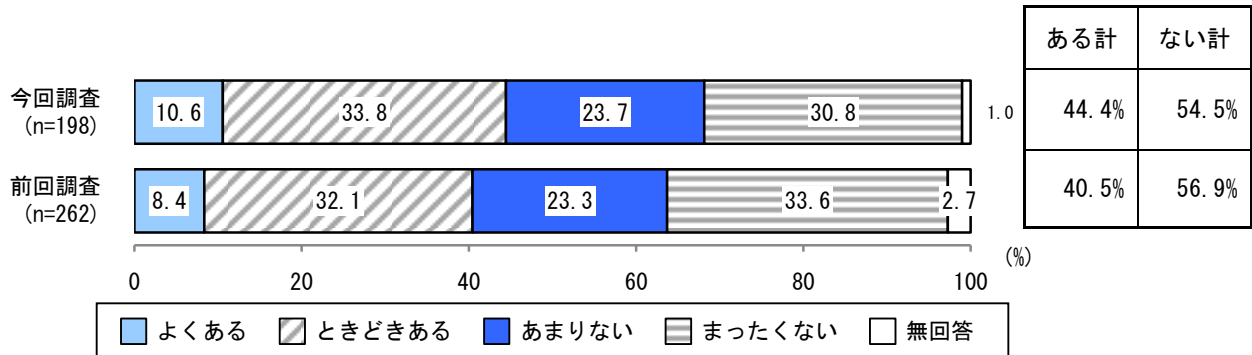
単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、『ある』の割合は前回調査より3.9ポイント高くなっています。

障害種別でみると、『ある』の割合は発達障害（54.6%）で最も高くなっています。

ライフスタイルに応じた生活ができているか別でみると、『ある』の割合はできていると感じている人（38.5%）よりできていないと感じている人（58.2%）のほうが19.7ポイント高くなっています。



		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全体		198	10.6	33.8	23.7	30.8	1.0	44.4	54.5
居住地別	北西部圏域	38	13.2	26.3	26.3	34.2	-	39.5	60.5
	北中部圏域	32	3.1	43.8	15.6	37.5	-	46.9	53.1
	北東部圏域	32	6.3	37.5	21.9	28.1	6.3	43.8	50.0
	中部圏域	18	-	33.3	33.3	33.3	-	33.3	66.6
	中東部圏域	23	17.4	39.1	26.1	17.4	-	56.5	43.5
	中西部圏域	25	16.0	24.0	28.0	32.0	-	40.0	60.0
	南部圏域	21	19.0	28.6	23.8	28.6	-	47.6	52.4
障害種別	身体障害	47	-	38.3	25.5	34.0	2.1	38.3	59.5
	知的障害	161	11.8	34.8	23.0	29.8	0.6	46.6	52.8
	精神障害	16	12.5	31.3	18.8	37.5	-	43.8	56.3
	難病	16	6.3	43.8	25.0	25.0	-	50.1	50.0
	発達障害	55	18.2	36.4	20.0	25.5	-	54.6	45.5
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい（感じる）	130	6.2	32.3	28.5	33.1	-	38.5	61.6
	いいえ（感じない）	55	20.0	38.2	18.2	20.0	3.6	58.2	38.2

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

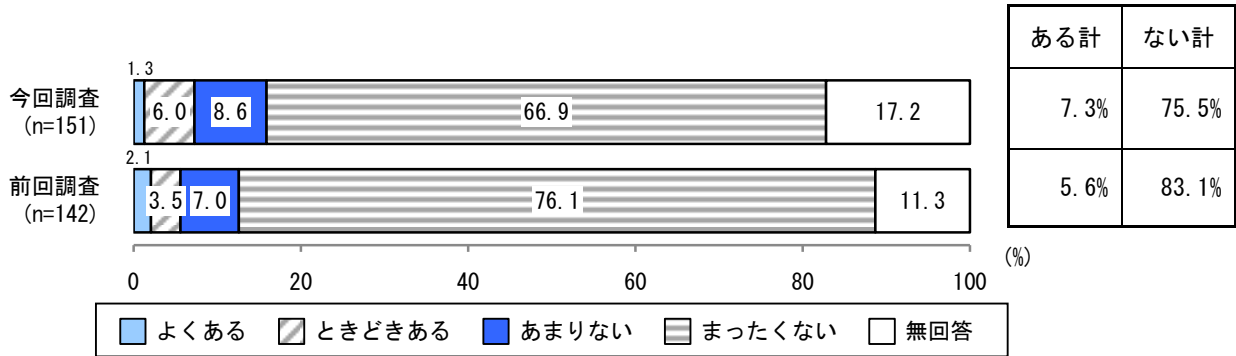
単位：%

施設入所者（調査④）

前回調査と比較すると、施設入所者では、『ない』の割合は前回調査より7.6ポイント低くなっています。

障害種別でみると、『ある』の割合は知的障害（7.3%）で最も高くなっています。

入所年数別でみると、『ある』の割合は5年未満（23.3%）で最も高くなっています。



		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全体		151	1.3	6.0	8.6	66.9	17.2	7.3	75.5
障害種別	身体障害	63	1.6	1.6	7.9	69.8	19.0	3.2	77.7
	知的障害	124	0.8	6.5	7.3	66.9	18.5	7.3	74.2
	その他の障害	14	-	-	7.1	64.3	28.6	-	71.4
入所年数別	5年未満	30	3.3	20.0	16.7	60.0	-	33.3	76.7
	5～20年未満	49	-	4.1	6.1	73.5	16.3	4.1	79.6
	20年以上	72	1.4	1.4	6.9	65.3	25.0	2.8	72.2
退所の意向別	はい	23	-	8.7	17.4	60.9	13.0	8.7	78.3
	いいえ・わからない	128	1.6	5.5	7.0	68.0	18.0	38.3	75.0

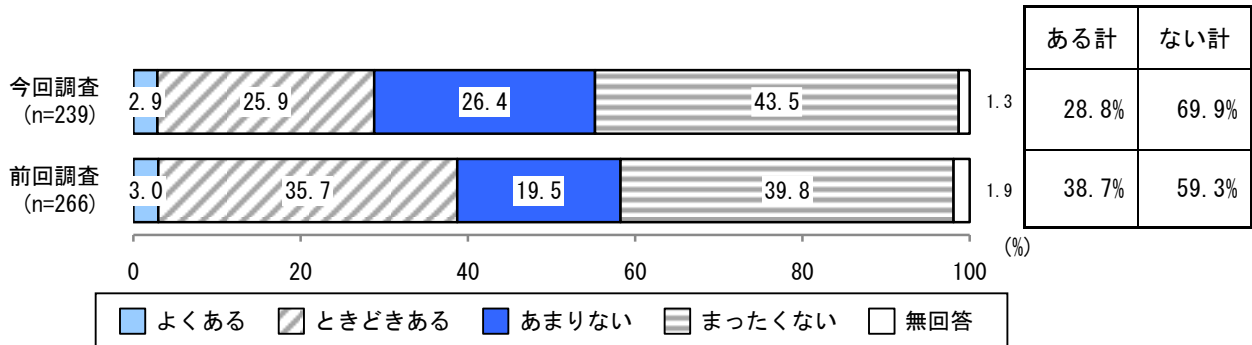
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、『ない』の割合は前回調査より10.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『ある』の割合は5～9歳（34.9%）で最も高くなっています。



		サンプル数	よくある	ときどきある	あまりない	まったくない	無回答	ある計	ない計
全体		239	2.9	25.9	26.4	43.5	1.3	28.8	69.9
年齢別	0～4歳	67	-	19.4	26.9	53.7	-	19.4	80.6
	5～9歳	129	4.7	30.2	25.6	37.2	2.3	34.9	62.8
	10～17歳	43	2.3	23.3	27.9	46.5	-	25.6	74.4
所属先別	小学校入学前	112	2.7	25.9	24.1	44.6	2.7	33.3	68.7
	小学校入学後	127	3.1	26.0	28.3	42.5	-	26.0	70.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

### (3) 差別を受けた場面

\*『(2) 障害や難病のため差別を受けたこと』で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. あまりない」と回答された方

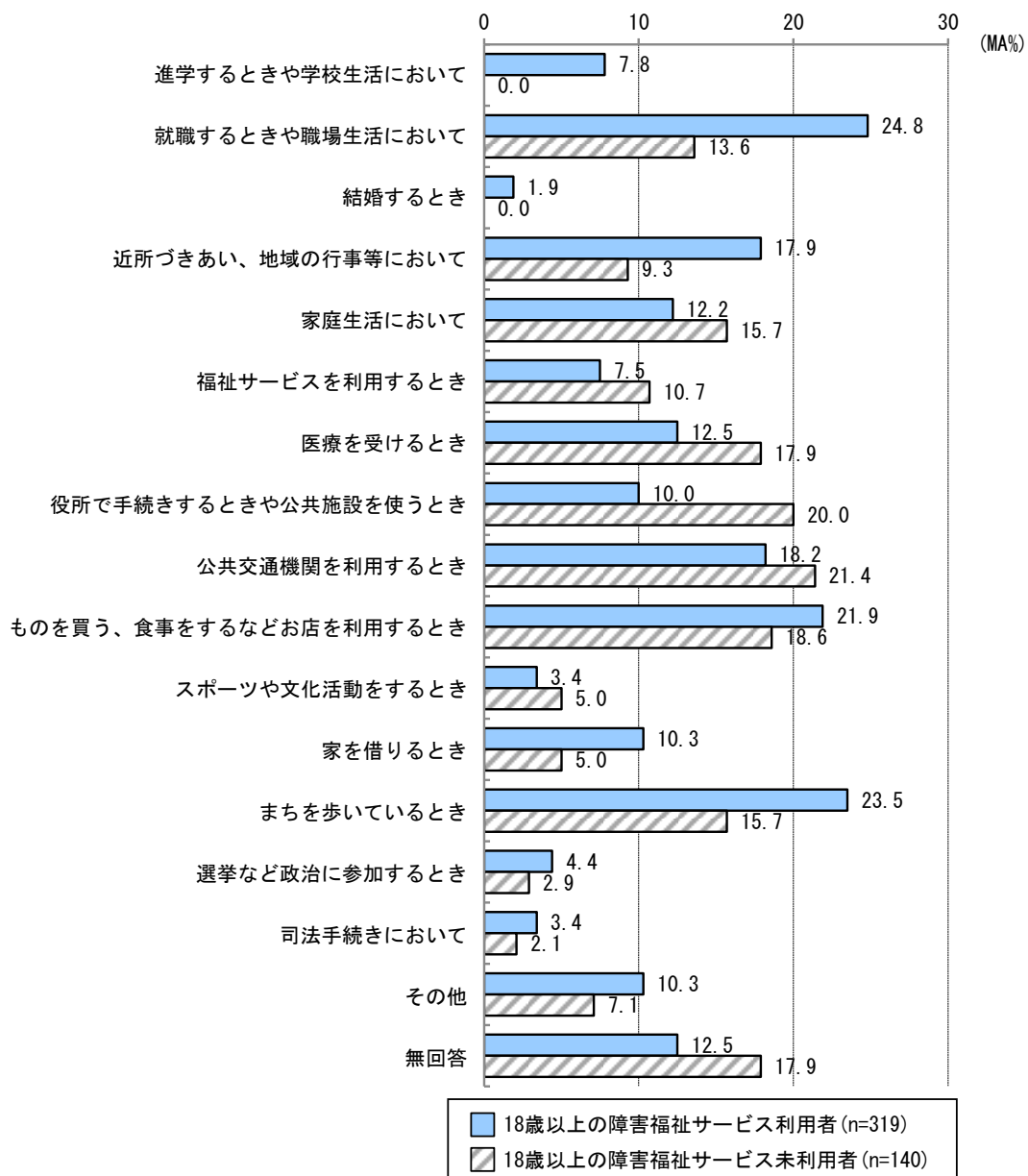
問 それは、どのような場面ですか。(あてはまるものすべてに○)

#### 18歳以上の障害のある市民（調査①②）

障害や難病のため差別を受けたことがあると回答した人に、それはどのような場面かをたずねました。

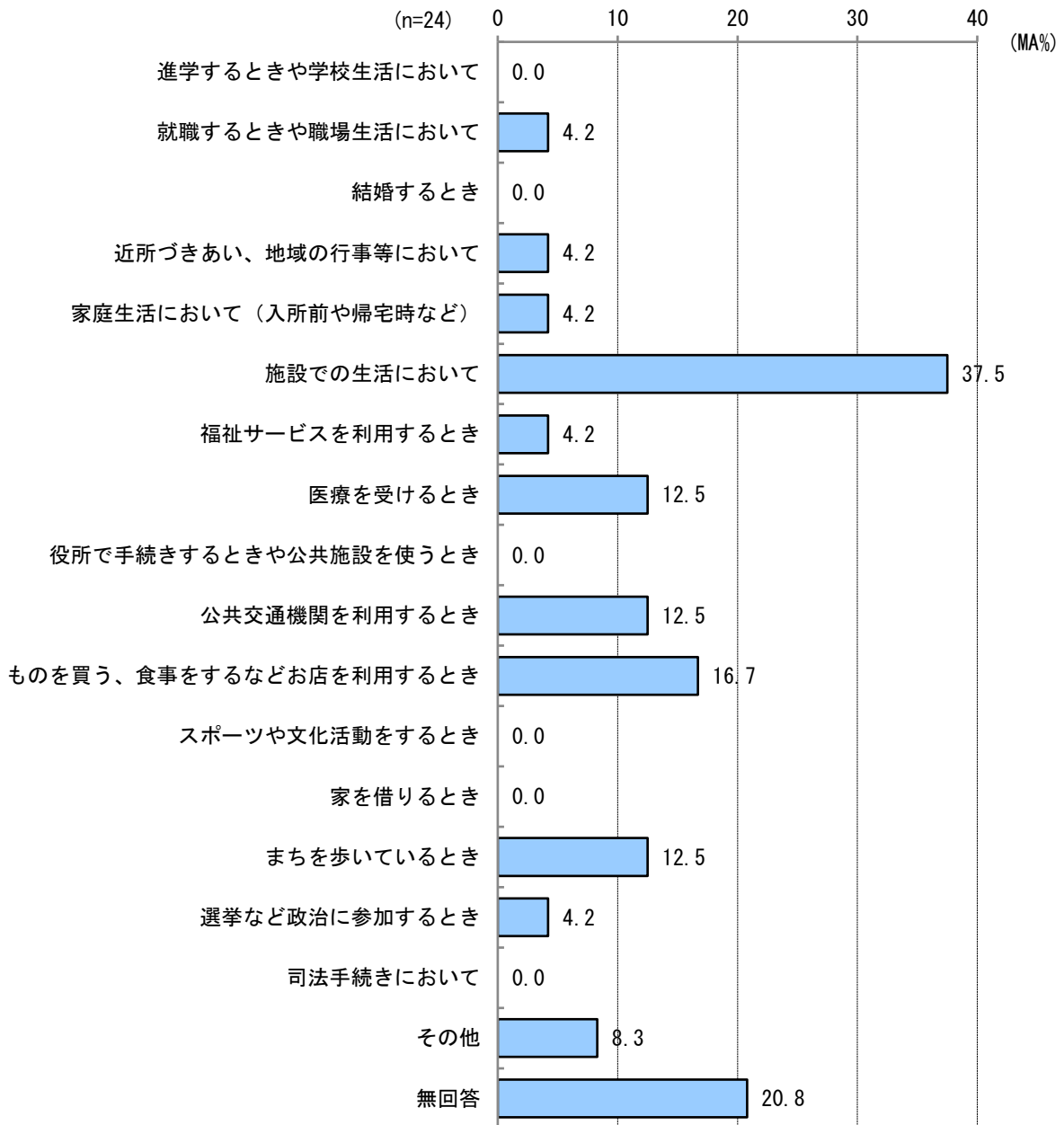
18歳以上の障害福祉サービス利用者は、「就職するときや職場生活において」が24.8%で最も多く、次いで「まちを歩いているとき」が23.5%、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」が21.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者は、「公共交通機関を利用するとき」が21.4%で最も多く、次いで「役所で手続きするときや公共施設を使うとき」が20.0%、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」が18.6%となっています。



施設入所者（調査④）

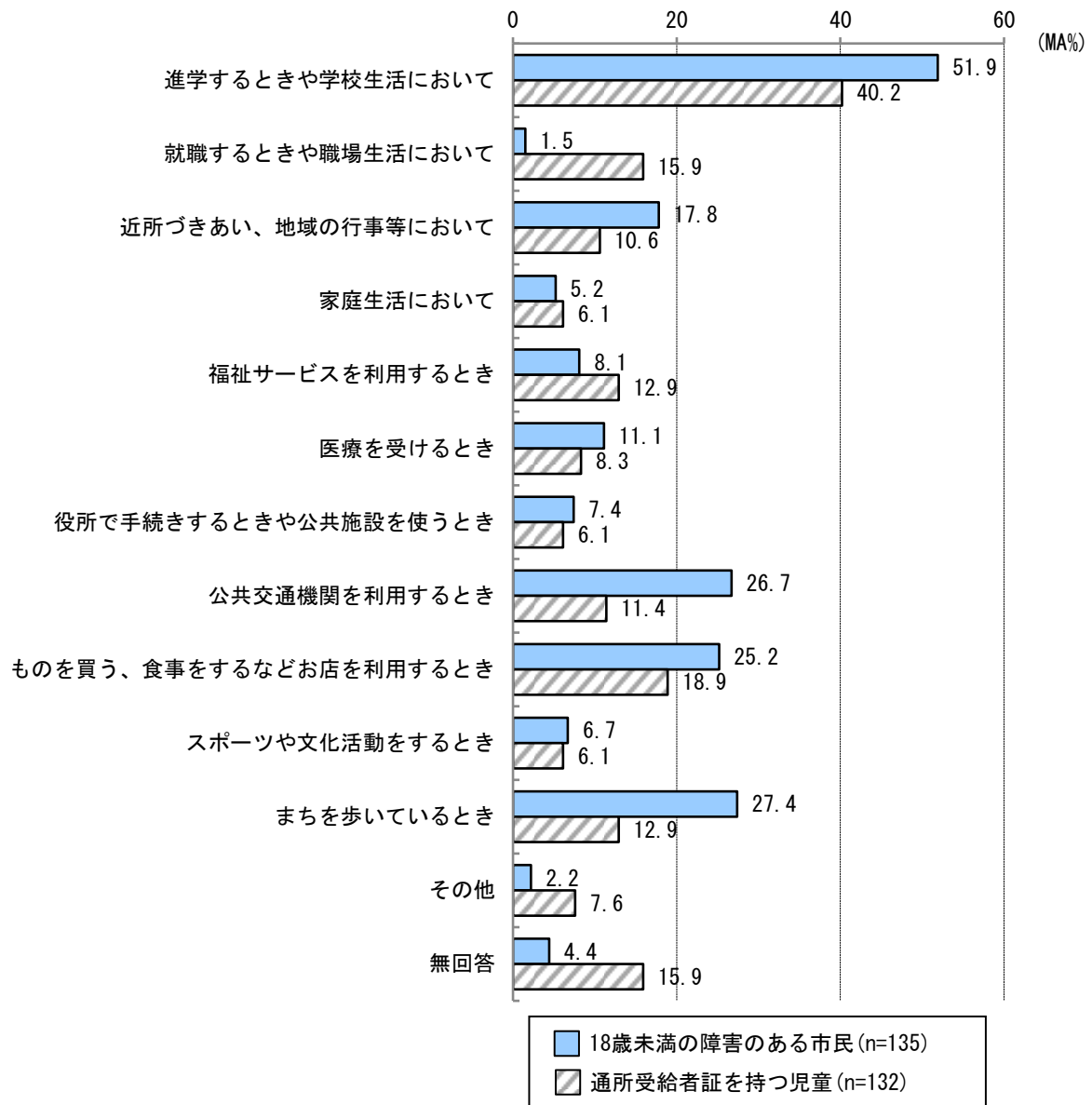
施設入所者では、「施設での生活において」が37.5%で最も多く、次いで「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」が16.7%、「医療を受けるとき」と「公共交通機関を利用するとき」、「まちを歩いているとき」がそれぞれ12.5%となっています。



18歳未満の障害のある市民、通所受給者証を持つ児童（調査③⑤）

18歳未満の障害のある市民では、「進学するときや学校生活において」が51.9%で最も多く、次いで「まちを歩いているとき」が27.4%、「公共交通機関を利用するとき」が26.7%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「進学するときや学校生活において」が40.2%で最も多く、次いで「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」が18.9%、「就職するときや職場生活において」が15.9%となっています。

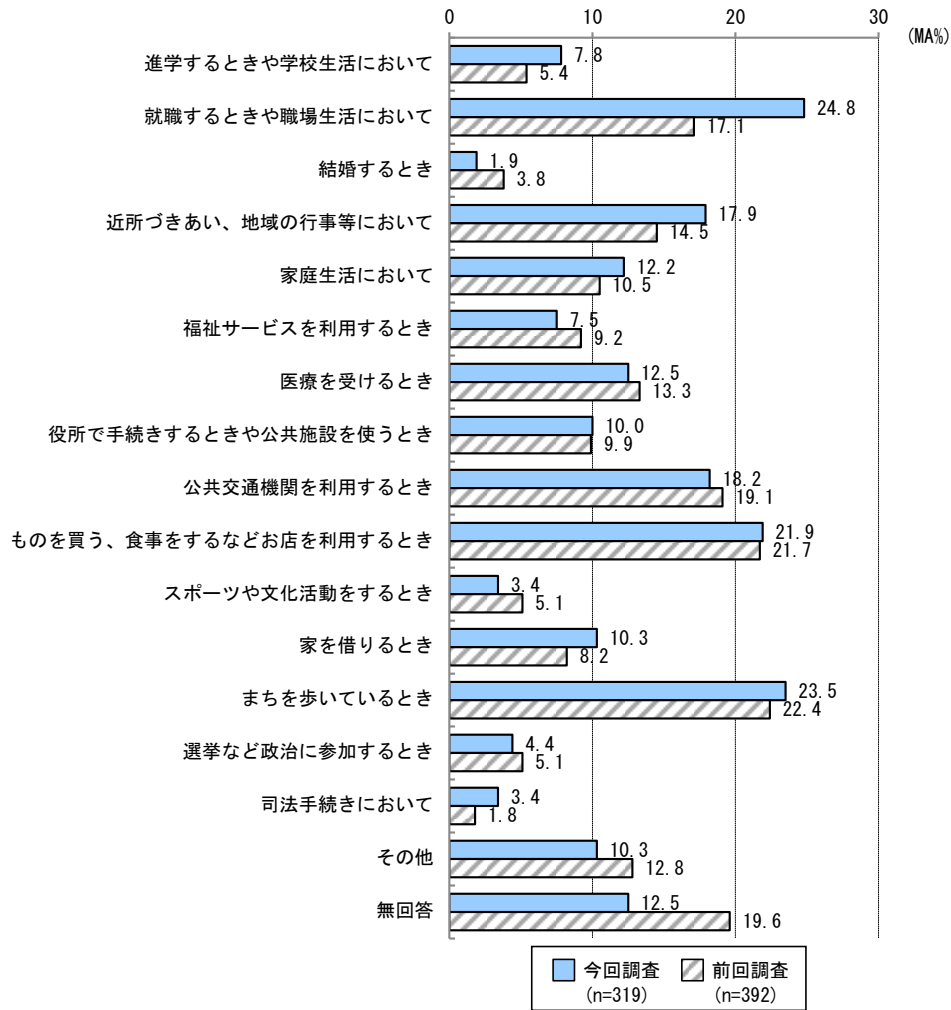


《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「就職するときや職場生活において」の割合が前回調査より7.7ポイント高く、「近所づきあい、地域の行事等において」の割合が前回調査より3.4ポイント高くなっています。

居住地別でみると、北西部圏域と中部圏域では「まちを歩いているとき」が最も多くなっています。

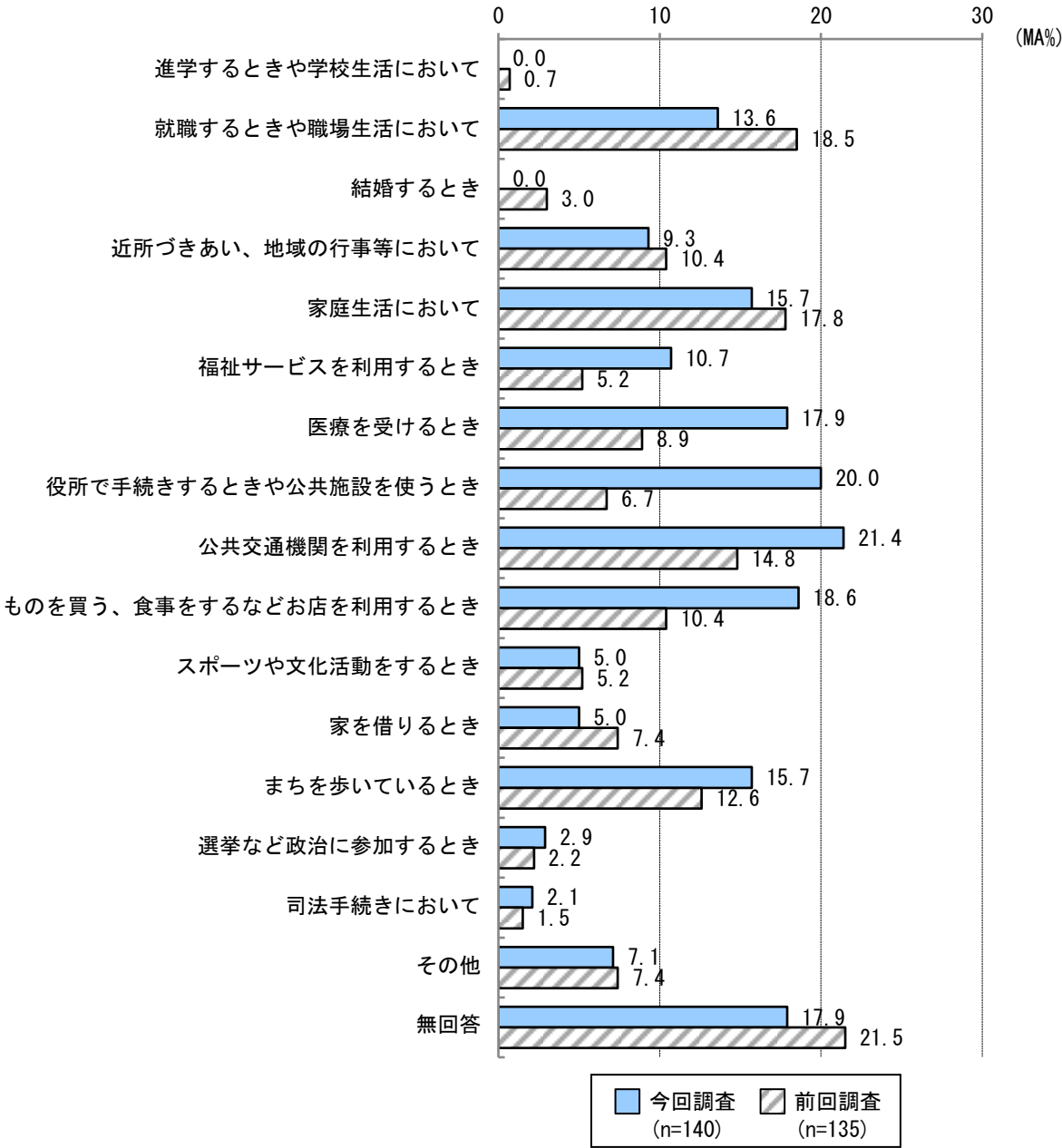


	サンプル数	進学するときや学校生活において	就職するときや職場生活において	結婚するとき	近所づきあい、地域の行事等において	家庭生活において	福祉サービスを利用するとき	医療を受けるとき	役所で手続きするときや公共施設を使うとき	公共交通機関を利用するとき	ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき	スポーツや文化活動をするとき	家を借りるとき	まちを歩いているとき	選挙など政治に参加するとき	司法手続きにおいて	その他	無回答	
全体	319	7.8	24.8	1.9	17.9	12.2	7.5	12.5	10.0	18.2	21.9	3.4	10.3	23.5	4.4	3.4	10.3	12.5	
居住地別	北西部圏域	52	13.5	21.2	1.9	21.2	19.2	9.6	11.5	7.7	13.5	21.2	3.8	3.8	28.8	7.7	3.8	11.5	13.5
	北中部圏域	39	5.1	23.1	-	25.6	10.3	5.1	12.8	15.4	25.6	30.8	-	12.8	20.5	2.6	2.6	12.8	15.4
	北東部圏域	40	5.0	30.0	2.5	17.5	15.0	10.0	10.0	15.0	30.0	22.5	10.0	7.5	25.0	5.0	-	2.5	12.5
	中部圏域	52	7.7	25.0	1.9	19.2	9.6	7.7	13.5	3.8	19.2	25.0	5.8	13.5	32.7	5.8	1.9	11.5	9.6
	中東部圏域	29	10.3	27.6	-	10.3	10.3	3.4	13.8	10.3	10.3	10.3	-	6.9	17.2	3.4	3.4	10.3	10.3
	中西部圏域	35	8.6	22.9	-	14.3	2.9	5.7	11.4	11.4	17.1	17.1	-	8.6	20.0	2.9	11.4	17.1	8.6
	南部圏域	52	1.9	25.0	3.8	17.3	19.2	5.8	15.4	11.5	13.5	25.0	3.8	15.4	17.3	1.9	3.8	7.7	19.2

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

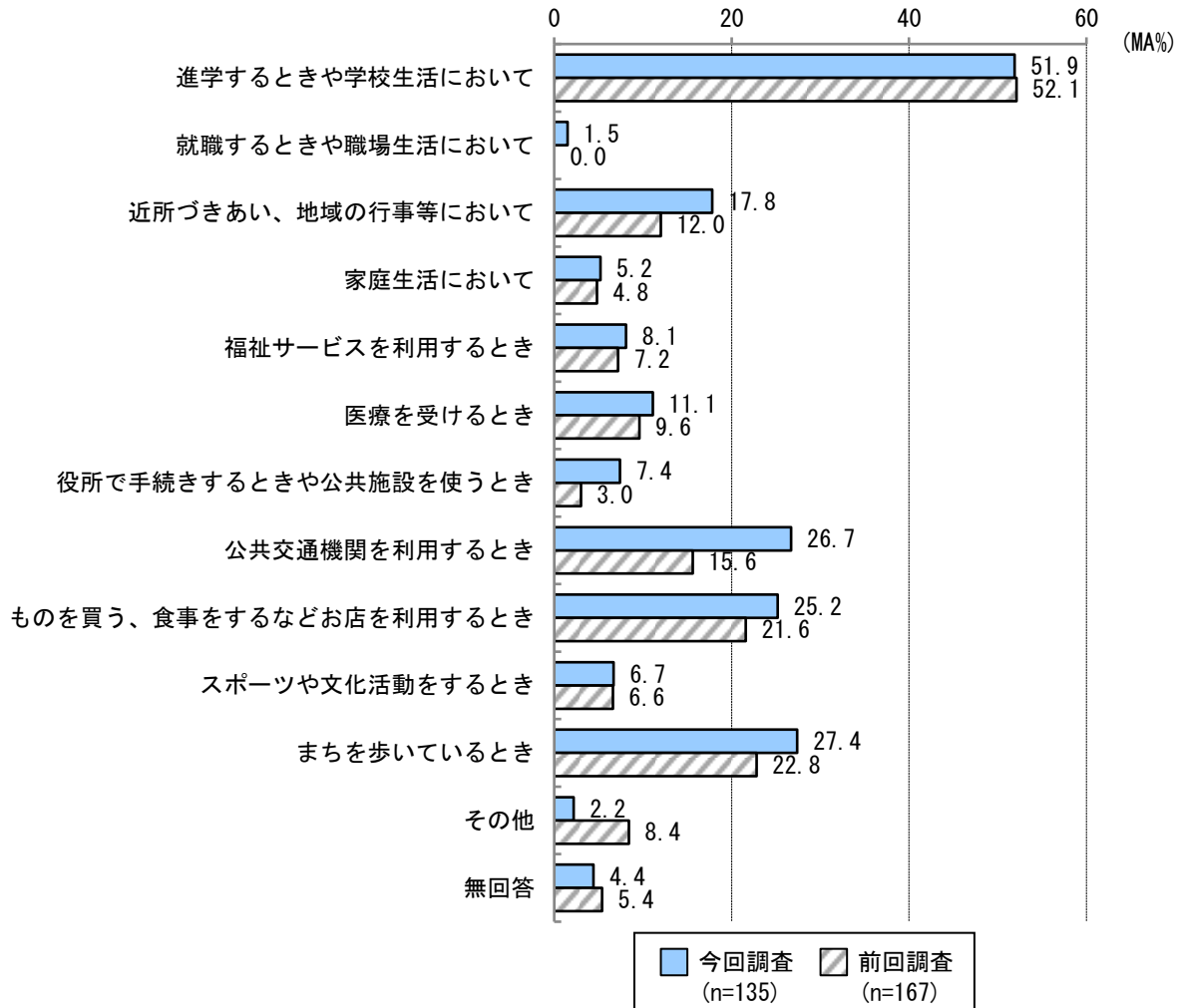
18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「役所で手続きするときや公共施設を使うとき」の割合は前回調査より13.3ポイント、「医療を受けるとき」の割合は前回調査より9.0ポイント、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」の割合は前回調査より8.2ポイント、それぞれ高くなっています。



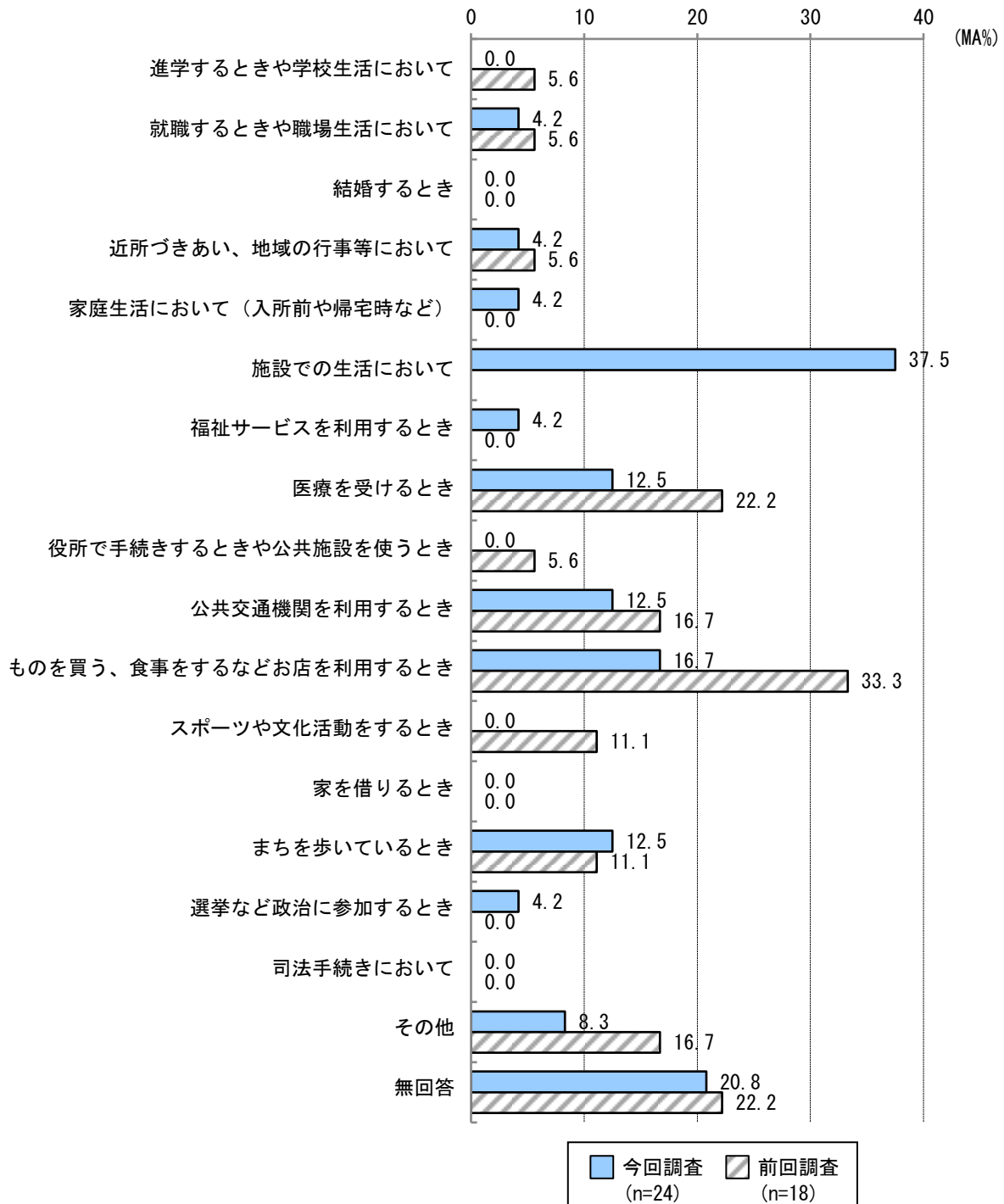
### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「公共交通機関を利用するとき」の割合が前回調査より11.1ポイント、「近所づきあい、地域の行事等において」の割合が前回調査より5.8ポイント、それぞれ高くなっています。



### 施設入所者（調査④）

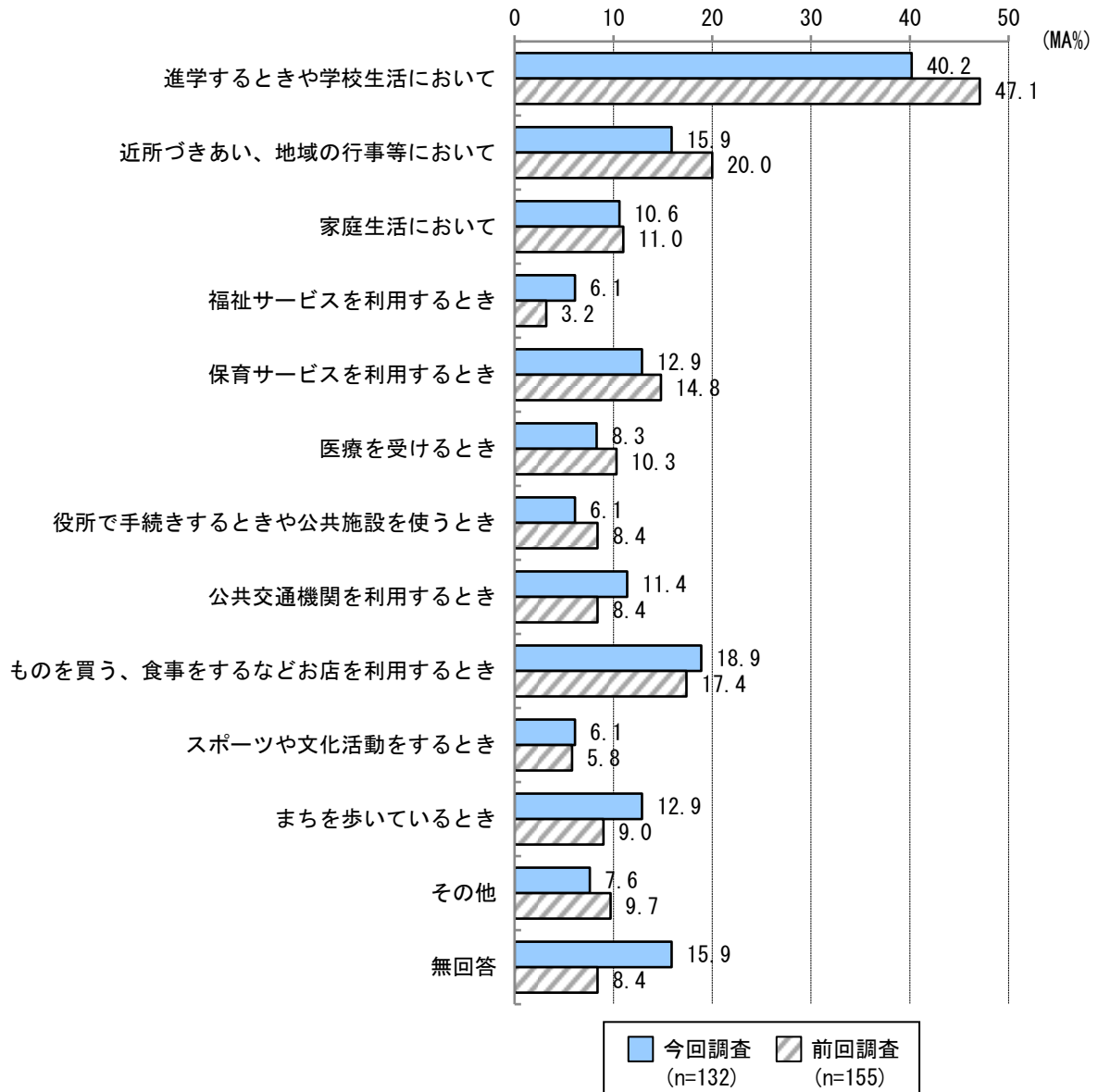
前回調査と比較すると、施設入所者では、母数が少ないため一概にはいえませんが、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」の割合は前回調査より16.6ポイント、「スポーツや文化活動をするとき」の割合は前回調査より11.1ポイント、それぞれ低くなっています。



※前回調査の「家庭生活において」は、今回調査では「家庭生活において（入所前や帰宅時など）」に変更しています。  
 ※「施設での生活において」は今回調査の新規項目です。

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、「進学するときや学校生活において」の割合が前回調査より6.9ポイント低くなっています。



## (4) 受けた差別の内容

\*『(2) 障害や難病のため差別を受けたこと』で「1. よくある」「2. ときどきある」「3. あまりない」と回答された方

問 それは、どのような差別ですか。(あてはまるものすべてに○)

### 障害のある市民 (調査①②③④)

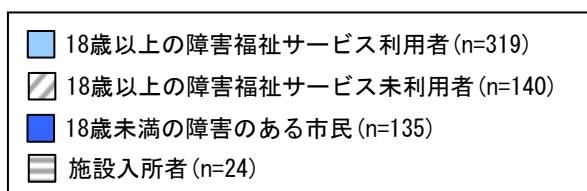
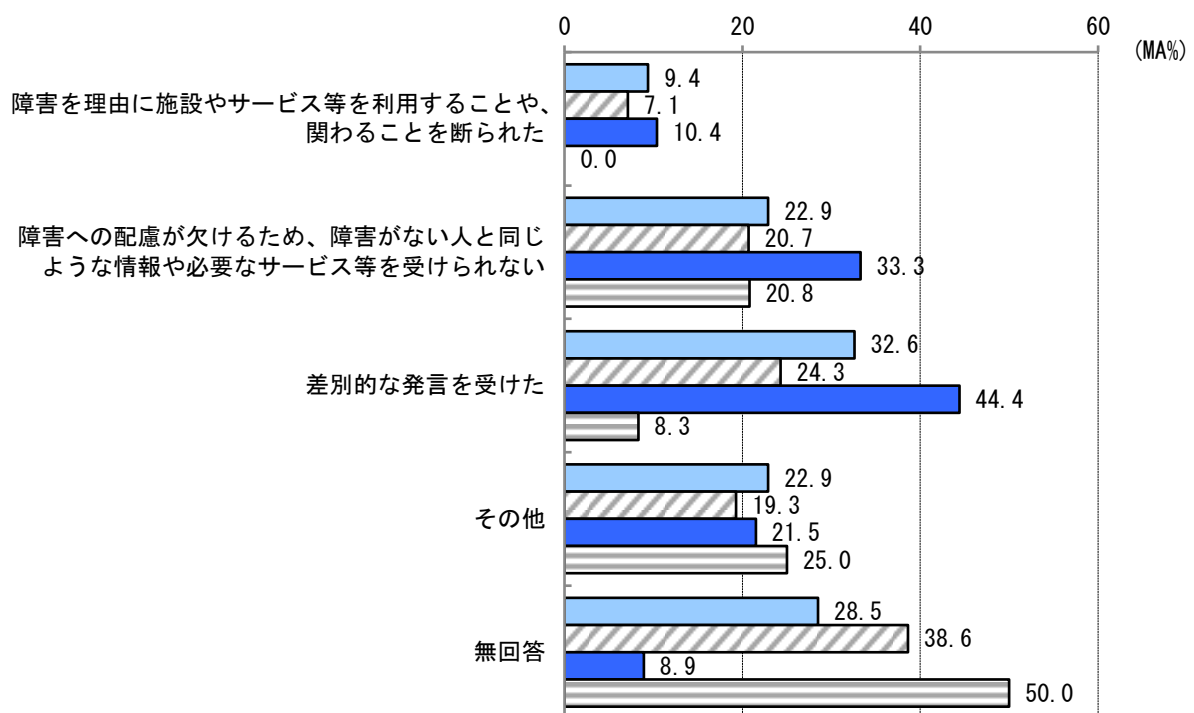
障害や難病のため差別を受けたことがあると回答した人に、受けた差別の内容についてたずねました。

18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「差別的な発言を受けた」が32.6%で最も多く、次いで「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」が22.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「差別的な発言を受けた」が24.3%で最も多く、次いで「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」が20.7%となっています。

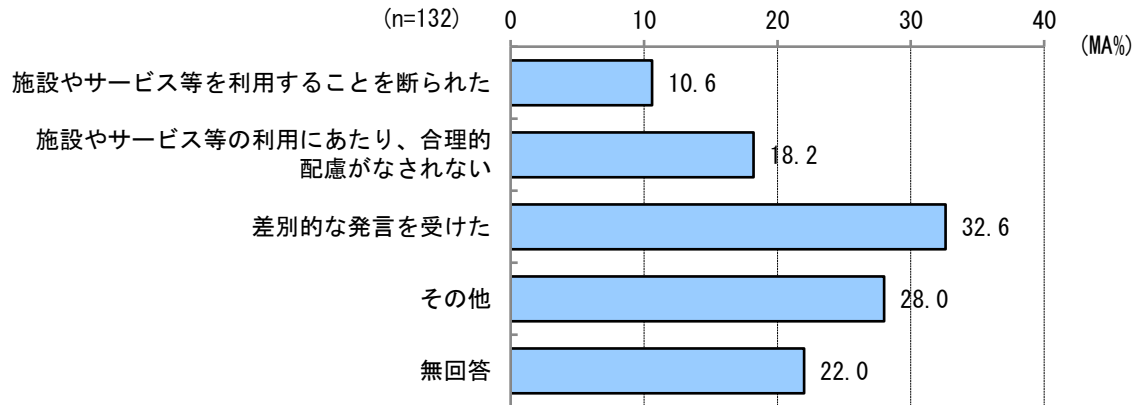
18歳未満の障害のある市民では、「差別的な発言を受けた」が44.4%で最も多く、次いで「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」が33.3%となっています。

施設入所者では、「障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」が20.8%で最も多く、次いで「差別的な発言を受けた」が8.3%となっています。



通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「差別的な発言を受けた」が32.6%で最も多く、次いで「施設やサービス等の利用にあたり、合理的配慮がなされない」が18.2%、「施設やサービス等を利用することを断られた」が10.6%となっています。

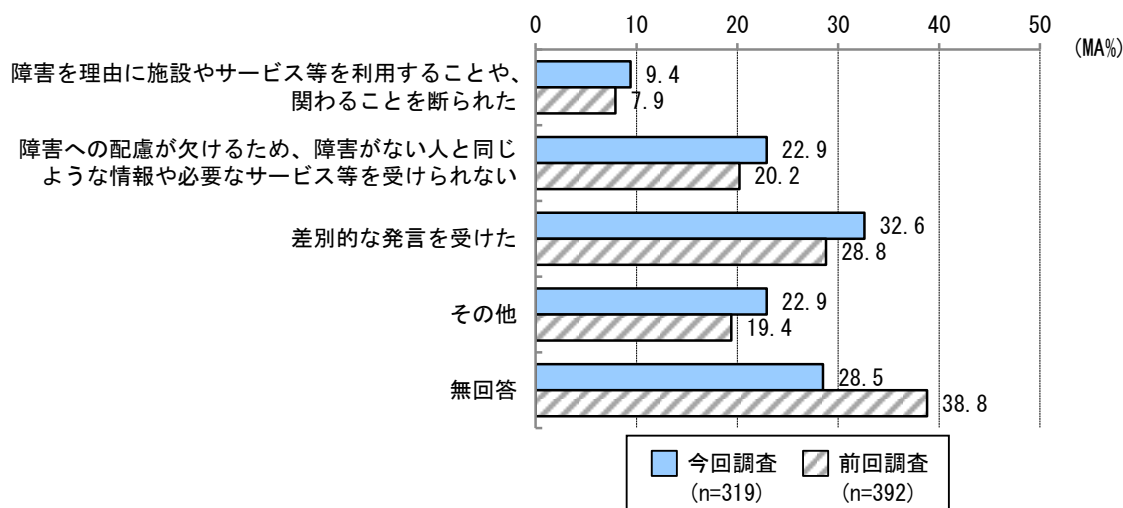


《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、いずれの項目も前回調査より割合が高く、「差別的な発言を受けた」では前回調査より3.8ポイント高くなっています。

居住地別でみると、「差別的な発言を受けた」の割合は中部圏域（44.2%）で最も高く、次いで北中部圏域（38.5%）となっています。

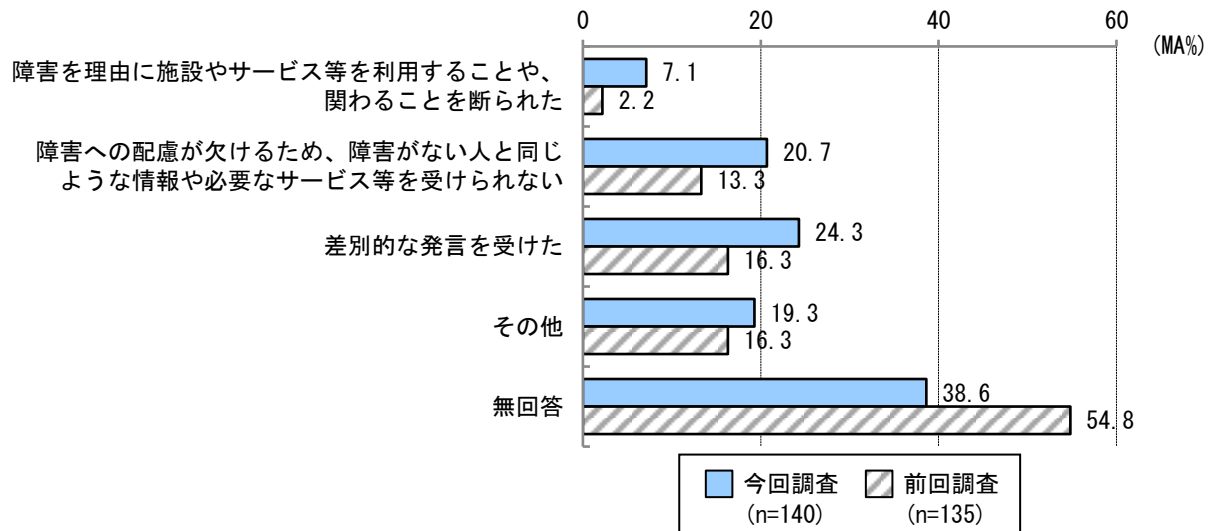


	サンプル数	障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた	障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない	差別的な発言を受けた	その他	無回答	
全体	319	9.4	22.9	32.6	22.9	28.5	
居住地別	北西部圏域	52	7.7	21.2	34.6	30.8	25.0
	北中部圏域	39	5.1	10.3	38.5	25.6	30.8
	北東部圏域	40	5.0	22.5	25.0	30.0	30.0
	中部圏域	52	15.4	28.8	44.2	21.2	17.3
	中東部圏域	29	6.9	34.5	20.7	13.8	34.5
	中西部圏域	35	5.7	22.9	28.6	25.7	28.6
	南部圏域	52	15.4	23.1	30.8	19.2	32.7

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位: %

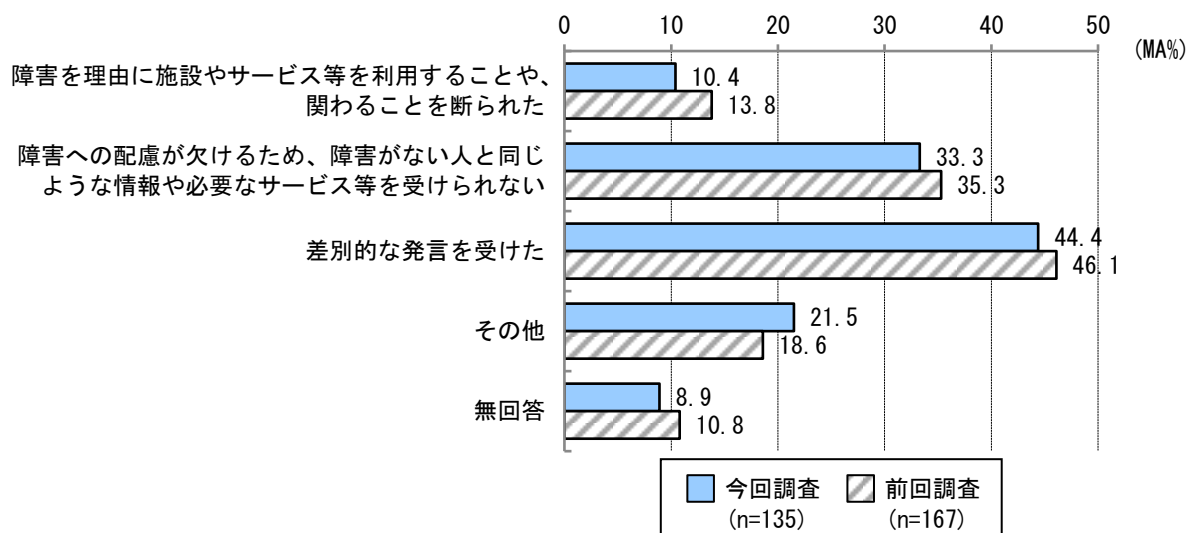
### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、いずれの項目も前回調査より高くなっており、「差別的な発言を受けた」の割合は前回調査より8.0ポイント高くなっています。



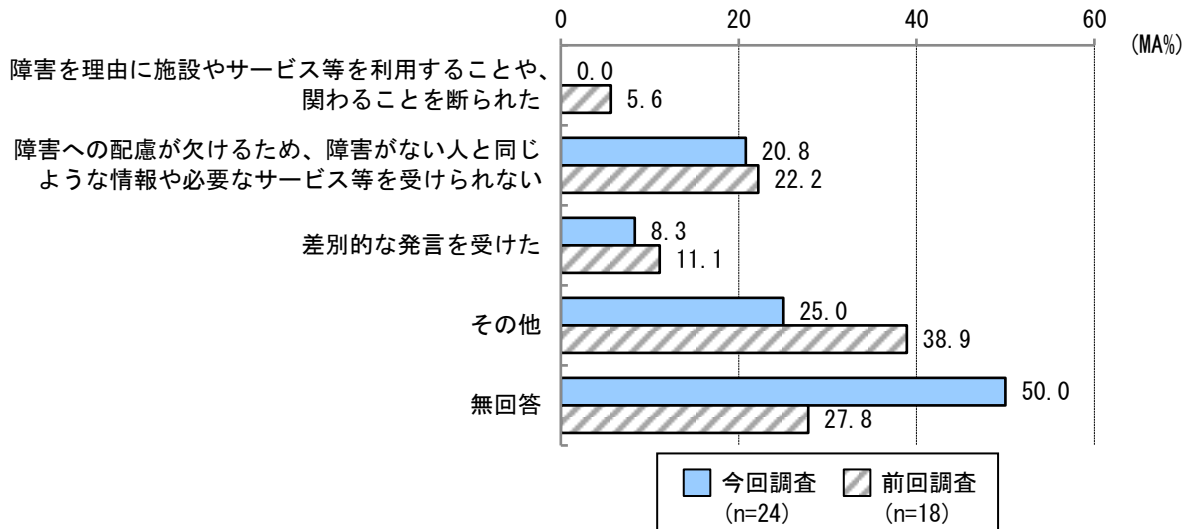
### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、いずれの項目も前回調査より低くなっており、「障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」の割合は前回調査より3.4ポイント低くなっています。



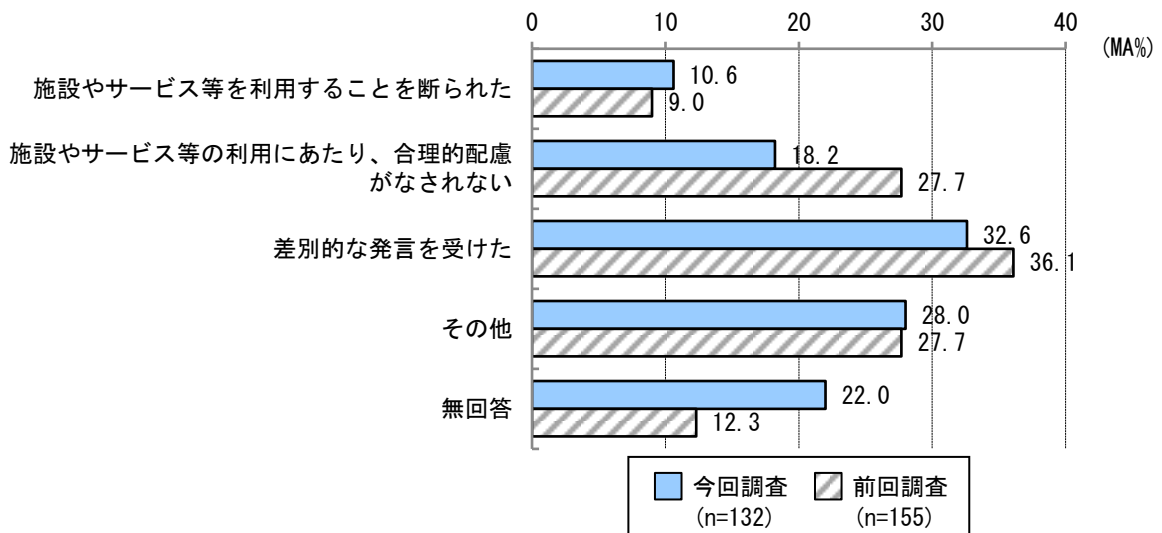
### 施設入所者（調査④）

前回調査と比較すると、施設入所者では、母数が少ないため一概にはいえませんが、「障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」の割合は前回より5.6ポイント低くなっています。



### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、「施設やサービス等の利用にあたり、合理的配慮がなされない」の割合が前回調査より9.5ポイント低くなっています。



※前回調査の「発達に課題があるため、施設やサービス等を利用することを断られた」は、今回調査では「施設やサービス等を利用することを断られた」に変更しています。

※前回調査の「施設やサービス等の利用にあたり、発達の課題について配慮がなされない」では、今回調査では「施設やサービス等の利用にあたり、合理的配慮がなされない」に変更しています。

## (5) 権利を守るために必要だと思う手助けや取り組み

問 あなたの権利が奪われたり、損なわれたりしないようにするために、どのような手助けや取り組みがあるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

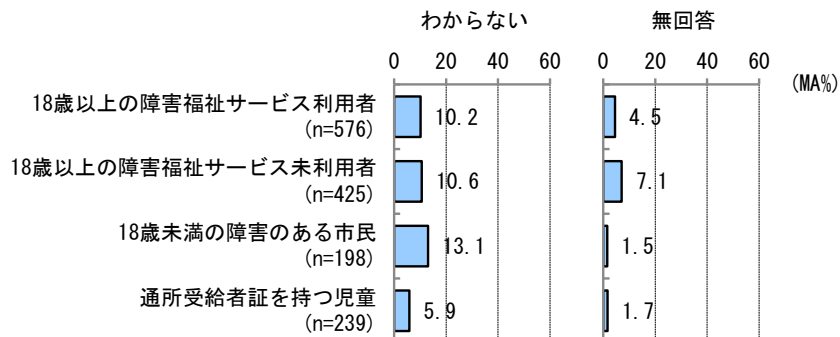
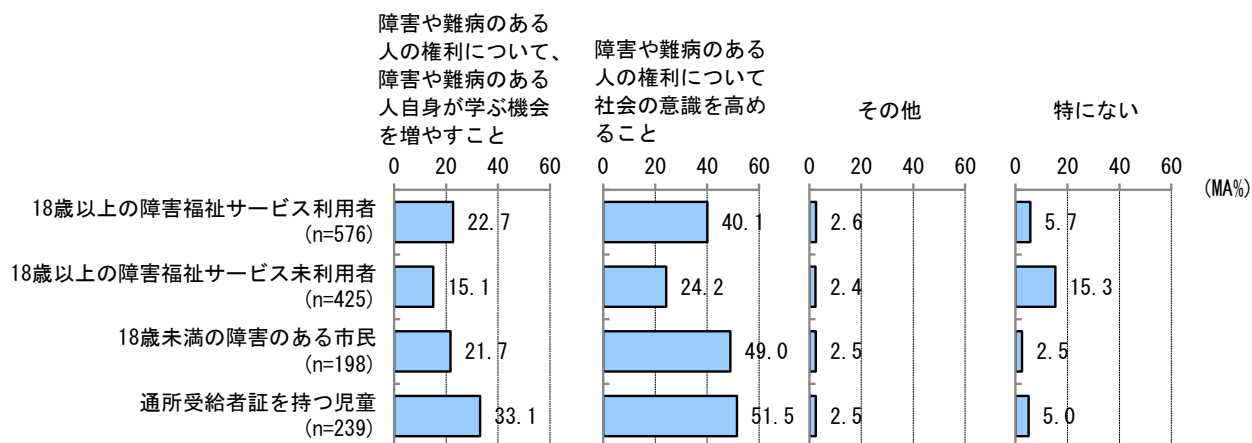
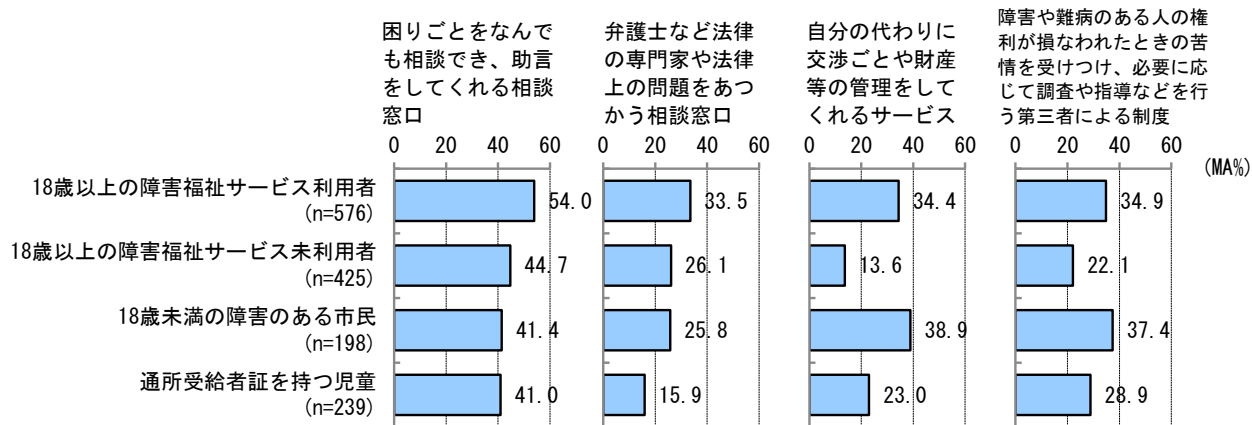
### 障害のある市民(調査①②③⑤)

権利を守るために必要だと思う手助けや取り組みについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が54.0%で最も多く、次いで「障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること」が40.1%、「障害や難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などを行う第三者による制度」が34.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が44.7%で最も多く、次いで「弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口」が26.1%、「障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること」が24.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること」が49.0%で最も多く、次いで「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が41.4%、「自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス」が38.9%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること」が51.5%で最も多く、次いで「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」が41.0%、「障害や難病のある人の権利について、障害や難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと」が33.1%となっています。

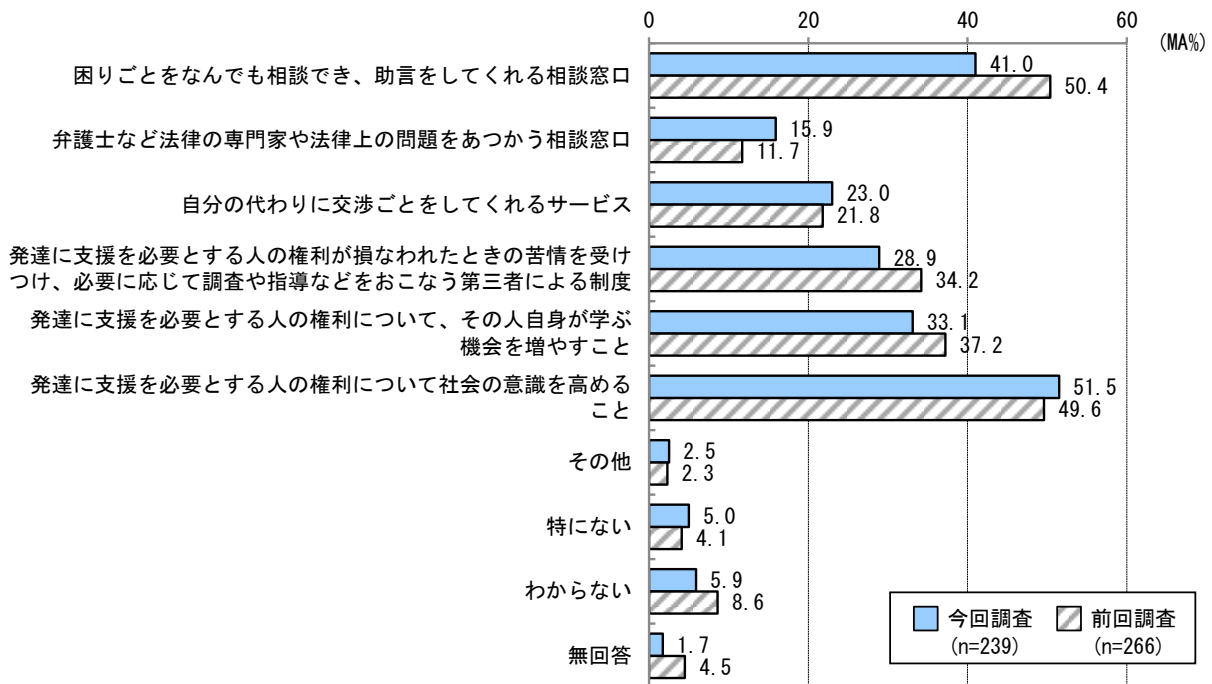


《経年比較及びクロス集計表》

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」の割合が前回調査より9.4ポイント低くなっています。

年齢別でみると、「困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口」、「発達に支援を必要とする人の権利について、その人自身が学ぶ機会を増やすこと」はいずれも0～4歳が最も高いですが、それ以外の項目は10～17歳が最も高くなっています。



※前回調査の「発達に課題のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」は、今回調査では「発達に支援を必要とする人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度」に変更しています。

※前回調査の「発達に課題のある人の権利について、発達に課題のある人自身が学ぶ機会を増やすこと」は、今回調査では「発達に支援を必要とする人の権利について、その人自身が学ぶ機会を増やすこと」に変更しています。

※前回調査の「発達に課題のある人の権利について社会の意識を高めること」は、今回調査では「発達に支援を必要とする人の権利について社会の意識を高めること」に変更しています。

	サンプル数	困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口	弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口	自分の代わりに交渉ごとをしてくれるサービス	発達に課題のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度	発達に支援を必要とする人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度	発達に支援を必要とする人が学ぶ機会を増やすこと	発達に支援を必要とする人の権利について社会の意識を高めること	その他	特になし	わからない	無回答
全体	239	41.0	15.9	23.0	28.9	33.1	51.5	2.5	5.0	5.9	1.7	
年齢別	0～4歳	67	46.3	19.4	17.9	23.9	35.8	47.8	4.5	3.0	6.0	1.5
	5～9歳	129	38.8	11.6	24.0	27.9	31.8	52.7	2.3	5.4	5.4	2.3
	10～17歳	43	39.5	23.3	27.9	39.5	32.6	53.5	-	7.0	7.0	-
所属先別	小学校入学前	112	39.3	15.2	17.9	25.0	33.9	49.1	3.6	4.5	6.3	2.7
	小学校入学後	127	42.5	16.5	27.6	32.3	32.3	53.5	1.6	5.5	5.5	0.8

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

## (6) 「障害」「難病」に対する市民の理解

問 あなたは、3年前に比べて、「障害」「難病」に対して、広く市民の理解が進んできていると思いますか。(どれか1つに○)

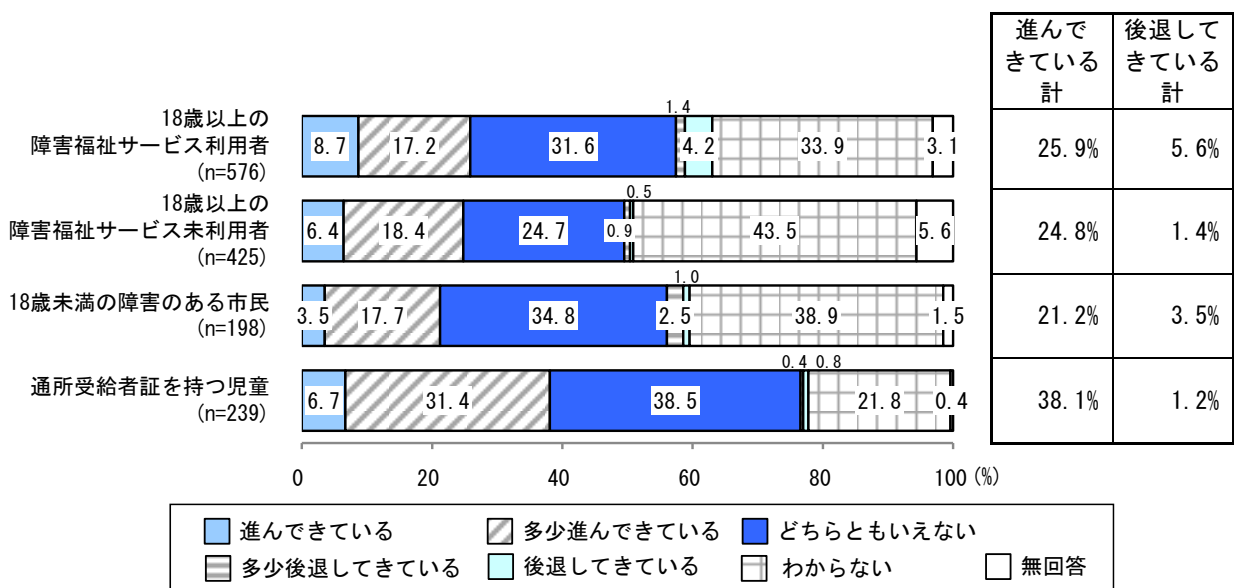
### 障害のある市民 (調査①②③⑤)

3年前と比べた「障害」「難病」に対する市民への理解については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「どちらともいえない」が31.6%で最も多く、次いで「多少進んできている」が17.2%で、「進んできている」と「多少進んできている」をあわせた『進んできている』割合は25.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「どちらともいえない」が24.7%で最も多く、次いで「多少進んできている」が18.4%で、『進んできている』割合は24.8%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「どちらともいえない」が34.8%で最も多く、次いで「多少進んできている」が17.7%で、『進んできている』割合は21.2%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「どちらともいえない」が38.5%で最も多く、次いで「多少進んできている」が31.4%で、『進んできている』割合は38.1%となっています。

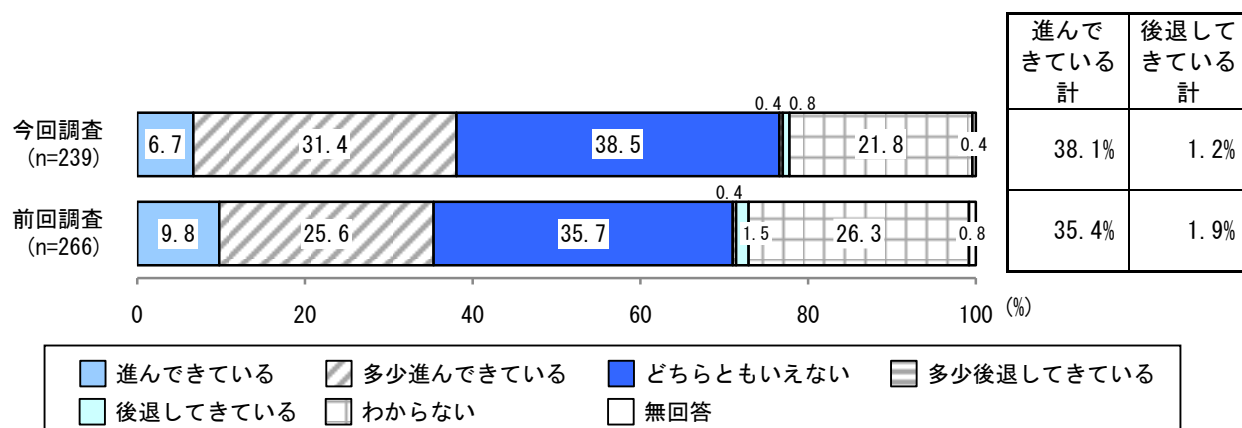


《経年比較及びクロス集計表》

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、『進んできている』の割合が前回調査より2.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、『進んできている』の割合は年齢が上がるにつれ高くなっており、10～17歳（39.5%）が最も高くなっています。



		サンプル数	進んできている	多少進んできている	どちらともいえない	多少後退してきている	後退してきている	わからない	無回答	進んできている計	後退してきている計
全体		239	6.7	31.4	38.5	0.4	0.8	21.8	0.4	38.1	1.2
年齢別	0～4歳	67	4.5	31.3	37.3	-	-	26.9	-	35.8	0.0
	5～9歳	129	7.0	31.8	38.8	-	1.6	20.2	0.8	38.8	1.6
	10～17歳	43	9.3	30.2	39.5	2.3	-	18.6	-	39.5	2.3
所属先別	小学校入学前	112	3.6	33.9	37.5	-	0.9	23.2	0.9	37.5	0.9
	小学校入学後	127	9.4	29.1	39.4	0.8	0.8	20.5	-	38.5	1.6

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

## (7) 市による「障害」「難病」の理解促進のための広報への参加有無

問 豊中市では、障害や難病のある人に対する理解を深めるための広報や行事等を実施していますが、あなたはそれを見たり参加したりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

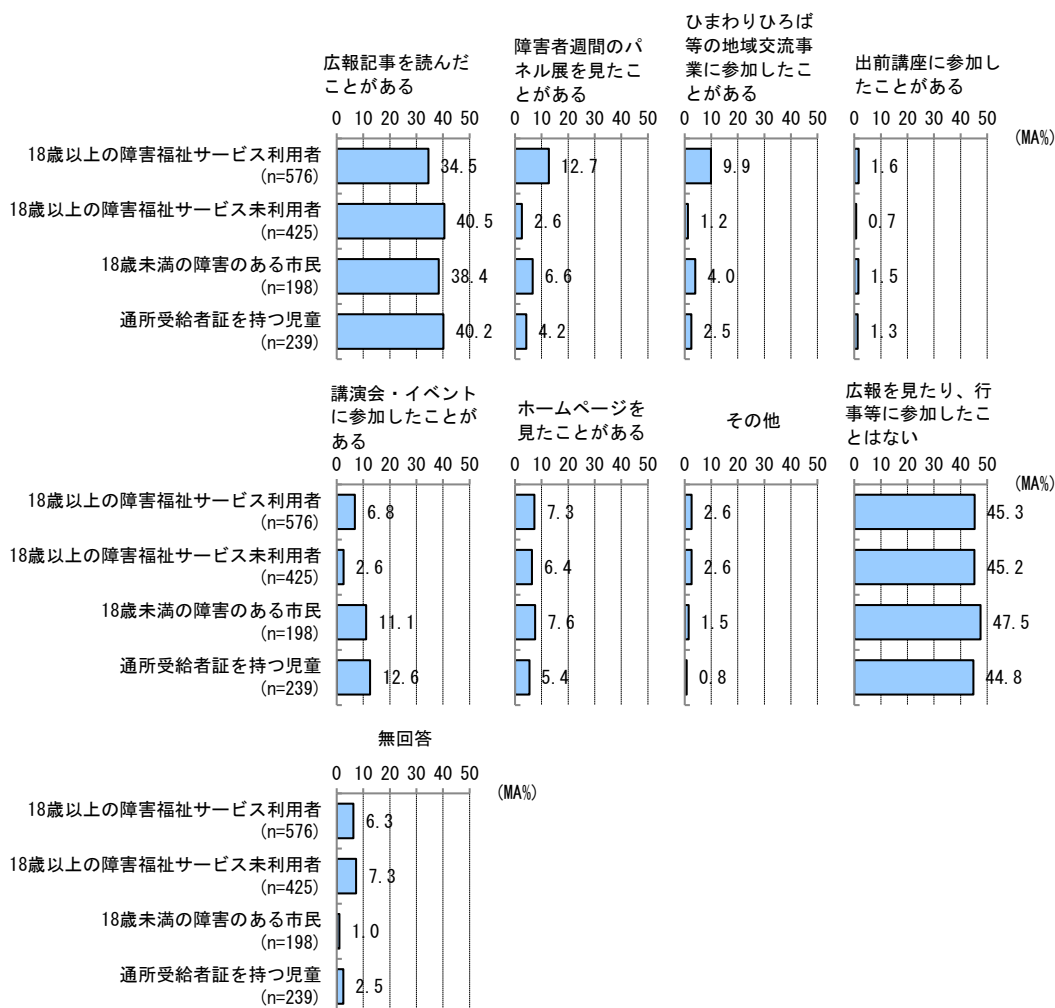
### 障害のある市民（調査①②③⑤）

豊中市による「障害」「難病」の理解促進のための広報への参加有無については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「広報を見たり、行事等に参加したことはない」が45.3%で最も多く、次いで「広報記事を読んだことがある」が34.5%、「障害者週間のパネル展を見たことがある」が12.7%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者は、「広報を見たり、行事等に参加したことはない」が45.2%で最も多く、次いで「広報記事を読んだことがある」が40.5%、「ホームページを見たことがある」が6.4%となっています。

18歳未満の障害のある市民は、「広報を見たり、行事等に参加したことはない」が47.5%で最も多く、次いで「広報記事を読んだことがある」が38.4%、「講演会・イベントに参加したことがある」が11.1%となっています。

通所受給者証を持つ児童は、「広報を見たり、行事等に参加したことはない」が44.8%で最も多く、次いで「広報記事を読んだことがある」が40.2%、「講演会・イベントに参加したことがある」が12.6%となっています。



## (8) 情報の取得方法・媒体

問 あなたは、どのような方法で情報を得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

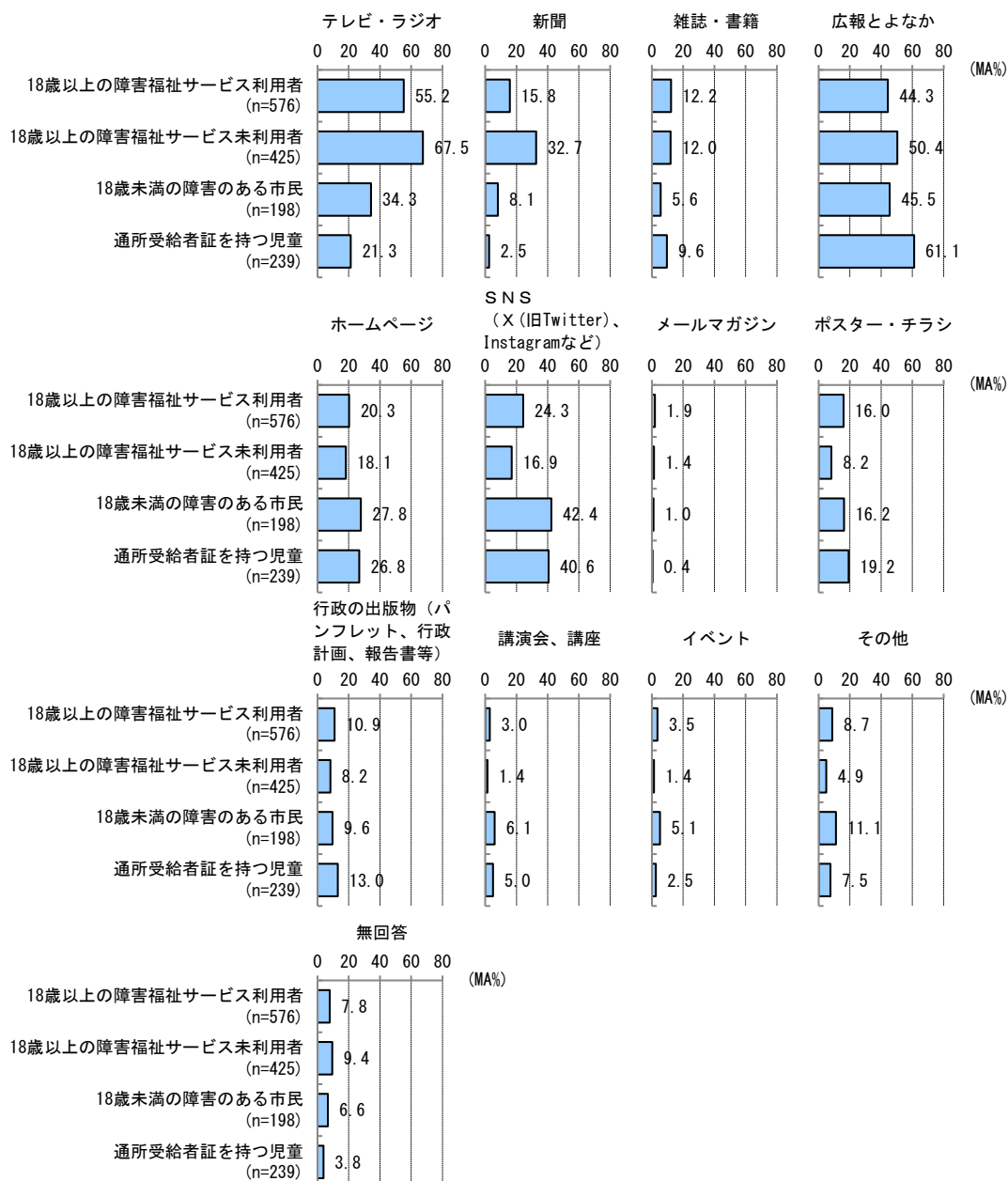
### 障害のある市民 (調査①②③⑤)

情報の取得方法・媒体については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「テレビ・ラジオ」が55.2%で最も多く、次いで「広報とよなか」が44.3%、「SNS (X(旧Twitter)、Instagramなど)」が24.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「テレビ・ラジオ」が67.5%で最も多く、次いで「広報とよなか」が50.4%、「新聞」が32.7%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「広報とよなか」が45.5%で最も多く、次いで「SNS (X(旧Twitter)、Instagramなど)」が42.4%、「テレビ・ラジオ」が34.3%となっています。

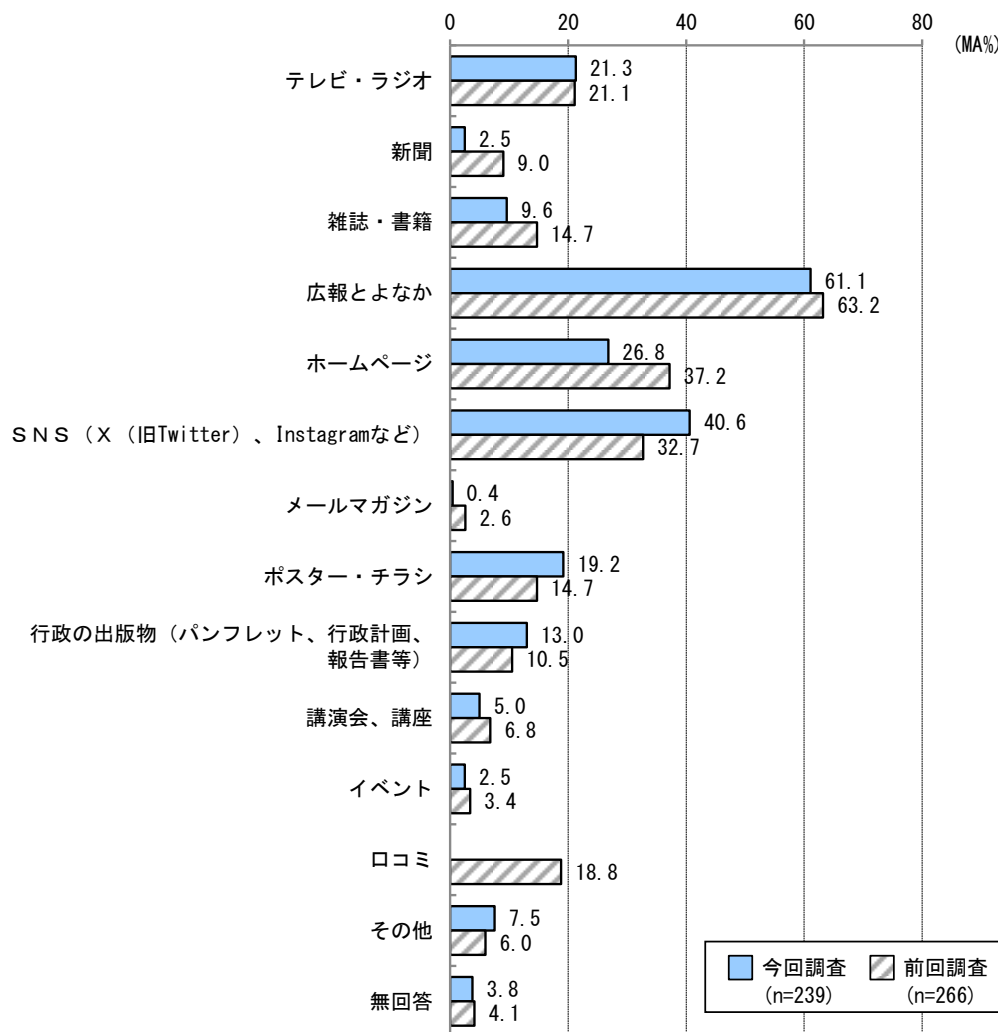
通所受給者証を持つ児童では、「広報とよなか」が61.1%で最も多く、次いで「SNS (X(旧Twitter)、Instagramなど)」が40.6%、「ホームページ」が26.8%となっています。



《経年比較及びクロス集計表》

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、「ホームページ」の割合が前回調査より10.4ポイント、「新聞」の割合が前回調査より6.5ポイント、それぞれ低くなっていますが、「SNS（X（旧Twitter）、Instagramなど）」の割合が前回調査より7.9ポイント高くなっています。



※前回調査の「SNS（フェイスブック、ツイッターなど）」は、今回調査では「SNS（X（旧Twitter）、Instagramなど）」に変更しています。

	サンプル数	テレビ・ラジオ	新聞	雑誌・書籍	広報とよなか	ホームページ	SNS (X (旧Twitter)、Instagramなど)	メールマガジン	ポスター・チラシ	書等	行政の出版物 (パンフレット、行政計画、報告書等)	講演会、講座	イベント	その他	無回答
全体	239	21.3	2.5	9.6	61.1	26.8	40.6	0.4	19.2	13.0	5.0	2.5	7.5	3.8	
年齢別	0～4歳	67	17.9	-	10.4	56.7	28.4	52.2	-	14.9	13.4	-	1.5	9.0	6.0
	5～9歳	129	22.5	3.1	8.5	65.1	27.1	33.3	0.8	17.8	12.4	5.4	0.8	6.2	3.1
	10～17歳	43	23.3	4.7	11.6	55.8	23.3	44.2	-	30.2	14.0	11.6	9.3	9.3	2.3
所属先別	小学校入学前	112	21.4	0.9	9.8	59.8	28.6	43.8	-	17.9	11.6	1.8	0.9	5.4	5.4
	小学校入学後	127	21.3	3.9	9.4	62.2	25.2	37.8	0.8	20.5	14.2	7.9	3.9	9.4	2.4

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

## (9) 「障害者差別解消法」の認知状況

問 あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)について知っていますか。(どれか1つに○)

### 障害のある市民(調査①②③④⑤)

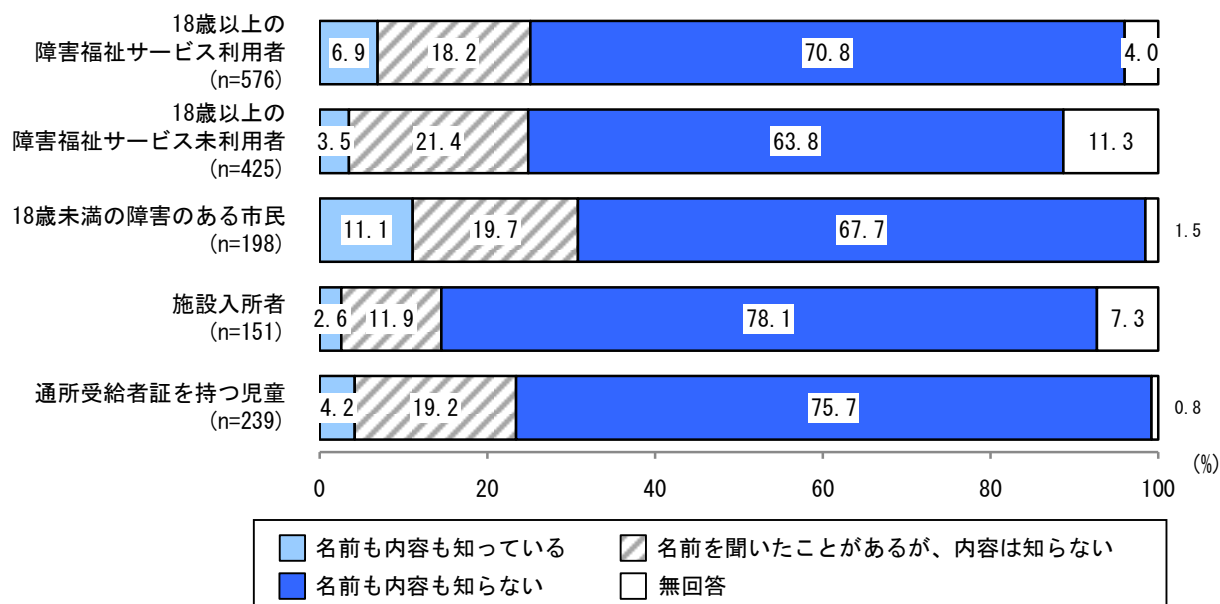
「障害者差別解消法」の認知状況については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「名前も内容も知らない」が70.8%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が18.2%、「名前も内容も知っている」が6.9%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「名前も内容も知らない」が63.8%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が21.4%、「名前も内容も知っている」が3.5%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「名前も内容も知らない」が67.7%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が19.7%、「名前も内容も知っている」が11.1%となっています。

施設入所者では、「名前も内容も知らない」が78.1%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が11.9%、「名前も内容も知っている」が2.6%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「名前も内容も知らない」が75.7%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」が19.2%、「名前も内容も知っている」が4.2%となっています。



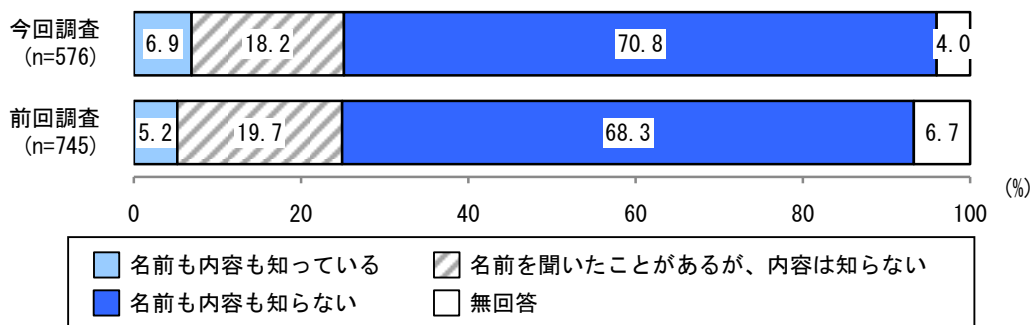
《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「名前も内容も知らない」の割合が前回調査より2.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「名前も内容も知らない」の割合は若い年代ほど割合が高くなっています。

障害種別でみると、「名前も内容も知っている」の割合は身体障害（9.4%）が最も高く、身障種類別では肢体不自由（13.7%）が最も高くなっています。



		サンプル数	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体		576	6.9	18.2	70.8	4.0
居住地別	北西部圏域	96	5.2	21.9	70.8	2.1
	北中部圏域	69	10.1	15.9	69.6	4.3
	北東部圏域	68	7.4	13.2	72.1	7.4
	中部圏域	81	11.1	22.2	63.0	3.7
	中東部圏域	52	7.7	21.2	71.2	-
	中西部圏域	83	7.2	19.3	71.1	2.4
	南部圏域	96	1.0	17.7	76.0	5.2
年齢別	18～39歳	222	7.2	19.4	72.1	1.4
	40～64歳	281	7.8	17.4	70.8	3.9
	65歳以上	66	3.0	18.2	66.7	12.1
障害種別	身体障害	181	9.4	19.9	65.2	5.5
	知的障害	230	7.0	17.4	71.3	4.3
	精神障害	220	4.5	18.2	75.0	2.3
	難病	27	11.1	25.9	59.3	3.7
	発達障害	84	6.0	25.0	67.9	1.2
	高次脳機能障害	15	6.7	40.0	53.3	-
身障種類別	視覚障害	35	8.6	25.7	62.9	2.9
	聴覚障害・平衡機能障害	10	-	20.0	70.0	10.0
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	19.0	9.5	57.1	14.3
	肢体不自由	102	13.7	20.6	63.7	2.0
	内部障害	20	-	25.0	70.0	5.0

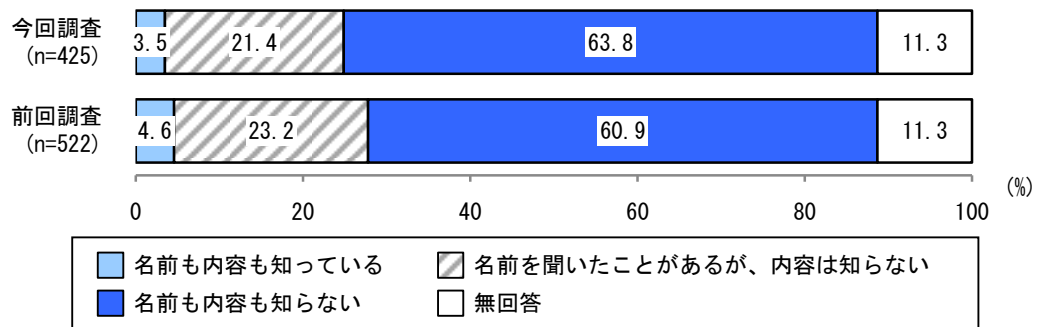
単位: %

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「名前も内容も知らない」の割合が前回調査より2.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「名前も内容も知らない」の割合は40～64歳（69.0%）で最も高くなっています。



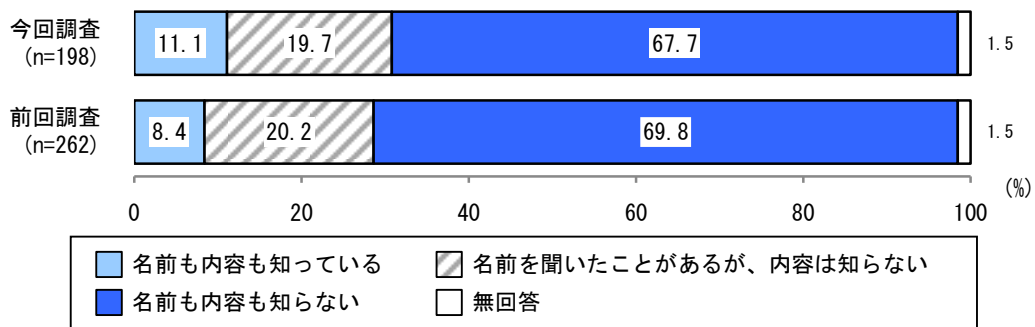
		サンプル数	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体		425	3.5	21.4	63.8	11.3
居住地別	北西部圏域	62	3.2	24.2	64.5	8.1
	北中部圏域	63	9.5	20.6	65.1	4.8
	北東部圏域	69	2.9	21.7	66.7	8.7
	中部圏域	56	1.8	23.2	58.9	16.1
	中東部圏域	51	5.9	17.6	56.9	19.6
	中西部圏域	54	1.9	22.2	68.5	7.4
	南部圏域	60	-	20.0	66.7	13.3
年齢別	18～39歳	24	12.5	20.8	62.5	4.2
	40～64歳	116	3.4	22.4	69.0	5.2
	65歳以上	280	2.9	21.4	62.1	13.6
障害種別	身体障害	278	3.2	22.3	61.2	13.3
	知的障害	14	-	7.1	85.7	7.1
	精神障害	61	6.6	18.0	68.9	6.6
	難病	68	1.5	23.5	63.2	11.8
	発達障害	10	10.0	20.0	70.0	-
	高次脳機能障害	2	-	-	100.0	-
身障種別	視覚障害	25	-	28.0	60.0	12.0
	聴覚障害・平衡機能障害	26	11.5	7.7	61.5	19.2
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	-	25.0	62.5	12.5
	肢体不自由	117	2.6	20.5	63.2	13.7
	内部障害	95	3.2	27.4	60.0	9.5

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「名前も内容も知っている」の割合は前回調査より2.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「名前も内容も知っている」の割合は10～14歳（13.6%）が最も高く、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合は15～17歳（25.0%）が最も高くなっています。



	サンプル数	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答	
全体	198	11.1	19.7	67.7	1.5	
居住地別	北西部圏域	38	7.9	18.4	73.7	-
	北中部圏域	32	9.4	31.3	56.3	3.1
	北東部圏域	32	18.8	18.8	59.4	3.1
	中部圏域	18	22.2	5.6	72.2	-
	中東部圏域	23	8.7	21.7	69.6	-
	中西部圏域	25	4.0	12.0	84.0	-
	南部圏域	21	14.3	23.8	57.1	4.8
年齢別	0～4歳	10	10.0	20.0	60.0	10.0
	5～9歳	67	10.4	22.4	65.7	1.5
	10～14歳	81	13.6	16.0	69.1	1.2
	15～17歳	36	8.3	25.0	66.7	-
障害種別	身体障害	47	12.8	21.3	61.7	4.3
	知的障害	161	12.4	21.1	65.8	0.6
	精神障害	16	-	6.3	93.8	-
	難病	16	12.5	31.3	56.3	-
	発達障害	55	10.9	18.2	70.9	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-

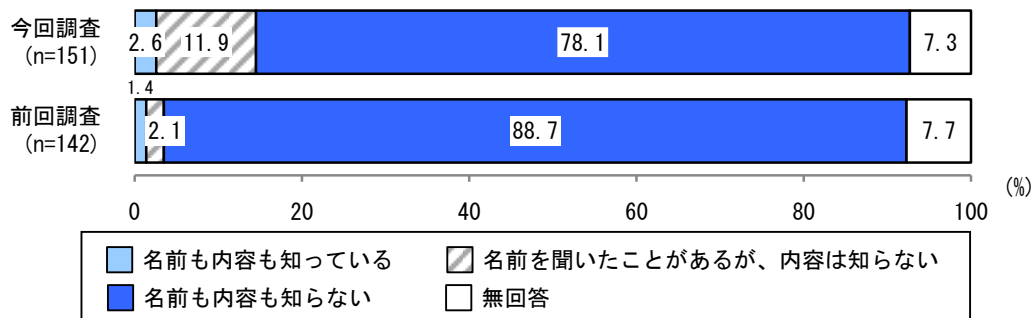
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。単位：%

施設入所者（調査④）

前回調査と比較すると、施設入所者では、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」の割合が前回調査より9.8ポイント高く、「名前も内容も知らない」の割合は前回調査より10.6ポイント低くなっています。

障害種別でみると、「名前も内容も知らない」の割合は知的障害（83.9%）が最も高くなっています。

入所年数別でみると、「名前も内容も知らない」の割合は5～20年未満（81.6%）が最も高くなっています。



		サンプル数	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体		151	2.6	11.9	78.1	7.3
年齢別	18～39歳	23	-	4.3	91.3	4.3
	40～64歳	101	3.0	11.9	78.2	6.9
	65歳以上	26	3.8	19.2	65.4	11.5
障害種別	身体障害	63	3.2	17.5	71.4	7.9
	知的障害	124	2.4	7.3	83.9	6.5
	その他の障害	14	-	28.6	64.3	7.1
入所年数別	5年未満	30	-	20.0	76.7	3.3
	5～20年未満	49	-	14.3	81.6	4.1
	20年以上	72	5.6	6.9	76.4	11.1
退所の意向別	はい	23	-	21.7	73.9	4.3
	いいえ・わからない	128	3.1	10.2	78.9	7.8

単位：%

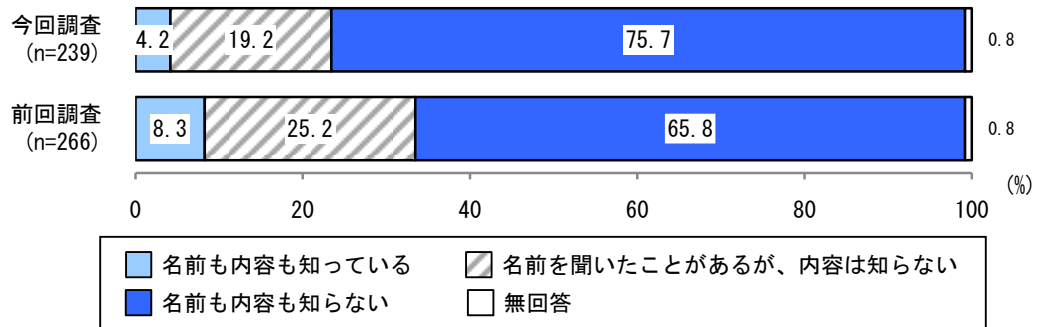
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、「名前も内容も知らない」の割合が前回調査より9.9ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「名前も内容も知らない」の割合は年齢が上がるほど割合が低くなっています。

所属先別でみると、「名前も内容も知っている」の割合は小学校入学後（3.9%）より小学校入学前（4.5%）のほうがやや高くなっています。



		サンプル数	名前も内容も知っている	名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	名前も内容も知らない	無回答
全体		239	4.2	19.2	75.7	0.8
年齢別	0～4歳	67	4.5	17.9	77.6	-
	5～9歳	129	4.7	17.8	76.0	1.6
	10～17歳	43	2.3	25.6	72.1	-
所属先別	小学校入学前	112	4.5	17.0	77.7	0.9
	小学校入学後	127	3.9	21.3	74.0	0.8

単位：%

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

## (10) 手話が言語であるという認識について

問 豊中市は、手話は言語であるという認識に基づき、手話言語の理解及び普及について総合的かつ計画的に施策を推進するため、豊中市手話言語アクションプランを策定しています。あなたは、手話は言語であると知っていますか。(どれか1つに○)

### 障害のある市民（調査①②③④⑤）

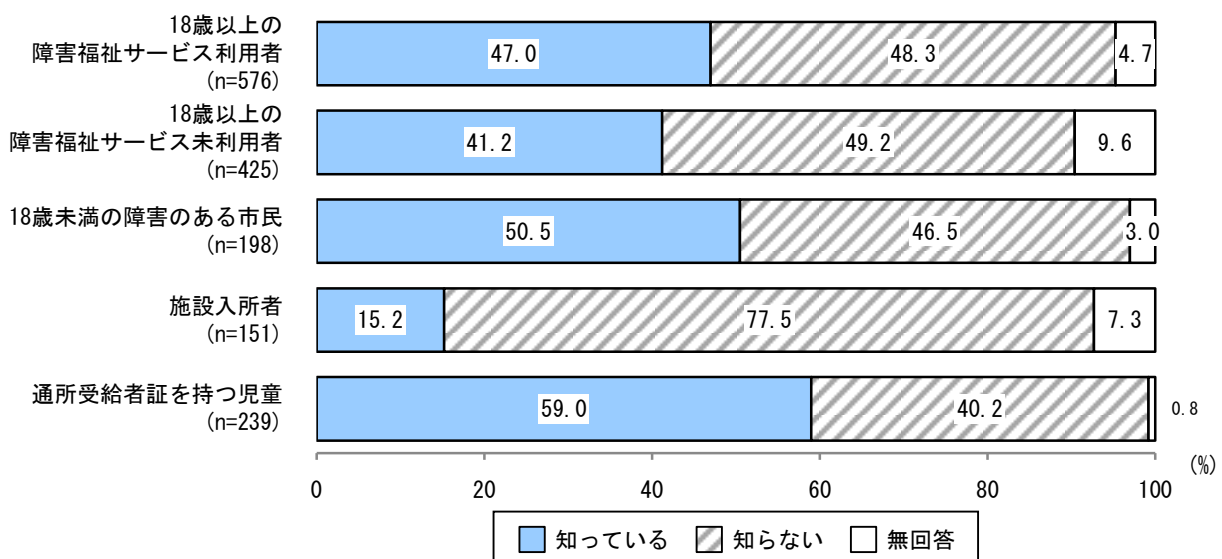
手話は言語であることの認識については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「知っている」が47.0%、「知らない」が48.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「知っている」が41.2%、「知らない」が49.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「知っている」が50.5%、「知らない」が46.5%となっています。

施設入所者では、「知っている」が15.2%、「知らない」が77.5%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「知っている」が59.0%、「知らない」が40.2%となっています。



## (11) 手話が言語であるという理解の浸透状況

問 あなたは、「手話は言語である」という理解が市民に浸透してきていると思いますか。(どれか1つに○)

### 障害のある市民（調査①②③④⑤）

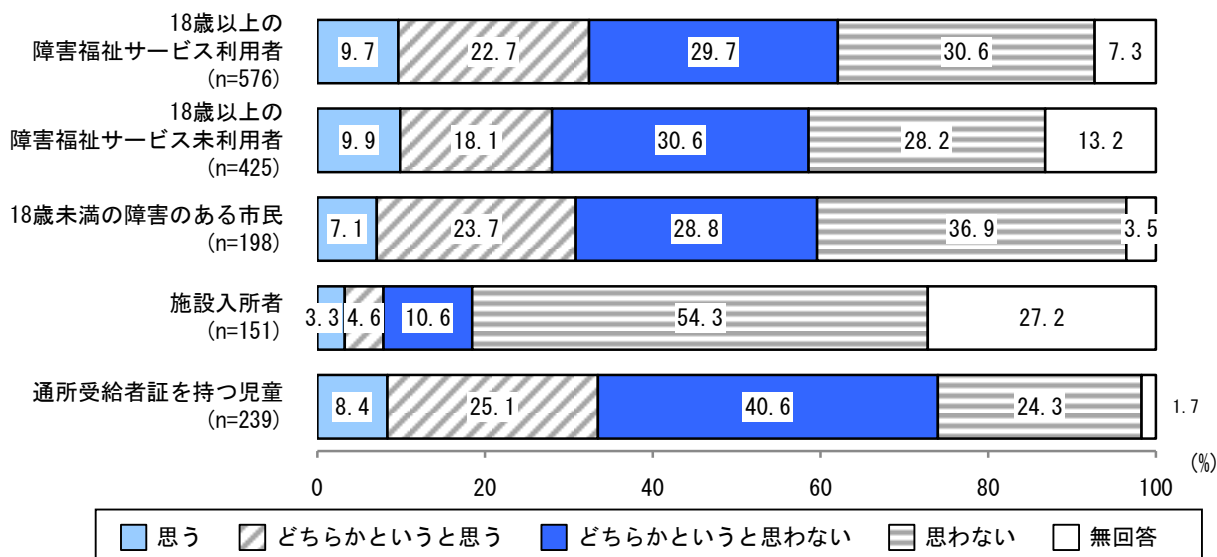
手話は言語であるという理解が浸透しているかについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「思わない」が30.6%で最も多く、次いで「どちらかというと思わない」が29.7%で、「思う」と「どちらかというと思う」をあわせた『浸透してきていると思う』割合は32.4%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「どちらかというと思わない」が30.6%で最も多く、次いで「思わない」が28.2%で、『浸透してきていると思う』割合は28.0%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「思わない」が36.9%で最も多く、次いで「どちらかというと思わない」が28.8%で、『浸透してきていると思う』割合は30.8%となっています。

施設入所者では、「思わない」が54.3%で最も多く、次いで「どちらかというと思わない」が10.6%で、『浸透してきていると思う』割合は7.9%となっています。

通所受給者証を持つ児童では、「どちらかというと思わない」が40.6%で最も多く、次いで「どちらかというと思う」が25.1%で、『浸透してきていると思う』割合は33.5%となっています。



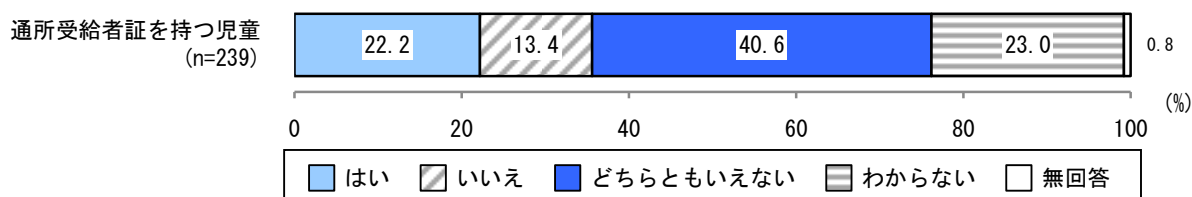
## 7 学校等教育現場での障害理解や合理的配慮について

### (1) 教育現場における障害理解度

問 学校等の教育現場では、理解や合理的配慮が充分と考えますか。(どれか1つに○)

通所受給者証を持つ児童(調査⑤)

教育現場における理解や合理的配慮は充分かについては、「どちらともいえない」が40.6%で最も多く、次いで「はい」が22.2%、「いいえ」が13.4%となっています。



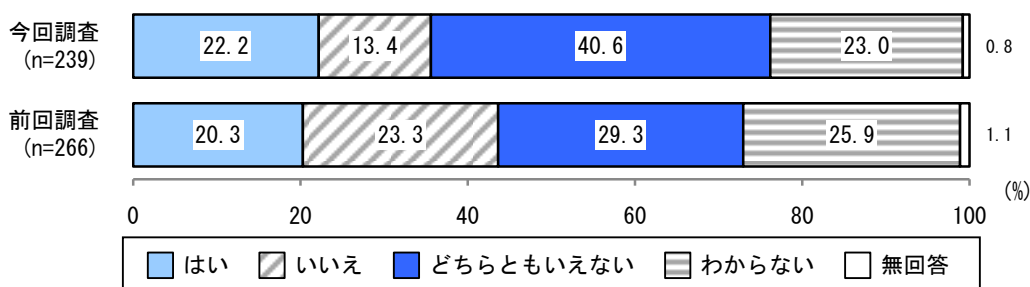
#### 《経年比較及びクロス集計表》

通所受給者証を持つ児童(調査⑤)

前回調査と比較すると、通所受給者証を持つ児童では、「いいえ」の割合が前回調査より9.9ポイント低くなっています。

年齢別でみると、「はい」の割合は、年齢が上がるほど割合が高くなっています。

所属先別でみると、「はい」の割合は、小学校入学前(17.0%)より小学校入学後(26.8%)のほうが9.8ポイント高くなっています。



		サンプル数	はい	いいえ	どちらともいえない	わからない	無回答
全体		239	22.2	13.4	40.6	23.0	0.8
年齢別	0~4歳	67	17.9	9.0	31.3	41.8	-
	5~9歳	129	22.5	17.1	42.6	16.3	1.6
	10~17歳	43	27.9	9.3	48.8	14.0	-
所属先別	小学校入学前	112	17.0	12.5	33.0	36.6	0.9
	小学校入学後	127	26.8	14.2	47.2	11.0	0.8

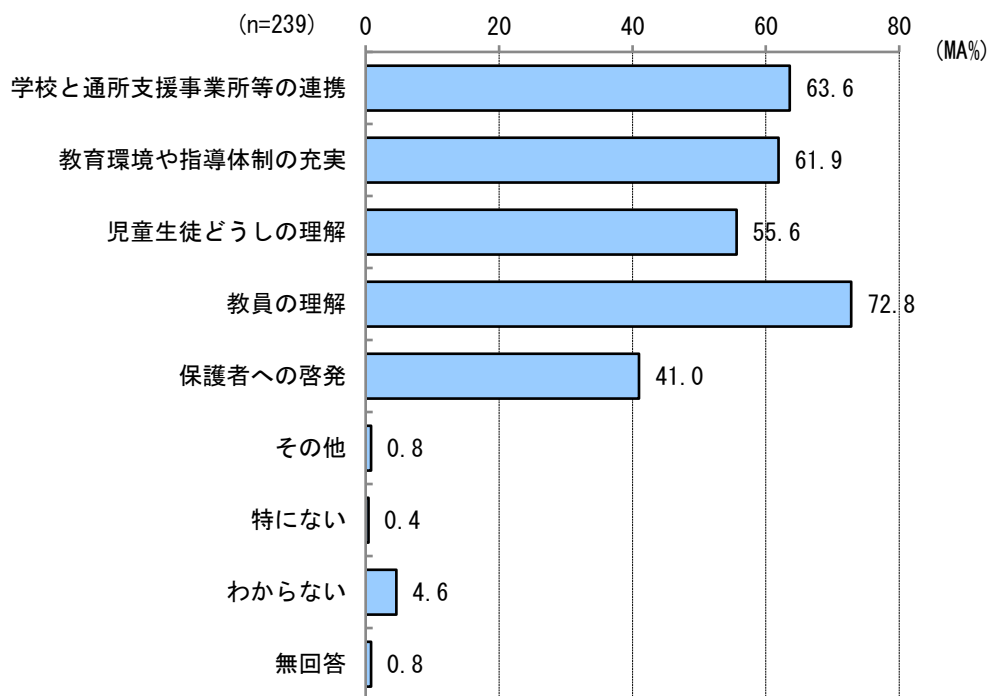
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。単位：%

## (2) 理解や合理的配慮の促進のために教育現場で必要だと思うこと

問 理解や合理的配慮の促進を図っていくためには、学校等の教育現場において、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

理解や合理的配慮の促進のために教育現場で必要だと思うことについては、「教員の理解」が72.8%で最も多く、次いで「学校と通所支援事業所等の連携」が63.6%、「教育環境や指導体制の充実」が61.9%、「児童生徒どうしの理解」が55.6%となっています。



## 8 福祉サービスについて

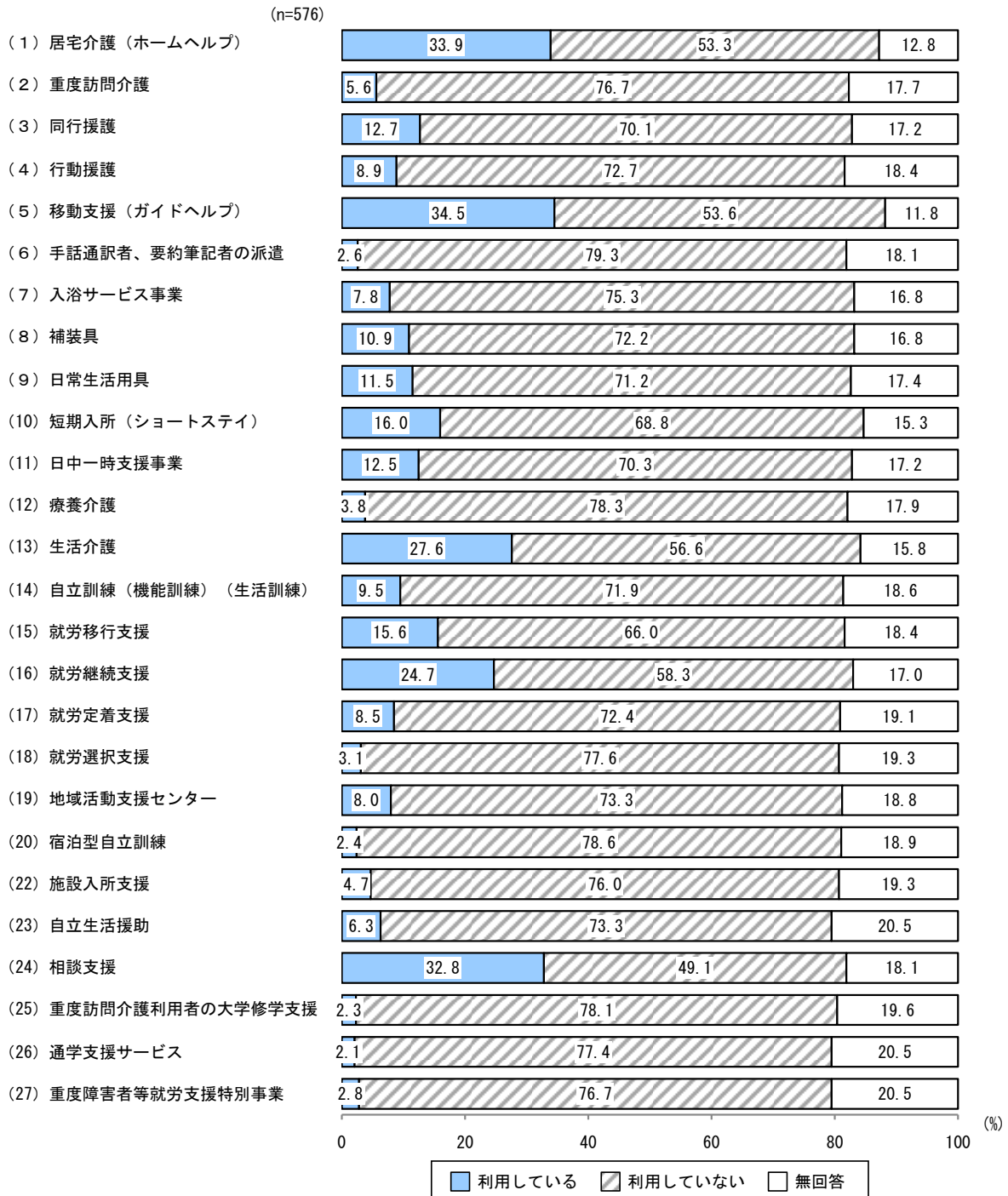
### (1) 障害福祉サービスの利用について

問 障害のある人のための福祉サービスについて、①現在の利用状況、②利用して気になったり、不満に思うことの有無、③今後の利用についてのお考えをそれぞれ教えてください。

#### ① 障害福祉サービスの利用状況

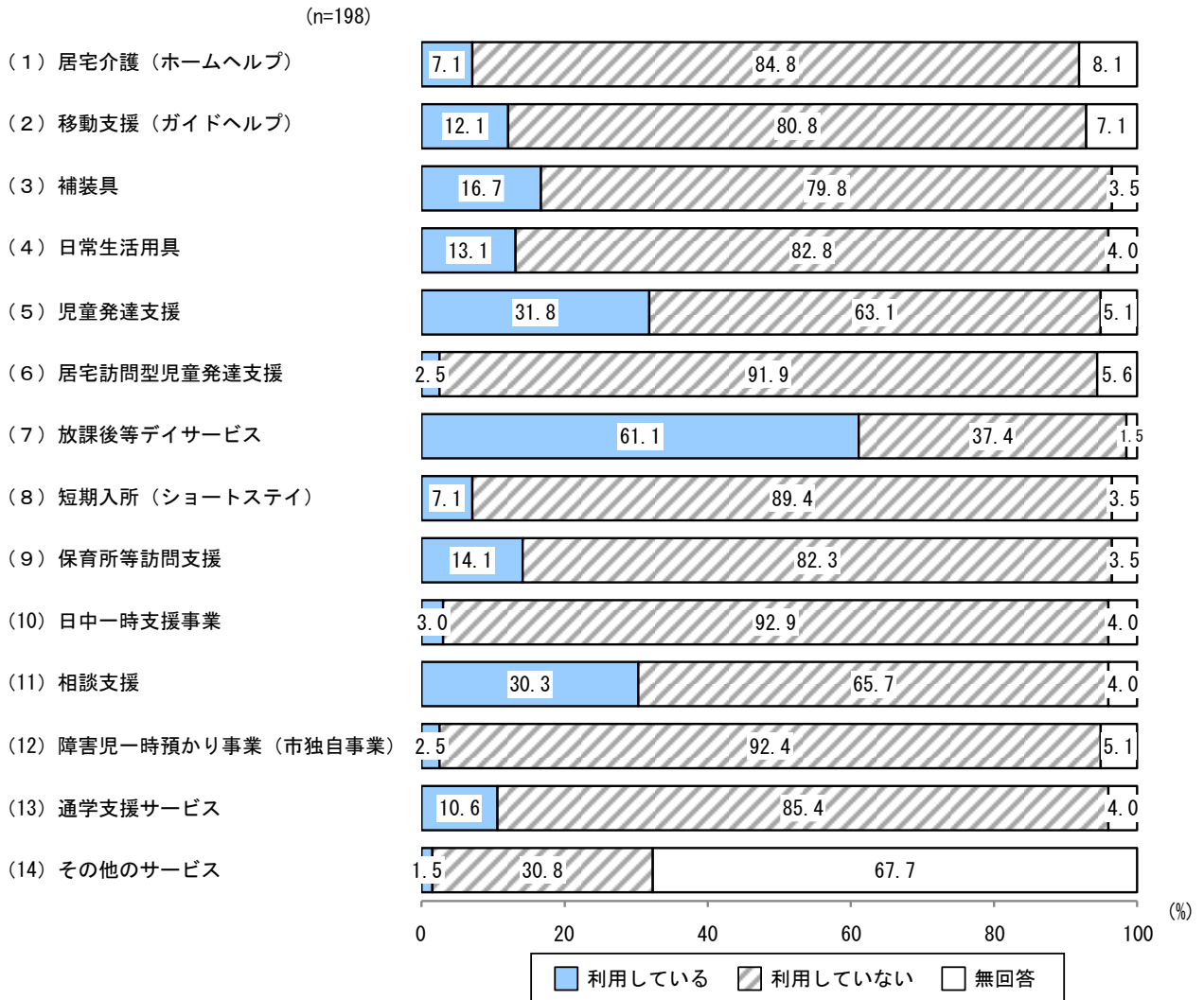
##### 18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「利用している」は“(5) 移動支援（ガイドヘルプ）”が34.5%で最も高く、次いで“(1) 居宅介護（ホームヘルプ）”（33.9%）、“(24) 相談支援”（32.8%）となっています。すべてのサービスで「利用していない」が「利用している」を上回っています。



### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

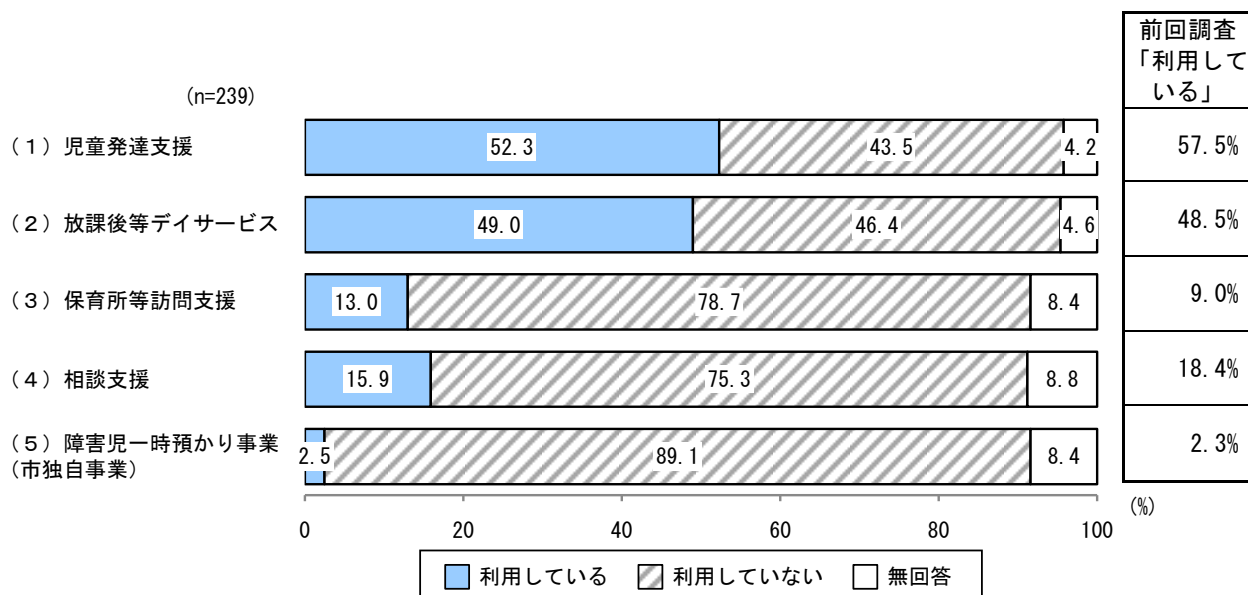
18歳未満の障害のある市民では、「利用している」は“(7)放課後等デイサービス”が61.1%で最も高く、次いで“(5)児童発達支援”(31.8%)、“(11)相談支援”(30.3%)となっています。“(7)放課後等デイサービス”以外のサービスでは「利用していない」が「利用している」を上回っています。



### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「利用している」は“(1) 児童発達支援”が52.3%で最も高く、次いで“(2) 放課後等デイサービス”(49.0%)、“(4) 相談支援”(15.9%)となっています。

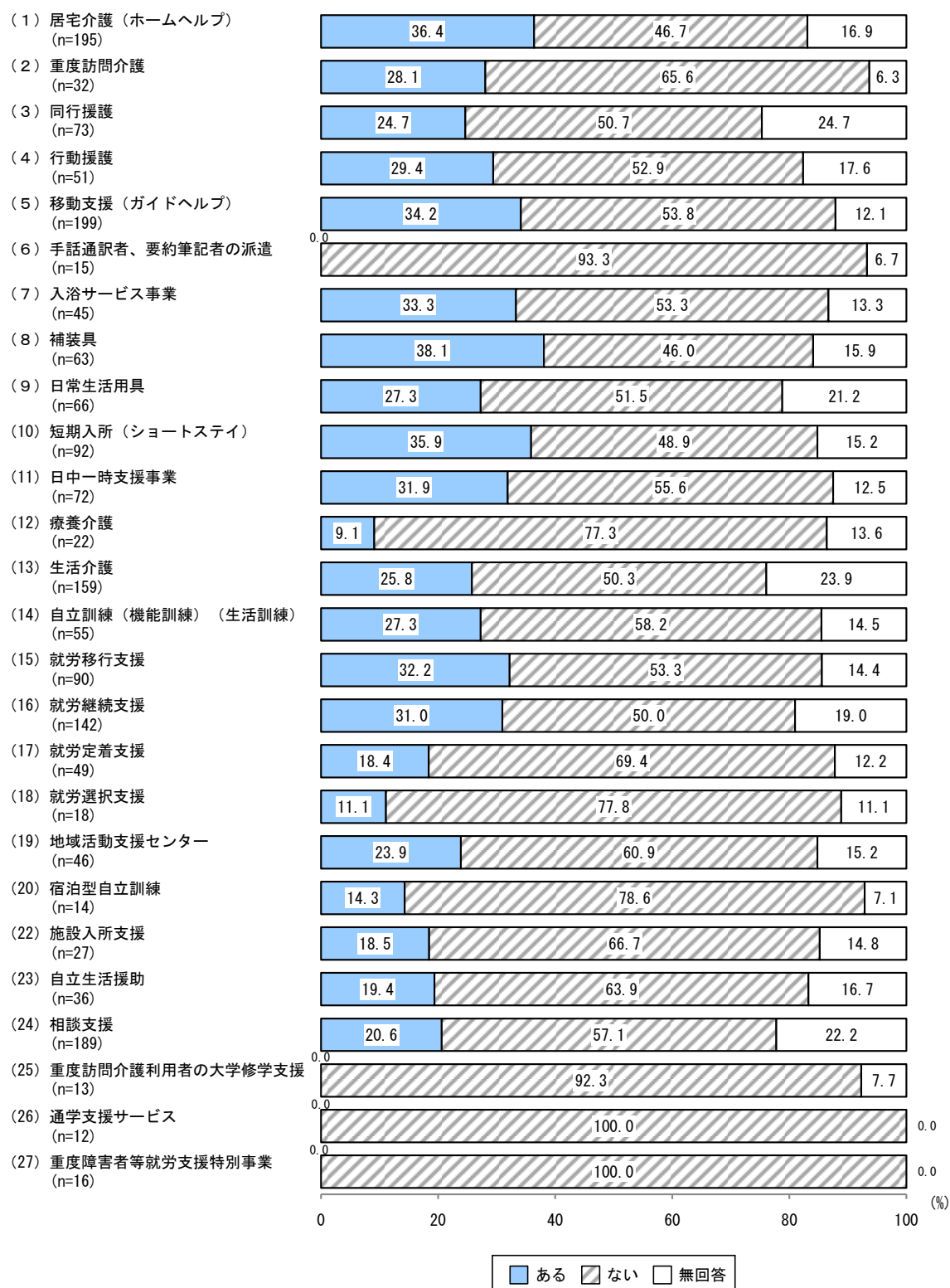
前回調査と比較すると、「利用している」割合は“(1) 児童発達支援”で前回調査より5.2ポイント低くなっています。



## ② 利用サービスの不満点の有無

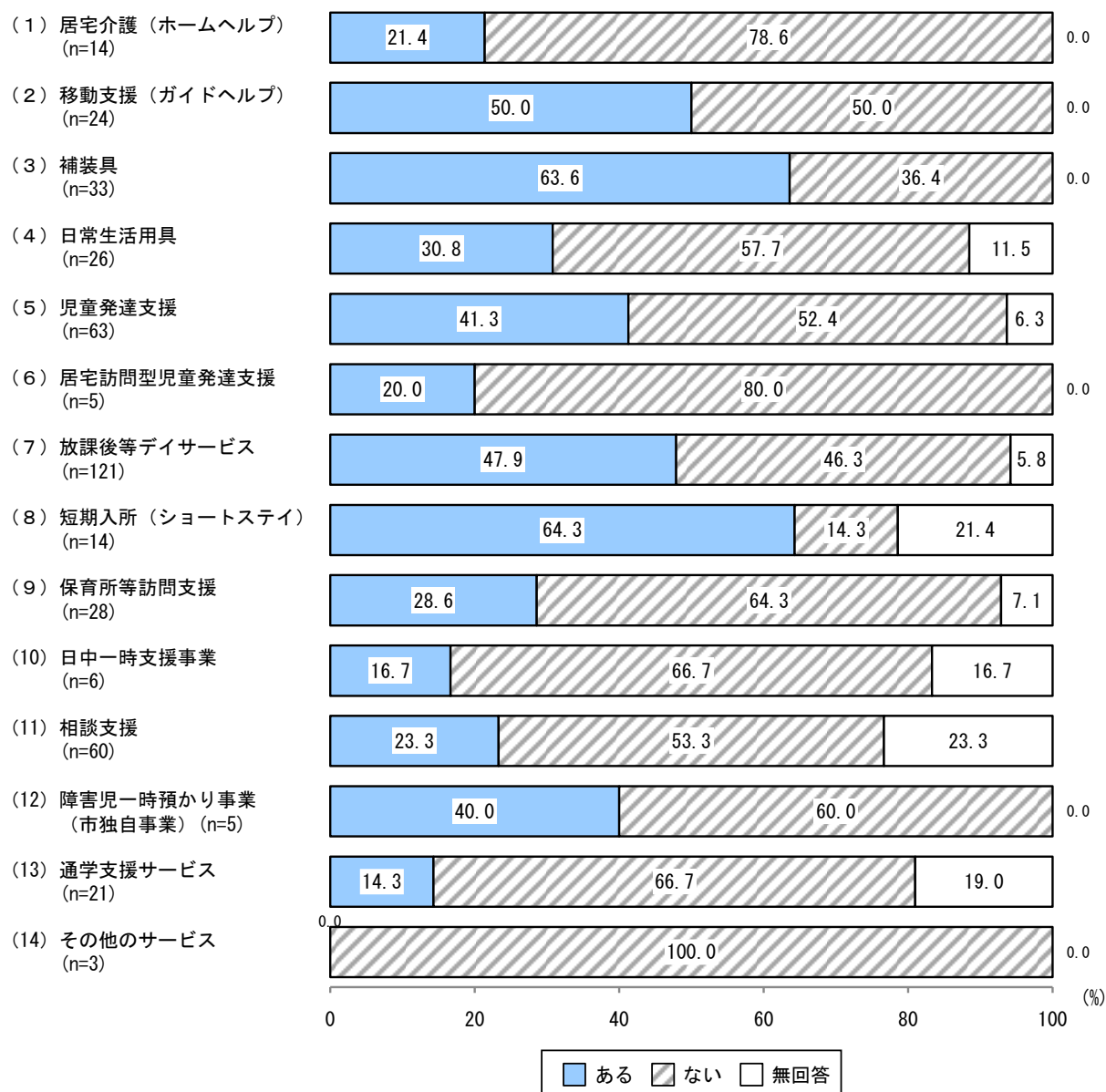
### 18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

利用しているサービスで気になったり不満に思うことについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「ある」は“(8) 補装具”が38.1%で最も高く、次いで“(1) 居宅介護（ホームヘルプ）”（36.4%）、“(10) 短期入所（ショートステイ）”（35.9%）となっています。



### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

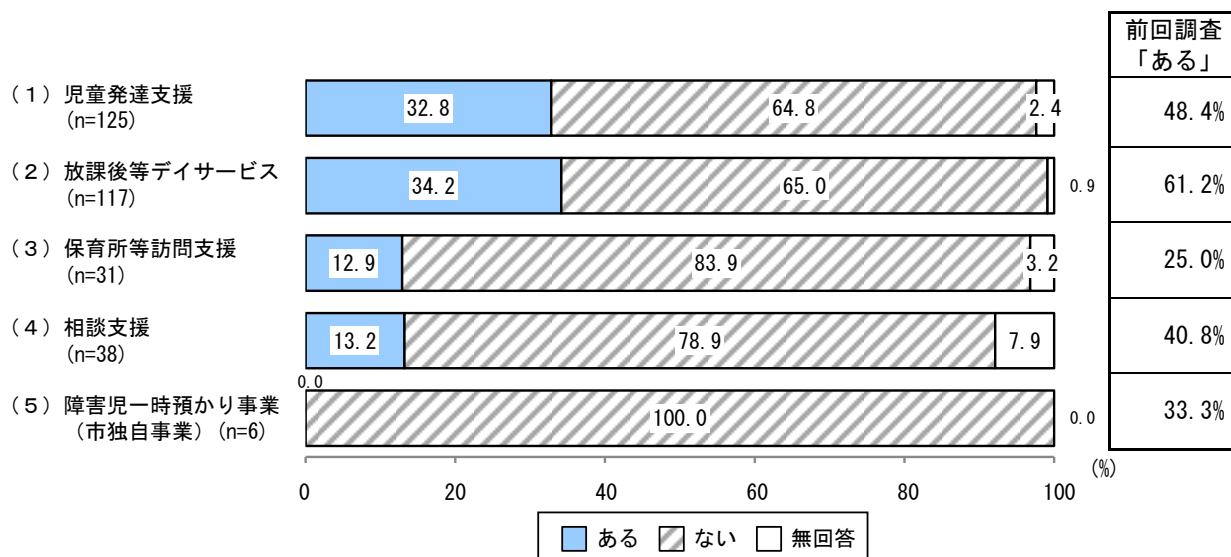
18歳未満の障害のある市民では、「ある」は“(8) 短期入所（ショートステイ）”が64.3%で最も高く、次いで“(3) 補装具”（63.6%）、“(2) 移動支援（ガイドヘルプ）”（50.0%）となっています。



### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「ある」は“(2) 放課後等デイサービス”が34.2%で最も高く、次いで“(1) 児童発達支援” (32.8%)、“(4) 相談支援” (13.2%)、“(3) 保育所等訪問支援” (12.9%) となっています。

前回調査と比較すると、“(2) 放課後等デイサービス”の割合が前回調査より27.0ポイント低くなっています。



### ③ 利用サービスの不満内容

\* 『(1) ②利用サービスの不満点の有無』で「1.ある」と回答された方

#### 18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

利用しているサービスに不満に思うことがあると回答した人に、不満内容をたずねたところ、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、不満がある割合が最も高かった“(8)補装具”では「相談や手続きに時間がかかり面倒くさい」(50.0%)が最も多く、“(1)居宅介護(ホームヘルプ)”では「利用回数・時間などに制限がある」(46.5%)が最も多くなっています。

(単位：3LA%)

	サンプル数	身近なところでは利用できない	利用できない日・時間に制限がある	利用回数・時間などに制限がある	サービス事業所に利用を断られることが多い	利用料が高い	ヘルパーや指導員など不足している	建物や設備が障害に配慮されていない	情報が少ない	サービス内容に関する	相談や手続きに時間がかかり面倒くさい	その他	無回答
(1) 居宅介護（ホームヘルプ）	71	14.1	31.0	46.5	7.0	8.5	25.4	5.6	18.3	21.1	11.3	5.6	
(2) 重度訪問介護	9	-	33.3	55.6	22.2	11.1	33.3	-	11.1	22.2	11.1	-	
(3) 同行援護	18	27.8	33.3	55.6	-	11.1	5.6	11.1	5.6	-	-	11.1	
(4) 行動援護	15	26.7	33.3	46.7	-	20.0	40.0	6.7	26.7	13.3	-	13.3	
(5) 移動支援（ガイドヘルプ）	68	10.3	36.8	42.6	8.8	2.9	29.4	10.3	19.1	10.3	10.3	7.4	
(6) 手話通訳者、要約筆記者の派遣	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(7) 入浴サービス事業	15	40.0	46.7	66.7	6.7	-	26.7	-	6.7	6.7	-	13.3	
(8) 補装具	24	20.8	12.5	8.3	4.2	20.8	-	8.3	16.7	50.0	4.2	8.3	
(9) 日常生活用具	18	22.2	-	16.7	-	5.6	11.1	16.7	44.4	55.6	5.6	5.6	
(10) 短期入所（ショートステイ）	33	15.2	57.6	60.6	9.1	9.1	12.1	3.0	12.1	3.0	15.2	-	
(11) 日中一時支援事業	23	21.7	34.8	39.1	8.7	8.7	8.7	-	8.7	8.7	13.0	13.0	
(12) 療養介護	2	-	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
(13) 生活介護	41	19.5	12.2	31.7	7.3	12.2	29.3	12.2	26.8	9.8	9.8	9.8	
(14) 自立訓練（機能訓練）（生活訓練）	15	13.3	20.0	26.7	-	6.7	33.3	-	33.3	-	20.0	13.3	
(15) 就労移行支援	29	24.1	6.9	13.8	3.4	3.4	27.6	17.2	24.1	10.3	13.8	10.3	
(16) 就労継続支援	44	27.3	13.6	20.5	-	4.5	38.6	9.1	20.5	9.1	18.2	6.8	
(17) 就労定着支援	9	11.1	11.1	22.2	-	33.3	-	-	11.1	-	22.2	22.2	
(18) 就労選択支援	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	50.0	-	50.0	-	
(19) 地域活動支援センター	11	36.4	27.3	18.2	-	-	9.1	9.1	18.2	18.2	27.3	-	
(20) 宿泊型自立訓練	2	-	-	50.0	-	-	-	-	-	-	-	50.0	
(22) 施設入所支援	5	20.0	-	20.0	-	20.0	-	-	40.0	20.0	-	-	
(23) 自立生活援助	7	42.9	28.6	57.1	-	-	14.3	14.3	42.9	14.3	14.3	14.3	
(24) 相談支援	39	12.8	28.2	12.8	-	2.6	25.6	-	33.3	23.1	10.3	15.4	
(25) 重度訪問介護利用者の大学修学支援	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(26) 通学支援サービス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(27) 重度障害者等就労支援特別事業	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

18歳未満の障害のある市民では、“（7）放課後等デイサービス”では「利用回数・時間などに制限がある」が37.9%で最も多く、“（5）児童発達支援”では「利用したい日・時間に利用できない」と「利用回数・時間などに制限がある」がそれぞれ46.2%で最も多くなっています。

（単位：3LA%）

	サンプル数	身近なところでサービスを利用できない	利用できない日・時間に	制限がある・時間などに	サービス事業所に利用を断られることが多い	利用料が高い	ヘルパーや指導員など不足している	建物や設備が障害に配慮されていない	情報が少ない	サービス内容に関する	相談や手続きに時間が	その他	無回答
（1）居宅介護（ホームヘルプ）	3	-	100.0	66.7	-	33.3	66.7	-	33.3	-	-	-	-
（2）移動支援（ガイドヘルプ）	12	25.0	33.3	66.7	-	16.7	8.3	-	8.3	16.7	-	-	8.3
（3）補装具	21	23.8	4.8	33.3	-	38.1	4.8	14.3	28.6	47.6	14.3	4.8	-
（4）日常生活用具	8	12.5	25.0	25.0	-	50.0	-	-	37.5	50.0	-	-	12.5
（5）児童発達支援	26	19.2	46.2	46.2	19.2	7.7	30.8	3.8	30.8	26.9	-	-	-
（6）居宅訪問型児童発達支援	1	-	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
（7）放課後等デイサービス	58	13.8	36.2	37.9	13.8	34.5	32.8	6.9	25.9	12.1	6.9	1.7	-
（8）短期入所（ショートステイ）	9	66.7	66.7	22.2	11.1	11.1	-	-	-	-	-	-	11.1
（9）保育所等訪問支援	8	25.0	12.5	75.0	12.5	-	25.0	-	12.5	-	50.0	-	-
（10）日中一時支援事業	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-	-	-
（11）相談支援	14	14.3	14.3	7.1	14.3	-	28.6	-	35.7	28.6	-	-	21.4
（12）障害児一時預かり事業（市独自事業）	2	-	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	50.0	-	-
（13）通学支援サービス	3	-	66.7	33.3	-	66.7	-	-	-	33.3	-	-	-
（14）その他のサービス	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、“（1）児童発達支援”では「身近なところでサービスを利用できない」が34.1%で最も多く、“（2）放課後等デイサービス”では「利用したい日・時間に利用できない」が45.0%で最も多くなっています。

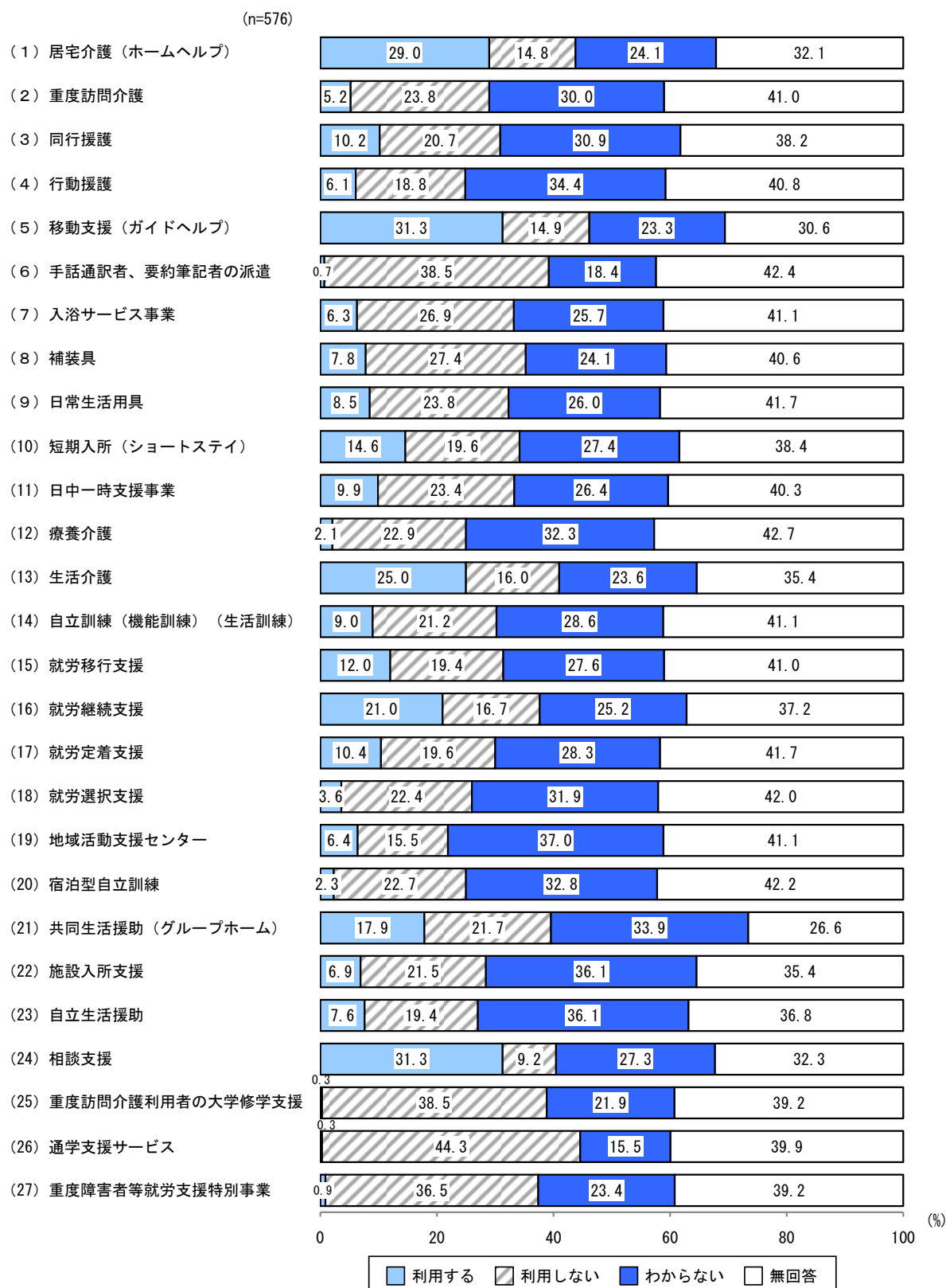
（単位：3LA%）

	サンプル数	身近なところでサービスを利用できない	利用できない日・時間に	制限がある・時間などに	事業所に利用を断られることが多い	利用料が高い	指導員など不足している	建物や設備が発達課題に配慮されていない	情報が少ない	サービス内容に関する	相談や手続きに時間が	その他	無回答
（1）児童発達支援	41	34.1	29.3	29.3	9.8	7.3	31.7	4.9	14.6	22.0	17.1	2.4	-
（2）放課後等デイサービス	40	27.5	45.0	17.5	7.5	12.5	37.5	7.5	17.5	12.5	12.5	2.5	-
（3）保育所等訪問支援	4	-	-	-	25.0	25.0	-	-	25.0	25.0	25.0	-	-
（4）相談支援	5	40.0	60.0	20.0	-	-	20.0	-	40.0	-	20.0	-	-
（5）障害児一時預かり事業（市独自事業）	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

#### ④ 今後の利用希望

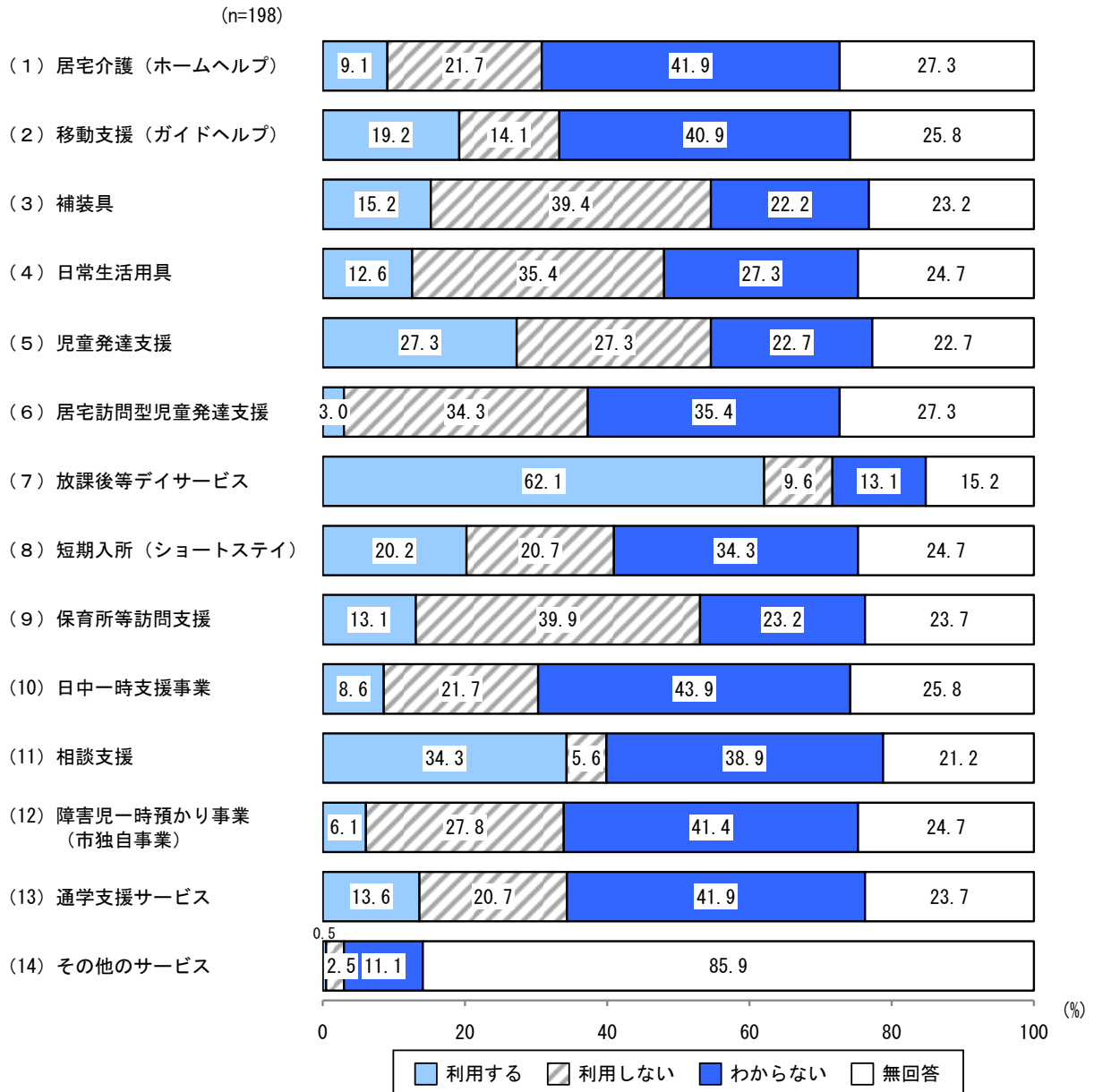
##### 18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

今後の利用希望については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「利用する」は“(5) 移動支援（ガイドヘルプ）”と“(24) 相談支援”がそれぞれ31.3%で最も高く、次いで“(1) 居宅介護（ホームヘルプ）”（29.0%）、“(13) 生活介護”（25.0%）となっています。



### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

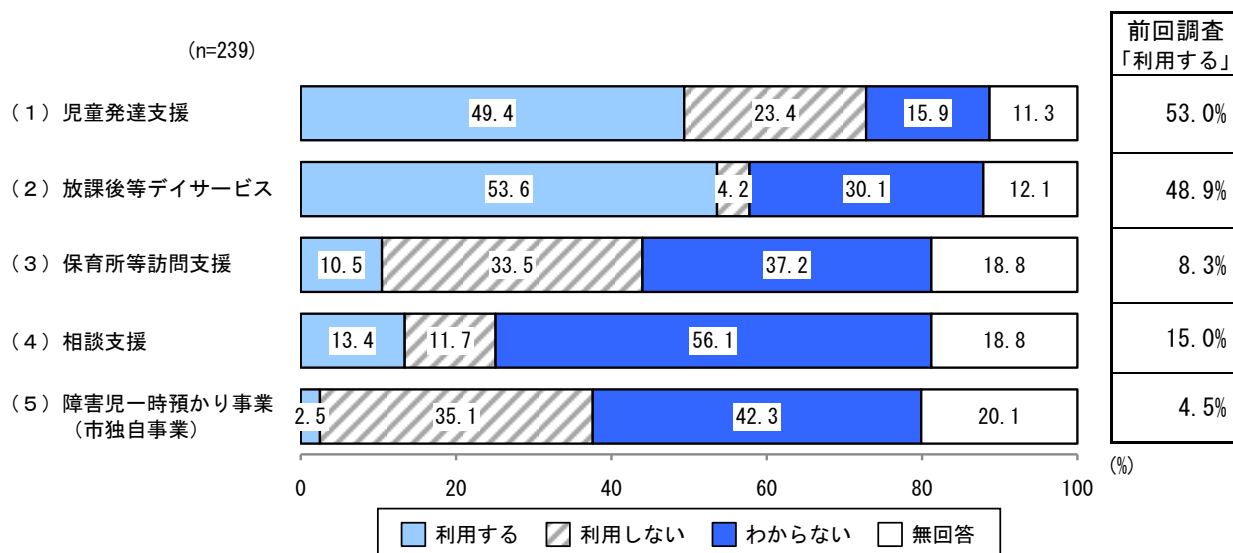
18歳未満の障害のある市民では、「利用する」は“(7) 放課後等デイサービス”が62.1%で最も高く、次いで“(11) 相談支援”(34.3%)、“(5) 児童発達支援”(27.3%)となっています。



## 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「利用する」は“（２）放課後等デイサービス”が53.6%で最も高く、次いで“（１）児童発達支援”（49.4%）、“（４）相談支援”（13.4%）となっています。

前回調査と比較すると、“（２）放課後等デイサービス”の割合が前回調査より4.7ポイント高くなっています。

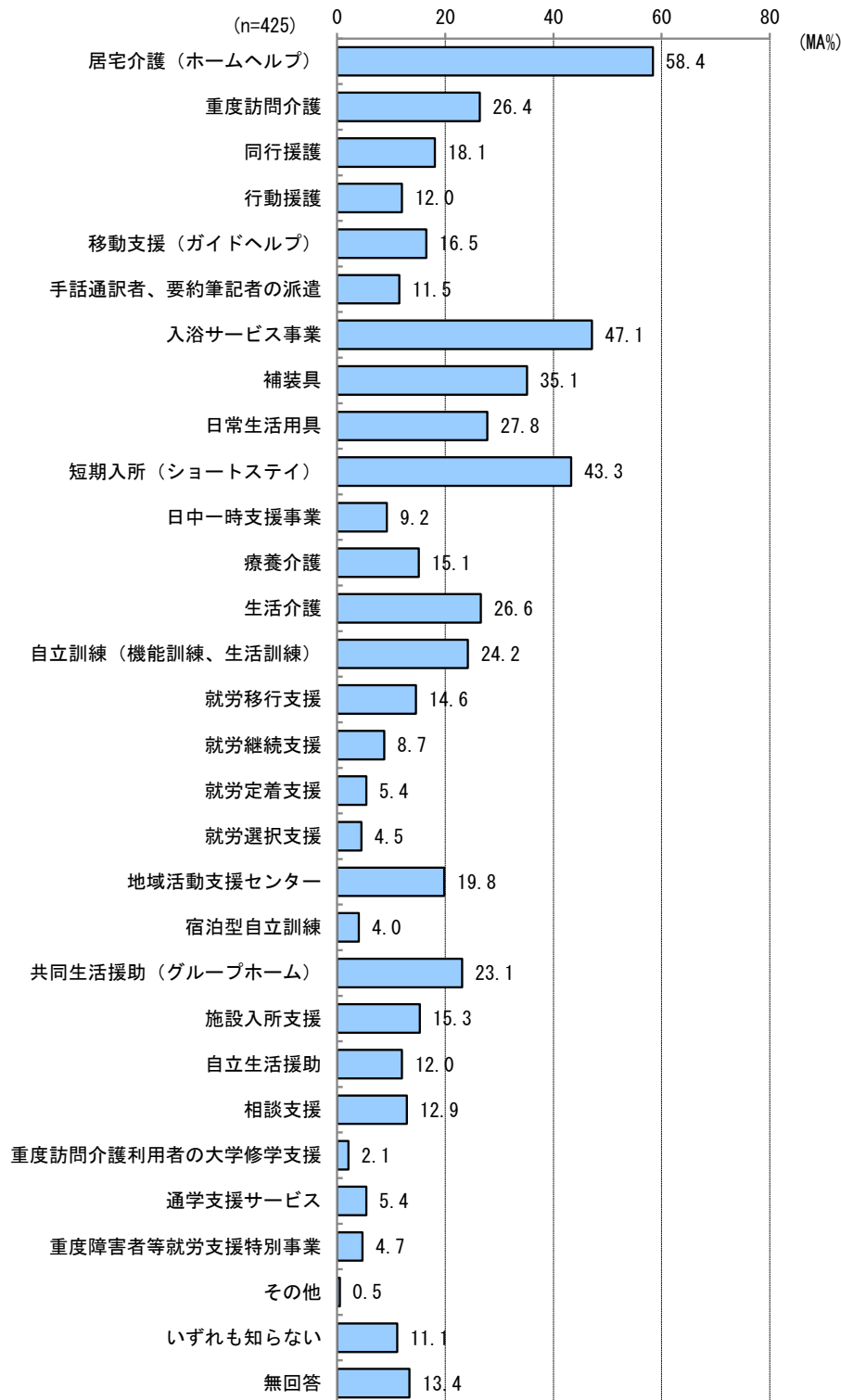


## (2) 障害福祉サービスの認知状況

問 障害のある人のための福祉サービスについてあなたが知っているものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

### 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (調査②)

障害福祉サービスの認知状況については、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では「居宅介護（ホームヘルプ）」が58.4%で最も多く、次いで「入浴サービス事業」が47.1%、「短期入所（ショートステイ）」が43.3%となっています。



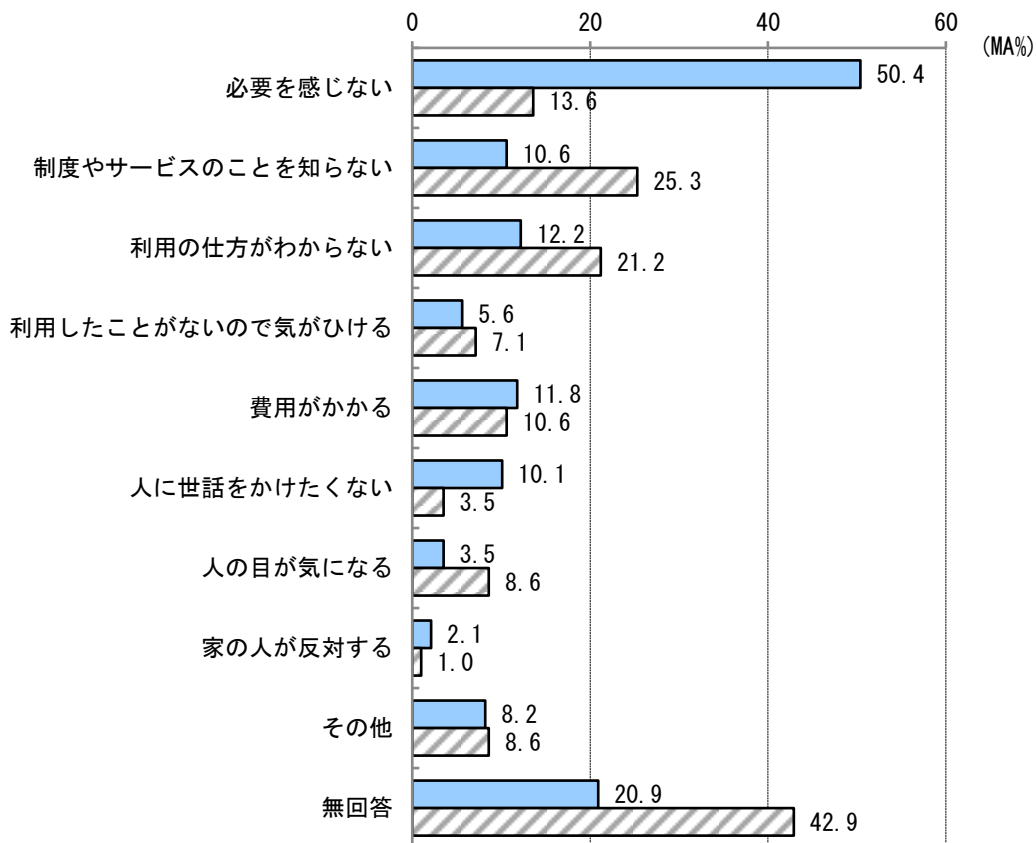
### (3) 障害福祉サービスを利用しない理由

問 現在、サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

18歳以上の障害福祉サービス未利用者、18歳未満の障害のある市民（調査②③）

障害福祉サービスを利用しない理由については、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「必要を感じない」が50.4%で最も多く、次いで「利用の仕方がわからない」が12.2%、「費用がかかる」が11.8%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「制度やサービスのことを知らない」が25.3%で最も多く、次いで「利用の仕方がわからない」が21.2%、「必要を感じない」が13.6%となっています。



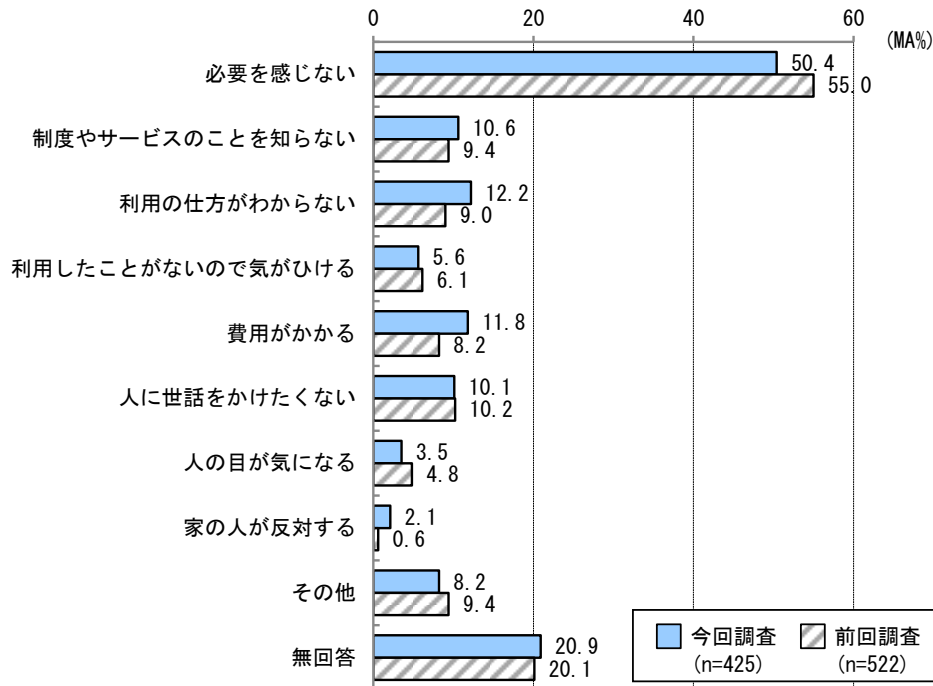
■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (n=425)  
 ▨ 18歳未満の障害のある市民 (n=198)

《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「必要を感じない」の割合は前回調査より4.6ポイント低く、「費用がかかる」の割合は前回調査より3.6ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「人に世話をかけたくない」以外の項目では65歳以上より40～64歳のほうが高い割合となっています。



		サンプル数	必要を感じない	を知らない 制度やサービスの こと	利用の 仕方がわ からな	で 利用 した こと が な い の が ひ け る	費用 が か か る	い に 世 話 を か け た く な い	人 の 目 が 気 に な る	家 の 人 が 反 対 す る	そ の 他	無 回 答
全体		425	50.4	10.6	12.2	5.6	11.8	10.1	3.5	2.1	8.2	20.9
居住地別	北西部圏域	62	48.4	6.5	12.9	8.1	9.7	16.1	6.5	1.6	6.5	19.4
	北中部圏域	63	57.1	11.1	14.3	7.9	9.5	7.9	1.6	-	6.3	17.5
	北東部圏域	69	56.5	8.7	8.7	5.8	10.1	11.6	-	4.3	10.1	17.4
	中部圏域	56	50.0	16.1	12.5	1.8	8.9	3.6	-	1.8	16.1	16.1
	中東部圏域	51	51.0	9.8	11.8	7.8	19.6	7.8	5.9	2.0	7.8	21.6
	中西部圏域	54	48.1	11.1	13.0	7.4	14.8	5.6	5.6	1.9	5.6	20.4
	南部圏域	60	41.7	13.3	13.3	-	11.7	13.3	3.3	1.7	5.0	31.7
年齢別	18～39歳	24	58.3	12.5	12.5	8.3	8.3	16.7	12.5	12.5	12.5	8.3
	40～64歳	116	56.0	15.5	17.2	9.5	15.5	6.9	7.8	3.4	9.5	8.6
	65歳以上	280	48.2	8.2	9.6	3.6	10.4	10.7	1.1	0.4	7.5	26.4
障害種別	身体障害	278	50.0	8.6	11.5	4.7	11.5	10.4	1.8	0.4	7.2	24.1
	知的障害	14	50.0	21.4	14.3	7.1	21.4	14.3	7.1	-	14.3	21.4
	精神障害	61	36.1	19.7	21.3	13.1	19.7	13.1	13.1	11.5	16.4	11.5
	難病	68	61.8	11.8	8.8	1.5	5.9	2.9	4.4	1.5	4.4	17.6
	発達障害	10	40.0	10.0	30.0	10.0	20.0	20.0	20.0	30.0	10.0	-
	高次脳機能障害	2	50.0	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-
身障種類別	視覚障害	25	48.0	16.0	20.0	8.0	8.0	8.0	4.0	-	12.0	24.0
	聴覚障害・平衡機能障害	26	34.6	3.8	15.4	7.7	3.8	11.5	-	-	11.5	30.8
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	12.5	12.5	50.0	25.0	12.5	25.0	-	-	12.5	12.5
	肢体不自由	117	47.0	6.8	7.7	3.4	13.7	9.4	2.6	0.9	8.5	28.2
	内部障害	95	60.0	7.4	9.5	3.2	10.5	8.4	-	-	5.3	20.0

※ ■は全体より10ポイント以上、■は全体より5ポイント以上高い。

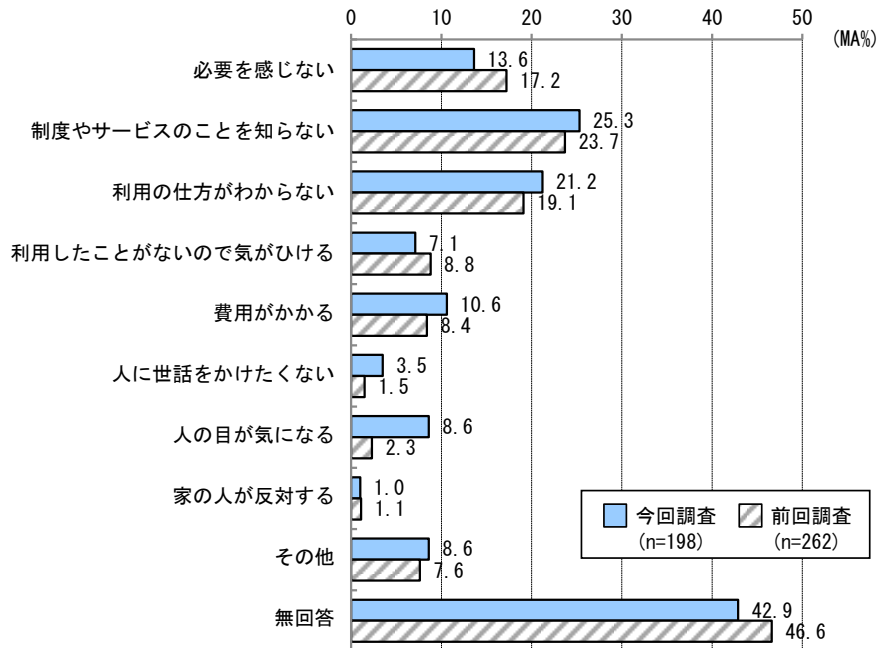
単位：%

18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「人の目が気になる」の割合は前回調査より6.3ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「制度やサービスのことを知らない」、「利用の仕方がわからない」の割合は15～17歳が最も高くなっています。

障害種別でみると、「利用の仕方がわからない」、「利用したことがないので気がひける」、「費用がかかる」、「人に世話をかけたくない」、「人の目が気になる」、「家の人が反対する」の割合は、発達障害で最も高くなっています。



	サンプル数	必要を感じない	制度やサービスのことを知らない	利用の仕方がわからない	利用したことがないので気がひける	費用がかかる	人に世話をかけたくない	人の目が気になる	家の人が反対する	その他	無回答	
全体	198	13.6	25.3	21.2	7.1	10.6	3.5	8.6	1.0	8.6	42.9	
居住地別	北西部圏域	38	13.2	26.3	18.4	2.6	2.6	-	2.6	-	5.3	50.0
	北中部圏域	32	21.9	18.8	9.4	6.3	12.5	-	9.4	-	12.5	43.8
	北東部圏域	32	15.6	28.1	21.9	3.1	12.5	6.3	12.5	-	6.3	31.3
	中部圏域	18	11.1	11.1	16.7	11.1	16.7	11.1	22.2	5.6	5.6	50.0
	中東部圏域	23	8.7	21.7	26.1	13.0	13.0	8.7	4.3	-	4.3	56.5
	中西部圏域	25	16.0	24.0	32.0	8.0	12.0	-	-	-	8.0	36.0
	南部圏域	21	4.8	42.9	28.6	14.3	4.8	-	14.3	4.8	19.0	33.3
年齢別	0～4歳	10	10.0	30.0	20.0	10.0	10.0	-	-	-	-	60.0
	5～9歳	67	7.5	23.9	20.9	7.5	13.4	4.5	10.4	3.0	6.0	52.2
	10～14歳	81	19.8	22.2	19.8	7.4	7.4	1.2	8.6	-	11.1	37.0
	15～17歳	36	8.3	30.6	22.2	5.6	11.1	8.3	8.3	-	11.1	38.9
障害種別	身体障害	47	17.0	31.9	21.3	4.3	8.5	4.3	6.4	-	6.4	42.6
	知的障害	161	10.6	24.8	22.4	6.8	9.9	2.5	8.7	1.2	7.5	46.6
	精神障害	16	31.3	6.3	12.5	12.5	25.0	12.5	12.5	-	6.3	43.8
	難病	16	12.5	37.5	31.3	-	18.8	6.3	12.5	-	6.3	37.5
	発達障害	55	12.7	25.5	25.5	10.9	18.2	9.1	12.7	3.6	12.7	36.4
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※ 濃い青は全体より10ポイント以上、薄い青は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

## 9 将来の暮らしについて

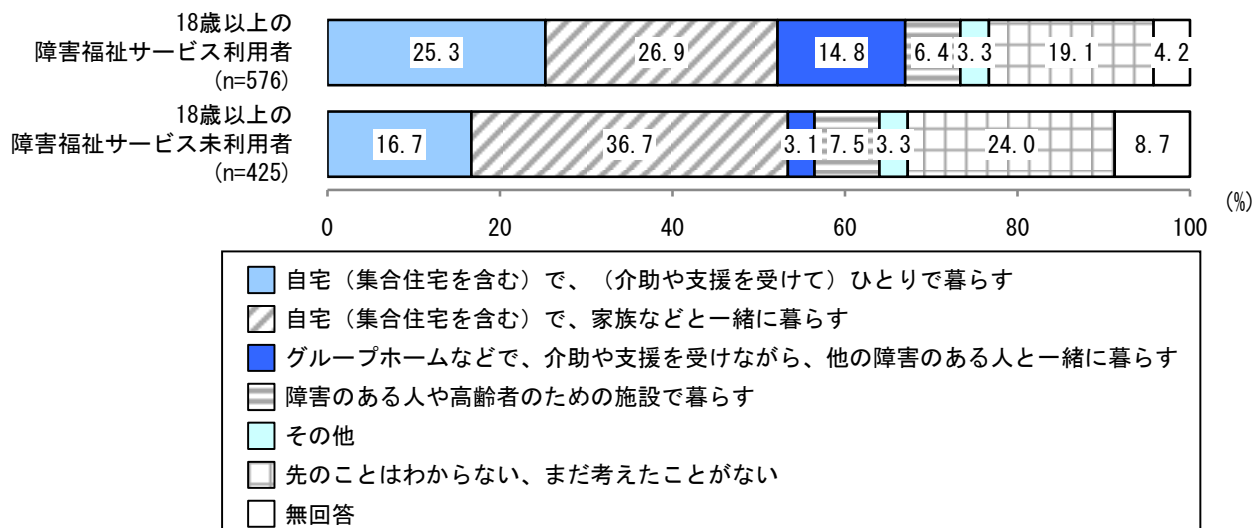
### (1) 希望する10年後の暮らし

問 あなたは、今から10年くらい経ったときに、どのような生活をしてみたいと思いますか。(最もあてはまるものどれか1つに○)

#### 18歳以上の障害のある市民（調査①②）

希望する10年後の暮らしについては、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「自宅（集合住宅を含む）で、家族などと一緒に暮らす」が26.9%で最も多く、次いで「自宅（集合住宅を含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」が25.3%、「先のことはわからない、まだ考えたことがない」が19.1%となっています。

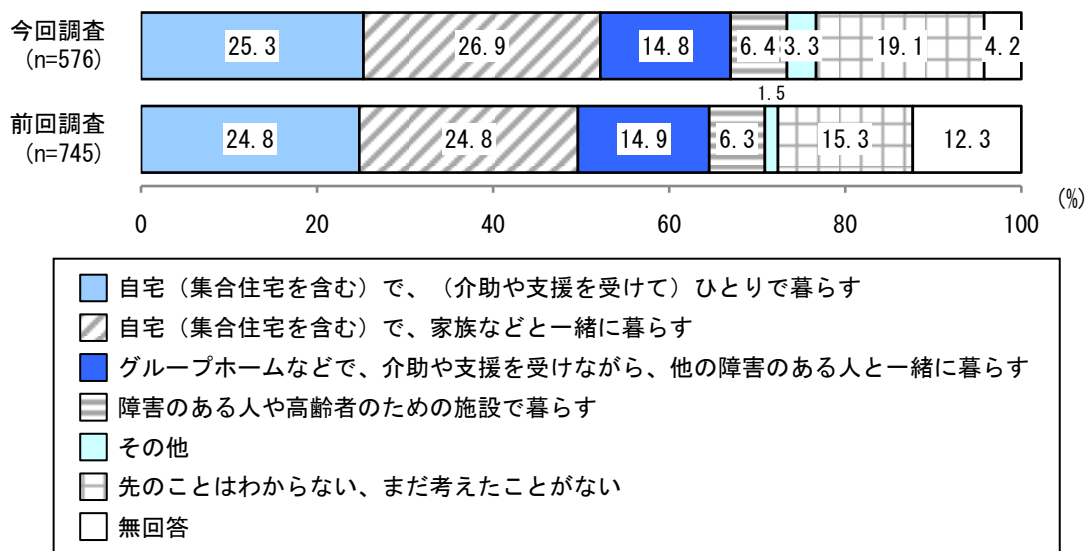
18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「自宅（集合住宅を含む）で、家族などと一緒に暮らす」が36.7%で最も多く、次いで「先のことはわからない、まだ考えたことがない」が24.0%、「自宅（集合住宅を含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」が16.7%となっています。



## 《経年比較及びクロス集計表》

### 18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、大きな差はみられません。



※前回調査の「自宅（マンション・団地なども含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」は、今回調査では「自宅（集合住宅を含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」に変更しています。

※前回調査の「自宅（マンション・団地なども含む）で、家族などと一緒に暮らす」は、今回調査では「自宅（集合住宅を含む）で、家族などと一緒に暮らす」に変更しています。

年齢別でみると、「自宅（集合住宅を含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」の割合は年齢が上がるほど高くなっています。

障害種別でみると、身体障害、精神障害、発達障害では「自宅（集合住宅を含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」が最も多いですが、知的障害では「グループホームなどで、介助や支援を受けながら、他の障害のある人と一緒に暮らす」が最も多くなっています。

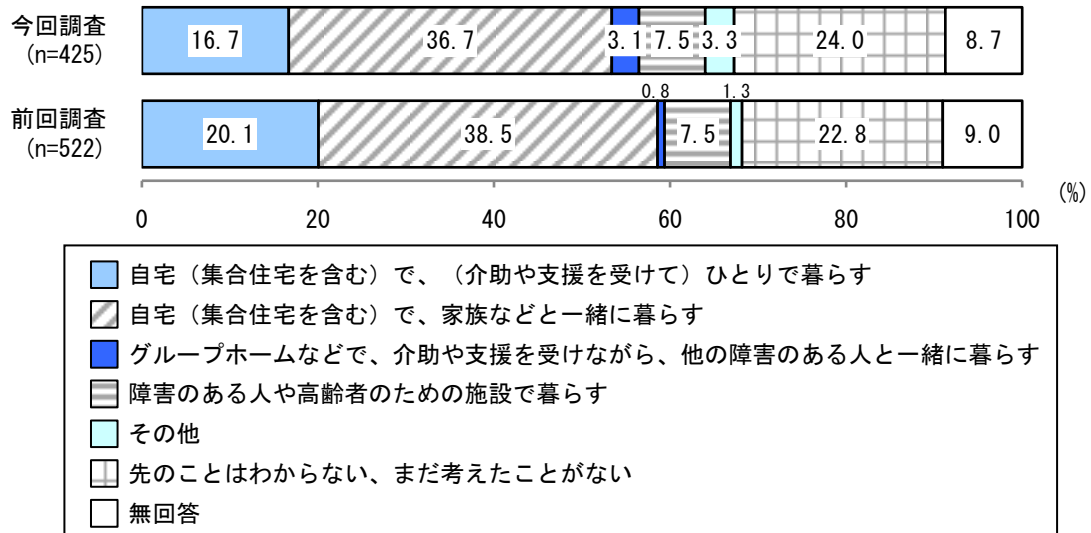
		サンプル数	ひとりで暮らす（介助や支援を受けて）	自宅（集合住宅を含む）で、家族などと一緒に暮らす	グループホームなどで、介助を受けながら、他の障害のある人と一緒に暮らす	障害のある人や高齢者のための施設で暮らす	その他	先のことわからない、まだ	無回答
全体		576	25.3	26.9	14.8	6.4	3.3	19.1	4.2
回答者別	本人	327	36.1	28.7	3.4	4.6	3.4	21.1	2.8
	本人以外	231	10.0	26.4	29.9	9.1	3.0	16.5	5.2
居住地別	北西部圏域	96	20.8	31.3	13.5	9.4	5.2	17.7	2.1
	北中部圏域	69	17.4	30.4	15.9	5.8	2.9	21.7	5.8
	北東部圏域	68	23.5	30.9	16.2	7.4	2.9	13.2	5.9
	中部圏域	81	30.9	34.6	14.8	3.7	3.7	9.9	2.5
	中東部圏域	52	28.8	28.8	11.5	1.9	1.9	25.0	1.9
	中西部圏域	83	26.5	18.1	18.1	7.2	4.8	22.9	2.4
	南部圏域	96	31.3	18.8	11.5	7.3	1.0	26.0	4.2
年齢別	18～39歳	222	17.1	34.2	17.1	5.4	3.6	21.2	1.4
	40～64歳	281	29.9	22.8	14.9	7.5	3.6	16.4	5.0
	65歳以上	66	31.8	22.7	6.1	6.1	1.5	22.7	9.1
障害種別	身体障害	181	25.4	27.1	13.3	11.6	2.2	16.0	4.4
	知的障害	230	10.0	22.6	32.6	7.8	3.0	19.1	4.8
	精神障害	220	37.3	27.3	3.6	3.2	4.1	21.4	3.2
	難病	27	18.5	48.1	11.1	3.7	3.7	3.7	11.1
	発達障害	84	34.5	20.2	15.5	2.4	6.0	21.4	-
	高次脳機能障害	15	13.3	46.7	-	13.3	-	26.7	-
身障種類別	視覚障害	35	28.6	28.6	5.7	14.3	-	20.0	2.9
	聴覚障害・平衡機能障害	10	10.0	30.0	20.0	30.0	-	10.0	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	4.8	33.3	38.1	9.5	4.8	4.8	4.8
	肢体不自由	102	24.5	28.4	10.8	10.8	3.9	16.7	4.9
	内部障害	20	35.0	30.0	10.0	5.0	5.0	10.0	5.0

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

## 18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「自宅（集合住宅を含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」の割合は前回調査より3.4ポイント低くなっています。



※前回調査の「自宅（マンション・団地なども含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」は、今回調査では「自宅（集合住宅を含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」に変更しています。

※前回調査の「自宅（マンション・団地なども含む）で、家族などと一緒に暮らす」は、今回調査では「自宅（集合住宅を含む）で、家族などと一緒に暮らす」に変更しています。

回答者別でみると、「自宅（集合住宅を含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」の割合は本人以外より本人のほうが13.5ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「自宅（集合住宅を含む）で、家族などと一緒に暮らす」の割合は40～64歳で53.4%と高くなっています。

障害種別でみると、「自宅（集合住宅を含む）で、（介助や支援を受けて）ひとりで暮らす」の割合は精神障害（23.0%）で最も高くなっています。

		サンプル数	ひとりで暮らす（自宅（集合住宅を含む））	自宅（集合住宅を含む）で、家族などと一緒に暮らす	グループホームなどで、介助や支援を受けながら、他の障害のある人と一緒に暮らす	障害のある人や高齢者のための施設で暮らす	その他	先のことわからない、まだ考えたことがない	無回答
全体		425	16.7	36.7	3.1	7.5	3.3	24.0	8.7
回答者別	本人	341	19.1	35.8	3.2	6.7	3.5	23.5	8.2
	本人以外	71	5.6	43.7	2.8	11.3	1.4	28.2	7.0
居住地別	北西部圏域	62	12.9	46.8	-	9.7	1.6	24.2	4.8
	北中部圏域	63	17.5	44.4	4.8	3.2	1.6	23.8	4.8
	北東部圏域	69	13.0	37.7	1.4	4.3	4.3	29.0	10.1
	中部圏域	56	26.8	39.3	5.4	7.1	3.6	12.5	5.4
	中東部圏域	51	9.8	39.2	-	11.8	2.0	29.4	7.8
	中西部圏域	54	18.5	22.2	7.4	5.6	5.6	29.6	11.1
	南部圏域	60	18.3	28.3	3.3	11.7	3.3	20.0	15.0
年齢別	18～39歳	24	29.2	29.2	4.2	-	4.2	33.3	-
	40～64歳	116	14.7	53.4	-	5.2	6.9	17.2	2.6
	65歳以上	280	16.4	30.7	4.3	9.3	1.4	26.1	11.8
障害種別	身体障害	278	17.3	34.2	3.6	7.9	2.5	26.6	7.9
	知的障害	14	14.3	42.9	7.1	-	-	35.7	-
	精神障害	61	23.0	36.1	-	8.2	11.5	13.1	8.2
	難病	68	8.8	54.4	4.4	10.3	1.5	14.7	5.9
	発達障害	10	10.0	30.0	10.0	-	-	50.0	-
	高次脳機能障害	2	-	50.0	-	-	-	50.0	-
身障種類別	視覚障害	25	20.0	32.0	-	8.0	8.0	24.0	8.0
	聴覚障害・平衡機能障害	26	26.9	34.6	-	-	-	26.9	11.5
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	25.0	25.0	-	-	-	50.0	-
	肢体不自由	117	20.5	32.5	2.6	14.5	4.3	18.8	6.8
	内部障害	95	15.8	34.7	5.3	4.2	1.1	31.6	7.4

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

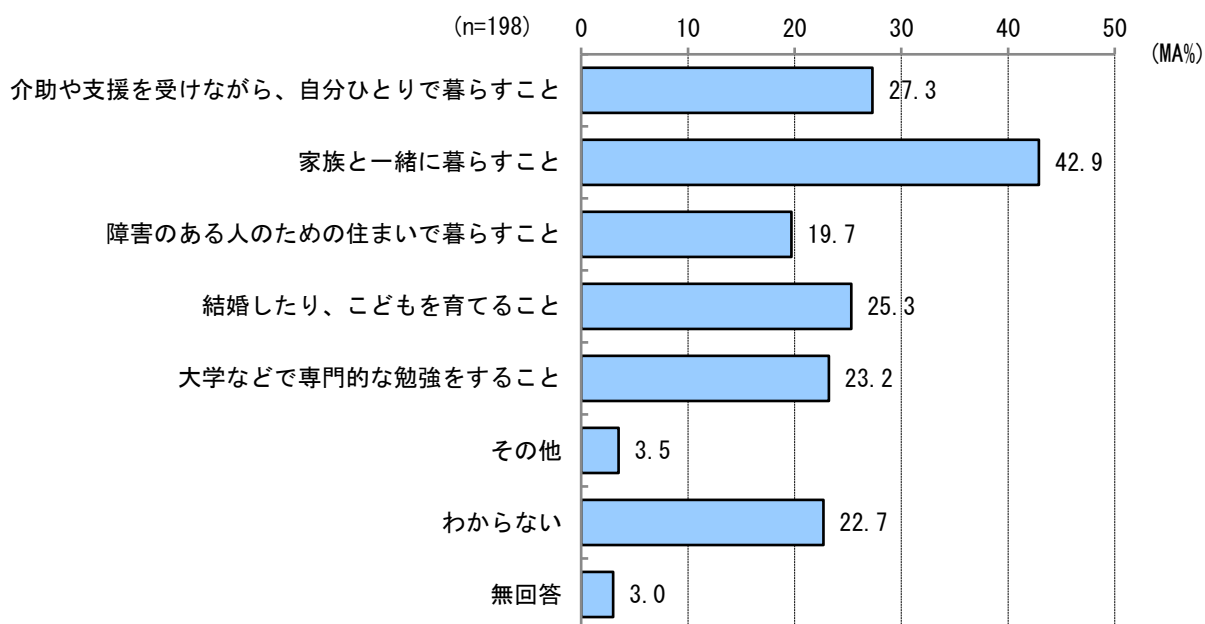
単位：%

## (2) 大人になったらしてみたいこと

問 次のうち、あなたが大人になったらしてみたいと思うことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

大人になったらしてみたいことについては、「家族と一緒に暮らすこと」が42.9%で最も多く、次いで「介助や支援を受けながら、自分ひとりで暮らすこと」が27.3%、「結婚したり、子どもを育てること」が25.3%となっています。

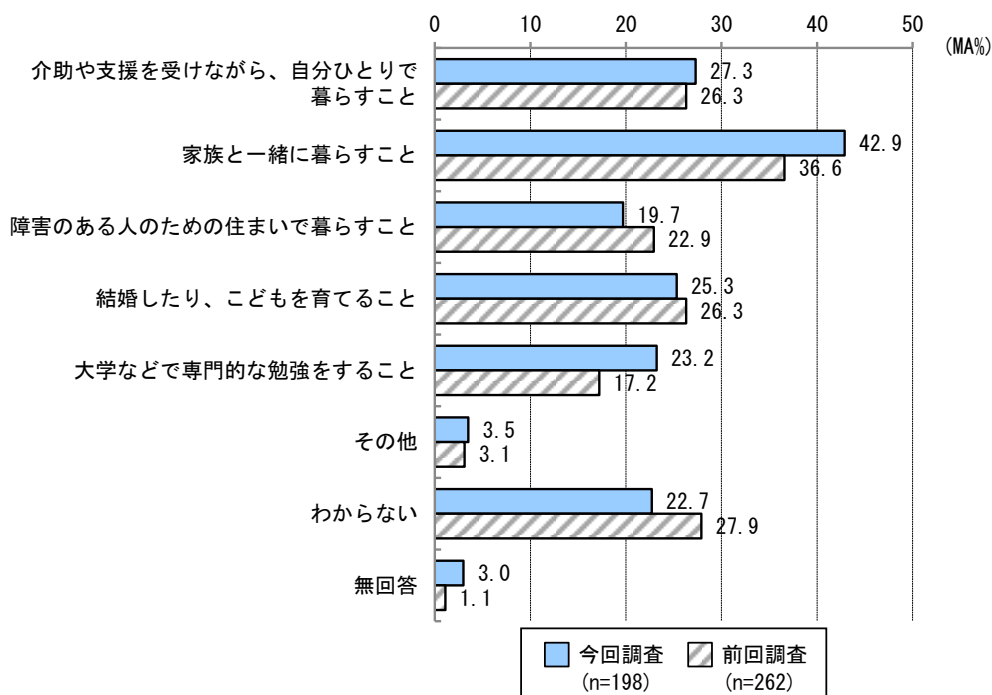


《経年比較及びクロス集計表》

18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「家族と一緒に暮らすこと」の割合は前回調査より6.3ポイント、「大学などで専門的な勉強をすること」の割合は前回調査より6.0ポイント、それぞれ高くなっています。

年齢別で見ると、5～9歳では「介助や支援を受けながら、自分ひとりで暮らすこと」（38.8%）が最も多く、10～14歳、15～17歳では「家族と一緒に暮らすこと」（10～14歳46.9%、15～17歳52.8%）が最も多くなっています。



	サンプル数	介助や支援を受けながら暮らすこと	家族と一緒に暮らすこと	障害のある人のための住まいで暮らすこと	結婚したり、こどもを育てること	大学などで専門的な勉強をすること	その他	わからない	無回答	
全体	198	27.3	42.9	19.7	25.3	23.2	3.5	22.7	3.0	
回答者別	本人	7	14.3	14.3	-	14.3	28.6	14.3	42.9	-
	本人以外	186	28.0	43.5	20.4	25.8	23.1	2.7	22.6	3.2
居住地別	北西部圏域	38	28.9	44.7	21.1	26.3	21.1	2.6	23.7	2.6
	北中部圏域	32	31.3	40.6	18.8	18.8	21.9	6.3	18.8	3.1
	北東部圏域	32	31.3	40.6	25.0	37.5	34.4	6.3	12.5	3.1
	中部圏域	18	33.3	44.4	16.7	22.2	27.8	-	22.2	-
	中東部圏域	23	26.1	43.5	13.0	34.8	26.1	4.3	30.4	-
	中西部圏域	25	16.0	44.0	20.0	24.0	16.0	-	28.0	4.0
	南部圏域	21	28.6	38.1	19.0	4.8	9.5	-	28.6	9.5
年齢別	0～4歳	10	-	30.0	20.0	10.0	10.0	-	50.0	10.0
	5～9歳	67	38.8	35.8	16.4	26.9	22.4	1.5	31.3	1.5
	10～14歳	81	22.2	46.9	22.2	23.5	22.2	3.7	17.3	2.5
	15～17歳	36	25.0	52.8	16.7	30.6	30.6	5.6	13.9	5.6

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

### (3) 将来の希望する生活に必要なとする支援

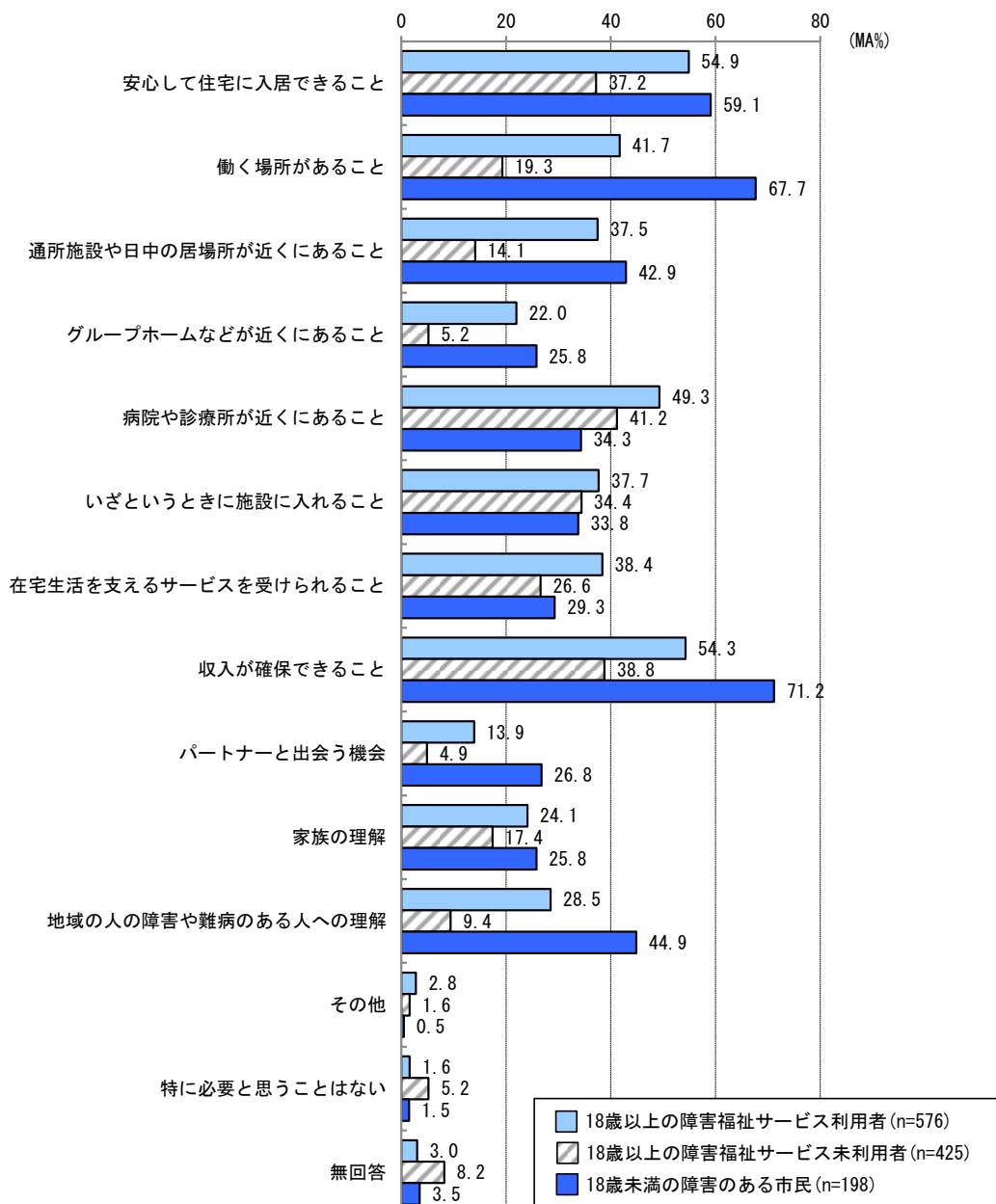
問 あなたが希望する将来の暮らしを実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

#### 障害のある市民 (調査①②③)

将来の希望する生活に必要なとする支援については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「安心して住宅に入居できること」が54.9%で最も多く、次いで「収入が確保できること」が54.3%、「病院や診療所が近くにあること」が49.3%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「病院や診療所が近くにあること」が41.2%で最も多く、次いで「収入が確保できること」が38.8%、「安心して住宅に入居できること」が37.2%となっています。

18歳未満の障害のある市民では、「収入が確保できること」が71.2%で最も多く、次いで「働く場所があること」が67.7%、「安心して住宅に入居できること」が59.1%となっています。



#### (4) 地域での生活に必要なとする支援

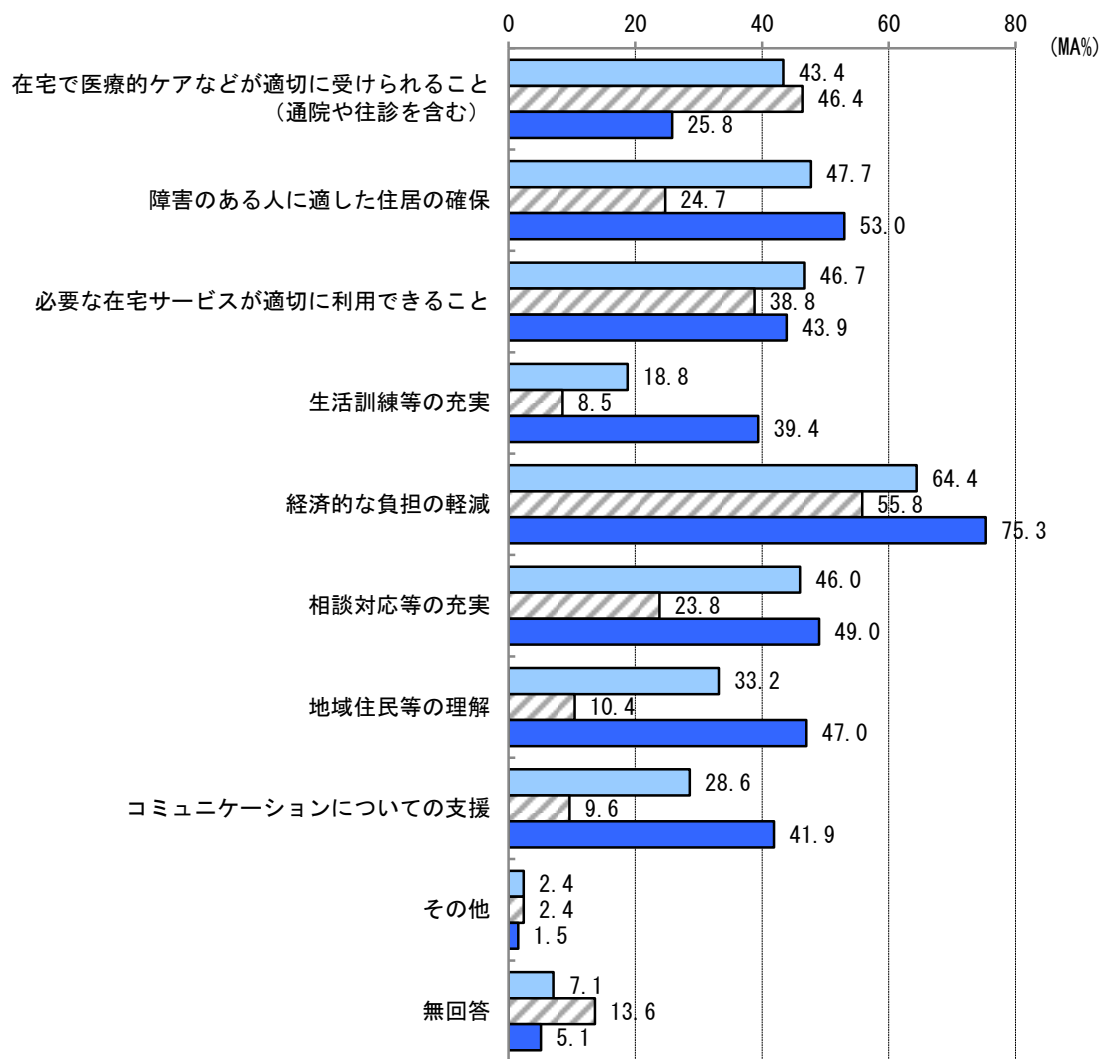
問 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

##### 障害のある市民 (調査①②③)

地域での生活に必要なとする支援については、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「経済的な負担の軽減」が64.4%で最も多く、次いで「障害のある人に適した住居の確保」が47.7%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が46.7%となっています。

18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「経済的な負担の軽減」が55.8%で最も多く、次いで「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること(通院や往診を含む)」が46.4%、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が38.8%となっています。

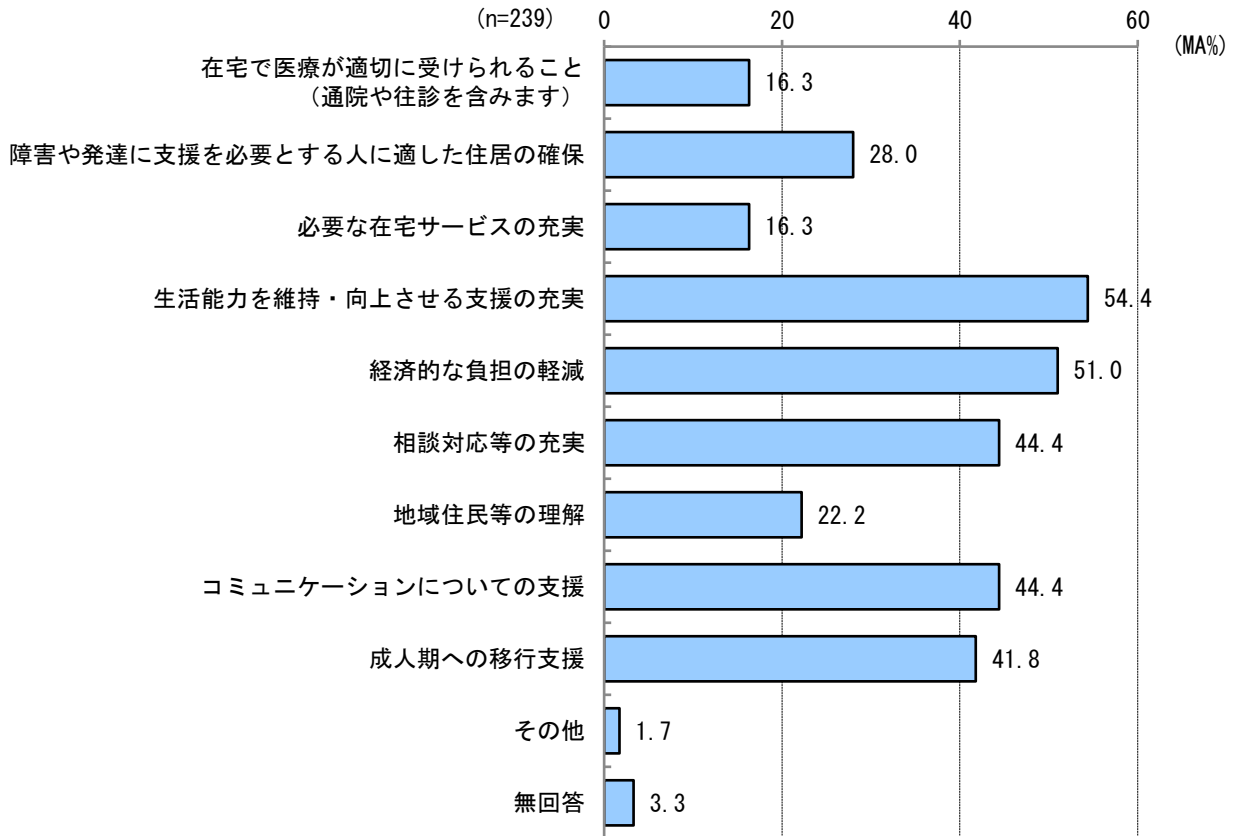
18歳未満の障害のある市民では、「経済的な負担の軽減」が75.3%で最も多く、次いで「障害のある人に適した住居の確保」が53.0%、「相談対応等の充実」が49.0%となっています。



■ 18歳以上の障害福祉サービス利用者 (n=576)  
■ 18歳以上の障害福祉サービス未利用者 (n=425)  
■ 18歳未満の障害のある市民 (n=198)

### 通所受給者証を持つ児童（調査⑤）

通所受給者証を持つ児童では、「生活能力を維持・向上させる支援の充実」が54.4%で最も多く、次いで「経済的な負担の軽減」が51.0%、「相談対応等の充実」と「コミュニケーションについての支援」がそれぞれ44.4%となっています。



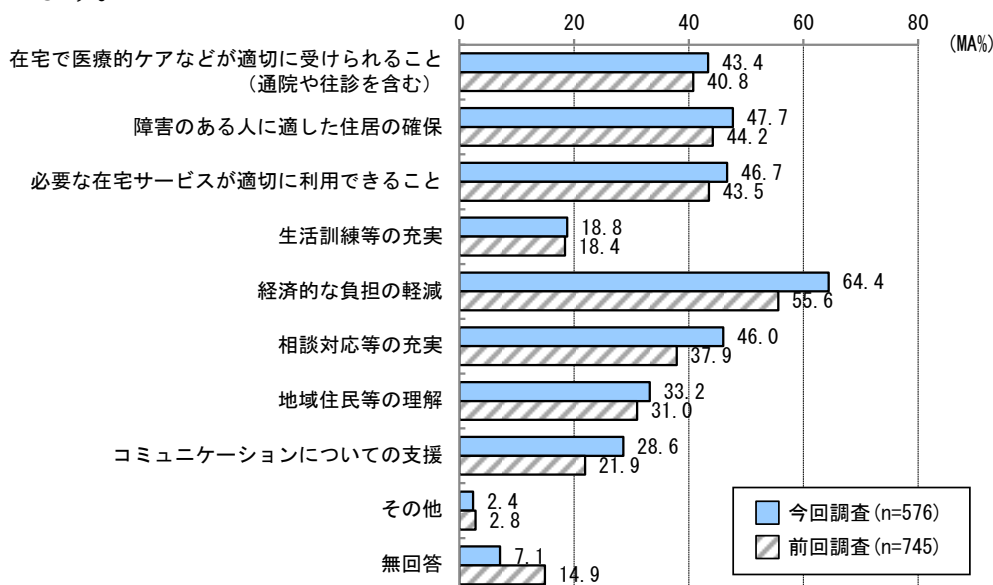
《経年比較及びクロス集計表》

18歳以上の障害福祉サービス利用者（調査①）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス利用者では、「経済的な負担の軽減」の割合は8.8ポイント、「相談対応等の充実」の割合は8.1ポイント、それぞれ前回調査より高くなっています。

居住地別でみると、いずれも「経済的な負担の軽減」が最も多いですが、なかでも中部圏域（69.1%）で最も高くなっています。

障害種別でみると、知的障害では「障害のある人に適した住居の確保」（55.7%）が最も多くなっています。



※前回調査の「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含みます）」は、今回調査では「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること（通院や往診を含む）」に変更しています。

	サンプル数	在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること (通院や往診を含む)	障害のある人に適した住居の確保	必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	その他	無回答	
全体	576	43.4	47.7	46.7	18.8	64.4	46.0	33.2	28.6	2.4	7.1	
居住地別	北西部圏域	96	47.9	55.2	49.0	18.8	65.6	40.6	31.3	29.2	1.0	7.3
	北中部圏域	69	42.0	39.1	49.3	29.0	63.8	52.2	34.8	29.0	1.4	11.6
	北東部圏域	68	42.6	54.4	47.1	13.2	61.8	60.3	32.4	22.1	5.9	4.4
	中部圏域	81	46.9	45.7	49.4	19.8	69.1	50.6	40.7	27.2	3.7	4.9
	中東部圏域	52	34.6	48.1	50.0	23.1	65.4	53.8	40.4	34.6	3.8	7.7
	中西部圏域	83	43.4	53.0	47.0	14.5	62.7	39.8	27.7	31.3	2.4	6.0
	南部圏域	96	42.7	40.6	38.5	13.5	67.7	39.6	29.2	24.0	1.0	7.3
年齢別	18～39歳	222	38.7	53.6	41.0	24.3	68.5	48.6	39.2	38.7	1.8	5.0
	40～64歳	281	44.5	47.3	49.8	16.7	64.1	48.0	33.5	25.3	3.6	7.5
	65歳以上	66	54.5	31.8	56.1	10.6	56.1	30.3	13.6	9.1	-	12.1
障害種別	身体障害	181	54.7	48.1	56.4	14.9	58.0	38.7	27.6	17.7	1.7	9.9
	知的障害	230	39.6	55.7	44.8	21.3	53.5	43.9	39.6	35.2	2.2	8.3
	精神障害	220	46.8	45.9	47.7	19.1	78.2	55.0	33.2	30.9	3.2	4.1
	難病	27	55.6	59.3	63.0	18.5	63.0	48.1	33.3	25.9	7.4	7.4
	発達障害	84	45.2	53.6	47.6	22.6	72.6	58.3	35.7	41.7	1.2	4.8
	高次脳機能障害	15	46.7	40.0	40.0	13.3	73.3	33.3	26.7	13.3	-	20.0
	視覚障害	35	57.1	34.3	54.3	20.0	62.9	42.9	31.4	11.4	-	11.4
身障種別	聴覚障害・平衡機能障害	10	70.0	50.0	80.0	30.0	50.0	50.0	40.0	30.0	-	-
	音声・言語・そしゃく機能障害	21	57.1	42.9	38.1	19.0	52.4	38.1	38.1	14.3	-	9.5
	肢体不自由	102	53.9	52.0	58.8	11.8	56.9	35.3	24.5	15.7	2.0	9.8
	内部障害	20	60.0	55.0	65.0	20.0	75.0	50.0	30.0	30.0	-	-

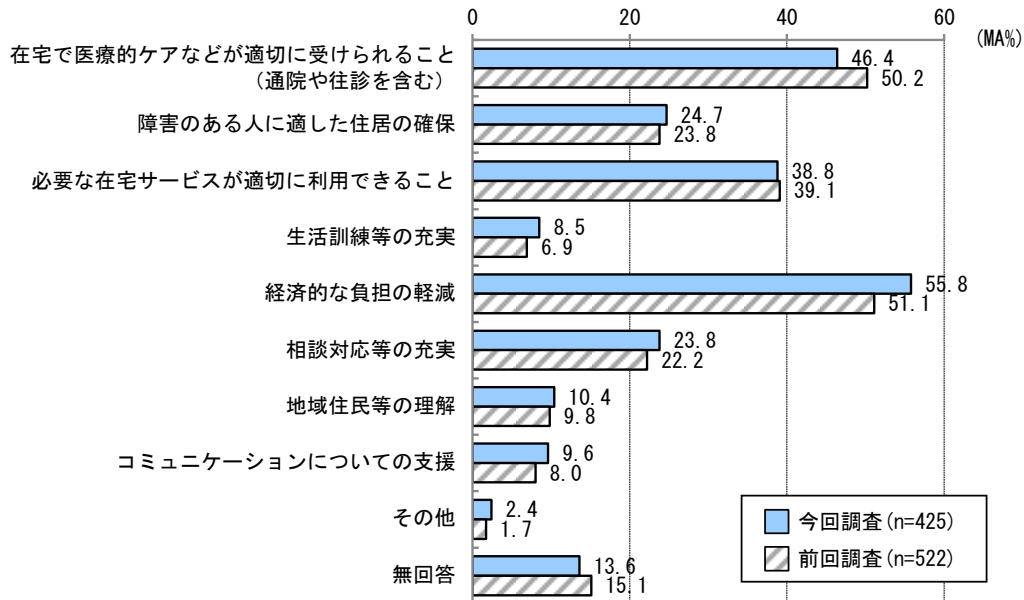
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

## 18歳以上の障害福祉サービス未利用者（調査②）

前回調査と比較すると、18歳以上の障害福祉サービス未利用者では、「経済的な負担の軽減」の割合が前回調査より4.7ポイント高くなっています。

年齢別でみると、65歳以上では「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること（通院や往診を含む）」（53.6%）が最も多くなっています。



※前回調査の「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含みます）」は、今回調査では「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること（通院や往診を含む）」に変更しています。

	サンプル数	在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること (通院や往診を含む)	障害のある人に適した住居の確保	切実に必要な在宅サービスが利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	その他	無回答	
全体	425	46.4	24.7	38.8	8.5	55.8	23.8	10.4	9.6	2.4	13.6	
居住地別	北西部圏域	62	45.2	21.0	33.9	11.3	50.0	24.2	11.3	9.7	1.6	12.9
	北中部圏域	63	54.0	27.0	42.9	6.3	66.7	22.2	14.3	11.1	1.6	9.5
	北東部圏域	69	50.7	18.8	34.8	4.3	47.8	20.3	10.1	8.7	2.9	13.0
	中部圏域	56	58.9	25.0	55.4	10.7	58.9	30.4	17.9	10.7	3.6	8.9
	中東部圏域	51	39.2	23.5	37.3	13.7	56.9	29.4	7.8	13.7	5.9	13.7
	中西部圏域	54	40.7	37.0	37.0	11.1	63.0	22.2	7.4	9.3	-	13.0
	南部圏域	60	40.0	23.3	31.7	5.0	51.7	20.0	3.3	6.7	-	21.7
	年齢別											
18～39歳	24	12.5	50.0	20.8	16.7	70.8	33.3	16.7	16.7	4.2	8.3	
40～64歳	116	37.1	33.6	31.0	12.1	64.7	27.6	15.5	12.9	5.2	7.8	
65歳以上	280	53.6	18.9	43.6	6.4	50.4	21.8	7.9	7.9	1.1	16.4	
障害種別	身体障害	278	51.1	22.7	43.5	6.8	51.1	22.3	8.6	8.6	1.1	14.0
	知的障害	14	28.6	64.3	28.6	7.1	64.3	28.6	14.3	7.1	14.3	-
	精神障害	61	32.8	37.7	27.9	18.0	68.9	41.0	24.6	19.7	4.9	13.1
	難病	68	44.1	17.6	30.9	5.9	57.4	14.7	4.4	8.8	1.5	14.7
	発達障害	10	20.0	30.0	30.0	30.0	70.0	60.0	30.0	40.0	-	-
	高次脳機能障害	2	50.0	-	50.0	-	100.0	50.0	-	-	-	-
身障種別	視覚障害	25	36.0	20.0	44.0	4.0	52.0	32.0	4.0	4.0	4.0	8.0
	聴覚障害・平衡機能障害	26	38.5	15.4	26.9	7.7	30.8	23.1	11.5	23.1	3.8	26.9
	音声・言語・そしゃく機能障害	8	62.5	37.5	25.0	12.5	50.0	25.0	-	12.5	-	25.0
	肢体不自由	117	49.6	27.4	44.4	9.4	50.4	24.8	10.3	10.3	0.9	12.8
	内部障害	95	60.0	21.1	48.4	5.3	50.5	17.9	8.4	6.3	-	14.7
ライフスタイルに応じた生活ができるか別	はい (感じる)	278	45.3	23.4	39.2	9.0	54.7	25.5	11.5	11.2	1.4	12.9
	いいえ (感じない)	120	52.5	31.7	41.7	7.5	60.8	22.5	9.2	7.5	5.0	8.3

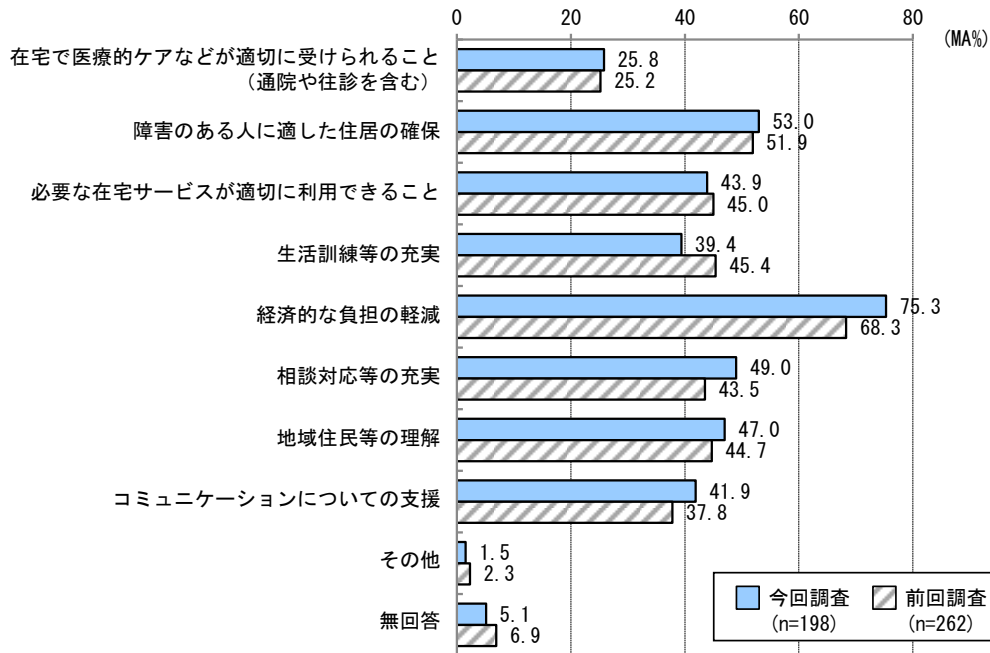
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

単位：%

### 18歳未満の障害のある市民（調査③）

前回調査と比較すると、18歳未満の障害のある市民では、「経済的な負担の軽減」の割合が前回調査より7.0ポイント高くなっています。

年齢別でみると、「障害のある人に適した住居の確保」、「生活訓練等の充実」、「経済的な負担の軽減」、「地域住民等の理解」、「コミュニケーションについての支援」では5～9歳がそれぞれ最も高くなっています。



※前回調査の「在宅で医療的ケアなどが適切に得られること（通院や往診を含みます）」は、今回調査では「在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること（通院や往診を含む）」に変更しています。

	サンプル数	在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること (通院や往診を含む)	障害のある人に適した住居の確保	に必要な在宅サービスが適切に利用できること	生活訓練等の充実	経済的な負担の軽減	相談対応等の充実	地域住民等の理解	コミュニケーションについての支援	その他	無回答	
全体	198	25.8	53.0	43.9	39.4	75.3	49.0	47.0	41.9	1.5	5.1	
居住地別	北西部圏域	38	28.9	57.9	34.2	26.3	81.6	50.0	55.3	50.0	2.6	2.6
	北中部圏域	32	21.9	50.0	46.9	43.8	75.0	46.9	43.8	31.3	3.1	3.1
	北東部圏域	32	12.5	43.8	46.9	31.3	53.1	43.8	43.8	31.3	-	9.4
	中部圏域	18	16.7	55.6	38.9	50.0	77.8	44.4	66.7	50.0	-	5.6
	中東部圏域	23	30.4	56.5	56.5	39.1	69.6	52.2	43.5	34.8	4.3	8.7
	中西部圏域	25	36.0	56.0	48.0	56.0	88.0	56.0	40.0	52.0	-	4.0
	南部圏域	21	23.8	52.4	33.3	38.1	85.7	52.4	42.9	57.1	-	4.8
年齢別	0～4歳	10	30.0	70.0	40.0	40.0	60.0	30.0	40.0	50.0	-	10.0
	5～9歳	67	28.4	55.2	43.3	52.2	79.1	49.3	53.7	49.3	4.5	3.0
	10～14歳	81	21.0	54.3	42.0	33.3	74.1	48.1	44.4	33.3	-	4.9
	15～17歳	36	27.8	41.7	52.8	27.8	72.2	55.6	44.4	44.4	-	8.3
障害種別	身体障害	47	44.7	55.3	57.4	25.5	74.5	42.6	46.8	29.8	2.1	4.3
	知的障害	161	26.7	58.4	46.6	44.7	74.5	51.6	51.6	46.6	1.2	5.0
	精神障害	16	18.8	25.0	31.3	31.3	87.5	56.3	37.5	43.8	-	6.3
	難病	16	62.5	62.5	56.3	43.8	87.5	31.3	37.5	50.0	-	-
	発達障害	55	21.8	52.7	49.1	50.9	85.5	60.0	56.4	61.8	1.8	-
	高次脳機能障害	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ライフスタイルに応じた生活ができているか別	はい (感じる)	130	24.6	49.2	43.1	38.5	73.8	47.7	48.5	41.5	1.5	4.6
	いいえ (感じない)	55	25.5	58.2	43.6	41.8	76.4	52.7	45.5	45.5	1.8	7.3

※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。

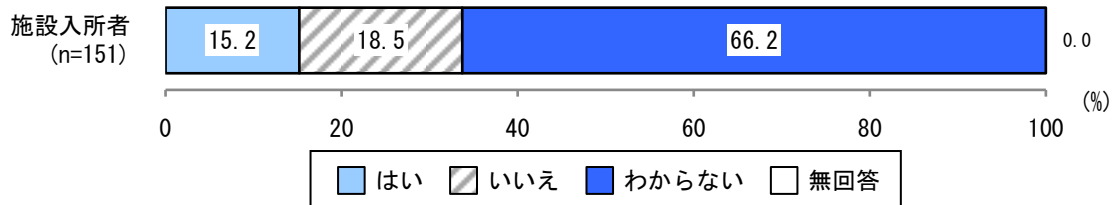
単位：%

## (5) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無

問 あなたは、施設から退所して、地域で生活したいと思ったことはありますか。(どれか1つに○)

### 施設入所者 (調査④)

施設から退所して、地域で生活したいと思ったことがあるかについては、「はい」が15.2%、「いいえ」が18.5%となっています。

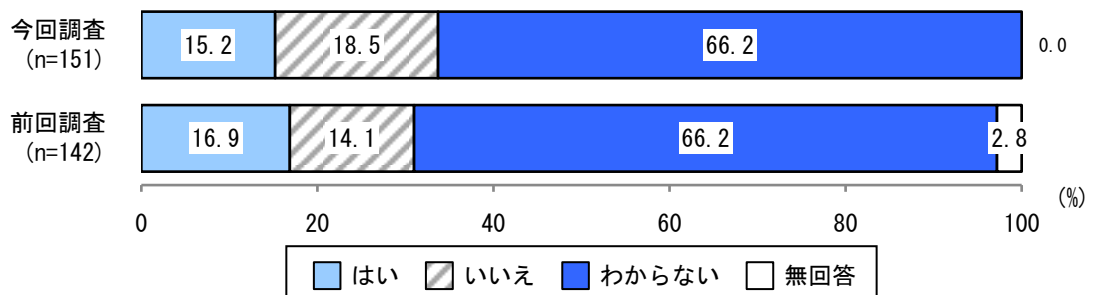


### 《経年比較及びクロス集計表》

#### 施設入所者 (調査④)

前回調査と比較すると、「いいえ」の割合が前回調査より4.4ポイント高くなっています。

入所年数別でみると、「はい」の割合は5～20年未満 (14.3%) より5年未満 (33.3%) のほうが19.0ポイント高くなっています。



		サンプル数	はい	いいえ	わからない	無回答
全体		151	15.2	18.5	66.2	-
年齢別	18～39歳	23	21.7	4.3	73.9	-
	40～64歳	101	14.9	14.9	70.3	-
	65歳以上	26	11.5	46.2	42.3	-
障害種別	身体障害	63	11.1	28.6	60.3	-
	知的障害	124	12.1	14.5	73.4	-
	その他の障害	14	35.7	7.1	57.1	-
入所年数別	5年未満	30	33.3	23.3	43.3	-
	5～20年未満	49	14.3	16.3	69.4	-
	20年以上	72	8.3	18.1	73.6	-

※ 単位：%  
   は全体より10ポイント以上、   は全体より5ポイント以上高い。

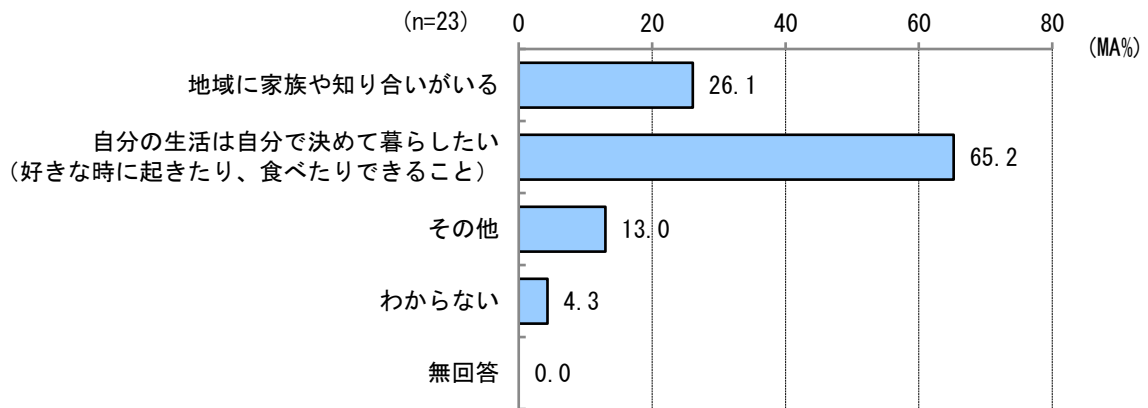
## (6) 退所したい理由

\*『(5) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

問 それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

### 施設入所者 (調査④)

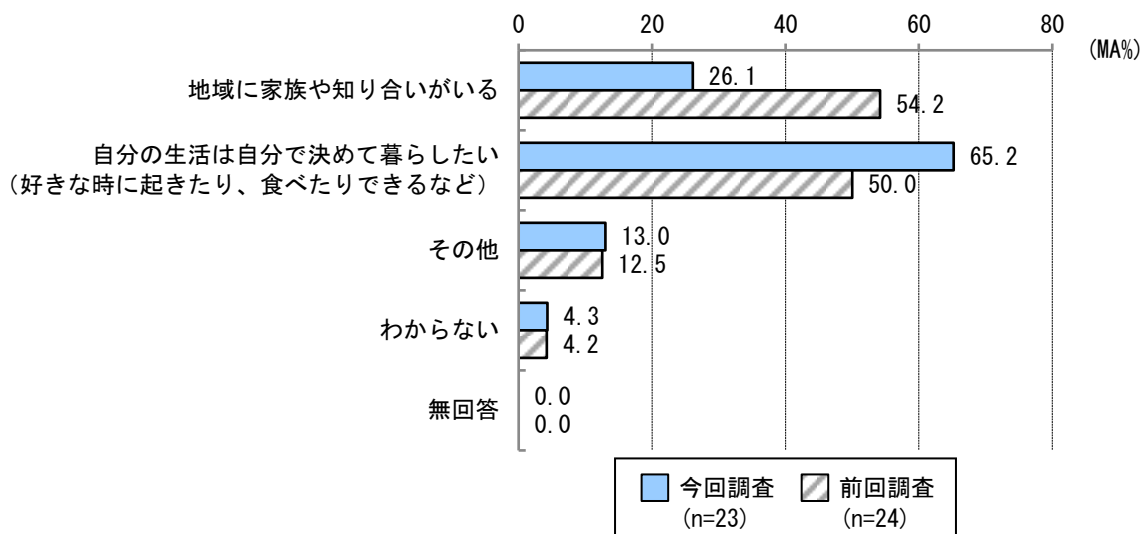
退所して地域で生活したいと思ったことがあると回答した人に、その理由をたずねたところ、「自分の生活は自分で決めて暮らしたい (好きな時に起きたり、食べたりできること)」が65.2%で最も多く、次いで「地域に家族や知り合いがいる」が26.1%となっています。



### 《経年比較及びクロス集計表》

#### 施設入所者 (調査④)

前回調査と比較すると、母数が少ないため一概にはいえませんが、「自分の生活は自分で決めて暮らしたい (好きな時に起きたり、食べたりできるなど)」の割合が前回調査より15.2ポイント高くなっています。



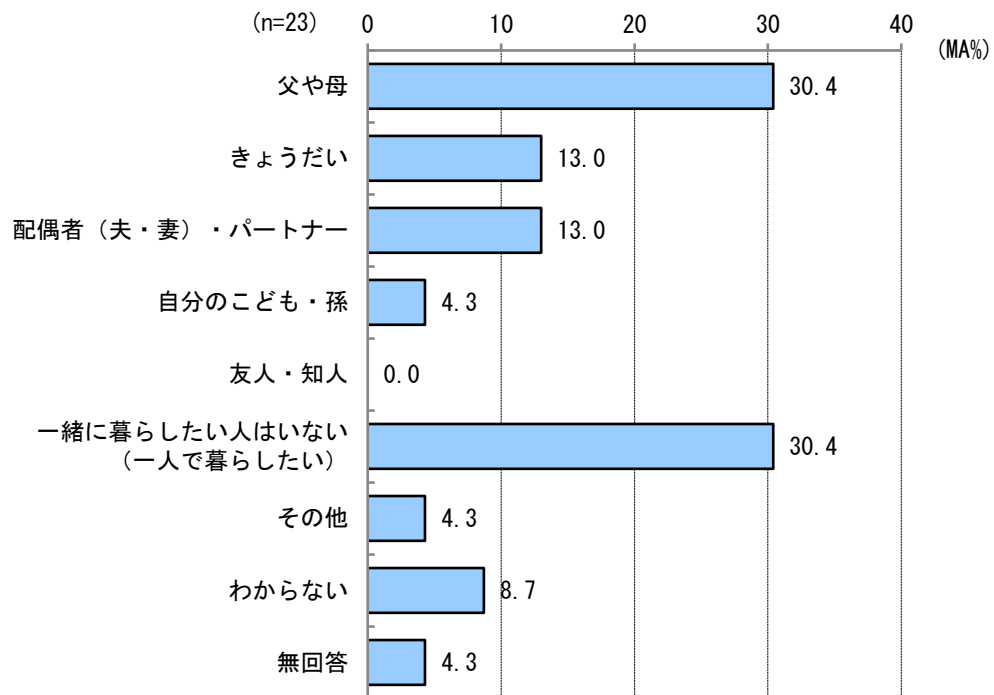
## (7) 一緒に暮らしたい人

\* 『(5) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

問 だれと一緒に暮らしたいですか。(あてはまる人すべてに○)

### 施設入所者 (調査④)

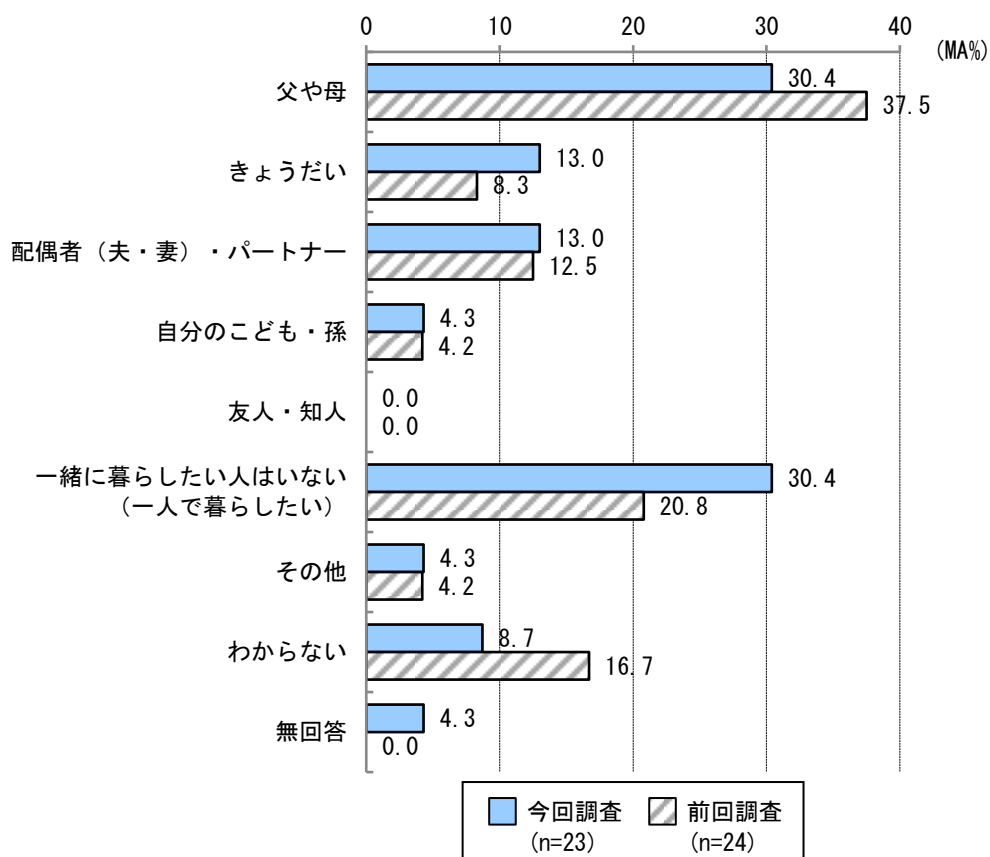
だれと一緒に暮らしたいかについては、「父や母」と「一緒に暮らしたい人はいない(一人で暮らしたい)」がそれぞれ30.4%で最も多く、次いで「きょうだい」と「配偶者(夫・妻)・パートナー」がそれぞれ13.0%となっています。



《経年比較及びクロス集計表》

施設入所者（調査④）

前回調査と比較すると、母数が少ないため一概にはいえませんが、「一緒に暮らしたい人はいない（一人で暮らしたい）」の割合が前回調査より9.6ポイント高くなっています。



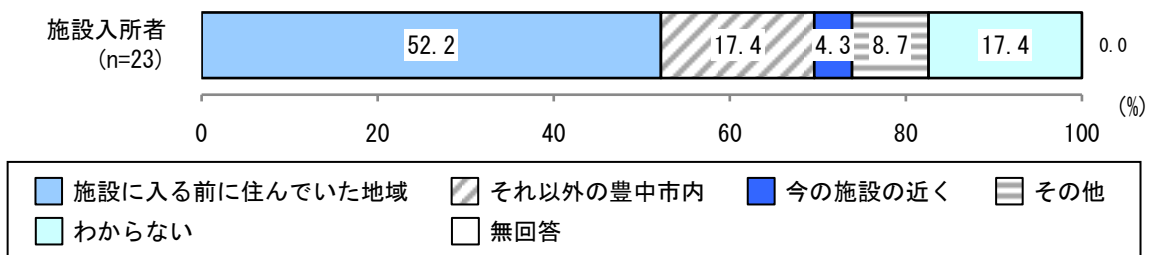
## (8) 暮らす場所への希望

\* 『(5) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

問 どこで暮らしたいですか。(どれか1つに○)

### 施設入所者 (調査④)

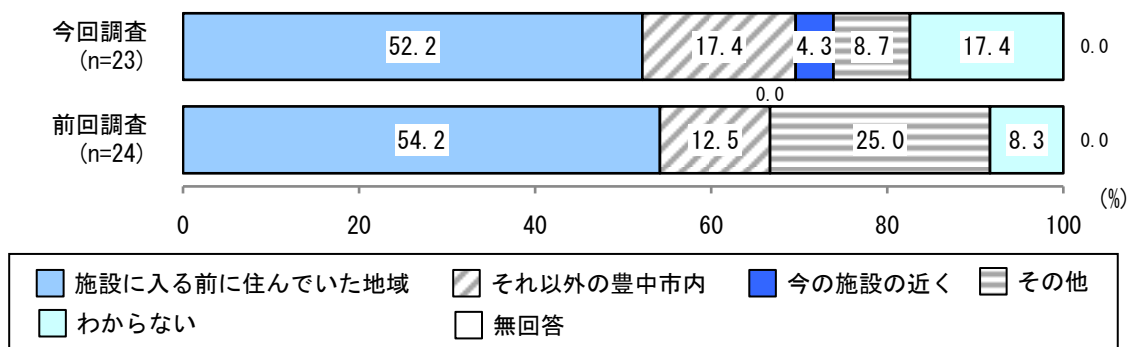
退所してどこで暮らしたいかについては、「施設に入る前に住んでいた地域」が52.2%で最も多く、次いで「それ以外の豊中市内」が17.4%、「今の施設の近く」が4.3%となっています。



### 《経年比較及びクロス集計表》

#### 施設入所者 (調査④)

前回調査と比較すると、母数が少ないため一概にはいえませんが、「それ以外の豊中市内」の割合が前回調査より4.9ポイント高くなっています。



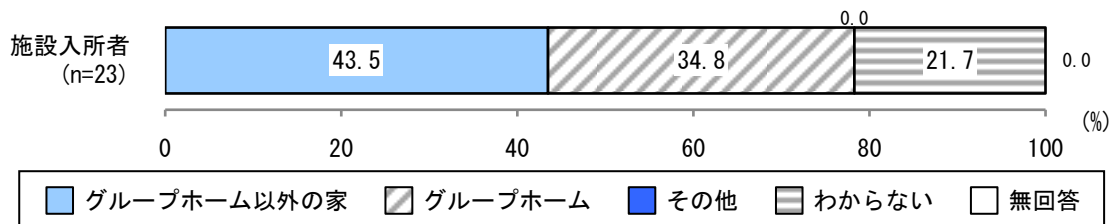
## (9) 住まいへの希望

\* 『(5) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

問 どんな住まいで暮らしたいですか。(どれか1つに○)

### 施設入所者 (調査④)

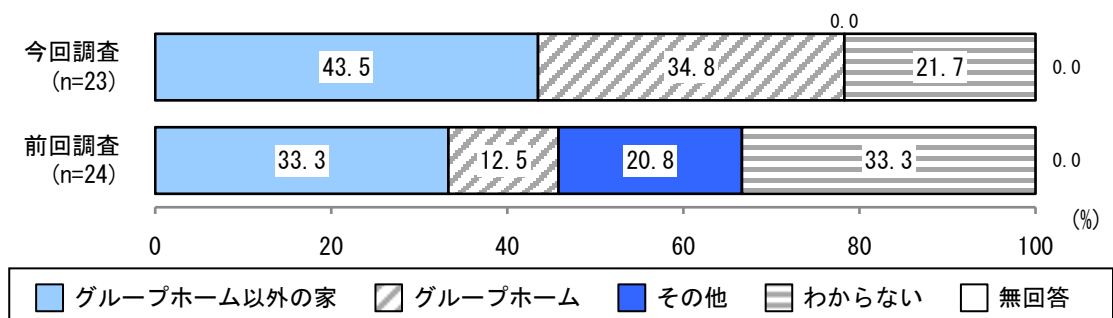
退所してどんな住まいで暮らしたいかについては、「グループホーム以外の家」が43.5%で最も多く、次いで「グループホーム」が34.8%となっています。



### 《経年比較及びクロス集計表》

#### 施設入所者 (調査④)

前回調査と比較すると、母数が少ないため一概にはいえませんが、「グループホーム以外の家」の割合が前回調査より10.2ポイント、「グループホーム」の割合が前回調査より22.3ポイント、それぞれ高くなっています。



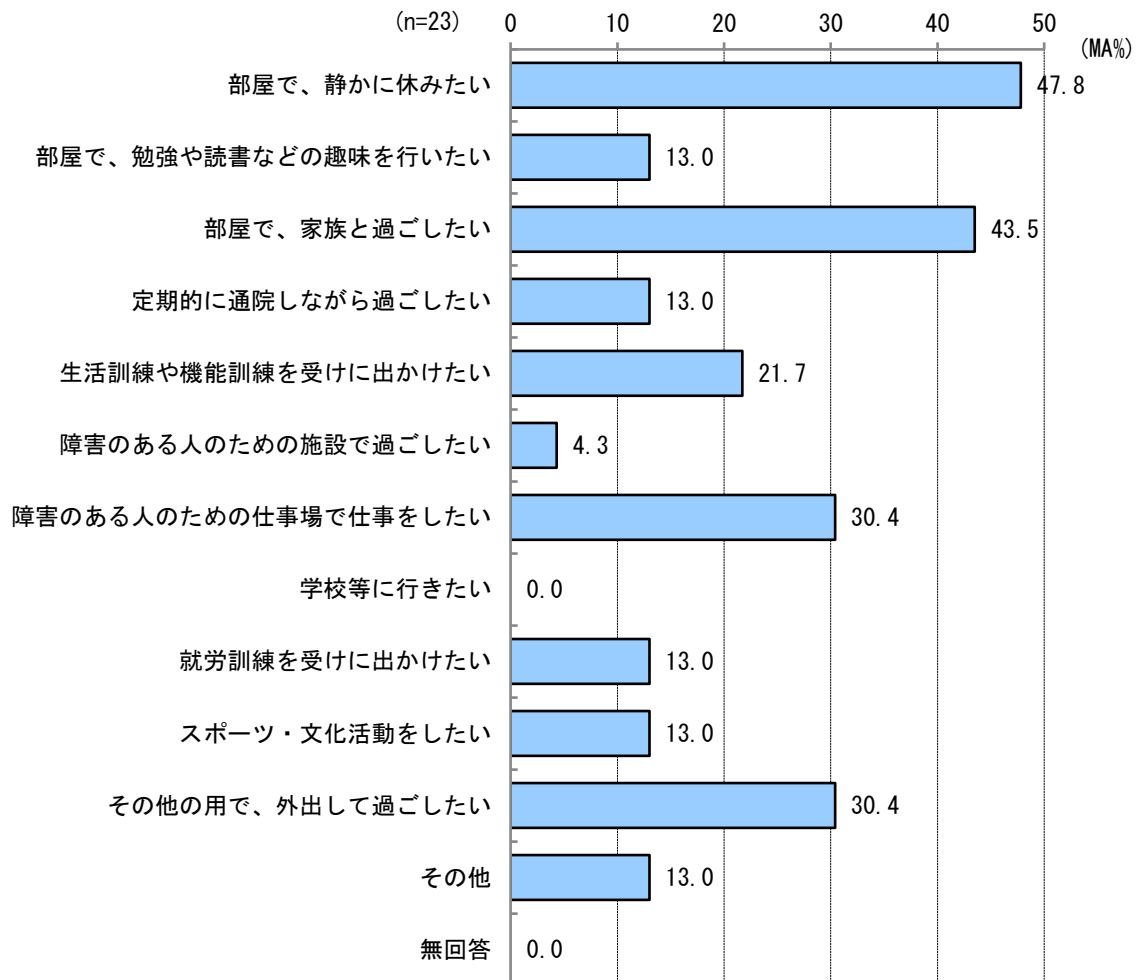
## (10) 日ごろの昼間の過ごし方への希望

\* 『(5) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

問 地域での暮らしでは、日ごろ昼間の時間はどのように過ごしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

### 施設入所者 (調査④)

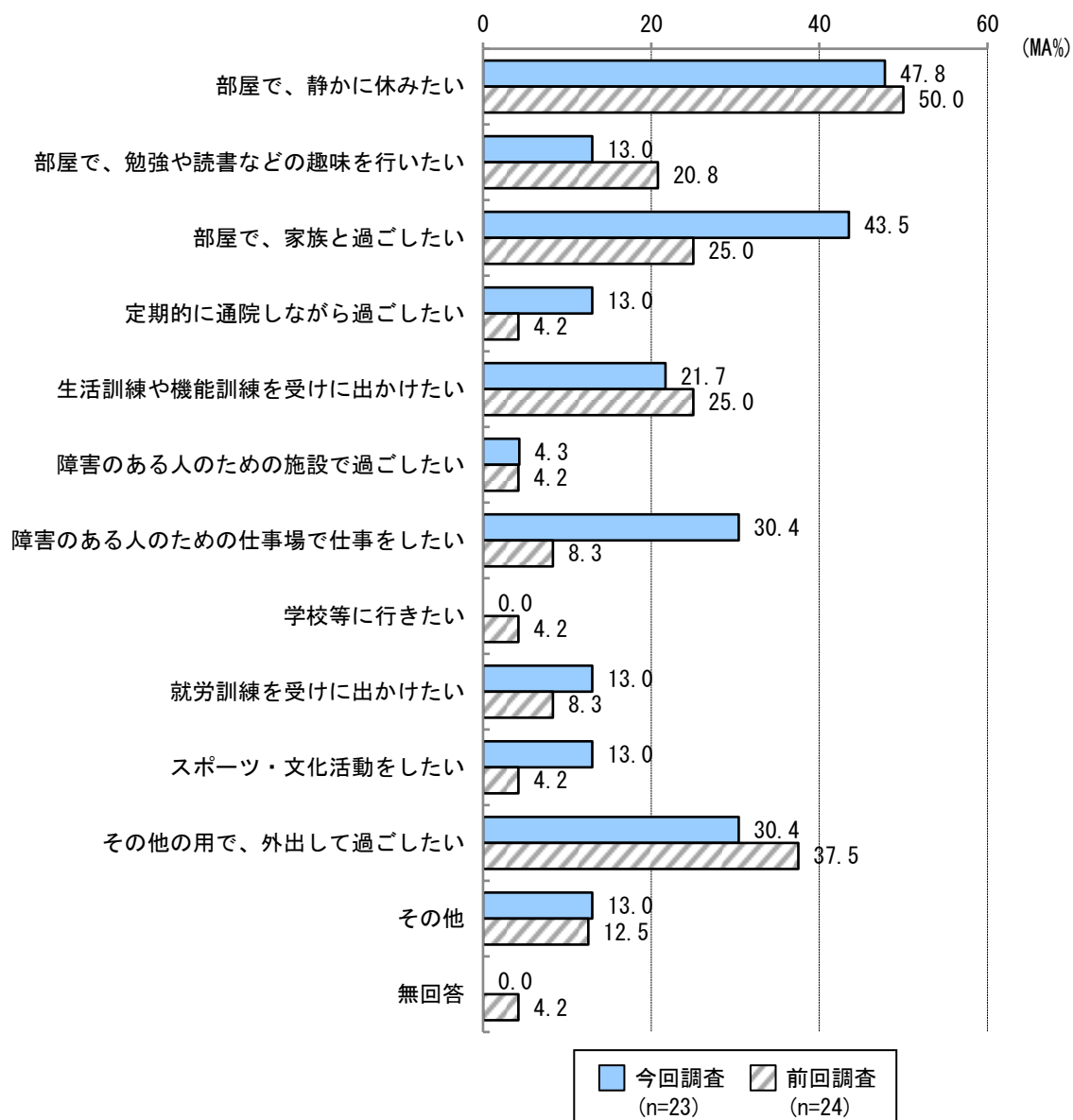
地域での暮らしでは、昼間の時間はどのように過ごしたいかについては、「部屋で、静かに休みたい」が47.8%で最も多く、次いで「部屋で、家族と過ごしたい」が43.5%、「障害のある人のための仕事場で仕事をしたい」と「その他の用で、外出して過ごしたい」がそれぞれ30.4%となっています。



《経年比較及びクロス集計表》

施設入所者（調査④）

前回調査と比較すると、母数が少ないため一概にはいえませんが、「障害のある人のための仕事場で仕事をしたい」の割合が前回調査より22.1ポイント、「部屋で、家族と過ごしたい」の割合が前回調査より18.5ポイント、それぞれ高くなっています。



※前回調査の「スポーツをしたい」は、今回調査では「スポーツ・文化活動をしたい」に変更しています。

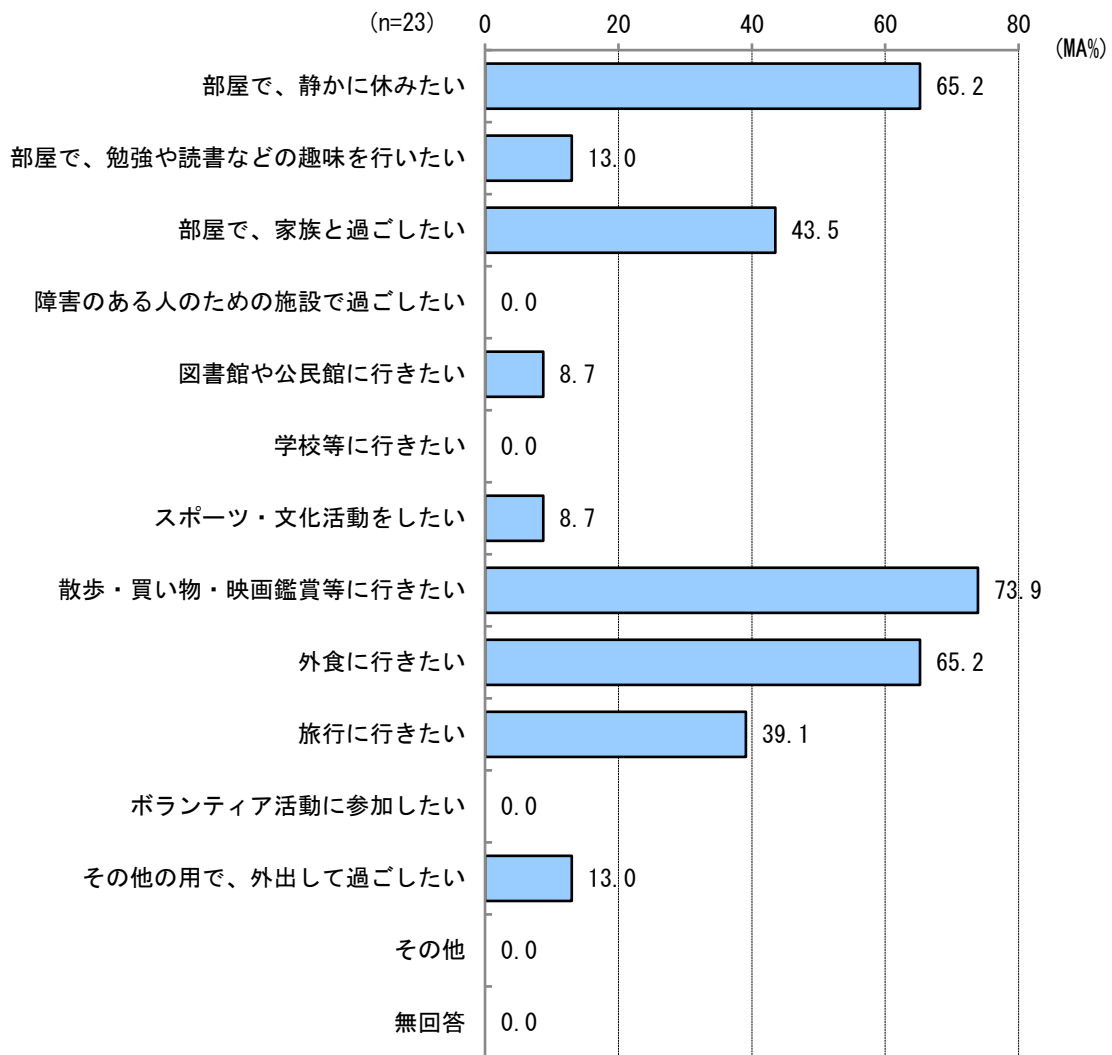
## (11) 平日の夜間や休みの日の過ごし方への希望

\* 『(5) 退所して地域で生活したいと思った経験の有無』で「1. はい」と回答された方

問 地域での暮らしでは、平日の夜間や休みの日などはどのように過ごしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

### 施設入所者（調査④）

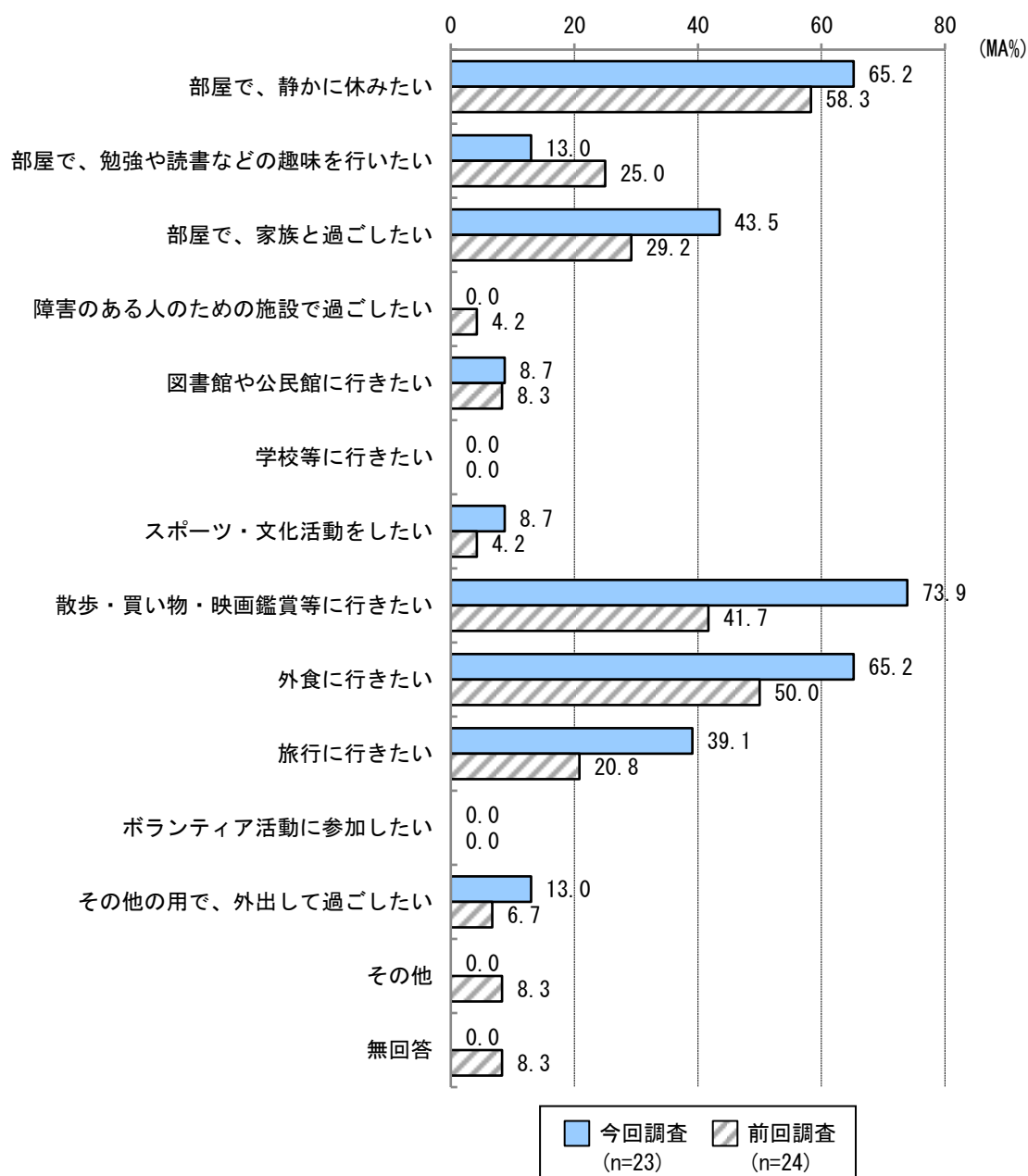
平日の夜間や休みの過ごし方への希望については、「散歩・買い物・映画鑑賞等に行きたい」が73.9%で最も多く、次いで「部屋で、静かに休みたい」と「外食に行きたい」がそれぞれ65.2%、「部屋で、家族と過ごしたい」が43.5%となっています。



《経年比較及びクロス集計表》

施設入所者（調査④）

前回調査と比較すると、母数が少ないため一概にはいえませんが、「散歩・買い物・映画鑑賞等に行きたい」の割合が前回調査より32.2ポイント、「旅行に行きたい」の割合が前回調査より18.3ポイント、「外食に行きたい」の割合が前回調査より15.2ポイント、それぞれ高くなっています。



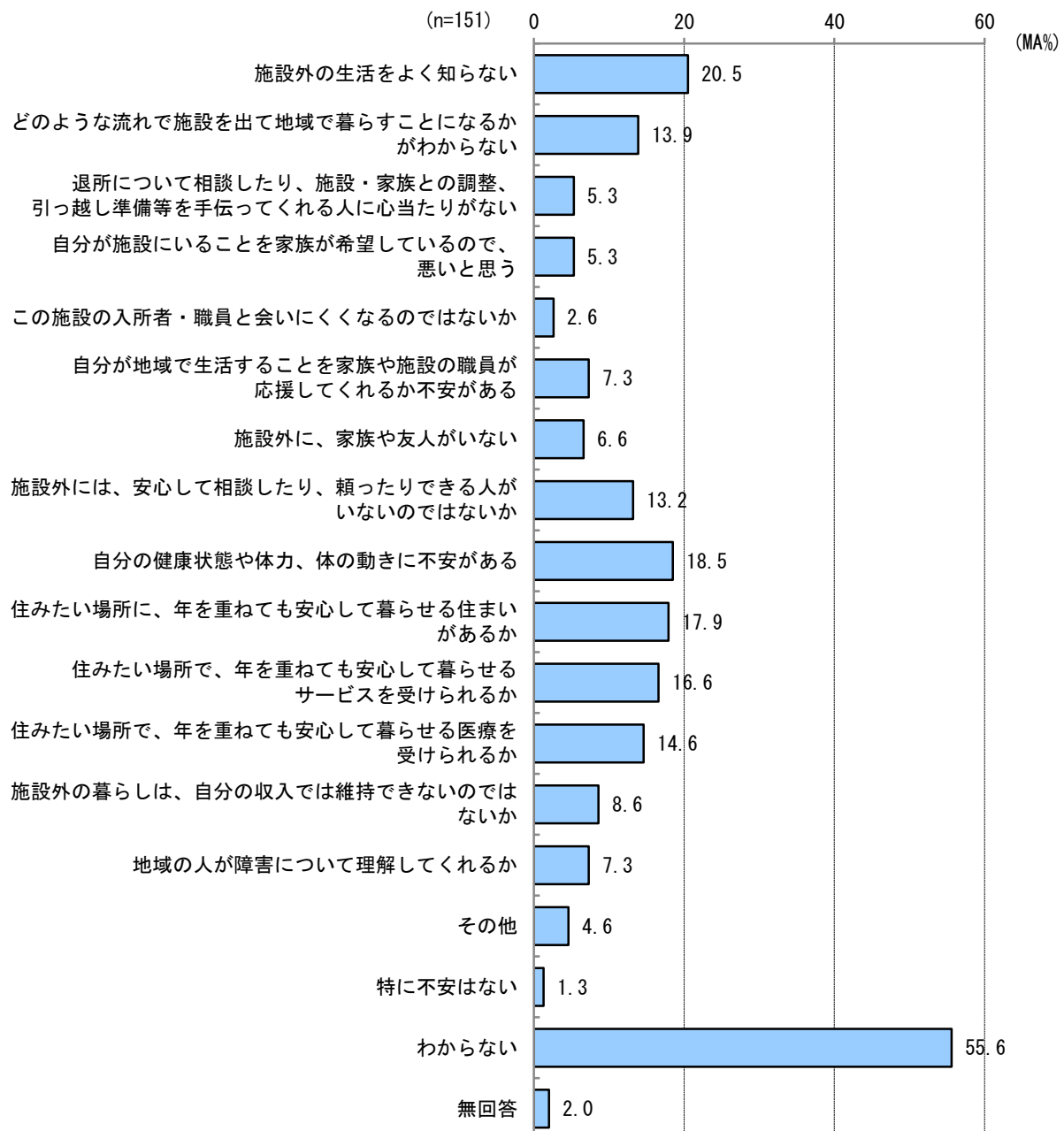
※前回調査の「スポーツをしたい」は、今回調査では「スポーツ・文化活動をしたい」に変更しています。

## (12) 地域での生活に不安に思うこと

問 施設を退所して地域で生活することについて、あなたが不安に思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

### 施設入所者（調査④）

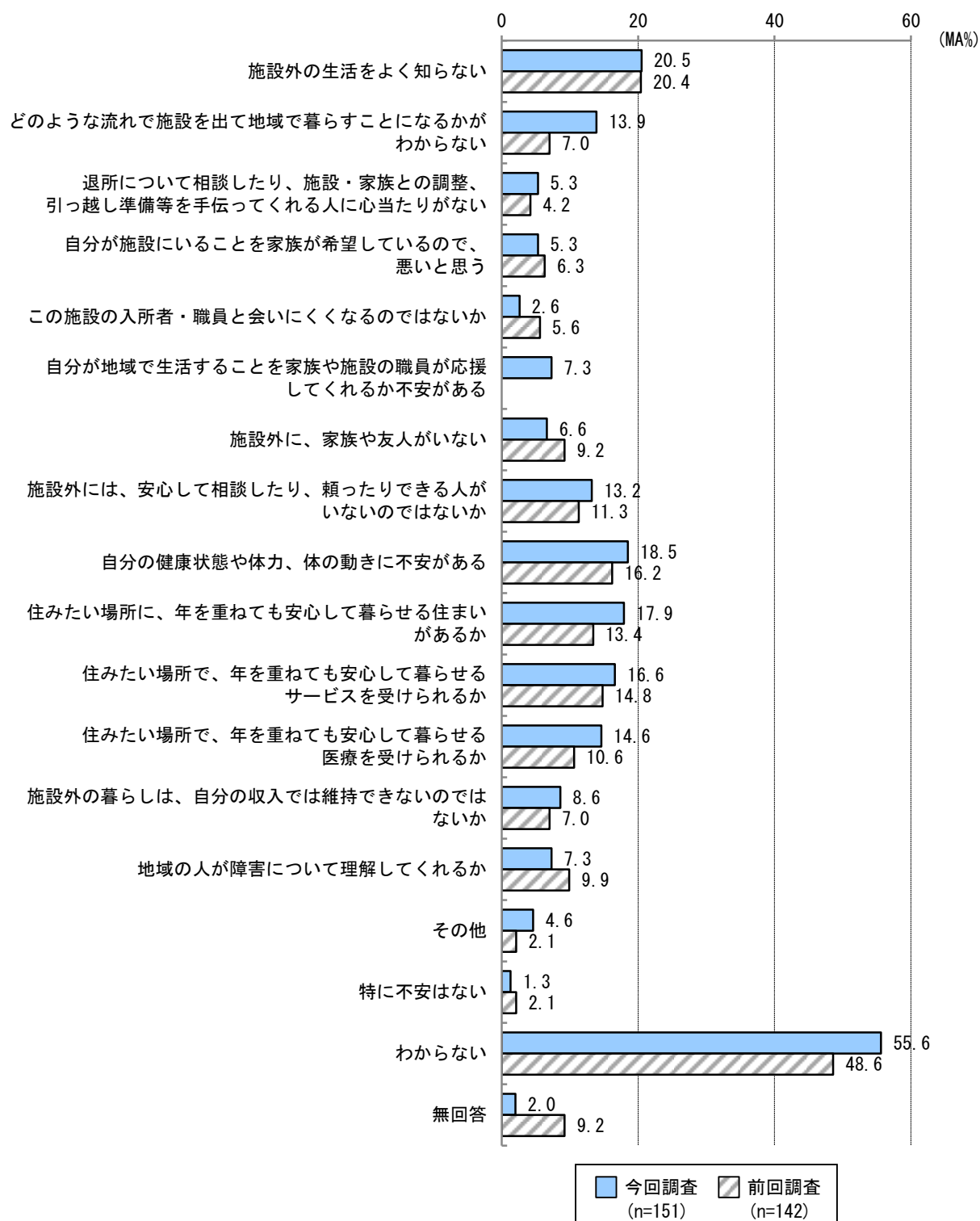
退所して地域での生活に不安に思うことについては、「施設外の生活をよく知らない」が20.5%で最も多く、次いで「自分の健康状態や体力、体の動きに不安がある」が18.5%、「住みたい場所に、年を重ねても安心して暮らせる住まいがあるか」が17.9%となっています。一方で、「わからない」が55.6%と半数以上を占めています。



《経年比較及びクロス集計表》

施設入所者（調査④）

前回調査と比較すると、「どのような流れで施設を出て地域で暮らすことになるかがわからない」の割合が前回調査より6.9ポイント高くなっています。



※「自分が地域で生活することを家族や施設の職員が応援してくれるか不安がある」は今回調査の新規項目です。

障害種別でみると、「自分が施設にいることを家族が希望しているのに、悪いと思う」と「施設外の暮らしは、自分の収入では維持できないのではないか」の割合は身体障害が知的障害に比べてそれぞれ5.5ポイント高くなっています。

入所年数別でみると、「施設外の生活をよく知らない」は20年以上（26.4%）の人で最も高く、「施設外には、安心して相談したり、頼ったりできる人がいないのではないか」、「自分の健康状態や体力、体の動きに不安がある」、「施設外の暮らしは、自分の収入では維持できないのではないか」は5年未満が5年以上の人に比べて10ポイント以上高くなっています。

	サンプル数	施設外の生活をよく知らない	どのような流れで施設を出て地域で暮らすことになるかがわからない	退所について相談したり、施設・家族との調整が難しい	自分が施設にいることを家族が希望しているのに、悪いと思う	この施設の入所者・職員と会いたくない	自分が地域で生活することを家族や施設の職員が応援してくれるか不安がある	施設外に、家族や友人がいない	施設外には、安心して相談したり、頼ったりできる人がいないのではないか	自分の健康状態や体力、体の動きに不安がある	暮らしたい場所に、年を重ねても安心して暮らせる住まいがあるか	暮らしたい場所で、年を重ねても安心して暮らせるサービスを受けられるか	住みたい場所で、年を重ねても安心して暮らせる医療を受けられるか	施設外の暮らしは、自分の収入では維持できないのではないか	地域の人が障害について理解してくれるか	その他	特に不安はない	わからない	無回答	
全体	151	20.5	13.9	5.3	5.3	2.6	7.3	6.6	13.2	18.5	17.9	16.6	14.6	8.6	7.3	4.6	1.3	55.6	2.0	
年齢別	18～39歳	23	4.3	13.0	-	-	4.3	8.7	-	8.7	8.7	17.4	13.0	-	8.7	4.3	-	60.9	4.3	
	40～64歳	101	18.8	11.9	6.9	5.0	3.0	5.9	4.0	11.9	16.8	13.9	15.8	12.9	6.9	5.9	5.0	2.0	57.4	2.0
	65歳以上	26	42.3	23.1	3.8	11.5	-	11.5	23.1	23.1	34.6	34.6	23.1	23.1	23.1	11.5	3.8	-	42.3	-
障害種別	身体障害	63	22.2	12.7	4.8	7.9	-	9.5	6.3	11.1	19.0	17.5	12.7	12.7	11.1	3.2	4.8	3.2	50.8	1.6
	知的障害	124	19.4	13.7	4.8	2.4	3.2	5.6	7.3	11.3	15.3	15.3	15.3	12.9	5.6	8.1	4.0	0.8	59.7	2.4
	その他の障害	14	7.1	7.1	-	7.1	14.3	7.1	-	21.4	21.4	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	-	-	57.1	-
入所年数別	5年未満	30	23.3	20.0	13.3	6.7	3.3	16.7	6.7	23.3	30.0	23.3	23.3	20.0	23.3	13.3	6.7	3.3	43.3	3.3
	5～20年未満	49	10.2	6.1	2.0	4.1	4.1	2.0	2.0	10.2	12.2	18.4	14.3	20.4	6.1	6.1	6.1	-	63.3	-
	20年以上	72	26.4	16.7	4.2	5.6	1.4	6.9	9.7	11.1	18.1	15.3	15.3	8.3	4.2	5.6	2.8	1.4	55.6	2.8
退所の意向別	はい	23	34.8	26.1	13.0	8.7	8.7	17.4	8.7	26.1	43.5	34.8	34.8	30.4	30.4	13.0	-	4.3	21.7	-
	いいえ・わからない	128	18.0	11.7	3.9	4.7	1.6	5.5	6.3	10.9	14.1	14.8	13.3	11.7	4.7	6.3	5.5	0.8	61.7	2.3

※   は全体より10ポイント以上、  は全体より5ポイント以上高い。

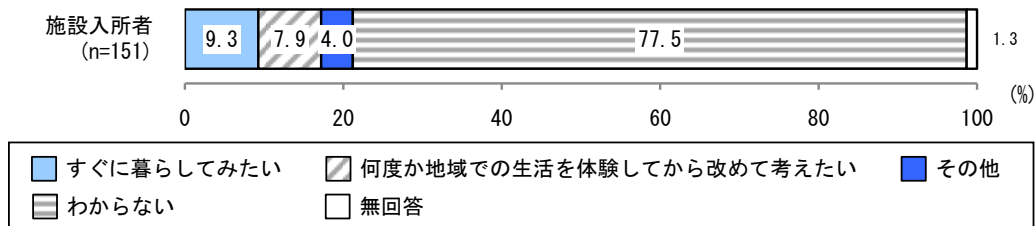
単位：%

### (13) 地域生活への移行等に対する意識

問 地域生活への不安が解消されたら、すぐに地域で暮らしてみたいですか。(どれか1つに○)

#### 施設入所者 (調査④)

地域生活への不安が解消されたら、すぐに地域で暮らしてみたいかについては、「わからない」が77.5%を占めており、「すぐに暮らしてみたい」が9.3%、「何度か地域での生活を体験してから改めて考えたい」が7.9%、「その他」が4.0%となっています。

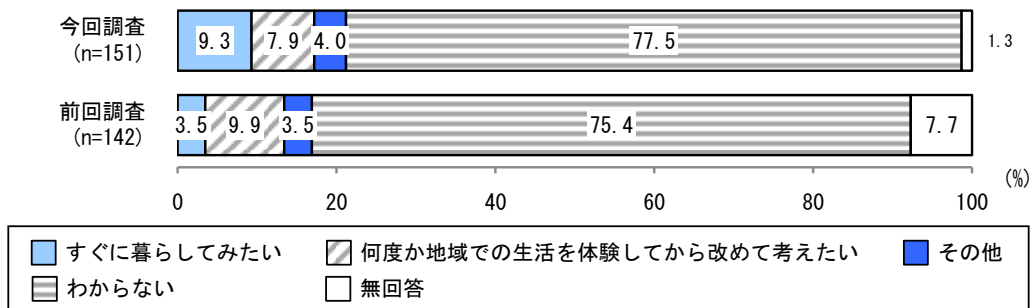


#### 《経年比較及びクロス集計表》

#### 施設入所者 (調査④)

前回調査と比較すると、「すぐに暮らしてみたい」の割合が前回調査より5.8ポイント高くなっています。

入所年数別でみると、「すぐに暮らしてみたい」と「何度か地域での生活を体験してから改めて考えたい」の割合はいずれも20年以上で最も低くなっています。



		サンプル数	すぐに暮らしてみたい (%)	何度か地域での生活を体験してから改めて考えたい (%)	その他 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
全体		151	9.3	7.9	4.0	77.5	1.3
年齢別	18～39歳	23	8.7	17.4	-	73.9	-
	40～64歳	101	9.9	5.9	4.0	78.2	2.0
	65歳以上	26	7.7	7.7	7.7	76.9	-
障害種別	身体障害	63	7.9	7.9	-	84.1	-
	知的障害	124	8.1	7.3	4.8	78.2	1.6
	その他の障害	14	21.4	7.1	-	71.4	-
入所年数別	5年未満	30	10.0	10.0	6.7	73.3	-
	5～20年未満	49	10.2	10.2	2.0	77.6	-
	20年以上	72	8.3	5.6	4.2	79.2	2.8
退所の意向別	はい	23	56.5	21.7	-	21.7	-
	いいえ・わからない	128	0.8	5.5	4.7	87.5	1.6

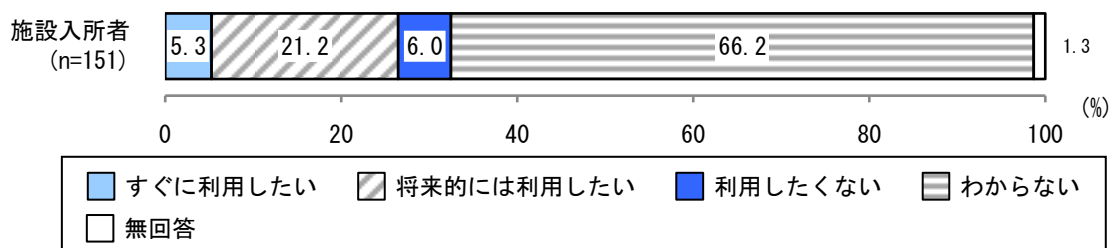
※ ■ は全体より10ポイント以上、■ は全体より5ポイント以上高い。 単位：%

## (14) 地域移行支援の利用意向

問 地域移行支援（退所について相談したり、施設・家族との調整、引っ越し準備等を手伝ったり、施設外の暮らしの相談にのるサービス）を利用したいと思いますか。（どれか1つに○）

### 施設入所者（調査④）

地域移行支援の利用意向については、「わからない」が66.2%で最も多く、次いで「将来的には利用したい」が21.2%、「利用したくない」が6.0%、「すぐに利用したい」が5.3%となっています。



### Ⅲ 調査結果〔事業所調査〕

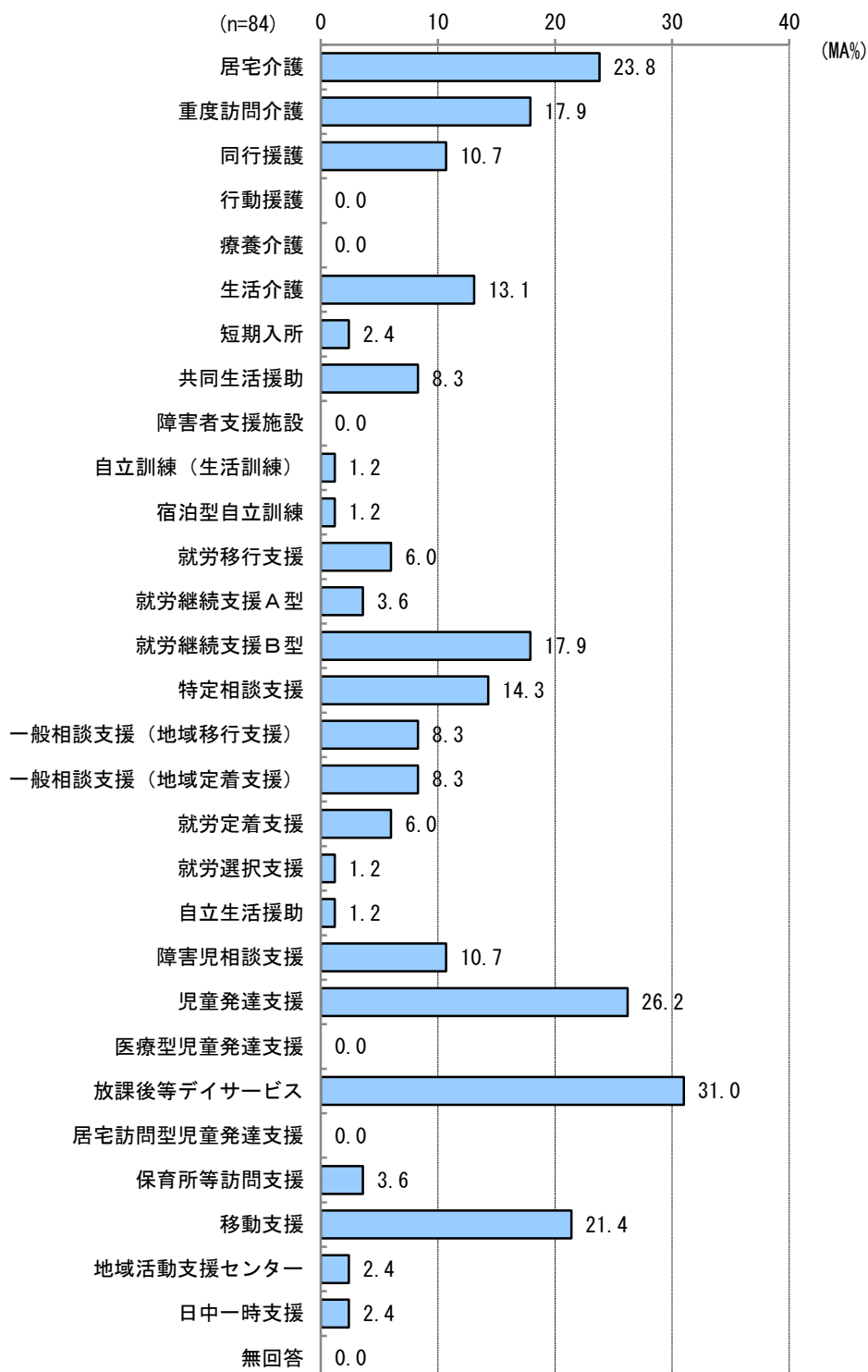
#### 1 事業所について

##### (1) 実施している障害福祉サービス

問 貴事業所が実施している障害福祉サービスを教えてください。

【あてはまる番号すべてに○】

実施している障害福祉サービスは、「放課後等デイサービス」が31.0%で最も多く、次いで「児童発達支援」が26.2%、「居宅介護」が23.8%、「移動支援」が21.4%となっています。



## (2) 定員数、利用者数、利用者数の見込み

問 貴事業所の定員数、利用者数（令和8年1月1日時点）をサービスの種別ごとに教えてください。また、サービスの種別ごとに、今後の利用者数がどのように変化すると見込んでいるかを教えてください。

### ① 定員数と利用者数

定員数は、「放課後等デイサービス」が328人で最も多く、次いで「就労継続支援B型」が280人、「生活介護」が239人となっています。平均では、「地域活動支援センター」が90.0人で最も多く、次いで「生活介護」が23.9人、「宿泊型自立訓練」と「就労継続支援A型」がそれぞれ20.0人となっています。

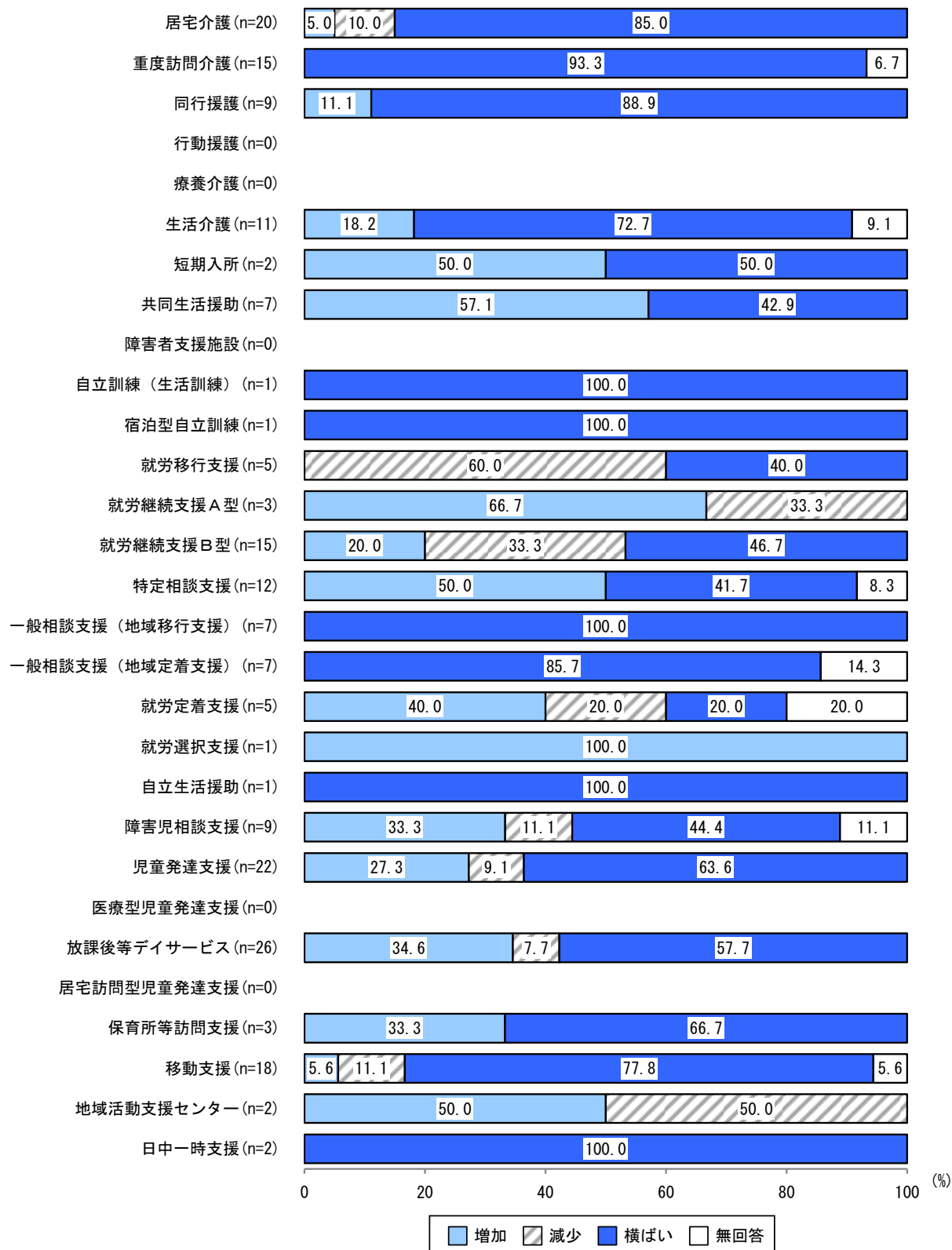
利用者数は、「放課後等デイサービス」が754人で最も多く、次いで「就労継続支援B型」が622人、「特定相談支援」が400人となっています。平均では、「短期入所」が79.5人で最も多く、次いで「日中一時支援」が49.0人、「就労継続支援B型」が41.5人となっています。

(単位：人)

	定員数		利用者数	
	全体（実数）	平均人数	全体（実数）	平均人数
居宅介護			242	12.1
重度訪問介護			12	0.9
同行援護			26	2.9
行動援護			-	-
療養介護	-	-	-	-
生活介護	239	23.9	261	26.1
短期入所			159	79.5
共同生活援助	51	7.3	41	5.9
障害者支援施設	-	-	-	-
自立訓練（生活訓練）	12	12.0	18	18.0
宿泊型自立訓練	20	20.0	17	17.0
就労移行支援	80	16.0	72	14.4
就労継続支援A型	60	20.0	45	15.0
就労継続支援B型	280	18.7	622	41.5
特定相談支援			400	36.4
一般相談支援（地域移行支援）			1	0.1
一般相談支援（地域定着支援）			0	0.0
就労定着支援			42	10.5
就労選択支援			0	0.0
自立生活援助			7	7.0
障害児相談支援			96	12.0
児童発達支援	225	10.2	300	14.3
医療型児童発達支援	-	-	-	-
放課後等デイサービス	328	12.6	754	29.0
居宅訪問型児童発達支援			-	-
保育所等訪問支援			5	1.7
移動支援			202	11.9
地域活動支援センター	90	90.0	15	15.0
日中一時支援			98	49.0

## ② 利用者数の見込み

今後の利用者数がどのように変化すると見込んでいるかについては、「増加」が最も多いサービスは「共同生活援助」（57.1%）、「就労継続支援A型」（66.7%）、「特定相談支援」（50.0%）、「就労定着支援」（40.0%）、「就労選択支援」（100.0%）となっています。



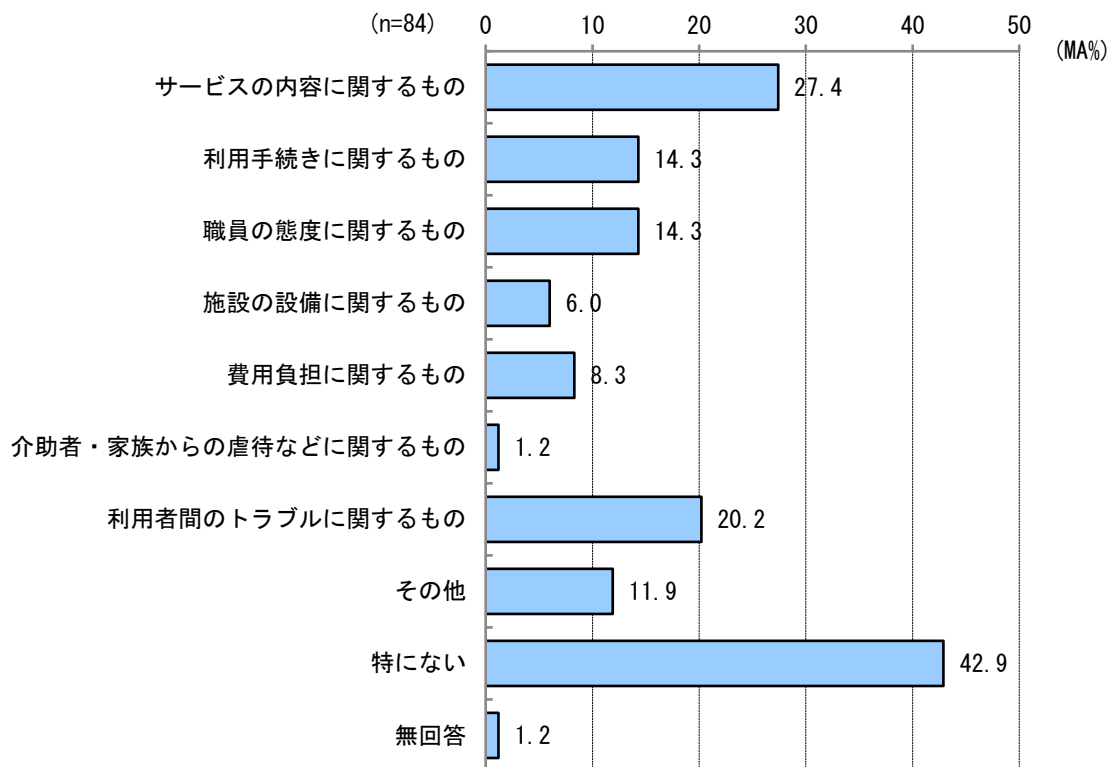
※0.0%は省略しています。

### (3) 利用者からの苦情・相談

問 利用者からの苦情・相談についてよくあるものを教えてください。

【あてはまる番号すべてに○】

利用者からよくある苦情・相談については、「サービスの内容に関するもの」が27.4%で最も多く、次いで「利用者間のトラブルに関するもの」が20.2%、「利用手続きに関するもの」、「職員の態度に関するもの」がそれぞれ14.3%となっています。

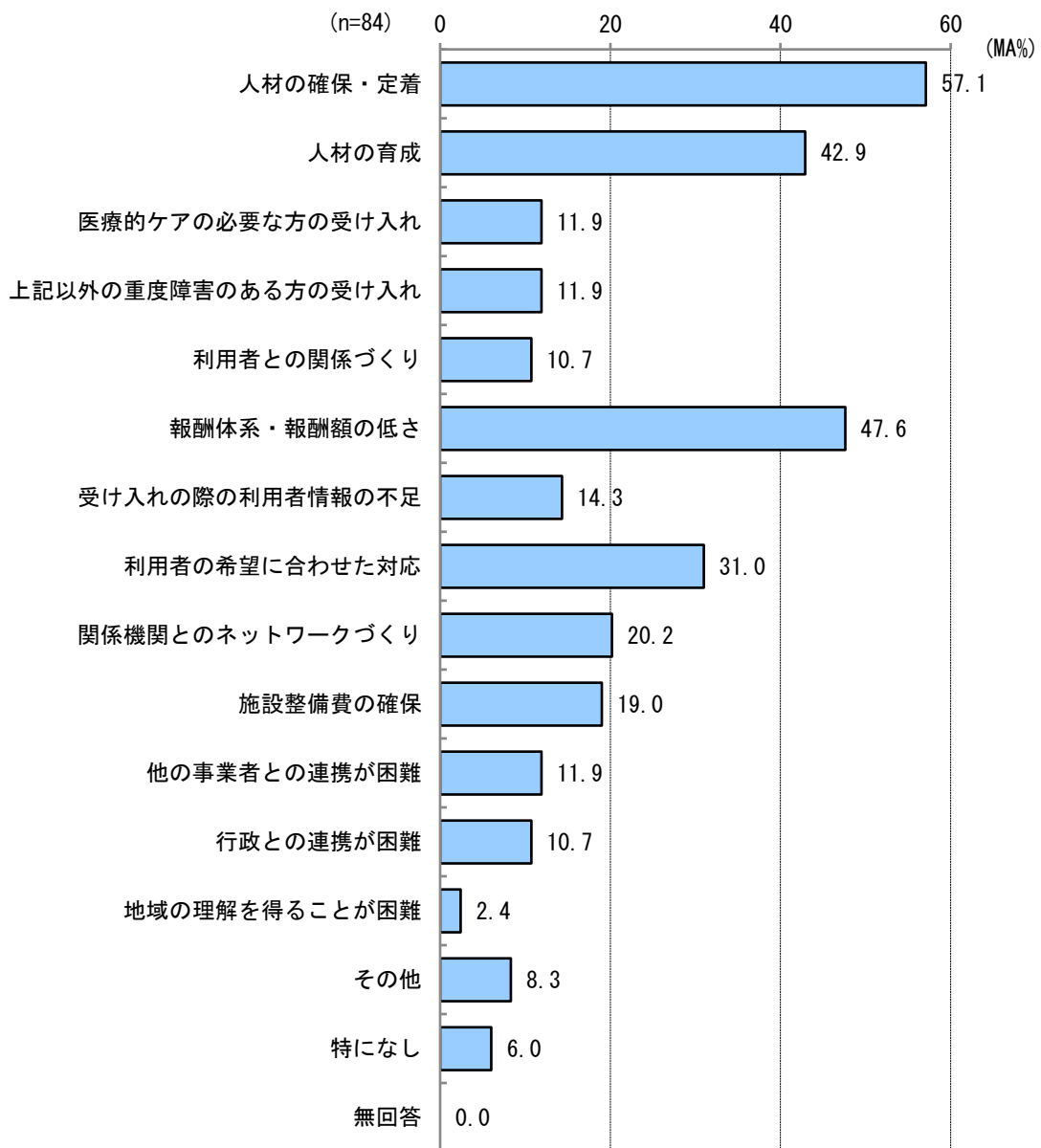


#### (4) 運営における課題

問 貴事業所の運営において、課題となっていることはありますか。

【あてはまる番号すべてに○】

運営における課題については、「人材の確保・定着」が57.1%で最も多く、次いで「報酬体系・報酬額の低さ」が47.6%、「人材の育成」が42.9%となっています。

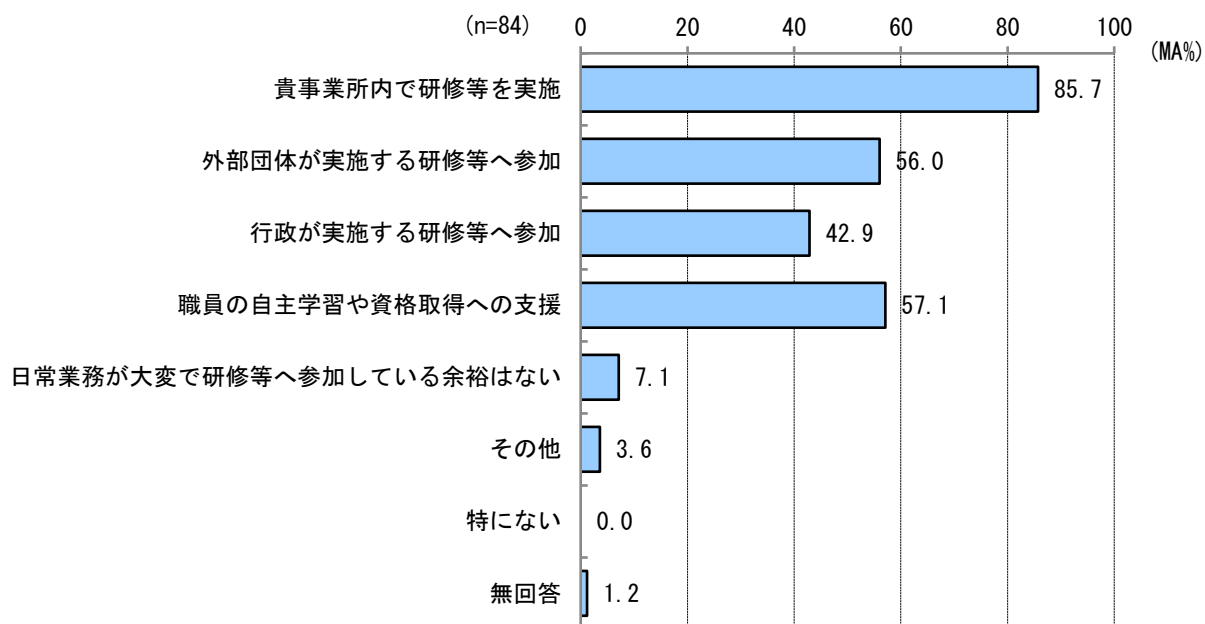


## (5) 人材育成のための取り組み

問 貴事業所では、人材育成のための取組を行っていますか。

【あてはまる番号すべてに○】

人材育成のための取り組みについては、「貴事業所内で研修等を実施」が85.7%で最も多く、次いで「職員の自主学習や資格取得への支援」が57.1%、「外部団体が実施する研修等へ参加」が56.0%、「行政が実施する研修等へ参加」が42.9%となっています。



## (6) 職員の状況

問 貴事業所の「職員数（常勤職員・非常勤職員）」（令和8年1月1日時点）、職員の状況、不足している職種について教えてください。

### ① 職員数（常勤職員・非常勤職員）

職員数は、常勤職員では、“⑥児童系”が141人で最も多く、次いで“③就労系”が97人、“④訪問系”が87人となっています。

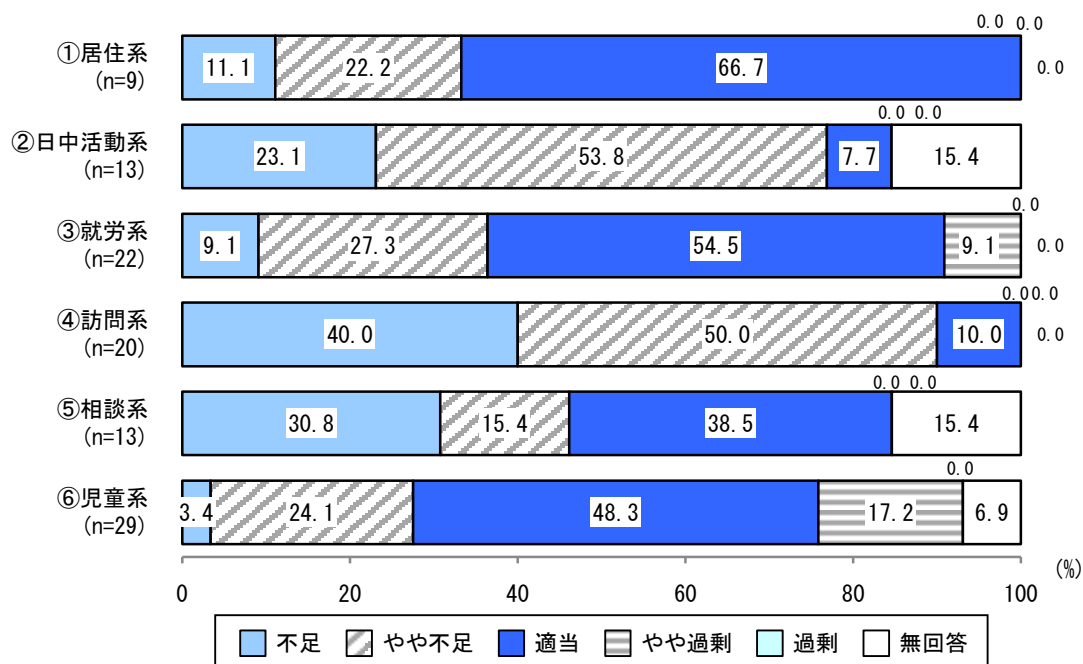
非常勤職員では、“④訪問系”が160人で最も多く、次いで“⑥児童系”が94人、“①居住系”が65人となっています。

(単位：人)

	常勤職員		非常勤職員	
	全体（実数）	平均	全体（実数）	平均
①居住系	25	3.1	65	8.1
②日中活動系	73	7.3	45	5.0
③就労系	97	4.4	34	1.7
④訪問系	87	4.8	160	8.9
⑤相談系	34	3.4	8	1.3
⑥児童系	141	5.0	94	3.6

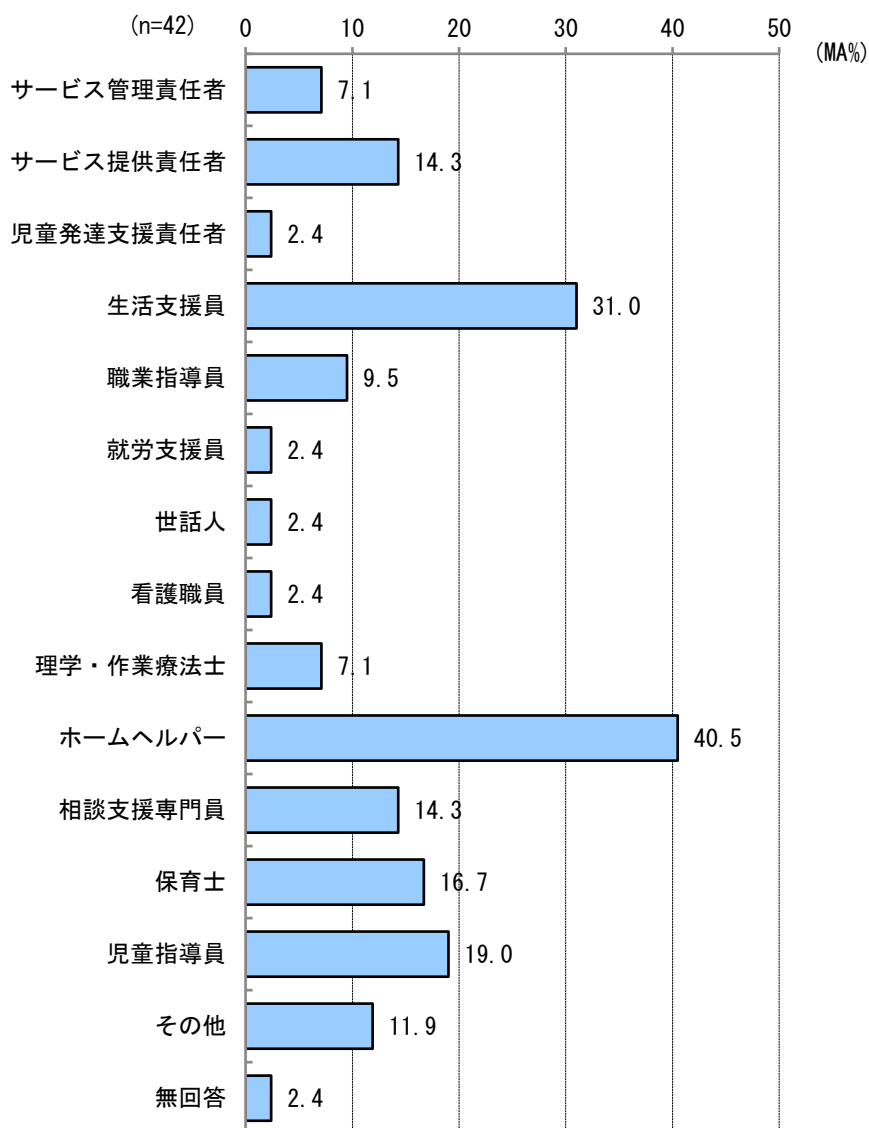
### ② 職員の状況

職員の状況をみると、「不足」の割合は“④訪問系”が40.0%で最も高く、次いで“⑤相談系”が30.8%となっており、「やや不足」をあわせた『不足』の割合は“④訪問系”が90.0%で最も高く、次いで“②日中活動系”が76.9%となっています。



### ③ 不足している職種

職員の状況が不足していると回答した人に、不足している職種についてたずねると、「ホームヘルパー」が40.5%で最も多く、次いで「生活支援員」が31.0%、「児童指導員」が19.0%、「保育士」が16.7%となっています。

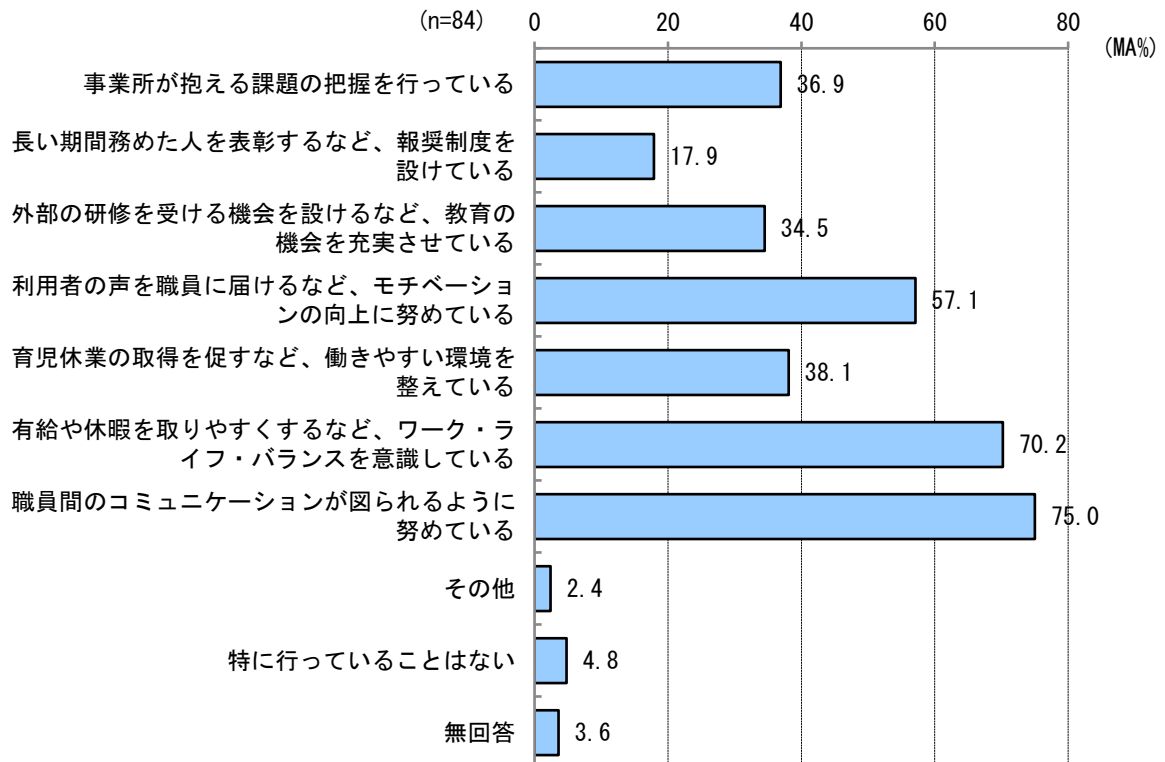


## (7) 職員の離職防止のために行っていること

問 貴事業所では、職員の離職を防ぐために行っていることはありますか。

【あてはまる番号すべてに○】

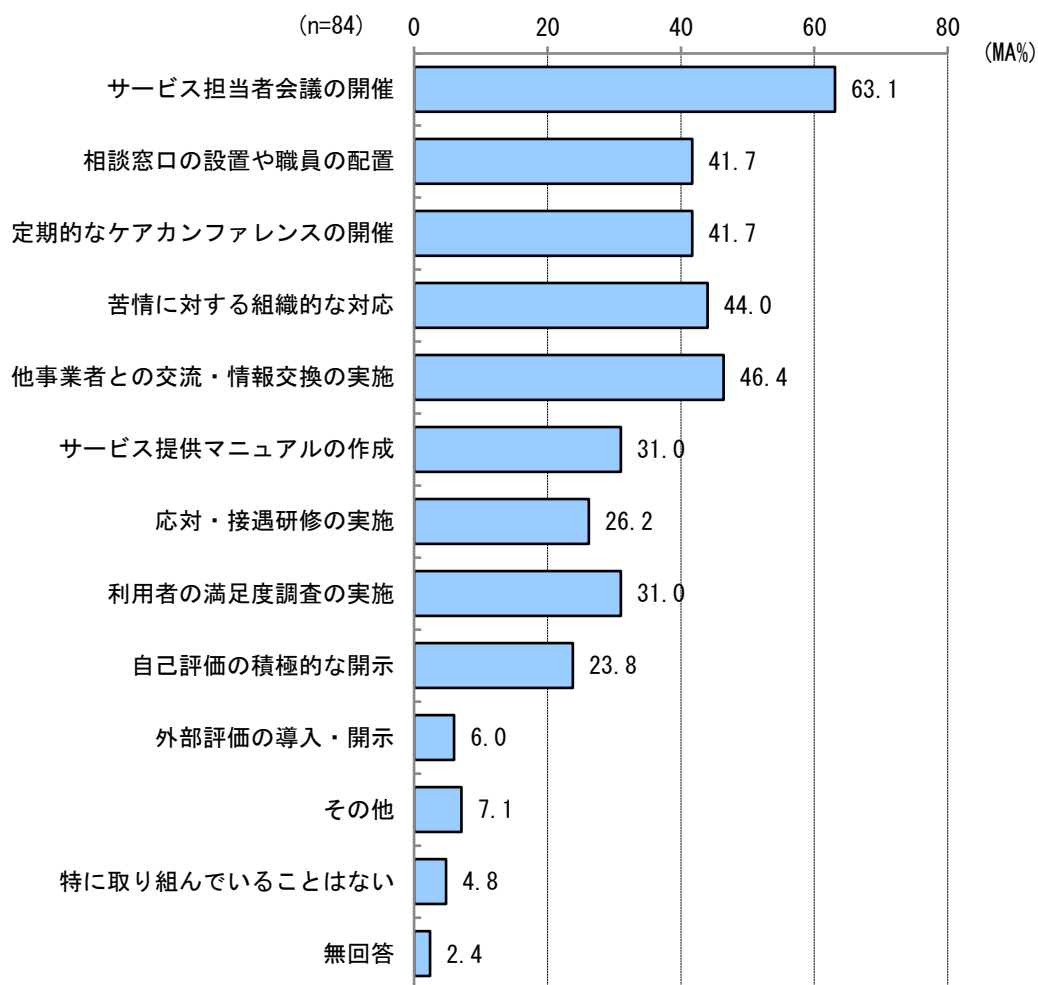
職員の離職防止のために行っていることについては、「職員間のコミュニケーションが図られるように努めている」が75.0%で最も多く、次いで「有給や休暇を取りやすくするなど、ワーク・ライフ・バランスを意識している」が70.2%、「利用者の声を職員に届けるなど、モチベーションの向上に努めている」が57.1%となっています。



## (8) サービスの質の向上のための取り組み

問 貴事業所では、サービスの質の向上のために、どのようなことに取り組んでいますか。  
【あてはまる番号すべてに○】

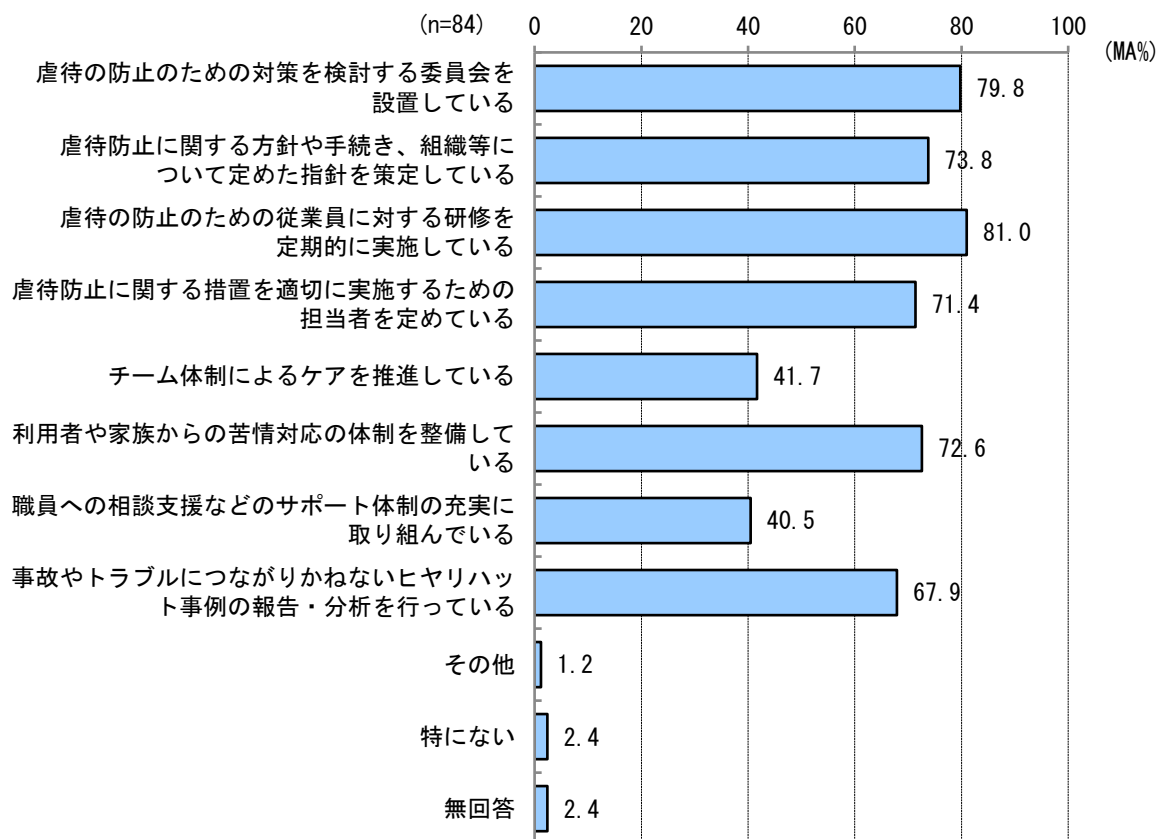
サービスの質の向上のための取り組みについては、「サービス担当者会議の開催」が63.1%で最も多く、次いで「他事業者との交流・情報交換の実施」が46.4%、「苦情に対する組織的な対応」が44.0%となっています。



## (9) 利用者の権利擁護のための取り組み

問 貴事業所で職員による利用者への虐待・ハラスメント防止など、利用者の権利擁護について、取り組んでいることは何ですか。【あてはまる番号すべてに○】

利用者の権利擁護のための取り組みについては、「虐待の防止のための従業員に対する研修を定期的実施している」が81.0%で最も多く、次いで「虐待の防止のための対策を検討する委員会を設置している」が79.8%、「虐待防止に関する方針や手続き、組織等について定めた指針を策定している」が73.8%、「虐待防止に関する措置を適切に実施するための担当者を定めている」が71.4%、「利用者や家族からの苦情対応の体制を整備している」が72.6%、「職員への相談支援などのサポート体制の充実に取り組んでいる」が40.5%、「事故やトラブルにつながりかねないヒヤリハット事例の報告・分析を行っている」が67.9%となっています。



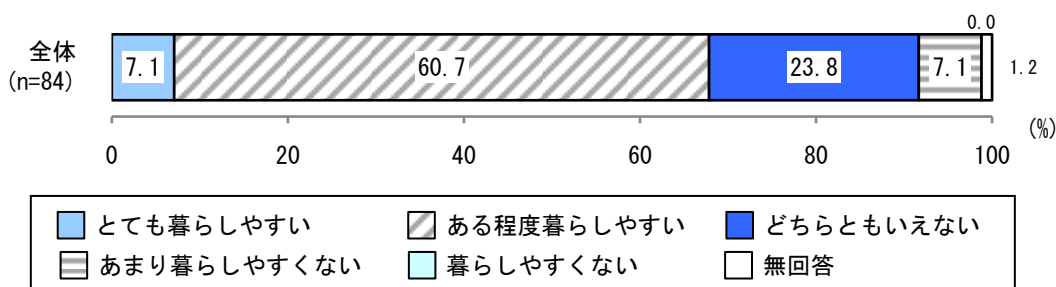
## 2 障害のある人の暮らしについて

### (1) 障害のある人にとっての豊中市の暮らしやすさ

問 豊中市は、障害のある人にとって暮らしやすいと思いますか。

【あてはまる番号1つに○】

障害のある人にとっての豊中市の暮らしやすさについては、「ある程度暮らしやすい」が60.7%で最も多く、次いで「どちらともいえない」が23.8%で、「とても暮らしやすい」と「ある程度暮らしやすい」をあわせた『暮らしやすい』の割合は67.8%となっています。

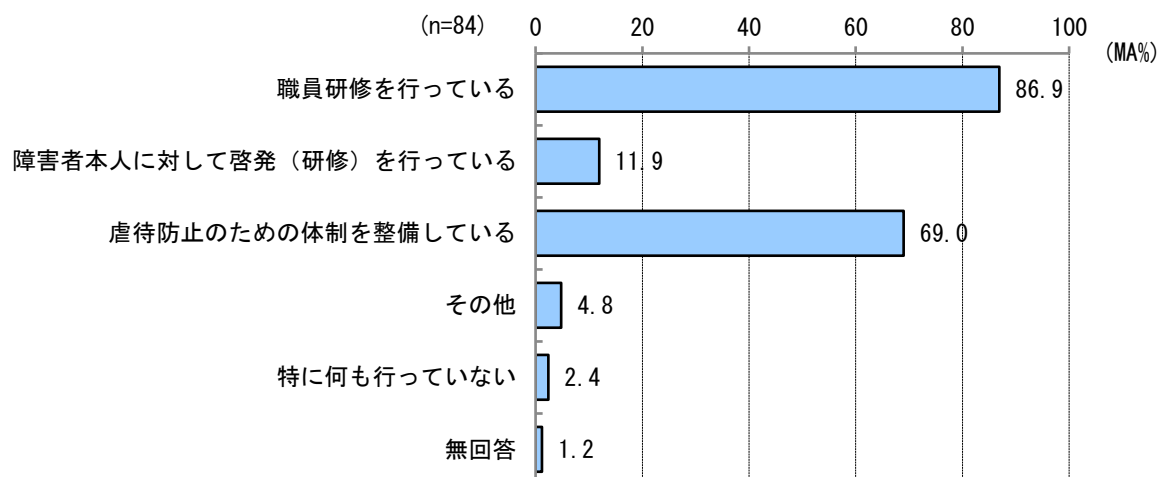


### (2) 障害者虐待防止に関する取り組み

問 普段から事業所内で障害者虐待防止に関する取組を行っていますか。

【あてはまる番号すべてに○】

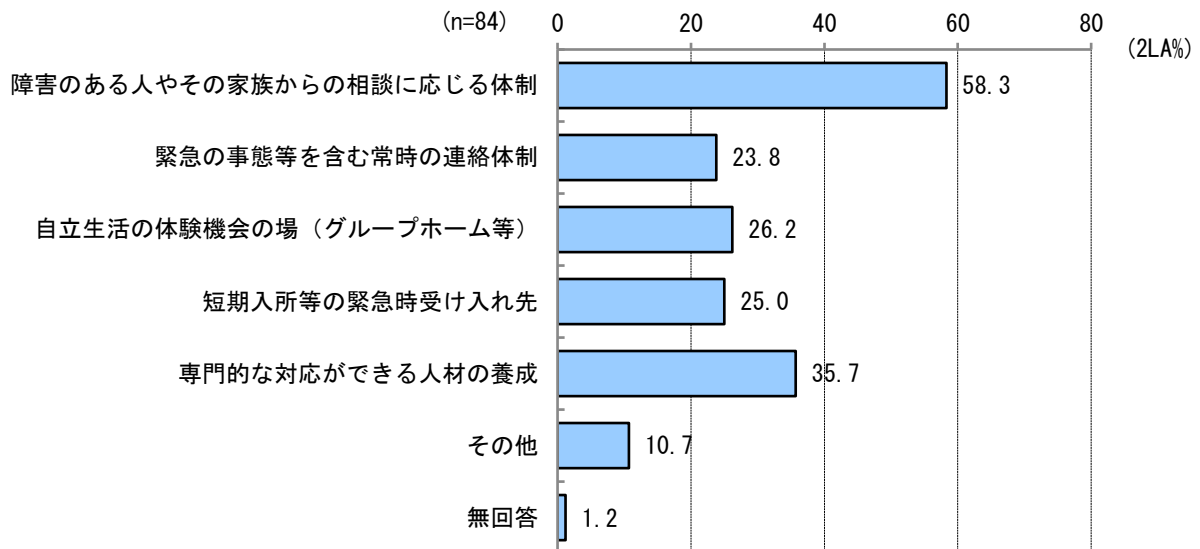
障害者虐待防止に関する取り組みについては、「職員研修を行っている」が86.9%で最も多く、次いで「虐待防止のための体制を整備している」が69.0%、「障害者本人に対して啓発（研修）を行っている」が11.9%となっています。



### (3) 障害のある人が豊中市で安心して暮らせるために必要な支援

問 障害のある人が、今後も豊中市で安心して暮らしていくために、特に必要と考える支援は何ですか。【〇は2つまで】

障害のある人が豊中市で安心して暮らせるために必要な支援については、「障害のある人やその家族からの相談に応じる体制」が58.3%で最も多く、次いで「専門的な対応ができる人材の養成」が35.7%、「自立生活の体験機会の場（グループホーム等）」が26.2%、「短期入所等の緊急時受け入れ先」が25.0%となっています。

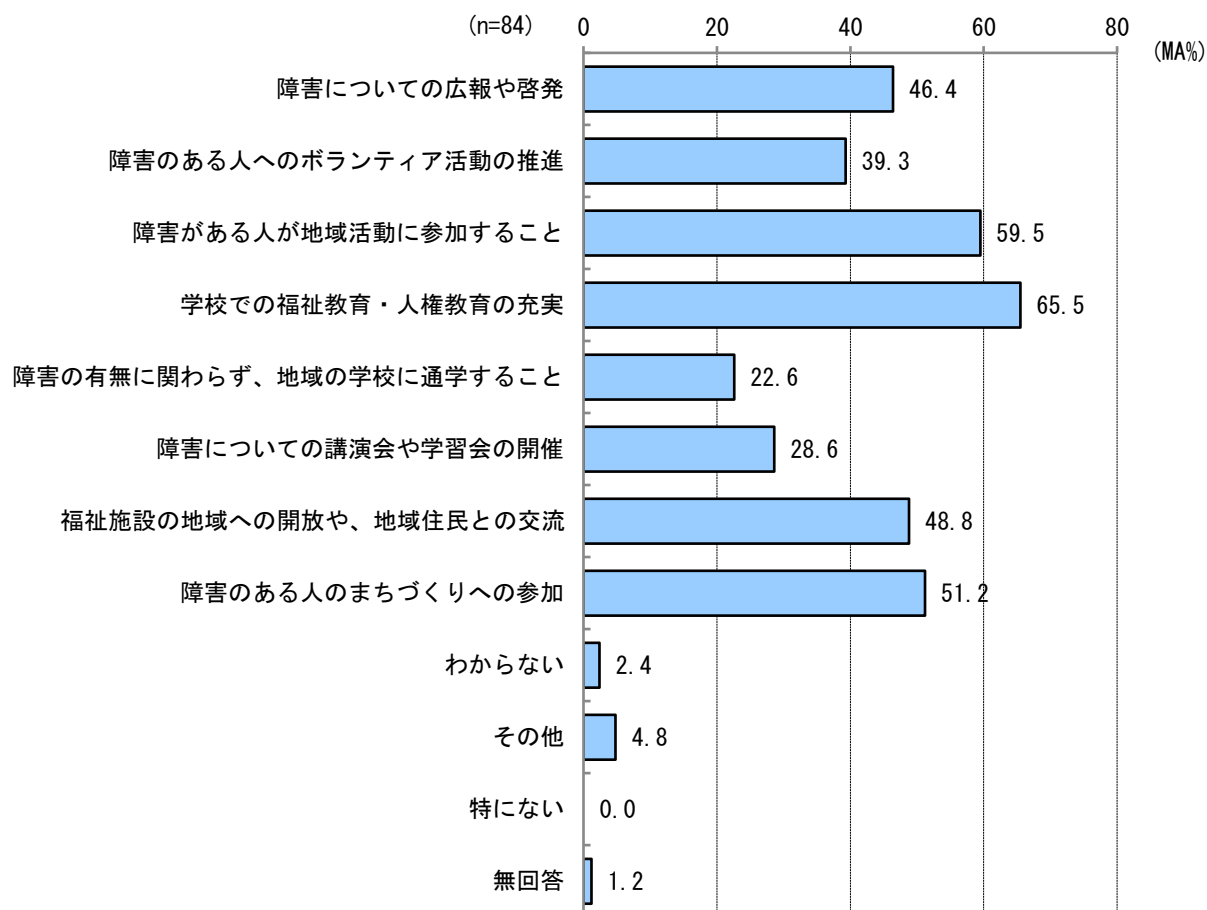


#### (4) 市民が障害のある人への理解を深めるために必要なこと

問 市民が障害のある人への理解を深めるためには、何が重要だと考えますか。

【あてはまる番号すべてに○】

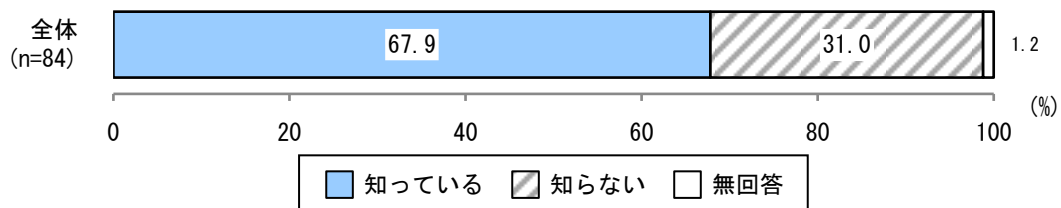
市民が障害のある人への理解を深めるために必要なことについては、「学校での福祉教育・人権教育の充実」が65.5%で最も多く、次いで「障害がある人が地域活動に参加すること」が59.5%、「障害のある人のまちづくりへの参加」が51.2%となっています。



## (5) 手話が言語であるという認識について

問 豊中市は、手話は言語であるという認識に基づき、手話言語の理解及び普及について総合的かつ計画的に施策を推進するため、豊中市手話言語アクションプランを策定していますが、手話は言語であると知っていますか。【あてはまる番号1つに○】

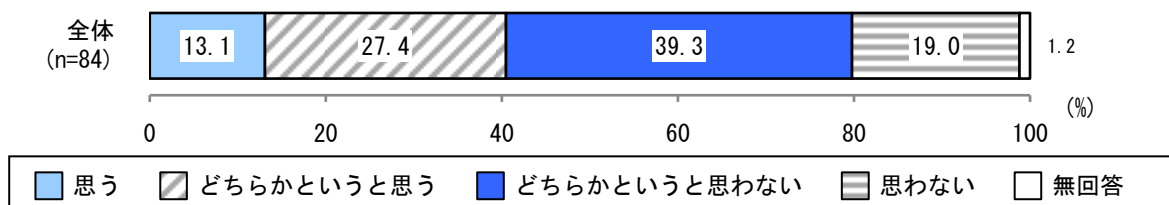
手話は言語であることの認知度は、「知っている」が67.9%、「知らない」が31.0%となっています。



## (6) 手話が言語であるという理解の浸透状況

問 「手話は言語である」という理解が市民に浸透してきていると思いますか。【あてはまる番号1つに○】

手話は言語であるという理解が浸透してきているかは、「どちらかというと思わない」が39.3%で最も多く、次いで「どちらかというと思う」が27.4%、「思わない」が19.0%で、「思う」と「どちらかというと思う」をあわせた『浸透してきている』は40.5%となっています。

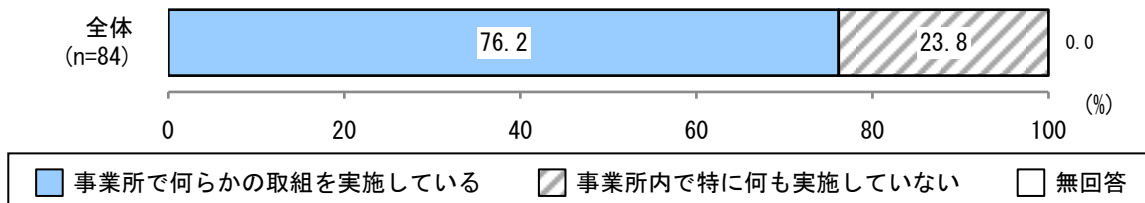


### 3 合理的配慮について

#### (1) 「合理的配慮の提供」の実施有無

問 貴事業所では、「合理的配慮の提供」を実施していますか。【あてはまる番号1つに○】

「合理的配慮の提供」の実施有無については、「事業所で何らかの取組を実施している」が76.2%、「事業所内で特に何も実施していない」が23.8%となっています。

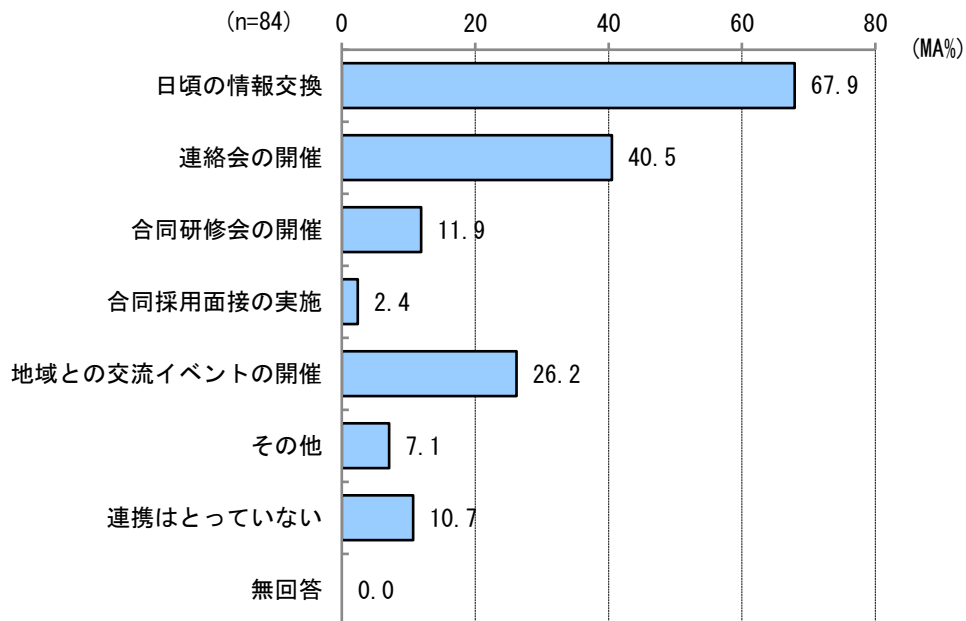


### 4 連携・協働について

#### (1) 他の事業所・団体との連携状況

問 貴事業所では、他の事業所・団体とどのようなことを連携していますか。【あてはまる番号すべてに○】

他の事業所・団体との連携状況については、「日頃の情報交換」が67.9%で最も多く、次いで「連絡会の開催」が40.5%、「地域との交流イベントの開催」が26.2%となっています。

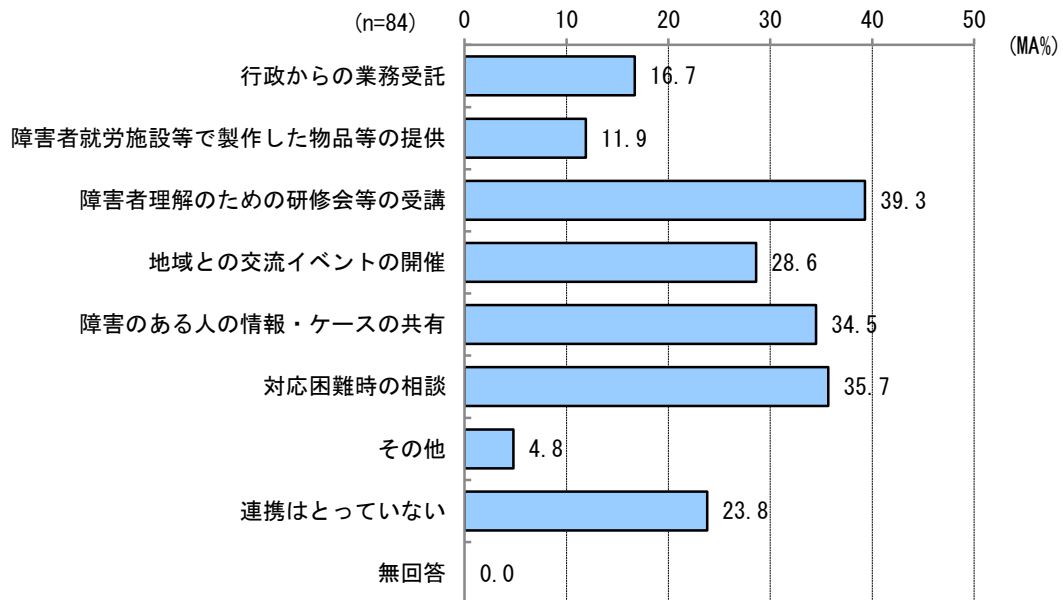


## (2) 行政との連携状況

問 貴事業所では、行政と、どのようなことで連携していますか。

【あてはまる番号すべてに○】

行政との連携状況については、「障害者理解のための研修会等の受講」が39.3%で最も多く、次いで「対応困難時の相談」が35.7%、「障害のある人の情報・ケースの共有」が34.5%となっています。

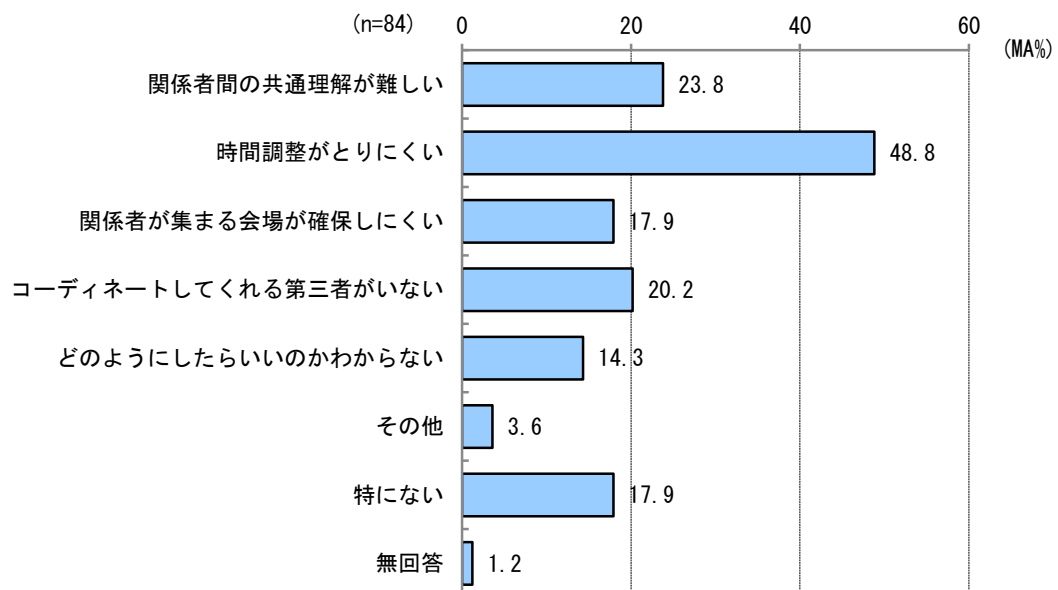


## (3) 連携についての課題

問 他の事業所・団体や行政との連携について、課題となっていることはありますか。

【あてはまる番号すべてに○】

連携についての課題については、「時間調整がとりにくい」が48.8%で最も多く、次いで「関係者間の共通理解が難しい」が23.8%、「コーディネートしてくれる第三者がない」が20.2%となっています。





障害者にかかわる計画の策定に向けたアンケート  
ご協力をお願いします

- このアンケートは、令和7年(2025年)10月31日現在、市内にお住まいの方で、  
①身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方  
②特定疾患の医療費助成にかかる登録をされている方  
③障害福祉サービスまたは地域生活支援事業などの受給者証をお持ちの方  
の中から無作為に選んだ3,000人を対象にお送りしています。  
なお、抽 出 の時点から調査票が届くまでの間に対象外となっている場合には、ご回答いただく必要はございません。
- アンケートには、できるだけ封筒あて名のご本人様がお答えください。障害や病気の状況やご本人の年齢などによってご本人様が入力できないときは、介助・支援されている人、またはご家族などがご本人様と相談してお答えください。
- 基準日の指定がない質問には、令和7年(2025年)11月1日時点の状況でお答えください。

4. アンケートの回答方法は2種類あります。どちらかを選んでお答えください。  
インターネットで回答いただいた場合は、調査票の郵送は不要です。  
お名前の記入は不要です。

①インターネット(パソコン・スマートフォン)で回答する  
<https://src.webcas.net/form/pub/src2/272035sr>

※上のURL、もしくは右の二次元コードを読みとってアクセスしてください。アンケートに回答するとき、二次元コードの下に記載されている5桁のパスワードを入力してください。

※パスワードは、重複なくオンライン回答を受け付けるためのもので、回答者の氏名や住所などが特定されることはありません。

※インターネットでは、すべてにふりがなは表示されません。

②調査票に記入し、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて投函する。

回答にご協力いただいた方には、  
抽選で1,000名にマチカネポイント(100ポイント)を付与します。  
(マチカネポイントについて、くわしくは24ページをご覧ください)

12月22日(月曜)までにご回答ください

【調査についてのお問い合わせ】

0120-186-189 (月～金曜日 午前9時～12時、午後1時～5時)

(調査委託先：株式会社サーベイリサーチセンター)

《調査実施主体》豊中市 福祉部 障害福祉課 電話：06-6858-3354

《はじめに読んでください(お願い)》

調査に協力していただき、ありがとうございます。  
この調査票の質問の内容がよくわからないときは、ご家族の人などによく相談しながら答えてください。  
ご本人以外の方が回答する場合は、ご本人の意向を十分に尊重するなど、ご本人の立場にたって回答いただきますよう、よろしく願っています。

あなたやご家族について

問1 この調査票を記入した人はどなたですか。(どれか1つに○)

- ご本人が記入
- ご本人が答えて、家族の人が記入
- ご本人にかわって家族の人が記入
- その他 ( )

これ以降の質問で「あなた」とは、封筒のあて名のご本人のことです

問2 あなたの性別は。(どれか1つに○)

- 男性
- 女性
- その他

問3 住んでいるところ(町名・丁目)をお答えください。

豊中市 ( ) 町 ( ) 丁目

問4 あなたの年齢は。(令和7年(2025年)4月1日現在)(どれか1つに○)

- 18～19歳
- 20～24歳
- 25～29歳
- 30～34歳
- 35～39歳
- 40～44歳
- 45～49歳
- 50～54歳
- 55～59歳
- 60～64歳
- 65歳以上

問5 あなたはふだん、どのような方法でコミュニケーションをとっていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 口話
2. 手話
3. 筆談
4. 契約筆記
5. 点字
6. 普説
7. 手のひら書き
8. 口文字
9. 触手話
10. 指文字
11. ジェスチャー
12. 絵や写真
13. 意思伝達装置など
14. その他 ( )

問6 あなたは、現在どのようところで暮らしていますか。(どれか1つに○)

1. 自宅 (集合住宅を含む) でひとり暮らし
2. 自宅 (集合住宅を含む) で家族などと一緒に住んでいる
3. グループホームなど
4. 病院
5. 高齢者のための施設
6. その他 ( )

問6-1 だれと一緒に住んでいますか。(あてはまる人すべてに○)

1. 父
2. 母
3. きょうだい
4. 祖父母
5. 配偶者・パートナー
6. 子どもや孫
7. 他の家族・親戚の人
8. その他 ( )

みなさんにお聞きします

問7 あなたは、これまでに1年以上、障害のある人のための施設や精神科病院で暮らしたことがありますか。(どちらか1つに○)

1. 暮らしたことがある
2. 暮らしたことはない

問8 障害者手帳を持っている人は手帳の等級を教えてください。また、特定疾患の医療費助成、発達障害の診断などについてあてはまる人は番号に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者手帳	1. 1級	3. 3級	5. 5級
	2. 2級	4. 4級	6. 6級
療育手帳	7. A	8. B1	9. B2
精神障害者保健福祉手帳	10. 1級	11. 2級	12. 3級

13. 難病※1の認定を受けたり、特定疾患の医療費助成を受けている
  14. 医師から発達障害※2と診断されたり、その疑いがあるといわれたことがある
  15. 医師から高次脳機能障害※3として診断されたことがある
  16. 障害福祉サービスまたは地域生活支援事業などの受給者証を持っている
- ※1 難病 (特定疾患)：発病の機構が明らかでなく、治療方法が確立していない希少な疾病で、早期の療養を必要とするもの。  
 ※2 発達障害：自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などのこと。  
 ※3 高次脳機能障害：外傷性脳損傷、脳血管障害等により脳に損傷を受け、その後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」などの症状がある。

問8-1 「身体障害者手帳」をお持ちの人は、障害の種類をお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 視覚障害
2. 聴覚障害・平衡機能障害
3. 音声・言語・そしゃく機能障害
4. 肢体不自由
5. 内部障害

みなさんにお聞きします

問9 あなたは、障害支援区分の認定を受けていますか。(どちらか1つに○) また、認定を受けた人は区分をお答えください。(あてはまるものに○)

1. 認定を受けた  
⇒ (区分1・区分2・区分3・区分4・区分5・区分6・非該当)
2. 認定は受けていない

問10 あなたは、介護保険の要介護（要支援）認定を受けていますか。認定を受けた人は介護保険のサービスを利用していますか。（どれか1つに○）

1. 認定を受けてサービスを利用している
2. 認定を受けたが、サービスは利用していない
3. 認定を受けていない

問11 あなたは現在、医療機関（病院・診療所）に入院していますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病等に関わることで入院している
2. その他の病気で入院している
3. 特に入院はしていない

問12 あなたは、家庭でどのような医療的ケアを受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 気管切開
2. 人工呼吸器（レスピレーター）
3. 吸入
4. 吸引
5. 胃ろう・腸ろう
6. 鼻腔管栄養
7. 中心静脈栄養（IVH）
8. 透析
9. カテーテル留置
10. ストマ（人工肛門・人工膀胱）
11. 服薬管理
12. 酸素療法
13. その他（ ）
14. 医療的ケアは受けていない

問13 自宅にお住まいの方のみにお聞きします。  
あなたは、家庭で生活するなかで、何らかの介助や支援（指示、声かけ、促しなども含みます）が必要ですか。（どちらか1つに○）  
※補装具や自助具などを使用している人は、それらを使用した前提で答えてください。

1. 介助や支援が必要なものがある ⇒ 次のページへ
2. 介助や支援は必要ない ⇒ 7 ページの間14へ

問13 「介助や支援が必要なものがある」と回答した方にお聞きします  
問13-1 どのようなときに介助や支援が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 食事
2. トイレ
3. 入浴
4. 衣服の着脱
5. 身だしなみ
6. 家の中の移動
7. 外出
8. 家族以外の人との意思疎通
9. 読み書き
10. お金の管理
11. 薬の管理
12. その他（ ）

問13-2 介助や支援を受けている時間は、ふだんの1日で合計して何時間ぐらいですか。サービスを利用している時間を除いてお答えください。（どれか1つに○）

1. 1時間未満
2. 1時間～3時間未満
3. 3時間～6時間未満
4. 6時間～12時間未満
5. 12時間以上
6. 介助や支援は受けていない

問13-3 主に介助・支援してくれる人はだれですか。（あてはまる人すべてに○）  
また、その中から、時間が長い順に3人までお答えください。

1. 父や母
2. きょうだい
3. 祖父母
4. 配偶者・パートナー
5. こども・こどもの配偶者・孫
6. その他の親族
7. 友人・知人・近所の人
8. ボランティア
9. ヘルパーなどの介助者・支援者
10. その他（ ）

時間	第1位	第2位	第3位
時間	第1位	第2位	第3位

問13-4 ヘルパーなどの介助者・支援者以外で、特に中心となって介助・支援してくれる人についてお答えください。（それぞれあてはまるもの1つに○）

性別	1. 男性	2. 女性	3. その他
年齢	1. ～17歳	3. 40～64歳	5. 75歳以上
	2. 18～39歳	4. 65～74歳	
あなた以外の介助・支援	1. している	2. していない	
就労状況	1. 働いている（週時間）	2. 働いていない	

### あなたの生活環境について

問14 豊中市やあなたが住んでいる地域は、障害や難病のある人が生活するうえで、どの程度環境が整っていると Think しますか。  
(①～⑨のそれぞれ、あてはまるもの1つに○)

	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
<b>社会意識</b>					
① 障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしない環境が整っている	1	2	3	4	5
② 外で困ったとき、周囲の人が手助けしてくれる環境が整っている	1	2	3	4	5
③ 困りごとや悩みを、安心して相談できるところが身近に整っている	1	2	3	4	5
<b>生活支援</b>					
④ 身の回りの用事や家事を助けてくれるサービスがいつでも受けられ、もしひとり暮らしになっても、不安を感じない環境が整っている	1	2	3	4	5
⑤ 仕事をしたり、趣味を楽しんでいたりしながら、同じ障害や病気の仲間と過ごす場所が身近に整っている	1	2	3	4	5
<b>生活環境</b>					
⑥ 道路や施設が安全で、外に出かけても事故やけがの心配を感じない環境が整っている	1	2	3	4	5
⑦ 日ごろから災害に備えた情報が行き届き、もし災害が発生しても、安全に避難できる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑧ 人にだまされたり、泥棒にあったりする心配を感じない環境が整っている	1	2	3	4	5

	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
<b>生活環境</b>					
⑨ 暮らしに困らないだけの収入を得る環境が整っている	1	2	3	4	5
⑩ 安心して暮らし続けられる住まいが整っている	1	2	3	4	5
<b>教育</b>					
⑪ 通常学級の子どもたちと一緒に自分にあった教育が受けられる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑫ 障害や病気に配慮した教育が受けられる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑬ 障害や難病のある人に適したさまざまな職場があり、自分にあった職場を選べる環境が整っている	1	2	3	4	5
<b>就労</b>					
⑭ 同じ仕事の質であれば、障害や難病のある人、それ以外の人も同じように評価される環境が整っている	1	2	3	4	5
⑮ 仕事で必要な技術や知識を学ぶ場が整っている	1	2	3	4	5
<b>保健医療</b>					
⑯ 費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑰ 自分にあたりハビリテーションの機会が身近に整っている	1	2	3	4	5
<b>情報</b>					
⑱ いろいろな人とコミュニケーションができる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑲ まちや建物の案内板やアナウンス、世間のニュースなど、自分に必要な情報を得やすい環境が整っている	1	2	3	4	5

問15 あなたは、障害や難病があっても、自分の望むライフスタイルに似た生活ができていますと感じますか。(どちらか1つに○)

1. はい (感じる)      2. いいえ (感じない)

問16 あなたはどのくらい外出しますか。(どれか1つに○)

1. ほとんど毎日      4. 週1回      7. ほとんど外出しない  
2. 週4～5回      5. 月2～3回      8. その他  
3. 週2～3回      6. 月1回      ( )

問17 外出時に困ることはありますか。(困っていることをすべて選んで○)

1. 車の通行時などに危険を感じる      8. 交通機関や建物などの案内が少ない  
2. 道路や建物の段差などで移動しにくい      9. 付き添いや介助してくれる人がいない  
3. 電車やバスの乗り降りがしにくい      10. 人の見る目や言葉が気になる  
4. 自転車や看板などで路上が通りにくい      11. 人との会話が難しい  
5. 障害のある人のための駐車スペースが使用できない      12. いじめや意地悪をされるのがこわい  
6. 障害のある人のためのトイレが少ない      13. その他  
7. 障害や病気に配慮された設備が整っていない      14. 特に困っていることはない

問18 あなたは、どのような近所づきあいをしていますか。(どれか1つに○)

1. 近所の仲の良い人とよく行き来している  
2. 会えば親しく話をする人がいる  
3. あいさつ程度がほとんど  
4. 近所づきあいをほとんどしていない

問19 日ごら星間の時間はどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自宅や入院先の病室で過ごしている  
2. 学校に通っている  
3. 正規の職員・従業員で働いている  
4. パート・アルバイト・派遣・契約社員等で働いている  
5. 自営業者や経営者として働いている  
6. 家族が営む事業に従事している  
7. 家事を専業としている  
8. 障害のある人のための施設で活動している  
9. 通院したり機能訓練を受けている  
10. 決まった用事はないが外で過ごしている  
11. その他 ( )

問20 仕事や施設での日中活動、学校などが終わった後、休みの日などに、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 趣味やスポーツ活動などに参加      5. 友人・知人に会う  
2. 公民館や図書館などで過ごす      6. 家の中で過ごしている  
3. 買い物や散歩などで出かけている      7. ボランティア活動に参加している  
4. 障害のある人のための施設で過ごし      8. その他 ( )

問21 平日の夕方や夜間、休日などの居場所や活動の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

※ 「場」とは、場所だけでなく場面や状況、機会等のことをさします。

1. 障害のない人との情報交換や活動、交流を行える場  
2. 障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場  
3. 一人で行っても安心してくつろげる場  
4. 星間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聞いてくれる場  
5. ボランティアなど人の役に立つ活動を行える場  
6. 家族や友人と一緒に過ごせる場  
7. その他 ( )

問22 働くことについて、どのように考えていますか。(どれか1つに○)

1. 障害のない人と同じ職場で働きたい
2. 自宅でできる仕事をしたい
3. 障害のある人のための施設で生産活動をしたい
4. 障害や病気などで働くことができない
5. 働きたくない、働くつもりはない
6. わからない、まだ考えたことがない
7. その他 ( )

問22-1 仕事に就くために受けたい支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 働くことができる職場を探したり、紹介してほしい
2. 働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい
3. 働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい
4. その他 ( )
5. 持にない

みなさんにお聞きます

問23 障害のある人が職場で働き続けるためには、どのような支援が必要だと思いますか。現在、働いていない人は、「もし職場で働くとしたら」と考えてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための訓練・指導
2. あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための訓練・指導
3. いろいろな仕事を体験できる実習や職場体験
4. 障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し
5. 経営者や職場の同僚の障害への理解
6. 仕事に慣れるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者
7. 仕事の悩みを相談したり、仲間と語りあうなど、仕事帰りに息抜きできる場
8. 職場で働くことに失敗した人を受け入れてくれる施設
9. 職場における介助や通勤時の支援
10. バリアフリートイレなど職場環境の整備
11. その他 ( )

情報の手と相談について

問24 あなたは、次の情報について、十分得られていますか。  
(①～⑧のそれぞれ、あてはまるもの1つに○)

情報の種類	十分	まあ十分	やや不十分	不十分	わからない
①ホームヘルパーなど在宅サービスの情報	1	2	3	4	5
②社会福祉施設の情報	1	2	3	4	5
③医療機関の情報	1	2	3	4	5
④相談できる場所の情報	1	2	3	4	5
⑤福祉に関する法律や政策などの情報	1	2	3	4	5
⑥スポーツや文化活動などの情報	1	2	3	4	5
⑦障害や難病のある人たちの情報	1	2	3	4	5
⑧道路や施設等のバリアフリー情報	1	2	3	4	5

問24-1 問24の項目以外で、必要な情報がありましたら、ご自由にお書きください。

問25 健康や医療面で不安に思ったり、困っていることはありませんか。(どれか1つに○)  
(あてはまるものすべてに○)

1. 障害が重くなったり病状が進むこと
2. 生活費・薬費などの病気がある
3. 健康診断が受けられない、受けにくい
4. 健康を保つ方法がわからない
5. 薬の飲み方・使い方がわからない
6. 近くで専門的な治療を受けられない
7. 十分なリハビリテーションが受けられない
8. 訪問看護や在宅診療をしてもらえない
9. 障害に理解や経験のある医師が身近にいない
10. 症状を伝えにくい、説明がわからない
11. 診察の受付や案内がわかりにくい
12. 介助者や付き添ってくれる人がいない
13. お金がかかる
14. 交通が不便、移動が大変
15. 出産について相談するところがない
16. 発育・発達について相談するところがない
17. ころの病気にについて相談するところがない
18. その他 ( )
19. 困っていることは特にない

問26 家族や親戚、目ごる通う場所(職場や学校、通所施設など)以外で、困ったことや心配に思っていることを相談したことはありませんか。(どちらか1つに○)  
ある場合は、だれに相談したか書いてください。

1. ある ⇒ だれに相談しましたか? ( )
2. ない ⇒ 14ページの問26-4へ

問26で「1 ある」と回答した方にお聞きします

問26-1 あなたが今、気にかかっていることはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 自分の障害や病気に関すること
2. 利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法
3. 家族からの自立・家族がいなくなったり生活
4. 生活費(給料・年金など)に關すること
5. 金銭の管理に關すること
6. 進学や訓練、就職など進路のこと
7. 職場や仕事のこと
8. 災害など緊急時の対応
9. 家族との人間関係
10. 家族以外の人の人間関係
11. 成年後見制度に關すること
12. その他 ( )

問26-2 相談したときのように思いましたか。(どれか1つに○)

1. 今後も同じ人(機関)に相談したいと思つた
2. 別の(機関)に相談したいと思つた
3. もう相談はしたくないと思つた
4. その他 ( )

問26-3 そう思つたのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 話を聞いてもらえなかった
2. 困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった
3. 専門的な助言を受けられなかった
4. 障害への理解がたりないと感じた
5. 別の相談窓口を紹介された
6. その他 ( )
7. 特に理由はない

問26で「2 ない」と回答した方にお聞きします

問26-4 相談したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 相談したいことがない(困っていない)
2. どこに相談したらいいかわからない(相談できる場所の情報がない)
3. 専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない
4. 相談できる場所が近くにない
5. 障害や病気のため、相談窓口などに向けない
6. その他 ( )
7. 特に理由はない

障害や難病のある人の人権と障害・難病の理解促進について

問32 ここ3年において、あなたは、障害や難病があるためにあきらめたり、仕方なくがまんしたりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 進学
2. 仕事や就職
3. 恋愛
4. 結婚
5. 子育て
6. 泊りがけの旅行
7. 一人での外出
8. 友人とのつきあい
9. スポーツ
10. 趣味、文化活動
11. その他
12. 特にない
13. わからない

問33 ここ3年において、あなたは、障害や難病があることで嫌な思いをしたり、差別や偏見を受けたりしたことがありますか。(どれか1つに○)

1. よくある
2. ときどきある
3. あまりない
4. まったくない → 問34へ

問34 「1」～「3」のいずれかに回答した方にお聞きします

問33-1 それは、どのような場面ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 進学するときや学校生活において
2. 就職するときや職場生活において
3. 結婚するとき
4. 近所づきあい、地域の行事等において
5. 家庭生活において
6. 福祉サービスを利用するとき
7. 医療を受けるとき
8. 役所で手続きするときや公共施設を使うとき
9. 公共交通機関を利用するとき
10. ものを買う、賃事をするなどお店を利用するとき
11. スポーツや文化活動をするとき
12. 家を借りるとき
13. まちを歩いているとき
14. 選挙など政治に参加するとき
15. 司法手続きにおいて
16. その他(具体的に記入ください。)

みなさんにお聞きします

問27 市内における今後の相談支援体制について、どのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 休日や夜間の電話相談
2. 福祉の専門職を配置した相談窓口の整備
3. 同じ障害を持つ相談員によるカウンセリング
4. 小学校区単位で開設される福祉なんでも相談
5. 家族の悩みを受け止める家族相談員
6. 障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談
7. オンラインでの相談対応
8. その他 ( )

災害など緊急時の対応について

問28 あなたは、最寄りの避難場所を知っていますか。(どちらか1つに○)

1. 知っている
2. 知らない

問29 あなたは、災害があった際にあなた一人で避難できますか。(どれか1つに○)

1. できる
2. できない
3. わからない

問30 だれか避難等の援助を頼める人が身近にいますか。(どちらか1つに○)

1. いる
2. いない

問31 火事や地震など緊急時の対応について、障害や難病のある人の立場からどのようなことが重要だと思いますか。(重要と思うものすべてに○)

1. 災害が発生したときにすぐに知らせてくれる体制をつくる
2. 避難場所までの行き方をわかりやすく案内したり、教える
3. 地域の人などがすぐに助けにきてくれる体制をつくる
4. 日ごろから災害などに備えて地域で避難や救助の練習をする
5. 災害など非常事態になった後の相談体制を整える
6. 避難場所での生活に特別な配慮や工夫をおこなう
7. 自宅や避難場所に定期的に医師が訪問する
8. その他 ( )

問33で「1」～「3」のいずれかに回答した方にお聞きします

問33-2 それは、どのような差別ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた
2. 障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない
3. 差別的な発言を受けた
4. その他(具体的に記入ください)

みなさんにお聞きします

問34 あなたの権利が奪われたり、損なわれたりしないようにするために、どのような手助けや取り組みがあるかと思いますが、あてはまるものすべてに○)

1. 困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口
2. 弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口
3. 自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス
4. 障害や難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などを行う第三者による制度
5. 障害や難病のある人の権利について、障害や難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと
6. 障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること
7. その他( )
8. 特にない
9. わからない

問35 あなたは、3年前に比べて、「障害」「難病」に対して、広く市民の理解が進んでいるかと思いますが、あてはまるものすべてに○)

1. 進んできている
2. 多少進んできている
3. どちらともいえない
4. 多少後退してきている
5. 後退してきている
6. わからない

問35-1 問35の回答の理由は何か。ご自由にお書きください。

問36 豊中市では、障害や難病のある人に対する理解を深めるための広報や行事等を実施していますが、あなたはそれを見たり参加したりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 広報記事を読んだことがある
2. 障害者週間のパネル展を見たことがある
3. ひまわりひろはる等の地域交流事業に参加したことがある
4. 出前講座に参加したことがある
5. 講演会・イベントに参加したことがある
6. ホームページを見たことがある
7. その他( )
8. 広報を見たり、行事等に参加したことはない

問37 あなたは、どのような方法で情報を得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. テレビ・ラジオ
2. 新聞
3. 雑誌・書籍
4. 広報とよなか
5. ホームページ
6. SNS (X (旧Twitter)、Instagramなど)
7. メールマガジン
8. ポスター・チラシ
9. 行政の出版物 (パンフレット、行政計画、報告書等)
10. 講演会、講座
11. イベント
12. その他( )

問38 あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)について知っていますか。(どれか1つに○)

1. 名前も内容も知っている
2. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
3. 名前も内容も知らない

問39 豊中市は、手話は言語であるという認識に基づき、手話言語の理解及び普及について総合的かつ計画的に施策を推進するため、豊中市手話言語アクションプランを策定しています。あなたは、手話は言語であると知っていますか。(どれか1つに○)

1. 知っている
  2. 知らない
- 問40 あなたは、「手話は言語である」という理解が市民に浸透してきているか、あてはまるものすべてに○)
1. 思う
  2. どちらかというと思う
  3. どちらかというと思わない
  4. 思わない

障害福祉サービスについて

問41 障害のある人のための福祉サービスについて、①現在の利用状況、②利用して気になったり、不満に思うことの有無、③今後の利用についてのお考えをそれぞれ答えてください。(サービスの内容については別紙の表を見てください。)

サービスの種類	①現在の利用状況	②気になったり、不満に思うこと	③今後の利用
(例) □◇サービス	① 利用している → 2. 利用していない	① ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	① 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(1) 居宅介護 (ホームヘルプ)	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(2) 重度訪問介護	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(3) 同行援護	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(4) 行動援護	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(5) 移動支援 (ガイドヘルプ)	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない

1. 身近なところでサービスを利用できない  
2. 利用したい日・時間に利用できない  
3. 利用回数・時間などに制限がある  
4. サービス事業所に利用を断られることが多い  
5. 利用料が高い
6. ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している  
7. 建物や設備が障害に配慮されていない  
8. サービス内容に関する情報が少ない  
9. 相談や手続きに時間がかかり面倒くさい  
10. その他 ( )

サービスの種類	①現在の利用状況	②気になったり、不満に思うこと	③今後の利用
(6) 手話通訳者、要約筆記者の派遣	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(7) 入浴サービス事業	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(8) 補装具	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(9) 日常生活用具	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(10) 短期入所 (シヨートステイ)	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(11) 日中一時支援事業	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(12) 療養介護	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない

1. 身近なところでサービスを利用できない  
2. 利用したい日・時間に利用できない  
3. 利用回数・時間などに制限がある  
4. サービス事業所に利用を断られることが多い  
5. 利用料が高い
6. ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している  
7. 建物や設備が障害に配慮されていない  
8. サービス内容に関する情報が少ない  
9. 相談や手続きに時間がかかり面倒くさい  
10. その他 ( )

サービスの種類	①現在の利用状況	②気になったり、不満に思うこと	③今後の利用
(13)生活介護	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(14)自立訓練 (機能訓練) (生活訓練)	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(15)就労移行 支援	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(16)就労継続 支援	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(17)就労定着 支援	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(18)就労選択 支援	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(19)地域活動 支援センター	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(20)宿泊型 自立訓練	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない

1. 身近なところでサービスを利用できない
2. 利用したい日・時間に利用できない
3. 利用回数・時間などに制限がある
4. サービス事業所に利用を断られることが多い
5. 利用料が高い
6. ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している
7. 建物や設備が障害に配慮されていない
8. サービス内容に関する情報が少ない
9. 相談や手続きに時間がかかり面倒くさい
10. その他 ( )

サービスの種類	①現在の利用状況	②気になったり、不満に思うこと	③今後の利用
(21)共同生活 援助(グループホーム)	※承認時は、全質(⑤今後の利用)のみ答えて下さい		1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(22)施設入所 支援	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(23)自立生活 援助	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(24)相談支援	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(25)重度訪問 介護利用者 の大学 修学支援	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(26)通学支援 サービス	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(27)重度障害 者等就労 支援特別 事業	1. 利用している→ 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない

1. 身近なところでサービスを利用できない
2. 利用したい日・時間に利用できない
3. 利用回数・時間などに制限がある
4. サービス事業所に利用を断られることが多い
5. 利用料が高い
6. ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している
7. 建物や設備が障害に配慮されていない
8. サービス内容に関する情報が少ない
9. 相談や手続きに時間がかかり面倒くさい
10. その他 ( )



## 1. 調査者にかかわる計画の策定に向けたアンケート ご協力をお願い

- このアンケートは、令和7年(2025年)10月31日現在、市内にお住まいの方で、  
①身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方  
②特定疾患の医療費助成にかかる登録をされている方  
③障害福祉サービスまたは地域生活支援事業などの受給者証をお持ちの方  
の中から無作為に選んだ3,000人を対象にお送りしています。  
なお、抽 出 の時点から調査票が届くまでの間に対象外となっている場合には、ご回答いただく必要はございません。
- アンケートには、できるだけ封筒あて名のご本人様がお答えください。障害や病気の状況やご本人の年齢などによってご本人様が記入できないときは、介助・支援されている人、またはご家族などがご本人様と相談してお答えください。
- 基準日の指定がない質問には、令和7年(2025年)11月1日時点の状況でお答えください。

4. アンケートの回答方法は2種類あります。どちらかを選んでお答えください。  
インターネットで回答いただいた場合は、調査票の郵送は不要です。  
お名前の記入は不要です。

①インターネット(パソコン・スマートフォン)で回答する  
<https://src.webcas.net/form/pub/src2/272035sm>  
 ※上のURL、もしくは右の二次元コードを読みとってアクセスしてください。アンケートに回答するとき、二次元コードの下に記載されている5桁のパスワードを入力してください。  
 ※パスワードは、重複なくオンライン回答を受け付けるためのもので、回答者の氏名や住所などが特定されることはありません。  
 ※インターネットでは、すべてにふりがなは表示されません。  
 ②調査票に記入し、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて投函する。



パスワード:20001

回答にご協力いただいた方には、  
 抽選で1,000名にマチカネポイント(100ポイント)を付与します。  
 (マチカネポイントについて、くわしくは23ページをご覧ください)

## 12月22日(月曜)までにご回答ください

【調査についてのお問い合わせ】  
**0120-186-189** (月～金曜日 午前9時～12時、午後1時～5時)  
 (調査委託先：株式会社サーベイリサーチセンター)  
 《調査実施主体》豊中市 福祉部 障害福祉課 電話：06-6858-3354

《はじめに読んでください(お願い)》  
 調査に協力していただき、ありがとうございます。  
 この調査票の質問の内容がよくわからないときはご家族の人などとよく相談しながらお答えください。  
 ご本人以外の方が回答する場合は、ご本人の意向を十分に尊重するなど、ご本人の立場にたって回答いただきますよう、よろしくお願いいたします。

## あなたやご家族について

- 問1 この調査票を記入した人はどなたですか。(どれか1つに○)
- ご本人が記入
  - ご本人が答えて、家族の人が記入
  - ご本人にかわって家族の人が記入
  - その他 ( )

これ以降の質問で「あなた」とは、封筒のあて名のご本人のことです

- 問2 あなたの性別は。(どれか1つに○)
- 男性
  - 女性
  - その他

問3 住んでいるところ(町名・丁目)をお答えください。  
 豊中市 ( ) 町 ( ) 丁目

- 問4 あなたの年齢は。(令和7年(2025年)4月1日現在)(どれか1つに○)
- 18・19歳
  - 20～24歳
  - 25～29歳
  - 30～34歳
  - 35～39歳
  - 40～44歳
  - 45～49歳
  - 50～54歳
  - 55～59歳
  - 60～64歳
  - 65歳以上

問5 あなたはふだん、どのような方法でコミュニケーションをとっていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |         |           |              |
|---------|-----------|--------------|
| 1. 口話   | 6. 音訳     | 11. ジェスチャー   |
| 2. 手話   | 7. 手のひら書き | 12. 絵や写真     |
| 3. 筆談   | 8. 口文字    | 13. 意思伝達装置など |
| 4. 要約筆記 | 9. 触手話    | 14. その他      |
| 5. 点字   | 10. 指文字   | ( )          |

問6 あなたは、現在どのようなところで暮らしていますか。(どれか1つに○)

- |                              |
|------------------------------|
| 1. 自宅(集合住宅を含む)でひとり暮らし        |
| 2. 自宅(集合住宅を含む)で家族などと一緒に住んでいる |
| 3. グループホームなど                 |
| 4. 病院                        |
| 5. 高齢者のための施設                 |
| 6. その他( )                    |

問6-1 だれと一緒に住んでいますか。(あてはまる人すべてに○)

- |          |              |              |
|----------|--------------|--------------|
| 1. 父     | 4. 祖父母       | 7. 他の家族・親戚の人 |
| 2. 母     | 5. 配偶者・パートナー | 8. その他       |
| 3. きょうだい | 6. こどもや孫     | ( )          |

みなさんにお聞きします

問7 あなたは、これまでに1年以上、障害のある人のための施設や精神科病院で暮らしたことがありますか。(どちらか1つに○)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 暮らしたことがある | 2. 暮らしたことはない |
|--------------|--------------|

問8 障害者手帳を持っている人は手帳の等級を教えてください。また、特定疾患の医療費助成、発達障害の診断などについてあてはまる人は番号に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者手帳	1. 1級	3. 3級	5. 5級
	2. 2級	4. 4級	6. 6級
療育手帳	7. A	8. B1	9. B2
精神障害者保健福祉手帳	10. 1級	11. 2級	12. 3級

13. 難病※1の認定を受けたり、特定疾患の医療費助成を受けている

14. 医師から発達障害※2と診断されたり、その疑いがあるといわれたことがある

15. 医師から高次脳機能障害※3として診断されたことがある

16. 障害福祉サービスまたは地域生活支援事業などの受給者証を持っている

※1 難病(特定疾患)・発病の機構が明らかでなく、治療方法が確立していない希少な疾病で、早期の療養を必要とするもの。

※2 発達障害：自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などのこと。

※3 高次脳機能障害：外傷性脳損傷、脳血管障害等により脳に損傷を受け、その後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」などの症状がある。

問8-1 「身体障害者手帳」をお持ちの人は、障害の種類をお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                   |          |
|-------------------|----------|
| 1. 視覚障害           | 4. 肢体不自由 |
| 2. 聴覚障害・平衡機能障害    | 5. 内部障害  |
| 3. 音声・言語・そしゃく機能障害 |          |

みなさんにお聞きします

問9 あなたは、介護保険の要介護(要支援)認定を受けていますか。認定を受けた人は介護保険のサービスを利用していますか。(どれか1つに○)

- |                         |
|-------------------------|
| 1. 認定を受けてサービスを利用している    |
| 2. 認定を受けたが、サービスは利用していない |
| 3. 認定を受けていない            |

問10 あなたは現在、医療機関（病院・診療所）に入院していますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、発達障害、発達障害に關わることで通院している
2. その他の病気で通院している
3. 特に通院はしていない

問11 あなたは、家庭でどのような医療的ケアを受けていますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 気管切開
2. 人工呼吸器（レスピレーター）
3. 吸入
4. 吸引
5. 胃ろう・腸ろう
6. 鼻経管栄養
7. 中心静脈栄養（IVH）
8. 透析
9. カテーテル留置
10. ストマ（人工肛門・人工膀胱）
11. 薬管理
12. 酸素療法
13. その他（ ）
14. 医療的ケアは受けていない

問12 自宅にお住まいの方のみにお聞きします。

あなたは、家庭で生活するなかで、何らかの介助や支援（指示、声かけ、促しなど）も含まれますか。（どちらか1つに○）

※補綴や自動車などを使用している人は、それらを使用した前提で答えてください。

1. 介助や支援が必要なものがある ⇒ 問12-1へ
2. 介助や支援は必要ない ⇒ 7 ページの間13へ

問12で「1 介助や支援が必要なものがある」と回答した方にお聞きします

問12-1 どのようなときに介助や支援が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 食事
2. トイレ
3. 入浴
4. 衣服の着脱
5. 身だしなみ
6. 家の中の移動
7. 外出
8. 家族以外のひととの意思疎通
9. 読み書き
10. お金の管理
11. 薬の管理
12. その他（ ）

問12-2 介助や支援を受けている時間は、ふだんの1日で合計して何時間くらいですか。サービスを利用して時間を除いてお答えください。（どれか1つに○）

1. 1時間未満
2. 1時間～3時間未満
3. 3時間～6時間未満
4. 6時間～12時間未満
5. 12時間以上
6. 介助や支援は受けていない

問12-3 主に介助・支援してくれる人はだれですか。（あてはまる人すべてに○）また、その中から、時間が長い順に3人までお答えください。

1. 父や母
2. きょうだい
3. 祖父母
4. 配偶者・パートナー
5. 子ども・子どもの配偶者・孫
6. その他の親族
7. 友人・知人・近所の人
8. ボランティア
9. その他（ ）

時間が長い順にお答えください⇒

第1位	第2位	第3位

問12-4 特に中心となって介助・支援してくれる人についてお答えください。（それぞれあてはまるもの1つに○）

性別	1. 男性	2. 女性	3. その他
年齢	1. ～17歳	3. 40～64歳	5. 75歳以上
	2. 18～39歳	4. 65～74歳	
あなた以外の介助・支援	1. している	2. していない	
就労状況	1. 働いている（週時間）	2. 働いていない	

あなたの生活環境について

問13 豊中市やあなたが住んでいる地域は、障害や難病のある人が生活するうえで、どの程度環境が整っていると Think しますか。  
(①～⑨のそれぞれ、あてはまるもの1つに○)

	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
<b>社会意識</b>					
①障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしない環境が整っている	1	2	3	4	5
②外で困ったとき、周囲の人が手助けしてくれる環境が整っている	1	2	3	4	5
③買い物ごとや悩みを、安心して相談できるところが身近に整っている	1	2	3	4	5
④身の回りの用事や家事を助けてくれるサービスがいつでも受けられ、もしひとり暮らしになっても、不安を感じない環境が整っている	1	2	3	4	5
⑤仕事をしたり、趣味を楽しんだりしながら、同じ障害や病気の仲間と過ごす場所が身近に整っている	1	2	3	4	5
⑥道路や施設が安全で、外に出かけても事故やけがの心配を感じない環境が整っている	1	2	3	4	5
⑦日ごろから災害に備えた情報が行き届き、もし災害が発生しても、安全に避難できる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑧人にだまされたり、泥棒にあったりする心配を感じない環境が整っている	1	2	3	4	5

	そう思う	まあまあそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	わからない
<b>生活意識</b>					
⑨暮らしに困らないだけの収入を得る環境が整っている	1	2	3	4	5
⑩安心して暮らし続けられる住まいが整っている	1	2	3	4	5
<b>教育</b>					
⑪通常学級の子どもたちと一緒に自分にあった教育が受けられる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑫障害や病気に配慮した教育が受けられる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑬障害や難病のある人に適したさまざまな職場があり、自分にあった職場を選べる環境が整っている	1	2	3	4	5
<b>就労</b>					
⑭同じ仕事の質であれば、障害や難病のある人、それ以外の人も同じように評価される環境が整っている	1	2	3	4	5
⑮仕事で必要な技術や知識を学ぶ場が整っている	1	2	3	4	5
<b>保健医療</b>					
⑯有用の心配をせずに、必要な医療を受けられる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑰自分にあつたりハビリテーションの機会が身近に整っている	1	2	3	4	5
⑱いろいろな人とコミュニケーションができる環境が整っている	1	2	3	4	5
<b>情報</b>					
⑲まちや建物の案内板やアナウンス、世間のニュースなど、自分に必要な情報を得やすい環境が整っている	1	2	3	4	5

問14 あなたは、障害や難病があっても、自分の望むライフスタイルに似た生活ができていますと感じますか。(どちらか1つに○)

1. はい (感じる)      2. いいえ (感じない)

問15 あなたはどのくらい外出しますか。(どれか1つに○)

1. ほとんど毎日      4. 週1回      7. ほとんど外出しない  
2. 週4～5回      5. 月2～3回      8. その他  
3. 週2～3回      6. 月1回      ( )

問16 外出時に困ることはありますか。(困っていることをすべて選んで○)

1. 車の通行時などに危険を感じる  
2. 道路や建物の段差などで移動しにくい  
3. 電車やバスの乗り降りがしにくい  
4. 自転車や看板などで路上が通りにくい  
5. 障害のある人のための駐車スペースが使えない  
6. 障害のある人のためのトイレが少ない  
7. 障害や病気に配慮された設備が整っていない  
8. 交通機関や建物などの案内が少ない  
9. 付き添いや介助してくれる人がいない  
10. 人の見る目や言葉が気になる  
11. 人との会話が難しい  
12. いじめや意地悪をされるのがこわい  
13. その他 ( )  
14. 特に困っていることはない

問17 あなたは、どのような近所づきあいをしていますか。(どれか1つに○)

1. 近所の仲の良い人とよく行き来している  
2. 会話は親しく話をする人がいる  
3. あいさつ程度がほとんど  
4. 近所づきあいをほとんどしていない

問18 日ごろ屋間の時間はどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自宅や入院先の病室で過ごしている  
2. 学校に通っている  
3. 正規の職員・従業員で働いている  
4. パート・アルバイト・派遣・契約社員等で働いている  
5. 自営業者や経営者として働いている  
6. 家族が営む事業に従事している  
7. 家事を専業としている  
8. 障害のある人のための施設で活動している  
9. 通院したり機能訓練を受けている  
10. 決まった用事はないが外で過ごしている  
11. その他 ( )

問19 仕事や施設での日中活動、学校などが終わった後、休みの日などに、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 趣味やスポーツ活動などに参加      5. 友人・知人に会う  
2. 公民館や図書館などで過ごす      6. 家の中で過ごしている  
3. 買い物や散歩などで出かけている      7. ボランティア活動に参加している  
4. 障害のある人のための施設で過ごし      8. その他 ( )  
ている

問20 平日の夕方や夜間、休日などの居場所や活動の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

※ 「場」とは、場所だけでなく場面や状況、機会等のことをさします。

1. 障害のない人との情報交換や活動、交流を行える場  
2. 障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場  
3. 一人で行っても安心してくつろげる場  
4. 屋間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聞いてくれる場  
5. ボランティアなど人の役に立つ活動を行える場  
6. 家族や友人と一緒に過ごせる場  
7. その他 ( )

問21 働くことについて、どのように考えていますか。(どれか1つに○)

1. 障害のない人と同じ職場で働きたい
2. 自宅でできる仕事をしたい
3. 障害のある人のための施設で生産活動をしたい
4. 障害や病気などで働くことができない
5. 働きたくない、働くつもりはない
6. わからない、まだ考えたことがない
7. その他 ( )

問21-1 仕事に就くために受けたい支援はありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 働くことができる職場を探したり、紹介してほしい
2. 働くために必要なことを教えてもらったり、訓練を受けたい
3. 働くことなど今後の進路について相談したり、助言がほしい
4. その他 ( )
5. 持にない

みなさんにお聞きます

問22 障害のある人が職場で働き続けるためには、どのような支援が必要だと思いますか。現在、働いていない人は、「もし職場で働くとしたら」と考えてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための訓練・指導
2. あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための訓練・指導
3. いろいろな仕事を体験できる実習や職場体験
4. 障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し
5. 経営者や職場の同僚の障害への理解
6. 仕事に慣れるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者
7. 仕事の悩みを相談したり、仲間と語りあうなど、仕事帰りに息抜きできる場
8. 職場で働くことに失敗した人を受け入れてくれる施設
9. 職場における介助や通勤時の支援
10. バリアフリートイレなど職場環境の整備
11. その他 ( )

情報の手と相談について

問23 あなたは、次の情報について、十分得られていますか。  
(①～⑧のそれぞれ、あてはまるもの1つに○)

情報の種類	十分	まあ十分	やや不十分	不十分	わからない
①ホームヘルパーなど在宅サービスの情報	1	2	3	4	5
②社会福祉施設の情報	1	2	3	4	5
③医療機関の情報	1	2	3	4	5
④相談できる場所の情報	1	2	3	4	5
⑤福祉に関する法律や政策などの情報	1	2	3	4	5
⑥スポーツや文化活動などの情報	1	2	3	4	5
⑦障害や難病のある人たちの情報	1	2	3	4	5
⑧道路や施設等のバリアフリー情報	1	2	3	4	5

問23-1 問23の項目以外で、必要な情報がありましたら、ご自由にお書きください。

問24 健康や医療面で不安に思ったり、困っていることはありませんか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 障害が重くなったり病状が進むこと
2. 生活習慣病などの病気がある
3. 健康診断が受けられない、受けにくい
4. 健康を保つ方法がわからない
5. 薬の飲み方・使い方がわからない
6. 近くで専門的な治療を受けられない
7. 十分なリハビリテーションが受けられない
8. 訪問看護や往診してもらえない
9. 障害に理解や経験のある医師が身近にいない
10. 症状を伝えにくい、説明がわからない
11. 診察の受付や案内がわかりにくい
12. 介助者や付き添ってくれる人がいない
13. お金がかかる
14. 交通が不便、移動が大変
15. 出産について相談するところがない
16. 発育・発達について相談するところがない
17. こころの病気について相談するところがない
18. その他 ( )
19. 困っていることは特にない

問25 家族や親戚、日ごろ通う場所（職場や学校など）以外で、困ったことや心配に思っていることを相談したことはありませんか。(どちらか1つに○)  
ある場合は、だれに相談したか書いてください。

1. ある ⇒ だれに相談しましたか? ( )
2. ない ⇒ 15ページの問25-4へ

問25-1 あなたが今、気がかかっていることはどのようなことですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 自分の障害や病気に関すること
2. 利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法
3. 家族からの自立・家族がいなくなったときの生活
4. 生活費（給料・年金など）に関すること
5. 金銭の管理に関すること
6. 進学や訓練、就職など進路のこと
7. 職場や仕事のこと
8. 災害など緊急時の対応
9. 家族との人間関係
10. 家族以外の人ととの人間関係
11. 成年後見制度に関すること
12. その他 ( )

問25-2 相談したときのように思いましたか。(どれか1つに○)

1. 今後と同じ人（機関）に相談したいと思った
2. 別の人（機関）に相談したいと思った
3. もう相談はしたくないと思った
4. その他 ( )

問25-3 そう感ったのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 話を聞いてもらえなかった
2. 困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった
3. 専門的な助言を受けられなかった
4. 障害への理解がたりないと感じた
5. 別の相談窓口を紹介された
6. その他 ( )
7. 特に理由はな

問25で「2 ない」と回答した方にお聞きします

問25-4 相談したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 相談したことがない(困っていない)
2. どこに相談したらいいかわからない(相談できる場所の情報がない)
3. 専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない
4. 相談できる場所が近くにない
5. 障害や病気のため、相談窓口などに出向けない
6. その他( )
7. 特に理由はない

みなさんにお聞きします

問26 市内における今後の相談支援体制について、どのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 休日や夜間の電話相談
2. 福祉の専門職を配置した相談窓口の整備
3. 同じ障害を持つ相談員によるカウンセリング
4. 小学校区単位で開設される福祉なんでも相談
5. 家族の悩みを受け止める家族相談員
6. 障害に関わる診断や治療・ケアに関する医療面での相談
7. オンラインでの相談対応
8. その他( )

災害など緊急時の対応について

問27 あなたは、最寄りの避難場所を知っていますか。(どちらか1つに○)

1. 知っている
2. 知らない

問28 あなたは、災害があった際にあなた一人で避難できますか。(どれか1つに○)

1. できる
2. できない
3. わからない

問29 だれか避難等の援助を頼める人が身近にいますか。(どちらか1つに○)

1. いる
2. いない

問30 火事や地震など緊急時の対応について、障害や難病のある人の立場からどのようなことが重要だと思いますか。(重要と思うものすべてに○)

1. 災害が発生したときにすぐに知らせてくれる体制をつくる
2. 避難場所までの行き方をわかりやすく案内したり、教える
3. 地域の人ががすぐに助けにきてくれる体制をつくる
4. 日ごろから災害などに備えて地域で避難や救助の練習をする
5. 災害など非常事態になった後の相談体制を整える
6. 避難場所での生活に特別な配慮や工夫をおこなう
7. 自宅や避難場所に定期的に医師が訪問する
8. その他( )

障害や難病のある人の人権と障害・難病の理解促進について

問31 ここ3年において、あなたは、障害や難病があるためにあきらめたり、仕方なくがまんしたりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 進学
2. 仕事や就職
3. 恋愛
4. 結婚
5. 子育て
6. 泊りがけの旅行
7. 一人での外出
8. 友人とのつきあい
9. スポーツ
10. 趣味、文化活動
11. その他
12. 特にない
13. わからない

問32 ここ3年において、あなたは、障害や難病があることで嫌な思いをしたり、差別や偏見を受けたりしたことがありますか。(どれか1つに○)

1. よくある
2. ときどきある
3. あまりない
4. まったくない → 問33へ

問32で「1」～「3」のいずれかに回答した方にお聞きします

問32-1 それは、どのような場面ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 進学するときや学校生活において
2. 就職するときや職場生活において
3. 結婚するとき
4. 近所づきあい、地域の行事等において
5. 家庭生活において
6. 福祉サービスを利用するとき
7. 医療を受けるとき
8. 役所で手続きするときや公共施設を使うとき
9. 公共交通機関を利用するとき
10. ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき
11. スポーツや文化活動をするとき
12. 家を借りるとき
13. まちを歩いているとき
14. 選挙など政治に参加するとき
15. 司法手続きにおいて
16. その他(具体的に記入ください。)

問32で「1」～「3」のいずれかに回答した方にお聞きします

問32-2 それは、どのような差別ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた
2. 障害への配慮が欠けたため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない
3. 差別的な発言を受けた
4. その他(具体的に記入ください。)

みなさんにお聞きします

問33 あなたの権利が奪われたり、損なわれたりしないようにするために、どのような助けや取り組みがあると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口
2. 弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口
3. 自分の代わりに交渉ごとや財産等の管理をしてくれるサービス
4. 障害や難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度
5. 障害や難病のある人の権利について、障害や難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと
6. 障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること
7. その他( )
8. 特にない
9. わからない

問34 あなたは、3年前に比べて、「障害」「難病」に対して、広く市民の理解が進んできていると思いますか。(どれか1つに○)

1. 進んできている
2. 多少進んできている
3. どちらともいえない
4. 多少後退してきている
5. 後退してきている
6. わからない

問34-1 問34の回答の理由は何ですか。ご自由にお書きください。

問35 豊中市では、障害や難病のある人に対する理解を深めるための広報や行事等を実施していますが、あなたはそれを見たり参加したりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 広報記事を読んだことがある
2. 障害者週間のパネル展を見たことがある
3. ひまわりひろば等の地域交流事業に参加したことがある
4. 出前講座に参加したことがある
5. 講演会・イベントに参加したことがある
6. ホームページを見たことがある
7. その他( )
8. 広報を見たり、行事等に参加したことはない

問36 あなたは、どのような方法で情報を得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. テレビ・ラジオ
2. 新聞
3. 雑誌・書籍
4. 広報とよなか
5. ホームページ
6. SNS (X (旧 Twitter), Instagramなど)
7. メールマガジン
8. ポスター・チラシ
9. 行政の出版物(パンフレット、行政計画、報告書等)
10. 講演会、講座
11. イベント
12. その他( )

問37 あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)について知っていますか。(どれか1つに○)

1. 名前も内容も知っている
2. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
3. 名前も内容も知らない

問38 豊中市は、手話は言語であるという認識に基づき、手話言語の理解及び普及について総合的かつ計画的に施策を推進するため、豊中市手話言語アクションプランを策定しています。あなたは、手話は言語であると知っていますか。(どれか1つに○)

1. 知っている
2. 知らない

問39 あなたは、「手話は言語である」という理解が市民に浸透してきていると思いますか。(どれか1つに○)

1. 思う
2. どちらかかと思う
3. どちらかかと思わない
4. 思わない

障害福祉サービスについて

問40 障害のある人のための福祉サービスについてあなたが知っているものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

※サービスの内容については別紙の表を見てください。

- |                      |                      |
|----------------------|----------------------|
| 1. 居宅介護 (ホームヘルプ)     | 16. 就労継続支援           |
| 2. 重度訪問介護            | 17. 就労定着支援           |
| 3. 同行支援              | 18. 就労選択支援           |
| 4. 行動支援              | 19. 地域活動支援センター       |
| 5. 移動支援 (ガイドヘルプ)     | 20. 宿泊型自立訓練          |
| 6. 手話通訳者、要約筆記者の派遣    | 21. 共同生活援助 (グループホーム) |
| 7. 入浴サービス事業          | 22. 施設入所支援           |
| 8. 補装具               | 23. 自立生活援助           |
| 9. 日常生活用具            | 24. 相談支援             |
| 10. 短期入所 (ショートステイ)   | 25. 重度訪問介護利用者の大学修学支援 |
| 11. 日中一時支援事業         | 26. 通学支援サービス         |
| 12. 療養介護             | 27. 重度障害者等就労支援特別事業   |
| 13. 生活介護             | 28. その他 ( )          |
| 14. 自立訓練 (機能訓練、生活訓練) | 29. いずれも知らない         |
| 15. 就労移行支援           |                      |

問41 頻在、サービスを利用していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| 1. 必要を感じない          | 6. 人に世話をかけたくない |
| 2. 制度やサービスのことを知らない  | 7. 人の目が気になる    |
| 3. 利用の仕方がわからない      | 8. 家の人が反対する    |
| 4. 利用したことがないので気がひける | 9. その他 ( )     |
| 5. 費用がかかる           |                |

将来の暮らしについて

問42 あなたは、今から10年くらい経ったときに、どのような生活をしてみたいと思いますか。(最もあてはまるものどれか1つにだけ○)

- |   |
|---|
| 1. 自宅(集合住宅を含む)で、(介助や支援を受けて)ひとりで暮らす        |
| 2. 自宅(集合住宅を含む)で、家族などと一泊に暮らす               |
| 3. グループホームなどで、介助や支援を受けながら、他の障害のある人と一緒に暮らす |
| 4. 障害のある人や高齢者のための施設で暮らす                   |
| 5. その他 ( )                                |
| 6. 先のことはわからない、まだ考えたことがない                  |

問43 あなたが希望する将来の暮らしを実現するために、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                         |                        |
|-------------------------|------------------------|
| 1. 安心して住宅に入居できること       | 8. 収入が確保できること          |
| 2. 働く場所があること            | 9. パートナートと出会う機会        |
| 3. 通所施設や日中の居場所が近くにあること  | 10. 家族の理解              |
| 4. グループホームなどが近くにあること    | 11. 地域の人の障害や難病のある人への理解 |
| 5. 病院や診療所が近くにあること       | 12. その他 ( )            |
| 6. いざというときに施設に入れること     | 13. 特に必要と思うことはない       |
| 7. 在宅生活を支えるサービスを受けられること |                        |

問44 地域で生活するために、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                     |                     |
|-------------------------------------|---------------------|
| 1. 在宅で医療的ケアなどが適切に受けられること (通院や住診を含む) | 5. 経済的な負担の軽減        |
| 2. 障害のある人に適した住居の確保                  | 6. 相談対応等の充実         |
| 3. 必要な在宅サービスが適切に利用できること             | 7. 地域住民等の理解         |
| 4. 生活訓練等の充実                         | 8. コミュニケーションについての支援 |
|                                     | 9. その他 ( )          |



## 障害者にかかわる計画の策定に向けたアンケート ご協力をお願いします

1. このアンケートは、令和7年(2025年)10月31日現在、市内にお住まいの18歳未満の方で、

- ①身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方
- ②特定疾患の医療費助成にかかる登録をされている方
- ③障害福祉サービスまたは地域生活支援事業などの受給者証をお持ちの方

の中から無作為に選んだ3,000人を対象にお送りしています。  
なお、抽 出 の時点で調査票が届くまでの間に対象外となっている場合には、ご回答いただく必要はございません。

アンケートには、できるだけ封筒あて名のご本人様がお答えください。障害や病気の状況やご本人の年齢などによってご本人様が記入できないときは、介助・支援されている人、またはご家族などがご本人様と相談してお答えください。  
3. 基準日の指定がない質問には、令和7年(2025年)11月1日時点の状況でお答えください。

4. アンケートの回答方法は2種類あります。どちらかを選んでお答えください。インターネットで回答いただいた場合は、調査票の郵送は不要です。

①インターネット(パソコン・スマートフォン)で回答する

https://src.webcas.net/form/pub/src2/272035mj

※上のURL、もしくは右の二次元コードを読みとってアクセスしてください。アンケートに回答するとき、二次元コードの下に記載されている5桁のパスワードを入力してください。

※パスワードは、重複なくオンライン回答を受け付けるためのもので、回答者の氏名や住所などが特定されることはありません。

※インターネットでは、すべてにふりがなは表示されません。

②調査票に記入し、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて投函する。

回答にご協力いただいた方には、抽 選 で1,000名にマチカネポイント(100ポイント)を付与します。(マチカネポイントについて、くわしくは24ページをご覧ください)

12月22日(月曜)までにご回答ください

【調査についてのお問い合わせ】

0120-186-189(月～金曜日 午前9時～12時、午後1時～5時)

(調査委託先：株式会社サーベイリサーチセンター)

《調査実施主体》豊中市 福祉部 障害福祉課 電話：06-6858-3354

1 / 24

《はじめに読んでください(お願い)》  
調査に協力していただき、ありがとうございます。  
この調査票の質問の内容がよくわからないときは、ご家族の人などとよく相談しながらお答えください。  
ご本人以外の方が回答する場合は、ご本人の意向を十分に尊重するなど、ご本人の立場にたって回答いただきますよう、よろしくお願いたします。

## あなたやご家族について

問1 この調査票を記入した人はどなたですか。(どれか1つに○)

- 1. ご本人が記入
- 2. ご本人が答えて、家族の人が記入
- 3. ご本人にかわって家族の人が記入
- 4. その他( )

これ以降の質問で「あなた」とは、封筒のあて名のご本人のことです

問2 あなたの性別は。(どれか1つに○)

- 1. 男性
- 2. 女性
- 3. その他

問3 住んでいるところ(町名・丁目)をお答えください。

豊中市( )町( )丁目

問4 あなたの年齢は。(令和7年(2025年)4月1日現在)(数字を記入)

( )歳

問5 あなたの現在の所属先は、(どれか1つに○)

1. 保育所・認定こども園・幼稚園
2. 市立児童発達支援センター
3. 小学校
4. 支援学校(小学部)
5. 中学校
6. 支援学校(中学部)
7. 高等学校・専門学校(通信制含む)
8. 支援学校(高等部)
9. 児童発達支援事業所のみ  
(市立児童発達支援センター除く)
10. その他( )
11. 所属していない

問6 あなたはふだん、どのような方法でコミュニケーションをとっていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 口話
2. 手話
3. 筆談
4. 要約筆記
5. 点字
6. 音訳
7. 手のひら書き
8. 口文字
9. 触手話
10. 指文字
11. ジェスチャー
12. 絵や写真
13. 意思伝達装置など
14. その他( )

問7 あなたは、現在どのようなところで暮らしていますか。(どれか1つに○)

1. 自宅(集合住宅を含む)でひとり暮らし
2. 自宅(集合住宅を含む)で家族などと一緒に住んでいる
3. グループホームなど
4. 病院
5. その他( )

問7-1 だれと一緒に住んでいますか。(あてはまる人すべてに○)

1. 父
2. 母
3. きょうだい
4. 祖父母
5. 他の家族・親戚の人
6. その他( )

みなさんにお聞きします

問8 障害者手帳を持っている人は手帳の等級を教えてください。また、特定疾患の医療費助成、発達障害の診断などについてあてはまる人は番号に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者手帳	1. 1級	3. 3級	5. 5級
	2. 2級	4. 4級	6. 6級
療育手帳	7. A	8. B1	9. B2
精神障害者保健福祉手帳	10. 1級	11. 2級	12. 3級

13. 難病※1の認定を受けたり、小児慢性特定疾病の医療費助成を受けている

14. 医師から発達障害※2と診断されたり、その疑いがあるといわれたことがある

15. 医師から高次脳機能障害※3として診断されたことがある

16. 障害福祉サービスまたは地域生活支援事業などの受給者証を持っている

- ※1 難病(特定疾患)：発達の機軸が明らかでなく、治療方法が確立していない希少な疾病で、早期の療養を必要とするもの。
- ※2 発達障害：自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などのこと。
- ※3 高次脳機能障害：外傷性脳損傷、脳血管障害等により脳に損傷を受け、その後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害等を指すものとされており、具体的には「会話がうまくかみ合わない」などの症状がある。

問8-1 「身体障害者手帳」をお持ちの人は、障害の種類をお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 視覚障害
2. 聴覚障害・平衡機能障害
3. 音声・言語・そしゃく機能障害
4. 肢体不自由
5. 内部障害

みなさんにお聞きします

問9 あなたは現在、医療機関(病院・診療所)に通院していますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 身体障害、知的障害、精神障害、発達障害、難病等に関わることで通院している
2. その他の病気で通院している
3. 特に通院はしていない

問10 あなたは、家庭でどのような医療的ケアを受けていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1. 気管切開            | 8. 透析               |
| 2. 人工呼吸器 (レスピレーター) | 9. カテーテル留置          |
| 3. 吸入              | 10. ストマ (人工肛門・人工膀胱) |
| 4. 吸引              | 11. 服薬管理            |
| 5. 胃ろう・腸ろう         | 12. 酸素療法            |
| 6. 鼻経管栄養           | 13. その他 ( )         |
| 7. 中心静脈栄養 (IVH)    | 14. 医療的ケアは受けていない    |

問11 自宅にお住まいの方のみにお聞きします。  
あなたは、家庭で生活するなかで、何らかの介助や支援 (指示、声かけ、促しなど) も含みますか 必要ですか。(どちらか1つに○)

- ※補綴具や自助具などを使用している人は、それらを使用した前提で答えてください。
- |                            |
|----------------------------|
| 1. 介助や支援が必要なものがある ⇒ 問11-1へ |
| 2. 介助や支援は必要ない ⇒ 7 ページの間12へ |

問11で「1 介助や支援が必要なものがある」と回答した方にお聞きします  
問11-1 どのようなときに介助や支援が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

- |           |                  |
|-----------|------------------|
| 1. 食事     | 7. 外出            |
| 2. トイレ    | 8. 家族以外のひととの意思疎通 |
| 3. 入浴     | 9. 読み書き          |
| 4. 衣服の着脱  | 10. お金の管理        |
| 5. 身だしなみ  | 11. 薬の管理         |
| 6. 家の中の移動 | 12. その他 ( )      |

問11-2 介助や支援を受けている時間は、ふだんの1日で合計して何時間ぐらいですか。サービスを利用している時間を除いてお答えください。(どれか1つに○)

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| 1. 1時間未満     | 4. 6時間～12時間未満   |
| 2. 1時間～3時間未満 | 5. 12時間以上       |
| 3. 3時間～6時間未満 | 6. 介助や支援は受けていない |

問11-3 主に介助・支援してくれる人はだれですか。(あてはまる人すべてに○)  
また、その中から、時間が長い順に3人までお答えください。

- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1. 父や母    | 5. 友人・知人・近所の人     |
| 2. きょうだい  | 6. ボランティア         |
| 3. 祖父母    | 7. ヘルパーなどの介助者・支援者 |
| 4. その他の親族 | 8. その他 ( )        |

時間が長い順にお答えください⇒	第1位	第2位	第3位
-----------------	-----	-----	-----

問11-4 ヘルパーなどの介助者・支援者以外で、特に中心となって介助・支援してくれる人についてお答えください。(それぞれあてはまるもの1つに○)

性別	1. 男性	2. 女性	3. その他
年齢	1. ～17歳	3. 40～64歳	5. 75歳以上
	2. 18～39歳	4. 65～74歳	
健康状態	1. 特に問題ない	3. 通院中	
	2. 通院はしていないが体調がすぐれない	4. その他 ( )	
あなた以外の介助・支援	1. している	2. していない	
就労状況	1. 働いている (週 時間)	2. 働いていない	

### あなたの生活環境について

問12 豊中市やあなたが住んでいる地域は、障害や難病のある人が生活するうえで、どの程度環境が整っていると Think しますか。  
(①～⑨のそれぞれ、あてはまるもの1つに○)

	そう Think	まあまあそう Think	あまりそう Think ない	そう Think ない	わからない
<b>社会意識</b>					
①障害や難病があるからといって、学校や職場、地域で仲間はずれにされたり、無視されたりしない環境が整っている	1	2	3	4	5
②外で困ったとき、周囲の人が手助けしてくれる環境が整っている	1	2	3	4	5
③困りごとや悩みを、安心して相談できるところが身近に整っている	1	2	3	4	5
④身の回りの用事や家事を助けてくれるサービスがいつでも受けられ、もしひとり暮らしになっても、不安を感じない環境が整っている	1	2	3	4	5
⑤仕事をしたり、趣味を楽しんだりしながら、同じ障害や病気の仲間と過ごす場所が身近に整っている	1	2	3	4	5
⑥道路や施設が安全で、外に出かけても事故やけがの心配を感じない環境が整っている	1	2	3	4	5
⑦日ごろから災害に備えた情報が行き届き、もし災害が発生しても、安全に避難できる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑧人にだまされたり、泥棒にあたりたりする心配を感じない環境が整っている	1	2	3	4	5

	そう Think	まあまあそう Think	あまりそう Think ない	そう Think ない	わからない
<b>生活基礎</b>					
⑨暮らしに困らないだけの収入を得る環境が整っている	1	2	3	4	5
⑩安心して暮らし続けられる住まいが整っている	1	2	3	4	5
<b>教育</b>					
⑪通常学級の子どもたちと一緒に自分にあった教育が受けられる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑫障害や病気に配慮した教育が受けられる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑬障害や難病のある人に適したさまざまな職場があり、自分にあった職場を選べる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑭同じ仕事の質であれば、障害や難病のある人、それ以外の人も同じように評価される環境が整っている	1	2	3	4	5
<b>就労</b>					
⑮仕事で必要な技術や知識を学ぶ場が整っている	1	2	3	4	5
<b>保健医療</b>					
⑯費用の心配をせずに、必要な医療を受けられる環境が整っている	1	2	3	4	5
⑰自分にあったリハビリテーションの機会が身近に整っている	1	2	3	4	5
⑱いるいるな人とコミュニケーションができる環境が整っている	1	2	3	4	5
<b>情報</b>					
⑲まちや建物の案内板やアウンス、世間のニュースなど、自分に必要な情報を得やすい環境が整っている	1	2	3	4	5

問13 あなたは、障害や難病があっても、自分の望むライフスタイルに似た生活ができていますと感じますか。(どちらか1つに○)

1. はい (感じる)
2. いいえ (感じない)

問14 あなたはどのくらい外出しますか。(どれか1つに○)

1. ほとんど毎日
2. 週4～5回
3. 週2～3回
4. 週1回
5. 月2～3回
6. 月1回
7. ほとんど外出しない
8. その他 ( )

問15 外出時に困ることはありますか。(困っていることをすべて選んで○)

1. 車の通行時などに危険を感じる
2. 道路や建物の段差などで移動しにくい
3. 電車やバスの乗り降りがしにくい
4. 自転車や看板などで路上が通りにくい
5. 障害のある人のための駐車スペースが使えない
6. 障害のある人のためのトイレが少な
7. 障害や病気に配慮された設備が整っていない
8. 交通機関や建物などの案内が少ない
9. 付き添いや介助してくれる人がいない
10. 人の見る目や言葉が気になる
11. 人との会話が難しい
12. いじめや意地悪をされるのがこわい
13. その他 ( )
14. 特に困っていることはない

問16 あなたは、どのような近所づきあいをしていますか。(どれか1つに○)

1. 近所の仲の良い人とよく行き来している
2. 会話は親しく話をする人がいる
3. あいさつ程度がほとんど
4. 近所づきあいをほとんどしていない

問17 日ごろ昼間の時間はどのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自宅や入院先の病室で過ごしている
2. ことも園・保育所(園)・幼稚園に通っている
3. 障害のある子どものための学校に通っている
4. 小学校・中学校に通っている
5. 高等学校や専門学校などに通っている
6. フリースクールなどに通っている
7. 通所施設などに通っている
8. 働いている
9. その他 ( )

問18 学校や通園施設などの放課後や休みの日には、どのように過ごしていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 通所施設(放課後等デイサービスなど)、訓練に通っている
2. 部活やサークル活動に参加している
3. 友だちと外で遊んだり、スポーツをする
4. 公民館や図書館などで過ごす
5. 塾や習い事に行く
6. 放課後子どもクラブ
7. 日中一時支援を利用している
8. 家や施設の中で過ごしている
9. ボランティア活動に参加している
10. その他 ( )

問19 学校や通園施設などの放課後や休日などの居場所や活動の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- ※「場」とは、場所だけでなく場面や状況、機会等のことをさします。
1. 障害のない人との情報交換や活動、交流を行える場
  2. 障害のある人との情報交換や活動、交流を行える場
  3. 一人で行っても安心してくつろげる場
  4. 昼間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聴いてくれる場
  5. ボランティアなど人の役に立つ活動を行える場
  6. 家族や友人と一緒に過ごせる場
  7. その他 ( )

問20 卒業後の進路はどのように考えていますか。(どれか1つに○)

1. さらに上の学校などで勉強を続けた
5. 家の仕事を手伝いたい
2. 訓練校を利用したい
6. 入所施設を利用したい
3. 通所施設や作業所などを利用したい
7. その他 ( )
4. 会社やお店などで働きたい
8. まだどうするか考えていない

問21 将来、働くことについては、どのようにお考えですか。(どれか1つに○)

1. 障害のない人と同じ職場で働きたい
2. 自宅でできる仕事をしたい
3. 障害のある人のための施設で生産活動をしたい
4. 障害や病気などで働くことができない
5. 働きたくない、働くつもりはない
6. わからない、まだ考えたことがない
7. その他 ( )

問22 障害のある人が職場で働き続けるためには、どのような支援が必要だと思いますか。現在、働いていない人は、「もし職場で働くとしたら」と考えてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

1. 生活リズムを整えたり、体力づくりを行うための訓練・指導
2. あいさつやコミュニケーションなど社会生活を送るための訓練・指導
3. いろいろな仕事を経験できる実習や職場体験
4. 障害の特性や能力などに応じた仕事の割り当て、職場探し
5. 経営者や職場の同僚の障害への理解
6. 仕事に慣れるまでの指導を行ったり、相談にのる支援者
7. 仕事の悩みを相談したり、仲間と語りあうなど、仕事帰りに息抜きできる場
8. 職場で働くことに失敗した人を受け入れてくれる施設
9. 職場における介助や運動時の支援
10. バリアフリートイレなど職場環境の整備
11. その他 ( )

情報の手と相談について

問23 あなたは、次の情報について、十分得られていますか。(①～⑩のそれぞれ、あてはまるもの1つに○)

情報の種類	十分に	まあ十分に	やや不十分	不十分	わからない
①障害福祉サービスの内容	1	2	3	4	5
②専門的な相談機関	1	2	3	4	5
③悩みを相談できる人や団体、機関	1	2	3	4	5
④同じ障害の仲間と出会う場	1	2	3	4	5
⑤進学する学校	1	2	3	4	5
⑥卒業後の進路	1	2	3	4	5
⑦仕事に就くための支援	1	2	3	4	5
⑧地域で参加できる行事や学べる場	1	2	3	4	5
⑨障害のあることが利用しやすい施設や設備	1	2	3	4	5
⑩道路や施設等のバリアフリー情報	1	2	3	4	5
⑪医療情報 (医療機関の情報も含む)	1	2	3	4	5

問23-1 問23の項目以外で、必要な情報がありましたら、ご目にお書きください。

問24 健康や医療面で不安に感じたり、困っていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障言が重くなったり病状が進むこと
2. 生活習慣病などの病気がある
3. 健康診断が受けられない、受けにくい
4. 健康を保つ方法がわからない
5. 薬の飲み方・使い方がわからない
6. 近くで専門的な治療を受けられない
7. 十分なリハビリテーションが受けられない
8. 訪問看護や在宅診療してもらえない
9. 障言に理解や経験のある医師が身近にいない
10. 症状を伝えにくい、説明がわからない
11. 診療の受付や案内がわかりにくい
12. 介助者や付き添ってくれる人がいない
13. お金がかかると
14. 交通が不便、移動が大変
15. 出産について相談するところがない
16. 発育・発達について相談するところがない
17. こころの病気について相談するところがない
18. その他 ( )
19. 困っていることは特にない

問25 家族や親戚、白ごろ通場所(学校や通園施設など)以外で、困ったことや心配に思っていることを相談したことはありますか。(どちらか1つに○)  
ある場合は、だれに相談したか書いてください。

1. ある ⇒ だれに相談しましたか? ( )
2. ない ⇒ 14ページの問25-4へ

問25で「1 ある」と回答した方にお聞きします

問25-1 あなたが今、気にかかっていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 自分の障言や病気に関すること
2. 利用できる福祉制度やサービスの内  
容・利用方法
3. 家族からの自立・家族がなくなつたときの生活
4. 進学や就職などの進路のこと
5. 生活費に関すること(給料・年金など)
6. 金銭の管理に関すること
7. 学校など屋間に通っている場でのこと
8. 職場や仕事のこと
9. 災害など緊急時の対応
10. 家族との人間関係
11. 家族以外の人との人間関係
12. 成年後見制度に関すること
13. その他 ( )

問25-2 相談したときのように思いましたか。(どれか1つに○)

1. 今後も同じ人(機関)に相談したいと思つた
2. 別の人(機関)に相談したいと思つた
3. もう相談はしたくないと思つた
4. その他 ( )

問25-3 そう思つたのはなぜですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 話を聞いてもらえなかった
2. 困ったことや心配に思うことを理解してもらえなかった
3. 専門的な助言を受けられなかった
4. 障言への理解がたりないと感じた
5. 別の相談窓口を紹介された
6. その他 ( )
7. 特に理由はない

問25で「2 ない」と回答した方にお聞きします

問25-4 相談したことがない理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

1. 相談したいことがない(困っていない)
2. どこに相談したらいいかわからない(相談できる場所の情報がない)
3. 専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない
4. 相談できる場所が近くにない
5. 障言や病気のため、相談窓口などに出不向かい
6. その他 ( )
7. 特に理由はない

みなさんにお聞きします

問26 市内における今後の相談支援体制について、どのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 休日や夜間の電話相談
2. 福祉の専門職を配置した相談窓口の整備
3. 同じ障言を持つ相談員によるカウンセリング
4. 小学校区単位で開設される福祉なんでも相談
5. 家族の悩みを受け止められる家族相談員
6. 障言に関わる診断や発達支援、治療・ケアに関する専門的な相談
7. 医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談支援体制
8. 将来の自立生活に向けた指導や相談
9. オンラインでの相談対応
10. その他 ( )

発達支援・教育について (問27から問31までは保護者の人におうかがいします)

問27 障害のある人の発達支援や教育について、これまでどこに相談しましたが、(あてはまるものすべてに○)

1. 市役所 ( )
2. 障害福祉課、おやこ保健課など ( )
3. 障害福祉センターやひまわり ( )
4. 市立児童発達支援センター ( )
5. 市教育委員会(教育センター) ( )
6. 保健センター ( )
7. 子育て支援センター ( )
8. 児童相談所 ( )
9. 小学校・中学校・高等学校 ( )
10. 支援学校 ( )
11. 指定計画相談支援事業所 ( )
12. 社会福祉協議会 ( )
13. 民生・児童委員 ( )
14. 障害のある人のための福祉施設や団体 ( )
15. 医療機関(病院・診療所) ( )
16. その他 ( )

問28 発達支援や教育に関する相談について望むことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 相談機関の情報提供してほしい ( )
2. 困ったときにすぐに相談できるような体制を整えてほしい ( )
3. 1か所で相談できるようにしてほしい ( )
4. 専門的な相談機関を充実してほしい ( )
5. 具体的な対応のしかたをわかりやすく教えてほしい ( )
6. その他 ( )

問29 乳幼児期における母子保健や発達支援に関わることでどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 乳幼児健康診断の結果を丁寧に説明してほしい ( )
2. 訪問指導(保健師や助産師が自宅に訪問して赤ちゃんの発育などについて指導や助言をおこなう事業)を充実してほしい ( )
3. 福祉サービスや通所支援サービスについての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい ( )
4. 通園事業・通所支援事業などを充実してほしい ( )
5. その他 ( )

問30 子ども園や保育所(園)や幼稚園、福祉施設など、障害のあることのための通所型の施設やサービスについて、どのようなことを希望しますか。(主なものを3つまで○)

1. 専門的な相談・指導 ( )
2. 子ども園・保育所(園)・幼稚園での障害児教育・保育の充実 ( )
3. 発達をうながすための支援 ( )
4. 集団で生活するための支援 ( )
5. 身のまわりのことが自分でできるよ ( )
6. 友達とつくりやいやる人との交流 ( )
7. 安心して遊ぶことができる場 ( )
8. 入浴や食事などのサービス ( )
9. 一時的な見守りや介助 ( )
10. その他 ( )
11. 特に希望するものはない ( )

問31 障害のあることのための施策やサービスなどで、特に充実か必要と思うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 早期発見・診断 ( )
2. 市役所などの相談体制 ( )
3. 家庭訪問による相談・指導 ( )
4. 地域における発達支援、リハビリテーション ( )
5. 子ども園・保育所(園)・幼稚園での受け入れ ( )
6. 小・中学校、高等学校での教育機会の拡充 ( )
7. 障害児通園施設の整備 ( )
8. 学校の基礎的な環境整備・合理的配慮 ( )
9. 専門的な教育の充実 ( )
10. 通学・通園時の介助・付き添い ( )
11. 学童保育や休日などの居場所づくり ( )
12. 安心して遊べる機会・場の確保 ( )
13. 地域社会と関わる機会や環境づくり ( )
14. 保護者が介助・支援できないときの一時的な見守りや介助 ( )
15. その他 ( )

災害など緊急時の対応について

問32 あなたは、最寄りの避難場所を知っていますか。(どちらか1つに○)

1. 知っている ( )
2. 知らない ( )

問33 あなたは、災害があった際にあなた一人で避難できますか。(どれか1つに○)

1. できる ( )
2. できない ( )
3. わからない ( )

問34 だれか避難等の援助を頼める人が身近にいますか。(どちらか1つに○)

1. いる
2. いない

問35 火事や地震など緊急時の対応について、障害や難病のある人の立場からどのようなことが重要だと思いますか。(重要と思うものすべてに○)

1. 災害が発生したときにすぐに知らせてくれる体制をつくる
2. 避難場所までの行き方をわかりやすく案内したり、教える
3. 地域の人などがすぐに助けにきてくれる体制をつくる
4. 日ごろから災害などに備えて地域で避難や救助の練習をする
5. 災害など非常事態になった後の相談体制を整える
6. 避難場所での生活に特別な配慮や工夫をおこなう
7. 自宅や避難場所に定期的に医師が訪問する
8. その他 ( )

問36 ここ3年において、あなた、障害や難病があるためにあきらめたり、仕方なくかまんだりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 進学
2. 仕事や就職
3. 恋愛
4. 結婚
5. 子育て
6. 泊りがけの旅行
7. 一人での外出
8. 友人とのつきあい
9. スポーツ
10. 趣味、文化活動
11. その他 ( )
12. 特にない
13. わからない

問37 ここ3年において、あなたは、障害や難病があることで嫌な思いをしたり、差別や偏見を受けたりしたことがありますか。(どれか1つに○)

1. よくある
2. ときどきある
3. あまりない
4. まったくない → 問38へ

問37-1 へ

問37 「1」～「3」のいずれかに回答した方にお聞きします

問37-1 それは、どのような場面ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 進学するときや学校生活において
2. 就職するときや職場生活において
3. 近所づきあい、地域の行事等において
4. 家庭生活において
5. 福祉サービスを利用するとき
6. 医療を受けるとき
7. 役所で手続きするときや公共施設を使うとき
8. 公共交通機関を利用するとき
9. ものをかう、食事をするなどお店を
10. スポーツや文化活動をするとき
11. まちを歩いているとき
12. その他 ( )

問37-2 それは、どのような差別ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた
2. 障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない
3. 差別的な発言を受けた
4. その他 ( )

みなさんにお聞きします

問38 あなたの権利が奪われたり、損なわれたりしないようにするために、どのような手助けや取り組みがあるとよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 困りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口
2. 弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口
3. 自分の代わりに交渉ことや財産等の管理をしてくれるサービス
4. 障害や難病のある人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に応じて調査や指導などをおこなう第三者による制度
5. 障害や難病のある人の権利について、障害や難病のある人自身が学ぶ機会を増やすこと
6. 障害や難病のある人の権利について社会の意識を高めること
7. その他 ( )
8. 特にない
9. わからない

問39 あなたは、3年前に比べて、「障害」「難病」に対して、広く市民の理解が進んできていると思いますか。(どれか1つに○)

1. 進んできている
2. 多少進んできている
3. どちらともいえない
4. 多少後退してきている
5. 後退してきている
6. わからない

問39-1 問39の回答の理由は何か。ご自由にお書きください。

問40 豊中市では、障害や難病のある人に対する理解を深めるための広報や行事を実施していますが、あなたはそれを見たり参加したりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 広報記事を読んだことがある
2. 障害者週間のパネル展を見たことがある
3. ひまわりひろば等の地域交流事業に参加したことがある
4. 出前講座に参加したことがある
5. 講演会・イベントに参加したことがある
6. ホームページを見たことがある
7. その他( )
8. 広報を見たり、行事等に参加したことはない

問41 あなたは、どのような方法で情報を得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. テレビ・ラジオ
2. 新聞
3. 雑誌・書籍
4. 広報とよなか
5. ホームページ
6. SNS (X (旧 Twitter)、Instagramなど)
7. メールマガジン
8. ポスター・チラシ
9. 行政の出版物 (パンフレット、行政計画、報告書等)
10. 講演会、講座
11. イベント
12. その他( )

問42 あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)について知っていますか。(どれか1つに○)

1. 名前も内容も知っている
2. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
3. 名前も内容も知らない

問43 豊中市は、手話は言語であるという認識に基づき、手話言語の理解及び普及について総合的かつ計画的に施策を推進するため、豊中市手話言語アクションプランを策定しています。あなたは、手話は言語であると知っていますか。(どれか1つに○)

1. 知っている
2. 知らない

問44 あなたは、「手話は言語である」という理解が市民に浸透してきていると思いますか。(どれか1つに○)

1. 思う
2. どちらかというと思う
3. どちらかかというと思わない
4. 思わない

### 福祉サービスについて

問45 障害のある人のための福祉サービスについて、①現在の利用状況、②利用して気になったり、不満に思うことの有無、③今後の利用についてのお考えをそれぞれ答えてください。(サービスの内容については別紙の表を見てください。)

サービスの種類	①現在の利用状況	②気になったり、不満に思うこと	③今後の利用
(例) □◇△サービス	① 利用している → 1. 利用している 2. 利用していない	① ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	① 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(1) 居宅介護 (ホームヘルプ)	1. 利用している 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(2) 移動支援 (ガイドヘルプ)	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない

1. 身近なところでサービスを利用できない
2. 利用したい日・時間に利用できない
3. 利用回数・時間などに制限がある
4. サービス事業所に利用を断られることが多い
5. 利用料が高い
6. ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している
7. 建物や設備が障害に配慮されていない
8. サービス内容に関する情報が少ない
9. 相談や手続きに時間がかかり面倒くさい
10. その他( )

サービスの種類	① 現在の利用状況	② 気になったり、不満に思うこと	③ 今後の利用
(11) 相談支援	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(12) 障害児一時預かり事業(市独自事業)	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(13) 通学支援サービス	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(14) その他のサービス ( )	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない

1. 身近なところでサービスを利用できない  
2. 利用したい日・時間に利用できない  
3. 利用回数・時間などに制限がある  
4. サービス事業所に利用を断られることが多い  
5. 利用料が高い
6. ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している  
7. 建物や設備が障害に配慮されていない  
8. サービス内容に関する情報が少ない  
9. 相談や手続きに時間がかかり面倒くさい  
10. その他( )

問46 障害のある人のためのサービスを利用していない人は、その理由であてはまるものを答えてください。(あてはまるものすべてに○)

1. 必要を感じない  
2. 制度やサービスのことを知らない  
3. 利用の仕方がわからない  
4. 利用したことがないので気がひける  
5. 費用がかかる  
6. 人に世話をかけたくない  
7. 人の目が気になる  
8. 家の人が反対する  
9. その他 ( )

サービスの種類	① 現在の利用状況	② 気になったり、不満に思うこと	③ 今後の利用
(3) 補装具	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(4) 日常生活用具	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(5) 児童発達支援	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(6) 居宅訪問型児童発達支援	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(7) 放課後等デイサービス	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(8) 短期入所(ショートステイ)	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(9) 保育所等訪問支援	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(10) 日中一時支援事業	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(下の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない

1. 身近なところでサービスを利用できない  
2. 利用したい日・時間に利用できない  
3. 利用回数・時間などに制限がある  
4. サービス事業所に利用を断られることが多い  
5. 利用料が高い
6. ヘルパーや指導員など支援者の知識・経験が不足している  
7. 建物や設備が障害に配慮されていない  
8. サービス内容に関する情報が少ない  
9. 相談や手続きに時間がかかり面倒くさい  
10. その他 ( )



## 障害者にかかわる計画の策定に向けたアンケート ご協力をお願いします

- このアンケートは、抽出日現在、豊中市が障害者支援施設等入所にかかる給付実施主体となって施設に入所されている人すべてにお送りしています。  
なお、抽出の時点から調査票が届くまでの間に対象外となっている場合には、ご回答いただく必要はございません。
- アンケートには、できるだけ封筒あて名のご本人様がお答えください。障害や病気の状況やご本人の年齢などによってご本人様が記入できないときは、介助・支援されている人、またはご家族、施設職員などがご本人様と相談してお答えください。
- 基準日の指定がない質問には、令和7年(2025年)11月1日時点の状況でお答えください。
- アンケートの回答方法は2種類あります。どちらかを選んでお答えください。  
インターネットで回答いただいた場合は、調査票の郵送は不要です。  
お名前の記入は不要です。

①インターネット(パソコン・スマートフォン)で回答する  
<https://src.webcas.net/form/pub/src2/272035sn>

※上のURL、もしくは右の二次元コードを読みとってアクセスしてください。アンケートに回答するとき、二次元コードの下に記載されている5桁のパスワードを入力してください。

※パスワードは、重複なくオンライン回答を受け付けるためのもので、回答者の氏名や住所などが特定されることはありません。

※インターネットでは、すべてにふりがなは表示されません。

②調査票に記入し、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて投函する。

回答にご協力いただいた方には、抽選で1,000名にマチカネポイント(100ポイント)を付与します。  
(マチカネポイントについて、くわしくは11ページをご覧ください)

12月22日(月曜)までにご回答ください

0120-186-189(月～金曜日 午前9時～12時、午後1時～5時)  
【調査についてのお問い合わせ】  
(調査委託先：株式会社サーベイリサーチセンター)  
《調査実施主体》豊中市 福祉部 障害福祉課 電話：06-6858-3354

## 《はじめに読んでください(お願い)》

調査に協力していただき、ありがとうございます。ご家族の人などとよく相談しながらお答えください。

ご本人以外の方が回答する場合は、ご本人の意向を十分に尊重するなど、ご本人の立場にたって回答いただきますよう、よろしくお願いいたします。

## あなたやご家族について

問1 この調査票を記入した人はどなたですか。(どれか1つに○)

- ご本人が記入
- ご本人にかわって家族の人が記入
- ご本人が答えて、施設職員が記入
- その他( )

これ以降の質問で「あなた」とは、封筒のあて名のご本人のことです

問2 あなたの性別は。(どれか1つに○)

- 男性
- 女性
- その他

問3 あなたの年齢は。(令和7年(2025年)4月1日現在)(どれか1つに○)

- 18～19歳
- 20～24歳
- 25～29歳
- 30～34歳
- 35～39歳
- 40～44歳
- 45～49歳
- 50～54歳
- 55～59歳
- 60～64歳
- 65歳以上

問4 あなたはふだん、どのような方法でコミュニケーションをとっていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 口話
2. 手話
3. 筆談
4. 要約筆記
5. 点字
6. 音訳
7. 手のひら書き
8. 口文字
9. 触手話
10. 指文字
11. ジェスチャー
12. 絵や写真
13. 意思伝達装置など
14. その他 ( )

問5 障害者手帳を持っている人は手帳の等級を教えてください。また、特定疾患の医療費助成、発達障害の診断などについてあてはまる人は番号に○をつけてください。(あてはまるものすべてに○)

身体障害者手帳	1. 1級	3. 3級	5. 5級
	2. 2級	4. 4級	6. 6級
療育手帳	7. A	8. B1	9. B2
精神障害者保健福祉手帳	10. 1級	11. 2級	12. 3級

13. 難病※1の認定を受けたり、特定疾患の医療費助成を受けている

14. 医師から発達障害※2と診断されたり、その疑いがあるといわれたことがある

15. 医師から高次脳機能障害※3として診断されたことがある

※1 難病（特定疾患）：発病の機構が明らかでなく、治療方法が確立していない希少な疾病で、長期の療養を必要とするもの。

※2 発達障害：自閉症、アスペルガー症候群、その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害などのこと。

※3 高次脳機能障害：外傷性脳損傷、脳血管障害等により脳に損傷を受け、その後遺症等として生じた記憶障害、注意障害、社会的行動障害などの認知障害等を指すものとされており、具体的には「全話がうまくかみ合わない」などの症状がある。

問5-1 「身体障害者手帳をお持ちの人は、障害の種類をお答えください。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 視覚障害
2. 聴覚障害・平衡機能障害
3. 音声・言語・そしゃく機能障害
4. 肢体不自由
5. 内部障害

みなさんにお聞きします

問6 障害支援区分をお答えください。(どれか1つに○)

1. 区分1
2. 区分2
3. 区分3
4. 区分4
5. 区分5
6. 区分6
7. 非該当

問7 あなたは、日ごろ生活するなかで、どのようなときに介助や支援(指示、声かけ、促しなども含みます)が必要ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 食事
2. トイレ
3. 入浴
4. 衣服の着脱
5. 身だしなみ
6. 施設中の移動
7. 外出
8. 家族・施設職員以外のひととの意思疎通
9. 読み書き
10. お金の管理
11. 薬の管理
12. その他 ( )

問8 あなたは、現在の施設における入所年数は何年ですか。(どれか1つに○)

1. 1年未満
2. 1年～3年未満
3. 3年～5年未満
4. 5年～10年未満
5. 10年～20年未満
6. 20年～30年未満
7. 30年以上
8. わからない

問9 現在の施設に入所した主な理由は何か。(あてはまるものすべてに○)

1. あなたご自身で決めた
2. 家族などのすすめ
3. 医師のすすめ
4. 福祉施設・事業所のすすめ
5. 障害が重くなった
6. 介助・支援者の高齢化や他界
7. その他 ( )
8. わからない

問10 ご家族や知人等についてあてはまるものをお答えください。  
(①～③それぞれ、1つずつに○)

①家族の有無	1. 豊中市内に在住	3. 家族はいない
	2. 他自治体に在住	
②家族・知人との 連絡頻度	1. ほぼ毎日	4. 年に1～数回
	2. 週に1～数回	5. 連絡がとれない
	3. 月に1～数回	6. その他( )
③家族・知人の訪問 頻度	1. ほぼ毎日	4. 年に1～数回
	2. 週に1～数回	5. 連絡がとれない
	3. 月に1～数回	6. その他( )

しょうらい かの  
将来の暮らし方について

問11 あなたは、施設から退所して、地域で生活したいと感じたことはありませんか。  
(どれか1つに○)

1. はい      2. いいえ      3. わからない

問11で「1 はい」と回答した方にお聞きします

問11-1 それはどうしてですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 地域に家族や知り合いがいる  
2. 自分の生活は自分で決めて暮らしたい  
(好きな時に起きたり、食べたりできるなど)  
3. その他( )  
4. わからない

問11-2 だれと一緒に暮らしたいですか。(あてはまる人すべてに○)

1. 父や母      6. 一緒に暮らしたい人はいない  
(一人で暮らしたい)  
2. きょうだい      7. その他( )  
3. 配偶者(夫・妻)・パートナー  
4. 自分のことも・孫  
5. 友人・知人      8. わからない

問11-3 どこで暮らしたいですか。(どれか1つに○)

1. 施設に入る前に住んでいた地域      4. その他( )  
2. それ以外の豊中市内  
3. 今の施設の近く      5. わからない

問11-4 どんな住まいで暮らしたいですか。(どれか1つに○)

1. グループホーム以外の家      3. その他( )  
2. グループホーム      4. わからない

問11-5 地域での暮らしでは、日ごろ屋間の時間はどのように過ごしたいですか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 部屋で、静かに休みたい  
2. 部屋で、勉強や読書などの趣味を行いたい  
3. 部屋で、家族と過ごしたい  
4. 定期的に通院しながら過ごしたい  
5. 生活訓練や機能訓練を受けに出かけたい  
6. 障害のある人のための施設で過ごしたい  
7. 障害のある人のための仕事場で仕事をしたい  
8. 学校等に行きたい  
9. 就労訓練を受けに出かけたい  
10. スポーツ・文化活動をしたい  
11. その他の用途で、外出して過ごしたい  
12. その他( )

問11-6 地域での暮らしでは、平日の夜間や休みの日などはどのようなように過ごしたいですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 部屋で、静かに休みたい
2. 部屋で、勉強や読書などの趣味を  
行いたい
3. 部屋で、家族と過ごしたい
4. 障雪のある人のための施設で過ご  
したい
5. 図書館や公民館に行きたい
6. 学校等に行きたい
7. スポーツ・文化活動をしたい
8. 散歩・買い物・映画鑑賞等に行きた  
い
9. 外食に行きたい
10. 旅行に行きたい
11. ボランティア活動に参加したい
12. その他の用途で、外出して過ごした  
い
13. その他  
( )

みなさんにお聞きします

問12 施設を退所して地域で生活することについて、あなたが不安に思うことは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 施設外の生活をよく知らない
2. どのような流れで施設を出て地域で暮らすことになるかがわからない
3. 退所について相談したり、施設・家族との調整、引越準備を手伝ってく  
れる人に心当たりがない
4. 自分が施設にいることを家族が希望しているのではないと思う
5. この施設の入所者・職員と会ににくくなるのではないかと不安がある
6. 自分が地域で生活することを家族や施設の職員が応援してくれないか不安がある
7. 施設外に、家族や友人がいない
8. 施設外には、安心して相談したり、頼ったりできる人がいないのではないかと不安がある
9. 自分の健康状態や体力、体の動きに不安がある
10. 住みたい場所に、年を重ねても安心して暮らせる住まいがあるか不安がある
11. 住みたい場所で、年を重ねても安心して暮らせるサービスを受けられるか不安がある
12. 住みたい場所で、年を重ねても安心して暮らせる医療を受けられるか不安がある
13. 施設外の暮らしは、自分の収入では維持できないのではないかと不安がある
14. 地域の人が障雪について理解してくれるか不安がある
15. その他  
( )
16. 特に不安はない
17. わからない

問13 地域生活への不安が解消されたら、すぐに地域で暮らしてみたいですか。(どれか1つに○)

1. すぐに暮らしてみたい
2. 何度か地域での生活を体験してから改めて考えたい
3. その他  
( )
4. わからない

問14 地域移行支援(退所について相談したり、施設・家族との調整、引越準備等を手伝ったり、施設外の暮らしの相談にのるサービス)を利用したいと思いませんか。(どれか1つに○)

1. すぐに利用したい
2. 将来的には利用したい
3. 利用したくない  
(理由：  
)
4. わからない  
(理由：  
)

**障害や難病のある人の人権と障害・難病の理解促進について**

問15 ここ3年において、あなたは、障害や難病があることで嫌な思いをしたり、差別や偏見を受けたりしたことがありますか。(どれか1つに○)

- 1. よくある
- 2. ときどきある
- 3. あまりない
- 4. まったくない → 問16へ

問15で「1」～「3」のいずれかに回答した方にお聞きします

問15-1 それは、どのような場面ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 進学するときや学校生活において
- 2. 就職するときや職場生活において
- 3. 結婚するとき
- 4. 近所づきあい、地域の行事等において
- 5. 家庭生活において  
(入所前や帰宅時など)
- 6. 施設での生活において
- 7. 福祉サービスを利用するとき
- 8. 医療を受けるとき
- 9. 役所で手続きするときや公共施設を使うとき
- 10. 公共交通機関を利用するとき
- 11. ものを買い、食事をするなどお店を利用するとき
- 12. スポーツや文化活動をするとき
- 13. 家を借りるとき
- 14. まちを歩いているとき
- 15. 選挙など政治に参加するとき
- 16. 司法手続きにおいて
- 17. その他(具体的に記入してください。)

問15で「1」～「3」のいずれかに回答した方にお聞きします

問15-2 それは、どのような差別ですか。(あてはまるものすべてに○)

- 1. 障害を理由に施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた
- 2. 障害への配慮が欠けるため、障害がない人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない
- 3. 差別的な発言を受けた
- 4. その他(具体的に記入ください。)

みなさんにお聞きします

問16 あなたは、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)について知っていますか。(どれか1つに○)

- 1. 名前も内容も知っている
- 2. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
- 3. 名前も内容も知らない

問17 豊中市は、手話は言語であるという認識に基づき、手話言語の理解及び普及について総合的かつ計画的に施策を推進するため、豊中市手話言語アクションプランを策定しています。あなたは、手話は言語であると知っていますか。(どれか1つに○)

- 1. 知っている
- 2. 知らない

問18 あなたは、「手話は言語である」という理解が市民に浸透してきていると思いますか。(どれか1つに○)

- 1. 思う
- 2. どちらかかと思う
- 3. どちらかかと思うと思わない
- 4. 思わない



## 発達に支援を必要とする児童にかかわる計画の策定に 向けたアンケート ご協力のお願い

1. このアンケートは、令和7年(2025年)10月31日現在、市内にお住まいの人のうち  
通所支援受給者証をお持ちの児童(18歳未満の子ども)とその保護者 約500組  
を無作為抽出し、お送りしています。

※ただし、次の①～③に該当する人は除きます。

- ① 身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの人
- ② 特定疾患の医療費助成にかかる登録をされている人
- ③ 障害福祉サービス、地域生活支援事業などの受給者証をお持ちの人

2. なるべく児童ご本人の気持ちや意見が反映されるよう、保護者やご家族、またはご本人を介助・支援している人などがお答えいただく場合は、可能な限り、ご本人と相談しながらお答えください。

3. 基準日の指定がない質問には、令和7年(2025年)11月1日時点の状況でお答えください。

4. アンケートの回答方法は2種類あります。どちらかを選んでお答えください。

インターネットで回答いただいた場合は、調査票の郵送は不要です。  
お名前の記入は不要です。

①インターネット(パソコン・スマートフォン)で回答する  
<https://src.webcas.net/form/pub/src2/272035tj>

※上のURL、もしくは右の二次元コードを読みとってアクセスしてください。アンケートに回答するとき、二次元コードの下に記載されている5桁のパスワードを入力してください。

※パスワードは、重複なくオンライン回答を受け付けるためのもので、回答者の氏名や住所などが特定されることはありません。

※インターネットでは、すべてにふりがながは表示されません。

②調査票に記入し、同封の障害福祉課宛の返信用封筒(切手不要)に入れて投函する。

抽選で1,000名にマチカネポイント(100ポイント)を付与します。  
(マチカネポイントについて、くわしくは18ページをご覧ください)

12月22日(月曜)までにご回答ください

0120-186-189

189 (調査についてのお問い合わせ)  
午前9時～12時、午後1時～5時

《調査実施主体》豊中市 こども未来部 およご保健課 電話：06-6858-2285

## 児童ご本人について

問1 この調査票を記入した人はあなたですか。(どれか1つに○)

1. ご本人が記入
2. ご本人が答えて、家族の人が記入
3. ご本人にかわって家族の人が記入
4. その他

問2 ご本人の性別は。(どれか1つに○)

1. 男性
2. 女性
3. その他

問3 ご本人の年齢は。(令和7年(2025年)4月1日現在)(数字を記入)

( ) 歳

問4 ご本人の現在の所属先は。(どれか1つに○)

1. 保育所・認定こども園・幼稚園
2. 市立児童発達支援センター
3. 小学校
4. 支援学校(小学部)
5. 中学校
6. 支援学校(中学部)
7. 高等学校・専門学校(通信制含む)
8. 支援学校(高等部)
9. 児童発達支援事業所のみ(市立児童発達支援センター除く)
10. その他
11. 所属していない

問5 住んでいるところ(町名・丁目)をお答えください。

豊中市 ( ) 町 ( ) 丁目

問6 だれと一緒に住んでいますか。(あてはまる人すべてに○)

1. 父
2. 母
3. きょうだい
4. 祖父母
5. 他の家族・親戚の人
6. その他

問7 ご本人は、現在、医療機関（病院・診療所）に通院していますか。  
（あてはまるものすべてに○）

1. 発症に関わることで通院している
2. その他の病気で通院している
3. 特に通院はしていない
4. その他（ ）

問8 家庭で生活するなかで、何らかの支援（指示、声かけ、促しなども含みます）が必要ですか。（どちらか1つに○）

1. 支援が必要なものがある（→問8-1へ）
2. 支援は必要ない（→問9へ）

問8で「1 支援が必要なものがある」と回答した方にお聞きします

問8-1 どのようなときに支援が必要ですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 食事
2. トイレ
3. 入浴
4. 衣服の着脱
5. 身だしなみ
6. 外出
7. 家族以外の人との意思疎通
8. 読み書き・宿題
9. お金の管理
10. 薬の管理
11. その他（ ）

問8-2 支援を受けている時間は、ふだんの1日で合計して何時間ぐらいですか。  
サービスを利用している時間を除いてお答えください。（どれか1つに○）

1. 1時間未満
2. 1時間～3時間未満
3. 3時間～6時間未満
4. 6時間～12時間未満
5. 12時間以上
6. 支援は受けていない

問8-3 主に支援してくれる人はだれですか。（あてはまる人すべてに○）  
また、その中から、時間が長い順に3人までお答えください。

1. 父や母
2. きょうだい
3. 祖父
4. その他の親族
5. 友人・知人・近所の人
6. ボランティア
7. ヘルパーなどの介助者・支援者
8. その他（ ）

時間が長い順にお答えください⇒	第1位	第2位	第3位
-----------------	-----	-----	-----

問8-4 「ヘルパーなどの介助者・支援者」以外で、特に中心となって支援してくれる人についてお答えください。（それぞれあてはまるもの1つに○）

性別	1. 男性	2. 女性	3. その他
年齢	1. ～17歳	3. 40～64歳	5. 75歳以上
	2. 18～39歳	4. 65～74歳	
健康状態	1. 特に問題ない	3. 通院中	
	2. 通院はしていないが体調がすぐれない	4. その他（ ）	
あなた以外の介助・支援	1. している	2. していない	
就労状況	1. 働いている（週時間）	2. 働いていない	

生活環境について

問9 学校や通園施設などの放課後や休みの日には、どのように過ごしていますか。  
(あてはまるものすべてに○)

1. 通所施設（児童発達支援・放課後等デイサービス）に通っている
2. 部活やサークル活動に参加している
3. 友だちと外や家の中で遊んだり、スポーツをする
4. 公民館や図書館などで過ごす
5. 塾や習い事に行く
6. 放課後子どもクラブで過ごしている
7. 日中一時支援を利用している
8. 家や施設の中で過ごしている
9. その他（ ）

問10 学校や通園施設などの放課後や休日の場として、どのような場があれば行ってみたいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 発達に支援を必要としない人と一緒にさまざまな余暇活動を行える場
2. 発達に支援を必要とする人との情報交換や活動、交流を行える場
3. 一人で行っても安心してくつろげる場
4. 昼間の活動など生活上の悩みやストレスについて話を聞いてくれる場
5. ボランティアなど人の役に立つ活動を行える場
6. 家族や友人と一緒に過ごせる場
7. その他（ ）

※「場」とは、場所だけでなく場面や状況、機会等をさします。

情報の入手と相談について

問11 あなたは、次の情報について、十分得られていますか。  
(①～⑯のそれぞれ、あてはまるもの1つに○)

情報の種類	十分	まあ十分	やや不十分	不十分	わからない
①通所支援の内容	1	2	3	4	5
②障害福祉サービスの内容	1	2	3	4	5
③専門的な相談機関	1	2	3	4	5
④悩みを相談できる人や団体、機関	1	2	3	4	5
⑤同じ発達に支援を必要とすることと出会える場	1	2	3	4	5
⑥進学する学校	1	2	3	4	5
⑦卒業後の進路	1	2	3	4	5
⑧仕事に就くための支援	1	2	3	4	5
⑨地域で参加できる行事や学べる場	1	2	3	4	5
⑩発達に支援を必要とすることもが利用しやすい施設や設備	1	2	3	4	5
⑪道路や施設等のバリアフリー情報	1	2	3	4	5
⑫医療情報 (医療機関の情報も含む)	1	2	3	4	5

問11-1 問11の項目以外で、必要な情報がありましたら、ご自由にお書きください。

問12 健康や医療に関する情報の入手や相談について、困っていることがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 障害や発達に支援を必要とする人への理解や経験のある医師などの専門職が身近にいない	
2. 症状を伝えにくい、説明がわからない	
3. 発育・発達について相談するところがない	
4. 気持ちのしんどさについて相談するところがない	
5. その他 ( )	
6. 困っていることは特になし	

問13 家族や親戚以外で、困ったことや心配に思っていることを相談したことがありますか。(どちらか1つに○)

1. ある (→問13-1へ)	2. ない (→問13-2へ)
-----------------	-----------------

問13で「1 ある」と回答した方にお聞きします

問13-1 これまでどこに相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

1. 市役所	10. 支援学校
2. 障害福祉課、おやこ保健課など	11. 指定計画相談支援事業所
3. 障害福祉センターひまわり	12. 社会福祉協議会
4. 市立児童発達支援センター	13. 民生・児童委員
5. 保健センター	14. 障害のある人のための福祉施設や団体
6. 子育て支援センター	15. 医療機関(病院・診療所)
7. 児童相談所	16. その他 ( )
8. こども園・保育所(園)・幼稚園	
9. 小学校・中学校・高等学校	

問13で「2 ない」と回答した方にお聞きします

問13-2 相談したことがない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 相談したいことがない(困っていない)	
2. どこに相談したらいいかわからない(相談できる場所の情報がない)	
3. 専門的に相談したり、助言を受けられる場所がない	
4. 相談できる場所が近くにない	
5. 発達の課題や病気のため、相談窓口などに出席できない	
6. 相談したいが、窓口に行く勇気がない	
7. その他 ( )	
8. 特に理由はない	

みなさんにお聞きします

問14 今、気にかかっていることはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 発達に関すること	5. 学校など所属先でのこと
2. 利用できる福祉制度やサービスの内容・利用方法	6. 災害など緊急時の対応
3. 家族からの自立・家族がいなくなったり生活	7. 家族以外の人の人間関係
4. 進学や就職など進路のこと	8. 家族以外の人の人間関係
	9. その他 ( )

問15 今後、どのような相談支援体制が充実すればいいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談窓口	1. 医療・福祉・保健・教育など各分野が連携した総合的で一貫した相談窓口
2. 発達に関わる診断や発達支援、治療・ケアに関する専門的な相談窓口	2. 発達に関わる診断や発達支援、治療・ケアに関する専門的な相談窓口
3. 小・中学校単位で開設される、さまざまな悩みを相談できる窓口	3. 小・中学校単位で開設される、さまざまな悩みを相談できる窓口
4. 困ったときにすぐに相談できる休日や夜間の電話相談	4. 困ったときにすぐに相談できる休日や夜間の電話相談
5. 同じ発達の特性を持つ相談員によるカウンセリング	5. 同じ発達の特性を持つ相談員によるカウンセリング
6. 学校での授業や友人などとの人間関係についての相談窓口	6. 学校での授業や友人などとの人間関係についての相談窓口
7. 将来の自立生活に向けた悩みを相談できる窓口	7. 将来の自立生活に向けた悩みを相談できる窓口
8. オンラインでの相談対応	8. オンラインでの相談対応
9. その他 ( )	9. その他 ( )

発達に支援を必要とする子どものための施策やサービスなどで、特に充実が必要と感うものは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 早期発見・診断
2. 市役所などの相談体制
3. 家庭訪問による相談・指導
4. 地域における発達支援、リハビリテーション体制
5. 子ども園・保育所(園)・幼稚園での受け入れ
6. 小・中学校、高等学校での教育機会の拡充
7. 障害児通園施設の整備
8. 学校の基礎的な環境整備・合理的配慮
9. 専門的な教育の充実
10. 通学・通園時の介助・付き添い
11. 学童保育や休日などの居場所づくり
12. 安心して遊べる機会・場の確保
13. 地域社会と関わる機会や環境づくり
14. 保護者が支援できないときの一時的な見守り・支援
15. その他( )

発達支援・教育について (問16から問19までは保護者の方におうかがいします)

問16 乳幼児期における母子保健や発達支援に関わることでどのようなことを望みますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 乳幼児健康診断の結果を丁寧に説明してほしい
2. 訪問指導(保健師や助産師が自宅に訪問して赤ちゃんの発育などについて指導や助言をおこなう事業)を充実してほしい
3. 福祉サービスや通所支援サービスについての情報を提供し、わかりやすい説明をしてほしい
4. 通園事業・通所支援事業などを充実してほしい
5. その他( )

問17 現在、利用している通所支援の内容に満足していますか。(どれか1つに○)

1. はい
2. いいえ
3. どちらともいえない
4. わからない
5. 現在は利用していない

問18 どのような発達支援やサービスを受けられることを望みますか。(主なもの3つまでに○)

1. 専門的な相談・指導
2. 子ども園・保育所(園)・幼稚園での障害児教育・保育の充実
3. 発達をうながすための支援
4. 集団で生活するための支援
5. 身のまわりのことが自分でできるようにするための練習
6. 友だちづくりやいろいろな人との交流
7. 安心して遊ぶことができる場
8. 入浴や食事などのサービス
9. 一時的な見守りや介助
10. その他( )
11. 特に希望するものはない

しょうがい、ほつたつ、しみん、ひつよう、ひと、じんけん、りかい、そくしん  
**障害や発達に支援を必要とする人の人権と理解促進について**

問20 ここ3年において、発達に支援が必要であることにより、あきらめたり、仕方なく  
 がまんしたりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 進学
2. 仕事や就職
3. 泊まりがけの旅行
4. 一人での外出
5. 友人とのつきあい
6. スポーツ
7. 趣味、文化活動
8. その他 ( )
9. 特にない
10. わからない

問21 ここ3年において、発達に支援が必要であることにより、嫌な思いをしたり、差別  
 や偏見を受けたりしたことがありますか。(どれか1つに○)

1. よくある
2. ときどきある
3. あまりない
4. まったくない → 問22へ

問21で「1」～「3」のいずれかに回答した方にお聞きします  
 問21-1 それは、どのような場面ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 進学するときや学校生活において
2. 近所づきあい、地域の行事等において
3. 家庭生活において
4. 福祉サービスを利用するとき
5. 保育サービスを利用するとき
6. 医療を受けるとき
7. 役所で手続きするときや公共施設を  
 使うとき
8. 公共交通機関を利用するとき
9. ものを買う、食事をするなどお店を  
 利用するとき
10. スポーツや文化活動をするとき
11. まちを歩いているとき
12. その他 ( )

問21-2 それは、どのような差別ですか。(あてはまるものすべてに○)

1. 施設やサービス等を利用することを断られた
2. 施設やサービス等の利用にあたり、合理的配慮がなされない
3. 差別的な発言を受けた
4. その他 ( )

みなさんにお聞きます  
 問22 権利が奪われたり、損なわれたりしないようにするために、どのような手助けや取  
 り組みがあるかと思えますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 1. 折りごとをなんでも相談でき、助言をしてくれる相談窓口
2. 弁護士など法律の専門家や法律上の問題をあつかう相談窓口
3. 自分の代わりに交渉 ことをしてくれるサービス
4. 発達に支援を必要とする人の権利が損なわれたときの苦情を受けつけ、必要に  
 じて調査や指導などをおこなう第三者による制度
5. 発達に支援を必要とする人の権利について、その人自身が学ぶ機会を増やすこと
6. 発達に支援を必要とする人の権利について社会の意識を高めること
7. その他 ( )
8. 特にない
9. わからない

問23 あなたは、3年前に比べて、「障害」「難病」に対して、広く市民の理解が進んで  
 きているかと思えますか。(どれか1つに○)

1. 進んできています
2. 多少進んできています
3. どちらともいえない
4. 多少後退してきている
5. 後退してきている
6. わからない

問23-1 問23の回答の理由は何か。ご自由にお書きください。

問24 豊中市では、発達障害を含む障害や難病に対する理解を深めるための広報や行事等を実施していますが、あなたはそれを見たり参加したりしたことがありますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 広報記事を読んだことがある
2. 障害者週間のパネル展を見たことがある
3. ひまわりひろば等の地域交流事業に参加したことがある
4. 出前講座に参加したことがある
5. 講演会・イベントに参加したことがある
6. ホームページを見たことがある
7. その他 ( )
8. 広報を見たり、行事等に参加したことはない

問25 どのような方法で情報を得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

1. テレビ・ラジオ
2. 新聞
3. 雑誌・書籍
4. 広報とよなか
5. ホームページ
6. SNS (X (旧 Twitter)、Instagramなど)
7. メールマガジン
8. ポスター・チラシ
9. 行政の出版物 (パンフレット、行政計画、報告書等)
10. 講演会、講座
11. イベント
12. その他 ( )

問26 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」(障害者差別解消法)について知っていますか。(どれか1つに○)

1. 名前も内容も知っている
2. 名前を聞いたことがあるが、内容は知らない
3. 名前も内容も知らない

問27 豊中市は、手話は言語であるという認識に基づき、手話言語の理解及び普及について総合かつ計画的に施策を推進するため、豊中市手話言語アクションプランを策定しています。あなたは、手話は言語であると知っていますか。(どれか1つに○)

1. 知っている
2. 知らない

問28 あなたは、「手話は言語である」という理解が市民に浸透してきていると思いますか。(どれか1つに○)

1. 思う
2. どちらかかと思う
3. どちらかかと思うと思わない
4. 思わない

学校等教育現場での理解や合理的配慮について

問29 学校等の教育現場では、理解や合理的配慮が充分と考えますか。(どれか1つに○)

1. はい
2. いいえ
3. どちらともいえない
4. わからない

問30 理解や合理的配慮の促進を図っていくためには、学校等の教育現場において、どのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 学校と通所支援事業所等の連携
2. 教育環境や指導体制の充実
3. 児童生徒どうしの理解
4. 教員の理解
5. 保護者への啓発
6. その他 ( )
7. 特にない
8. わからない

問31 学校等の教育現場で困っていることがあれば、自由にお書きください。


福祉サービスについて

問32 発達に支援を必要とする人のための福祉サービスについて、①現在の利用状況、②利用して気になったり、不満に思うことの有無、③今後の利用についてのお考えをそれぞれ答えてください。(サービスの内容については別紙の表をご覧ください。)

「② 気になったり、不満に思うこと」は下の表から3つまで選んでください。

1. 身近なところでサービスを利用できない
2. 利用したい日・時間に利用できない
3. 利用回数・時間などに制限がある
4. 事業所に利用を断られることが多い
5. 利用料が高い
6. 指導員など支援者の知識・経験が不足している
7. 建物や設備が発達の課題に配慮されていない
8. サービス内容に関する情報が少ない
9. 相談や手続きに時間がかかり面倒
10. その他( )

サービスの種類	① 現在の利用状況	② 気になったり、不満に思うこと	③ 今後の利用
(例) □△◇ サービス	① 利用している → 2. 利用していない	① ある(上の表から3つまで選んでください) 2. 3 3. 8 2. ない	① 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(1) 児童発達支援	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(上の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(2) 放課後等デイサービス	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(上の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(3) 保育所等訪問支援	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(上の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない
(4) 相談支援	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある(上の表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない

サービスの種類	① 現在の利用状況	② 気になったり、不満に思うこと	③ 今後の利用
(5) 障害児一時預かり事業(市独自事業)	1. 利用している → 2. 利用していない	1. ある (15ページの表から3つまで選んでください) 2. ない	1. 利用する 2. 利用しない 3. わからない

将来の暮らしなどについて

問33 卒業後の進路はどのように考えていますか。(どれか1つに○)

1. さらに上の学校などで勉強を続けたい
2. 会社やお店などで働きたい
3. 家の仕事を手伝いたい
4. その他( )
5. まだ考えていない

問34 地域で生活するためには、どのような支援があればよいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

1. 在宅で医療が適切に受けられること(通院や往診を含みます)
2. 障害や発達に支援を必要とする人に適した住居の確保
3. 必要な在宅サービスの充実
4. 生活能力を維持・向上させる支援の充実
5. 経済的な負担の軽減
6. 相談対応等の充実
7. 地域住民等の理解
8. コミュニケーションについての支援
9. 成人期への移行支援
10. その他( )





第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画  
策定に向けた市民アンケート結果報告書

令和8年(2026年)3月

<編集・発行>

豊中市 福祉部 障害福祉課

電話：06-6858-3354 (直通)

豊中市 こども未来部 おやこ保健課

電話：06-6858-2285 (直通)

令和7年度（2025年度）障害福祉センター運営検討部会（報告）

【日 程】

令和8年（2026年）2月20日（金）13時～14時30分

【報告内容】

- (1) 令和6年度（2024年度）豊中市障害福祉センター事業報告及び外部活力導入案件評価報告について
- (2) 地域生活支援拠点等事業について
- (3) 豊中市身体障害者福祉会啓発活動「手話カフェ」について

【主な意見】

《地域生活支援拠点等事業について》

- ・本事業については、利用者の事前登録や事業所の認定登録がポイントとなる。そのためにも、市民や事業所はもちろんのこと、関係機関への周知についてもしっかり対応してほしい。
- ・事業開始した後も、登録者数等の件数を把握するなどの検証が必要。
- ・事業を進める中で、各事業所の意見を聴き状況を把握するなど丁寧な対応が必要。
- ・広域で連携できる仕組みを作るのは次のステップであり、まずは、当事者や事業所から手を挙げてもらう（登録してもらう）ことが、次のステップに繋げていけることになるのではないか。

《豊中市身体障害者福祉会啓発活動「手話カフェ」について》

- ・本取組みは、行政の協力のもと、障害当事者が主体となり企画から運営まで取り組んでおり好事例である。今後も同様に他の地域でも実践することで、啓発に繋がるものと大いに期待する。そのためにも、単発事業とするのではなく継続した取組みとしてほしい。

## 会 議 録

会議の名称	令和7年度（2025年度）第1回豊中市障害者施策推進協議会		
開催日時	令和7年（2025年）10月3日（金曜日）14時00分～16時00分		
開催場所	豊中市役所第二庁舎3階大会議室	公開の可否	可 不可・一部不可
事務局	福祉部障害福祉課	傍聴者数	6人
公開しなかった理由			
出席者	委員	大谷会長、星屋副会長、河本委員、星名委員、六車委員、北野委員、寺本委員、井上委員、三宮委員、荒木委員、湯川委員、上田委員、小山委員、福本委員、矢本委員、岡田委員、長永委員、澤委員 以上、18人	
	事務局	小野福祉部長、坂口福祉部次長、 （以下、障害福祉課） 森田課長、鳥山主幹、細貝主幹、畑副主幹、大東主任、泉谷係長、酒井係長、武智 （以下、おやこ保健課） 井上課長、橋爪係長、中越主査	
	その他		
議題	案件1．豊中市第六次障害者長期計画令和6年度（2024年度）実施状況報告書について 案件2．第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画に係るアンケート調査について 案件3．地域生活支援拠点等の拡大・機能強化について 案件4．その他		
審議等の概要 （主な発言要旨）	別紙のとおり		

## 議事要旨

- 開会あいさつ
- 事務局より新委員の紹介
- 岡田委員あいさつ
- 事務局紹介
- 大谷会長あいさつ
- 事務局より会議の留意事項ならびに配布資料の確認
- 事務局より会議公開の報告
- 会議成立報告

(事務局)

- ・案件に入る前に、次期計画策定のための諮問をさせていただく。令和9年度より実施の第8期豊中市障害福祉計画第4期豊中市障害児福祉計画策定に向けた準備を進めていく。については、当協議会で内容についてご審議いただくので、諮問書をお渡しする。

- 次長より大谷会長に諮問書手交

## 【案件1】豊中市第六次障害者長期計画令和6年度（2024年度）実施状況報告書について

(事務局)

- ・案件1について説明。

(会長)

- ・案件1について質問はあるか。

(委員)

- ・概要版には出てこないが、29ページの「ともに学び ともに育つ教育」について。概要版に出てくるのは支援員の充実だが、事業の目的・内容等に「他部局との連携による生涯を通した支援の在り方の検討」とある。そして、課題に「支援を要する児童生徒の増加傾向が継続し、障害特性が多様化していることから、更なる人的・物的な条件整備を図る必要があります」とある。子ども達がともに学ぶために大事なものは、やはりクラスをどうしていくかである。一人ひとりにきめ細かな教育が、障害のある子どもにもそうでない子どもにも必要だと思う。教室には加配の先生達もいるが、担任の先生によってクラス運営される。今35人在籍しているが、交野市が令和7年度から1・2年生で30人学級、来年度からは1～3年生で30人学級を府内ではじめて実施する。加配も良いが、元々の教育と障害のある子ども達に合わせたきめ細かなクラス運営を視点到検討いただきたい。

(会長)

- ・それは、ご要望ということでよろしいか。

(委員)

- ・結構である。

(会長)

- ・最近では通知表のあり方についても論議があり、廃止する自治体も出てきている中で、一人ひとりを大事にするというところで、評価のあり方についても議論が行われている。

(委員)

- ・今おっしゃっているのは、案件1の資料2で良いのか。11 ページ「④難病患者」の下から5行目に「※平成27年（2015年）1月難病法施行時～」とあるが、これは国の人数だと思う。これを、豊中市において何名、何疾患と書いてもらうことはできるか。

(会長)

- ・難病対策は国の施策で、自治体で難病指定をして支援する仕組みは聞いたことがないが。

(事務局)

- ・指定業務をしているのは保健所になる。

(委員)

- ・毎年更新があると思う。これは国の疾患数である。

(会長)

- ・疾患数を聞きたいのか、それともその人数を問うているのか。

(委員)

- ・資料に書いてあるのは、申請の人数だと思う。豊中市内で何疾病申請されているかを知りたかった。

(会長)

- ・国モデルでは348 疾病とあるが、豊中市で実際に難病指定を受けて支援している人数はどれだけか、というご指摘である。

(事務局)

- ・恐らく原課に情報があると思うが、公表されているものかどうかがわからないので、そこも含めて確認する。

(委員)

- ・17 ページの「関連指標」に、令和6年度が792人、7年度の中間値が600人、令和10年度の目標値が650人とある。同じく45 ページの令和6年度が6,497件、7年度が中間値で6,000件、令和10年度の目標値が6,000件とある。目標値は、どういう扱いになっているのか。

(会長)

- ・17 ページの令和10年度目標値650人、45 ページの令和10年度目標値6,000件と挙げられているが、その目標値の設定の仕方についての質問か。

(委員)

- ・目標値の設定の仕方と、現状との捉え方について。

(事務局)

- ・既に目標値を上回っている事業がいくつかある。令和7年度の中間値と10年度の目標値については、計画策定時に設定したものになる。このまま伸び続けるものもあれば、年度によって波がある事業もある。目標値を設定し直すことになる、運営上少し馴染まないのではないかと考えて

いる。指標の内容によっては、設定のし直しも必要とは思ふ。今回掲載しているのは、あくまで計画策定時に設定された中間値及び目標値になる。

(委員)

- ・状況は理解した。

(会長)

- ・目標値の設定は難しい。その時のニーズを捉えて、どれだけの伸び数を入れるかとなると、推計になるので誤差があまり出ないように設定してしまうところがある。例えば、親が高齢化すると、グループホームを利用したいという回答がアンケートにも出てくる。でも、それがそのまま目標値通りに進むかという、そういうわけではない。希望することと、実際に利用することの差が出てくる。実情に応じて検討し、必要なところは修正していくという事務局の考えだと思う。
- ・他になければ、次の案件に進みたい。

## 【案件2】第8期豊中市障害福祉計画・第4期豊中市障害児福祉計画に係るアンケート調査について

(事務局)

- ・案件2について説明。

(会長)

- ・関係団体に対する調査票⑦は無いのか。

(事務局)

- ・関係団体には、調査票ではなく直接ヒアリングを実施する。調査実施事業者と事務局で聞き取り内容等の確認を行い、ヒアリング実施予定としている。調査票の配布は、現状予定していない。

(会長)

- ・配布されているのは、①～⑥までとなる。関係団体については、ヒアリングで行うため、調査票には含まれていない。
- ・案件2について質問はあるか。
- ・調査の継続性が必要とのことで、経年で調べるのは大事な要素だと思う。事務局で新たな追加項目は特にないか。

(事務局)

- ・3年前にもアンケート調査を実施している。設問としてはその際と同様で、新たに追加したものはない。

(副会長)

- ・全数は、前回と同じパーセンテージか。基準が決まっていれば教えてほしい。全数が何人の中の1,500人なのか。

(会長)

- ・私の記憶に間違いがなければ、施設入所者は全数調査と聞いている。母数について、わかる範囲内でお願いしたい。

(事務局)

- ・④の障害者支援施設に入所する人以外は、これまでと同じ人数で設定している。

(会長)

- ・基本的なところは、例年クリアしていると理解いただければと思う。

(委員)

- ・施設入所者アンケートについて。8ページ問15の選択肢5に「家庭生活において」とある。これは施設入所者向けなので、「施設生活において」と読み替えることになるのか。
- ・7ページ問12の選択肢4に「自分が施設にいることを家族が希望しているので悪いと思う」とあるが、家族や職員が退所することに対してどのように思っているか、賛成してくれるか、応援してくれるか、という項目を入れてほしい。

(会長)

- ・8ページの間15の選択肢5について、施設に入所しているから必要がないという理解で良いか。

(委員)

- ・「生活の場について」だと自ずと施設も家庭も両方入ると思うが、「家庭」だと施設生活は含みにくいのではないか。

(会長)

- ・いろいろ考え方があろうと思うが、外泊する場合もある。

(委員)

- ・そういう意味では、「家庭生活」は外泊した時の家庭もある。

(会長)

- ・帰省して家庭生活を一緒に営んだ時に、と理解している。

(委員)

- ・施設入所者の権利擁護の委員会では、施設生活の中で起こり得る権利侵害の委員会が設定されている。生活の主たる場となるのではないか。

(会長)

- ・そこは意見が分かれるところだと思う。例えば施設入所であっても外泊する場合がある。それで嫌な思いをすることも当然あると思う。そこも含めてチェックしていくことになるので、必要だと思う。

(委員)

- ・読む人が読み取れるかどうかだと思う。

(会長)

- ・そういう理解をいただければと思う。
- ・7ページ問12の選択肢4については、この選択肢が必要か必要ではないか、ということか。

(委員)

- ・これが必要かどうかではなく、これと併せて自分に直接関わっている家族や職員がどのように思っているのか。賛成してくれるのか、応援してくれるのかを考えるのではないか。それを言語化して入れる方が良いのではないか。選択肢4にそれも含んでいると理解することは、難しいのではないか。主観に近い意見なので、お任せする。

(会長)

- ・ここで施設入所者に問うているのは、地域移行について本人がどのように捉えているかというところになる。施設に入所しているのは、本人の意思もあるし家族の意思もある。そういうところから言うと家族の存在は大きいし、自分が帰るべき地域を考えた時に選択肢4のように思う方もいるかもしれない。そこも含めて支援を考えていく必要がある。

(委員)

- ・自分も友人や先輩方が入所されていて、入所を余儀なくされている方もいる。周りの誰かを気遣って入所してしまっているのではないかと思う。前回も前々回もお伝えしたが、アンケート調査では当事者は自分の思いを誰かに伝えたい気持ちがあると思う。

(会長)

- ・施設アンケートを送るが、職員の方にそのアンケート内容を聞くこと自体が当事者にとっては大変な状況で、本当に伝えられるかという疑問があり、当事者である障害のある方が相談にのるような同行訪問が必要ではないか、という意見であった。当事者性が大事だという指摘だと思う。

(委員)

- ・いろいろな自治体の調査票をみたが、初めに記入者がどなたか聞いている。ここはすごく大きなテーマである。例えば18歳以上のサービス利用者の場合、問1はご本人が記入している場合は明確だが、本人の代わりに家族が記入している、本人が答えて家族が記入している、あるいは施設の場合、本人が答えて施設職員が記入しているなど、いろいろある。意思決定支援が障害者支援の中で一番大事だと言われている中で、どこまで家族が本人の意思決定支援をサポートするのか。あるいは、施設職員がどこまでサポートして記入するのか。あるいは、本人の意見ではなく施設職員が親の思いを記入するのか、そのあたりが微妙である。前回も同じ設問項目で実施したのであれば、統計上どう回答があり、どれくらい経年変化しているのか。本来は、障害の重さや困難さのクロス集計があればもっと良い。これからは意思決定支援が大事なので、それを展開できるような調査項目なりクロス集計をしてはどうか。

(会長)

- ・貴重な意見をいただいた。活用していきたい。

(副会長)

- ・各事業所に対して、意思決定支援について進めていかなければならなくなっている。これで事業者よりも親御さんと障害者自身の意思決定支援がどのような形で行われていくのか、どう反映されるのかが楽しみである。
- ・先ほどの意見のように、こういう聞き方で良いのかというものもあると思う。そういうものからどう判断していくのか。例えば、地域移行を進める前提でその方向に導くのか。何が阻害しているのか、ある程度あがってくれば大きな要素になると思う。ただ、いつも回収率が非常に悪い。回収率を上げるためにどうするか、我々は真剣に考える必要がある。

(会長)

- ・施策に反映するためには、アンケート回収率が高くないといけない。回収率を上げることが大事である。

(委員)

- ・ 18 歳未満調査票の年齢区分が 4 つに分かれているが、学校の中の状況とリンクさせるのであれば、小学校の学年、中学校の学年、高校の学年、就学前 0～3 歳というような感じで分ければ、数字に反映できるのではないか。

(会長)

- ・ 調査票③の区分としては、0～4 歳、5～9 歳、10～14 歳、15～17 歳となっている。就学前の子育て支援の関係で、3 歳がいろいろなところへ通うための支援を受けている場合もあると思う。ご意見を元に検討願いたい。この年齢区分は、従来どおりか。

(事務局)

- ・ 前は、0～4 歳、5～9 歳、10～17 歳という区分で集計している。

(会長)

- ・ 前回より少し細かくしたということか。

(事務局)

- ・ 調査票の年齢区分は同じだが、集計の際に 10～14 歳と 15～17 歳をまとめている。

(会長)

- ・ ご意見を元に検討願いたい。
- ・ これまでのところで何かご意見はあるか。

(委員)

- ・ 意思決定支援の件、大変良く分かった。私の関わっている病気においても、このポイントは非常に重要である。特にアンケート調査をする際に誰がどう回答したのかについては、私達のところでも最近よく取り上げられているので、今の議論のとおりで良いと思う。ただ、どういう形で取りまとめるのかに繋がるような取り方ができれば良いと思う。

### 【案件 3】 地域生活支援拠点等の拡充・機能強化について

(事務局)

- ・ 案件 3 について説明。

(会長)

- ・ 案件 3 について質問はあるか。

(副会長)

- ・ 重要な問題だと思う。面的整備の中でコーディネーターの役割は非常に大きい。行政はどこに入るのか。例えば、民間事業の整備されている拠点がコーディネーターも兼ねてすべて差配することになるのか。

(事務局)

- ・ 今回コーディネーターは市の事業として委託して配置するので、市とコーディネーターと一緒に動いていく流れを考えている。

(副会長)

- ・ 実際に施設に入れない人が出ている。そういう問題が常に起きている中で、面的整備するコーディネーターは行政とどういう連携が取れるのか。行政が入り込む形になるのか。

(事務局)

- ・ケースバイケースになると思う。まず一次的にはコーディネーターに動いてもらうことになるが、例えば受け皿がなかなか見つからないこともあり得ると思う。そういう時には、行政も一緒に動いていく形で考えている。

(会長)

- ・緊急事態から長引く場合、ショートステイ等も含めて考えていただいていると思う。そこだけでやる問題ではないと理解いただければと思う。

(委員)

- ・資料の2枚目「参考～地域生活支援拠点等に係る動き～」の2つ目に「障害者自立支援協議会・地域課題検討部会からの提案」とある。一昨年、強度行動障害の方の事例を使って、拠点等の整備をどうしていくのか、自立支援協議会の検討部会で議論した。今年の10月には、事例2として、8050問題で精神障害の方の親御さんの状態が変わられた場合の支援ということで、地域課題検討部会を実施する予定である。私はいろいろな自治体の障害者計画の委員長・副委員長を務めている、大阪市の自立支援協議会の副会長もしているが、1枚目の拠点整備の中で一番困っているのは緊急時の受け入れ対応である。どの自治体も非常に難しい事例が増えている。8050問題どころか、現在は9060問題の時代なので、どの自治体も喫緊の課題となっている。特に、2・3番の問題で議論している。大阪市では24区あり、区ごとに対応の格差があり、バラバラになってきているのが実情である。そう思うと、豊中市は7圏域で7つの基幹相談支援センターを持っており、毎月事例検討会議をしている。非常に厳密に緊密な連携の下に検討し、できるだけ地域格差を無くすように努力されている。そんな中、いよいよ地域生活支援拠点コーディネーターを始めている。支援拠点コーディネーターと行政、7つの基幹相談支援センターの連携と、これから増えていくであろう登録型の拠点事業者、4つの仕組みがこれから動く必要がある。それぞれの役割の明確化と連携のシステム化をきちんとしておかないと、結局前に進まないと思う。10月に自立支援協議会の検討部会で拠点整備事業について検討するので、市にも参画いただいて来年度できることを明確にして、なお大きな課題がある場合は次年度の障害者計画に明確に謳ってほしい。

(事務局)

- ・地域生活支援拠点の整備は今始まったことではなく、以前からしっかり取り組むべきと考えている大切な件である。今一番言われているのは、役割の明確化である。それぞれの役割を明確化することにより、支援体制の整備は盤石なものになるのではないかと。今年度新たなスキームで取り組んでいくが、検証も含めてしていく必要がある。計画にどこまで目標を立てていけるか、また相談させていただきたい。この事業については、障害福祉課一丸となって取り組んでいきたい。

(会長)

- ・8050問題などについては、緊急事態に備えることが大事である。事前にわかっている、そのまま手をこまねいて緊急事態にまでいく体制のありようが問題である。通所の作業所等で登録を促していかないといけない。予防が一番大事である。福祉事業所が単にサービスを提供するだけでなく、そういうことも含めて理解していただく必要がある。例えば、強度行動障害はいきなり起きるわけではない。子どもの時から分かっているものであるが、支援がブツブツに切れてしまっているから、18歳以後で緊急事態になってしまう。既に児童の時から分かっていることをスルーしてしまうから、結果としてそういう事態になってしまう。予防が大事なポイントで、災害とも含

めて考えていかなければならない。令和7年6月の災害救助法の改正によって、福祉事業所も災害時に支援すると出ている。緊急事態が起こる前に、システムとして作っていければ良いと個人的には思うところである。児童から大人も含めて検討願いたい。

(委員)

- ・愛知県半田市では、緊急対応プランを拡大している。災害時緊急対応プランと緊急対応プランの2つを合わせてプランニングしている市町村も出てきている。
- ・精神の場合、入退院を繰り返してサービスの利用が終わり、本人がご家族と暮らしていてサービス未利用になっているケースもある。かつて教育・療育の時点で自立支援を利用していた方、かつて精神科のサービスを利用されていた方をどう把握してフォローアップしていくのか、大きなテーマだと思う。

(委員)

- ・8050問題は、私も医療の立場で関わらせていただいている。以前のように重くなった方へのサービスだけでなく、若い頃は軽くて家族的にもそんなに意識しない方は、高齢になり親の支援がなくなると結果的に統合失調症が進行して8050問題が起こるパターンが最近増えているようにも思う。通院だけで大丈夫な方の場合、親御さんもかかっていることすら知らない。後になってご本人も治ったと思って薬を辞めて、結果的に8050問題になってしまうことが今後も増えてくると思う。疾病に対する社会の中での啓発活動は重要だし、精神障害は特に薬を使うことで安定できるが、薬をやめると再発する。これは、福祉・医療ともに取り組んでいく必要があると感じた。

#### **【案件4】 その他(報告)**

○副会長閉会あいさつ

(事務局)

- ・次回開催日程案内 (来年3月頃を予定)

以上

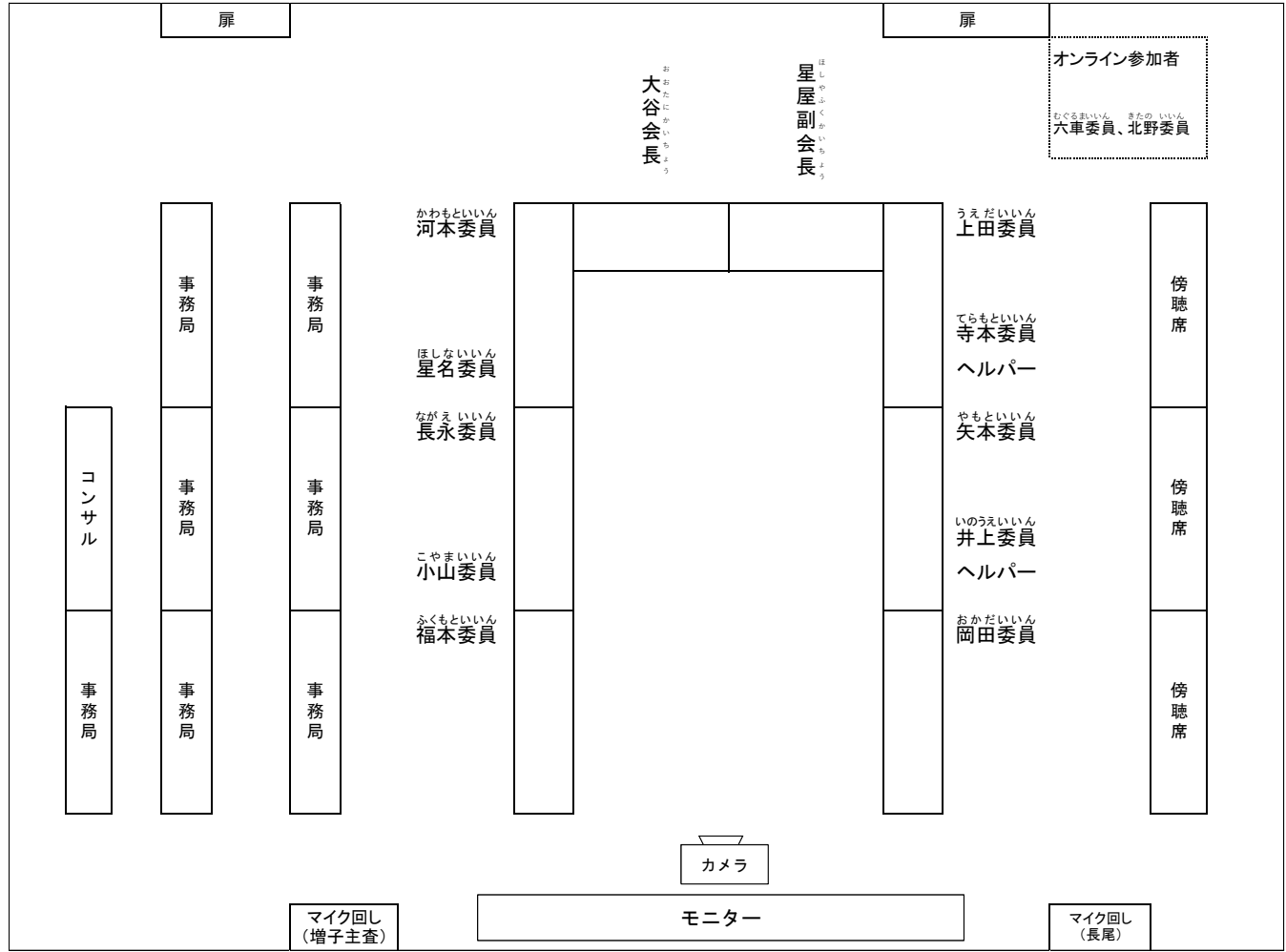
令和7年度第2回豊中市障害者施策推進協議会委員名簿

	区分	氏名	備考
学 識 経 験 者	会長	大谷 悟	大阪体育大学健康福祉学部健康福祉学科 元教授
		河本 良昭	豊中商工会議所 副会頭
		矢本 千夏	連合大阪北大阪地域協議会豊中地区協議会 特別幹事
		澤 滋	豊中精神保健福祉協議会 理事
		横井 葉子	豊中市医師会 副会長
		星名 拓治	豊中市歯科医師会 専務理事
		六車 浩司	豊中市薬剤師会 理事
		北野 誠一	西宮市社会福祉協議会 共生のまちづくり研究・研修所 所長
障 害 者 ・ 障 害 者 の 福 祉 に 関 す る 事 業 に 従 事 す る 者		寺本 美代子	豊中市身体障害者福祉会 会長
		井上 吉彦	国際障害者年を機に「障害」者の自立と完全参加をめざす豊中市民会議 事務局員
		岡田 淳	豊中精神障害者当事者会HOTTO 代表
		三宮 啓司	障害児者を守る豊中連絡協議会
		荒木 龍三	豊中市発達障害者の家族の会（一歩の会）会員
		湯川 英典	豊中難病患者連絡会 代表
	副会長	星屋 好武	豊中市手をつなぐ育成会 会長
		長永 幸子	豊中市精神障害者家族会ゆたか会 会長
		上田 哲郎	豊中市障害者自立支援協議会 会長
市 民		小山 直樹	公募委員
		福本 優子	公募委員
行 政		奥村 眞司	池田公共職業安定所 所長

令和7年度（2025年度）第2回豊中市障害者施策推進協議会 座席表

日時：令和8年（2026年）3月30日（月）  
午後2時から

場所：豊中市立地域共生センター西館 大会議室



○豊中市障害者施策推進協議会条例

昭和47年4月1日

条例第36号

改正 平成6年4月1日条例第13号

平成14年4月1日条例第13号

平成17年4月13日条例第40号

平成19年3月23日条例第1号

平成24年3月30日条例第22号

(設置)

第1条 障害者基本法(昭和45年法律第84号)第36条第4項の規定に基づき、豊中市に障害者施策推進協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会は、委員20人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 学識経験のある者
- (2) 障害者
- (3) 障害者の福祉に関する事業に従事する者
- (4) 市民
- (5) 関係行政機関の職員

3 前項第4号に掲げる者は、公募により選考する。ただし、応募がなかったときその他やむを得ない理由があるときは、この限りでない。

4 第2項第1号から第4号までに掲げる者のうちから委嘱される委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、第2項第4号の委員を除き、再任されることができる。

(臨時委員)

第3条 協議会に特別の事項を調査審議させるため、臨時委員若干人を置くことができる。

2 臨時委員は、当該特別の事項に関する調査審議が終了したときは、解嘱されるものとする。

(会長)

第4条 協議会に会長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 会長は、会務を総理する。会長に事故があるときは、あらかじめ会長の指名する委員が

その職務を代理する。

(委任規定)

第5条 この条例に定めるもののほか、協議会について必要な事項は、市規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成6年4月1日条例第13号)

- 1 この条例は、公布の日から施行する。ただし、題名の改正規定、第1条の改正規定(「第30条第3項」を「第30条第4項」に、「心身障害者対策協議会」を「障害者施策推進協議会」に改める部分に限る。)、第2条の改正規定及び次項の規定の施行期日は、市規則で定める。

[平成6年5月規則第20号により、平成6年6月1日から施行]

- 2 他の条例の一部改正〔略〕

附 則 (平成14年4月1日条例第13号)

この条例は、平成14年9月1日から施行する。ただし、第1条の改正規定は、公布の日から施行する。

附 則 (平成17年4月13日条例第40号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成19年3月23日条例第1号)

この条例は、公布の日から施行する。

附 則 (平成24年3月30日条例第22号)

この条例中第1条の規定は公布の日から、第2条の規定は障害者基本法の一部を改正する法律(平成23年法律第90号)附則第1条第1号に規定する規定の施行の日から施行する。

○豊中市障害者施策推進協議会規則

昭和47年4月1日

規則第34号

改正 昭和51年5月1日規則第28号

昭和58年5月2日規則第19号

平成3年5月1日規則第21号

平成6年5月30日規則第21号

平成15年4月1日規則第11号

平成19年3月23日規則第1号

平成24年2月15日規則第4号

平成24年9月28日規則第126号

平成27年3月25日規則第20号

平成31年3月22日規則第33号

第1条 この規則は、豊中市障害者施策推進協議会条例（昭和47年豊中市条例第36号）第5条の規定に基づき、豊中市障害者施策推進協議会（以下「協議会」という。）の議事その他必要な事項を定めることを目的とする。

第2条 協議会は、会長が招集し、会長が議長となる。

2 協議会は、委員及び議事に関係のある臨時委員（以下「委員等」という。）の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

3 協議会の議事は、出席委員等の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

第3条 協議会が必要と認めるときは、協議会に部会を置くことができる。

2 部会は、会長が指名する委員等で組織する。

3 部会に部会長を置き、部会に属する委員等のうちから会長が指名する。

4 部会長は、部会における審議状況及び結果を協議会に報告しなければならない。

第4条 会長又は部会長は、必要があると認めるときは、協議会又は部会の議事に関係のある者に出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

第5条 協議会の庶務は、福祉部障害福祉課において処理する。

第6条 この規則に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、会長が定める。

附 則

1 この規則は、公布の日から施行する。

2 この規則施行後最初に招集される協議会の招集及び会長が決定されるまでの協議会の議長は、市長が行なう。

附 則（昭和51年5月1日規則第28号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（昭和58年5月2日規則第19号抄）

1 この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成3年5月1日規則第21号抄）

1 この規則は、平成3年5月7日から施行する。

附 則（平成6年5月30日規則第21号）

1 この規則は、平成6年6月1日から施行する。

2 他の規則の一部改正〔略〕

附 則（平成15年4月1日規則第11号抄）

1 この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成19年3月23日規則第1号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成24年2月15日規則第4号抄）

1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成24年9月28日規則第126号）

この規則は、平成24年10月1日から施行する。

附 則（平成27年3月25日規則第20号抄）

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月22日規則第33号抄）

1 この規則は、平成31年4月1日から施行する。